

【表紙】  
【提出書類】 有価証券報告書  
【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項  
【提出先】 関東財務局長  
【提出日】 平成29年6月21日  
【事業年度】 自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日  
【会社名】 新韓銀行  
(Shinhan Bank)  
【代表者の役職氏名】 銀行長兼最高経営責任者 魏 聖昊)  
(Sung Ho Wi, President and Chief Executive Officer)  
【本店の所在の場所】 大韓民国ソウル特別市中区世宗大路9道20  
【代理人の氏名又は名称】 弁護士 島崎文彰  
【代理人の住所又は所在地】 東京都文京区後楽二丁目3番27号 テラル後楽ビル2階  
島崎法律事務所  
【電話番号】 (03) 5802-5860  
【事務連絡者氏名】 弁護士 島崎文彰  
【連絡場所】 東京都文京区後楽二丁目3番27号 テラル後楽ビル2階  
島崎法律事務所  
【電話番号】 (03) 5802-5860  
【縦覧に供する場所】 該当事項なし

(注) 1. 本有価証券報告書(以下「本書」ということがある。)において別段の記載がある場合を除き、下記の語の意味はそれぞれ対置された内容を指すものとする。

「発行会社」または「当行」	文脈上別段に解釈すべき場合を除き、新韓銀行およびその子会社
「韓国」	大韓民国
「政府」または「韓国政府」	大韓民国政府

2. 別段の記載がある場合を除き、本書に記載の「ウォン」は韓国ウォンをいい、「円」は日本の通貨をいう。2017年4月3日現在の東京の主要銀行の対顧客電信直物売買為替相場の仲値は、100ウォン=10.01円であった。
3. 当行の事業年度は暦年である。
4. 本書において表中の数字が四捨五入されている場合、合計は計数の総和と必ずしも一致しない。
5. 将来予測に関する記述

本書に含まれる一定の記載は、発行会社の将来の業績および事業見通しについての期待および予測に関する記述を含む「将来予測に関する記載」を構成している。「信じている」、「期待している」、「予想している」、「見積もっている」、「予測している」、「～であろう」、「～つもりである」、「～となりそうである」、「引続き～であろう」、「意図している」、「計画している」、「企図している」、「求めている」、「将来」、「目的」、「目標」、「～するべきである」、「追求するであろう」といった用語ならびに類似の表現またはこれらの表現の変形は、将来予測に関する記載を示すものとして用いられている。さらに、本書に記載される歴史的事実についての記述を除くすべての記載(発行会社の商品およびサービスに関する開発計画および目標を含む発行会社の財政状態および業績、事業戦略、将来の事業に係る経営計画および目標を含むが、これらに限定されない。)は将来予測に関する記載である。かかる将来予測に関する記載および本書に記載されるその他の予測(発行会社によりなされたか第三者によるものかを問わない。)は、将来予測に関する記載により表明または示唆される将来の結果、業績または成果とは著しく異なる実際の結果、業績または成果をもたらす可能性のある既知および未知のリスク、不確実性ならびにその他の要因に関わっている。かかる将来予測に関する記載は、発行会社の現在および将来の事業戦略ならびに発行会社が将来行う事業環境に関する現在の確信、仮定、期待、見積りおよび予測に基づいている。これらの仮定の一部もしくは全部を阻害し、または将来予測に関する記述とは著しく異なる発行会社の実際の結果、業績もしくは成果をもたらす可能性のある重要な要因の中には、とりわけ、下記の事項が含まれている。

- ・韓国および世界の経済停滞による悪影響のリスク
- ・発行会社とその事業戦略を首尾よく実行しうる能力
- ・消費者の信認および支出の変化を含む韓国、アジアまたは世界の経済の状況および変化
- ・不良債権の将来の水準
- ・発行会社が事業戦略を首尾良く成し遂げられるかどうかを含む発行会社の成長および拡大
- ・金利の変動や政府規制ならびに韓国および発行会社が事業を行うその他の法域における発行会社の事業免許の変更
- ・金融サービス業界における競争

発行会社の実際の結果、業績または成果を著しく異なるものにさせることがありうる追加的な要因には、「第一部 第3-4 事業等のリスク」において記載されるものを含むが、これらに限られない。なお、本書に含まれる将来予測に関する記載は、本書提出日現在においてのみ有効なものとして述べられている。

6．本書に記載されるすべての財務情報は、別段の記載がない限り韓国採択国際会計基準（以下「韓国IFRS」という。）ならびに適用ある場合には銀行業に適用される韓国の会計基準に基づく会計および報告ガイドラインに準拠した連結ベースで表示されている。個々の借り手、借り手のグループもしくは区分または産業別、地域別、規模その他による分類に関する本書の財務およびその他の情報（貸出金、信用、総エクスポージャー、引当金、担保価値、不良債権およびその他の事項についての情報を含む。）は、専ら当行の内部管理情報システムから得られている。

韓国の1950年銀行法（その後の改正を含む。）（以下「銀行法」という。）に基づき、韓国の銀行が信託を受けた資産は当該銀行勘定のその他の資産と分別されなければならない。したがって、当行を含め、銀行業および信託業に従事する銀行は、そのそれぞれの銀行業および信託業の詳細を示す、銀行勘定および信託勘定の2つ別個の勘定および2つの独立した会計記録を維持しなければならない。別段の記載のない限り、当行に関する本書に記載されるすべての財務情報は当行の銀行勘定のみに関して表示されている。

7．別段の記載のない限り、本書記載の財務書類または添付の監査報告書の解釈に相違が生じた場合は、監督官庁への報告のために用いられる韓国語版が優先する。

## 第一部【企業情報】

### 第1【本国における法制等の概要】

#### 1【会社制度等の概要】

##### (1)【提出会社の属する国・州等における会社制度】

当行を規律する法制度は、韓国の商法（以下「商法」という。）である。以下は、商法の規定に基づいて設立された株式会社（当行を含む。）に適用される商法の主要な規定の概略である。

##### (a) 設立

株式会社の設立については、次のような基本的な要件がある。

- (i) 1人以上の発起人が必要である。自然人だけでなく法人も発起人になることができる。各発起人は、1株以上の株式を引受けて株式会社に出資しなければならない。
- (ii) 発起人は、定款を作成して全員が記名および捺印または署名しなければならない。
- (iii) 定款を作成し、株主を確定してから払込金が受領される。株式会社を設立する方法としては、発起設立と募集設立の2つの方法があるが、前者は、発起人だけが発行株式を全額引受ける方法であり、後者は、発起人と発起人でない者が共に株式を引受ける方法である。
- (iv) 株式会社は、設立登記によって成立する。株式会社設立の無効は、当該会社の株主、取締役または監査役による設立日から2年以内の訴訟によってのみこれを主張することができる。

商法に規定された定款の効力の必要条件として必要な記載事項が欠如したり、かかる事項について違法な規定が含まれるときは、定款は無効となる。定款の必要な記載事項は、(i) 目的、(ii) 商号、(iii) 株式会社が発行する株式の総数、(iv) 額面株式が発行される場合は1株の額面金額、(v) 株式会社の設立に際して発行する株式数、(vi) 本店の所在地、(vii) 公告の方法ならびに(viii) 発起人の氏名、住民登録番号および住所である。

##### (b) 株式

株式会社の資本は、これを株式に分割しなければならない、1株の額面金額は、100ウォン以上で均一にしなければならない。無額面株式の発行は定款でその旨を定める場合は商法上認められる。この場合、かかる会社は額面株式を発行することができない。商法の規定に基づき、株式会社は、定款の定めによって株式の譲渡に取締役会の承認を要求することができる。譲渡は株券の交付によって行われる。

##### (c) 株主および株主総会

株主の責任は、当該株主の有する株式の引受額を限度とする。株主は、法律や定款に別段の定めがない限り、当該株主の有する株式の数に応じて新株の割当を受ける権利がある。

株主総会は、法律および定款に定められた事項を決議する株式会社の最高意思決定機関である。株主総会は、定時株主総会と臨時株主総会からなる。定時株主総会は、毎年1回一定の時期に招集しなければならない、年2回以上の決算期を有する株式会社は、毎期に定時株主総会を招集しなければならない。臨時株主総会は、必要に応じて随時招集することができる。株主総会の招集は、原則として取締役会がこれを決定する。ただし、議決権のない株式および自己株式を除いた発行済株式総数の100分の3以上に当たる株式を有する株主は臨時株主総会の招集を取締役に請求ことができ、もしも取締役会がこれに応じないときは、裁判所の許可を得て総会を直接招集することができる。

株主は、直接株主総会に出席して議決権を行使したり、または代理人にその議決権を行使させることができる。議決権は、原則として1株につき1個が与えられる。ただし、株式会社が異なる種類の株式を発行する場合においては、利益の配当に関して優先的内容を有する優先株式については、定款の規定をもって議決権がないものとしてすることができる。また、株式会社が自己の株式を有する場合およびその他一定の例外的な場合は、株式には議決権がない。

##### (d) 取締役、取締役会および監査役

取締役は、株主総会で選任し、3人以上でなければならない（ただし、資本の額面金額の総額が10億ウォン未満の株式会社については1名または2名の取締役で足りる。）。取締役会は、株式会社の業務執行に関する意思決定のために取締役全員で構成される株式会社の必要な機関である。取締役会の決議は、在任

取締役の過半数の出席と出席取締役の過半数の賛成により行わなければならないが、定款でこの比率を高めることができる。株式会社は、取締役会の決議により取締役の中から株式会社を代表する代表取締役を選任しなければならない。ただし、定款をもって株主総会でこれを選任する旨定めることができる。

株式会社の業務監査のために、監査役が設置される（ただし、資本の額面金額の総額が1十億ウォン未満の株式会社については監査役を設置しなくてもよい。）。監査役は株主総会で選任される。監査役の選任において、無議決権株式を除いた発行済株式総数の3%を超過する数の株式を有する株主は、その3%を超過する株式については、議決権を行使することができない。監査役は、取締役の業務執行を監査する。株式会社は、定款に従い監査役に代えて監査委員会を設置することができるが、この場合は監査役を置くことはできない。

#### (e) 財務情報の開示

商法に基づき、取締役は、毎決算期に貸借対照表、損益計算書、資本変動計算書、キャッシュ・フロー計算書、利益剰余金処分計算書（または欠損金処理計算書）および財務書類注記ならびにそれらの附属明細書（これらを総称して、以下「財務諸表」という。）ならびに事業報告書を取締役会の承認を得るために作成しなければならない。取締役は、定時株主総会の会日の6週間前にこれらの書類を監査役に提出し、監査役は当該書類の受領後4週間以内に監査報告書を取締役に提出する必要がある。取締役は、定時株主総会の会日の1週間前からかかる書類および監査報告書を本店に5年間、支店に3年間備え置き、これらの備置書類を株主および会社の債権者の閲覧に供することが要求されている。財務諸表は定時株主総会に株主の承認を求めるために提出され、また事業報告書は当該総会に提出され、その内容が報告されなければならない。上記にかかわらず、一定の要件を満たす場合には、取締役は財務諸表のそれぞれを取締役会に提出して承認を得なければならない。取締役会で承認された後、取締役は財務諸表の内容を定時株主総会で報告しなければならない。財務諸表が定時株主総会の承認を得られると、取締役は遅滞なく貸借対照表を公告しなければならない。

直前の会計年度末時点で資産合計額が12十億ウォン以上の法人または上場しているかもしくは当会計年度もしくは翌会計年度に上場予定の法人は、株式会社の外部監査に関する法律に基づいてその財務諸表について独立監査人の会計監査を受けなければならない。また、韓国の資本市場を規制するいくつかの法律（証券取引法を含む。）を統合した金融投資サービスおよび資本市場法（以下「FSCMA」といい、2009年2月4日付で施行された。一方、同日付で証券取引法は廃止された。）、同施行令および金融委員会（以下「FSC」という。）の規則に基づき、韓国証券取引所に株式または社債を上場している株式会社は、(i)年次報告書（監査済個別財務書類および監査済連結財務書類を含む。）を会計年度末から90日以内に（ただし、資産合計額が2兆ウォン以下でかつ株式会社の外部監査に関する法律に基づき国際会計基準を採用していない会社の場合、提出期限の延長が認められる。）、ならびに( )各会計年度の期初からそれぞれ3ヵ月間、6ヵ月間および9ヵ月間にかかる中間報告書を各期間末から45暦日以内に（ただし、例外として、連結財務書類を使用して中間報告書を作成することを採用してから1年目および2年目の事業年度に限り、各期間末から60日以内に中間報告書を提出することができる。）、FSCおよび韓国証券取引所に対して提出しなければならない。かかる報告書の写しは、FSCおよび韓国証券取引所において公衆の閲覧に供される。

#### (2) 【提出会社の定款等に規定する制度】

下記は、株式、機関および会計に関する当行の定款（以下「当行定款」という。）における一般規定の要約である。

(a) 株式

当行の授権株式の総数は20億株であり、額面金額は5,000ウォンである。当行は、普通株式および優先株式を記名式で発行することができる。新株の発行は株主総会の決議により決定される。優先株式は議決権を有さず、優先株式数は、発行済株式総数の25%を超過してはならない。

株主は、当行が発行する新株を、その持分に比例して引受ける新株引受権を有する。ただし、当行は、以下の場合に株主総会の決議により既存の株主以外の者に新株を割当てることができる。

- (i) FSCMAの規定に従って新株を募集するかまたは引受人に引受させる場合
- (ii) FSCMAの規定に従って従業員持株組合員に新株を優先的に配分する場合
- (iii) FSCMAの規定に従って預託証券の発行のために新株を発行する場合
- (iv) 政府または韓国預金保険公社(「KDIC」)の出資に係る新株を発行する場合
- (v) 先進金融技術の導入、当行の資金需要、当行の財務状況の改善または戦略的業務提携など経営上の必要により外国人投資者、国内外金融機関または提携会社などから資本を調達するために新株を発行する場合

上記 (iii) または (v) に基づいて発行される株式合計数は発行済株式総数の50%を超えることはできず、当該株式の種類、数および発行価格は株主総会の決議により決定されなければならない。

(b) 株主総会

当行の株主総会は、定時株主総会か臨時株主総会のいずれかである。定時株主総会は各会計年度末から3ヵ月以内に招集されるものとし、臨時株主総会は必要な時にこれを招集することができる。法令に別段の定めがある場合を除き、定時株主総会は、当行の取締役会(以下「当行取締役会」という。)の決議に従って、当行の銀行長(以下「当行銀行長」という。)により招集される。株主総会の招集に際しては、日時、場所および議題を記載する通知が、かかる総会の会日の少なくとも2週間前に郵便または電磁的方法により送られなければならない。

各株主は、その所有する株式1株につき1個の議決権を有する。株主は、代理人により議決権を行使することができる。

株主総会の招集を決めるための取締役会の決議により書面決議をすることが定められる場合には、株主は総会に出席せずに書面によって議決権を行使することができる。

株主総会のすべての決議は、適用ある法令に別段の定めがない限り、出席株主の過半数の賛成票(ただし、発行済株式総数の4分の1以上に相当しなければならない。)により可決されるものとする。

(c) 取締役、取締役会、銀行長および監査委員会

当行は、5名以上11名以内の取締役を有する。社外取締役の数は3名以上で、取締役総数の50%超でなければならない。

取締役の任期は以下のとおりで、株主総会において決定され、再任される。下記の任期はその任期中の最終決算期に関する定時株主総会の終結時まで延長することができる。

- (i) 社外取締役: 2年以内とし、社外取締役が再任される場合、当該社外取締役の再任後の任期は1年以内に制限されるとともに、当行における在任期間が6年を超える継続的な再任は認めらず、当行またはその系列会社における在任期間が累計して9年を超えてはならない。
- (ii) 当行監査委員会(以下に定義する。)の常任委員を兼任する取締役: 3年以内
- (iii) 上記(i)および(ii)に該当しないその他の取締役: 3年以内

取締役は株主総会で選任される。社外取締役は、役員候補推薦委員会の推薦を得て株主総会で選任される。

当行取締役会は、取締役により構成され、四半期ごとに開催される定例取締役会および特別取締役会により当行のすべての重要事項を決定することができる。当行取締役会は当行取締役会内に、監査委員会（以下「当行監査委員会」という。）、リスク管理委員会、報酬委員会および役員候補推薦委員会を設置する。各委員会の構成および運営に関する事項は当行取締役会の決議により定められる。

当行銀行長は持株会社および役員候補推薦委員会の推薦を経て、株主総会の決議により選任される。当行銀行長は当行を代表し、当行取締役会で決定された事項を含む当行の一切の業務を執行する。

当行は、監査役を有する代わりに、3名以上の取締役からなり、1名の当行監査委員会常任委員を含む当行監査委員会を設置する。当行監査委員会の少なくとも3分の2は社外取締役でなければならない。さらに監査委員会の委員のうち少なくとも1名は関係法令に定められる会計または財務の専門家でなければならない。

当行監査委員会は、当行の会計および業務を検査する。当行監査委員会は株主総会に提出される議案および書類に記載される事項を調査し、法令または定款に違反する事項が存在するか否かに関して株主総会においてその意見を表明する。当行監査委員会は、その職務を遂行するに当たって当行取締役会に対し臨時株主総会の招集を請求すること、ならびに当行の子会社から事業報告書を徴求することができる。当行監査委員会は外部監査人の任命を承認する。

#### (d) 会計

当行の事業年度は、毎年1月1日に開始し、12月31日に終了する。

当行銀行長は、定時株主総会の会日の6週間前までに事業報告書ならびに連結および個別ベースの(i)財政状態計算書、(ii)包括利益計算書および(iii)当行の財政状態および経営成績を示す、関係法令により義務付けられるその他の書類、ならびにそれらの附属明細書からなる財務書類を当行監査委員会に提出する。当行監査委員会は、上記の書類を受領した日から4週間以内に監査報告書を当行銀行長に提出する。

#### (e) 利益処分および分配

株主総会の決議により別段の決定がなされる場合を除き、当行は毎事業年度の処分前利益余剰金を以下の通り処分する。(i)利益準備金(利益の10%以上)、(ii)株主への配当、(iii)配当平準化準備金、(iv)役員に対する賞与、(v)退職給付金、(vi)その他準備金および(vii)翌期への繰越し。

当行の配当は、毎会計年度末日現在の株主名簿に記載された株主または登録された質権者に分配される。当行は、商法に従い当行取締役会決議により一定の日を定めてその日の株主に対して中間配当を支払うことができる。ただし、中間配当は金銭により支払われる。

## 2【外国為替管理制度】

外国為替取引法および大統領令ならびにこれらに基づく規則（以下「外国為替取引法」と総称する。）は、非居住者による韓国の有価証券への投資および韓国の会社による韓国外での有価証券発行を規制している。外貨建有価証券の元本総額が50,000,000米ドルを上回り、かつその期間が1年を超える場合、当行は、かかる有価証券の非居住者に対する各発行について、韓国企画財政部（以下「企画財政部」という。）に報告書を提出し、その承認を得なければならない。また、法人投資家のリスクヘッジ比率（新規外貨建てデリバティブ取引額と既存の外貨建てデリバティブ取引額との合計を、かかる取引によりヘッジされたポジションの価値で除したもの）は100%以下でなければならない。

一定の制限がある場合を除き、企画財政部は外国為替取引法のもとで以下の措置をとる権限を有する。

- (i) 韓国政府が、戦争、武力衝突、自然災害または国内外の経済情勢の深刻かつ突発的で重大な変化またはその他これに準ずる事由または状況を理由に必要とみなした場合、企画財政部は、外国為替取引法が適用されるすべての外国為替取引に基づく手続の全部もしくは一部を一時的に停止し（外国為替の受払いの停止を含む。）または支払手段を韓国銀行、外国為替平衡基金またはその他一定の政府機関または金融会社等に預託し、その保護預りに付しまたは売却する義務を課することができる。
- (ii) 韓国政府が、国際収支および国際金融市場に深刻な混乱が生じているかまたは生ずる虞がある、または韓国と他の諸国との間の資本移動が通貨政策、為替政策またはその他のマクロ経済政策に悪影響を及ぼす可能性が高いと判断した場合、企画財政部は、資本取引を行おうとする者に対して許可を取得するよう要求し、または資本取引を行った者に対してかかる取引により取得した支払手段の全部または一部を韓国銀行、外国為替平衡基金またはその他の金融会社等に預託するよう要求する措置を講ずることができる。

さらに、企画財政部はその裁量により、当行に対し、外貨建社債の発行にかかる報告書を受理するにあたって為替相場の変動を回避するために必要な措置を講ずるよう指示することができる。

### 3【課税上の取扱い】

以下の概要は、本書の日付現在有効な韓国税法以外の法律について説明することを意図したものではない。以下の韓国の税務上の考慮事項の概要は、次のいずれにも該当しない場合、当行の社債の保有者に適用される。

- ・ 韓国の居住者
- ・ 韓国内に所在する登録本店もしくは主要事務所を有する法人または韓国で有効な管理が行われている法人
- ・ 関連所得がそれに帰せられるかまたは関連所得がそれに実質的な関連を有する恒久的施設または固定的施設（以下「恒久的施設」という。）を通じて韓国国内における取引または事業に従事している者

韓国の居住者ではない個人または外国法人（以下「非居住者」という。）に対する課税は、当該非居住者が、韓国国内に恒久的施設を有しているか否かにより異なる。韓国国内に恒久的施設を有しない非居住者に対する課税については、以下に記載される。韓国国内に恒久的施設を有する非居住者に対する課税には、別の規則が適用される。

韓国の租税特例制限法（以下「租税特例制限法」という。）では、当行が韓国外で発行し、非居住者が所有する外貨建社債に係る利息および一定の手数料に対する個人所得税および法人所得税は免除される。韓国の税当局は、韓国税法のもとでは、社債の償還に係る割増金は、一定の事実関係の下では利息収入とみなされるべきであるとの公式見解を発表した。2012年1月1日以降に発行された外貨建社債については、かかる社債が韓国外で発行された場合に限り、その利息は課税対象とならない。

韓国税法のもとでは、韓国国内に恒久的施設を有しない非居住者による別の非居住者に対する社債の譲渡（かかる非居住者の韓国国内の恒久的施設に対するものである場合を除く。）による所得は、韓国の課税対象とはならない。さらに、韓国国外で行われた社債の譲渡により非居住者が得た所得も、かかる社債の発行が租税特例制限法上の海外発行とみなされる場合には、租税特例制限法に基づき現在韓国の課税対象となっていない。

将来の法律の変更により、租税特例制限法に定める免税が廃止された場合は、上記の利息の支払いおよび譲渡所得には、韓国の源泉徴収税が課せられる可能性がある。韓国と日本の間の所得税の二重課税回避および脱税防止に関する条約（以下「日韓租税条約」という。）では、日本の居住者に対して当行が支払う利息および前述の追加的な支払い（利息収入とみなされる場合。）には、10%を上限とする税率（地方所得税を含む。）で源泉徴収税が課せられる。有価証券の譲渡所得に関する免税条件が満たされなかった場合には、韓国の所得税法または法人税法により、実現手取金総額の11%（地方所得税を含む。）または譲渡所得の22%（地方所得税を含む。）（取得費用および取引に係る一定の直接費用の満足のいく証拠の提出を要する。）のいずれか低い方に相当する金額に対して、個人所得税または法人所得税が課せられる。また、日韓租税条約によれば、社債の譲渡所得に係る租税は、譲渡人が居住する国においてのみ課せられる。

日韓租税条約に基づく免除を受けるためには、非居住者である譲渡人は、譲渡代金の受領前に譲渡人の居住国の管轄税当局により発行された居住に関する証明書を添付した免税申請書を提出しなければならない。かかる申請書は、譲渡代金の最初の支払日の翌月の9日までに管轄税務署に提出しなければならない。ただし、かかる証明は、上記の租税特例制限法を含む韓国税法に基づく免除には適用されない。

利息およびキャピタルゲインといった一定の韓国源泉所得に対し租税条約に基づく軽減税率の恩恵を受ける非居住者について、適用ある租税条約に基づき、韓国税法は、一定の例外が適用される場合を除き、かかる非居住者に対し、かかる韓国源泉所得を受領する前に、租税条約に基づく軽減税率適用申請書にかかる韓国源泉所得の支払者に提出することを義務付けている。韓国源泉所得が海外の投資ピークルを通じて非居住者に支払われる場合、かかる投資ピークルは、かかる投資ピークルの受益権所有者であるそれぞれの非居住者から租税条約に基づく軽減税率適用申請書を受領し、かかる韓国源泉所得の支払者に、海外投資ピークル報告書とともに提出しなければならない。海外投資ピークルとは、投資対象の取得、処分またはその他の方法により、投資勧誘を通じて集めた資金を運用し、かかる運用の成果を投資家に分配する韓国外に設立された組織を意味する。非居住者によって提出された租税条約に基づく軽減税率適用申請書はその提出日から3年間有効であるが、かかる申請書の記載事項に重要な変更が生じた場合は、かかる変更を反映した申請書を新たに提出しなければならない。租税条約に基づく軽減税率適用申請書の要件は2012年7月1日から韓国源泉の所得に対して適用されている。

相続税は、相続の発生時に被相続人が韓国の居住者であるか、または韓国に所在する資産を相続した場合に課せられる。贈与税は、一般的に贈与時に受贈者が韓国の居住者である場合、または贈与された資産が韓国に所在する場合に課せられる。相続税および贈与税は、相続財産または贈与財産の価値が一定の上限を超えている場合に課せられ、その税率は、当事者に応じて10%から50%と様々である。とりわけ、相続財産または贈与財産の価値および当事者に応じて決定される。

韓国の相続税および贈与税を決定する際に、韓国において設立された法人が発行した社債は、その実際の所在地または所有者にかかわらず、韓国国内に所在する財産とみなされる。

韓国において作成された一部の書類にかかる名目的な印紙税を除き、社債の発行に関し、韓国において社債所持人により支払われるべき印紙税、発行税または登録税はない。社債の譲渡については有価証券取引税は課されない。

#### 4【法律意見】

当行の韓国における法律顧問である法務法人律村（Yulchon LLC）により、大要、次の趣旨の法律意見書が提出されている。

- (a) 当行は、韓国法のもとで適法に設立され、有効に存続している法人である。
- (b) 本書中の韓国法に関するすべての記述は、すべての重要な点で真実かつ正確である。

## 第2【企業の概況】

## 1【主要な経営指標等の推移】

韓国のすべての上場企業ならびに非上場の金融機関および国有企業は、2011年1月1日以後に開始する事業年度から韓国IFRSに準拠して財務書類を作成することを義務づけられている。

かかる要件のもとで、当行は2012年、2013年、2014年、2015年および2016年12月31日終了年度にかかる財務書類（連結および個別）を韓国IFRSに準拠して作成している。

連結財務情報<sup>(1)</sup>

（単位：別段の表示がない限り、百万ウォン）

	12月31日現在 / 12月31日終了年度				
	2012年 (修正再表示)	2013年	2014年	2015年	2016年
営業利益	2,078,123	1,719,972	1,797,396	1,733,726	1,958,978
（百万円）	(208,020)	(172,169)	(179,919)	(173,546)	(196,094)
当期純利益	1,662,719	1,373,176	1,455,653	1,489,988	1,940,621
（百万円）	(166,438)	(137,455)	(145,711)	(149,148)	(194,256)
総包括利益	1,526,505	1,014,906	1,396,780	1,197,961	1,717,969
（百万円）	(152,803)	(101,592)	(139,818)	(119,917)	(171,969)
資本合計（純資産）	20,336,861	20,536,081	20,476,900	20,842,773	21,466,973
（百万円）	(2,035,720)	(2,055,662)	(2,049,738)	(2,086,362)	(2,148,845)
資産合計	237,395,785	238,045,694	255,646,329	285,015,818	302,854,623
（百万円）	(23,763,318)	(23,828,374)	(25,590,198)	(28,530,083)	(30,315,748)
1株当たり当期純利益（基本的） （単位：ウォン）	951	782	857	903	1,195
（円）	(95)	(78)	(86)	(89)	(120)
1株当たり当期純利益（希薄化 後）（単位：ウォン）	951	782	857	903	1,195
（円）	(95)	(78)	(86)	(89)	(120)
自己資本比率（単位：%）	16.28	16.29	15.43	14.75	15.70
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,548,652	-2,974,990	-1,785,704	974,564	3,441,594
（百万円）	(555,420)	(-297,796)	(-178,749)	(97,554)	(344,504)
投資活動によるキャッシュ・フロー	-1,065,855	5,651,164	1,299,514	-4,472,193	-4,780,063
（百万円）	(-106,692)	(565,682)	(130,081)	(-447,667)	(-478,484)
財務活動によるキャッシュ・フロー	-3,434,910	-1,893,538	28,926	2,535,128	2,414,553
（百万円）	(-343,834)	(-189,543)	(2,895)	(253,766)	(241,697)
期末現在の現金および現金同等物	4,206,930	4,991,361	4,536,204	3,578,718	4,627,784
（百万円）	(421,114)	(499,635)	(454,074)	(358,230)	(463,241)
従業員数（単位：人）	14,432	15,629	15,657	16,889	16,154

個別財務情報<sup>(1)</sup>

(単位：別段の表示がない限り、百万ウォン)

12月31日現在 / 12月31日終了年度

	2012年 (修正再表示)	2013年	2014年	2015年	2016年
営業利益	2,032,259	1,710,061	1,734,077	1,516,139	1,720,770
(百万円)	(203,429)	(171,177)	(173,581)	(151,766)	(172,249)
当期純利益	1,654,077	1,341,431	1,433,310	1,216,391	1,777,072
(百万円)	(165,573)	(134,277)	(143,474)	(121,761)	(177,885)
総包括利益	1,595,801	1,031,669	1,355,956	931,730	1,582,484
(百万円)	(159,740)	(103,270)	(135,731)	(93,266)	(158,407)
普通株式資本金	7,928,078	7,928,078	7,928,078	7,928,078	7,928,078
(百万円)	(793,601)	(793,601)	(793,601)	(793,601)	(793,601)
発行済株式数 (単位：株)	1,585,615,506	1,585,615,506	1,585,615,506	1,585,615,506	1,585,615,506
資本合計(純資産)	20,256,179	20,472,162	20,371,857	20,468,080	20,960,746
(百万円)	(2,027,644)	(2,049,263)	(2,039,223)	(2,048,856)	(2,098,172)
資産合計	226,773,162	225,735,681	242,075,869	269,018,149	282,819,576
(百万円)	(22,699,994)	(22,596,142)	(24,231,794)	(26,928,717)	(28,310,240)
1株当たり配当 (単位：ウォン)	283.80	227.04	283.80	409.94	302.72
(円)	(28.41)	(22.73)	(28.41)	(41.03)	(30.30)
1株当たり当期純利益(基本的) (単位：ウォン)	946	762	843	731	1,092
(円)	(95)	(76)	(84)	(73)	(109)
1株当たり当期純利益(希薄化後) (単位：ウォン)	946	762	843	731	1,092
(円)	(95)	(76)	(84)	(73)	(109)
配当性向(単位：%) <sup>(2)</sup>	27.21	26.84	31.40	53.44	27.01
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,388,867	-3,224,591	-1,517,992	581,177	2,678,339
(百万円)	439,326	-322,782	-151,951	58,176	268,102
投資活動によるキャッシュ・フロー	-464,994	6,003,577	1,246,605	-4,314,344	-3,936,319
(百万円)	(-46,546)	(600,958)	(124,785)	(-431,866)	(-394,026)
財務活動によるキャッシュ・フロー	-3,106,840	-2,221,032	-73,485	2,218,791	1,591,595
(百万円)	(-310,995)	(-222,325)	(-7,356)	(222,101)	(159,319)
期末現在の現金および現金同等物	3,279,910	3,845,354	3,501,472	1,988,013	2,305,025
(百万円)	(328,319)	(384,920)	(350,497)	(199,000)	(230,733)
従業員数(単位：人) <sup>(3)</sup>	12,990	13,837	13,879	13,937	13,819

注記：

(1) 数値は、該当する年度の連結財務書類および個別財務書類から抜粋している。

(2) 支払配当を純利益で除したものの。

- (3) DART(DATA Analysis, Retrieval, and Transfer System)を通じて公表された従業員数である。
- (4) 当行の株式は上場していないため、株価収益率（PER）は上記の表には記載されていない。

## 2【沿革】

朝興銀行（法律上の当行の前身であり、以下「朝興銀行」という。）は、商業銀行業務および信託業務を行うことを目的として、1897年2月19日に設立された漢城銀行と1906年8月8日に設立された東一銀行との新設合併により、韓国の一般銀行法に基づき1943年10月1日に設立された。

1956年6月3日、朝興銀行の株式は韓国証券取引所に上場された。同行は、1999年4月30日および1999年9月11日に、それぞれ忠北銀行および江原銀行と合併した。韓国の金融危機時における1999年に実施された減資および韓国預金保険公社による資本注入の結果、以下に記載される2003年8月19日の新韓フィナンシャル・グループ（下記に定義する。）による朝興銀行の買収時までに、韓国預金保険公社は朝興銀行の発行済株式の80.04%を保有していた。朝興銀行は2003年9月30日現在、468店舗の国内支店、91の預金受入事務所および6店舗の海外支店を通じて営業しており、資本金は3,395,592百万ウォンであった。

1982年7月7日、旧新韓銀行（以下に記載されるとおり、2006年4月1日に朝興銀行に吸収合併された。）は商業銀行業務および信託業務を行うことを目的として、韓国の一般銀行法に基づき設立された。旧新韓銀行は2003年9月30日現在、358支店および177箇所を設置された現金自動預払機を通じて営業しており、資本金は1,223,211百万ウォンであった。

2001年9月1日、新韓フィナンシャル・グループ・カンパニー・リミテッド（以下「新韓フィナンシャル・グループ」という。）は、企業、政府、政府機関および個人に広範な金融サービスを提供することを目的とした事業を提供するために銀行業ならびに様々な関連事業に従事するために、韓国金融持株会社法に従い、韓国で初めての民間保有の金融持株会社として設立された。新韓フィナンシャル・グループの設立により、旧新韓銀行は新韓フィナンシャル・グループの完全子会社のひとつとなった。

2003年8月19日、新韓フィナンシャル・グループは、韓国預金保険公社から朝興銀行の発行済株式の80.04%を取得し、続いて資本注入により朝興銀行の株式所有を81.15%に増加させ、2004年6月22日に、現金を対価とする公開買付けおよびその後の韓国法に基づく小規模の株式交換により残りの株式、すなわち18.85%を取得した。これにより、朝興銀行は新韓フィナンシャル・グループの完全子会社となり、2004年7月2日にその株式は韓国証券取引所から上場廃止となった。

2005年12月30日付の朝興銀行と旧新韓銀行との合併契約の条項に基づき、旧新韓銀行は、朝興銀行を存続会社として2006年4月1日に朝興銀行と合併し、合併後直ちに朝興銀行はその社名を「新韓銀行」に変更した。また朝興銀行と新韓カード・カンパニー・リミテッド（以下「新韓カード」という。）との間の2005年12月30日付の吸収分割契約の条項に従い、2006年4月1日に朝興銀行のクレジットカード事業は分割され、新韓カードに吸収された。

### 日本における業務

当行は、日本においてはその海外銀行子会社であるSBJ銀行を通じて一般商業銀行業務を行っている。本書提出日現在、SBJ銀行は日本において、東京都港区芝5丁目36番7号三田ベルジュビル4階（郵便番号108-0014）に所在する東京支店を含む10支店および4箇所の両替所を有している。

当行が日本に子会社を設立したのは2009年であるが、当行は1986年3月以来、その支店を通じて日本において銀行業務を提供している。

### 3【事業の内容】

#### 概要

当行は、とりわけ資産合計、収入、収益性および自己資本の点で韓国の手商業銀行の一つである。同一の判定基準で韓国の手金融持株会社の一つである新韓フィナンシャル・グループの旗艦傘下会社である当行は、主に韓国において、また韓国における程度には及ばないもの選ばれた海外市場において、個人顧客および法人顧客向けに幅広い商業銀行業務およびその他の銀行業務を提供している。当行は、中小企業を対象とする韓国最大のレンダーの一つである。2016年12月31日現在、当行は871の国内支店、14の海外支店ならびに日本、中華人民共和国、香港、ベトナム、米国、カナダ、ドイツ、カンボジア、カザフスタン、メキシコおよびインドネシアに各1社の計11の子会社を有していた。

旧新韓銀行は、韓国で初めての民間資本による商業銀行として1982年に設立された。朝興銀行は韓国最古の金融機関として1897年に設立された。旧新韓銀行と朝興銀行は2006年に合併し、新銀行の名称を「新韓銀行」とした。

2016年12月31日現在の当行の資産合計、正味貸出金（貸倒引当金控除後）および銀行口座預金は、それぞれ302,855十億ウォン、219,439十億ウォンおよび228,910十億ウォンであった。2015年12月31日現在の当行の資産合計、正味貸出金（貸倒引当金控除後）および銀行口座預金は、それぞれ285,016十億ウォン、209,651十億ウォンおよび212,975十億ウォンであった。2015年および2016年12月31日に終了した年度について、当行の純利益はそれぞれ1,490十億ウォンおよび1,941十億ウォンであった。

韓国の会社登記簿における当行の登録番号は110111-0012809である。当行の本店は、韓国04513ソウル特別市中区世宗大路9道20に所在する。

#### 金融持株会社の組織

2001年9月、旧新韓銀行は韓国金融持株会社法に従って金融持株会社である新韓フィナンシャル・グループを設立した。旧新韓銀行の株式は、新韓フィナンシャル・グループの株式と交換された。かかる株式交換の一環として、旧新韓銀行は新韓キャピタル・カンパニー・リミテッドに対するその持分を新韓フィナンシャル・グループに譲渡した。新組織のもとで、2001年9月1日を実施日として、旧新韓銀行は新韓フィナンシャル・グループの完全子会社となった。金融持株会社の組織に関する詳細は、「第2-3-(4)新韓フィナンシャル・グループ」を参照されたい。

## (1) 事業

### 事業の概観

#### 当行の主要業務

当行は、個人顧客および法人顧客からの預金を受入れており、これは様々な銀行サービスを提供するために必要な資金を当行に提供している。当行は、主に4つの事業セグメントにより構成される包括的な銀行サービスを提供している。2015年4月より、当行は、進化する事業モデルと組織構成の変化を反映して、主要な事業セグメントを一部再調整した。「第6 - 1 財務書類」に記載される当行の連結財務書類に対する注記5を参照されたい。

当行の各事業セグメントの概要は以下のとおりである。

- ・ 個人顧客（富裕層の個人および家族を含む。）ならびにより少ない程度ではあるものの、病院、空港および学校などの非営利機関に対する貸出ならびに同顧客からの預金の受入れに注力する個人向け銀行業務。
- ・ 中小企業を含む営利目的の法人に対する貸出およびかかる法人からの預金の受入れならびに法人顧客に対する投資銀行業務の提供に注力する法人向け銀行業務。
- ・ 海外の子会社および支店の経営管理ならびにその他国際業務に注力する国際銀行業務。
- ・ 財務業務（行内資産負債管理および非預金の資金調達業務を含む）、有価証券の投資およびトレーディングならびにデリバティブのトレーディングに加え、銀行業務全般の管理からなるその他業務。

当行の主要業務は、重要な季節的傾向によって左右されない。当行は数多くの海外支店および子会社を有しているが、当行の資産の大部分は韓国に所在し、その収益の大部分は韓国で生じている。

#### 預金受入業務

当行は、異なる顧客セグメントをターゲットとした多くの預金商品を提供しており、これらは各セグメントの財務およびその他の特徴に合わせた機能を備えている。当行が提供する預金商品には主に以下のものが含まれる。

- ・ **要求払預金** 要求払預金は、無利息であるかまたは定期預金または貯蓄預金より低い利率の利息が生じ、顧客は随時資金の預入れおよび引出しができる。利息が付される場合には、要求払預金の金利は、預入期間および預入金額に応じて固定金利または変動金利となる。2015年12月31日現在および2016年12月31日現在における要求払預金は、当行の総預金額のそれぞれ約38.8%および40.5%を占めていた。2015年度および2016年度における要求払預金の平均支払金利はそれぞれ0.43%および0.36%であった。
- ・ **定期預金および貯蓄預金** 定期預金は通常、顧客が所定の期間預金を維持することを求められ、その期間中かかる預金には、固定金利または資金調達コスト・インデックス（COFIX）を含む一定の金融指標に基づく変動金利が付される。所定期間終了前に預金が引き出される場合には、顧客の受取金利は当初提示された金利よりも低くなる。定期預金の期間は通常1ヵ月から5年である。貯蓄預金は、顧客が随時資金の預入れと引出しを行うことを認め、通常、定期預金または積立預金の適用金利よりも低い調整可能な金利が付される。定期預金および貯蓄預金は、2015年および2016年12月31日現在における当行の預金合計額のそれぞれ約56.6%および53.7%を占め、2015年度および2016年度の平均支払金利はそれぞれ1.59%および1.28%であった。
- ・ **その他の預金** その他の預金は主に譲渡性預金からなる。譲渡性預金の満期は通常30日から2年である。譲渡性預金の金利は、預金の預入期間および実勢市場金利に基づいて決定される。譲渡性預金は、当該譲渡性預金に対する支払金利を反映して、額面価額から割り引いて販売される。その他の預金は、2015年および2016年12月31日現在における当行の総預金額のそれぞれ約4.5%および5.8%を占め、2015年度および2016年度における平均支払金利はそれぞれ1.19%および1.44%であった。

当行はまた、住宅法に基づく住宅申込優先権を顧客に付与する預金ならびに抵当ローンおよび住宅担保ローンに対する適格性を顧客に付与する預金を提供している。2015年6月の住宅法の改正により、住宅申込貯蓄口座、住宅申込定期預金口座および住宅申込分割払い貯蓄口座に対する新規申込みを2015年9月1日から受けられなくなった。代わって、現在は誰もが一般住宅申込貯蓄口座（上記3口座すべての機能を併せ持っている）を利用可能である。拠出期間は、申込日から口座名義人が住宅の買い手として選ばれる日までで、毎月の拠出金額は20,000ウォン以上500,000ウォン以下である。一般住宅申込貯蓄口座に対する金利は口座終了時に一括して支払われ、その金利は国土交通部により決定され、発表される利率で計算される。一般住宅申込貯蓄口座を有し、一定のその他の基準を充たすに者は住宅購入申込優先権が付与される。民間資金による住宅の場合、当該口座に対する合計拠出金額は、当該住宅の所在地別の適用預金限度額（2百万ウォン以上15百万ウォン以下）以上でなければならない。当初の口座名義人の死亡による相続の場合を除き、一般住宅申込貯蓄口座の名義を変更することはできない。当行が提供する主な預金商品の種類別の当

行のウォン建て預金についての詳細は、「第2 - 3 - (2)資産および負債の詳細 - 資金調達 - 預金」を参照されたい。

当行の預金商品に支払われる金利は、平均資金調達費用、利付資産の収益率、金融機関の実勢市場金利およびその他主要な金融指標に応じて著しく異なる場合がある。

当行はまた、韓国の裁判所の訴訟当事者に対して裁判所預託業務を提供しており、これには一定の種類の法的またはその他の手続に關与する訴訟当事者に対して効果的にエスクロー・サービスを提供することが含まれる。朝興銀行は、1958年以降かかるサービスの主な提供者であり、旧新韓銀行による朝興銀行の買収後は、当行がこれらのサービスにおいて引き続き優勢な市場シェアを有している。かかる預金は通常、市場金利（年率約0.5%）を下回る金利が付され、2015年および2016年12月31日現在の預金額はそれぞれ6,480十億ウォンおよび5,656十億ウォンであった。

韓国銀行の金融政策委員会は、商業銀行のウォン建て預金に対し、通常、満期までの期間および預金商品の種類に基づいて0%から7%の範囲の預金準備率を課している。「第2 - 3 - (6) 監督および規制 - 銀行に適用される主要な規制 - 流動性」を参照されたい。

預金者保護法は、韓国預金保険公社が適格な銀行預金の返済を同法に基づき預金者あたり1行合計50百万ウォンまでおよび確定拠出退職年金に基づき付保される50百万までを保証する預金保険制度を規定している。「第2 - 3 - (6) 監督および規制 - 銀行に適用される主要な規制 - 預金保険制度」を参照されたい。

## 個人向け銀行業務

### 概観

個人向け銀行業務には、抵当ローン、住宅担保ローンおよび個人向け貸出ならびに要求払預金、定期預金および貯蓄預金の受け入れ、当座口座サービス、エレクトロニック・バンキングおよびATMサービス、料金自動引落しサービス、給与および小切手の支払業務、為替ならびに資金の電子送金が含まれる。当行は、近代かつ効率的な個人向け銀行業務の提供は、当行の公共性を維持するためにも、また手数料ベースの収入源としても重要であると考えている。したがって、当行は、国内銀行部門が一段と発展してその複雑さが増すことから、個人向け銀行業務および商品が今後数年でますます重要になると考えている。

個人向け銀行業務はこれまで当行の中核事業の一つであり、今後もそうあり続けるであろう。個人向け銀行業務における当行の戦略は、自動化の拡大および顧客サービスの向上、ならびに販売に注力した支店網の合理化を通じて個人顧客に迅速かつ総合的なサービスを提供することである。個人部門は、富裕層の個人をターゲットとすることに注力している。2016年12月31日現在の当行の個人向け貸出金（貸倒損失引当金および繰延貸付付帯費用控除前）は97,306十億ウォンであった。

## 個人向け貸出業務

当行は、様々な個人向け貸出商品を提供しているが、これは主に個人および家計向け貸出からなっている。当行の個人向け貸出商品は国民の様々なセグメントをターゲットとし、各顧客の職業、年齢、借入目的、担保要件および顧客と当行との取引期間を含む各セグメントの金融特性およびその他の特徴に合わせた機能を備えている。個人向け貸出は主に以下から構成される。

- ・ **抵当ローンおよび住宅担保ローン** これは大部分が住宅購入の資金調達のために使用される抵当ローンからなっており、通常は購入する住宅によって担保される。
- ・ **その他の個人向け貸出** これは抵当ローンおよび住宅担保ローン以外を目的として行われる顧客への貸出であり、その条件は主に借り手の特性によって異なり、無担保であるか、または預金もしくは第三者による担保もしくは保証が付される。その他の個人向け貸出はまた、個人の借り手に無担保で提供されるアドバンスローン（その借入金の使途が建設完了前の住宅購入資金に制限される）を含む。

2016年12月31日現在、当行の抵当ローンおよび住宅担保ローンならびにその他の個人向け貸出金は当行のウォン建て個人向け貸出金のそれぞれ56.9%および43.1%を占めていた。

抵当ローンおよび住宅担保ローンを含む有担保の貸出については、当行は、先順位担保権（少額の権利を除く。）があればこれを考慮して、当該担保の評価額の40%から70%までを貸し付ける方針である。有担保貸出のローン資産価値比率は、最新の担保評価額を用いて毎月更新される。2016年12月31日現在、当行の抵当ローンおよび住宅担保ローンのローン資産価値比率は約52.29%であった。2016年12月31日現在、実質的にすべての当行の抵当ローンおよび住宅担保ローンは居住用不動産によって担保されていた。

金融監督院（以下「FSS」という。）の2014年8月1日付の行政指導（数回延長され、現在は2017年7月31日まで有効とされている。）に基づき、当行は(i)住宅担保ローンを提供する場合には、住宅担保ローンの担保として提供される住宅の所在地によって70%のローン資産価値比率の上限を課され、(ii)集合住宅の購入に対する100百万ウォン超の住宅担保ローンで、「ソウル首都圏地域（島などの一部地域を除く。）に所在するかかる集合住宅を担保とするものは60%という債務所得比率の上限を遵守することを義務付けられ、および、(iii)潜在的な所得が見込まれる場合はこれを考慮し、より柔軟性をもって債務所得比率を決定することが義務付けられている。さらに、韓国の監督当局は韓国の銀行に対して随時行政指導を行うが、これには借り手による住宅ローンの使用を制限する効果があり、そのため、不動産物件に対する需要を抑制する効果がある。例えば、FSSは、一定の状況を除き、抵当ローンおよび住宅担保ローンを提供する前に、担保の種類もしくは価値または不動産の所在地にかかわらず、借り手の返済能力を所得証明に基づいて検証させる行政指導を金融機関に対し公表した。かかる行政指導は、証明できる所得のない借り手に対する新規の抵当ローンおよび住宅担保ローンの提供を事実上禁止する効果があった。

当行は、適用ある規則および関連監督官庁の行政指導を遵守して、抵当ローンおよび住宅担保ローンを提供している。

下表は、当行の個人向け貸出金（貸倒損失引当金および繰延貸付付帯費用控除前）の内訳を示している。

	12月31日現在	
	2015年	2016年
	（単位：十億ウォン、%を除く。）	
個人向け貸出金 <sup>(1)</sup>		
抵当ローンおよび住宅担保ローン	54,194	55,320
その他個人向け貸出金	36,232	41,985
総貸出金合計に対する個人向け貸出金の割合	42.9%	44.1%

注記：

(1) 貸倒損失引当金控除前でクレジットカード債権を除く。

2016年12月31日現在の当行の抵当ローンおよび住宅担保ローンの貸出金残高合計額は、55,320十億ウォンで、このうち、元本分割返済型貸出金（その貸出元本が一部分割払いにより返済される貸出）は48,479十億ウォンで、元本分割返済を伴わない貸出金は6,841十億ウォンであった。さらに、2016年12月31日現在、当行はまた元本分割返済を伴わない貸出金の貸出金残高について1,812十億ウォンの与信限度額を有している。

#### 価格設定

当行の個人向け貸出金に付される金利は、定期的に調整される変動金利（内部振替価格制度を用いて算出された3ヵ月、6ヵ月または12ヵ月間の期間について決定された基準金利に基づいており、貸出関連費用および関連貸出商品の利益率を考慮するために調整された、資金調達の世界市場コストを反映している。）か、または貸出関連費用および利益率を考慮するために調整された、資金調達の世界市場コストを反映した固定金利のいずれかである。固定金利の貸出金の満期は個人向けが15年、法人向けが30年であり、限定された場合に限り変動金利貸出金にプレミアムを付して提供される。当行が変動金利または固定金利に基づき提供している無担保の貸出について、これらにかかる金利は、とりわけ貸出承認プロセスにおいて決定された借り手の信用スコアに基づく利益率が反映される。有担保貸出について、信用限度は担保の種類に基づき、担保およびローン資産価値比率が優先される。当行は、借り手による現在および/または将来予想される当行の収益に対する貢献を反映するために、これらの貸出の価格設定を調整することができる。当行の貸出商品にかかる金利は、貸出延長時に調整することができる。貸出が貸出日から3年以内に弁済される場合、借り手は当行に対して未返済の元本額の通常0.8%から1.4%の期限前弁済手数料に加え、当該貸出の元本に対する発生済みだが未払いの金利に当該貸出の満期までの残存日数を分子とし、当該貸出の期間または3年間のいずれか長い方の日数を分母とする分数を乗じた金額を支払うことが義務付けられる。

2016年12月31日現在における当行の3ヵ月、6ヵ月および12ヵ月の基準金利はそれぞれ約1.52%、1.56%および1.66%であった。2016年12月31日現在、満期が5年の抵当ローンおよび住宅担保ローンに対する当行の固定金利は、約4.385%であった。また、満期が1年のその他の個人向け貸出金に対する当行の固定金利は、顧客の信用スコアに応じて4.29%ないし14.00%の範囲であった。

2016年12月31日現在、当行の個人向け貸出金合計の73.5%は変動金利の貸出であり、26.5%は固定金利の貸出であった。同日現在、満期が1年超の当行の個人向け貸出金の64.3%は変動金利の貸出であり、35.7%が固定金利の貸出であった。

当行が顧客に課す金利は、韓国銀行連合会によって公表される「資金調達コスト・インデックス」(COFIX)にある程度基づいている。COFIXは、韓国の大手銀行8行(当行、国民銀行、ウリ銀行、KEBハナ銀行、農協銀行、中小企業銀行、シティバンク・コリア・インクおよびスタンダード・チャータード・バンク・コリア・リミテッド)からなる。)の選定された資金調達商品(定期預金、住宅その他積立貯蓄預金、買戻条件付有価証券、割引手形および非転換型社債を含む。)の加重平均金利に基づいて計算されている。各銀行はその後、COFIXと自らの全般的な資金調達コスト、事務費用、顧客の信用スコア、貸出の満期およびかかる銀行との顧客関係に基づいた顧客に固有のプレミアムおよびディスカウントとの差に基づいて、COFIXに対するスプレッドを加算してそのそれぞれの顧客への適用金利を個別に決定している。これらの金利は通常、月ごとに調整される。

## プライベート・バンキング

当行はこれまで富裕層顧客に注力してきた。当行の個人向け銀行業務には、複雑な財務上の問題について個人的な助言を求める富裕層顧客へのプライベート・バンキング業務の提供が含まれる。プライベート・バンキングにおける当行の目的は、当行の富裕層顧客に対して、とりわけポートフォリオおよび資金管理、税務コンサルティングならびに不動産管理業務を提供することで、かかる顧客の富の蓄積を強化し、その金融面での造詣を深めることである。2011年末以来、当行は、商業銀行業務と、新韓金融投資によって提供される投資相談サービスとの相乗効果をより大きくすることにより、進化する顧客のニーズに先手を打って対応し、資産の成長を促進するために、当行の一部の支店と同じ場所にある新韓金融投資の支店とを組み合わせたプライベート資産運用センターの営業を開始した。近年、当行は2016年にザ・アセット誌による「韓国のベスト・ウェルス・マネジャー」賞(5年連続受賞)および「韓国のベスト・プライベート・バンク」賞(2年連続受賞)ならびにプロフェッショナル・ウェルス・マネジメントおよびザ・バンカーの共催による2016年グローバル・プライベート・バンキング・アワードにおける「韓国のベスト・プライベート・バンク」賞(3年連続受賞)を含む産業界の著名な賞をいくつも受賞したことにより、プライベート・バンキングにおける当行の強さは広く認識されてきた。

2016年12月31日現在、当行は韓国全土(ソウルに18カ所、ソウル郊外に3カ所および韓国の他の地域における他の市に6カ所)において、27の資産運用サービスセンターを運営している。同日現在、当行は約7,207名のプライベート・バンキング顧客(通常、当行に500百万ウォンの預金を有する場合、プライベート・バンキング・サービスを利用することができる。)を有していた。

## 法人向け銀行業務

### 概観

当行は、SOHO(Small Office, Home Office)として知られ、個人または世帯で営まれる企業を含む中小企業および、これより程度は低いものの財閥関連企業を含むより規模の大きい企業に対して法人銀行業務サービスを提供している。当行はまた、政府系企業に対しても貸出を行っている。

下表は、表示日現在における当行の法人向け貸出業務の各区分に帰属する当行の貸出金合計額(貸倒損失引当金および繰延貸付付帯費用控除前)の残高および割合を示している。

	12月31日現在			
	2015年		2016年	
	(単位:十億ウォン、%を除く)			
中小企業向け貸出 <sup>(1)</sup>	67,336	55.9%	71,757	58.2%
大企業向け貸出	53,017	44.1%	51,455	41.8%
法人向け貸出合計 <sup>(2)</sup>	120,353	100.0%	123,212	100.0%

注記:

- (1) 小規模および中規模企業に関する基本法および関連する大統領令のもとで中小企業の定義を満たす企業に対して付与された貸出金の元本額を表す。
- (2) 公的機関およびその他貸出、他銀行への貸出およびクレジットカード債権を含む。

## 中小企業向け銀行業務

小規模および中規模企業に関する基本法（以下「中小企業基本法」という。）および関連する大統領令（2015年2月3日付で改正済）のもとで、中小企業として適格となるためには、(i)直前の会計年度末における当該企業の資産合計が500十億ウォン未満で、(ii)その年間売上高の平均および合計がその主たる事業の種類に適用される大統領令に定める基準を満たし、かつ(iii)当該企業は大統領令に定める所有から独立した経営基準（独占規制および公正取引に関する法律において定義されるコングロマリットの構成企業でないことを含む。）を満たさなければならない。しかし、中小企業基本法の直近の改正以前に中小企業として定義されていたが、改正後にかかる定義を満たさなくなった企業は、2018年3月31日までは中小企業基本法の目的上の中小企業とみなされる。中小企業基本法および大統領令に規定される一定の要件を満たす非営利企業は、中小企業として適格とすることができる。さらに、2014年4月15日から、大統領令に規定される協同組合および協同組合連合会は中小企業とみなされる。2016年12月31日現在、当行は71,757十億ウォン（貸倒損失引当金および繰延貸付付帯費用控除前）の貸出を254,458社の中小企業に付与していた。

当行はこれまで中小企業向け貸出に注力してきており、当行は、そのマーケティング能力（当行に著しい顧客ロイヤリティを与えてきたと考えられる。）および与信承認に対する保守的な信用格付制度を含む慎重なリスク管理の実施に鑑みて、中小企業市場で成功するために好位置につけていると考えている。中小企業向け貸出の市場シェアを維持または増大させるために、当行は以下の取組みを行っている。

- ・ 顧客および商品について市場を主導する専門性および精通を蓄積してきたこと。当行は、当該市場セグメントに組み込まれた信用リスクならびに当該市場セグメントの需要に特に合わせた貸出およびその他の商品を開発することを深く理解していると考えている。
- ・ 中小企業に対し個別仕様された顧客サービスを提供するための関係管理システムを運営していること。当行は現在、187の銀行支店に関係管理チームを有しており、このうち2つは法人向け銀行業務支店であり、185は個人顧客および限定的な範囲での法人顧客の双方に対するサービス提供を目的としたハイブリッド銀行業務支店である。これらの関係管理チームは商品を販売し、信用リスクの低い少額貸出の検討および承認を行っている。
- ・ 他の商品とクロス・セルされる貸出商品に引き続き注力していること。例えば、当行が中小企業向けに貸出を行う時は、かかる企業の従業員向けに、個人向け貸出もしくは預金商品をクロス・セルするかまたは投資顧問サービスを提供する機会も模索する。

## 大企業向け銀行業務

大企業顧客は、主として財閥グループ企業および金融機関で構成されている。当行の大企業向け貸出は、2016年12月31日現在51,455十億ウォン（貸倒損失引当金および繰延貸付付帯費用控除前）であった。大企業顧客は中小企業顧客よりもより優れた信用プロフィールを持つ傾向にあるため、当行は、そのリスク管理政策の一環としてこれらの顧客に対する注力を拡大してきた。

当行は、事業拡大と成長に向けて努力する法人顧客とパートナーを組むワンストップの金融ソリューションのプロバイダーとなることを目指している。当行は、かかる目的のために、投資銀行業務、不動産ファイナンス、海外不動産プロジェクト・ファイナンス、大規模開発のプロジェクト・ファイナンス、インフラ・ファイナンス、ストラクチャード・ファイナンス、持分投資/ベンチャー投資、M&Aコンサルティング、証券化およびデリバティブ・サービス（有価証券およびデリバティブ商品ならびに外国為替取引を含む。）を含む広範な法人向け銀行サービスを提供している。当行は、香港子会社である新韓アジュ金融有限公司を通じて、とりわけアジアにおいて海外事業を拡大している韓国企業向けに資金調達を手配し、コンサルティング・サービスを提供している。

## 法人向けエレクトロニック・バンキング

当行は、「新韓ビズバンク」として知られるウェブベースの総合的な資金管理サービスを法人顧客に提供している。新韓ビズバンクは、基本的な取引履歴の照会や資金振替から信用状開設、貿易金融、支払管理、回収管理、販売決済サービス、購入決済サービス、企業間決済サービス、スweeping（口座精算）、プーリング（資金プーリング）、ERPインターフェイス・サービス、ホスト間バンキング・ソリューション、SWIFT SCOREサービスおよびグローバルなキャッシュ・流動性管理サービスに至るほぼすべての種類の銀行取引をサポートしている。さらに、当行はインターネット・バンキング、キャピタル・マネジメント・サービスおよび企業資源プランニングを組み合わせ、企業顧客によりよいサービスを行うことを企図した「インサイド・バンク」プログラムを通じて、顧客にその金融サービスへの統合された高度アクセスを提供している。インサイド・バンク・プログラムはまた、様々な業種のコングロマリットから小規模企業に至るターゲットとする企業顧客の包括的なニーズを満たすカスタマイズされた金融サービスを提供し、当行の法人顧客が当行の金融サービスにアクセスする際の利便性を高め、その資金の戦略的な運用を支援することを目標とするものである。

## 法人向け貸出業務

当行の法人顧客向けの主要貸出商品は、運転資金融資および設備融資である。運転資金融資には手形割引と貿易金融を含み、通常一般的な運転資金目的に使用される貸出である。設備融資は、設備の購入や製造工場の建設の資金調達のために提供される。2016年12月31日現在における当行の運転資金融資および設備融資はそれぞれ49,816十億ウォンおよび42,166十億ウォンであり、当行のウォン建て法人向け貸出合計のそれぞれ54.2%および45.8%を占めていた。運転資金融資は通常満期が1年であるが、無担保貸出の場合には合計3年まで、有担保貸出の場合には5年まで1年ごとに延長することができる。設備融資の最長満期は10年で、通常、年2回の分割払いにより返済されるが、初回の返済は貸出期間の3分の1を超えない猶予期間があり、期間が3年以下の設備融資は、満期日に全額返済することができる。

法人向け貸出は、無担保であるかまたは不動産、預金もしくは保証状による担保付きでなされる。2016年12月31日現在、有担保貸出および保証付き貸出（信用保証保険基金の発行する保証証書によって担保された貸出を含む。）は当行のウォン建て中小企業向け貸出のそれぞれ59.2%および11.0%を占めていた。2016年12月31日現在、法人向け貸出の約49.0%は不動産を担保としていた。

当行は、法人顧客に貸出を供与するか否かを評価する際に、当該顧客の信用度、信用スコア、担保があればその価値および/または第三者の保証を検討する。担保の価値は、担保評価額、先順位担保権または当該担保に対する他の権利ならびに不動産に関しては前年に裁判所監督の競売において売却された近隣物件の平均価額を含むいくつかの事項に基づく調整要因を考慮した算式を用いて計算される。当行は、有担保の貸出が更新されるかまたは当該貸出に関するトリガー事由が発生した場合に担保を再評価する。

## 価格設定

当行は、法人向け貸出商品の価格を、主にそれぞれの資金調達コストおよび借り手の信用リスクに基づく期待損失率に基づいて決定する。2016年12月31日現在、満期までの残存期間が1年以上である当行の法人向け貸出の42.2%は、適用ある市場金利によって決定される変動金利であった。

より具体的には、当行の法人向け貸出の金利は通常次のとおり決定される。

金利 = (当行の期間毎の市場変動金利または参照金利) に取引費用、信用スプレッドおよびリスクプレミアムを加算し、裁量的な調整を加減する。

当行は、市場情勢および借り手との合意に応じて、借り手に対する金利を決定するための基準金利として、期間毎の市場変動金利または参照金利を使用できる。2016年12月31日現在における当行の期間毎の市場変動金利（当行の市場金利システムを利用して算出される3ヶ月、6ヶ月、1年、2年、3年または5年の期間ごとに決定される基準金利に基づいている。）は、3ヶ月物が1.53%、6ヶ月物が1.57%、1年物が1.67%、2年物が1.76%、3年物が1.85%および5年物が2.04%であった。同日における当行の参照金利は5.00%であった。参照金利は、当行が使用する基準貸出金利をいい、とりわけ当行の資金調達コスト、費用効率および裁量的マージンに基づいて、当行の資産・負債管理委員会が毎年決定する。

取引費用は、各貸出商品に割り当てられる標準的な取引費用およびその他の雑費用（信用保証基金への拠出金を含む。）ならびに教育税を反映している。信用保証基金は法的に設置された団体であり、商業銀行が行った貸出に対する信用保証を提供し、商業銀行が行うすべての貸出金（ファシリティー・ローンといった一部の貸出を除く。）の約0.36%の額に相当する商業銀行からの強制拠出金によって資金が賄われている。

信用スプレッドは、借り手の信用格付および担保または支払保証があればその価値に基づく期待損失を反映するために、期間毎の変動金利に加算される。また、当行は、特定の借り手に付与された信用格付による期待損失を超える可能性のある非期待損失の潜在性を考慮してリスクプレミアムを加算する。

裁量的な調整金利は、借り手の現在および/または将来における当行の収益性に対する貢献を反映するために加算されるかまたは差し引かれる。保証により追加的な信用が提供される場合には、かかる信用スプレッドの変更を反映するために調整金利が差し引かれる。また、競合銀行が類似の借り手に対して設定した価格およびその他の条件によって、当行は他行とより効果的に競合するために当該金利を引き下げることがある。

## 国際業務

当行は、国際資本市場において財務および投資業務に従事している。これには主に、外貨建て有価証券取引、外国為替取引およびサービス、貿易関連の金融サービス、国際ファクタリング・サービスならびに海外支店および子会社を通じた外国人向け銀行業務が含まれる。当行は、海外の現在および潜在的な顧客の様々な財務上のニーズに応えるために、アジアの主要銀行となり、また当行の海外ネットワークを一段と強化し、海外業務をローカライズし、とりわけ資産運用に関する商品提供の多様化によって国際事業を拡大することを目指している。「販売網 - 海外のサービス・ネットワーク」を参照のこと。

## その他銀行業務

### 概観

当行により行われるその他銀行業務には財務業務（行内資産負債管理および非預金の資金調達業務を含む。）、債務証券およびより少ない程度であるが持分証券の自己勘定でのトレーディングならびにこれらに対する投資、デリバティブ取引業務ならびにバックオフィス機能の管理が含まれる。

### 財務

財務部門は当行のすべての事業運営に資金を提供し、当行の運営上の流動性を確保している。当行は、安定した長期資金を確保するために、固定金利および変動金利のノート、社債、ストラクチャード・ファイナンスおよびその他の先進的な資金調達法を使用している。海外での資金調達については、当行は、日本円およびユーロといった米ドル以外の通貨建てで資金調達を行う可能性を注意深くモニタリングしている。また、当行は短期金融市場においてコールローンの貸出およびコールマネーの借入を行っている。コールローンはウォン建てまたは外貨建てのいずれかによる銀行および金融機関間の短期貸出であり、最低取引額は100百万ウォン、満期は通常1日である。

### 証券投資およびトレーディング

当行は、適切な流動性資源を維持し、受取利息、受取配当およびキャピタル・ゲインを生み出すために、自己勘定で有価証券に投資し、取引を行っている。当行のトレーディングおよび投資ポートフォリオは、主に韓国の財務省証券および政府機関、地方自治体または一部の政府出資企業が発行した債券、金融機関債券ならびに韓国取引所のKRX KOSPI市場およびKRX KOSDAQ市場の上場持分証券からなっている。当行の有価証券投資ポートフォリオの詳細は、「第2 - 3 - (2)資産および負債の詳細 - 投資ポートフォリオ」を参照されたい。

### デリバティブ取引

当行は、以下を含む一連のデリバティブ商品を当行の顧客に提供し、また限定的な範囲において当行の自己勘定でこれらの取引を行う。

- ・ウォン金利リスクとLIBORリスクにそれぞれ関連する金利スワップ、オプションおよび先物
- ・大部分が米ドル、円およびユーロに対するウォンのクロスカレンシー・スワップ
- ・株式および株式連動オプション
- ・外貨先渡、オプションおよびスワップ
- ・商品先渡、スワップおよびオプション
- ・クレジット・デリバティブ

## ・KOSPI200指数連動株式オプション

2015年および2016年における当行のデリバティブ取引高（想定元本）は、それぞれ132,785十億ウォンおよび174,866十億ウォンであった。かかるデリバティブ業務は通常、法人顧客がリスク・エクスポージャーをヘッジするためにデリバティブ契約を締結するニーズへの対処、およびかかる法人顧客との契約の結果生じた当行のリスク・エクスポージャーをヘッジするためのバック・トゥー・バックのデリバティブが中心となっている。

当行はまた、当行の資産および負債から生じる金利および外貨リスクのエクスポージャーをヘッジするためにデリバティブ契約を締結している。また、限定的な範囲であるが、当行はその定められたオープン・ポジションの範囲内において自己勘定でデリバティブ取引を行っている。「第2 - 3 - (2) 資産および負債の詳細 - デリバティブ」を参照されたい。

## 信託勘定管理サービス

### 概観

当行の信託勘定管理サービスには、主として金銭信託の形式による信託勘定の管理が含まれる。信託勘定顧客は通常個人であり、銀行口座への預金によって提供されるものより高い収益率を求めている。預金準備率要件は、銀行口座に保有される預金とは違って信託勘定に保有される預金には適用されず、また信託勘定について定める規制は銀行口座ほど厳しくない傾向があることから、当行は信託勘定商品について概ね銀行預金商品よりも高い収益率を提供することができる。しかしながら、近年は低金利環境が続くことから、当行は信託勘定商品について魅力ある収益率を提供できていない。

信託勘定商品は、通常、類似の銀行口座預金商品よりも所要最低預金額が高い。銀行預金商品とは異なり、信託勘定への預入金は、主として有価証券(主に債務証券および不動産金融に対する受益証券からなる。)に、またこれより程度は低いものの貸出金に対して投資される。これは、資金源が比較的不足していることから、信託勘定は流動資産への投資比率を高くする必要のあるためである。

銀行法、FSCMAおよび信託法に基づき、信託勘定の資産は受託銀行の他の資産とは分離することが義務付けられ、受託銀行の預金者または他の債権者に対する債務の弁済に充当することはできない。したがって、元本（または元本および利息の双方）について保証のない信託勘定は銀行勘定とは分離して計上および報告される。「第2 - 3 - (6) 監督および規制」を参照されたい。信託勘定は信託法およびFSCMAによって規制され、大部分の全国規模の商業銀行は同種の信託勘定商品を提供している。当行は、信託勘定管理業務から収益を得ており、これは正味信託管理報酬として計上されている。

2015年および2016年12月31日現在、当行が保有する信託資産はそれぞれ合計37,304十億ウォンおよび45,058十億ウォンであり、その主な内訳は有価証券投資がそれぞれ7,688十億ウォンおよび10,885十億ウォン、不動産投資がそれぞれ7,576十億ウォンおよび8,914十億ウォンならびに貸出金の元本総額がそれぞれ454十億ウォンおよび472十億ウォンであった。有価証券投資の内訳は、社債、政府関連債券およびその他の有価証券（主にコマーシャル・ペーパー）であった。2015年および2016年12月31日現在、当行の信託勘定合計額のうち、債務証券はそれぞれ19.2%および22.9%を、持分証券はそれぞれ1.4%および1.3%を占めていた。信託勘定からの貸出は、すべて韓国ウォン建てである点を除き、当行の銀行勘定からの貸出と同種のものである。2015年および2016年12月31日現在、信託勘定からの貸出金額のうち、それぞれ53.3%および52.1%が有担保または保証付きであった。各信託勘定の受入資金から投資を行う際には、各信託商品は、特に会社、業種および証券に特有の制限を記載した各商品に適用ある投資ガイドラインを定めている。

## 信託商品

韓国では、信託商品は通常、金銭信託の形式を取る。金銭信託は、受託者が適用ある法律に従ってその投資裁量を有する一任信託であり（特定金銭信託の場合を除く。）、それぞれの種類の信託勘定について混蔵され、合同運用される。特定金銭信託は、自身の信託資産の投資方法に関して特定の指示を与える顧客のために設定される。

当行の信託勘定事業が管理する金銭信託は、2015年および2016年12月31日現在においてそれぞれ24,093十億ウォンおよび29,476十億ウォンであった。

当行は、個人向け支店網を通じて変動利率信託商品を提供している。2015年および2016年12月31日現在における当行の変動利率信託勘定はそれぞれ20,443十億ウォンおよび25,634十億ウォンであり、このうち元本保証された変動利率信託勘定はそれぞれ3,649十億ウォンおよび3,841十億ウォンであった。変動利率信託勘定は、その保有者に対して、信託勘定の預入金元本額に対する変動利率によるリターンを提供し、元本保証型変動利率信託勘定（元本の支払が保証される。）の限られた場合を除き、預入金の元本額に対するリターンの保証は提供しない。当行は、一括金またはかかる信託に保有される資産の固定割合を管理報酬として請求し、信託商品によって、顧客による早期解約の場合には追加手数料を受領する権利を有する。当行を含む韓国の銀行は、現在次の種類の変動利率信託勘定商品の元本を保証することを認められている。それは(i)既設の個人年金信託、(ii)新規の個人年金信託、(iii)既設の退職年金信託、(iv)新規の退職年金信託、(v)年金信託および(vi)従業員退職給付信託である。当行はまた、その保有者に固定利率によるリターンとともに元本返済保証を提供する、保証付固定金利信託商品をわずかな金額であるが（2015年および2016年12月31日現在でそれぞれ1.0十億ウォンおよび1.0十億ウォン）提供している。これらは過去に提供した商品が繰越されたもので、当行はもはや保証付固定金利信託商品を提供していない。

## 販売網

当行は、個人向けおよび法人向け銀行業務に特化し、セルフサービスの端末やエレクトロニック・バンキング（携帯電話バンキングを含む。）および海外サービス・ネットワークで補完される様々な販売網および販売チャネルを通じて、個人顧客および法人顧客に幅広い金融サービスを提供している。

## 韓国における支店網

2016年12月31日現在、韓国における当行の支店網は871のサービスセンターで構成され、これは675の個人向け銀行業務サービスセンター（27のプライベート資産運用サービスセンターおよび109の個人向けオフィスを含む。）、9の大企業顧客向けのバンキング・サービスセンター、ならびに187のハイブリッド銀行業務支店からなっている。

下表は、2016年12月31日現在の当行の韓国における販売網の地理的分布を支店およびその他の販売チャネル別に表示したものである。

	個人向け	法人向け	合計
ソウル首都圏	282	69	351
京畿道	144	49	193
6大都市	130	39	169
仁川	44	12	56
釜山	30	9	39
光州	10	3	13
大邱	21	8	29
蔚山	9	4	13
大田	16	3	19
小計	556	157	713
その他	119	39	158
合計	675	196	871

当行の支店網は、支店の各対象顧客に合わせたワンストップの銀行業務サービスを提供することを目的としている。

#### 個人向け銀行業務チャネル

韓国では、現金またはクレジットカードで多くの個人取引が実施され、従来の当座勘定は通常提供されないか、または米国など他の諸国におけるほど幅広く使用されていない。従来より、広範な銀行取引のための主要なプラットフォームとして広範な個人向け支店網が重要な役割を果たしてきた。しかし、ますます多くの顧客がその銀行取引のニーズを満たすために、インターネット・バンキング、モバイル・バンキングおよびその他の非対面形態のプラットフォームといったその他のサービス手段に変更しつつある。かかる変更に対応して、当行は最近、過剰と思われる一部の支店の転換、合併または閉鎖を含むその個人向け支店ネットワークの再編に注力してきた。

最近では、プライベート・バンキングを通じて富裕層の個人をターゲットとすることが当行の重要な取組みの一つとなっている。当行のプライベート・バンキング業務は主として、ターゲットとする顧客グループの中で、顧客が個々の投資戦略を策定することを支援するプライベート・バンキング・リレーションシップ・マネジャーを通じて提供される。当行は、リレーションシップ・マネジャーが当行顧客との持続的な関係を醸成する一助となるものと確信している。プライベート・バンキング顧客はまた、当行の個人向け支店網および当行が個人向け銀行業務を通じて提供するその他の一般的な銀行商品を利用することができる。

#### 法人向け銀行業務チャネル

当行は現在、大企業顧客へのサービス提供を目的としたコーポレート・バンキング・サービス・センターならびに個人および小企業顧客へのサービス提供を目的としたハイブリッド銀行業務支店を通じて法人向け銀行業務を提供している。中小企業顧客は伝統的に当行の法人顧客の中核であり、当行はこれらの顧客に対する強みを引き続き維持する計画である。

## セルフサービス端末

当行の銀行業務支店網を補完するために、当行は幅広い自動窓口機のネットワークを維持し、これらは支店や無人店舗に設置されている。これらの自動窓口機は、ATM、現金支払機および記帳機からなっている。2015年12月、当行は「デジタル・キオスク」と呼ばれる新世代自動セルフサービス機を導入し、現在ソウル首都圏地域の17支店で試験的に稼働させている。これらのデジタル・キオスクは生体認証技術の特徴としており、新規口座の開設、デビットカードおよびチェック・カードの発行、外国為替および外貨の海外送金といった従来のATMではできなかった広範なサービスを行うことができる。2016年12月31日現在、当行は6,727台のATM、7台の現金支払機および24台のデジタル・キオスクを有していた。当行は、顧客に便利なサービスを提供し、支店レベルでのマーケティングおよび販売機能を最大化し、人件費を削減し、収益性を改善するために、これらの販売チャネルの使用を積極的に推進してきた。2016年において、自動窓口機の取引は、当行の処理件数およびこれらから生じた手数料収入について、当行の預金の預入れおよび引出し取引合計のかなりの部分を占めた。

## エレクトロニック・バンキング

当行のインターネット・バンキング・サービスは店舗カウンターで利用できるサービスと比較してより総合的であり、24時間の口座残高照会、リアルタイムの口座振替、海外送金および借入申込が含まれる。当行はまた、より迅速、便利かつ安全な銀行取引を顧客が携帯電話を用いて利用できるモバイル・バンキング・サービスを提供している。2016年12月31日現在、当行は約16,178,000のインターネット・バンキング・サービス利用顧客および約11,637,000のスマートフォン・バンキング・アプリケーション利用顧客を有しており、これは2015年12月31日現在と比較してそれぞれ5.6%および16.1%増加した。当行のオンラインおよびモバイル・バンキングの利用者数は引き続き増加するであろう。当行は当初、収益を増やすよりもむしろコスト節減の観点からオンラインおよびモバイル・バンキングの提供を開始したが、オンラインおよびモバイル・バンキングは、時間や場所の制約を受けることなく、より容易でより便利な銀行サービスへのアクセスを顧客に提供し、かつ、顧客に適合したカスタマイズされたサービスを各顧客に提供するので、これらのサービスを通じて収益を増加させる可能性を高める方法を現在探求している。2015年12月、当行は、よりユーザーフレンドリーで、これまでのプラットフォームよりアクセスが容易な新たなモバイル・プラットフォームである「サニーバンク」を発売した。サニーバンクは非対面の本人確認技術を利用しており、これにより利用者が実際に銀行支店に訪れることなくサニーバンクのモバイル・アプリケーションを通じて、銀行口座を開設し、ローンの申請を行い、外国為替および送金サービスといったその他のサービスを利用することができる。

## 海外のサービス・ネットワーク

下表は、2016年12月31日現在における当行の海外銀行業務子会社および支店を示している。

事業部門	所在地	設立年または 取得年
子会社		
新韓アジュ金融有限公司	中国 香港特別行政区	1982年
ヨーロッパ新韓銀行 <sup>(1)</sup>	ドイツ フランクフルト	1994年
アメリカ新韓銀行	米国 ニューヨーク	2003年
新韓銀行中国有限公司	中国 北京	2008年
新韓クメール銀行	カンボジア プノンペン	2007年
新韓カザフスタン銀行	カザフスタン アルマトイ	2008年
カナダ新韓銀行	カナダ トロント	2009年
SBJ銀行 <sup>(2)</sup>	日本 東京	2009年
新韓バンク・ベトナム <sup>(3)</sup>	ベトナム ホーチミンシティ	2011年
メキシコ新韓銀行 <sup>(4)</sup>	メキシコ メキシコシティ	2015年
新韓インドネシア銀行 <sup>(5)</sup>	インドネシア ジャカルタ	2016年
支店		
ニューヨーク	米国	1989年
シンガポール	シンガポール	1990年
ロンドン	英国	1991年
ムンバイ	インド	1996年
香港	中国	2006年
ニューデリー	インド	2006年
カーンチープラム	インド	2014年
プネー	インド	2014年
マニラ	フィリピン	2015年
ドバイ	アラブ首長国連邦	2015年
シドニー	オーストラリア	2016年
ヤンゴン	ミャンマー	2016年
アフマダーバード	インド	2016年
ランガ・レッディ	インド	2016年
代表事務所		
メキシコ	メキシコ メキシコシティ	2008年

ウズベキスタン	ウズベキスタン タシュケント	2009年
ミャンマー	ミャンマー ヤンゴン	2013年
ポーランド <sup>(1)</sup>	ポーランド ワルシャワ	2014年

注記：

- (1) ヨーロッパ新韓銀行は2014年にポーランドに代表事務所を設立した。
- (2) 当行は2009年に同子会社を日本に設立したが、1986年から支店組織を通じて日本で銀行業務を提供してきた。
- (3) 2011年に同子会社を設立する以前、当行は、1995年から支店組織を通じてベトナムで銀行業務を提供してきた。
- (4) メキシコ新韓銀行は2015年8月に予備免許を取得した。本書の日付現在、メキシコ新韓銀行の正式な事業免許は申請中である。
- (5) 当行はインドネシアのBank Metro ExpressおよびCentratama Nasional Bankの2行の持分をそれぞれ2015年11月に98.01%および2016年12月に100%取得した。2016年2月17日、Bank Metro Expressは新韓インドネシア銀行の商号で事業活動を行う免許を取得した。2016年12月6日、Centratama Nasional Bankは新韓インドネシア銀行に吸収合併された。

現在、当行の海外子会社および支店は主に、海外市場において韓国企業や韓国人向けに貿易金融および現地通貨での資金調達を行っており、また、当行の本店とともに外国為替業務を提供している。限定的ではあるが、これらの海外支店および子会社は外国の発行体の有価証券への投資やこれらのトレーディングを行っている。将来においては、当行は「グローバル化」への取組みの一環として、個人向けおよび法人向け銀行業務において一段と幅広いサービスを提供することで、海外市場における現地顧客のカバレッジを拡大する計画であり、かかる目的のために当行のプレゼンスを高め、これらの市場においてより柔軟にサービス提供を行えるように、選別された市場（2011年には当行のベトナム銀行子会社2社の合併）において支店の代わりに子会社の設立を増加させている。当行は、組織の成長への注力を維持する計画で、何も無い状態で参入しても現地の銀行免許の取得が難しい市場では買収を選択的に追及する場合もある。この目的を追求するために、当行は2015年11月および2016年12月にインドネシアのBank Metro ExpressおよびCentratama Nasional Bankの2行においてそれぞれ98.01%および100%の持分を取得した。当行は2016年12月にこの2行の合併を完了した。当行はまた2016年下半期にオーストラリア、ミャンマーおよびインドに新たに支店を開設した。当行はその海外のバンキング・サービス・ネットワークおよびグローバルな営業の拡大の取組みを継続する計画である。

## 子会社

2016年12月31日現在、当行は（42の連結特別目的ビークルに加え、）11の連結子会社を所有しており、その詳細を下表に示す。

子会社 <sup>(1)</sup>	所在地	株式持分 (単位：%)	業務内容
新韓アジュ金融有限公司	香港	99.9	投資銀行業務、韓国企業向けの財務およびコンサルティング業務のアレンジ、ならびに中国および東南アジア諸国において投資銀行業務に従事。
アメリカ新韓銀行	ニューヨークおよびカリフォルニア	100.0	一般銀行業務。大部分が米国に居住する韓国人顧客対象。
カナダ新韓銀行	トロント	100.0	一般銀行業務。大部分がカナダに居住する韓国人顧客対象。
新韓銀行中国有限公司	北京	100.0	現地および韓国コミュニティならびに企業に対する金融サービス。
ヨーロッパ新韓銀行	フランクフルト	100.0	海外貸出。大部分が韓国企業および/またはその関連会社対象。
新韓カザフスタン銀行	アスタナ	100.0	一般銀行業務。大部分がカザフスタンに居住する韓国人顧客対象。
SBJ銀行	東京	100.0	一般銀行業務。大部分が日本に居住する韓国人顧客対象。
新韓バンク・ベトナム	ホーチミンシティ	100.0	一般銀行業務。大部分が現地の個人およびベトナムに居住する韓国人顧客（法人を含む。）対象。
新韓クメール銀行	プノンペン	90.0	一般銀行業務。大部分がカンボジアに居住する韓国人顧客対象。
メキシコ新韓銀行	メキシコシティ	99.9	まだ開業していない。 <sup>(2)</sup>
PT Bank Shinhan Indonesia <sup>(3)</sup>	ジャカルタ	98.98	一般銀行業務。大部分が現地の中小企業およびインドネシアに所在する韓国人顧客（法人を含む。）対象。

注記：

- (1) 当行はまた、韓国IFRSに基づき連結子会社とされる42の構造化企業を有している。
- (2) メキシコ新韓銀行は2015年8月に予備免許を取得した。本書の日付現在、メキシコ新韓銀行の全事業の免許は申請中である。
- (3) 当行はインドネシアのBank Metro ExpressおよびCentratama Nasional Bankの2行の持分をそれぞれ2015年11月に98.01%および2016年12月に100%取得した。2016年2月17日、Bank Metro Expressは新韓インドネシア銀行の商号で事業活動を行う免許を取得した。2016年12月6日、Centratama Nasional Bankは新韓インドネシア銀行に吸収合併された。

## 情報技術

当行は、業務運営を支援し、質の高い顧客サービスを提供することを目的として、高度な情報技術システムを維持するために相当程度の資源を注いでいる。当行の情報技術システムは、包括的なグループ規模の情報収集および処理に基づき、新韓フィナンシャル・グループにより運営されている。新韓フィナンシャル・グループはまた、顧客関係管理機能、リスク管理システムおよびデータ処理のために、「エンタープライズ・データ・ウェアハウス」という単一のグループ規模の企業情報技術システムを運営している。新韓フィナンシャル・グループは、そのリスク管理システムに事業環境の変化を反映するだけでなく、その競合企業との差別化を強調するそのクラスで最高の技術を適用するために、そのグループ規模の情報技術システムを継続的にアップグレードしている。

2013年、新韓フィナンシャル・グループは、グループ全体のすべての子会社に対する情報技術システムの包括的な管理を担う統合データ・センターの建設を完了した。同センターは、最低15年間にわたる中央情報処理設備の安定利用を確保し、さまざまなデータ・センターを組み合わせることにより、経営効率およびコスト効率を最大限にし、情報セキュリティを強化するために設計されている。当行は2014年にその情報管理機能をこのセンターに移転させた。

新韓フィナンシャル・グループは、その子会社によって提供される金融サービスのセキュリティならびに信頼性を強化するために、継続的にグループ全体の情報セキュリティ基準の強化およびその関連システムのアップグレードに努めている。2008年、新韓フィナンシャル・グループは、グループ全体の情報システムおよび方針を設定し、それ以来これを継続的にアップデートし、アップグレードしてきた。2014年、新韓フィナンシャル・グループは、さらにグループ全体の情報セキュリティ統制タワーをそのクラスで最高の水準にアップグレードし、サイバー侵害を受けた際のセキュリティ防御能力を強化するために、その社内の情報セキュリティ担当スタッフの大半を優れた技能を有する外部専門家に置き換えた。

当行はまた、電子バンキングおよびモバイル・バンキング（スマートフォンによるものを含む。）、オンラインによるコンサルティング、拡張販売サービスならびにカスタマイズされた情報サービスを含め、顧客サービスの質を向上させることによりその競争力を高めるために、引き続き子会社の情報技術システムをアップグレードしている。さらに、当行は、最近、法人向けオンライン・バンキング・サービスの主要なアップグレードおよび携帯電話ベースの商品提供の拡大を通じて、その間接サービス・チャネルならびに携帯電話によって金融サービスにますますアクセスする顧客基盤の成長に照らした販売およびサービスのネットワークを強化した。さらに、当行はグローバルな顧客管理システムを通じてその海外子会社および支店の販売能力および経営能力を支援するだけでなく、各国で固有の金融サービスを提供するために、情報技術システムを拡大しており、引き続き拡大する所存である。

当行の情報技術システムは現在、リアルタイム・ベースでバックアップされている。2014年、新韓フィナンシャル・グループは、新韓データ・センターが遮断された場合でも、継続的に途切れることなく顧客サービスを提供するために、既存のデータ・センターをバックアップ用の運営と災害復旧センターとしての運営に転換した。

## (2) 資産および負債の詳細

別段の記載がない限り、下記の情報はすべて連結ベースで表示されている。別段の記載がない限り、当行の信託勘定の資産および負債については、「信託勘定」に記載されている。

### 貸出ポートフォリオ

当行は、その銀行勘定および信託勘定の双方から貸出を行っている。保証は、当該保証に関し当行が顧客に代わり支払いを行わない限り、および当行が支払いを行うまで、貸出には分類されない。

単一の借り手に対する当行のエクスポージャー合計ならびに独占規制および公正取引に関する法律に定義される同一の企業グループに属する単一の企業グループに対するエクスポージャー合計は、法律によりTier I資本およびTier II資本（資本控除項目を除く。）の合計額のそれぞれ20%および25%に制限されている。新韓フィナンシャル・グループおよび当行を含むその子会社の単一の借り手に対するエクスポージャー合計ならびに独占規制および公正取引に関する法律に定義される同一の企業グループに属する単一の企業グループに対するエクスポージャー合計は、正味株式資本合計（金融持株会社法大統領令に定義される。）のそれぞれ20%および25%に制限されている。

当行の表示日現在の種類別貸出を下表に示す。別段の記載のある場合を除き、すべての貸出金額は貸倒引当金および繰延貸付付帯費用控除前である。貸出金合計は延滞金額を含み、当行の貸出ポートフォリオを反映している。

	12月31日現在	
	2015年	2016年
	(単位：十億ウォン)	
法人向け貸出 <sup>(1)</sup>	120,353	123,212
個人向け貸出	90,426	97,306
合計 <sup>(2)</sup>	210,779	220,518

注記：

(1) 公的機関およびその他貸出、他銀行への貸出およびクレジットカード債権を含む。

(2) 2015年および2016年12月31日現在、当行の総貸出金合計のそれぞれ87.7%および87.1%はウォン建てであった。

### 借り手別のエクスポージャー上位10件

2016年12月31日現在において、貸出、有価証券ならびに保証および引受手形からなる当行のエクスポージャー上位10件の合計は32,217十億ウォンであり、当行のエクスポージャー合計の21.7%を占めていた。下表は、表示日現在における当行の借り手の上位10件に対するエクスポージャー合計を示している。

	ウォン建て 貸出	外貨建て 貸出	有価証券	保証および 引受手形	エクスポー ジャー合計
2016年12月31日現在	(単位：十億ウォン)				
企画財政部	-	-	8,947	-	8,947
韓国銀行	1,890	-	5,716	-	7,606
韓国土地住宅公社	-	-	4,521	-	4,521
韓国産業銀行	18	33	3,659	-	3,710
中小企業銀行	654	-	1,387	-	2,041
三星電子	-	1,350	22	-	1,372
韓国預金保険公社	-	-	1,310	-	1,310
現代重工業	81	140	15	797	1,033
農協銀行	294	-	546	4	844
韓国輸出入銀行	-	-	832	1	833
合計	2,937	1,523	26,955	802	32,217

#### 主な債務者グループに対するエクスポージャー

2016年12月31日現在、当行のエクスポージャー合計の13.2%はFSS院長の識別による主要債務者10グループに対するもので、その大部分は財閥であった。下表は、表示日現在における、当行が最大エクスポージャーを有する主要債務者10グループに対する当行のエクスポージャー合計を示している。

	ウォン建て 貸出	外貨建て 貸出	有価証券	保証および 手形引受	その他	エクスポー ジャー合計
2016年12月31日現在	(単位：十億ウォン)					
三星	451	1,895	538	1,313	-	4,197
現代自動車	929	1,630	229	425	-	3,213
ロッテ	463	878	880	441	-	2,662
現代重工業	172	267	155	1,532	-	2,126
SK	227	326	433	655	-	1,641
LG	327	378	190	619	-	1,514
ハンファ	513	239	377	274	-	1,403
LS	83	452	160	605	-	1,300
暁星	141	419	82	176	-	818
GS	321	103	158	133	-	715
合計	3,627	6,587	3,202	6,173	-	19,589

## 業種別の貸出の集中

下表は、2016年12月31日現在における当行の法人向け貸出の残高合計を業種別に示している。

業種	2016年12月31日現在	
	貸出残高合計	法人向け貸出残高合計 に対する割合
(単位：十億ウォン、%を除く)		
製造	41,239	33.5
不動産、リースおよびサービス	19,729	16.0
小売および卸売業	17,089	13.9
金融および保険	10,236	8.3
建設	2,482	2.0
ホテルおよびレジャー <sup>(1)</sup>	5,858	4.8
その他	26,579	21.5
合計	123,212	100.0%

注記：

(1) 主にホテル、モーテルおよびレストランからなる。

## 満期分析

下表は、2016年12月31日現在における当行の貸出ポートフォリオの満期予定（満期までの残存期間ごとに表示）を示している。開示されている金額は、これに帰属する貸倒引当金および繰延貸付付帯費用控除前の額である。分割返済ローンの場合、分割返済時期を考慮して満期が調節されている。

	2016年12月31日現在			合計
	1年以下	1年超5年以下	5年超 <sup>(1)</sup>	
(単位：十億ウォン)				
法人向け貸出	90,475	29,287	3,450	123,212
個人向け貸出	37,602	22,940	36,764	97,306
総貸出金合計	128,077	52,227	40,214	220,518

注記：

(1) 延滞貸出を含む。

当行は、当行が貸出審査手順に従って標準的な貸出審査を行った後、法人向け貸出（主に運転資金融資および設備融資からなる。）および個人向け貸出（分割返済でない場合）について借り換えを認めることができる。当行の運転資金融資は、無担保の貸出については合計3年から5年まで、有担保の貸出については合計5年までの期間について、1年ごとに延長することができる。設備融資は通常有担保であり、通常は当初貸出実行日から5年間を最大として、一回の延長が可能である。個人向け貸出は、有担保および無担保貸出の双方について、最大12ヵ月までの追加期間を延長して当初貸出実行日から合計10年間とすることができる。

## 金利感応度

下表は、2016年12月31日現在における当行の貸出の内訳を金利感応度別に示したものである。

	2016年12月31日現在		
	1年以内 <sup>(1)</sup>	1年超	合計
	(単位：十億ウォン)		
固定金利付貸出 <sup>(2)</sup>	58,911	38,143	97,054
変動金利付貸出 <sup>(3)</sup>	69,166	54,298	123,464
総貸出金合計	128,077	92,441	220,518

注記：

(1) 延滞貸出を含む。

(2) 固定金利付貸出は、全期間について金利が固定された貸出である。

(3) 変動金利または金利調整貸出は、全期間について金利が固定されていない貸出である。

当行の金利リスクの管理に関する情報の詳細は、「第2 - 3 - (3) リスク管理 - 市場リスク管理 - トレーディング業務から生じる市場リスク・エクスポージャー」を参照されたい。

## 未収利息不計上の貸出および延滞貸出

買戻した貸出の場合を除き、当行は通常、未収利息不計上の貸出にかかる受取利息を、減損損失を測定するためのかかる貸出の将来キャッシュ・フローの割引に用いられた金利を用いて認識する。通常、当行は、金利および/または元本の支払が90日間延滞した場合、貸出にかかる未収利息の計上を停止する。貸出(買戻した貸出を除く。)は、金利および元本の支払が再開されるまで未収利息計上の貸出として再分類されない。

当行は通常、商業貸出の場合は1日から14日、個人向け貸出の場合は1日から30日にわたり金利の支払が延滞した貸出について、貸出元本残高および関連未収利息の全額を即座に返済するよう借り手に要請することはない。

既往の利息は、当行の会計簿上発生していない未収利息不計上貸出金にかかる支払期日到来利息である。2015年および2016年に、当行は未収利息不計上の貸出について、各年度またはその年の一部の間保有した貸出については実行から期末までの期間においてかかる貸出が当初契約条件のとおり収益計上されていたならそれぞれ47十億ウォンおよび45十億ウォンの総受取利息が計上されたであろう。2015年および2016年の当行の正味利息に含まれたこれらの貸出金にかかる受取利息はそれぞれ22十億ウォンおよび25十億ウォンであった。

下表は、表示された日における1日以上延滞した未収利息不計上貸出金および未収利息計上貸出金とされた貸出金額を示している。「未収利息計上だが1日延滞」には、まだ未収利息を計上しているが元本または利息の支払が契約上は1日以上延滞している貸出を含む。当行は引き続き、未収利息が現金預金により全額担保されている場合を含め、貸出金の全額が未払いである貸出金にかかる未収利息を計上する。

	12月31日現在	
	2015年	2016年
	(単位：十億ウォン)	
未収利息不計上貸出金 <sup>(1)</sup>		
法人向け	1,106	974
個人向け	205	218
小計	1,311	1,192
契約上1日以上延滞となっている未収利息計上貸出金		
法人向け	130	189
個人向け	276	266
小計	406	455
合計	1,717	1,647

注記：

(1) 韓国IFRSに基づき「不良債権再編」である貸出金または金利および/または元本の支払が90日以上(二重に数えることを避けるために開始日および終了日の両方をカバーする貸出金の重複調整後)延滞している貸出を表している。

## 不良債権の再編

「債務整理および再生手続中の会社に対する信用エクスポージャー」を参照されたい。

下表は、表示日現在における「不良債権の再編」とされる当行の貸出を示している。これらの貸出金は主として、債務整理および再生手続を通じて再編された法人向け貸出からなっている。「債務整理および再生手続中の会社に対する信用エクスポージャー」を参照されたい。これらの貸出金は、当初の契約条件よりも低い金利が付されるか、または再編に際しての条件の変更により、当初の契約上の満期の延長を伴う。

	12月31日現在	
	2015年	2016年
	(単位：十億ウォン)	
「不良債権の再編」に分類された貸出金 (未収利息不計上貸出および延滞貸出を除く。)	244	133
「不良債権の再編」に分類された貸出金 (未収利息不計上貸出および延滞貸出を含む。)	702	516

下表は、表示期間における、再編済み貸出について、当初の再編済み貸出の契約条件に基づき当行の受取利息に計上されるべきであった金額と、かかる貸出の再編された契約条件に基づき、実際にかかる貸出について当行の受取利息として計上された金額を示している。

	12月31日現在	
	2015年	2016年
	(単位：十億ウォン)	
再編済み貸出の当初契約条件に基づく受取利息 <sup>(1)</sup>	22	17
再編済み貸出の再編された契約条件に基づく受取利息	6	7

注記：

(1) 未収利息不計上貸出金および延滞貸出金を含む。

下表は、当行の表示日現在における「不良債権の再編」に分類される法人向け貸出の貸出金残高および個別貸倒引当金（未収利息不計上貸出金および延滞貸出金を含む。）の内訳を、かかる貸出が対象となる再編の種類別に示している。

	12月31日現在			
	2015年		2016年	
	貸出金残高	引当金	貸出金残高	引当金
	(単位：十億ウォン)			
「不良債権の再編」に分類された法人向け貸出 <sup>(1)</sup> ：				
債務整理	506	215	410	214
法定管理および和議	196	59	106	32
合計	702	274	516	246

注記：

(1) 未収利息不計上貸出金および延滞貸出金を含む。

下表は、表示日現在の個人債務者向けの「債務整理前プログラム」に基づく債務整理の対象である個人向け貸出（未収利息不計上貸出金および延滞貸出金を含む。）の貸出金残高および個別貸倒引当金の内訳を、かかる貸出が対象となる再編の種類別に示している（かかる貸出は前述の法人向け貸出には含まれないため、上記の表に含まれていない。）。「債務整理前プログラム」に関する詳細は、下記「債務整理および再生手続中の会社に対する信用エクスポージャー - 延滞している消費者および中小企業の借り手に対する信用再生プログラム」を参照されたい。

	12月31日現在			
	2015年		2016年	
	貸出金残高	引当金	貸出金残高	引当金
	(単位：十億ウォン)			
「債務整理前プログラム」に基づく債務整理の対象である個人向け貸出 <sup>(1)</sup>	54	35	71	40

注記：

(1) 未収利息不計上貸出金および延滞貸出金を含む。

下表は、表示日現在の法人向け貸出のうち、減損したとみなされ、下記に記載される当行の一般金利計上方針に基づき未収利息不計上に分類される再編済み貸出の金額を示している。同表はまた、表示期間の法人向け貸出について、再編済み貸出金の償却合計および再編の一環として持分証券に転換された貸出に関する再編済み貸出の償却金額を示している。

	12月31日現在	
	2015年	2016年
	(単位：十億ウォン)	
減損した未収利息不計上の再編済み貸出金 <sup>(1)</sup>	458	383
再編済み貸出金の償却合計 <sup>(1)</sup>	268	116
再編の一環として持分証券に転換された貸出金 に関連する再編済み貸出金の償却 <sup>(1)</sup>	40	21

注記：

(1) 法人向け貸出のみを含む。

## 債務整理および再生手続中の会社に対する信用エクスポージャー

当行の再編に対する信用エクスポージャーは、法人債権回収部によって監視され、管理されている。2016年12月31日現在、当行の貸出金合計の0.23%（516十億ウォン）（うち383十億ウォンが未収利息不計上に分類され、133十億ウォンは未収利息計上に分類されている。）が再編中である。当行の信用エクスポージャーの再編が主に取る法的形式は、債務整理および再生手続きである。

## 債務整理

旧企業再生促進法（2015年12月31日に失効。）の下では、金融機関であるすべての債権者は、債権者委員会への参加を義務付けられていた。旧企業再生促進法は、商業銀行、保険会社、資産運用会社、証券会社、投資銀行、韓国預金保険公社およびKDICを含む韓国の幅広い金融機関に対して強制適用されていた。同法のもとでは、借り手の再編計画（債務再編および追加資金の手当を含む。）には、当該借り手の債務残高合計の75%以上を保有する債権者金融機関の承認が必要であり、かかる計画は借り手のすべての債権者金融機関に対し拘束力を有する。ただし、債権者委員会が承認した最終的な再編計画に同意しない債権者金融機関は、自身の債権を相互に合意した価格で買い取ることを債権者委員会に請求する権利を有する。債権者委員会と反対する債権者金融機関が合意に達しない場合には、7名の専門家からなる調停委員会が問題を解決するために設置されると規定していた。

上記の旧企業再生促進法は2015年12月31日に失効し、旧法をいくつかの点で修正し、拡大した新たな企業再生促進法が2016年3月3日に韓国の国会で可決された。新たな企業再生促進法は、同法の対象となる「借り手」の定義を、金融機関である債権者により付与される与信の合計額が50十億ウォン以上である企業から韓国商法に基づくすべての法人または商業活動を行うその他の団体へと拡大した。新たな企業再生促進法はまた、債権者委員会に参加することができる「債権者」の定義を、金融機関である債権者から、与信の付与を通じて借り手に対する請求のあるすべての債権者へと拡大した。

新法に基づき、債権者委員会を構成する債権者は、委員会の最初の会合において、かかる最初の会合の通知を受けた債権者により保有される合計債務残高の75%以上を保有する債権者の承認に基づき決定される。金融機関でない債権者または借り手に対する債権額合計が1%未満である債権者に対しては債権者委員会の会合について通知することを要しないが、かかる債権者が参加を希望する場合には、委員会から除外されてはならない。債権者委員会の決議は、委員会の債権者により保有される合計債務残高の75%以上を保有する債権者の承認により採択される。しかし、単一の債権者が委員会の債権者により保有される合計債務残高の75%以上を保有する場合、かかる単一の債権者を含む委員会の債権者数合計の40%以上の票により可決される。さらに、債務再編についての債権者委員会の決議は、委員会の債権者の担保付債権の合計額の少なくとも75%以上を保有する債権者の同意を得た場合のみ効力を有する。新企業再生法は2018年6月30日に失効する。

## 再生手続き

2006年4月1日に施行された債務者再生および破産法のもとでは、法定管理に代えて再生手続きが導入された。再生手続きでは、債務会社の経営が裁判所に任命された管財人に委ねられる法定管理手続とは異なり、債務会社の現最高経営責任者が債務会社の経営を継続することができる。ただし、(i)資産の不正な委譲または隠蔽が存在しないこと、(ii)債務会社の財政破綻が当該最高経営責任者の重過失によるものでないこと、および(iii)合理的な理由に基づき、当該最高経営責任者の交代を裁判所任命の管財人に要求することを目的とした債権者委員会が開催されていないことを条件とする。再生手続きはいかなる支払不能債務者によっても開始することができる。また、国際基準を満たすために、国際破産手続が韓国で導入された。かかる手続に基づいて、外国の破産手続の管財人は係属中の外国破産手続について韓国の裁判所の承認を得て、韓国の破産手続を申請し、またはこれに参加することができる。同様に、国内の再生手続の管財人または破産管財人は、適用ある外国の法律により認められる範囲で、債務者の資産が所在する外国においてその職務を遂行することが認められている。

2016年12月31日現在、再生手続の対象となっていた貸出金合計は106十億ウォンであった。法定管理または和議手続の対象となっていた貸出金はなかった。

債務整理および再生手続中の貸出金は、通常90日超延滞しておりかかる貸出金には利息が生じないことから、上記「未収利息不計上の貸出および延滞貸出」に記載されるように当行の財政状態計算書（「第6 - 1 財務書類」に記載されている「財務状態表」と同じ意味である。以下、同様。）において未収利息不計上貸出金として計上されている。不良債権の再編の定義を満たす再編済み貸出金は、上述の「不良債権の再編」において記載される不良債権の再編として報告される。かかる再編済み貸出金は、再編の結果として受領する商品の種類に応じて、当行の財政状態計算書上貸出金または有価証券として報告されている。

## 延滞している消費者および中小企業の借り手に対する信用再生プログラム

韓国政府は、クレジットカードやその他の消費者信用における延滞が徐々に増加していることに鑑みて、延滞している消費者たる借り手の信用再生を支援することを目的としたいくつかの措置を実施している。こうした措置は、当行が延滞している消費者信用から回収する金額や時期に影響を及ぼす可能性がある。

信用カウンセリングおよび再生サービスは、個人債務者に、債務整理前プログラムおよび個人債務整理プログラムのふたつのプログラムを提供しており、いずれも債務金額の合計が1.5十億ウォン以下（担保付債務1十億ウォン以下および無担保債務500百万ウォン以下）である個人が利用することができる。債務整理前プログラムは延滞期間が31日以上89日以下の個人（延滞期間は1日以上30日以下であるが年収が40百万ウォン以下であり、申請日の直前の年における累積延滞期間が30日以上の個人を含む。）に対し、個人債務整理プログラムはその延滞期間が3ヵ月以上である個人に対して提供される。個人債務者が債務整理前プログラムまたは個人債務整理プログラムを申請すると、信用カウンセリングおよび再生サービスは、債務再編計画を審査し、決定する。信用カウンセリングおよび再生サービスと信用再生支援合意を行っており、かつ当該個人債務者に対する無担保債務および担保付債務それぞれの過半を有する債務者金融機関がかかる再編計画に合意すると、かかる再編計画は完成し、申請された債務整理前プログラムまたは個人債務整理プログラムに従い、満期の延長、金利の調整または債務削減といった債務再編措置が行われる。

債務者再生および破産法に基づき、債務残高合計が無担保債務500百万ウォンおよび/または担保付債務1十億ウォンの上限を超えない適格な個人債務者は、債権者に対して拘束力を有する裁判所監督に基づく債務再編を通じて自己の債務を再編することができる。

FSSのガイドラインに基づき、当行を含む韓国の銀行は、2008年から中小企業への流動性支援である「ファスト・トラック」プログラムを運営している。ファスト・トラック・プログラムは2016年12月31日付で終了したため、FSCは2017年1月1日に開始する5年間に中小企業を対象としたスイフト・フィナンシャル・サポート・プログラムを実施した。当行および同プログラムに参加する他の金融機関は、信用リスク評価に基づき、一時的な流動性危機に瀕しているが一定基準以上の信用格付を有する中小企業に金融支援（既存の債務の満期延長および金利削減を含む。）を提供する。原則として、会社に対するスイフト・フィナンシャル・サポート・プログラムの申請は、3年間に限定されているが、かかる申請はその債権者金融機関との協議により、最高1年間の延長を1回限り行うことができる。

借り手が債務整理前プログラムへの参加資格を有するとみなされると、当行はその損失を軽減するために、ただちにかかる借り手に対する有担保貸出の担保を売却し、かかる借り手に対する無担保貸出（その種類にかかわらず）を以下のように再編することができる。

- ・ 期間の延長：貸出の種類、貸出金額合計、返済金額および返済可能性についての検討に基づき、無担保貸出の満期を10年まで、有担保貸出の満期を20年まで（3年を超えない猶予期間付）延長することができる。
- ・ 金利の調整：貸出金利を当初金利の70%または年利5%のいずれか高い方に調整することができる。ただし、当初金利が年利5%未満の場合には調整は適用されない。調整後の金利は、債務整理前プログラムの一環であるいかなる調整後の元本に対し適用され、すでに発生した利息または支払手数料に対して利息は発生しない。
- ・ 債務免除：債務整理前プログラムに基づく債務免除は(i)債務整理前プログラム申請前に発生した遅延利息ならびに(ii)プログラム申請から承認までに発生した通常利息および遅延利息に限定される。
- ・ 繰延べ：レイオフ、失業、事業閉鎖、災害または収入喪失により適格な借り手に対する有意義な支援を提供するという観点から、上記の3つの手段が不十分であるとみなされる場合、貸出の返済を最長1年繰延べることができる。ただし、債務整理前委員会はかかる繰延期間を6ヵ月ごとに、借り手の申請があれば6ヵ月未満延長することができる。繰延期間は返済期間として計算されず、繰延期間中の金利は年3%である。

2015年および2016年に当行の債務整理前プログラムに基づき改訂された貸出金合計はそれぞれ54十億ウォンおよび71十億ウォンであった。かかる改訂済み貸出金はすべて満期延長および金利引下げを適用されたが、かかる貸出のうちごくわずかについては債務免除および繰延べが適用された。

## 再編中の貸出金に係る貸出条件改訂プログラム

当行は通常、再編済み貸出金について、金利の軽減、延滞利息の免除、元本の返済期日の延長、債務の株式への転換またはこれらを組み合わせた条件緩和を与えている。かかる条件緩和の内容および程度は、とりわけ借り手の信用度、再編される貸出金の規模、当該貸出金の現行条件および関連する債権者委員会によって関連があるとみなされるその他の要因によって異なる。当行は通常、既存の貸出金を新たな複数の新規貸出金（例えば、債券A / 債券Bの仕組み）に再編することはしない。

下表は、2015年および2016年12月31日現在、当行の貸出条件改訂プログラムによって再編中の貸出金総額の内訳を、各年度末現在の貸出区分ならびに延滞 / 非延滞の状況別に示している。

## 2015年12月31日

改訂プログラム	延滞	非延滞	合計
(単位：十億ウォン)			
元本および利息について支払期限の延長	-	87	87
利息の軽減	119	368	487
株式への転換	-	-	-
追加貸出 <sup>(1)</sup>	4	19	23
その他 <sup>(2)</sup>	75	30	105
合計：	198	504	702

## 2016年12月31日

改訂プログラム	延滞	非延滞	合計
(単位：十億ウォン)			
元本および利息について支払期限の延長	-	92	92
利息の軽減	-	234	234
株式への転換	-	-	-
追加貸出 <sup>(1)</sup>	-	37	37
その他 <sup>(2)</sup>	109	44	153
合計：	109	407	516

注記：

- (1) 再編パッケージの一部として、より有利な条件で借り手に提供された追加貸出を示す。これには、中でも元金もしくは利息の支払期限の延長または利息の軽減が含まれることがある。
- (2) 主として、表示日現在再編条件が決定されていなかった再編済み貸出金からなる。貸出金は、再生手続の開始をもって、または関連する債権者委員会もしくは当行の貸出担当者が借り手は債務整理の対象となると判断した時に再編が開始されたものとみなされ、多くの場合、かかる貸出金についての再編の条件はかかる貸出金が再編の対象になるとみなされる時点においては決定されていない。

**債務の株式化**

当行は、改訂後の条件で回収可能とみなす貸出金と、いかなる条件の改訂を行っても回収不能とみなす貸出金を区別している。当行は、後者の貸出金に関しては、かかる貸出金の一部を借り手との交渉後に持分証券に転換し、以下に詳述するように当該貸出金の残存部分を償却する。そのように転換された持分証券は、入手可能であればかかる証券の時価に基づく公正価値で、時価を入手できない場合には外部評価人による当該証券の評価額で計上される。2016年に持分証券への転換により再編された当行の貸出金は21十億ウォンにのぼり、これは後に償却として処理された。

債務の株式化には、概して二つの主なメリットがある。一つは、債務の株式化によって借入額および関連する借り手の利息費用が減少し、その結果債務負担額が減少して流動性が増加し、借り手が再編から脱却して当行への債務を返済する可能性が高まる。二つ目は、借り手の再生が成功した場合には、当行は転換された持分証券の価値の値上がり益に対する権利を有する。しかしながら、これらのメリットにも拘らず、再編の一環として転換される貸出金は概ねいかなる条件の改訂を行っても回収不能とみなされることから、債務の株式化が当行の受取利息に与える影響は通常重大ではない。当行の資産分類に与える影響については、当行は概して、非再編済み貸出金および再編済み貸出金の双方に対して同じ資産分類基準を適用する。再編済み貸出金については、当行はまた、とりわけ適用可能な範囲で借り手のその事業計画に対する強い意志および自助手段の実行といった追加要因を考慮した。かかる基準を考慮し、当行は通常、債務整理の対象となる貸出金を「要注意」として分類している。当行の貸出分類の一般的な説明については、「第2 - 3 - (6) 監督および規制 - 銀行に適用される主要な規制 - 自己資本比率」を参照のこと。

**貸出条件改訂プログラムの評価**

当行は、借り手が再編済み貸出金の改訂後の条件を遵守しているかどうかを個別に監視しているものの、現在、個別の条件緩和の成果を種類別に体系的または定量的に評価（歴史的なものか、相互の関連性または

韓国の他の金融機関との関係の点からなされるものを問わない。) してはいない。これは主に以下の理由による。

一つには、再編の対象であるか対象となりそうな大企業（韓国で最も多くの再編事例を占める。）の場合、通常再編手続は当行ではなく、いくつかの大規模な債権者金融機関を含む債権者委員会によって主導され、大企業または大規模なビジネス・コングロマリットのグループ企業の場合には、再編が経済全般に波及効果をもつ可能性に鑑みて政府の指導が必要になることが多い。したがって、当行が借り手の信用情報やどのような種類の条件緩和を与えたかに基づいて個別の条件緩和の成果を評価するのに役立つデータを収集することは困難である。

第二には、韓国における再編事例は借り手が再編プログラムから比較的早期に脱却できる能力の点でみると大部分が成功しており、さらに失敗事例で特に重大なものはこれまでなかったとの当行の一般的な判断にも拘らず、これを体系的には分析できないことである。

その結果、今日まで当行は、提供された特定の条件緩和の成果を種類別に評価する目的で、体系的な分析を実施するための必要な時間と資源を費やすことが特に必要であるかまたは役立つとは考えていない。

しかしながら、当行は限られた方法で、つまり、主に借り手と債権者機関との間で合意された再編計画の契約条件を借り手がどの程度遵守しているかという点から条件緩和の成果を測定している。再編計画には通常、事業計画および借り手が実施する自力救済が含まれる。当行は、借り手による再編計画の遵守を定期的に監視し（再編計画の条件に従って年毎、半年毎および四半期毎）、(i)事業計画の実施の進展、(ii)自力救済措置の実施の進展、ならびに(iii)経済全般における主要な展開、規制環境、競争上の展望、上級役員の質および経営の透明化といったその他の数量的要素という、主に3つの属性に関して当該条件緩和の成果を評価している。当行はまた、借り手のキャッシュ・インフローおよびキャッシュ・アウトフローを注意深く監視し、債権者委員会は通常、借り手による主な支出および借入関連の意思決定に参加する権利を有している。

### 再編済み貸出金に対する未収利息計上方針

当行は、未収利息計上方針の目的上、再編済みの貸出金を主に(i)企業再生促進法に基づく債務整理の対象である貸出金、および(ii)債務者再生および破産法（韓国における総合的な破産関連法）に基づく再生手続きの対象である貸出金に分類している。上記「債務整理および再生手続中の会社に対する信用エクスポージャー」を参照されたい。債務整理対象の貸出金については、当行の一般的方針は、上記「未収の貸出および延滞貸出」に記載されるとおり、貸出にかかる元本または利息の支払が90日以上延滞した時に未収利息の計上を中止するというものである。これらの貸出金については、かかる貸出金が未収利息不計上に区分変更された日から利息は現金ベース（すなわち回収時）で認識され、かかる貸出金は延滞している元本および/または利息が全額返済されるまで、利息計上に区分変更されない。この一般的な方針は、かかる貸出金が再編済み貸出金であった場合においても、債務整理対象の貸出金にも適用される。再生手続きの対象である貸出金の場合には（例えばかかる貸出金の支払がまだ遅延していない場合でも）、当行は、借り手の返済能力に関する懸念の高まりに鑑みて、借り手が再生手続きの対象となり次第、直ちに未収利息の計上を中止する。かかる貸出金に対する利息は現金ベースで認識され、かかる貸出金は、借り手が再生手続きから脱却するまでは未収利息計上に区分変更されない。したがって、当行の未収利息計上方針に基づき、未収利息不計上の再編済み貸出金に対する支払回数は、かかる貸出金を利息計上状況に戻すかを判断する際に関連する要素とはならない。

### 再編済み貸出金の履行の判断

当行は、借り手が既存の貸出条件に基づきその義務を満足に履行したかを判断する場合、主に借り手の支払履歴、すなわち当該借り手が当行の一般的な未収利息計上方針に基づく1日以上延滞をしたかを検討する。借り手が再編後の条件に従って引き続き契約履行能力を示しているかについては、当行は主に、再編後の条件に基づく借り手の弁済能力の見込みに関する貸出担当者（または多額の貸出金残高を有する大企業の借り手の場合には債権者委員会）による評価に基づいて判断し、かかる評価では問題となっている貸出金の規模、借り手の信用プロファイル、当該貸出金の当初条件および関連する貸出担当者が関連性があるとみなすその他の要因が考慮される。問題となっている貸出金の規模や借り手の信用プロファイルといった様々な要因によって、当行または関連する債権者委員会は、場合に応じて、上述の評価を補完すべく詳細なデュー・デリジェンスを実施するために外部のコンサルタント会社を雇用する場合がある。一部の場合には、借り手は再編に対する承認を促進するよう自力救済案も提出する。かかる救済策も、再編後の条件に基づいて借り手が引き続き契約を履行する将来の能力を判断する際に、当行の貸出担当者または関連する債権者委員会（場合による）によって検討される。

## 再編済み貸出金の償却

当行は、改訂後の条件に基づいて回収可能と考える貸出金に関しては、通常かかる貸出金を改訂後の条件（例えば、元本および/または利息の返済期日を延長するか、適用利率を下回る利率を実勢市場金利を下回る利率に軽減するか、またはこれらの組み合わせによる。）に基づいて再編し、かかる貸出金のいかなる部分も償却しない。

当行は、いかなる条件の改訂にも拘らず回収不能と考える貸出金に関しては、かかる貸出金の一部について、とりわけ(i)持分証券への転換が借り手の債務負担および流動性上の懸念をどの程度軽減するか、(ii)当該貸出金が持分証券に転換されなかった場合の回収可能性と比較して当該持分証券の価値から得られる当行の潜在的なメリット、ならびに(iii)かかる転換後の持株構成に関する借り手の懸念を考慮して、かかる貸出金の一部を借り手の持分証券（通常は普通株式）に転換することを交渉する。当行は次に、持分証券に転換されなかった貸出金の残存部分を償却する。そのように転換された持分証券の価値は、入手可能であればかかる証券の市場価値に基づく公正価値により、市場価値が入手できない場合には外部評価人による当該証券の評価額により計上される。

当行は、債務整理対象貸出金については通常90日以上延滞がない限り未収利息を計上するが、再生手続きの対象貸出金については通常未収利息を計上しないことから、償却は当行が特定の再編済み貸出金の未収利息計上状況を判断する際に検討する関連要因とはならない。

当行は、すべての債務に対して契約上支払われるべき利息および元本の返済が合理的に保証されていると判断する場合には、再編済み貸出金について引き続き未収利息を計上する。かかる判断は、とりわけ、問題となっている貸出金の規模および借り手の信用の質といった様々な要素に関する当行貸出担当者または関連する債権者委員会による評価（場合により、外部のコンサルティング会社によるデュー・デリジェンスによって補われる。）に基づいて、当行が借り手の返済能力を注意深く検討した後にのみなされる。

## 潜在的不良債権

2012年、返済不能の著しい潜在性を有する貸出についてより体系的かつリアルタイムな監視を可能にするために、当行は「早期警告システム」をアップグレードした。このシステムにより、当行の経営陣は、それぞれの貸出返済条件に従った借り手の返済能力について深刻な疑いがあると当行の経営陣が考える貸出金すべてを含めて潜在的不良債権を決定することができる。

当行は潜在的不良債権を「早期警告貸出」として指定される貸出として分類し、FSSに報告する。「早期警告貸出」としての指定は、(i)当行の早期警告システムにより、当該借り手の財務データ、信用情報および/または銀行との取引に基づき信用リスクの兆候を示している特定され、かかる特定の後、(ii)当行の貸出担当者により、かかる借り手に起こりうる信用問題についての既知情報の評価に基づき潜在的不良債権として指定された借り手に対して適用される。かかる貸出は四半期ごとにFSSに報告することが義務付けられている。ある借り手のローンが上記のプロセスに従い「早期警告貸出」として指定され、当行のFSSへの四半期報告書に記載される場合、当行はこれを、かかる借り手に近い将来その返済条件に従った返済能力に深刻な疑いのある兆候とみなす。2016年12月31日現在、当行の潜在的不良債権は986十億ウォンであった。

## 引当方針

当行は、信用リスクを特定し、貸倒引当金全般を設定するために、定期的かつ系統的に貸出ポートフォリオの詳細な検討を実施している。当行の経営陣は、貸倒引当金は各財政状態計算書日現在における予想貸倒損失額の最善の見積りを反映していると考えている。

当行はまず、減損の客観的な証拠が個別に重要な貸出金および債権について個別に存在するか、または個別には重要ではない金融資産について個別にもしくは集合的に存在するかを査定する。当行が個別に評価された金融資産について減損の客観的な証拠がないと判断する場合、これが重要であってもなくても、同程度の信用リスク特性を有する金融資産の集合体にかかる資産を含め、減損について集合的に評価する。個別に減損評価される資産で、減損損失が認識されるかまたは継続して認識される資産は集合的減損評価には含まれない。

貸出金または債権といった金融資産に減損損失が発生している客観的な証拠がある場合、減損損失の金額は、資産の帳簿価額と金融資産の当初実効金利（すなわち、当初認識において計算された実効金利）で割り引いた見積将来キャッシュ・フロー（予想信用損失を除く。）の差額として測定される。

問題の金融資産が変動金利の貸出金または債権である場合、減損損失を評価するために用いられる割引率は関連する取引契約において定義された現行実効金利である。担保付金融資産の見積将来キャッシュ・フローの現在価値は、かかる担保の実現可能性にかかわらず、担保を取得し売却する費用を控除した後の担保からのキャッシュ・フローを含めて計算される。

集合的な減損を評価する際、当行は、資産の種類、業種、所在地、担保の種類、延滞およびその他関連要因を考慮した信用リスク評価または信用格付評価プロセスに基づき金融資産を格付けし、分類する。

集合的減損評価に適用される金融資産の将来キャッシュ・フローは、債務不履行の可能性の実績における歴史的傾向、回収時期および発生した損失額についての統計的モデリングを用いて見積もられ、現在の経済および信用情勢のために歴史的モデリングで示唆される金額を減損損失が上回る可能性と下回る可能性とのどちらが高いかについての経営陣の判断により調整される。歴史的モデリングに基づき将来キャッシュ・フローを調整する場合、当行はかかる調整が観測可能データの変動および傾向に一致することを確保しなければならない。将来キャッシュ・フローを見積るために用いられる方法および仮定は、減損見積りと実際の損失との乖離を小さくするために定期的に見直される。「第3 - 7 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 - 重要な会計方針 - 金融資産の減損 - 貸出金および債権」を参照されたい。

## 法人向け貸出

当行は、正式な審査を通じ、法人向け貸出の減損の可能性について毎年見直している。さらに、当行の貸出担当役員は、減損事由が生じたことが示された場合には、当該債権の減損の有無を年度を通して検討する。

韓国IFRSの下では、資産の当初認識後に減損事由が生じたことが客観的な証拠により示された場合で、かつ、かかる減損事由が資産の見積り将来キャッシュ・フローにマイナスの影響を及ぼし、これが信頼性をもって見積られる場合に、貸出が減損する。当行はとりわけ、下記の貸出を減損していると考えている。

- ・元本または利息が90日間以上延滞している貸出
- ・債務不履行により除去、償却、債務再編（再生手続および債務整理を含む）または破産の対象となる貸出
- ・過去の延滞、保証の履行または代位弁済の事実を示す信用履歴を有する顧客に対する貸出
- ・個人小切手、法人小切手または約束手形の決済停止命令により最終的に支払不能となった顧客に対する貸出

法人向け貸出の貸倒引当金は、特定の貸出が減損したか否かに基づき設定される。貸出残高の比較的少ない法人向け貸出は、集散的に管理されるため、減損評価も集散的に行われる。

### - 検討のために個別に特定され、減損とみなされた貸出金

行内信用リスク監視方針に従い、当行は貸出残高の比較的大きい減損貸出（通常三十億ウォン超）について個別に減損評価する。これらの貸出金の貸倒引当金は通常、当行が受取ることが見込まれる見積り将来キャッシュ・フロー（元本および利息の双方）を貸出の実効金利で割り引くことにより設定される。当行は、見込まれる将来キャッシュ・フローの最善の見積りを決定するにあたり、起こりうるすべての可能性を考慮している。当行経営陣は個別の貸出担当者と密接に協議し、これらの見積りが有効であることを確保するために、用いられるキャッシュ・フロー想定を検討する。

当行は、貸出金の割引キャッシュ・フローがその帳簿価額よりも低い場合に法人向け貸出の減損引当金を設定する。引当金は、かかる貸出金の割引キャッシュ・フローの金額と帳簿価額との差額と同額である。

当行はまた、貸出金の観測可能な市場価格を参考に減損を測定することができるが、この情報は韓国においては一般に入手できない。

### - 集散的に減損評価される貸出金

当行はまた、貸出残高の比較的少ない法人向けの減損貸出（通常三十億ウォン以下）について引当金を設定する。これらの貸出金を個別に分析することは現実的でないため、当行はこれらをポートフォリオに基づき管理しており、その減損を集散的に評価する。かかる貸出金の引当金は、ポートフォリオの過去の実績、貸倒損失履歴および償却情報を考慮した損失要素に基づき決定される。

当行は、割引キャッシュ・フロー（以下「DCF」という。）・モデルに基づき、検証期間が1年より長い統計ツールを使用して損失要因を特定している。比較的金額の少ない減損した法人向け貸出金については、当行は集散的DCFモデルを用いている。集散的DCFモデルに基づき、当該貸出金のキャッシュ・フロー予測は各借手について個別に計算されず、類似の特性（例えば、個人向けか法人向けか、有担保か無担保かなど）を共有する貸出金の集合として集散的に計算されるが、それ以外については、当行が予測キャッシュ・フローを現在価値で割り引く場合、当行は各借手の減損前の実効金利を適用する。

### - 減損として特別に特定されない貸出金

当行は、減損していない法人向け貸出について減損が特段まだ特定されていないポートフォリオ内で発生した損失を反映して集散的に引当金を設定している。当行は、バーゼルIIの枠組みに基づき、リスク格付によるデフォルト率およびデフォルト時損失率といった測定可能な長期リスクファクターに基づく移動分析にかかる歴史的損失率を計算するために、バーゼルIIに基づく先進内部格付手法（AIRB）として知られているデフォルト率（PD）/デフォルト時損失率（LGD）手法を使用している。

デフォルト率に基づく貸出のグループ分けでは、法人向け貸出は、関連する信用評価モデルにより付与された信用格付に基づき異なるリスク・クラスに分類され、個人向け貸出は、貸出の種別、満期構成および延滞期間に基づき異なるリスク・クラスに分類される。

デフォルト時損失率に基づく貸出のグループ分けでは、担保付貸出は、対象となる担保の種類、担保の所在地およびローン資産価値比率に基づき別々のリスク・クラスに分類され、無担保貸出は、貸出の種別に基づき異なるリスク・クラスに分類される。

## 個人向け貸出

当行は、下記の個人向け貸出を個別減損評価により減損していると考えている。

- ・元本または利息が90日間以上延滞している貸出
- ・債務不履行により、除去、償却、債務再編（再生手続および債務整理を含む）または破産の対象となる貸出
- ・過去の延滞、保証の履行または代位弁済の事実を示す信用履歴を有する顧客に対する貸出
- ・個人小切手、法人小切手または約束手形の決済停止命令により最終的に支払不能となった顧客に対する貸出

すべての個人向け貸出のデフォルト率およびデフォルト時損失率を決定するために、個人向け貸出には異なるグループ分けが用いられること、および個人所得や資産といった個人情報入手することは難しいため、その金額にかかわらず集散的に（個別ではなく）査定されることを除き、個人向け貸出の引当方針は法人向け貸出の引当方針と類似している。

個人向け貸出の貸倒について、当行はポートフォリオの過去の実績、過去の貸倒損失履歴および不動産により担保された貸出については過去9年間、無担保およびその他の有担保貸出については過去4年間にわたる償却情報を考慮した損失要素に基づき引当金を設定する。

当行はさらに、当行の履歴分析によって適切に把握できなかった損失認識に影響を与える可能性のある要素に基づき損失要素を調整する。これらの要素には下記が含まれる。

- ・失業率および住宅価格の水準といった経済状況ならびに事業状況の変化
- ・与信の集中を含むポートフォリオの特性および金額の変化
- ・規制上のまたは政府による要件といった外部要素

## 貸出金の経過期間表

下表は、表示日現在におけるすべての貸出に関する当行の貸出金の経過期間表（未収利息を除く。）を示している。

12月31日現在	非延滞		3ヵ月以下の延滞		3ヵ月-6ヵ月の延滞		6ヵ月超の延滞		合計
	金額	%	金額	%	金額	%	金額	%	金額
（単位：十億ウォン、%を除く）									
2015年	209,576	99.44	494	0.23	322	0.15	387	0.18	210,779
2016年	219,399	99.49	573	0.26	156	0.07	390	0.18	220,518

## 不良債権

不良債権は、90日以上支払期限を経過した貸出金として定義される。下表は、表示日現在における当行の不良債権ポートフォリオ合計およびその貸出金合計に占める割合を示している。

	12月31日現在	
	2015年	2016年
	(単位：十億ウォン、%を除く)	
不良債権合計額	709	546
貸出金合計額に占める割合	0.34%	0.25%

## 不良債権の分析

下表は、表示日現在における当行の不良債権合計を借り手の種類別に示している。

	12月31日現在					
	2015年			2016年		
	貸出金合計	不良債権 <sup>(1)</sup>	不良債権比率	貸出金合計	不良債権 <sup>(1)</sup>	不良債権比率
	(単位：十億ウォン、%を除く。)					
法人	120,353	561	0.47%	123,212	389	0.32%
個人	90,426	148	0.16	97,306	157	0.16
合計	210,779	709	0.34%	220,518	546	0.25%

注記：

(1) 6ヵ月を超えて支払遅延している無担保貸出を含む。

## 業種別不良債権

下表は2016年12月31日現在の当行の法人向け不良債権の業種別内訳を示している。

業種	法人向け不良債権 残高総額	法人向け不良債権 残高総額に占める割合
	(単位：十億ウォン)	(%)
不動産、リースおよびサービス	98	25.19%
建設	49	12.60
製造	133	34.19
小売および卸売	36	9.25
金融業および保険	-	0.00
輸送、倉庫および通信	13	3.34
ホテルおよびレジャー	8	2.06
その他のサービス <sup>(1)</sup>	38	9.77
その他 <sup>(2)</sup>	14	3.60
合計	389	100.00%

注記：

(1) 出版、マスコミおよび教育といったその他サービスを含む。

(2) 農業、林業、鉱業、電気およびガスといったその他産業を含む。

**不良債権上位20件**

2016年12月31日現在における当行の不良債権上位20件は、当行の不良債権合計の44.3%を占めていた。下表は、表示日現在における当行の不良債権の上位20件に関する一定の情報を示している。

			2016年12月31日現在	
業種			元本残高総額	貸倒引当金
			(単位：十億ウォン)	
1	借り手A	不動産、リースおよびサービス	31	-
2	借り手B	不動産、リースおよびサービス	30	24
3	借り手C	その他サービス	29	-
4	借り手D	不動産、リースおよびサービス	23	-
5	借り手E	建設	18	2
6	借り手F	製造	16	-
7	借り手G	建設	15	15
8	借り手H	不動産、リースおよびサービス	13	11
9	借り手I	製造	10	10
10	借り手J	建設	10	-
11	借り手K	製造	7	-
12	借り手L	製造	7	2
13	借り手M	製造	6	3
14	借り手N	製造	5	1
15	借り手O	輸送、倉庫および通信	4	2
16	借り手P	製造	4	4
17	借り手Q	製造	4	3
18	借り手R	製造	4	1
19	借り手S	製造	3	-
20	借り手T	製造	3	-
			242	78

**不良債権対処戦略**

当行の主な目的の一つは、当行の貸出金の不良債権化を防ぐことである。当行の貸出担当者が、借り手の信用格付に依拠して信用リスクの高い借り手に新規貸出金を付与することを防止するよう設計された当行の企業信用格付システムを通じて、当行は将来の不良債権に関連するリスクの軽減に努めている。また、当行の早期警告システムは、借り手の信用リスクの急激な上昇があれば貸出担当者に注意を喚起するよう設計されており、その後同担当者はかかる貸出金を注意深く監視する。

こうした予防的な仕組みにも拘らず貸出金が不良債権化した場合には、不良債権の監視に責任を負う支店レベルの担当者が当該借り手の資産に関するデュー・デリジェンスを開始し、支払要請通知または当行が法的措置を取るかもしくは法的措置の準備にかかる旨の通知を送付する。

これと同時に、当行は以下を含む不良債権管理プロセスにも着手する。

- ・ 売却予定の対象となる貸出金を、かかる不良債権の担保（もしあれば）の見積り回収価値に基づいて、当該売却による見積損失を評価することで特定する。
- ・ 不良債権の担保（もしあれば）の見積り回収価値および無担保貸出金の予想回収率に基づいて、償却対象となる貸出金を特定する。
- ・ 限定的な範囲で、借り手のキャッシュ・フローの状況に基づいて、正常化への取組みの対象となる商業貸出金を特定する。

不良債権の詳細が特定されると、当行は回収のために早期解決を図る。実際の不良債権回収への取組みは、とりわけかかる貸出金の内容および借り手に応じて関連部門が担当する。

担当部署および部門の担当者または代理人は、不良債権を解決するために以下を含む様々な手法を使用する。

- ・返済を要求するために借り手への電話や訪問を行うこと
- ・当行の借り手の資産を継続的に査定および評価すること
- ・必要に応じて、担保権の執行、差押えおよび訴訟といった法的措置に着手すること

担保権の執行および訴訟の対象となる貸出金の迅速な回収を促すために、これらの貸出金の担当支店は、当該貸出金を本社の関連部門に移管することができる。

当行は、約束手形の場合は支払不履行から1ヵ月以内に、その他の貸出金の場合は支払遅延から4ヵ月以内に法的手続を開始する方針である。支払不能であるかまたは破産した借り手に対する貸出金について、または通常の手続による回収が不可能であると当行が判断したときは、当行は猶予期間に拘らず迅速な法的措置を取る。

当行は、こうした不良債権の回収への取組みの他に、以下を含む不良債権の水準を低下させるための措置を講じている。

- ・韓国資産管理公社を含む第三者に不良債権を売却すること
- ・不良債権に関して資産証券化取引を実行すること
- ・代理契約に基づき新韓信用情報を通じて3ヵ月以上延滞している個人向け貸出を管理すること
- ・信用情報会社を含む第三者の回収機関を利用すること

2016年、当行は不良債権74十億ウォン（不動産プロジェクト・ファイナンス会社であるエーオン・リアル・エステートLLCに譲渡された31十億ウォンを含む。）を第三者に売却した。第三者に譲渡された債権は通常真正売却の基準を充たしているため、認識中止される。

下表は当行の2016年における不良債権のロールフォワードを示している。

（単位：十億ウォン）

2015年12月31日現在の不良債権	709
延滞による不良債権の増加	139
売却された債権	(74)
償却された債権	(172)
貸出条件の改訂により非延滞となった債権	-
その他調整 <sup>(1)</sup>	(56)
2016年12月31日現在の不良債権	546

注記：

(1) 返済された貸出金および貸出条件改訂によることなく非延滞に戻った貸付金を表している。当行は、売却された不良債権、償却された不良債権および貸出条件が改訂されたことにより非延滞となった不良債権を除く不良債権または売却可能投資ポートフォリオに振替えられた不良債権を個別に回収および分析していない。

## 貸倒引当金の配分

下表は、表示日現在における当行の貸倒引当金の配分を種類別に示している。

	12月31日現在			
	2015年		2016年	
	引当額	引当金合計に 対する割合	引当額	引当金合計に 対する割合
	(単位：十億ウォン、%を除く)			
法人向け	1,223	83.1%	1,201	82.5%
個人向け	248	16.9	255	17.5
貸倒引当金合計	1,471	100.00%	1,456	100.00%

当行の貸倒引当金合計は、2015年12月31日現在の1,471十億ウォンから15十億ウォン(1.0%)減少して2016年12月31日現在には1,456十億ウォンとなった。これは主に、不良債権の償却が増加したことにより当行の法人向け貸出の資産の質が改善したことによるものである。

## 貸倒引当金の分析

下表は、各表示期間における当行の貸倒損失の実績の分析を示している。

	12月31日終了年度	
	2015年	2016年
	(単位：十億ウォン、%を除く)	
期首残高	1,580	1,471
引当金繰入額	606	670
償却総額：		
法人	(563)	(667)
個人	(116)	(120)
償却総額合計	(679)	(787)
回収額：		
法人	72	115
個人	24	32
回収額合計	96	147
正味償却額	(583)	(640)
譲渡貸出金関連引当金	(61)	(41)
その他	(71)	(4)
期末残高	1,471	1,456
正味償却額の平均貸出金残高に対する比率	0.36%	0.30%

## 貸出金の償却

当行の償却総額は、2015年度の679十億ウォンから2016年度の787十億ウォンへと15.9%増加したが、これは主に、当行がFSSの承認を得ずに償却できる各貸出金の金額が増加したためである。

2016年、再編された貸出金の償却額は116十億ウォンとなり、このうち21十億ウォンは再編の一環として持分証券に転換された貸出金に関するものであった。貸出条件の改訂にもかかわらず当行が回収不能とみなした債権については、当行は借り手との交渉を経てかかる債権の一部を持分証券に転換し、かかる債権の残りを上記「再編中の貸出金に係る貸出条件改訂プログラム - 再編済み貸出金の償却」において記載したとおり償却する。転換された持分証券は、かかる有価証券の市場価格が入手可能であればこれに基づき、市場価格が入手不可能であれば外部鑑定士によるかかる有価証券の評価額に基づき、公正価値で計上される。

## 基本方針

当行は、貸出供与前の信用リスク分析に基づいた堅実な与信承認プロセスを実施し、貸出金残高を体系的に管理することによって貸出金の償却を最小限に留めるよう努めている。

## 償却対象の貸出金

貸出金は、以下の区分のいずれかに該当し、回収不能とみなされた場合には、償却される。

- ・ 支払不能もしくは破産、解散または債務者の事業の終了によって、その回収を予見することができない貸出金
- ・ 債務者の死亡または行方不明によりその回収を予見することができない貸出金
- ・ 回収費用が回収可能額を上回る貸出金
- ・ 法的手段またはその他の手段を通じて回収することができない貸出金
- ・ 6ヵ月を超えて延滞している無担保の個人向け貸出に対する未返済残高
- ・ 12ヵ月を超えて延滞しているリースに関して延滞している支払額
- ・ 「推定損失」に分類され、回収不能とみなされる貸出金の部分（担保からの回収額があればこれを除く。）
- ・ FSSにより償却が義務付けられている国内貸出金、または当行の外国子会社もしくは支店が保有する貸出金で関連監督官庁により償却もしくは特別な引当金の積立てが義務付けられている貸出。

## 償却のタイムライン

償却される貸出金は、回収が不可能とみなされた月から1年以内に償却されなければならない。かかる貸出金が1年以内に償却されない場合、その遅延理由を当行の監査部に報告しなければならない。

## 償却の承認手続

当行の貸出金を償却するための申請は、関連する支店または部署により信用回収部へ提出される。信用回収部は、償却のための当行の行内手続を確実に遵守するために、かかる申請を監査部に照会する。信用回収部はかかる申請が関連要件を充たしていることを確認するために見直した後、FSSに償却の承認を求めるが、通常は承認される。FSSの承認（10百万ウォン以下の推定損失とされる家計向け貸出を除く償却は自動的にFSSに承認されると考えられている。）を得ると、当行銀行長の承認を経て償却が行われる。

## 償却された貸出金の取扱い

貸出金が償却されると、これらは当行の財政状態計算書上での認識が中止され、償却された貸出金として分類される。当行は、第三者回収機関を通じて、引き続きこれらの貸出金の回収に努める。信用回収部の部長は報告期間ごとに償却されたか回収された貸出金額をFSSに永久に報告しなければならない。

## 担保の取扱い

当行が、不動産を担保とする貸出金を通常の回収チャンネルを通じて回収することができないと判断した場合、当行は通常、債務不履行および支払不能が生じてから1ヵ月以内、支払遅延から4ヵ月以内に裁判所に担保権の実行を申し立て、裁判所監督による競売を通じて当該担保を売却する。ただし、かかる手続は、当該競売手続についての制限がある再編、再生手続、債務整理またはその他の裁判所手続中の会社には適用されない。かかる申立てを裁判所に対して行くと、通常、債務者は延滞している貸出金の返済を促される。債務者が最終的に返済できず、裁判所が担保権実行を承認した場合、当行は当該担保を売却し、売却額（競売によって生じた費用控除後）を上限として元本および未払利息を回収する。韓国の法令に基づく担保権実行手続は、担保の内容によって、開始から回収まで通常7ヵ月から1年間を要する。

## 財務書類の表示

当行の財務書類は、12ヵ月を超えて延滞しているすべての個人向け無担保貸出金を償却として報告している。リースは12ヵ月を超えて延滞すると償却される。有担保貸出金については、当行は対象となる貸出金の簿価が、担保権執行手続の一環としてその担保の売却により受領されたかまたは受領される金額を超過する金額を償却し、その売却価格はかかる手続の一環として裁判所公報を通じて認識される。

## 与信の種類

下表は、表示日現在におけるFSS規則に基づいてFSSに報告された当行の個別ベースの信用ポートフォリオの主な内訳を示しており、これらは概ね、以下のものにより構成されている。

- ・ 割引現在価値控除後の、および一定の項目（主として銀行間預け金、コールローンおよび売戻条件付買入有価証券）を除く貸出金
- ・ 確認保証および引受手形（オフ・バランスシート項目）および当行の信託勘定からの貸出金で、当行がその元本および/または利息を保証するもの
- ・ 一定のその他の項目（主に投資銀行与信および未決済受取債権）

12月31日現在

	2015年	2016年
(単位：十億ウォン)		
ウォン建て貸出金	176,078	183,748
外貨建て貸出金	8,378	8,598
外貨建て買入手形	5,893	6,185
私募債	337	249
投資銀行業務貸出金	270	389
信託勘定貸出金	454	472
ファクタリング債権	137	110
保証および引受手形に基づく前渡金	11	17
貸出金合計 <sup>(1)</sup>	191,558	199,768
その他の与信：		
保証および手形引受	10,444	9,646
与信としての未決済受取債権	2	2
与信合計	202,004	209,416

注記：

(1) FSCに報告する与信合計額を計算する目的上、貸出金合計額は割引現在価値控除後の値で示されており、一定の貸出金項目（銀行間預け金、コールローンおよび売戻契約付買入有価証券からなる。）は貸出金合計額から除外されている。

### 固定以下の与信

固定以下の与信はFSCの資産分類基準に基づき固定以下と分類される与信として定義される。上記「引当方針」を参照されたい。

下表は、表示日現在における、FSCに報告された固定以下の与信を含む当行の与信にかかる資産の質についての一定の詳細（割引現在価値控除後）を個別ベースで示している。

12月31日現在

	2015年	2016年
	(単位：十億ウォン、%を除く)	
与信：		
正常	199,534	206,893
要注意	855	1,154
固定	850	688
回収疑問	453	262
推定損失	312	419
与信合計	202,004	209,416
固定以下の与信合計	1,615	1,369
要注意および固定以下の与信	2,470	2,523
与信損失引当金 <sup>(1)(2)</sup>	2,793	2,793
与信合計に対する固定以下の与信の割合	0.80%	0.65%
与信合計に対する要注意および固定以下の与信の割合	1.22%	1.21%
固定以下の与信に対する与信損失引当金の割合	172.94%	204.02%
与信合計に対する与信損失引当金の割合	1.38%	1.33%

注記：

(1) 与信損失引当金は、貸倒引当金、未決済受取債権引当金、引受手形および保証引当金ならびに銀行業務の監督に関する規則第29条に従った規制上の貸倒損失準備金からなる。

(2) 信用コミットメントについては、信用コミットメント引当金および規制上の貸倒損失準備金を除く。

## 信託勘定

韓国の法のもとでは、当行が信託勘定に受け入れた資産は当行の他の資産とは分離され、預金者または当行のその他の債権者による債権を弁済するために使用することはできない。したがって、当行の信託資産および負債（元本（または元本および金利の双方）を保証されているものを除く。）は、当行の銀行勘定とは分離して計上および報告される。

下表は、表示日現在における当行の信託勘定の資産および負債を示している。

	12月31日現在	
	2015年	2016年
	(単位：十億ウォン)	
資産：		
貸出金	454	472
有価証券	7,688	10,885
銀行勘定貸出金	2,434	2,698
その他 <sup>(1)</sup>	26,730	31,004
受取債権評価引当金	(2)	(1)
資産合計	37,304	45,058
負債：		
金銭信託	24,093	29,476
財産信託	12,405	14,707
特別準備金	96	101
その他	710	774
負債合計	37,304	45,058

注記：

(1)主に財産信託に基づいて受託した不動産資産を含む。

当行は、信託勘定の資産および負債の限られた額について元本および/または利息に対して保証を付与している。2016年12月31日現在、当行が固定利率を保証する固定利率保証付信託は、当行の信託勘定の金銭信託合計額の0.003%を占めていた。2016年12月31日現在、元本または利息について保証が付された金銭信託の合計額は、3,842十億ウォンであり、当行の金銭信託合計額の13.0%を占めていた。

当行が元本または元本および利息の双方に保証を付与している金銭信託は韓国IFRSに基づき連結されている。下表は、当行が元本または元本および利息の双方に保証を付与している金銭信託の資産および負債ならびにかかる資産の当行の信託資産合計に占める割合を示している。

	12月31日現在	
	2015年	2016年
	(単位：十億ウォン、%を除く)	
資産	4,092	4,315
負債	4,092	4,315
信託資産合計に占める比率	10.97%	9.58%

## 投資ポートフォリオ

当行は、以下を目的として、ウォン建て有価証券ならびにこれより程度は低いものの外貨建て有価証券への投資および売買を自己勘定で行っている。

- ・当行の資産の安定性および分散性を維持すること。
- ・当行の資金需要に見合った、適切なバックアップの流動性の資源を維持すること。
- ・当行の中核となる貸出業務からの収入を補完すること。

特定の有価証券についての投資決定を行う場合、当行はとりわけ、マクロ経済の動向、産業分析および信用評価を考慮する。

当行の有価証券投資業務は、銀行法のもとで定められた制限を含むいくつかの規制上のガイドラインに従う。これらの規制に基づき、当行は株式および満期までの期間が3年を超える有価証券（韓国銀行が発行する金融安定化債券および国債を除く。）に対する投資を、当行のTier I資本およびTier II資本合計（資本項目控除後）の100.0%に制限しなければならない。通常、当行は他社が発行した議決権付株式の15.0%超を保有することも禁じられている（子会社の設立または取得を目的とする場合を除く。）。当行の投資活動を規定する規制環境に関する情報の詳細は、「第2 - 3 - (6) 監督および規制 - 銀行に適用される主要な規制 - 他企業の株式保有に関する規制」を参照されたい。

## 簿価および市場価値

下表は、表示日現在における当行の投資ポートフォリオにおける金融投資の簿価および市場価値を示している。

12月31日現在

2015年		2016年	
簿価	市場価値	簿価	市場価値

(単位：十億ウォン)

**売却可能金融資産：**

持分証券	2,434	2,434	2,534	2,534
債務証券：				
国債	2,885	2,885	3,601	3,601
金融機関債券	12,974	12,974	15,048	15,048
社債	6,145	6,145	6,619	6,619
その他	23	23	13	13
小計	22,027	22,027	25,281	25,281
合計-売却可能	24,461	24,461	27,815	27,815

**満期保有目的金融資産：**

債務証券：				
国債	5,732	6,007	6,826	7,003
金融機関債券	525	534	891	896
社債	3,848	3,918	3,913	3,940
合計-満期保有目的	10,105	10,459	11,630	11,839

**売買目的資産：**

持分証券	810	810	1,793	1,793
債務証券：				
国債	1,099	1,099	1,041	1,041
金融機関債券	1,792	1,792	2,068	2,068
社債	1,285	1,285	1,291	1,291
買入れ手形	2,330	2,330	3,017	3,017
CMA	1,572	1,572	1,793	1,793
その他	20	20	20	20
小計	8,908	8,908	11,023	11,023
金 / 銀預け金	149	149	248	248
合計-売買資産	9,057	9,057	11,271	11,271
有価証券合計	43,623	43,977	50,716	50,925

## 満期分析

下表は、2016年12月31日現在における当行の有価証券を満期別に分類したものである。

2016年12月31日現在										
1年 以下		1年超 5年以下		5年超 10年以下		10年超		合計		
加重平均 簿価 利回り <sup>(1)</sup>		加重平均 簿価 利回り <sup>(1)</sup>		加重平均 簿価 利回り <sup>(1)</sup>		加重平均 簿価 利回り <sup>(1)</sup>		加重平均 簿価 利回り <sup>(1)</sup>		
(単位：十億ウォン、%を除く)										
<b>売買目的資産：</b>										
国債	58	1.89%	669	2.69%	314	1.95%	-	-%	1,041	2.43%
金融機関債券	931	1.81	1,068	1.72	12	2.32	57	2.16	2,068	1.77
社債	1,291	1.64	-	-	-	-	-	-	1,291	1.64
買入手形	3,017	1.85	-	-	-	-	-	-	3,017	1.85
CMA	586	1.88	1,137	2.02	70	2.08	-	-	1,793	1.98
その他	20	-	-	-	-	-	-	-	20	-
合計	5,903	1.79%	2,874	2.07%	396	1.99%	57	2.16%	9,230	1.89%
<b>売却可能金融資産：</b>										
国債	668	1.76%	2,364	1.95%	461	3.82%	108	5.14%	3,601	2.25%
金融機関債券	7,777	1.62	7,111	1.74	160	4.65	-	-	15,048	1.71
社債	2,107	1.91	4,468	1.89	44	1.96	-	-	6,619	1.90
その他	13	-	-	-	-	-	-	-	13	-
合計	10,565	1.69%	13,943	1.83%	665	3.89%	108	5.14%	25,281	1.84%
<b>満期保有目的金融資産：</b>										
国債	710	5.40%	5,687	2.80%	318	3.58%	111	7.60%	6,826	3.18%
金融機関債券	318	3.75	517	1.83	51	4.51	5	7.95	891	2.71
社債	537	3.03	2,249	2.11	1,089	2.54	38	2.90	3,913	2.37
合計	1,565	4.25%	8,453	2.56%	1,458	2.83%	154	6.46%	11,630	2.87%
債務証券合計	18,033	1.94%	25,270	2.10%	2,519	2.98%	319	5.25%	46,141	2.11%

注記：

(1) ポートフォリオの加重平均利回りは、それぞれの有価証券の満期までの償却原価を用いた加重平均利回りである。

## リスクの集中

下表は、2016年12月31日現在の当行が保有する簿価合計額が同日現在における当行の資本の10%を上回る有価証券を示しており、その額は2,147十億ウォンであった。

	2016年12月31日現在	
	簿価	市場価値
	(単位：十億ウォン)	
発行体名：		
韓国政府	9,229	9,398
韓国銀行	5,933	5,932
韓国住宅金融公社	4,376	4,401
韓国産業銀行	3,383	3,386
合計	22,921	23,117

上記の事業体（政府を除く。）はすべて政府機関または政府が支配する事業体である。

## 与信関連の約定および保証

当行は、その通常の業務の過程において、顧客の資金調達およびその他の事業上の需要を満たすために様々な約定および保証を行っている。約定および保証は通常、とりわけ与信供与の約定、商業信用状、スタンドバイ信用状および履行保証の形式をとる。これらの金融商品の契約上の金額は、相手方が当該約定の実行を請求し、または当行が保証に基づくその義務を履行すべきときに相手方が契約に基づく履行を行わない場合に最大予想損失額を示す。

下表は、表示日現在における当行の与信関連の約定および保証を示している。

	12月31日現在	
	2015年	2016年
	(単位：十億ウォン)	
与信供与約定	74,919	73,935
商業信用状 <sup>(1)</sup>	2,372	2,774
その他	22,293	21,796
合計	99,584	98,505

注記：

(1) 金融保証、履行保証、特別目的事業体に対する流動性ファシリティ、受取手形、信託勘定にかかる保証および裏書手形からなる。

当行は、財政状態計算書に反映されない与信関連の約定を有しており、これは主に与信供与の約定および商業信用状からなっている。与信限度額を含む与信供与の約定は、貸出金の形による与信の承認の未実行部分を示す。これらの約定は所定の日に失効し、顧客は事前に定められた条件に従って約定に基づく資金を引き出すことを要求される。

商業信用状は、顧客に代わって、特定の契約条件に基づいて所定の金額を上限として資金を引き出すことを第三者に承認する約束である。これらは通常短期であり、関連する商品の裏付となる船荷によって担保されている。

当行はまた、当行の財政状態計算書に開始時の公正価値で計上され、保証の期間にわたり償却される保証を有している。かかる保証は通常、スタンドバイ信用状、その他の財務および履行保証ならびに特別目的事業体に対する流動性ファシリティを含む。

スタンバイ信用状は、当行の顧客が貸出金または債務商品を返済しなかった場合に、第三者の受益者に対する支払いを行う取消不能の義務であり、通常外貨建てである。これらのスタンバイ信用状の大部分は、取引関連文書を含む担保物件によって担保されている。

その他の財務および履行保証は、顧客が一部の契約に基づく履行をしなかった場合に、当行が受益者に支払いを行うという取消不能の保証である。特別目的事業体に対する流動性ファシリティは、現金不足などのきっかけとなる事由が生じた場合に、当行の顧客が設定した緊急時流動性と信枠を特別目的事業体に提供するという取消不能の約定である。

当該約定および保証は、未使用のまま期間が終了することが多いため、必ずしも当行のエクスポージャーを表わすものではない。

## デリバティブ

上記「第2 - 3 - (1) 事業 - 事業の概観 - 当行の主要業務 - その他銀行業務 - デリバティブ取引」に記載される通り、当行は、顧客がリスクをヘッジできるよう、主に顧客の代理としてデリバティブ取引業務を行っており、また、かかる取引から生じるリスク・エクスポージャーをヘッジするために他の金融機関とバック・トゥー・バックのデリバティブも締結している。当行はさらに、自身の資産および負債に起因するリスク・エクスポージャーをヘッジするためにデリバティブ取引を行っている。このうちのいくつかは、ヘッジ会計の適用要件を満たさない非売買デリバティブである。

下表は、2015年および2016年12月31日現在において当行が(i)売買目的および(ii)ヘッジ会計に適格であり非売買目的で保有または発行していたデリバティブの想定元本総額または契約金額を示している。

## 12月31日現在

	2015年			2016年		
	原想定 元本 <sup>(1)</sup>	見積公正 価値資産	見積公正 価値負債	原想定 元本 <sup>(1)</sup>	見積公正 価値資産	見積公正 価値負債
(単位：十億ウォン)						
<b>売買：</b>						
外国為替デリバティブ：						
先物および先渡し契約	48,468	731	505	82,626	1,581	1,416
スワップ	19,385	396	534	27,268	705	754
オプション	2,420	18	11	1,206	12	10
小計	70,273	1,145	1,050	111,100	2,298	2,180
金利デリバティブ：						
先物および先渡し契約	601	-	-	347	-	-
スワップ	52,897	403	373	54,170	250	247
オプション	1,216	10	12	750	7	5
小計	54,714	413	385	55,267	257	252
株式デリバティブ：						
スワップ	14	-	-	7	-	-
オプション	398	4	3	563	3	4
先物契約	18	-	-	2	-	-
小計	430	4	3	572	3	4
商品デリバティブ：						
スワップおよび先渡し契約	259	-	9	193	1	13
オプション	-	-	-	1	-	-
小計	259	-	9	194	1	13
合計	125,676	1,562	1,447	167,133	2,559	2,449
<b>非売買：</b>						
金利デリバティブ：						
スワップ	6,875	53	123	7,491	15	334
外国為替デリバティブ：						
先物および先渡し契約	234	2	3	242	6	3
合計	7,109	55	126	7,733	21	337

注記：

(1)外貨建ての想定元本は、2015年および2016年12月31日現在の実勢為替レートにてウォンに換算されている。

**資金調達**

当行は、その銀行業務のために、国内外の様々な原資から資金を調達している。当行の主な資金調達源は、銀行業務から得る顧客預金である。また、当行はコールマネー、中央銀行借入金、その他の短期借入金、社債およびその他の長期債務（債務証券および持分証券の発行を含む。）、資産担保証券ならびにレポ取引を通じて、顧客預金を通じた資金調達を補うために、または必要に応じてこれに代えるために資金を取得している。「第3 - 7 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 - 流動性および資金源」を参照されたい。

**預金**

当行の銀行預金の大半は短期のものであるが、当行の預金者の大半はこれまで満期時に預金を預け替え、当行の銀行業務に安定的な資金源を供給してきた。

下表は、表示期間における、当行の預金残高および当行の預金について支払われた平均金利を示している。

	12月31日に終了した年度			
	2015年		2016年	
	平均残高 <sup>(1)</sup>	平均金利	平均残高 <sup>(1)</sup>	平均金利
	(単位：十億ウォン、%を除く)			
有利子預金：				
要求払預金	24,466	0.43%	29,170	0.36%
定期および貯蓄預金	166,217	1.59	183,026	1.28
その他の預金	3,432	1.19	4,501	1.44
有利子預金合計	194,115	1.44%	216,697	1.16%

注記：

(1) 平均日次残高に基づく。

個人向け預金商品の内訳は、「第2 - 3 - (1)事業 - 事業の概観 - 当行の主要業務 - 預金受入業務」を参照されたい。その他、売却された手形は短期借入金に計上されており、買戻し契約に基づき売却された有価証券は担保付借入金として計上されている。

#### 譲渡性預金証書およびその他の定期預金

下表は、2016年12月31日現在の100百万ウォン以上の期日の定まっている譲渡性預金証書およびその他定期預金の残高ならびに満期までの期間を示している。

	2016年12月31日現在		
	譲渡性預金証書	その他定期預金	合計
	(単位：十億ウォン)		
3ヵ月以内	2,091	35,007	37,098
3ヵ月超6ヵ月以内	971	24,693	25,664
6ヵ月超12ヵ月以内	1,215	32,158	33,373
12ヵ月超	119	3,985	4,104
合計	4,396	95,843	100,239

当行の海外支店で発行された譲渡性預金証書およびその他の定期預金の大半の金額は100,000米ドル以上である。

#### 短期借入金

下表は、表示期間における、当行の短期借入金（当初満期が1年以内のもの）に関する情報を示している。

2015年

	残高	平均残高 <sup>(1)</sup>	月末における最高残高	加重平均金利 <sup>(2)</sup>	年度末金利
(単位：十億ウォン、%を除く)					
韓国銀行からの借入金 (3)	2,035	1,689	2,069	0.66%	0.10-0.75%
コールマネー	268	1,591	5,439	2.17	0.32-7.00
その他短期借入金 <sup>(4)</sup>	5,141	6,069	5,935	0.99	0.00-7.95
	7,444	9,349	13,443	1.13%	

2016年

	残高	平均残高 <sup>(1)</sup>	月末における最高残高	加重平均金利 <sup>(2)</sup>	年度末金利
(単位：十億ウォン、%を除く)					
韓国銀行からの借入金 (3)	2,621	2,407	2,641	0.65%	0.50-0.75%
コールマネー	807	1,254	2,607	1.42	0.35-10.00
その他短期借入金 <sup>(4)</sup>	4,191	4,624	6,448	0.97	0.00-3.95
	7,619	8,285	11,696	0.95%	

注記：

- (1) 平均残高は(a)当行の毎日の残高および(b)当行の関連会社の四半期ごとの残高に基づいている。  
 (2) 加重平均金利は、支払利息合計を平均借入金額で除して算出されている。  
 (3) 韓国銀行からの借入金は通常、ウォン建て借入金は満期が1ヵ月以内で、外貨建て借入金は満期が6ヵ月以内である。  
 (4) その他短期借入金には、信託勘定からの借入金、買入手形ならびにウォン建ておよび外貨建て借入金を含む。

当行の短期借入金は、韓国銀行からの借入金（通常、当行が保有する売却可能有価証券または満期保有有価証券によって担保されている。）を除いて通常無担保で満期は1年未満である。

### (3) リスク管理

#### 概観

当行は、許容範囲内で当行のリスクを管理し、資産の健全性を確保するために包括的なリスク管理システムを有している。当行は、効果的なリスク管理を通じて長期的収益性の安定化に努めている。

取締役会は、当行のリスク限度額等、当行のリスク管理および統制に関する基本ガイドラインを定めた。取締役会の監督の下、リスク管理委員会は、各事業グループの資本配分およびリスク限度額を決定し、全銀行業務の基本管理ガイドラインの策定において経営陣を補助する。

基本方針およびガイドラインに従い、ともに上級役員およびグループ長からなるリスク方針委員会ならびに資産・負債管理委員会（以下「ALM委員会」という。）は、信用リスク、市場リスクおよびオペレーショナル・リスクを監督する。全事業単位から独立したリスク管理グループは、当行のすべてのリスクを特定、評価および管理し、リスク管理委員会を補佐する。

#### 信用リスク管理

借り手、その他債務者または当行が契約を締結した取引についてのその他の相手方の債務不履行により生じる損失にかかるリスクである信用リスクは当行が直面する最大のリスクである。当行の信用リスク管理は、貸借対照表に記録される取引だけでなく、保証、貸出コミットメントおよびデリバティブ取引といったオフバランスシート取引を含む潜在的な経済損失をもたらす可能性のあるあらゆる信用の分野を網羅している。当行の信用リスク管理は、以下の原則に基づいている。

- ・関係するリスクの水準に見合った利益水準を達成すること。
- ・資産の質を改善し、最適な資産構成のポートフォリオを達成すること。
- ・特定の借り手または部門における過剰な貸出の集中を避けること。
- ・借り手の債務返済能力を厳密に監視すること。
- ・選別された顧客の成長を推進するために、財務支援を提供すること。

当行の全体的なリスク管理計画および信用方針ガイドラインを含む当行の信用リスク管理のための主な方針は、信用リスク管理に関する最高意思決定機関である当行のリスク方針委員会が決定する。リスク方針委員会は、最高リスク担当者が代表を務め、最高信用担当者および各事業ユニットの長からなっている。当行は、貸出承認機能を信用方針の意思決定から分離するために信用審査委員会を設けており、同委員会が行われた貸出による資産の質および収益性の改善に注力して信用審査を評価し、リスク方針委員会とは別に運営される。リスク方針委員会と信用審査委員会はともに、それぞれの委員会の出席委員数の三分の二以上（それぞれの定足数を満たすためには、各委員会の委員数の少なくとも三分の二の出席が必要である。）の投票により決定を行う。

当行は、内部ガイドラインに基づいて信用リスク管理手順を遵守し、これらのガイドラインおよび規則を継続的に監視および改善している。当行の信用リスク管理手順には以下が含まれる。

- ・信用評価および承認
- ・信用審査および監視
- ・信用リスク評価および管理

## 信用評価および承認

貸出申請者および保証人はすべて、貸出の承認を得る前に信用評価を受けなければならない。貸出申請者の信用評価は、貸出承認の特任上級役員によって実施される。貸出申請者および保証人の信用格付が、貸出金利、必要な内部承認の水準、信用エクスポージャーの限度、潜在的損失計算および資本の見積コストに影響を与えるため、当該事業部門により客観的かつ独立的に決定される。貸出評価は、客観的かつ慎重なプロセスを通じて個人による審査ではなくグループにより実施される。当行は、個人向けローンについては信用評価システムを、法人向けローンについては信用リスク格付システムを用いている。

当行の借り手のそれぞれに、さまざまな基準を考慮した包括的内部信用評価システムに基づく信用格付が与与されている。個人の借り手の信用格付は、とりわけ借り手の経歴の詳細、当行との過去の取引および外部信用格付情報を考慮する。法人の借り手の信用格付は、とりわけ、財務指標ならびに産業リスク、オペレーショナル・リスクおよびマネジメント・リスクといった非財務指標を考慮する。信用格付が与与されると、それは当行の信用リスク管理のための基本的手段として機能し、与信承認、与信限度管理、貸出の金利設定および貸倒引当金の計算を含む広範な信用リスク管理プロセスに適用される。当行は、個人顧客、SOHO顧客および法人顧客について個別の信用評価システムを有しており、それはさらに細分化され、パーゼルIIの要件を満たすよう改善されたが、かかる要件はパーゼルIIIに基づき変更されなかった。「第3 - 7 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 - 重要な会計方針 - 金融資産の減損」を参照されたい。

## 個人向けローン

個人向けローンの貸出申請は、当行の信用評価システムおよび当行のリテール・バンキング部門が維持・運用している担保付貸出および無担保貸出に関する客観的な統計モデルに従い審査されている。当行の信用評価システムは、貸出申請の評価に用いられる自動与信承認システムであり、貸出の適切な金額を決定し、借り手の個人情報、当行およびその他の金融機関との取引履歴ならびに関連する信用情報等の要素を考慮する。申請者に対しては、(i)申請者の貸出を承認するか否か、(ii)貸出額、および(iii)貸出に係る利息を決定するために用いられるスコアがつけられる。申請者のスコアに応じて申請者が与信を認められるか、条件付で認められるか、追加審査を必要とするか、与信を認められないかが決定される。申請者が追加審査の対象となる場合には、支店レベルまたは本店レベルの適切な裁量権を有する機関が、信用履歴、職業および過去の当行との関係等の質的要素ならびに量的要素に基づいて再評価を行う。

抵当ローンおよび住宅担保ローンならびに不動産担保ローンについては、当行は、ローンの担保として供される不動産の価値を、韓国全土の不動産価格に関する情報を含む専用データベースを利用して評価する。また、当行は、韓国の不動産市場および物価について第三者により提供された最新の情報も利用する。当行は、不動産担保の額を処理センターの行内職員に評価させるが、処理センターで当初定められたとおり、評価額が5十億ウォンを超える貸出については、当該評価額を審査し、連帯保証する公認鑑定士を雇用する。当行はまた、少なくとも毎年、担保の評価額を概要ベースで内部で再評価する。

有価証券、預金または不動産以外のその他の資産を担保とする貸出については、当行は、借り手に対し、担保付債務について特定の担保率を遵守することを要求する。

## 法人向け貸出

当行は、すべての法人の借り手を、内部で開発された複数の信用評価システムを用いて格付する。これらの信用評価システムは、与信決定を標準化するための様々な基準（量的、質的、財務および財務以外のもの）を考慮し、貸出金額よりも借り手の質に重点を置いている。量的検討には、借り手の財務およびその他のデータが含まれ、量的検討は、借り手の返済能力に関する当行の信用審査担当者の判断に基づいている。財務の検討には、総資産利益率およびキャッシュ・フローの債務合計に対する比率等、当行の顧客の財務書類に基づく財務変数や諸比率が含まれ、財務以外の検討には、とりわけ借り手の属する業界、業界における借り手の競争上の立場、稼働力および資金力、経営陣および支配株主の質（部分的に役員および従業員との面接に基づく。）、技術力ならびに労使関係が含まれる。

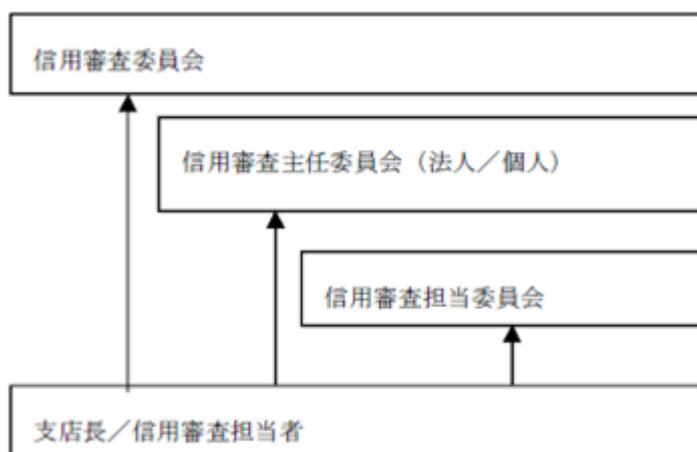
当行はまた、その内部信用審査の正確性を高めるために、Nice情報サービス（Nice Information Service）および韓国企業データ（Korea Enterprise Data）等外部の信用格付機関が作成した報告書を検討し、実際の債務不履行の記録を継続的に更新しているデータベースを用いて信用リスク格付システムの有効性を監視および改善している。

上記の評価基準および債務不履行の可能性を考慮して信用格付システムに基づき計算されたスコアに応じて、当行は借り手を23段階（最高AAAから最低D3まで）に分類する。AAからBは、さらに「+」、「0」または「-」に細分される。AAAからB-は正常、CCCは要注意、CCからD3は不履行懸念に分類される。信用リスク格付モデルはさらに、法人の借り手の規模および信用枠の種類に応じて分類される。

## 貸出承認プロセス

貸出は通常、支店レベルのリレーションシップ・マネジャーおよび当行の該当する事業ユニットの委員会による評価および承認を得た後に承認される。個人向け貸出の承認限度額は、当行の自動信用格付システムに基づいて設定される。大規模な法人の場合には、承認限度額は本店レベルの信用審査担当者による審査および承認も経る。貸出の規模および重要度に応じて、承認プロセスはさらに信用審査担当委員会または信用審査主任委員会の審査を経る。貸出が重大であるとみなされるか、または、金額が信用審査主任委員会の裁量権の範囲を超える場合には、信用承認に関する当行の最高意思決定機関である信用審査委員会によって追加的な評価が実施される。貸出限度についての信用審査委員会の評価および承認は、当行の内部信用格付システムが定める借り手の信用格付によって異なる。例えば、信用格付がB-の借り手に対して、信用審査委員会は、無担保貸出については10十億ウォン、担保付貸出については15十億ウォンを超える額の貸出の評価および承認を行う。一方、信用格付がAAAの借り手に対して同委員会は、無担保貸出については40十億ウォン、担保付貸出については90十億ウォンを超える額の貸出の評価を行う。また、信用審査委員会は、元本額が信用審査委員会の定める所定水準を超える多額の貸出申請の承認を行うために少なくとも1週間に2回の会議を行う。

下記の図は当行の信用承認プロセスの概要を示している。信用審査主任および事業部長は貸出承認について個別の決定を下さず、グループ・レベルでの意思決定プロセスの一部となる。



審査プロセスの各レベルでの信用審査担当者は、その裁量により、かかるレベルに割り当てられた貸出毎の最大額までの貸出を承認することができる。貸出承認プロセスの各レベルにおける裁量的な貸出承認限度額は、当該借り手に対する総貸出額、信用審査、担保の有無およびその価値に基づく申込者の信用レベル、ならびに信用格付システムにより設定された信用リスクのレベルが考慮される。裁量的な貸出承認限度額は、信用格付がB-の無担保の個人向け貸出に対する15百万ウォン（個人向け支店マネジャーの承認を受けなければならない。）から、信用格付がAAAの担保付貸出に対する90十億ウォン（信用審査主任委員会の承認を受けなければならない。）の範囲である。裁量的な貸出承認限度額を超える貸出はいずれも、信用審査委員会による承認を受けなければならない。

## 信用審査および監視

当行は、主に借り手に関する既存の信用リスクを継続的に審査および監視している。特に、当行の自動早期警告システムが206を超える財務要素および非財務要素を用いて借り手を毎日審査しており、リレーションシップ・マネジャーおよび信用審査担当者は、定期的に貸出審査を行い、独立した貸出審査チームに報告しなければならない。同チームは、その結果を詳細に分析し、これに応じて信用格付を調整している。これらの審査に基づき、当行は借り手の信用格付、信用限度額、適用利率および信用方針を調整している。さらに、借り手グループのグループ信用格付がある場合には、FSS院長が信用エクスポージャー残高に基づき指定する主な債務者グループ（大部分が財閥からなる。2016年12月31日現在64グループが指定された。）の定期審査後に調整される。当行は、指定された格付の適切性を確保するために、借り手の事業についての業界固有の状況ならびに国内外の資産基盤および事業等その他の要素も継続的に審査する。信用審査部門は、引受けとは独立して、信用審査報告書を最高リスク管理責任者に毎月提出する。

早期警告システムは、当行が1十億ウォン超の合計エクスポージャー（預金担保、積立貯蓄、保証および輸入担保金控除後の借り手からの未回収残高合計）または500百万ウォン超の正味信用エクスポージャー（有効な担保を控除後の合計エクスポージャー）を有する借り手を自動で毎日チェックする。早期警告システムが警告の兆候を検出した場合、当行が2十億ウォン超のエクスポージャーを有する場合は信用検査部が、2十億ウォン以下のエクスポージャーの場合はリレーションシップ・マネジャーおよび信用審査担当者が、かかる兆候および監視によるその他の所見を検討する。さらに、当行は経済環境の変化に基づいた信用リスク要因の変動に従い、各借り手に対して早期検討を実施している。かかる計画的な検討の結果は当行の信用リスク担当者に対し継続的に報告される。

早期警告システムが検出した警告の性質に応じて、借り手が「信用悪化」と分類され評価の対象となって格付が引き下げられる場合、または当初から「早期警告兆候を示す借り手」に分類されるか、もしくは「正常借り手」に復活する場合がある。「早期警告兆候を示す借り手」に分類された借り手について、リレーションシップ・マネジャーは情報を集め、信用悪化と分類するべきか否かまたは経営改善警告を行うかもしくは共同債権者の管理を実施するかを決定するために借り手の審査を行う。借り手が債務不履行状態に陥った場合には、当行の回収部門は、回収率を最大化するために直接借り手の勘定を管理し、必要に応じて競売、裁判所手続、資産売却または企業再編を実施する。

上記の信用審査および監視手続きに従い、かつ、貸出の質の悪化を速やかに防ぐために、当行は潜在的に問題のある借り手を(i)早期警告兆候を示す借り手、(ii)警戒を要する借り手、(iii)監視を要する借り手および(iv)正常借り手に分類し、それに従い別々に取り扱っている。

当行の法人顧客の返済の延滞を抑制するために、当行は主に(i)多額の残高を有する借り手に対し体系的な監視を行い、(ii)信用履歴の良くない借り手および/または問題のある業種に属する借り手の監視を強化し、(iii)特定の業種が全般的な事業周期に特に敏感であるかどうか、および/または所定の時期に問題があるかどうかについて調整した上で、業種別に貸出上限額を割当てるといった手段を講じている。

## 多額の貸出残高を有する借り手に対する体系的監視

当行は現在、貸出残高（保証付貸出ならびに当行への預金または信用状といった特定の種類の担保により担保された貸出を除く。）が合計1十億ウォン以上かつ正味貸出残高（貸出残高からかかる貸出の担保（上記以外のもの）の公正価値を差引いた金額）が合計500百万ウォン以上である法人顧客に対し強化監視システムを適用している。この監視システムに基づき、各借り手には下記の格付が付与される。

- ・「正常借り手」：債務不履行リスクが低いとみなされるBマイナス以上の信用格付の借り手。
- ・「監視を要する借り手」：潜在的な債務不履行リスクを一定程度有し、かかるリスクの上昇の検出を定期的に監視する必要がある借り手。
- ・「警戒を要する借り手」：債務不履行リスクが上昇しており、かかる借り手の信用の質の詳細な再査定および追加融資に警戒を要する借り手。
- ・「早期警告兆候を示す借り手」：高レベルの債務不履行リスクを有する借り手。
- ・「問題があるかまたは再編の対象の借り手」：現在債務不履行となっており、債務整理もしくは再編の対象となっているか回復の兆候のない借り手。

当行は、借り手の信用格付に応じた間隔（例えば、格付がAAAからAまでの「正常」借り手については12ヵ月ごと、格付がAからBBB+の「正常」借り手については9ヵ月ごと、格付がBBBからB-の借り手については6ヵ月ごと、CCC以下の格付の借り手および「正常」とみなされない格付の借り手については3ヵ月ごと）で上記の借り手に対して体系的な監視を行っている。さらに、貸出審査担当者は、借り手に信用の質の悪化の兆候がある場合、より頻繁な監視を要請することができる。2十億ウォン以上の貸出残高を有する借り手については、当行はまたかかる借り手の収入および所得を四半期ごとに四半期終了後10週間以内に監視する。

## 信用履歴に問題のある借り手および/または問題のある業種に属する借り手に対する監視の強化

上記の体系的な監視に加え、当行はまた、とりわけ、(i)上記の「監視を要する借り手」もしくは「警戒を要する借り手」もしくは「早期警告兆候を示す借り手」とみなされた借り手、(ii)過去に延滞もしくは再編を経験している借り手、または(iii)固定以下に分類された借入を有する借り手に対して追加的な監視を行っている。これらの借り手に対する強化された監視に基づき、当行は、とりわけ、特定の業種の全体的な資産の質が事業サイクルの各局面でいかに変化するか、かかる借り手に対するエクスポージャーをいかに制限し、縮小するか、当行のグループ全体の延滞率および不履行率をいかに変えるかといったことについて緊急対策計画を調整する。

## 業種固有の貸出上限額の割当

当行は現在、業種ごとに企業借り手に対する貸出を分類し、とりわけ各業種の見通し、業界別の不履行率といった要因に応じ、各業種に貸出総額の上限額を定めている。このようにして、当行はリスクの高い業種への貸出の集中を避け、リスクの高い業種への貸出を強化された監視およびリスク管理の対象としようとしている。

当行は現在、相対的にリスクの高いプロフィールを有する業種である不動産供給、リースおよびサービス、レストラン、宿泊、建設、造船、船舶、鉄、鋼鉄および非鉄金属、石油・化学（石油精製および化粧品を除く。）ならびにゴルフ場経営を厳しく監視し、管理するために、「管理強化」の監視対象リストに載せている。これらの業種のそれぞれについて、当行はかかる業種に対する貸出総額について保守的な上限額を設定し、かかる上限を上回った場合、それを担当した事業部門は業績評価においてペナルティを与えられ、その事業部門に属する従業員の給与および昇進はマイナスの影響を受ける場合がある。

## 信用リスク評価および管理

当行は、体系的に信用リスクを評価するために、延滞率、不良債権率、予想損失額および加重平均リスク格付を含む選択された各種統計の監視に基づき信用リスクを数量化するように設計されたシステムを開発およびアップグレードした。

当行は、ポートフォリオレベルおよび個別貸出勘定レベルの2段階で貸出を監視および管理することで貸出の集中を管理している。ポートフォリオレベルの信用リスクを適切な水準に維持するために、当行は銀行全体およびその各事業単位にバリュー・アット・リスク（以下「VaR」という。）による限度額を用いてその貸出を管理している。特定の借り手または借り手の種別にリスクが集中することを防止するため、当行はまた借り手、業種、国およびその他の詳細な分類ごとに信用リスクを管理している。

当行は、信用リスクを内部で蓄積した情報を用いて計測している。当行は、総資産について毎月期待損失および非期待損失を計測し、事業グループのリスク限度額の設定および事業グループへの資本の分配に際して参照している。期待損失は、デフォルト確率、デフォルト時損失率、デフォルト時エクスポージャーならびに過去の破産率および回収率に基づき計算され、これに応じて当行は貸倒引当金を計上する。当行はFSS要件または当行の内部計算のいずれか高い方の水準で引当を実施する。非期待損失については、当行にとっての信用リスク限度額の合計および当行内の関連部門にとっての信用リスク限度額に合致しているかを判断するために使用されるVaRに基づき予測される。当行は、口座ごとのレベルでのVaRの計算およびリスク調整業績測定に、銀行監督についてのバーゼル委員会（以下「バーゼル委員会」という。）により提案された先進内部格付手法を使用している。

## 市場リスク管理

市場リスクとは、金利、為替レート、株価などの市場価格の変動により生じる損失リスクをいう。当行がさらされる主な市場リスクは金利リスクであり、より程度は低いものの、為替リスクおよび株価リスクにもさらされている。これらのリスクは、貸出、預金、有価証券、金融デリバティブなどの金融商品に関連する当行のトレーディング業務および非トレーディング業務から生じる。当行は、市場リスクをトレーディング業務から発生するリスクと非トレーディング業務から発生するリスクに分けている。

当行のリスク管理委員会は、トレーディング業務と非トレーディング業務の両方について包括的な市場リスク管理方針を定めている。かかる方針に基づき、当行のリスク方針委員会は、市場リスクおよび資産に関し、リスク管理方針およびリスク制限を設定し、当行のトレーディング業務および非トレーディング業務から発生する市場リスクを管理することについて最高意思決定機関として行為している。リスク方針委員会は、当行の7つの事業グループをそれぞれ担当する副銀行長、最高リスク担当者および最高財務担当者で構成される。リスク方針委員会は、少なくとも月に一度の頻度で、とりわけ当行のトレーディング業務に係るポジションおよびVaRと、当行の非トレーディング業務に係るポジション、VaR、デュレーション・ギャップおよび時価分析ならびに正味受取利息シミュレーションに関連する報告書の検討と承認を行っている。さらに、当行のリスク管理部は、当行の業務部門から独立して包括的に市場リスクを管理し、当行のミドル・オフィスとして機能している。当行は、FSCが制定した規則に従って、銀行勘定および信託勘定のすべての資産および負債に関する市場リスクを計測している。

## トレーディング業務から生じる市場リスク・エクスポージャー

当行のトレーディング業務は、主に以下のもので構成されている。

- ・ 市況および顧客需要の変化について当行の短期的な見通しに基づく持分証券・債務証券市場および外国為替市場における売買から短期的な売買益を実現するため、自己勘定および顧客の信託勘定で行われるトレーディング業務
- ・ 主に、スワップ、先渡取引、先物取引、オプションなどのデリバティブに関わる裁定取引によって利益を実現するためのトレーディング業務、ならびにより小規模ではあるものの、当行の顧客に対してデリバティブを販売するトレーディング業務およびかかるトレーディング業務に付随する市場リスクを補完するトレーディング業務

これらのトレーディング業務により、当行は主として、金利リスク、為替リスクおよび株価リスクにさらされている。

## 金利リスク

当行がさらされている金利リスクは、主として直接または受益証券を介して間接的に保有するウォン建て債券および、より小規模ではあるが、金利デリバティブから生じる。外貨建ての売買目的債券から生じる金利リスクに対する当行のエクスポージャーは、かかる債券におけるネット・ポジションが小さいため、軽微である。当行のトレーディング勘定は日々値洗いされるため、当行は、トレーディング勘定に係る金利リスクを、時価に基づいたツールであるVaRを用いて管理している。

## 外国為替相場リスク

当行の外国為替相場リスクに対するエクスポージャーは、主に当行のウォン以外の通貨建ての資産および負債（外貨先渡および先物、通貨スワップなどのデリバティブを含む。）に関するものである。当行は、トレーディング勘定と非トレーディング勘定両方のすべての為替直物ポジションおよび先物ポジションを対象として、その外国支店が直面する関連リスクを含む外国為替リスクを連結ベースで管理している。

当行の外貨の正味オープン・ポジションは、外貨建て資産および負債を為替先物ポジションと相殺した差額であり、当行の外国為替リスクに対する主要なエクスポージャーとなる。リスク方針委員会は、トレーディング業務および非トレーディング業務の両方について、外貨の正味オープン・ポジションの限度額、ストップ・ロス限度額およびVaR限度額を設定することにより、当行の外国為替エクスポージャーを監視している。当行は、FXおよびデリバティブ部門を通じて外国為替ポジションを集中的に監視し、管理している。FXおよびデリバティブ部門のディーラーは、現物取引、先渡契約、通貨オプション、先物取引、スワップおよび為替スワップを通じて、当行の連結されたポジションを事前に設定された限度内で管理する。当行は、通貨ごとに正味オープン・ポジションの限度額を設定している。米ドル、日本円、ユーロおよび中国元以外の通貨の限度額は、かかる通貨における為替取引を最小限に抑えるために保守的な方法で設定されている。

下表は、2015年および2016年12月31日現在の当行の外貨の正味オープン・ポジションを示している。プラスの数値は買い持ち、マイナスの数値は売り持ちを表している。

通貨	12月31日現在	
	2015年	2016年
	（単位：百万米ドル）	
米ドル	(24.2)	(125.0)
日本円	9.6	(9.2)
ユーロ	(1.2)	(4.6)
その他	784.2	886.4
合計	768.5	747.6

## 株価リスク

当行のトレーディング業務に係る株価リスクは、主に韓国企業の株式トレーディング・ポートフォリオならびに韓国株価指数先物およびオプションの取引に関するものである。株式トレーディング・ポートフォリオは、韓国証券取引所のKRX KOSPI市場またはKRX KOSDAQ市場に上場される株式ならびに厳格な分散化制限およびポジション限度額が定められた期近または翌限月の先物で構成される。当行は、韓国株式市場の不安定性に照らして、これらの業務の厳格な監視を維持しており、損切りおよびその監視についても厳密な監視を行っている。当行がそのトレーディング勘定に保有する持分証券は、債券と比較するとかなり少ないが、持分証券の価値の変動性が高いことから、トレーディング勘定の株価リスクのVaRは、通常トレーディング勘定の金利リスクのVaRよりも高い。2015年および2016年12月31日現在、当行のトレーディング勘定（信託勘定を含む。）における持分証券は、それぞれ76.8十億ウォンおよび192.9十億ウォンであった。

## トレーディング業務から生じる市場リスクの管理

下記の表は、2016年12月31日現在および同日に終了した事業年度における当行のトレーディング業務から生じるVaRで計測された市場リスクの概要を示している。市場リスク管理上、当行は、VaR合計の計算に、銀行勘定のトレーディング・ポートフォリオと信託勘定の資産を含めており、当行はそれぞれについてFSCの規則に従い元本または固定金利を保証している。

201年12月31日に終了した年度の  
トレーディング・ポートフォリオVaR<sup>(1)</sup>

	平均値	最低値	最高値	2016年
				12月31日現在
	(単位：十億ウォン)			
金利リスク	33.2	18.8	48.9	44.4
為替リスク <sup>(2)</sup>	56.1	53.7	61.4	60.1
株価リスク	5.2	4.8	5.8	5.5
オプション・ボラティリティ <sup>(3)</sup>	0.1	0.1	0.3	0.2
控除：ポートフォリオの分散 <sup>(4)</sup>	(38.6)	(24.3)	(54.8)	(49.2)
VaR合計 <sup>(5)</sup>	56.0	53.1	61.6	61.0

注記：

(1) 信頼水準99.9%の10日VaR

(2) 当行が全ポジションに基づき為替リスクを管理するため、トレーディング勘定と非トレーディング勘定の両方を含む。

(3) ブラック・ショールズ・モデルまたは類似のモデルを使用したオプション評価による予想変動率

(4) ポートフォリオの分散効果の計算は、異なるリスク要素について異なる日のシナリオで行われる。VaR合計は、ポートフォリオ分散により相殺されているため、VaRのリスク要素の単純な合計を下回っている。

(5) 当行が元本または固定金利を保証する銀行勘定のトレーディング・ポートフォリオおよび信託勘定の資産を含む。

当行は通常、ポートフォリオのトレーディング業務から生じる市場リスクを総額を基準に管理する。当行は、トレーディング・ポートフォリオの市場リスクを管理するために、ポジション限度額、VaR限度額、ストップ・ロス限度額、Greek限度額およびストレス損失限度額を使用している。また、当行は投資有価証券について別の限度額を設定している。当行は、FSCが公表した規則およびガイドラインに基づいて、デリバティブ取引のためのリスク管理指針を維持し、トレーディング業務を行う事業部門およびチームのリスクを監視および管理するためにトレーディング業務から生じる市場リスクを測定している。当行は、そのトレーディング・ポジションの市場リスク測定システムへの自動インターフェイスに基づきVaR測定を管理し、日ごとに制限している。さらに、当行はトレーディング部門およびデスクに対し、損失限度、感応度限度、投資限度およびストレス限度をあらかじめ設定し、かかる限度およびその遵守を毎日監視している。

バリュー・アット・リスクの分析 当行は、市場リスクを測定するために、10日VaRおよび1日VaRを使用している。当行は、保有期間を10日とする過去12ヵ月間のデータに基づき、日々10日VaRを計算し、保有期間を1日とする過去12ヵ月間のデータに基づき、日々1日VaRを計算している。10日VaRおよび1日VaRは、通常の市場環境において10日間および1日間にそれぞれ起こり得る統計的に推計された予想最大損失額である。VaRが99%の信頼水準で測定された場合、実際の損失額は平均して100営業日中1日だけ予想VaRを上回る可能性があり、一方、99.9%の信頼水準を用いてVaRを測定した場合、平均して1,000営業日中1日だけ実際の損失額が予想VaRを上回る可能性がある。

当行は現在、FSSへの報告に用いられる規制資本の計算のために99%信頼水準の10日VaRおよびストレスVaRを用いている。ストレスVaRは、過去12ヵ月間の危機シミュレーションから得たシナリオに基づく現在のトレーディング・ポートフォリオにおける潜在的な重要損失を反映している。当行はまた、内部管理目的の当行の「経済上の」資本の計算に、より保守的な99.9%信頼水準の10日VaRを用いているが、これは市場リスクに照らして当行の必要資本の金額を決定する際に用いられた概念である。さらに当行は、営業部門の各デスクまたはチームごとに個別のリスク限度を設定し、運用するために、またバックテスト目的で、補足的に99%信頼水準の1日VaRを用いている。当行の損失額（実際の、または仮定の）が99%信頼水準の1日VaRを上回ったことが2014年には1回あり、2015年には4回、2016年には1回あった。最も最近では、2016年9月22日に損失額が99%信頼水準の1日VaRを1%上回った。上記のVaRの例外はすべてVaR額を上回る仮想損失の額によるものである。仮想損失とは、同じポートフォリオを翌取引日の市場変数でシミュレーションした場合のポートフォリオ価値の潜在的な変化である。

バリュー・アット・リスクは通常使用される市場リスク管理法である。ただし、VaRモデルには以下の欠点がある。

- ・ VaRは、過去の市場動向のデータを使用し、特定の信頼水準において一定の期間に渡って生じ得る予想損失額を推計する。しかし、過去の市場動向は、特に将来起こり得る事象の性質が極端である場合には必ずしも信頼性のある指標とはならない。
- ・ VaRは、市場動向が極端になる可能性を過小評価する可能性がある。
- ・ 当行のVaRモデルは、通常、1日から10日の保有期間があれば原ポジションを解消するのに充分であると想定しているが、保有期間の長さに関するかかる想定が実際には不適切であることが判明する場合がある。
- ・ 99.9%の信頼水準は、この信頼水準を超えて生じるかもしれない損失については考慮しておらず、かかる損失を示唆するものでもない。
- ・ VaRは、ポジションおよびポートフォリオの価値に関する様々なリスク要因についての複雑な影響をすべて捉えているわけではなく、損失の可能性を過小評価する可能性がある。

当行は現在、実際の業績に対するVaRの結果のバックテストを日々行っている。

当行は、ウォン建ておよび外貨建て勘定を管理する総合的な市場リスク管理システムを運用している。このシステムは、ヒストリカル・シミュレーション法を用いて、株式や債券などの商品から生じる線形リスクとオプションを含む他の商品から生じる非線形リスクを計測する。当行は、このシステムによって、複雑かつ一貫性のあるVaR情報を創出し、モデルの妥当性を確認するための感応度分析およびバックテストを日々行うことができると考えている。

ストレステスト VaRのほか、当行は市場リスクを測定するためにストレステストを実施している。VaRは通常の市場環境を前提とするため、当行は起こりそうもない異常な市場変動に対する市場リスク・エクスポージャーを、ストレステストによって評価している。ストレステストは、VaRを補完するために重要である。なぜなら、VaRは当行の通常の予測を超える市場変動が生じた場合の潜在的な損失をカバーしていないからである。ストレステストは、ストレス事象の発生期間中、ポートフォリオのリスク特性を変更するための措置が取られていないことを前提に、一定のシナリオのもとで、保有するポジションについて予想される価値の変動を予測する。

当行は、外国為替レート、株価ならびにウォン建て金利および外貨建て金利の4つの市場リスク要素を考慮することにより、比較的単純ではあるが基本的な7つのストレステストのシナリオを使用する。最悪のシ

ナリオでは、4つの市場リスク要素が瞬時かつ同時に変動することを想定している。かかる変動とは、ウォンが20%上昇し、韓国証券取引所の総合株価指数が30%下落し、かつウォン建て金利および米ドル建て金利がそれぞれ200ベースポイント上昇するという状況である。この最悪のケースのシナリオに基づき、当行のトレーディング・ポートフォリオの市場価値額は2016年12月31日現在で361十億ウォン減少した。当行は、日々ストレステストを実施し、その結果をリスク方針委員会に毎月報告し、四半期ごとにリスク管理委員会に報告する。

当行は、業務全体についてのストレステストの上限を設定している。市場変動やその他の異常による潜在的な影響が大きい場合には、当行の最高リスク担当者はポートフォリオの再構築またはその他の適正な措置を要求することができる。

## ヘッジ取引およびデリバティブ市場リスク

当行のグループ全体のヘッジ戦略の主な目的は、その市場リスクを設定された範囲内で管理することである。当行は、市場リスクをヘッジするため、および事前に設定されたリスクの範囲内でデリバティブ商品を売買することによって収益を上げるため、デリバティブ商品を利用する。当行のデリバティブ取引には、金利スワップ、クロスカレンシー・スワップ、為替先物予約、通貨先物、株価指数先物、金利先物、株価指数オプションおよび通貨オプションが含まれる。

当行はヘッジ目的でデリバティブを使用するが、当行は利益を上げるためにトレーディング・ポジションを取ることから、デリバティブ取引はその性質上市場リスクを伴う。これらの業務は主に以下からなっている。

- ・スポット市場とデリバティブ市場間、またはデリバティブ市場内における短期的な不一致から利益を得るための裁定取引
- ・当行の法人顧客の様々な需要を満たす個別仕様のデリバティブ商品の販売、およびこれらの販売から生じるエクスポージャーを低減させるための関連取引
- ・当行が市場予測に基づいて短期売買による利益を予測する限定的な場合において、ポジションをとること
- ・上述のとおり、当行の金利および外貨リスクのエクスポージャーをヘッジするために取引を行うこと

当行のIAS第39号「金融商品：認識と測定」の採用に関し、当行は、公正価値を適切に測定し、特に公正価値モデルが内部で発展することを確実にするために、重要な製品の価格付けに利用される場合、いくつかの重要な支配を含む内部プロセスを実施した。

当行は、かかる製品の発売前に内部モデルから得られた新製品の公正な市場価値の妥当性を査定する。査定プロセスには下記が含まれる。

- ・内部ディーリング・システム市場価値の計算（ディーリング・システムから得られた市場価値を計算するために用いられた公式およびモデルの妥当性の量的分析チームによる査定に基づく。）
- ・外部信用評価会社から得られた市場価値の計算
- ・内部ディーリング・システムにより得られた市場価値と外部信用評価会社から得られた市場価値とを比較した後、部門間のコンセンサスに基づく内部で開発された市場価値を利用するかどうかについての決定

上記の査定プロセスを経て当行により公式に利用されるディーリング・システム市場価値は、個別取引の検討に基づく価値を確認するサンプリング・プロセスを経ておらず、ディーラー・ポートフォリオ感応度に基づくディーリング・システムによる利益に対するかかる価値を比較する追加的な査定手続きの対象となる。「第3 - 7 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 - 重要な会計方針」および「第6 - 1 財務書類」に記載される当行の連結財務書類に対する注記2を参照されたい。

## 非トレーディング業務のための市場リスク管理

### 金利リスク

金利リスクは当行の非トレーディング業務から生じる主な市場リスクである。金利リスクは、当行の財政状態および経営成績に悪影響を及ぼす金利の変動により生じる損失リスクである。当行の金利リスクは、主として利付資産と有利子負債に係る金利変更の時期が異なることに関連している。

金利リスクは、当行の収益および純資産の経済的価値に以下の影響を及ぼす。

- ・収益金利の変動は、金利感応度の高い営業利益および費用に影響し、これにより当行の正味受取利息に影響を及ぼす。

・純資産の経済的価値金利の変動は、資産、負債および当行のその他の取引からのキャッシュ・フローの現在価値に影響し、これにより当行の正味資産に影響を及ぼす。

そのため、当行はその利益および純資産価値の双方に対する金利変動の影響を考慮した上で、非トレーディング業務における金利リスクを測定し、管理している。当行は、その銀行勘定（主にヘッジ目的で締結される金利スワップであるウォン建てのデリバティブを含む。）および信託勘定におけるすべての利付資産および有利子負債について、毎日および毎月のベースで金利リスクを計測し、管理している。ただし、これ以外については当行はVaRを月次ベースで計測している。当行の利付資産および有利子負債の多くはウォン建てである。

#### 金利リスク管理

当行の金利リスク管理の主な目的は、安定した正味受取利息を生み出し、その純資産価値を金利変動のリスクから保護することである。その資産および負債管理システムを通じて、当行は金利ギャップ、デュレーション・ギャップならびに正味現在価値および受取利息シミュレーションといったさまざまな分析手法に基づき金利リスクを監視し、管理し、毎月、金利VaR限度、金利アーニングス・アット・リスク（EaR）限度および金利ギャップ比率限度を監視する。当行は、金利履歴のさまざまなシナリオ分析に基づき1年間において純資産価値および正味受取利息が最大に減少した場合をシミュレーションした予測に基づき金利VaRおよびEaRを測定する。リスク方針委員会は少なくとも年に一度、当行のウォン建てならびに外貨建ての非トレーディング勘定および信託勘定についての金利リスクの限度額を設定し、リスク管理委員会は当行全体の金利リスクの限度額を設定する。そしてリスク管理部は、当行によるかかる限度額の遵守状況を監視し、その監視結果を月に一度リスク方針委員会に報告し、四半期ごとにリスク管理委員会に報告する。当行は、その金利エクスポージャーの限度額を管理するために金利スワップを利用する。

金利がマイナスに変動した場合、金利VaRは、正味現在価値計算（利付資産の現在価値から有利子負債の現在価値を差引くことにより計算される。）における最大予想損失を表しており、金利EaRはその直後の1年間についての正味利益計算（受取利息から支払利息を差引くことにより計算される。）における最大予想損失を表している。そのため、金利VaRは金利EaRに比べてより広範な概念であり、前者はすべての利付資産および有利子負債をカバーするのにに対し、後者は1年の間に金利ボラティリティにさらされる利付資産および有利子負債のみをカバーする。

そのため、金利VaRにとって、デュレーション・ギャップ（つまり、すべての利付資産の加重平均デュレーションからすべての有利子負債の加重平均デュレーションを差引いたもの。）は、金利VaRへの影響において該当する資産および負債の相対的な規模より重要な要因となる場合がある。対照的に、金利EaRにとって、「1年未満の金利」の形態における該当する資産および負債の相対的な規模の差（つまり、満期まで1年未満の利付資産の金額から満期まで1年未満の有利子負債の金額を差し引いたもの）は、金利EaRへの影響において最も重要な要因である。

金利VaR限度は、(i)1年超の期間の利付資産の比率としての毎月の非トレーディング金利VaRの平均と、(ii)99%信頼水準の標準偏差（つまり、利付資産に対する比率としての月ごとの非トレーディング金利VaRの標準偏差の2.33倍。）の合計として設定される。

金利EaR限度は、正味受取利息の最大の減少に際し、(i)見積金利ギャップが運用可能な（耐えうる）状況における最大水準に拡大したと仮定して、(ii)金利ショック・シナリオを過去10年間の市場金利を用いた金利の年間ボラティリティに適用することにより定められる。

当行は月ごとに金利VaRおよび金利EaRの非トレーディング・ポジションが上記のそれぞれの限度を上回るか否かを監視している。

トレーディング・リスクの運用に際し、主に(i)裏付資産が異なるため（つまり、市場リスクVaRの場合のトレーディング資産と比較した、金利VaRの場合の非トレーディング利付資産および有利子負債）、ならびに(ii)金利VaRは金利変動のみに敏感であるが、市場リスクVaRは金利変動だけでなく、為替レート、株式の市場価格およびオプション・ボラティリティといったその他の要素に対しても敏感であることから、金利VaRは10日間における99%信頼水準のVaR（以下「市場リスクVaR」という。）と意味のある比較をすることはできない。

仮に金利VaRと市場リスクVaRの金利部分のみを比較したとしても、当行は、金利VaRは資産および負債の双方（相殺する影響を有する傾向にある。）の金利変動の影響を検証するが、市場リスクVaRの金利部分は資産のみの金利変動の影響を検証するため、かかる比較は意味を有さないと考えている。

当行は毎日および毎月のベースで様々な分析的方法を用いて非トレーディング業務における金利リスクを計測し、管理している。かかる方法には以下の分析が含まれる。

- ・金利ギャップ分析
- ・デュレーション・ギャップ分析
- ・市場価値分析
- ・正味受取利息シミュレーション分析

## 金利ギャップ分析

当行は、当行の利付資産と有利子負債が、見積みキャッシュ・フローと金利更改日に基づいて適切な期間に割り当てられる金利ギャップ表を作成することで、特定の期間についてのそれぞれの満期日と金利更改日における利付資産と有利子負債の金額の差を測定するために、金利ギャップ分析を行っている。当行は、その銀行勘定および信託勘定のウォン建ておよび外貨建ての資産および負債について、日々金利ギャップ分析を行う。当行のギャップ分析には、ウォン建てのデリバティブ（ヘッジの目的上通貨スワップ）および外貨建てのデリバティブ（ヘッジの目的上通貨スワップ）が含まれ、FXおよびデリバティブ部により集約的に管理されている。当行は、金利の感応度ギャップ、累積ギャップおよびギャップ比率を測定する金利分析を通じて、将来の金利リスクの変動に対するエクスポージャーを評価する。

当行は、金利ギャップ分析について、様々な種類の資産および負債に対して以下の満期を想定および使用している。

- ・当行は、資産の満期および金利更改日に関しては、プライムレートに連動する貸出の満期は固定金利貸出と同じと想定している。当行は、利付資産から持分証券を除外している。
- ・当行の負債の満期および金利更改日については、当行は、金融市場の預金口座およびFSCガイドラインのもとで「非中核」である要求払い預金は、ウォン建ておよび外貨建て勘定の双方について1ヵ月以下の満期を有するものと想定している。
- ・FSCガイドラインのもとで「中核」である要求払い預金については、当行は1ヵ月から5年間を範囲とする8つの異なる期間の満期を有するものと想定している。

下表は、2016年12月31日現在における、( )ヘッジ目的で締結されたデリバティブを含むウォン建て非トレーディング銀行勘定および( )ヘッジ目的で締結されたデリバティブを含む外貨建て非トレーディング銀行勘定の当行の金利ギャップを示している。

ウォン建ての非トレーディング銀行勘定<sup>(1)</sup>

2016年12月31日現在							
	0-3ヵ月	3-6ヵ月	6-12ヵ月	1-2年	2-3年	3年超	合計
	(単位：十億ウォン、%を除く)						
利付資産	94,548	50,220	26,386	17,046	13,928	27,116	229,244
固定金利	25,522	11,293	19,023	13,507	9,553	10,091	88,989
変動金利	67,945	38,038	5,852	3,229	4,375	16,985	136,425
金利スワップ	1,080	890	1,510	310	0	40	3,830
有利子負債	93,188	36,603	51,826	17,196	10,808	21,947	231,567
固定負債	62,914	36,100	51,725	17,099	10,789	21,235	199,863
変動負債	26,443	503	100	97	18	712	27,875
金利スワップ	3,830	0	0	0	0	0	3,830
感応度ギャップ	1,360	13,618	(25,440)	(151)	3,120	5,169	(2,323)
累積ギャップ	1,360	14,978	(10,463)	(10,613)	(7,943)	(2,323)	(2,323)
総資産に対する割合	0.59%	6.53%	(4.56)%	(4.63)%	(3.27)%	(1.01)%	(1.01)%

外貨建ての非トレーディング銀行勘定<sup>(1)</sup>

2016年12月31日現在						
	0-3ヵ月	3-6ヵ月	6-12ヵ月	1-3年	3年超	合計
	(単位：百万米ドル、%を除く)					
利付資産	17,940	3,435	2,693	2,885	4,514	31,468
有利子負債	18,254	2,878	4,179	4,809	3,401	33,520
感応度ギャップ	(314)	558	(1,485)	(1,924)	1,114	(2,052)
累積ギャップ	(314)	244	(1,242)	(3,166)	(2,052)	(2,052)
総資産に対する割合	(1.00)%	0.77%	(3.95)%	(10.06)%	(6.52)%	(6.52)%

注記：

(1) マーチャント・バンキング勘定を含む。

## デュレーション・ギャップ分析

当行は、当行の利付資産と有利子負債の保有期間（かかる保有期間は、適用あるイールド・カーブを用いてそれぞれの割引キャッシュ・フローに基づいて計算されたそれぞれの加重平均満期を示している。）の差を審査することにより、資産および負債の市場価値にかかる金利リスクの様々な影響を測定するために、デュレーション・ギャップ分析を行っている。これらの測定は毎日、業務部門、勘定、商品および通貨のそれぞれの、利付資産および有利子負債の保有期間について行われている。

下表は、2016年12月31日現在の非トレーディング勘定における当行のウォン建て利付資産および有利子負債の市場価値のデュレーション・ギャップならびに金利が1パーセント・ポイント上昇した際のこれらの市場価値の変動を示している。

2016年12月31日現在の保有期間（非トレーディングのウォン建て銀行勘定<sup>(1)</sup>）

2016年12月31日現在	
（単位：月）	
利付資産	11.56
有利子負債	10.66
ギャップ	0.96

注記：

(1) マーチャント・バンキング勘定およびヘッジ目的のデリバティブを含む。

## 市場価値分析

当行は、当行の有利子負債の市場価値と比較した利付資産の市場価値の変化を測定するために、金利が平行にシフトすると仮定して、市場価値分析を行っている。これらの測定は毎日行われている。

2016年12月31日現在の市場価値（非トレーディングのウォン建て銀行勘定<sup>(1)</sup>）

2016年12月31日現在			
	実質	1パーセント・ポイント上昇時	変動
（単位：十億ウォン）			
利付資産	233,201	231,075	(2,126)
有利子負債	231,983	230,099	(1,885)
ギャップ	1,218	976	(241)

注記：

(1) マーチャント・バンキング勘定およびヘッジ目的のデリバティブを含む。

## 正味受取利息シミュレーション

当行は、当行の経営成績に対する金利変動の影響を測定するために正味受取利息シミュレーションを行う。かかるシミュレーションは、現在の満期構造に基づき、金利（平行にシフトすると仮定）および資金調達需要に関するさまざまなシナリオを用いて、当行の年次正味受取利息（受取利息から支払利息を控除したもの）の見積変動を測定するために、確定的分析手法を用いている。金利変動に関するシミュレーションでは、当行は、資金調達需要に変動がないとの仮定に基づき、(1)変動なし、(2)金利が1パーセント・ポイント上昇、および(3)金利が1パーセント・ポイント減少、の場合の金利が平行にシフトする3つのシナリオを適用する。

下表は、当行の正味受取利息シミュレーション・モデルを用いて、(a)2016年12月31日現在の満期構造および資金調達需要、ならびに(b)2016年12月31日現在の金利と同じ金利および金利が1パーセント・ポイント上昇または減少した場合を仮定して、ウォン建て利付資産および有利子負債に関する2016年の当行の正味受取利息のシミュレーションした変動を一例として説明している。

シミュレーションした2016年の正味受取利息の  
 (ウォン建ての非トレーディング銀行勘定<sup>(1)</sup>)

	仮定金利		正味受取利息変動		正味受取利息変動		
	変動なし	1パーセント・ポイント上昇	1パーセント・ポイント減少	金額 (1パーセント・ポイント上昇)	%変動 (1パーセント・ポイント上昇)	金額 (1パーセント・ポイント減少)	%変動 (1パーセント・ポイント減少)
	(単位: 10億ウォン、パーセントを除く)						
シミュレーションした受取利息	6,795	8,023	5,568	1,227	18.1%	(1,227)	(18.1)%
シミュレーションした支払利息	3,016	3,985	2,047	969	32.1%	(969)	(32.1)%
正味受取利息	3,779	4,037	3,521	258	6.8%	(258)	(6.8)%

注記:

(1) マーチャント・バンキング勘定およびヘッジ目的で締結されたデリバティブを含む。

当行の非トレーディング勘定におけるウォン建て利付資産の金利更改期間は、かかる勘定の有利子負債の当該期間より平均的に短いため、当行の非トレーディング勘定におけるウォン建て利付資産および有利子負債は、金利の上昇により恩恵を受ける満期構造を有している。これは主に、近年の韓国において低金利環境が続いているためであり、これにより当行の貸出金全体の一定部分を占める変動金利貸出金（固定金利貸出金よりも満期または金利更改期間が短い傾向にある。）に対する需要の著しい増加をもたらしたことにより、当行の貸出金全体の満期または金利更改期間が平均的に短くなった。その結果、当行の正味受取利息は、金利が低下すると減少する傾向にあり、金利が上昇すると総じてその反対となる傾向にある。

非トレーディング資産および負債に対する金利VaR

当行は、非トレーディング業務からの金利リスクに対するVaRを毎月測定している。下表は、2016年12月31日現在および同日に終了した年度についての、その他の資産および負債に対する金利ミスマッチにかかるリスクについてのVaRを示しており、これは、当行の非トレーディングの利付資産（売却可能投資有価証券を含む。）と有利子負債との間の金利更改日におけるミスマッチから生じる。FSC規則に基づき、当行はこれらの利付資産および有利子負債のVaRの計算を、当行の銀行勘定およびマーチャント・バンキング勘定に含めている。

2016年度についてのVaR<sup>(1)</sup>

	平均	最小	最大	12月31日現在
	(単位: 十億ウォン)			

金利ミスマッチ				
- 非トレーディング資産および負債	189	143	259	231

注記:

(1) 信頼水準99.9%による1年のVaR実績

## 株式リスク

当行の実質的にすべての株式リスクは、韓国企業の普通株式のポートフォリオに関連している。2016年12月31日現在、当行は未上場の外国会社の株式持分を総額60.7十億ウォン（非上場のプライベート・エクイティ・ファンドへの投資の50.5十億ウォンを含む。）有している。

当行の投資ポートフォリオにおいて保有されるウォン建ての持分証券は、韓国取引所のKRX KOSPI市場またはKRX KOSDAQ市場に上場される株式および一部の非上場株式で構成される。当行は、関連するリスクの管理のためにこれらの持分証券のほとんどについてエクスポージャーの限度を設定している。2016年12月31日現在、当行はその非トレーディング勘定において総額1,417.5十億ウォンの持分証券を有しており、このうち238.4十億ウォンはとりわけ経営支配目的および延滞した貸付があった貸出先の会社の再編手続の一環としての債務の株式化によるものであった。

2016年12月31日現在、当行は、総額60.8十億ウォンのウォン建て転換社債、総額1.2十億ウォンのウォン建て交換可能社債および総額1.0十億ウォンのウォン建てワラント付社債をそれぞれ非トレーディング勘定に保有していた。当行は、転換社債、交換可能社債またはワラント付社債に関する株式リスクを測定しておらず、これらの株式関連証券の金利リスクは他の債務証券と合わせて測定されている。したがって、当行はこれらの株式関連証券に対して株式リスクVaRではなく金利リスクVaRを測定している。

## 流動性リスク管理

流動性リスクとは、資金の流入と流出の乖離によって生じる支払不能、債務不履行または損失のリスクであり、これには利用可能な資金が不足しているために高い金利で資金を入手しなければならないか、または不利な価格で有価証券を売却しなければならないリスクが含まれる。当行は、流動性にボラティリティを起こしうる資金の調達および運用に関連するリスク要因の早期検出により、また体系的管理を通じて適切な流動性水準を確実に維持することにより、流動性リスクを最小限に抑えようとしている。さらに、流動性リスクを先制的かつ包括的に管理するために、当行は「限度管理指数」、「早期警告指数」および「監視指数」を含むさまざまな指数を用いて流動性リスクを測定し、監視している。

当行は、流動性リスク管理に以下の基本原則を適用している。

- ・最適な時期に合理的な費用で十分な額の資金を調達すること
- ・流動性リスクを適切な水準に維持し、所定のリスク限度システムおよび早期警告検知システムを通じてこれらを予防的に管理すること
- ・満期の異なる多様な資金源に基づいて効果的なALMシステムを実施することで、安定した収益源を確保し、実際の損失を最低限に留めること
- ・通常の状態および危機的な状況の双方において、適時な返済および支払期限の到来した金融債務の決済のために、日々ならびに日中の流動性ポジションおよびリスク・エクスポージャーを監督し、管理すること
- ・流動性危機の可能性を想定して定期的に危機管理分析を行い、実際の危機に備えて緊急計画を策定し、これを実施すること
- ・商品およびサービスの価格設定、従業員の業績評価ならびに新商品およびサービスの発売承認を決定する際に、流動性関連の費用、便益およびリスクを検討すること

当行は、社内ならびに監督官庁により設定されたリスク限度およびガイドラインに従い、流動性リスクを管理している。FSCによる銀行に適用される主要な規則に従い、当行は一定の流動性カバレッジ比率および外貨建て流動性比率を維持することを義務付けられている。当行は、上記の比率を一定の最低水準以上に維持することを義務付けられている。

当行は、FSC規則に従って、ウォン建て勘定および外貨建て勘定について設定された限度額の範囲内で流動性リスクを管理している。FSCは、当行を含む韓国の銀行に流動性カバレッジ比率を2015年1月1日現在で80.0%、2016年1月1日現在で85.0%、2017年1月1日現在で90.0%、2018年1月1日現在で95.0%および2019年1月1日現在で100.0%を維持することを義務付けている。FSCは、ウォン建て流動性カバレッジ比率を、簡単に現金に転換できる流動性の高い資産を、バーゼルIIIに基づく流動性カバレッジ比率要件を実施するために2016年6月28日付で改正された銀行業務の監督に関する規則に基づくウォン建て流動性カバレッジ比率に従って設定されたストレス水準の状況における翌30日間のキャッシュ・アウトフローの正味金額で除したものと定義している。

外貨建て流動性比率に関し、銀行業務の監督に関する規則は、外国為替業務を行う金融機関（すなわち銀行）は、外貨建ての負債が直前の半期末現在で500百万米ドルまたはその負債合計の5%以上である場合、80%以上の外貨建て流動性比率を維持することを義務付けている。「外貨建て流動性比率」とは、翌30日間における外貨建て資産および負債に関する正味キャッシュ・アウトフローに対する流動性の高い資産の比率である。外貨建て負債が直前の半期末現在で500百万米ドル未満またはその負債合計の5%未満である外国為替業務を行う金融機関の場合、(i)残存期間が3ヵ月未満の資産の残存期間が3ヵ月未満の負債に対する比率は85%以上でなければならず、( )残存期間が1ヵ月未満の資産が残存期間が1ヵ月未満の負債を10%超上回ってはならない、とする比率の維持が義務付けられ、外貨建て資産および負債を残存期間ごとに分類し、管理しなければならない。

財務部は、当行のウォン建ておよび外貨建て資金に関する流動性リスク管理を担当している。財務部は、当行の毎月の資金調達および資産管理計画を、マクロ経済指標、金利および外国為替の動向ならびに当行の資産および負債の満期構成を含む様々な要素の分析に基づいて、ALM委員会の承認を得るために同委員会に提出する。リスク管理部は、当行の流動性比率と流動性ギャップ比率を日々測定し、これらが限度額を遵守しているかをリスク方針委員会（当行の流動性比率および流動性ギャップ比率を設定し、監視する。）に毎月報告する。

下表は、2016年12月31日現在のFSCの規則に従った当行の外貨建て勘定（デリバティブおよびマーチャント・バンキング勘定を含む。）の(i)流動性カバレッジ比率ならびに(ii)流動性状態および限度を示している。

### 2016年12月31日現在の流動性カバレッジ比率

	2016年12月31日現在
	(単位：十億ウォン、%を除く)
流動性の高い資産 (A)	34,732
翌1ヵ月間の正味キャッシュ・アウトフロー (B)	34,396
キャッシュ・アウトフロー	58,808
キャッシュ・インフロー	24,412
流動性カバレッジ比率 (A/B)	100.98%

### 外貨建て勘定 (デリバティブおよびマーチャント・バンキング勘定を含む。)

外貨建て勘定	2016年12月31日現在					固定以下を 除く合計 (1)	固定 以下	合計
	7日以内	1ヵ月以内	3ヵ月以内	6ヵ月以内	12ヵ月以内			
	(単位：百万米ドル、%を除く)							
資産：	11,146	24,131	39,631	54,859	68,259	82,583	74	82,657
負債	10,157	21,935	35,968	45,787	61,418	82,125	0	82,125
(3ヵ月以内)：								
資産			39,631					
負債			35,968					
流動性比率			110.18%					
限度			85.00%					

注記：

(1) 1年超の勘定を含むが固定以下の勘定を含まない勘定の累積的合計である。

当行は、その資金調達需要を満たす柔軟性を促進するために、様々な流動性資源を維持している。当行は、主として個人および法人の預金者からの預金受入、コールローン市場（満期が1ヵ月未満の貸出に対する短期市場）へのアクセス、債券の発行ならびに韓国銀行からの借入によって業務資金を調達している。当

行は、主として貸出の供与または有価証券の購入にかかる資金を使用している。通常、預金は貸出または投資よりも平均満期が短い。

当行は、通常の市況のもとでの流動性リスク管理に加えて、起こり得る流動性危機に効果的に対処するために緊急時対応計画を有している。流動性危機は、数ある理由の中でも、当行の通常の資金源を利用できないか、または金融市場の崩壊や当行の信用の急激な悪化を含む様々な内外の要因により預金の引出しが多発することによって、当行が通常の流動性管理手法では状況を効果的に管理できない場合に生じる。当行は、以下の流動性指標に基づいて、「注意段階」、「危機が差し迫った段階」および「危機段階」の異なる流動性リスクの段階に対応した緊急時対応計画を備えている。

- ・金利や株価等の市場動向を反映する指標
- ・マネー・マーケット・ファンドの規模を例とする金融市場感情を反映する指標
- ・当行内部の流動性状態を反映する指標

### オペレーショナル・リスク管理

オペレーショナル・リスクは数量化が困難であり、様々な定義に従う。パーゼル委員会は、オペレーショナル・リスクを、内部プロセス、人およびシステムが不適切であるか機能しない場合、またはその他の外部事象によって生じる損失のリスクと定義している。同様に、当行はオペレーショナル・リスクを、信用リスク、市場リスク、金利リスクおよび流動性リスク以外の総合的な管理に関連するリスクと定義している。これらには、システムの不具合、人為的ミス、方針や手順の不遵守、不正、不適切な内部統制および内部手順または環境の変化によって生じるリスクで、結果として財務または財務以外の損失をもたらすリスクが含まれる。当行は、かかる損失を最小化するために、事務リスク、ITリスク（サイバー・セキュリティ・リスクを含む。）、管理上のリスクおよび法的リスクを含む、当行の事業運営に関連するオペレーショナル・リスクの監視および評価を行っている。

当行は、オペレーショナル・リスクの監視および管理を行うために、広範な方針に基づいたシステムを維持しており、組織全体に安定的かつ十分に管理された業務環境を提供することを目的とした管理の枠組みを構築している。現在、当行の銀行業務オペレーショナル・リスク手順の確実な遵守についての主な責任は、各事業部門および業務チームが担っている。また、当行の監査部、リスク管理部およびコンプライアンス部も、当行の内部統制環境の統一性の検討および維持にあたり重要な役割を果たしている。

当行のオペレーショナル・リスク管理システムは、リスク管理部のオペレーショナル・リスクチームが管理している。現行のシステムは主に、リスク管理の自己査定、主なリスク指標を用いたリスクの数量化、損失データの収集、シナリオ管理およびオペレーショナル・リスク資本測定からなっている。当行は、全従業員が本システムをよく理解することを目的とした、いくつかの教育および認識プログラムを運営している。当行はまた、本部のオペレーショナル・リスクチームとフロント・オフィスの従業員との調整役を担い、オペレーショナル・リスク管理システムを一段と向上させるための集中的なフィードバックの提供に努めるオペレーショナル・リスク・マネジャーを当行の各部門および支店で指名している。

2016年12月31日現在、当行は、当行の部門および国内外の支店についてリスク管理の自己評価を実施し、かかる評価からすべての支店に関する体系的なデータを回収し、かかる自己評価による調査結果に関連する部門または支店の手順およびプロセスの改善に役立てている。さらに、当行は2003年以降のリスク関連データを蓄積し、業務損失を監視する手順を改善しており、現在はリスク・シミュレーション・モデルを策定している。また、当行は部門レベルで約209の主要リスク指標を選定し、これらを監視している。

当行の監査委員会は1名の常任取締役および2名の社外取締役で構成され、当行の内部統制ならびに定められた倫理上および法律上の原則の遵守を監督する独立した検査機関である。監査委員会は、数ある事項の中でも特に当行の管理全般および会計について内部監査を実施し、当行の監査委員会を支援する監査部を監督する。監査委員会はまた、当行の会計方針およびその変更、財務上および会計上の事項ならびに財務報告の公平性を検討し、これらを評価する。

当行の監査委員会および監査部は、以下の監査を監督および実施する。

- ・業務全般について毎年実施される全面的な監査を含む通常監査、必要に応じて実施される選定された業務の部分的監査、ならびに定期および不定期のスポット監査。
- ・監査委員会または常任監査役が必要と認めるときに実施されるか、または最高経営責任者もしくはFSS等の監督機関の要請により実施される特別監査。
- ・当行の業務部部长または上級役員の承認を必要とする重要な取引または業務に対して、常任監査役によって実施される日々の監査。
- ・イレギュラーな取引を特定して必要な措置を講じるために、コンピューター化された監査システムによって実施されるリアルタイムのモニタリング監査。
- ・当行の業務規則および方針を業務部門が確実に遵守するための、各業務部門による自己チェックとしての自己監査（日次監査、月次監査および特別監査を含む）。

これらの監査およびコンプライアンス業務の他に、当行の監査部は、オペレーショナル・リスク管理の枠組みと、取締役会、関連部門および事業部門の機能ならびに業務の適切性を監視し、オペレーショナル・リスクについて定期的な検査を実施し、その結果を報告するオペレーショナル・リスク管理の検査担当者を指名している。当行の監査部も、オペレーショナル・リスクを最小化するために、提案された銀行商品またはその他の業務もしくはサービスの計画を事前に審査する。

通常監査、特別監査、日次監査およびリアルタイムのモニタリング監視は、当行の検査担当者によって実施され、自己監査は関連する業務部門の自己監査担当者によって実施される。

内部監査および検査の他に、FSSは当行業務の通常の年次監査を行う。FSSはまた、リスク管理、信用モニタリングおよび流動性など、当行の業務の特定の面について必要に応じて特別監査も実施する。これらの監査の通常の過程では、FSSは規制対象の金融機関またはその従業員が適用ある法律またはFSSの規則、規制およびガイドラインを遵守していないと判断する場合には、通常、警告通知を発行する。当行は過去にこうした通知を受理しており、また今後も受理することが予想されるが、当行はかかる通知に対して適切に対処しており、今後も引き続き適切に対処していく。例えばFSSは2012年の11月から12月まで当行の包括的監査を行い、当行が顧客口座を違法に監視したこと、一部の金融取引について守秘義務に違反したこと、ならびに当行の関連会社に対する1件の投資についての開示およびFSSへの報告義務を怠ったことが発覚した後、2013年7月に当行に機関注意（機関警告を繰り返した場合とは異なり、重大な制裁となるものではない。）を発し、当行の従業員65名に対する懲戒処分および87.5百万ウォンの罰金を課した。さらに2013年3月、FSSは当行の金融コンピューター・ネットワークの故障とされる事件に関し、当行に対し特別監査を行った。当行がその情報技術管理者のアカウントおよびワクチン・サーバーに関して適切なメンテナンスを行っていなかったことが発覚した後、2013年12月に当行に機関警告を発し、当行の従業員5名に懲戒処分を課した。2013年10月から2014年11月、FSSはまた、違法とされる顧客口座の監視に関し、当行に対し一連の特別監査を行い、2014年2月、韓国の検察庁もまたこの件に関して当行の調査を開始した。当行が違法に顧客口座を監視したことが発覚した後、2015年12月、FSSは当行に機関注意を通知し、当行の元役員2名に対し懲戒処分を課したが、2016年4月に検察庁が証拠不十分により当行の元役員を起訴しないことを決定した。さらにFSSは2015年4月から5月に当行の定期監査を行い、当行はかかる監査に関し、2016年6月に経営陣への注意要請5件および改善要請3件の通知を受けた。

当行は、法的リスクをオペレーショナル・リスクの一部と捉えている。当行の顧客および取引相手方の義務の法的強制力（担保権の強制執行を含む。）の不確実性によって、法的リスクが生じる。法律および規則の変更も当行に悪影響を与える可能性がある。法的リスクは、法律が裁判所で検証されていないことがよくある新規の事業分野では高くなるが、当行の従来型の事業においても、韓国における法律および規制上の状況が変化しており、多くの新たな法律や規則が裁判所で検証されていない場合においては、法的リスクが増大する。当行は、厳格なリーガル・ドキュメンテーションを使用し、取引が適切に承認されることを確実にすることを目的とした手順を採用し、法律顧問に相談することで、法的リスクの最小化に努めている。コンプライアンス部は、当行のコンプライアンス・システムを運用している。このシステムは、当行従業員のすべてによる関係法令の遵守を確実にすることを意図している。コンプライアンス・システムの主な機能は、関係法令遵守の改善度合いを監視し、内部統制を維持（各部門が適切な部内方針を確立し、かかる方針を確実に遵守するようにすることを含む。）し、法律の遵守について従業員を教育することである。コンプライアンス部はまた、自己監査の管理、実施および結果も監査する。

## リスク管理システムのアップグレード

海外子会社のリスク管理を強化し、現地および国内の規則を有効に遵守するために、当行は海外子会社のリスク・データを記録する世界規模のリスク管理システム・ネットワークを構築する過程にある。当行は、このシステムの開発を海外進出のさらなる拡大と既存の海外子会社の安定的な成長のために活用しようとしている。当行はこれまでに中国、日本、ベトナム、米国、カナダ、インド、ヨーロッパおよびメキシコの子会社について、かかるシステムの開発を完了した。当行はまた、その他の海外子会社についてこのシステムの適用を拡大する計画である。

当行はまた、2008年の世界金融危機のようなストレス・シミュレーションに備えるために、「バーゼルII」の基準に基づくストレスVaRを計算するシステムの開発を完了した。当行はかかるシステムについての認可をFSCから受け、2012年から実施している。

2012年、当行はまた、デフォルト時損失率(LGD)の高度データ処理を通じて不良資産の回収および回復を改善するシステムを開発した。2012年、当行は、外部監査法人による監査を義務付けられていない中小企業およびSOHOに対するリスク査定のための信用評価モデリングをアップグレードするための許可をFSSから取得した。このアップグレードは、かかる中小企業およびSOHOの長の信用プロフィールにおけるファクタリングに関するものである。2014年、当行はさらに、外部監査の対象となっている企業、外部監査の対象となっていない企業および企業の長についてのモデリングを完全に改造することにより、外部監査法人による監査を義務付けられていない中小企業のリスク査定の信用評価モデリングをアップグレードした。かかるアップグレードされたモデリングはFSSにより認可され、当行は、2014年からアップグレードされたシステムの実施を開始している。2014年、当行は企業のリスク査定の信用評価モデルを(i)IFRS(韓国IFRSに基づく外部監査の対象企業)、(ii)GAAP(一般に認められる会計原則に基づく外部監査の対象企業)、(iii)中小企業、および(iv)SOHOの4つのカテゴリーに再分類した。かかる再分類はFSSにより承認され、当行は2015年に同システムの実施を開始した。

さらに、2013年、当行は、当行の個人向けおよびSOHOのエクスポージャーに関するバーゼルIIの信用リスクについて内部評価モデルの利用についてFSSから承認を取得した。2016年、当行は新たな内部評価モデルを開発し、当行の個人向けのエクスポージャーに関するバーゼルIIの信用リスクについてその新たなモデルを使用することについてFSSの承認を得た。さらに、2016年に当行は、回復期間の長期化および低金利といった経済状況の変化を反映するためにAIRBアプローチを利用したLGDデータ処理についても承認を取得し、新たに承認されたLGDデータ処理は個人向けおよびSOHOの双方のエクスポージャーについて、既存のデータ処理に取って代わることとなる。

当行はまた2012年に、バーゼルIII、IFRSおよびその他の規制要件を適時に遵守し、リスク関連データの質を改善するために、資産負債管理システムをアップグレードした。2014年、当行は、毎日の測定と効果的な管理を円滑に行うために、バーゼルIIIに基づき、流動性カバレッジ比率および正味安定資金調達比率システムをアップグレードした。

リスク管理のための先進的測定手法のFSSによる認可を経て、当行はオペレーショナル・リスク管理能力をさらに強化するために、オペレーショナル・リスク管理システムを再構築した。

#### (4) 新韓フィナンシャル・グループ

##### 概要

新韓フィナンシャル・グループは、とりわけ資産合計、収入、収益性および自己資本の点で韓国の大手金融機関の一つである。新韓フィナンシャル・グループは、2001年9月1日に設立されており、韓国で設立された初の民間金融持株会社である。その設立以来、新韓フィナンシャル・グループは幅広い金融商品およびサービスを韓国で開発および導入しており、利便性の高いワン・ポータル・ネットワークを通じて総合的な金融ソリューションを顧客に提供することを目指している。FSSの報告によると、新韓フィナンシャル・グループは、2016年9月30日現在の連結ベースの資産合計で韓国最大の金融サービス・プロバイダーであり、韓国において第3位の銀行業務（2016年9月30日現在の連結ベースの資産合計による）および最大のクレジットカード業務（2016年12月31日現在のクレジットカードでの購入額による）を営んでいた。

新韓フィナンシャル・グループは、数回の合併および買収を通じて大幅な成長を遂げた。中でも2003年の新韓フィナンシャル・グループによる朝興銀行の買収によって同グループは韓国で第3位の銀行業務を有することになった。さらに、2007年3月の新韓フィナンシャル・グループによるLGカード（当時の韓国最大のクレジットカード会社である。）の買収により、韓国で最大のクレジットカード業務を有することができ、これにより新韓フィナンシャル・グループの銀行業務以外の能力が著しく拡大し、バランスの取れた事業ポートフォリオを達成することができた。

新韓フィナンシャル・グループは、現在、直接子会社13社および間接子会社24社を有しており、商業銀行業務、コーポレート・バンキング、プライベート・バンキング、クレジットカード、資産管理、ブローカーおよび保険サービスを含む幅広い金融商品およびサービスを提供している。新韓フィナンシャル・グループは、こうした幅広いサービスが当行の現在の顧客および潜在顧客の多様なニーズを満たすのに役立つと考えている。新韓フィナンシャル・グループは、現在グループ全体で1,437を超える支店網において、約26,079名の従業員を通じて約18.4百万の稼働顧客（かかる顧客基盤は、韓国で最大であると同グループは考えている。）にサービスを提供している。新韓フィナンシャル・グループの収益の90%超がこれまで韓国から得られているが、同グループは米国、カナダ、英国、日本、中華人民共和国、ドイツ、インド、オーストラリア、香港、ベトナム、カンボジア、カザフスタン、シンガポール、メキシコ、ウズベキスタン、ミャンマー、ポーランド、インドネシア、フィリピンおよびアラブ首長国連邦における165の事務所の世界的なネットワークを通じて当行の顧客のニーズに応えることを目指している。

##### 沿革および組織

2001年9月1日、新韓フィナンシャル・グループは、新韓フィナンシャル・グループの普通株式と交換に以下の4企業の発行済み株式のすべてを当該企業の旧株主から取得した結果、金融持株会社法に基づく金融持株会社として設立された。かかる4企業とは、(i)韓国取引所に上場されていた全国的な商業銀行である当行、(ii)韓国取引所に上場されていた証券会社である新韓証券、(iii)韓国取引所コスダック市場（KRX KOSDAQ）に上場されていたリース会社である新韓キャピタルおよび(iv)非上場の投資信託委託会社である新韓金融投資信託運用である。2001年9月10日、新韓フィナンシャル・グループの持株会社の普通株式は、現在KRX KOSPI市場となっている市場に上場された。

新韓フィナンシャル・グループはその設立以来業務を拡大しており、その大部分は戦略的買収または合併事業の設立によってなされている。新韓フィナンシャル・グループの主な買収および合併事業の設立を以下に記載する。

取得日	会社名	主な業務	設立方法
2002年4月	済州銀行	地方銀行業務	韓国預金保険公社からの取得
2002年7月	新韓金融投資 <sup>(1)</sup>	証券投資業務	双竜グループからの取得
2002年8月	新韓BNPパリバ投資信託運用 <sup>(2)</sup>	投資助言業務	BNPパリバとの50対50の合併事業
2003年8月	朝興銀行	商業銀行業務	債権者からの取得
2005年12月	新韓生命	生命保険サービス	株主からの取得
2007年3月	LGカード	クレジットカード・サービス	債権者からの取得
2012年1月	トマト相互貯蓄銀行 <sup>(3)</sup>	貯蓄銀行	債権者からの資産および負債の購入ならびに承継
2013年1月	イエハンビョル貯蓄銀行 <sup>(4)</sup>	貯蓄銀行	韓国預金保険公社からの取得

注記：

- (1) 2009年8月付でグッドモーニング新韓証券から新韓金融投資に社名変更。
- (2) 2009年1月、SH資産運用および新韓BNPパリバ投資信託運用は合併して新韓BNPパリバ資産運用となった。
- (3) トマト相互貯蓄銀行の一部の資産および負債を買入れ、かつ承継するために、2011年12月12日に新韓ホープ・カンパニー・リミテッドが設立された。2011年12月28日、新韓ホープ・カンパニー・リミテッドは、貯蓄銀行の免許を取得し、その社名を新韓貯蓄銀行と変更し、新韓フィナンシャル・グループの直接の子会社となった。
- (4) 2013年1月、新韓フィナンシャル・グループは韓国預金保険公社と、韓国に所在する貯蓄銀行であるイエハンビョル貯蓄銀行を45.3十億ウォンで取得する株式購入契約を締結し、イエハンビョル貯蓄銀行を新韓フィナンシャル・グループの既存の子会社である新韓貯蓄銀行と合併するための当局の許可を得た。2013年4月1日、新韓貯蓄銀行とイエハンビョル貯蓄銀行はイエハンビョル貯蓄銀行を存続会社として合併し、単一の事業体となり、新たな合併後の銀行はその名称を新韓貯蓄銀行とした。

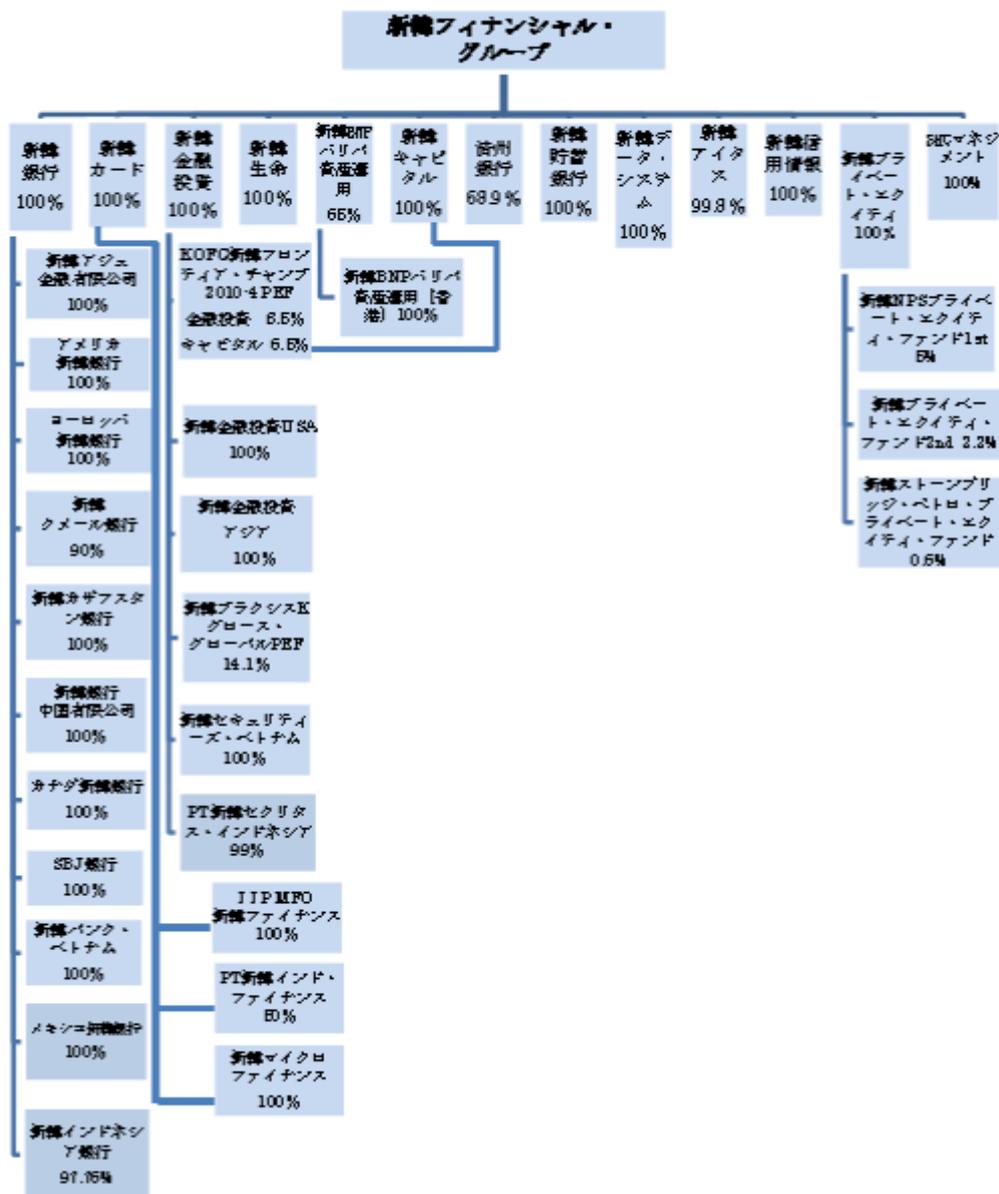
新韓フィナンシャル・グループの子会社は、以下を除いてすべて韓国で設立されている。

- ・新韓アジュ金融有限公司（香港で設立）
- ・アメリカ新韓銀行（米国で設立）
- ・カナダ新韓銀行（カナダで設立）
- ・新韓銀行中国有限公司（中華人民共和国で設立）
- ・ヨーロッパ新韓銀行（ドイツで設立）
- ・新韓カザフスタン銀行（カザフスタンで設立）
- ・SBJ銀行（日本で設立）
- ・新韓クメール銀行（カンボジアで設立）
- ・新韓バンク・ベトナム（ベトナムで設立）
- ・PT Bank Shinhan Indonesia（インドネシアで設立）
- ・メキシコ新韓銀行（メキシコで設立）
- ・LLP MFO新韓カード（カザフスタンで設立）
- ・PTシンハン・インド・ファイナンス（インドネシアで設立）
- ・新韓マイクロファイナンス（ミャンマーで設立）
- ・新韓金融投資USA（米国で設立）

- ・新韓金融投資アジア（香港で設立）
- ・新韓セキュリティーズ・ベトナム（ベトナムで設立）
- ・PT新韓セクリタス・インドネシア（インドネシアで設立）
- ・新韓BNPパリバ資産運用（香港）（香港で設立）

本書の日付現在、新韓フィナンシャル・グループは13の直接および24の間接子会社を有している。  
 下図は、2016年12月31日現在における新韓フィナンシャル・グループの組織構成を示している。

組織図



下表は、2016年12月31日現在（別段表示のない限り）における新韓フィナンシャル・グループの普通株式の実質所有に関する一定の情報を記載したものである。

株主名	所有普通株式数	所有割合（％）
韓国国民年金サービス	45,269,850	9.55%
BNPパリバSA	25,356,276	5.35%
ブラックロック・ファンド・アドバイザーズ	24,320,723	5.13%
新韓フィナンシャル・グループ従業員持株組合	22,399,084	4.72%
シティバンク・エヌ・エイ(ADR部)	13,427,614	2.83%
シンガポール政府	11,434,827	2.41%
みずほ銀行	5,955,000	1.26%
サウジアラビア・マネタリー・エージェンシー	5,945,250	1.25%
アブダビ投資庁	5,240,748	1.10%
ファーストステートインベストメントICVC-STEWART INV	4,933,492	1.04%
ザ・ラザード・ファンド・インク	4,918,711	1.04%
その他	304,998,012	64.32%
合計	474,199,587	100.00%

上記の株主を除いて、他のいかなる株主も新韓フィナンシャル・グループの発行済み議決権付株式の1%以上を保有していない。新韓フィナンシャル・グループのいかなる株主も異なる議決権を有していない。

## (5) 韓国の銀行業界

2016年12月31日現在、韓国の銀行業界は、専門銀行5行、全国規模の商業銀行6行、地方商業銀行6行および外国銀行の42支店により構成されている。

専門銀行は、特別法に基づいて設立されまたは設立が認可され、政策に従って韓国経済の特定部門において、資源の制約または収益性の欠如により商業銀行では満たすことのできない需要に応じることを目的としている。例えば、韓国産業銀行は韓国の主要産業に長期設備投資資金を提供し、一方、韓国輸出入銀行は輸出貨出および貿易金融を提供している。中小企業銀行は、中小企業部門に重点を置いており、一方、農協銀行および韓国漁業協同組合中央会（NFFC）はそれぞれの産業を支援している。韓国輸出入銀行を除き、これらすべての専門銀行はまた従来型の預金商品を提供している。

商業銀行は、一般個人向けおよび法人部門向けに業務を行うことを目的としている。全国規模の銀行は、当行、国民銀行、ウリィ銀行、KEBハナ銀行、シティバンク・コリア・インクおよびスタンダード・チャータード・バンク・コリア・リミテッドの6行である。中でも、当行、国民銀行およびKEBハナ銀行は、韓国商法および金融持株会社法に基づいて設立されたそれぞれの金融持株会社の旗艦事業会社であり、伝統的銀行業務とノンバンク業務との間のクロスセリングの機会ならびに資源配分および資本効率の向上を促進することを目的としている。

各行のソウル支店の顧客を除き、地方銀行の主要な取引顧客はその対象地域の中小企業である。地方銀行は、釜山銀行、大邱銀行、光州銀行、全北銀行、慶南銀行および済州銀行である。済州銀行は新韓フィナンシャル・グループの子会社である。

多くの国と同様、韓国の商業銀行は広範囲にわたる事業に従事することができる。その中核業務には、預金の受入れ、資金貸出および手形割引、送金および取立ならびに外国為替が含まれる。商業銀行はまた、保証・手形引受および自己勘定による有価証券投資等の業務も行う。信託およびクレジットカード業務といった非銀行業務の各分野に従事する場合は、個別の認可を得なければならない。さらに、多くの商業銀行は、非金利事業だけでなく、バンカシュアランスおよびファンド販売といった手数料ビジネスにもその業務を拡大してきている。

## (6) 監督および規制

### 銀行に適用される主要な規制

韓国の銀行制度は、銀行法および1950年韓国銀行法（その後の改正を含む。以下「韓国銀行法」という。）による規制を受ける。また、韓国の銀行は、韓国銀行、韓国銀行の金融政策委員会、FSCおよびその執行機関であるFSSによる規制および監督を受ける。

韓国銀行法に基づき1950年6月に設立された韓国銀行は、中央銀行の通常の機能を果たす。韓国銀行は、効率的な通貨信用政策の策定および実施を通じて物価の安定を図ることにより、韓国経済の健全な発展に寄与することを目的としている。韓国銀行は、その最高政策決定機関である金融政策委員会の指示に基づき業務を営む。

韓国銀行法に基づき、金融政策委員会は、通貨政策および信用政策の策定ならびに韓国銀行の業務、管理および運営に関する決定を主要な任務としている。FSCは1998年4月1日に金融監督委員会として設置され、その後2008年3月3日に金融委員会に名称を変更し、銀行法に従い、商業銀行の自己資本比率に関するガイドラインの策定を含む商業銀行に対する規制を行い、銀行の監督に関する規制を制定する。さらに、1999年5月24日の政府組織法および銀行法の改正に従い、FSCは現在、企画財政部に代わり、銀行業への市場参入規制も行っている。

FSSは、FSCの指示および指令に従い、商業銀行の監督および検査を行う。FSSはとりわけ、銀行の流動性の慎重な管理および自己資本比率に関する要件を定め、FSC規則により委任された権限に従い報告要件を設定し、銀行はこれに従って財務実績および株式保有に関する年次報告書、経営戦略、不良債権（償却を含む。）および問題企業の管理に関する定期報告書ならびに不良債権の処分計画を提出しなければならない。

銀行法の下では、商業銀行業務または長期金融業務を開始するにはFSCからの承認を取得しなければならない。商業銀行業務は、その大部分を預金の受入れから得た資金の貸出でその期間が1年を超えないもの、またはFSCの定める一定の制限に従い1年から3年の間のものと定義される。長期金融業務は、その大部分を払込資本金、準備金、その他の留保利益、満期まで1年以上の預金受入れまたは債券もしくはその他有価証券の発行から得た資金の貸出でその期間が1年超のものと定義される。信託業務といった商業銀行および長期金融業務以外の業務に参入することを希望する銀行は、FSCの承認を受けなければならない。他の金融機関との合併、解散、銀行業務の廃止または事業の全部もしくは一部の譲渡に対する認可もFSCから取得しなければならない。

政府が銀行の財政状態が不健全であるとみなす場合または銀行が韓国法に定める適用ある自己資本比率を満たすことができない場合、政府はとりわけ以下の事項を命令することができる。

- ・ 増資または減資
- ・ 担当役員の任務の遂行停止および保管会社の任命の停止
- ・ 株式の消却または併合
- ・ 事業の一部または全部の譲渡
- ・ 資産の売却および高リスク資産の取得禁止
- ・ 支店の閉鎖もしくは規模縮小または従業員の削減
- ・ 金融持株会社法に基づく金融持株会社との合併またはその子会社になること
- ・ 第三者による銀行の買収
- ・ 事業活動の一部または全部の停止
- ・ 金融取引に関する契約上の権利義務の譲渡

## 自己資本比率

銀行法は、全国規模の銀行の場合は最低100十億ウォン、地方銀行の場合は最低25十億ウォンの払込資本金を維持しなければならないと定めている。

最低資本要件の他に、韓国に所在する外国銀行の支店を含むすべての銀行は、所定の支払能力を維持しなければならない。銀行はまた、稼得した純利益にかかる配当の支払ごとに、税引後純利益の少なくとも10%の利益準備金を、かかる利益準備金が払込資本金合計に達するまで積み立てなくてはならない。

銀行法の下で、銀行の資本はTier I資本およびTier II資本の2つのグループに分けられる。Tier I資本（通常「コア資本」という。）は、(i)株式資本、資本剰余金および利益剰余金といった普通株式の発行により発生し、銀行が被った損失を吸収することができる資本（「普通株式資本金」と総称する。）、ならびに(ii)普通株式資本金を使い切った後に銀行の損失を吸収することができる資本で、FSSにより指定された要件を満たすTier I資本商品の発行により発生する株式資本および資本剰余金（「その他のコア資本」と総称する。）からなっている。Tier II資本（通常「補完的自己資本」という。）は、コア資本に相当する資本であるが、コア資本には含まれず、FSSにより指定された要件を満たすTier II資本商品の発行により発生する株式資本および資本剰余金で、銀行が清算された後で損失を吸収することができる資本ならびに「正常」および「要注意」に分類された債権のための貸倒引当金を表している。

銀行業務の監督に関する細則に基づき、Tier I資本商品はとりわけ、その他のコア資本として認識されるために下記の要件を満たさなければならない。

- (i) かかる商品の価格は発行手続きを通じて全額払込済であり、ステップアップまたは償還をトリガーする要因のない永久的な形式でなければならない。
- (ii) かかる商品は、預金者、一般債権者および銀行の劣後債務に劣後することについての特別合意（破産または同様の事象が発生した場合、劣後債権者の支払請求権は、非劣後債権者の請求が全額返済された後で初めて有効となるとする特別合意をいう。以下同様である。）により拘束されなければならないが、債務者再生および破産法に基づき破産宣告する時点において資産を上回る負債とならないこと。
- (iii) 銀行が韓国金融業構造改善法もしくは適用ある韓国預金者保護法に基づく「支払い不能金融機関」として指定された日から配当もしくは利息の支払いが停止されるか、または上記の事象が解除されるまで、FSCが業務改善提言、業務改善要請、業務改善命令および緊急対策といった銀行業務の監督に関する規則に基づく銀行に対する措置を講じること。
- (iv) 配当または利息の支払いは、銀行の信用格付に関連して決定されないこと。
- (v) 配当は分配可能利益からのみ支払うことができること。
- (vi) 銀行は配当または利息の支払いをいつでもその単独の裁量で取消することができること。
- (vii) 普通株主に対する配当に関する場合を除き、配当の支払いの取消しにより銀行に制約が課されないこと。
- (viii) 配当または利息の支払いの取消しは債務不履行事由とはみなされてはならず、銀行はその単独の裁量で配当もしくは利息の支払いを取消された金額を、その時点で返済期限が到来している銀行のその他の債務の償還のために使用することができること。(ix) かかる商品は発行日から5年以内に償還されてはならず、発行日から5年経過した後も、銀行はその単独の裁量でかかる商品を償還するか否か決定することができ、かかる商品は、実際にその商品を発行する銀行に対し、償還されるか、償還の負担を課す条件を有することにより投資家に期待を持たせるようないかなる条件の対象にもなっていないこと。
- (x) 銀行業務の監督に関する規則施行細則の別紙3 - 5（偶発資本証券トリガー事象）に規定される要件を充たしていること。
- (xi) 銀行または銀行に対する事実上の支配力を有する者は、資本商品を購入してはならず、かかる商品を購入する者に対し、支払いの担保もしくは保証の提供または貸付によりその購入資金を提供してはならず、その商品に対して支払われた価格についての請求の優先性を法的もしくは経済的に引上げてはならず、その商品の購入者に対して直接または関連会社を通じて担保もしくは保証を提供してはならないこと。
- (xii) かかる資本商品は、商品を発行する銀行の将来の資本調達もしくは資本拡大を妨げる条件を有しないこと。

銀行業務の監督に関する細則に基づき、Tier II資本商品はとりわけ、補完的自己資本として認識されるために下記の要件を満たさなければならない。

- (i) 発行手続きが完了しており、かかる資本商品の価格が全額払込済みで、かかる資本商品は、預金および通常債務に劣後する旨の特別合意によって拘束されていること。
- (ii) Tier II資本商品の満期は発行日から5年以上とし、発行日から5年未満で償還されてはならないこと。
- (iii) ステップアップ条項のような銀行にかかる資本商品を償還することを奨励する条件がなく、かつ銀行はその単独の裁量により、かかる商品を満期日前に償還するかどうかを決定することができ、かつ、かかる商品には、かかる商品が償還されると投資家に期待させるような条件または実際の発行銀行に償還の負担を課すような条件もないこと。
- (iv) 銀行が破産または清算の対象となる場合を除き、Tier II資本商品の保有者は、当初の支払期日前にかかる商品の元金または利息の支払いを銀行に要求する権利を有してはならないこと。
- (v) 配当または利息の支払は、銀行の信用格付に関連して決定されてはならないこと。
- (vi) 銀行業の監督に関する規則施行細則の別紙3-5（コンティンジェント・キャピタル証券のトリガー事象）に規定される要件を充たしていること。
- (vii) 銀行または銀行が重大な支配力を行使する者もしくは事業体は、かかる銀行が発行する資本商品を購入してはならず、かかる資本商品を取得しようとする者もしくは事業体のために、担保の提供もしくは保証もしくは貸出の提供により、直接もしくは間接にこれを取得するための資金を提供してはならないこと。
- (viii) 銀行は資本商品の支払優先性を法的または経済的に強化してはならず、かかる資本商品を取得する者または事業体のためにいかなる担保もしくは保証を直接もしくはその関連会社を通じて間接に提供してはならないこと。

すべての銀行は、国際決済銀行（以下「BIS」という。）の基準に基づき策定されたFSCの要件に従い決定されたリスク・アセットに対するTier I資本およびTier II資本（資本控除項目を除く。）の最低比率に関する基準を満たさなければならない。これらの基準は1996年に採用され、実施された。これらの規制に基づき、すべての国内銀行および外国銀行支店はリスク・アセットに対するTier I資本およびTier II資本（資本控除項目を除く。）の比率を最低8%とすることが義務付けられている。さらに、韓国においてバーゼルIIIが採択され、2013年12月1日から段階的に実施されているため、韓国のすべての銀行は銀行業務の監督に関する規則に定められる普通株式資本金（資本項目控除後）およびコア資本（資本項目控除後）のリスク・アセットに対する最低比率を充たさなければならない。普通株式資本（資本項目控除後）のリスク・アセットに対する最低比率要件は4.5%で、コア資本（資本項目控除後）のリスク・アセットに対する最低比率要件は6.0%である。

さらに、追加的資本保全バッファ要件が2016年1月1日から2019年1月1日までに段階的に実施されている。かかる要件に基づき、韓国の銀行は2016年1月1日から0.625%の資本保全バッファを維持することが義務付けられ、これは2017年1月1日に1.25%に、2018年1月1日に1.875%に、2019年1月1日に2.5%に、段階的に引き上げられる。

銀行業務の監督に関する規則および同規則に基づき公布された細則に基づき、韓国の銀行はその住宅抵当ローンに関して下記のリスク・ウェイト比率を適用している。

- (1) 信用リスク・アセットの測定について標準的手法を採用している銀行に対しては、35%のリスク・ウェイト比率、および
- (2) 信用リスク・アセットの測定について内部格付手法を採用している銀行に対しては、デフォルト確率、デフォルト時損失率およびデフォルト時エクスポージャー（それぞれ銀行業の監督に関する細則において定義される。）を参照して測定されるリスク・ウェイト比率。

銀行のリスク管理の改善および自己資本比率の向上を目的として2004年6月にバーゼル委員会によって取り決められた合意であるバーゼルIIIは、韓国において2008年1月に実施された。バーゼルIIIに従い、8%の自己資本比率を維持することに加え、不適切な手続、従業員による損失リスク、内部制度、予期せぬ事態の発生といったオペレーショナル・リスクならびに信用リスクおよび市場リスクが、リスク・アセットの測定の際に考慮される。バーゼルIIIに基づき、信用リスクの資本要件は内部格付（IRB）手法または標準的手法により測定することができる。

標準的手法に基づき、居住用不動産に対する第1位抵当権により完全に担保される住宅抵当ローンのリスク・ウェイトは35%である。

銀行業務の監督に関する規則に基づき、銀行は韓国IFRSに従った健全性のクラスごとに貸倒引当金を備えなければならない。以下の基準に従い計算された健全性のクラスごとの金額が備えられた貸倒引当金を上回った場合、かかる超過金額は決算日ごとに規制上の貸倒損失準備金として取置かなければならない。

- ・ 正常の与信については0.85%（または建設、小売および卸売、宿泊、外食、不動産およびリースを含む一定の業種に対する貸出からなる正常与信の場合は0.9%、個人および家計への貸出からなる正常与信

の場合は1.0%、クレジットカード・ローンからなる正常の与信の場合は2.5%ならびにその他のクレジットカード債権からなる正常の与信の場合は1.1%)。

- ・ 要注意の与信については7% (または個人および家計への貸出からなる要注意与信の場合は10%、クレジットカード・ローンからなる要注意の与信の場合は50%ならびにその他のクレジットカード債権からなる要注意の与信の場合は40%)
- ・ 固定の与信については20% (または韓国企業再生法または韓国債務者再生および破産法の第180条2項に従い当行が優先的に支払いを受ける権利を有する資産(以下「優先資産」という。)からなる固定の与信の場合は10%、クレジットカード・ローンからなる固定の与信の場合は65%ならびにその他のクレジットカード債権からなる固定の与信の場合は60%)
- ・ 回収疑問の与信については50% (または優先資産からなる回収疑問の与信の場合は25%、個人および家計への貸出からなる回収疑問の与信の場合は55%ならびにクレジットカード・ローンおよびその他クレジットカード債権からなる回収疑問の与信の場合は75%)
- ・ 推定損失の与信については100% (または優先資産からなる推定損失の与信の場合は50%)

さらに、銀行業務の監督に関する規則に基づき、銀行はその確認保証(確認手形引受を含む。)および未使用のクレジット・ライン残高に関する貸倒損失に対し、上記の貸出残高ならびにその他与信の正常、要注意、固定、回収疑問および推定損失の与信に適用されるのと同じ割合で計算した合計金額の貸倒引当金および規制上の貸倒損失準備金を維持しなければならない。

FSCは2016年1月1日付で、システム上重要な銀行の追加資本積立およびカウンターシクリカル資本バッファ要件に関するバーゼルIIIの要件を実施した。FSCは年ごとに国内の金融システム上重大な影響力(規模およびその他金融機関との関係に基づく)を有する銀行を国内のシステム上重要な銀行として指定し、以下のうち最も高いものに従い追加資本を積立てることを義務付けることができる。(i)普通株式資本のリスク・アセットに対する比率がシステム上の重要性評価スコアにより、0.0%から2.0%、(ii)銀行の持株会社が国内のシステム上重要な持株会社である場合、金融持株会社監督規則に基づき銀行持株会社に義務付けられる追加資本に対応する比率、または(iii)銀行がまたバーゼル委員会によって定義されるグローバルなシステム上重要な銀行である場合、バーゼル委員会によって義務付けられる資本比率。新韓フィナンシャル・グループおよび当行は2017年に国内のシステム上重要な銀行持株会社および国内のシステム上重要な銀行にそれぞれ指定された。FSCの指示に従い、当行を含む国内のシステム上重要な銀行は、2016年1月1日から0.25%の追加的資本バッファを維持することが義務付けられ、かかる資本バッファは毎年0.25%ずつ引上げられ、2019年1月1日までに1.00%に引上げられる。FSCはまた、四半期ごとの検討により、銀行が積立てなければならないカウンターシクリカル資本バッファの水準をGDPに対する与信の増加程度といった要因を考慮して、リスク・アセットの0%から2.5%の範囲で決定し、義務付けることができる。FSCは2016年3月以来、カウンターシクリカル資本バッファ要件を0%に維持しており、2017年第2四半期についてもカウンターシクリカル資本バッファ要件を0%に維持すると見込まれる。

## 流動性

すべての銀行は、十分な流動性を確保するために、銀行法に従ってその資産および負債の満期を一致させなくてはならない。銀行は、Tier I資本およびTier II資本(資本控除項目を除く。)の合計額の100%を超える金額を、株式または満期まで3年超の期間を有するその他の証券に投資してはならない。しかし、この規制は、韓国国債、韓国銀行が発行した金融安定債には適用されない。

FSCは当行を含む韓国の銀行に流動性カバレッジ比率を2015年1月1日現在で80.0%以上、2016年1月1日現在で85.0%以上、2017年1月1日現在で90.0%以上、2018年1月1日現在で95.0%以上および2019年1月1日現在で100%以上に維持することを要求している。FSCは流動性カバレッジ比率を、容易に現金化可能な流動性の高い資産を、バーゼルIIIに基づく流動性カバレッジ比率の要件を実施するために2016年6月28日付で改訂された銀行業務の監督に関する規則に基づく流動性カバレッジ比率に従って設定されたストレス水準のもとでの翌30日間の正味キャッシュ・アウトフローで除したものと定義している。

外貨建て流動性比率に関し、銀行業務の監督に関する規則は、外国為替業務を行う金融機関(すなわち銀行)は、外貨建ての負債が直前の半期末現在で500百万米ドルまたはその負債合計の5%以上である場合、80%以上の外貨建て流動性比率を維持することを義務付けている。「外貨建て流動性比率」とは、翌30日間における外貨建て資産および負債に関する正味キャッシュ・アウトフローに対する流動性の高い資産の比率である。外貨建て負債が直前の半期末現在で500百万米ドル未満またはその負債合計の5%未満である外国為替業務を行う金融機関の場合、(i)残存期間が3ヵ月未満の資産の残存期間が3ヵ月未満の負債に対する比率は85%以上でなければならず、( )残存期間が1ヵ月未満の資産が残存期間が1ヵ月未満の負債を10%超上回ってはならない、とする比率の維持が義務付けられ、外貨建て資産および負債を残存期間ごとに分類し、管理しなければならない。

韓国銀行金融政策委員会は、銀行が預金債務に対して維持しなければならない最低支払準備要件を設定し、これを変更する権限を付与されている。現行の最低支払準備率は、ウォン建ての要求払い預金の残高については平均残高の7.0%、ウォン建ての従業員資産形成貯蓄預金、従業員長期貯蓄預金、従業員住宅購入貯蓄預金、長期住宅購入貯蓄預金、家計長期貯蓄預金および従業員優先貯蓄預金の残高に対しては平均残高の

0.0%、ならびにウォン建ての定期および貯蓄預金、相互積立、住宅積立および譲渡性預金証書の残高については平均残高の2.0%である。外貨建て預金債務に対する最低支払準備率は、貯蓄預金の残高に対しては2.0%、要求払い預金に対しては7.0%、オフショア口座、移民口座および外国為替銀行に開設された居住者口座に対しては1.0%である。

## 預貸率

2009年12月、FSSは、銀行が過去数年に渡って住宅に係る抵当権や中小企業への貸出金を付与することで過度に競って資産規模を拡大した結果、預貸率が継続的に上昇したことから、韓国の銀行の流動性が全般的に不安定になったと判断し、銀行業務の監督に関する規則の改正により預貸率に関する新たな一連の規制を導入することを発表した。銀行業務の監督に関する規則（2010年8月19日付および2014年12月26日付で改正され、それぞれ2014年1月1日および2015年1月1日から効力が生じている。）は、保有するウォン建て貸出金の直前の四半期の最終月の価値が2兆ウォン以上の銀行に対して、ウォン建て貸出金（韓国産業銀行もしくは韓国政府から借り入れた資金を利用した一定の種類貸出または韓国銀行連合会の一定の業務規則に基づいて行われた貸出を除く。）のウォン建て預金（譲渡性預金証書を除く。）およびカバード・ボンドの発行に関する法律に基づく満期が5年未満のカバード・ボンドの残高（カバード・ボンドの発行によるかかる調達資金がウォン建てで使用され、かつ、ウォン建て預金の1%を超えない場合に限る。）に対する比率を1対1未満に維持することを義務付けている。2016年12月31日現在における毎月の平均残高に基づく当行の預貸率は97.51%であった。

## 単一顧客および大株主に対する金融エクスポージャー

銀行法に基づき、一定の例外を除き、銀行による重大な信用エクスポージャー、すなわちTier I資本およびTier II資本（資本控除項目を除く。）の合計額の10%を超える単一の個人、法人またはかかる個人もしくは同一の企業集団（独占規制および公正取引に関する法に定義される。）に属する企業といった法人と信用リスクを共有する者に対する貸出の合計額は、当該銀行のTier I資本およびTier II資本（資本控除項目を除く。）の合計額の5倍を超えてはならない。一定の例外を除き、いかなる銀行も、そのTier I資本およびTier II資本（資本控除項目を除く。）の合計額の20%を超えて個人または法人に対する与信（貸出、保証、有価証券の購入（与信の性質を有する場合に限る。）および直接または間接に信用リスクを生むようなその他の取引を含む。）を行うことを認められておらず、また、いかなる銀行も、同一の企業集団（独占規制および公正取引に関する法律に定義される。）に属する個人、法人および会社に対して、そのTier I資本およびTier II資本（資本控除項目を除く。）の合計額の25%を超える貸出を行うことはできない。

銀行法に従い、大株主に対する与信には一定の規制が適用される。「大株主」の定義は以下のとおりである。

- ・（銀行法に関する大統領令に定義される当該株主と特別な関係にある個人と併せて）銀行の発行済議決権付株式総数の10%（地方銀行の場合は15%）超を保有する株主、または
- ・銀行（地方銀行を除く。）の発行済議決権付流通株式総数の4%超（銀行法に関する大統領令に定めるとおり、当該株主と特別な関係にある個人と併せて）を保有する株主で、かかる株主が最大株主であるかまた当該銀行の主要事業を実質的に支配できる（例えば、最高経営責任者または経営陣の過半数の任命および解任を通じて）場合。

銀行法のもとで、銀行は、大株主（および銀行法に関する大統領令に定義される当該大株主と特別な関係にある個人と併せて）に対して、(1)当該銀行のTier I資本およびTier II資本（資本控除項目を除く。）の合計額の25%と、(2)当該大株主の株式保有率に当該銀行のTier I資本およびTier II資本（資本控除項目を除く。）の合計額を掛けた額のいずれか低い方を超える金額の与信を行うことを禁じられている。また、銀行のすべての大株主に供与された与信額の合計は、当該銀行のTier I資本およびTier II資本（資本控除項目を除く。）の25%を超えてはならない。

銀行の信用リスクを管理する際、銀行による信用補完措置のうち、貸出契約、資産担保コマーシャル・ペーパー買受契約、劣後受益証券の購入および資産担保証券に基づく債務不履行に対する保証書の提供による債務引受が銀行に対して金融エクスポージャーを発生させる例である。

## 利率

韓国の銀行は、主要資金源として預金の受入れに引続き依存している。現在、韓国では、貸出事業法に基づく利息の上限金利の年27.9%を除いては、貸出金利に関する法的規制はない。

## 中小企業向け貸出

商業銀行（当行を含む。）が、韓国銀行により「優先的借り手」として特別に指定された特定の新設企業、ベンチャー企業、革新的企業およびその他の戦略的な中小企業に対するウォン建て貸出を提供する場

合、韓国銀行は一般に、韓国銀行により規定される月次調整限度額（現在5.9兆ウォン）の範囲で、優先的借り手に対する貸出金全額の50%を上限として譲許的な金利で、これらの銀行にその原資となる資金を提供する。ただし、すべての商業銀行により優先的借り手に提供されたかかる貸出金がある月に規定の限度額を上回った場合、翌月の譲許的資金提供は、各商業銀行が優先的借り手に対しその配分に先立つ2ヵ月に提供した貸出金に比例してこれらの銀行に配分される。このため、ある特定の銀行の優先的借り手に対する貸出金提供が他の銀行より少ない場合、かかる銀行が韓国銀行から譲許的な金利で受領できる資金の額は比例的に減額される。

### 管理運営実績の開示

一般公衆、とりわけ預金者および株主が銀行をより良く監視できるようにするために管理運営実績の強制開示を行うことを目的として、FSCは商業銀行にとりわけ以下の事項の一般開示を義務づけている。

- ・前月末現在における単一の企業グループに対する銀行のTier I資本およびTier II資本（資本控除項目を除く。）の合計額の10%を超える金額の貸出で利益を生じないもの（かかる借り手に対する貸出エクスポージャーが銀行業務の監督に関する規則に基づき施行された細則に従い計算されている場合）。ただし、単一の企業グループに対する貸出エクスポージャーが4十億ウォン以下のものを除く。
- ・前月末現在における銀行のTier I資本およびTier II資本（資本控除項目を除く。）の合計額の1%を超える金額の、裁判所の判決または民事手続における類似の決定に起因する損失。ただし、損失が1十億ウォン以下の場合を除く。

### 貸出に関する規制

銀行法に基づき、商業銀行は、以下のいずれの種類の貸出も行うことを禁じられている。

- ・自行株式を担保として直接または間接に行われる貸出
- ・自然人または法人による自行株式の購入を可能にするために直接または間接に行われる貸出
- ・銀行の役員または従業員に対して行われる貸出（ただし、(1)一般貸出の場合は20百万ウォン、(2)一般貸出に住宅ローンを加算する場合は50百万ウォンまたは(3)一般貸出、住宅ローンおよび金融取引上の従業員の不正行為に起因する損害賠償金を支払うための貸出の場合は合計60百万ウォンを上限とする少額貸出を除く。）
- ・銀行の子会社の株式を抵当として担保される与信（貸出を含む。）または自然人もしくは法人が銀行の子会社の株式を購入することを可能とするための与信（貸出を含む。）
- ・20百万ウォン以下の一般貸出または合計50百万以下の一般貸出および住宅ローンを除く銀行の子会社の役員もしくは従業員に対する貸出

### 個人世帯向け貸出に関する最近の規制

FSCは近年、銀行が個人世帯向け貸出残高を評価し、報告する仕組みについていくつかの変更を実施し、さらに変更を行うことを提案している。住宅または他の形態の住宅を担保とする貸出金の急増を受けて、FSCおよびFSSは、下記を含む住宅を担保とした新規貸出またはリファイナンスを抑制するために複数の規制を実施した。かかる規制には以下が含まれる。

- ・全国に所在する住宅（集合住宅を含む。）を担保として行われる貸出に関しては、ローン資産価値比率（担保評価額に対する当該担保により行われる貸出の元本総額）は60%を超えないものとする。
- ・投資が過剰と政府が指定する地域に所在する住宅（集合住宅を含む。）または投機性が高いと政府が指定する地域に所在する住宅（集合住宅を除く。）を担保として行われる貸出に関しては、それぞれの場合において（a）満期が3年以内の貸出のローン資産価値比率は50%を超えないものとし、（b）満期が3年超の貸出のローン資産価値比率は60%を超えないものとする。
- ・投機性が高いと政府が指定する地域に所在する集合住宅を担保とするローンに関しては、（ ）満期が10年以下のローンのローン資産価値比率は40%を超えないものとし、（ ）満期が10年超のローンのローン資産価値比率は（a）当該集合住宅の価格が600百万ウォンを超える場合は40%を超えないものとし、（b）当該集合住宅の価格が600百万ウォン以下の場合は60%を超えないものとする。
- ・上記にかかわらず、住宅（集合住宅を含む。）を担保として行われる貸出に関しては、10年間にわたり償却される貸出のローン資産価値比率は70%を超えないものとする。
- ・（ ）借り手の配偶者がすでに住宅により担保される貸出を受けているか、または（ ）借り手が独身かつ30歳未満の場合は、投機性が高い地域として政府が指定する地域に所在する集合住宅により担保される貸出に関する借り手の債務所得比率（（ ）（x）当該集合住宅により担保される貸出の元金と（y）

借り手のその他の債務の利息を合計した年間支払総額を（ ）借り手の年収で除して算定される。）は40%を超えてはならない。

- ・ 投機性が高いと政府が指定する地域または投資が過剰と政府が指定する一定の大都市圏に所在する評価額600百万ウォン超の集合住宅により担保される貸出に関しては、借り手の債務所得比率は40%を超えないものとする。
- ・ 投機性が高いと政府が指定する地域に所在する集合住宅に関しては、借り手は当該集合住宅により担保された新規貸出を1度しか受けることができない。
- ・ 投機性が高いと政府が指定する地域に所在する集合住宅により担保された貸出を借り手が2件以上受けている場合、満期を延長する場合には、満期の最も早く到来する貸出がまず返済されなければならない、貸出件数は最終的に1件まで減らさなければならない。
- ・ 銀行は未成年者に住宅担保ローンを提供することを禁じられている。
- ・ やむをえない場合を除き、銀行は投機性が高いと政府が指定する地域に所在する集合住宅を、かかる住宅を取得するための会社向け貸出の担保として受入れることを禁じられている。

上記にかかわらず、FSSは、住宅ローンに関する規則を合理化するために、銀行法に基づく銀行を含むすべての金融機関は2014年8月1日以降、最高ローン資産価値比率を70%（一部の例外を除き、資産の所在地にかかわらず。）とし、最高債務所得比率を60%（一部の例外を除き、ソウル広域首都地域に所在する集合住宅に関してのみ。）とする行政指導を2014年7月に定めた。かかる行政指導は数回延長され、2017年7月31日まで有効である。

### 不動産投資に関する規制

銀行は、事業を行うために必要な範囲に限り不動産を所有することができ、当該不動産の価値の総額は、Tier I資本およびTier II資本（資本控除項目を除く。）の合計の60%を超えてはならない。銀行が(1)担保権者としての権利の行使により取得した不動産または(2)銀行法により取得が禁じられる不動産は、規則により別途定めのある場合を除き、3年以内に処分しなければならない。

### 他企業の株式保有に関する規制

銀行法に基づき、銀行は、他企業の発行済議決権付株式の15%超を保有してはならない。ただし、とりわけ下記の場合を除くものとする。

- ・ かかる株式を発行する企業がFSCの定める種類の金融業に該当する事業（プライベート・エクイティ・ファンドに対する株式持分を保有することをその事業目的とする会社を含む。）に従事している場合、または
- ・ 銀行による株式の取得がかかる企業の企業再編上必要であり、かつFSCの承認を受けている場合。

上記の場合、銀行は以下の要件のいずれかを満たさなければならない。

- ・ 発行済議決権付株式の15%超を保有する企業に対する銀行の投資総額が、Tier I資本およびTier II資本（資本控除項目を除く。）の合計の20%を超えないこと、または
- ・ 買収がFSCの定める要件を満たしている場合に、発行済議決権付株式の15%超を保有する企業に対する銀行の投資総額が、Tier I資本およびTier II資本（資本控除項目を除く。）の合計の30%を超えないこと。

銀行法により、銀行はTier I資本およびTier II資本（資本控除項目を除く。）の合計の1%相当額を超えて当該銀行の大株主が発行する株式を取得するために、自己の銀行勘定および信託勘定を利用することを禁じられている。

## 銀行の所有に関する規制

銀行法の下で、一定の例外を除き、単一の株主およびかかる株主と特殊関係にある個人（銀行法大統領令に定義される。）は、全国規模の銀行の発行済議決権付株式の10%および地方銀行の発行済議決権付株式の15%を上限として、実質的所有権を取得することができる。政府、韓国預金保険公社および金融持株会社法に基づき適格である金融持株会社は、かかる上限による制約を受けない。ただし、非金融グループ会社（すなわち、(1)グループに属するすべての非金融会社の純資産総額が、当該グループのすべての構成員の純資産総額の25%以上である同一の株主グループ、(2)グループに属するすべての非金融会社の資産総額が2兆ウォン以上である同一の株主グループ、(3)上記(1)または(2)に記載された同一の株主グループが発行済株式総数の4%超を所有する投資信託、(4)FSCMAに基づくプライベート・エクイティ・ファンドで、(i)かかるプライベート・エクイティ・ファンドの無限責任組員、(ii)かかるプライベート・エクイティ・ファンドにおける株式保有比率が10%以上である有限責任組員、または(iii)独占規制および公正取引に関する法律に定義される同一のコングロマリットに属する単一の企業集団のメンバー企業で、かかるプライベート・エクイティ・ファンドにおける合計株式保有比率が30%以上である有限責任組員であり、上記の(1)から(3)のいずれかに該当する場合、または(5)プライベート・エクイティ・ファンドの特別目的会社で、上記(4)に記載されるプライベート・エクイティ・ファンドが特別目的会社の発行済株式の4%超を保有するかもしくは特別目的会社の主要な経営事項に対して、例えば役員の任命および解任を通じて事実上の支配権を有する場合は、全国規模の銀行の発行済議決権付株式の4%を超える実質所有権を取得することはできない。ただし、かかる非金融グループ会社は、下記の条件のもとで、実質所有権を取得することができる。

- ・かかる非金融グループ会社が4%を超える株式に関する議決権を行使しないという条件のもとに、FSCの承認を得ている場合には、全国規模の銀行の発行済議決権付株式の10%まで。
- ・外国人（外国人投資促進法に定義される。）が全国規模の銀行の発行済議決権付株式の10%以上を保有する場合には、FSCの承認を得ずに当該銀行の発行済議決権付株式の10%まで、およびかかる外国人が当該銀行の発行済議決権付株式の10%、25%または33%超を保有する場合には、FSCの承認を得てかかる外国人が保有する株式数まで。

また、いずれの者（韓国国民であるか外国人であるかを問わない。）も、上記の非金融グループ会社を除き、全国規模の銀行の発行済議決権付株式総数の10%超を取得することができる。ただしこれは、保有総数が当該銀行の発行済議決権付株式総数の10%（地方銀行の場合は15%）、25%または33%を超える場合はFSCの承認を得ていることを条件とする。

## 預金保険制度

預金者保護法は、預金保険制度を通じて、韓国における銀行の一定の預金について保証を行うものである。預金者保護法の下で、当行を含む銀行法による規制を受けるすべての銀行は、四半期ベースで預金者保護法施行令の定める料率による保険料を韓国預金保険公社に支払わなければならないが、これは所与の年度における当該銀行の被保険預金の0.5%を超えないものとする。現在の銀行の保険料は、各四半期の被保険預金の0.02%である。韓国預金保険公社が保険金を支払う場合、韓国預金保険公社は当該支払額を限度に預金者の債権を取得する。現行の規則の下で、韓国預金保険公社は、預金の預入れ時期および規模にかかわらず、ひとりにつき、単一の金融機関における預金および利息の合計額の50百万ウォンまでのみを保護する。

## 信託業務

信託業務を開始しようとする銀行はFSCによる承認を得なければならない。銀行の信託業務活動は、FSCMAの適用を受ける。銀行業務および信託業務の両方に従事する銀行は、以下を含む一定の法律上および会計上の手続要件に従う。

- ・銀行法、FSCMAおよび信託法の下で、韓国の銀行が受託した信託財産は、当該銀行の勘定における他の資産と分別管理しなければならない。したがって、銀行業務および信託業務の双方に従事する銀行は、「銀行勘定」と「信託勘定」の2つの別個の勘定および銀行業務と信託業務それぞれの詳細を示す2つの別個の記録を管理しなければならない。
- ・信託勘定を構成する財産は、トラスティーが清算または解散する場合、かかる銀行の預金者またはその他の一般債権者への弁済に充てることに利用することはできない。

銀行がFSCMAに基づく集団投資業事業体、トラスティー、カストディアンまたは一般事務管理者として資格を有し、かつその業務を行う場合、銀行業務、集団投資業務、トラスティー業務またはカストディー業務および一般事務管理の間の潜在的な利益相反を防止するための関連管理運営制度を構築しなくてはならない。これらの措置には以下のものが含まれる。

- ・特定の業務に携わる役員、取締役および従業員が、他の業務に役員、取締役および従業員として関わることの禁止。ただし、役員または取締役が(1)FSCMA大統領令に従って重要な利益相反のない複数の事業活動を担当している場合、または(2)FSCMAに従って、信託業もしくはカストディー業を担当しており、同時に一般事務管理業も担当している場合を除く。
- ・コンピューター機器またはオフィス機器の共同使用または共有の禁止。
- ・異なる業務部門の役員、取締役および従業員による、またはそれらの間における情報共有の禁止。

資産運用会社としての資格を有し、集団投資業事業体として業務を行っている銀行は、かかる銀行が運用する投資信託の受益証券の販売に従事することができる。ただし、かかる銀行は以下の業務に従事することを禁止されている。

- ・かかる銀行により運用される投資信託のトラスティーとして行為すること。
- ・かかる銀行自身の資金を用いて、かかる銀行が運用する投資信託の受益証券を購入すること。
- ・かかる銀行が運用する投資信託の信託財産に関連するその他の集団投資証券の情報を、同行の販売活動において利用すること。
- ・かかる銀行が運用する投資信託の受益証券を、銀行法に基づき設立されたその他の銀行を通じて販売すること。
- ・短期の金融集団投資ピークルを設立すること。
- ・投資信託を設定すること。

## その他の事業活動を規制する法令

外国為替業務を開始するには、銀行は企画財政部に登録しなければならない。外国為替業務は外国為替取引法による規制を受ける。証券業を開始するには、銀行はFSCの認可を取得しなければならない。証券業は、FSCMAに基づく規則の適用を受ける。上記の法律に従い、銀行は、外国為替業務ならびに国債およびその他の公債の引受業務に従事することが認められている。

近年、監督官庁は消費者の金融上の費用負担を少なくするために、ATM利用料を引き下げることを奨励している。さらに、家計債務の増加に鑑み、監督官庁は固定金利の個人向け貸出の元本比率を、2012年の14%から2017年までに45%へと徐々に引き上げることを奨励している。

## (7) 一定の関係および関連当事者取引

新韓フィナンシャル・グループの子会社として、当行はその時々、新韓フィナンシャル・グループの他の子会社と通常の業務の過程で関わり合う(クロスセリング業務を含む。)。本書の「第6-1 財務書類」に記載される当行の連結財務書類に対する注記40を参照されたい。

## 4【関係会社の状況】

## 親会社

2016年12月31日現在、当行の親会社の情報は以下のとおりである。

名称	住所	資本金	主たる事業内容	議決権割合
新韓フィナンシャル・グループ	大韓民国04513 ソウル特別市中区 世宗大路9道20	2,645,053百万ウォン	金融持株会社	100.0%

## 連結子会社および関連会社

2016年12月31日現在の当行の連結子会社は以下のとおりである。

名称	所在地	資本金	主要事業内容	議決権割合
<b>子会社：</b>				
新韓アジュ金融有限公司	香港	100百万米ドル	銀行業務	99.99%
アメリカ新韓銀行	米国、ニューヨーク州およびカリフォルニア州	123百万米ドル	銀行業務	100.00%
ヨーロッパ新韓銀行	ドイツ、フランクフルト	23百万ユーロ	銀行業務	100.00%
新韓クメール銀行	カンボジア、プノンペン	20百万米ドル	銀行業務	90.00%
新韓カザフスタン銀行	カザフスタン、アルマトイ	10,029百万カザフスタン・テング	銀行業務	100.00%
新韓銀行中国有限公司	中国、北京	2,000百万人民元	銀行業務	100.00%
カナダ新韓銀行	カナダ、トロント	80百万カナダ・ドル	銀行業務	100.00%
S B J 銀行	日本、東京	15,000百万円	銀行業務	100.00%
新韓バンク・ベトナム	ベトナム、ホーチミンシティ	4,547,100百万ベトナム・ドン	銀行業務	100.00%
メキシコ新韓銀行	メキシコ、メキシコシティ	655百万メキシコペソ	銀行業務	99.99%
新韓インドネシア銀行	インドネシア、ジャカルタ	490,087百万ルピア	銀行業務	98.98%

2016年12月31日現在、当行はまた韓国IFRSに従い連結子会社として処理されるストラクチャード・エンティティ（構造化企業）55社を有している。「第6 - 1 財務書類」に掲げる2016年および2015年12月31日に終了した年度の連結財務書類に対する注記1を参照されたい。

2016年12月31日現在の当行の持分法適用関連会社の一定の情報については、「第6 - 1 財務書類」に掲げる2016年および2015年12月31日に終了した年度の連結財務書類に対する注記13を参照されたい。

## 5 【従業員の状況】

2016年12月31日現在の当行従業員の状況は下表のとおりである。

2016年12月31日現在、10,035人の従業員は当行の労働組合に加盟している。当行は労働組合との間に良好な関係を維持しており、過去3年間において重大な労働争議を経験していない。

2016年12月31日現在（個別ベース）

（金額：百万ウォン）

男性 / 女性	従業員数				合計	平均勤続年数	年間給与合計	1人当たりの平均給与
	正規雇用従業員		有期雇用従業員					
	合計	うち短時間勤務従業員	合計	うち短時間勤務従業員				
男性	7,627	-	578	185	8,205	16年9ヵ月	842,505	103
女性	6,192	250	158	42	6,350	11年8ヵ月	377,365	59
合計	13,819	250	736	227	14,555	14年5ヵ月	1,219,870	84

注記：

- (1) 経営陣（常務を含む。）および社外取締役は除外されている。
- (2) 正規雇用従業員の平均勤続年数である。

### 第3【事業の状況】

#### 1【業績等の概要】

「第3 - 7 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」を参照されたい。

#### 2【生産、受注及び販売の状況】

「第3 - 7 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」を参照されたい。

#### 3【対処すべき課題】

##### 戦略

2008年から2009年の世界的な金融危機の発生により、当行は主に改善されたリスク管理および顧客維持を強化するために考案されたプログラムを通じて、事業基盤を強化し、競争力ある持続可能性を確保することに注力した。当行は、こうした積極的な措置が金融危機により発生した短期的課題に首尾よく対処することに役立つと考えている。しかし、当行は金融危機の影響により、課題と機会の独特の組み合わせが生じたと考えている。

急速に波及した世界的金融危機の影響がいくぶん収まったものの、世界経済、ひいては韓国経済は引き続き、事業の全般的な低成長および世界金融市場における継続的なボラティリティに特徴づけられる不確実な状況に直面している。当行は、世界中の主要な都市中心部での「ウォール街を占拠せよ。」運動および類似する動きならびに金融活動に関する規制上の監視および制限がより広範に求められていることに示されるように、概してこの状況が主要な金融サービス・プロバイダーに対する人々のマイナス感情を生み出していると考えている。さらに、モバイルおよびその他の技術における進歩が、金融サービス・プロバイダーに対し、既存のビジネス・モデルを絶え間なく再検討するという新たな課題を与えている。合わせて、これらの展開は当行に、顧客の信頼を育み、当行の社会資本を強化し、当行の事業環境の絶え間ない変化に素早く対応する機会を引き続き追求することを求めている。これに応じた全般的な戦略目標として、当行は、これらの課題に対処し、新たな事業環境により提示される機会を活用するために、新たな成長機会を選択的に見出し、リスク管理を強化し、資源を効率的に利用し、顧客一人一人により対応した接客を強化することにより、当行自身を再創造するべく努力している。

さらに具体的には、当行は、世界的金融危機は、(i)金融規制の強化、(ii)金融商品のリスクに対する許容範囲の狭小化、(iii)負債水準の低下に対する要求、(iv)安定成長に基づくビジネス・モデルに対する市場の受容度の広がり（たとえ収益水準が相対的に低下する場合であっても）、(v)金融機関のより重大な社会的責任および説明責任に対する政治的要求、ならびに(vi)世界経済の新興市場（特にアジア）の重要性の高まりに対する幅広い認識、といった特徴を有する新たな事業機会を生み出していると考えている。

世界的な金融危機により生じた不確実性の中で、最も有利な位置につき、今後の機会をとらえるために、当行は革新を通じて引き続き価値の高い成長性を強化し、当行の収益源を多様化させ、資産の質を改善し、リスク管理措置を強化し、新韓フィナンシャル・グループの子会社間でシナジーを最大限にし、顧客基盤を固め、拡大し、世界的に競争するための基盤を強化する予定である。

さらに具体的には、当行の戦略的優先事項には以下のものが含まれる。

**革新を通じて価値ある成長性を強化すること。** 当行は継続的に、当行の文化に根付いている価値ある成長性を強化することに焦点を当て、当行の商品およびサービスの革新ならびに創造性を促進することを最優先している。当行は、革新的な商品およびサービスが当行の顧客にとっての価値を創造し、ブランド価値を高めると考えている。当行は、こうした価値が長期的な成長率を維持し、安定的な収益基盤を確保するために寄与するものと考えている。当行が導入した最も革新的な商品の一つとして、「ゴールド・リッチ・ゴールド・インストールメント」があり、これは韓国で初めて、物理的に金を移動させることなく、顧客がより低い取引費用で金に投資することを可能としたものである。さらに、当行はその革新的なサービスについて広く認知されてきた。最近の例としては、2014年および2015年には当行は、アジア・バンカーにより、「チャンネル・コンバージェンス・セクター（2015年）」におけるベスト・アジア・バンク」および「ベスト・インターネット・バンキング・バンク（2014年）」として認識された。2014年、当行は毎経メディア・グループおよび未来創造科学部から「コリアン・デジタル・マネジメント・イノベーション賞」を受賞した。さらに、当行は朝鮮日報の「2014年世界韓国賞」の銀行・金融サービス部門で大賞を受賞した。2015年には当行は韓国中央日報主催の2015年消費者による選定賞の「スマート・バンキング」部門で大賞を5年連続で受賞し、韓国商工会議所、産業通商資源部および韓国中央日報の共催によるコーポレート・イノベーション賞において大統領賞を受賞した。さらに、当行の「スピードアップ」為替サービスはFSSによる2015年新金融商品優秀賞の大賞を受賞した。2016年、サニーバンクのプラットフォームを利用することで、モバイル機器により、自動車購入者が支店に出向くことなく当行の自動車ローンを利用できる「サニー・マイカー」ローン・サービスは、韓国マネジメント協会が主催する2016年韓国イノスター・イノベティブ・プロダクト・アワードを受賞した。

**新しい事業機会の選択を通じて収益源を多様化すること。** 当行は、規制上の変更および新しい業界動向により創出された新しい事業機会を選択的に活かす予定である。特に、当行は(i)韓国の高齢化および最近の韓国企業の退職年金の強制採用を踏まえて、退職年金市場において市場シェアを積極的に引き上げ、(ii)既存および潜在的な顧客ベースに対する統合されたグローバルな資産管理を戦略的に提供し、(iii)商業銀行業務と投資銀行業務をさらに統合させることで、投資銀行業における機会を活用し、また(iv)「フィンテック」、「グリーン」およびその他成長産業において新しい事業開発能力を強化する予定である。

**資産の質をさらに向上させ、リスク管理対策を強化すること。** 当行は、効果的な信用リスク管理を通じて、高い資産の質を確保することが、安定的な成長および収益性を維持する上で重要であり、リスク管理は引き続き重要な重点領域の一つであると考えている。当行の最優先事項の一つは、資産の質を改善し、貸出ポートフォリオにおいて固有の信用リスクを考慮に入れて、貸出商品の価格設定をより効果的に行うことである。この目的を達成するために、当行は、潜在的な不良債権の探知および事前阻止力を向上させ、グローバルベースでのリスク管理に向けた革新的なコンティンジェンシープランを評価し、発展させる新韓フィナンシャル・グループのさらにアップグレードされた包括的なグループ全体のリスク管理制度を最大限に利用する計画である。さらに、当行は海外支店の最適な成長を促進し、海外支店がリスク管理能力の一部の分野を改善する取組みを支援するために当行の信用リスク評価モデルおよびデータ基盤をアップグレードしてきた。

**新韓フィナンシャル・グループの子会社間でのシナジーを最大化すること。** 当行は、競争力を高めるために、以下により、新韓フィナンシャル・グループの金融持株構造を利用するつもりである。

- ・新韓フィナンシャル・グループの子会社の幅広い商品およびサービスを当行の顧客に提供することで、ワンストップ金融サービスの目的地となること。
- ・当行と新韓フィナンシャル・グループのその他の子会社（韓国最大のクレジットカード会社である新韓カードを含む。）との顧客情報の共有を可能にすること。これは、金融持株会社組織外では認められないため、当行のクロスセリングおよびリスク管理能力を高めることになる。
- ・バックオフィス処理および調達といった分野でのコスト削減の能力を高めること。
- ・海外拡張計画を実施し、新韓フィナンシャル・グループの他の企業と共同で世界的な販売およびマーケティング能力を強化すること。

かかる戦略を支援するために、当行は新韓フィナンシャル・グループのもとで、グループ会社間で顧客情報の共有および様々な顧客ロイヤルティ・プログラムの統合を促進するためのグループ全体の総合顧客関係管理制度の強化を含め、特定のイニシアチブを実施している。

**顧客基盤を固め、拡大すること。** 更なる経済回復および韓国の主要商業銀行間での更なる統合の可能性により、韓国金融部門において顧客獲得競争が激化することが予想されることから、当行は既存の顧客間でのロイヤルティを高めるとともに、質が高く信用力のある顧客ベースを拡大するために積極的な対策を講じる計画である。特に、当行は(i)顧客志向型の文化を植え付け、あらゆる主要な事業分野において顧客管理プロセスを標準化し、改善し、(ii)各顧客セグメントに対応したマーケティングおよび事業戦略を通じて、稼働個人顧客を特定し、ターゲットとし、(iii)さらに顧客と交流を高めるため、直接および間接的にマーケティング経路を強化し、多様化し、(iv)高度な資産運用サービスを提供することにより富裕顧客に注力し、(v)より多角的範囲の資金投資商品を提供し、また(vi)新顧客としてさらに公共団体および政府事業体呼び込むためのマーケティングの取組みを統合し、強化する予定である。

**世界的に競争するために基盤を強化すること。** 当行の大手世界的銀行としての地位と基盤をさらに強化するために、当行は(i)収益性と生産性を改善する方法を考案することにより、海外のプロフィットセンターを設置するために既存のグローバル・ネットワークとの関係を構築し、さらに海外子会社への資本投資を行い、何も無い状態で参入しても現地の銀行免許の取得が難しい市場では買収を選択的に追及しつつ、組織の拡大に向けた注力を維持し、(ii)中華人民共和国、ベトナムおよびインドネシアといった核となる海外のターゲットである市場において競争的な地位を強化し、さらに米国、日本、インド、カザフスタンおよびカンボジアといった当行が現在拠点を有するその他の市場でさらに差別化を図り、また(iii)組織再編、プロセス改善および有能な人材の採用を通じて、世界的なビジネス能力のための支援構造を高めることを計画している。

## 競争

韓国の金融サービス業界の競争は激しく、この状態はこれからも続くことが予想される。

当行は主に韓国のその他の全国規模の商業銀行と競合するだけでなく、韓国で事業を行っている外国銀行の支店および子会社を含む多くの銀行業機関、地方銀行、韓国産業銀行、中小企業銀行および韓国漁業協同組合といった政府が出資する開発銀行ならびに韓国の特殊銀行のみならず、貯蓄機関（相互貯蓄金融会社、信用金庫および信用組合など）、投資会社（証券会社、投資銀行会社および資産運用会社など）ならびに生命保険会社を含む様々なその他の金融サービス提供者との競争に直面している。2016年12月31日現在、韓国には6つの主要な全国規模の商業銀行（共に世界的金融機関により買収された国内商業銀行であるシティバンク・コリア・インクおよびスタンダード・チャータード・バンク・コリア・リミテッドを含む。）、6つの地方商業銀行ならびに42の外国銀行の支店および子会社がある。外国の金融機関はその多くが当行よりも幅広い経験およびより多くの財源を有しており、今後も韓国市場に参入し続け、それら自身によるかもししくは既存の韓国金融機関との提携による金融商品およびサービスの提供において競合する可能性がある。

当行の伝統的な中核事業である中小企業および個人向け銀行業分野では、競争がさらに激化することが予想される。近年、当行を含む韓国の銀行は、高い信用格付を有する法人の借り手、担保水準が高いSOHO顧客に対する貸出、ローン資産価値比率および債務所得比率が規定の限度内である抵当ローンおよび住宅担保ローンといった質の高い与信に基づく安定的な資産の拡大にますます焦点を当てている。当行は、資産規模または市場占有率を高めるよりも、収益性を高めることに従来から焦点を当て、引き続き焦点を当てることにしており、実行可能な範囲で、貸出金利の引下げによる価格競争を避けてきたが、リスクのより少ない資産に基づく安定的な成長への共通した焦点の移行は、銀行が質の高い同じ限られた与信のプールを求めて価格競争またはその他の方法により競争することになるため、競争が激化する可能性が高い。さらに、特に低金利環境が相当長く続くことになれば、かかる競争は正味資金利鞘を縮小させ、全般的な収益性を低下させる可能性がある。したがって、競合する金融機関が貸出金利を下げることで市場占有率の拡大を試みた場合、特に、主に貸出金利に基づき貸し手を決定する顧客の間で、当行は顧客を喪失する可能性がある。これに対して、またはその他戦略的な理由により、当行もまた競争力を保つために、貸出金利を引き下げる可能性があり、これが正味資金利鞘の低下を招き、市場金利の全般的な上昇による正味資金利鞘の潜在的なプラスの影響を相殺して余りある影響を及ぼす可能性がある。当行の顧客基盤もしくは正味資金利鞘の将来的な減少は、当行の経営成績および財政状態に悪影響を及ぼす可能性がある。

当行の競争相手である金融機関同士の統合および政府の民営化に向けた取組みもまた当行が業務を行う市場における競争を激化させる可能性がある。2004年のシティバンクの関連会社による韓美銀行の買収、2005年のスタンダード・チャータード・バンクによる韓国第一銀行の買収、2006年の朝興銀行の新韓銀行への合併ならびに2012年のハナ・フィナンシャル・グループによる韓国外換銀行の買収およびその結果としての2015年9月のハナ銀行と韓国外換銀行との合併を含め、過去10年間に韓国において、当業界でいくつもの重大な合併および買収があった。さらに2014年、政府によるウリィ・ファイナンス・ホールディングス（現在はウリィ銀行に合併されている。）およびその旧子会社の民営化計画の実施により、ウリィ・フィナンシャル、ウリィ資産運用およびウリィF&IはKBフィナンシャル・グループ、キウム証券および大信証券にそれぞれ買収され、ウリィ投資証券、ウリィ・アビバ生命保険およびウリィ金融貯蓄銀行はNH農協フィナンシャル・グループに買収された。さらに、2014年10月、光州銀行および慶南銀行の持株会社における政府の所有持分がJBフィナンシャル・グループおよびBSフィナンシャル・グループ（現在はBNKフィナンシャル・グループ）にそれぞれ買収された。2015年、政府はウリィ銀行における30%から40%の持分をそれぞれ4%から10%の範囲に分割して複数の投資家に売却することを決定した。2016年12月以降、韓国預金保険公社は、キウム証券、韓国投資証券、ハンファ生命保険、東陽生命保険、ユージン資産運用、ミレー・アセット・グローバル・マネジメントおよびIMMプライベート・エクイティを含む7つの機関投資家との間でウリィ銀行の合計29.7%の持分を複数の投資家に売却する取引を完了した。これらの展開のいずれかは、当行を競争上不利な立場にさせる可能性に加え、新たに再編された事業体のサービス水準を好ましく思わない人々を新たな顧客として獲得したり、資金調達源を多様化するために広範囲な銀行との関係を維持したいと考える法人顧客に信用ファシリティを提供する機会といった形の当行にとっての潜在的な利益を相殺して余りある影響を及ぼす可能性がある。当行は、金融業界におけるかかる統合およびその他の構造上の変更は続くことと予想している。その他の金融機関もその他企業の買収または合併を模索している可能性があり、このような統合により生まれた金融機関は、その拡大した規模と事業範囲によって、当行にとってより厳しい競争を仕掛けてくる可能性がある。競争の激化および統合の継続により、利幅が縮小し、当行の将来の収益性に重大な悪影響を与える可能性がある。

韓国の規制改革および事業慣行の全般的な近代化もまた韓国の金融機関の間の競争を激化させている。2015年7月以来、FSCは韓国金融決済院を通じて、かかるサービスに参加している金融機関（現在は、銀行、証券会社ならびに郵便局、韓国地域信用協同組合、韓国信協、相互貯蓄銀行および全国林業共同組合といったその他の金融機関）に口座を保有する者が自動払い口座を検索し、終了し、変更することができる、統合自動振替管理サービスを提供している。さらに、2016年12月から、FSCは統合口座管理サービスの提供を開始した。これにより、そのサービスに参加している銀行に口座を開設している口座保有者は、その銀行口座の詳細な情報をサーチし、少額の休眠口座（すなわち、過去1年間に取引のない口座。）を閉鎖し、かかる口座の残高を別の口座に移管することができる。さらに、2016年3月からFSCは銀行部門と証券部門との間の規制障壁をより小さくする取組みの一環として個人貯蓄口座（以下「ISA」という。）制度を導入した。ISAは口座保有者が現金預金、ファンドおよび証券投資の口座を含むいくつかの異なる金融商品を単一の口座で管

理することができる統合口座で、その収益は税務上の優遇措置を受けることが適格となる。この新たなシステムは個人が複数のISA口座を保有することを認めていないため、銀行および証券会社の間で既存の顧客を維持し、新たな顧客を獲得しようとする競争が激化することが予想される。金融部門の改革が継続することにより、既存の銀行、保険会社、証券会社およびその他の金融機関の間での競争はより厳しくなる可能性があり、現在の韓国金融市場に著しい変化をもたらす可能性がある。その結果、当行は預金の増加または維持において困難に直面する可能性があり、そのために当行の資金調達コストが増加し、決済および送金サービスの手数料収入が減少する可能性がある。

さらに、韓国経済が一層発展し、新たな事業機会が生まれると、より多くの競争相手が金融サービス市場に参入する可能性がある。例えば、カカオ・コーポレーション、ネイバーおよびサムソン電子といった大規模な利用者ネットワークを有するオンライン・サービスのプロバイダーならびに技術会社は、一般に「フィンテック」（金融テクノロジー）と称する金融サービスと金融技術との成長中の集約に基づくシステムを通じた仮想振込サービスの提供に著しく参入しているため、オンライン顧客をめぐる競争は、商業銀行の間だけでなく、オンラインおよびモバイル支払サービスのプロバイダーも含めて激しくなっている。2015年、政府は、インターネットのみによる銀行の営業を韓国において許可する計画を発表した。FSCは2016年12月14日にKTコンソーシアムのKバンクに、2017年4月5日にカカオ・コンソーシアムのカカオ・バンクに銀行サービス免許を付与した。Kバンクは2017年4月3日に営業を開始した。カカオ・バンクは2017年7月までに営業を開始する予定である。その計画により、2015年11月にカカオ・コンソーシアムおよびKTコンソーシアムの2件の事業コンソーシアムがインターネットのみの銀行を運営するための予備認可を政府により付与された。本書の日付現在、これらのコンソーシアムは最終的な認可を待っており、かかる認可は2016年上半期中に下りることが見込まれている。政府による最終的な認可を取得したなら、かかる最終認可日から6ヵ月以内にインターネットのみの銀行の営業が開始される見込みである。インターネットのみの銀行は、人件費および間接費用を節約できる分を預金口座により高い金利を提供し、貸出費用を引下げ、サービス手数料を抑えることにより顧客に還元することができるため、従来の銀行に対して優位となる可能性がある。そのため、商業銀行は、実際の銀行店舗で対面での利用を主とする従来の顧客に比較して、成長著しい顧客基盤であるオンライン利用者を惹きつけ、維持するために、そのサービス基盤をアップグレードする必要性に一層迫られるであろう。

最近、世界金融危機の後、政府が韓国の金融機関に資産の質、自己資本比率、流動性ならびに住宅およびその他の貸出慣行といった分野においてより厳しい規制要件ならびに指針を課したことは、競争を緩和する効果があった。FSCはバーゼルIIIの資本要件を実施し、銀行業務の監督に関する規則（改訂済）および銀行業務の監督に関する細則に定められるガイドラインに基づき、その最低要件は2013年12月1日から段階的に実施され、2015年1月1日までに完全実施された。さらに、FSCは、現在、流動性カバレッジ比率および資本保全バッファに関するバーゼルIIIの要件を実施しており、2019年1月1日までに完全実施する予定である。FSCは2016年1月1日付で、システム上重要な銀行の追加資本積立およびカウンターシクリカル資本バッファ要件に関するバーゼルIIIの要件を実施した。FSCは年ごとに国内の金融システム上重大な影響力（規模およびその他金融機関との関係に基づく）を有する銀行を国内のシステム上重要な銀行として指定し、以下（i）普通株式資本のリスクアセットに対する比率がシステム上重要な評価スコアにより、0.0%から2.0%、（ii）銀行の持株会社が国内のシステム上重要な持株会社である場合、金融持株会社監督規則に基づき銀行持株会社に義務付けられる追加資本に対応する資本比率、または（iii）銀行がまたバーゼル委員会によって定義されるグローバルなシステム上重要な銀行である場合、バーゼル委員会によって義務付けられる資本比率。）のうち最も高いものに従い追加資本を積立てることを義務付けることができる。FSCの指示に従い、当行を含む国内のシステム上重要な銀行は、2016年1月1日から0.25%の追加的資本バッファを維持することが義務付けられ、かかる資本バッファは毎年0.25%ずつ引上げられ、2019年1月1日までに1.00%に引上げられる。FSCはまた、四半期ごとの検討により、銀行が積立なければならないカウンターシクリカル資本バッファの水準を国内総生産に関連する与信の増加程度といった要因を考慮して、リスクアセットの0%から2.5%の範囲で、決定し、義務付けることができる。しかし、これらの措置が競争を抑制する効果を有すると保証することはできず、また政府がかかる措置を覆したり削減したりせず、その他の規制緩和措置を導入しないと保証することはできず、それにより韓国金融サービス業界における競争が一層激化する可能性がある。

マクロ経済環境の変化に適応し、新たな規則を遵守するための当行の取組みにもかかわらず、当行が変化する事業および規制環境において効果的に競争できなかった場合には、当行の利幅および市場シェアが損なわれる可能性があり、またその将来の成長機会が制限される可能性があり、かかる可能性が当行の事業、経営成績および財政状態に悪影響を及ぼす可能性がある。「第3 - 4 事業等のリスク - 当行の事業に関連するリスク - 韓国の金融サービス業界における競争は熾烈であり、さらに競争が激化する可能性がある。」および「第2 - 3 事業の内容 - (6)監督および規制」を参照されたい。

#### 4【事業等のリスク】

以下には多数の将来予測に関する記述が含まれている。かかる将来予測に関する記述は、本書提出日現在における当行の判断に基づくものである。

##### 当行の事業に関連するリスク

**韓国および世界経済ならびに金融市場の困難な状況および乱高下が、当行の事業、資産の質、自己資本および利益に不利な影響を及ぼす可能性がある。**

当行の資産の多くは韓国に所在しており、当行はその収益の多くを韓国で得ている。したがって、当行の利益および収益性は、当行の法人および個人顧客の財務上の健全性に影響を及ぼす金利、インフレ、輸出、個人支出および消費、失業、企業製品およびサービスに対する需要、家計および企業の債務返済負担、信用が一般的にどの程度利用可能であるか、不動産および有価証券の資産価値ならびにその他の要因を含む韓国全般の経済および社会状況に大きく依存している。

韓国経済は、世界経済に緊密に結びついており、その展開に重大な影響を受ける。ヨーロッパにおける経済および政治的状况に関して継続する全般的な不確実性、中国経済の冷え込みの兆しならびにイラク、シリアおよびイエメンを含む中東の様々な地域ならびにとりわけロシアおよびウクライナを含む旧ソビエト連邦の共和国における継続的な地政学的・社会的不安定に照らし、世界経済の見通しは全般的に今なお著しく不透明で、韓国経済に不利な影響を与えており、引き続き不利な影響を与える可能性がある。さらに、韓国経済は成熟しているため、「はさみ効果」、つまり、後進経済地域においては競争相手に追いつかれているが先進経済地域では競争相手に完全に追いついてはいないリスクにますますさらされており、かかるリスクは韓国経済が輸出に大幅に依存しているという事実により増幅されている。韓国経済はまた、国内の消費および投資の不振、不動産市場のボラティリティ、家計債務の増加、人口統計の高齢化および出生率の低下による生産性の潜在的減少ならびに若年層の失業率の上昇を含むその他の困難に引き続き直面している。世界および韓国経済の将来の悪化は、当行の事業、財政状態および経営成績に悪影響を及ぼす可能性がある。

特に、金融および経済状況の困難は、当行の資産の質を著しく悪化させ、また、ますます多くの当行の法人および個人顧客が破産または支払不能を申し立て、またはその債務弁済義務に応じることが一層困難になるため、貸倒損失および償却のための引当金をより多く引き当てることとなる。例えば、2011年および2012年に、不動産市場および造船事業において継続する停滞は、建設業、不動産賃貸業、造船業および船舶業の当行の法人借り手の間の延滞（STXグループの現在および以前の傘下企業、京南企業、東部製鉄、三府土建および韓進重工業の例にみられるように、一定の場合においては、支払不能、債務整理、再生手続きおよび/または債権者との和議取決めさえもある。）の増加を招いた。同じ時期に、不動産市場において持続する停滞はまた、当行の個人借り手の間の延滞を増加させ、特に新たに建設された集合住宅のユニットの事前販売に際しグループ貸出を受けている借り手の間の延滞を増加させた。従って、当行の延滞率（償却および売却債権控除後の1ヵ月以上の延滞に基づく。）は2010年12月31日現在の0.48%から2011年12月31日現在の0.60%および2012年12月31日現在の0.61%へと増加した。しかし、住宅市場における緩やかな回復、かかる困難に直面した業界に対するエクスポージャーおよびその他のリスクを有する借り手に対するエクスポージャーを早期リスク管理政策を通じて少なくしようとする当行の積極的な取組みに加え、その資産の質を改善するための当行の戦略的イニシアチブの一環として質の高い信用プロフィールを有する借り手に対する貸出を増加させたことにより、当行の延滞率は2013年12月31日現在に0.39%に低下し、2014年12月31日現在では0.31%に低下し、2015年12月31日現在では0.33%で安定を維持し、2016年12月31日現在では0.28%にさらに低下した。しかしながら、これらの業界の停滞の継続またはその他の理由により、かかる借り手に対する貸出の質はさらに悪化する可能性がある、当行がこれらの苦境にある業界の借り手によりさらなる貸倒損失を被らないと保証することはできない。

さらに、2008年から2009年の金融危機の時と同様に、金融市場および経済全般の困難の性質次第では、当行は一部の中核的貸出事業およびその他の事業の規模を縮小し、高い調達コストで借り入れを行い、正味利息スプレッドの縮小に直面しなければならない可能性があり、これらはいずれも当行の利益および収益性に不利な影響を与える可能性がある。さらに、当行は現在、規制上の最低要件よりも高い自己資本比率を維持しているが、新たな経済危機が起こった場合、政府によりさらに高い資本要件が課せられないと保証することはできない。また、世界的な金融システムおよび経済関係が高度に統合している特性に照らし、その他の予期せぬシステミック・リスクもしくは現在予測することのできないその他のリスクが存在する可能性がある。これらのリスクのいずれかが現実となった場合、当行の事業、流動性、財政状態および経営成績に重大な悪影響を与える可能性がある。

**韓国の金融サービス業界における競争は熾烈であり、さらに競争が激化する可能性がある。**

韓国の金融サービス業界における競争は、とりわけ低金利環境（貸出金利と資金調達金利の間のスプレッドに基づき利益を得る機会が狭まる。）の継続、経済全般の不振、業界全般のますますの成熟および飽和、新規市場参加者の参入ならびに規制緩和などにより厳しく、これからも厳しいと予想される。当行は主に韓

国のその他の全国規模の商業銀行と競合するだけでなく、韓国で事業を行っている外国銀行の支店および子会社を含む多くの銀行業機関、地方銀行、韓国産業銀行、中小企業銀行および韓国漁業協同組合といった政府が出資する開発銀行ならびに韓国の特殊銀行のみならず、貯蓄機関（相互貯蓄金融会社、信用金庫および信用組合など）、投資会社（証券会社、投資銀行会社および資産運用会社など）ならびに生命保険会社を含む様々なその他の金融サービス提供者との競争に直面している。2016年12月31日現在、韓国には6つの主要な全国規模の商業銀行（共に世界的金融機関により買収された国内商業銀行であるシティバンク・コリア・インクおよびスタンダード・チャータード・バンク・コリア・リミテッドを含む。）、6つの地方商業銀行ならびに42の外国銀行の支店および子会社がある。外国の金融機関はその多くが当行よりも幅広い経験およびより多くの財源を有しており、今後も韓国市場に参入し続け、それら自身によるかもししくは既存の韓国金融機関との提携による金融商品およびサービスの提供において競合する可能性がある。

当行の伝統的な中核事業である中小企業および個人向け銀行業分野では、競争がさらに激化することが予想される。近年、当行を含む韓国の銀行は、高い信用格付を有する法人の借り手、担保水準が高いSOHO顧客に対する貸出、ローン資産価値比率および債務所得比率が規定の限度内である抵当ローンおよび住宅担保ローンといった質の高い与信に基づく安定的な資産の拡大にますます焦点を当てている。当行は、資産規模または市場占有率を高めるよりも、収益性を高めることに従来から焦点を当て、引き続き焦点を当てることにしており、実行可能な範囲で、貸出金利の引下げによる価格競争を避けてきたが、リスクのより少ない資産に基づく安定的な成長への共通した焦点の移行は、銀行が質の高い同じ限られた与信のプールを求めて価格競争またはその他の方法により競争することになるため、競争が激化する可能性が高い。さらに、特に低金利環境が相当長く続くことになれば、かかる競争は正味資金利鞘を縮小させ、全般的な収益性を低下させる可能性がある。したがって、競合する金融機関が貸出金利を下げることで市場占有率の拡大を試みた場合、特に、主に貸出金利に基づき貸し手を決定する顧客の間で、当行は顧客を喪失する可能性がある。これに対して、またはその他戦略的な理由により、当行もまた競争力を保つために、貸出金利を引き下げる可能性があり、これが正味資金利鞘の低下を招き、市場金利の全般的な上昇による正味資金利鞘に対する潜在的なプラスの影響を相殺して余りある影響を及ぼす可能性がある。当行の顧客基盤もしくは正味資金利鞘の将来的な減少は、当行の経営成績および財政状態に悪影響を及ぼす可能性がある。

当行の競争相手である金融機関同士の統合および政府の民営化に向けた取組みもまた当行が業務を行う市場における競争を激化させる可能性がある。2004年のシティバンクの関連会社による韓美銀行の買収、2005年のスタンダード・チャータード・バンクによる韓国第一銀行の買収、2006年の朝興銀行の新韓銀行への合併ならびに2012年のハナ・フィナンシャル・グループによる韓国外換銀行の買収およびその結果としての2015年9月のハナ銀行と韓国外換銀行との合併を含め、過去10年間に韓国において、当業界でいくつもの重大な合併および買収があった。さらに2014年、政府によるウリィ・ファイナンス・ホールディングス（現在はウリィ銀行に合併されている。）およびその旧子会社の民営化計画の実施により、ウリィ・フィナンシャル、ウリィ資産運用およびウリィF&IはKBフィナンシャル・グループ、キウム証券および大信証券にそれぞれ買収され、ウリィ投資証券、ウリィ・アビバ生命保険およびウリィ金融貯蓄銀行はNH農協フィナンシャル・グループに買収された。さらに、2014年10月、光州銀行および慶南銀行の持株会社における政府の所有持分がJBフィナンシャル・グループおよびBSフィナンシャル・グループ（現在はBNKフィナンシャル・グループ）にそれぞれ買収された。2015年、政府はウリィ銀行における30%から40%の持分をそれぞれ4%から10%の範囲に分割して複数の投資家に売却することを決定した。2016年12月以降、韓国預金保険公社は、キウム証券、韓国投資証券、ハンファ生命保険、東陽生命保険、ユージン資産運用、ミレー・アセット・グローバル・マネジメントおよびIMMプライベート・エクイティを含む7つの機関投資家との間でウリィ銀行の合計29.7%の持分を複数の投資家に売却する取引を完了した。これらの展開のいずれかは、当行を競争上不利な立場にさせる可能性や、新たに再編された事業体のサービス水準を好ましく思わない人々を新たな顧客として獲得したり、資金調達源を多様化するために広範囲な銀行との関係を維持したいと考える法人顧客に信用ファシリティを提供する機会といった形の当行にとっての潜在的な利益を相殺して余りある影響を及ぼす可能性もある。当行は、金融業界におけるかかる統合およびその他の構造上の変更は続くことと予想している。その他の金融機関もその他企業の買収または合併を模索している可能性があり、このような統合により生まれた金融機関は、その拡大した規模と事業範囲によって、当行にとってより厳しい競争を仕掛けてくる可能性がある。競争の激化および統合の継続により、利幅が縮小し、当行の将来の収益性に重大な悪影響を与える可能性がある。

韓国の規制改革および事業慣行の全般的な近代化もまた韓国の金融機関の間の競争を激化させている。2015年7月以来、FSCは韓国金融決済院を通じて、かかるサービスに参加している金融機関（現在は、銀行、証券会社および郵便局、韓国地域信用協同組合、韓国信協、相互貯蓄銀行および全国林業共同組合といったその他の金融機関）に口座を保有する者が自動払い口座を検索し、終了し、変更することができる、統合自動振替管理サービスを提供している。さらに、2016年12月から、FSCは統合口座管理サービスの提供を開始した。これにより、そのサービスに参加している銀行に口座を開設している口座保有者は、その銀行口座の詳細な情報をサーチし、少額の休眠口座（すなわち、過去1年間に取引のない口座。）を閉鎖し、かかる口座の残高を別の口座に移管することができる。さらに、2016年3月からFSCは銀行部門と証券部門との間の規制障壁をより小さくする取組みの一環としてISA制度を導入した。ISAは口座保有者が現金預金、ファンドおよび証券投資の口座を含むいくつかの異なる金融商品を単一の口座で管理することができる統合口座で、その収益は税務上の優遇措置を受けることが適格となる。この新たなシステムは個人が複数のISA口座を保有することを認めていないため、銀行および証券会社の間で既存の顧客を維持し、新たな顧客を獲得しようとする競争が激化することが予想される。金融部門の改革が継続することにより、既存の銀行、保険会社、証券会

社およびその他の金融機関の間での競争はより厳しくなる可能性があり、現在の韓国金融市場に著しい変化をもたらす可能性がある。その結果、当行は預金の増加または維持において困難に直面する可能性があり、そのために当行の資金調達コストが増加し、決済および送金サービスの手数料収入が減少する可能性がある。

さらに、韓国経済がさらに発展し、新たな事業機会が生まれると、より多くの競争相手が金融サービス市場に参入する可能性がある。例えば、カカオ・コーポレーション、ネイバーおよびサムソン電子といった大規模な利用者ネットワークを有するオンライン・サービスのプロバイダーならびに技術会社は、一般に「フィンテック」（金融テクノロジー）と称する金融サービスと金融技術との成長中の集約に基づくシステムを通じた仮想振込サービスの提供に著しく参入しているため、オンライン顧客をめぐる競争は、商業銀行の間だけでなく、モバイル支払サービスのプロバイダーも含めて激しくなっている。2015年、政府は、インターネットのみによる銀行の営業を韓国において許可する計画を発表した。FSCは2016年12月14日にKTコンソーシアムのKバンクに、2017年4月5日にカカオ・コンソーシアムのカカオ・バンクに銀行サービス免許を付与した。Kバンクは2017年4月3日に営業を開始した。カカオ・バンクは2017年7月までに営業を開始する予定である。インターネットのみの銀行は、人件費および間接費用を節約できる分を預金口座により高い金利を提供し、貸出費用を引下げ、サービス手数料を抑えることにより顧客に還元することができるため、従来の銀行に対して優位となる可能性がある。そのため、商業銀行は、物理的な銀行店舗で対面での利用を主とする従来の顧客に比較して、成長著しい顧客基盤であるオンライン利用者を惹きつけ、維持するためにそのサービス基盤をアップグレードすることへの高まる圧力に直面するであろう。

最近、世界金融危機の後、政府が韓国の金融機関に資産の質、自己資本比率、流動性ならびに住宅およびその他の貸出慣行といった分野においてより厳しい規制上の要件ならびに指針を課したことは、競争を緩和する効果があった。FSCはバーゼルIIIの資本要件を実施し、銀行業務の監督に関する規則（改訂済）および銀行業務の監督に関する細則に定められるガイドラインに基づき、その最低要件は2013年12月1日から段階的に実施され、2015年1月1日までに完全実施された。さらに、FSCは、現在、流動性カパレッジ比率および資本保全バッファに関するバーゼルIIIの要件を実施しており、2019年1月1日までに完全実施する予定である。FSCは2016年1月1日付で、システム上重要な銀行の追加資本積立ておよびカウンターシクリカル資本バッファ要件に関するバーゼルIIIの要件を実施した。FSCは年ごとに国内の金融システム上重大な影響力（規模およびその他金融機関との関係に基づく）を有する銀行を国内のシステム上重要な銀行として指定し、以下のうち最も高いものに従い追加資本を積立てることを義務付けることができる。(i)普通株式資本のリスクアセットに対する比率がシステム上重要な評価スコアにより、0.0%から2.0%、(ii)銀行の持株会社が国内のシステム上重要な持株会社である場合、金融持株会社監督規則に基づき銀行持株会社に義務付けられる追加資本に対応する資本比率、または(iii)銀行がまたバーゼル委員会によって定義されるグローバルなシステム上重要な銀行である場合、バーゼル委員会によって義務付けられる資本比率。FSCの指示に従い、当行を含む国内のシステム上重要な銀行は、2016年1月1日から0.25%の追加的資本バッファを維持することが義務付けられ、かかる資本バッファは毎年0.25%ずつ引上げられ、2019年1月1日までに1.00%に引上げられる。FSCはまた、四半期ごとの検討により、銀行が積立てなければならないカウンターシクリカル資本バッファの水準を国内総生産に関連する与信の増加程度といった要因を考慮して、リスクアセットの0%から2.5%の範囲で、決定し、義務付けることができる。しかし、これらの措置が競争を抑制する効果を有すると保証することはできず、また政府がかかる措置を覆したり削減したりせず、その他の規制緩和措置を導入しないと保証することはできず、それにより韓国金融サービス業界における競争が一層激化する可能性がある。「第2 - 3 事業の内容 - (6)監督および規制 - 銀行に適用される主要な規制 - 自己資本比率」を参照されたい。

マクロ経済環境の変化に適応し、新たな規則を遵守するための当行の取組みにもかかわらず、当行が変化する事業および規制環境において効果的に競争できなかった場合には、当行の利幅および市場シェアが損なわれる可能性があり、またその将来の成長機会が制限される可能性があり、かかる可能性が当行の事業、経営成績および財政状態に悪影響を及ぼす可能性がある。

**当行は中小企業への大きなエクスポージャーを有しており、かかる企業が財政困難となった場合、当行の資産の質が悪化する可能性がある。**

当行の中核的銀行業のひとつは従来、そしてこれからも中小企業（「第2 - 3 事業の内容 - (1) 事業 - 事業の概観 - 当行の主要業務 - 法人向け銀行業務 - 中小企業向け銀行業務」において定義される。）に対する貸出である。当行のかかる企業への貸出（貸倒損失引当金および繰延貸付付帯費用控除前）は、2015年12月31日現在で67,336十億ウォンおよび2016年12月31日現在で71,757十億ウォンであり、各日付現在の当行の貸出ポートフォリオ合計のそれぞれ32.0%および32.5%を占めていた。

より資本が充実し、景気低迷をよりうまく乗り切れる傾向にある大企業に対する貸出または住宅を担保とする傾向があるために借り手が債務不履行を望まない個人および家計向け貸出に比べ、中小企業への貸出は、伝統的に比較的延滞率が高い。多くの中小企業は個人事業であったり、比較的限られた供給業者および顧客に依存する小規模事業であるため、大企業の借り手に比べてより広範囲に韓国および世界経済の変動による影響を受けがちである。さらに、中小企業はしばしば大企業の借り手に比べて財務記録が整っていない。そのため、一般に銀行にとってこれらの企業への貸出に付随するリスク水準を判断することは大企業に比べてより困難である。加えて、多くの中小企業は、主に供給業者として韓国の大企業との事業関係に依存している。それらの大企業が直面している困難が、当行がエクスポージャーを有する中小企業を含め、関係

する中小企業の流動性および財政状態を悪化させる可能性があり、そしてその結果、その貸出返済能力が損なわれる可能性がある。韓国の大企業は、人件費およびその他の経費がより安価な中国、東南アジアおよびその他の国々に引き続き進出しており、生産プラントや設備を移転している。かかる展開は中小企業に重大な悪影響を及ぼす可能性がある。

とりわけ近年の韓国および世界の経済問題により中小企業が経験している財政上の難題に加え、この部門への貸出のための近年の銀行の積極的なマーケティングおよび厳しい競争は、当行の保守的な貸出方針により資産の質の悪化に立ち向かう取組みと相まって、当行のこの部門への貸出金の資産の質の変動を招いた。2015年および2016年12月31日現在の当行の中小企業に対する延滞貸出金はそれぞれ308十億ウォンおよび362十億ウォンで、延滞率(償却および売却債権控除後)はそれぞれ0.46%および0.51%であった。韓国または世界の経済の進行中の困難が継続するかもしくは悪化した場合、当行の中小企業に対する貸出金の延滞率は上昇する可能性がある。

中でも特に懸念されるのは、不動産およびリースならびに建設業に属する企業に対し当行が有する重要なエクスポージャーである。2016年12月31日現在の当行の不動産およびリースならびに建設業(その多くは中小企業)に対する貸出残高(貸倒損失引当金および繰延貸付付帯費用控除前)はそれぞれ19,729十億ウォンおよび2,482十億ウォンで、同日現在の当行の貸出ポートフォリオ合計に対する比率はそれぞれ8.9%および1.1%であった。当行はまた、韓国経済のこれらの部門の借り手に対し、かかる企業のための保証の提供やかかる企業が発行した債務証券および持分証券の保有といったエクスポージャーも有している。さらに、当行は造船業および船舶業の借り手に対するエクスポージャーを有しており、これらの産業は今なお重要な方向転換ができておらず、また燃料価格の下落により近年課題に直面している石油化学業の借り手にもエクスポージャーを有している。

韓国の不動産開発および建設業に属する企業は住宅市場に激しく集中しており、主に不動産市場を安定させることを企図した政府による政策措置、住宅用不動産の供給過剰、韓国および世界の経済停滞の継続ならびに韓国の人口構造の変化を含む要因が重なっていることによる近年の緩やかな需要回復にもかかわらず、不動産需要が減速する中で引き続き困難を経験している。また当行は、不動産プロジェクト・ファイナンスに対するエクスポージャー、特にソウル首都地域圏外の地方に住宅を建設してきた建設会社による不動産プロジェクト・ファイナンスに対して限定的なエクスポージャーを有している。これらの会社では、その手取金が建設会社の主要な流動性およびキャッシュフローの重要な資源となっている事前販売の割合が比較的少なかった。

これらの展開のいずれかにより当行の資産の質が悪化する可能性がある。「第2 - 3 事業の内容 - (2) 資産および負債の詳細 - 債務整理および再編手続中の会社に対する信用エクスポージャー」を参照されたい。当行は、中小企業顧客の延滞を削減するために、貸出申請の検討過程を強化し、問題のある事業部門の借り手を厳密にモニターするといった方法を含め、積極的な措置を行ってきた。こうした努力にもかかわらず、特に、韓国経済がさらなる困難に直面し、その結果これらの借り手の流動性およびキャッシュフローが悪化した場合には、当行の中小企業の延滞率が将来上昇しないと保証することはできない。これらの借り手の延滞率が著しく上昇することにより、償却が増加し、引当金が増加し、金利および手数料収入が減少することになり、当行の事業、財政および経営成績が重大な悪影響を受ける可能性がある。

**当行の信用エクスポージャーの限られた部分が、比較的少数の大企業の借り手に集中しており、これらの企業が将来財政困難に陥った場合、当行に重大な影響が及ぶ可能性がある。**

2016年12月31日現在、当行の法人向けエクスポージャー上位10社のうち、2社がFSS院長により主要債務者グループに特定されていたかまたは特定されており、これらは主に財閥であった。同日現在、当行の主要債務者グループに対するエクスポージャーの総額は19,589十億ウォンであり、当行のエクスポージャー合計の13.2%を占めた。同日現在、個別ベースの当行の単一最大の主要債務者グループに対するエクスポージャー残高は4,197十億ウォンで、当行のエクスポージャー合計の2.8%を占めた。「第2 - 3 事業の内容 - (2) 資産および負債の詳細 - 貸出ポートフォリオ - 主な債務者グループに対するエクスポージャー」を参照されたい。造船業の低迷継続の結果、2013年、韓国の主要なコングロマリットのひとつであるSTXグループの現在および過去の傘下企業が、その信用状況を改善するため、債権者(当行を含む。)と和議の取決めを締結し、STXグループの傘下企業うちのSTX造船海洋およびSTX重工業の2社が2016年5月および2016年7月にそれぞれ法定管理の申立てを行った。建設業界の停滞により、2013年に韓国の大手建設会社である京南企業は債務整理手続きに入り、2015年3月に再生手続きを申請した。東部製鉄および三府土建もまた著しい苦境にあったが、2015年に債務整理または再生手続きを開始した。さらに2015年10月、韓国産業銀行が主導する大宇造船海洋の債権者は追加のキャッシュ注入と広範な合理化対策を含む再編計画を発表した。2016年1月には、韓進重工業が長引く業界の不況に抗えず流動性不足により債権者との間で任意再編契約を締結した。一部には造船および建設部門に対するエクスポージャーを削減するための積極的な過去の取組みの結果、当行が上記の問題のある会社に対して現在有しているエクスポージャーは限定的である。しかし、主要債務者グループに対するものを含め、当行の大企業に対するエクスポージャーの信用の質が低下した場合は、当行は貸出についてさらなる貸出損失引当金および有価証券に関する減損損失を計上することが必要となる可能性がある。これが当行の財務状態、経営成績および自己資本に悪影響を及ぼす可能性がある。当行は、特に経済減速が長引くか、または繰り返した場合、これらのエクスポージャーに対して設定された引当金がかかるエクスポージャーから将来発生するすべての損失をカバーするのに十分であることを保証することができない。

当行が信用エクスポージャーを有している限定的な数の主要な債務者グループが引き続き再編プログラムの対象となっているかまたは対象となっていない場合はその財務状態の改善のために、グループ間貸出の獲得および資本構成の一層の改善のための契約の締結などの多大な努力をしている。当行の主要な法人顧客が将来再編の対象とならないと保証することはできず、かかる再生により債権全額の回収ができず、当行に著しい損失がもたらされないと保証することもできない。さらに、政府が苦境にある会社に対する積極的な再編政策を推し進めることを決定した場合、当行を含む韓国の商業銀行は延滞率の一時的な上昇や引当金の増強に対する圧力の高まりに直面する可能性がある。さらに、財閥グループを含む大企業の破産または財政困難は、かかる大企業に部品や労働力を供給している中小企業にも波及し、中小企業に対する当行の貸出の延滞および減損を引き起こすといった悪影響を及ぼす可能性がある。当行が財閥グループを含む大企業に対するエクスポージャーにより将来損失を受けた場合、当行の事業、財政状態および経営成績に重大な悪影響を受ける場合がある。

#### **当行の個人向け貸出の資産の質が悪化する可能性がある。**

近年、家計および法人化されていない小規模事業向けの貸出を含む消費者債務が韓国において増加し続けている。当行の個人向け貸出ポートフォリオはふたつの主要な商品タイプ、つまり、担保付個人向けローン（主に不動産を担保とする抵当ローンおよび住宅担保ローンからなる。）および一般目的ローン（無担保貸出で、信用リスクがより高い傾向にある。）からなっている。2016年12月31日現在、当行の個人向け貸出ポートフォリオ（貸倒損失引当金および繰延貸付付帯費用控除前）は97,306十億ウォンで、貸出残高合計の44.1%を占めた。2015年および2016年12月31日現在、当行の不良個人向け債権はそれぞれ148十億ウォンおよび157十億ウォンで、不良債権比率（償却および売却債権控除後）はそれぞれ0.16%および0.16%であった。

消費者債務に対する当行の大きなエクスポージャーは、当行が韓国の消費者に影響を与える経済状況の変化にさらされていることを意味している。例えば、韓国における失業率の上昇、金利の上昇または住宅価格の低下は、消費者の返済能力に悪影響を及ぼし、潜在的な債務不履行の可能性が増加する場合がある。消費者を苦しめる韓国における経済上の困難により、延滞が増加し、当行の家計向け貸出ポートフォリオの資産の質が悪化し、そのために当行は貸倒損失および償却のためにさらに多額の引当金の計上を余儀なくされ、このことが当行の財政状態および経営成績に重大な悪影響を及ぼす可能性がある。

#### **当行の今後の業績にとって、流動性、資金調達管理および信用格付は極めて重要である。**

金融仲介機関として当行の事業を行うにあたり流動性は不可欠であり、また当行は近い将来、機会があれば流動性ニーズを充足し、規制上の要件を満たし、資本の水準を高め、事業成長に資金を供給するために、追加の資金調達を行う可能性がある。

例えば、バーゼルIIIは、上記のとおり、流動性リスクの測定、基準およびモニタリングのための国際的枠組みを含んでおり、これには、銀行が確実に、30日続く著しいストレス・シナリオに耐えるために民間市場で簡単かつ迅速に現金化でき、処分上の制約を受けない高品質な適格流動資産（以下「HQLA」という。）の十分なストックを有するために作られた流動性カバレッジ比率（以下「LCR」という。）として知られる新たな最低流動性基準が含まれる。LCRは(a)銀行機関のHQLAの価値を(b)ストレス・シナリオの下での次の30日間の予想合計正味キャッシュアウトフローで除すことにより計算される。最低LCRは100%である。2013年1月、バーゼル委員会は、バーゼルIIIの一環として2010年12月に承認された2つの量的流動性測定のひとつであるLCRの修正公式を発表した。バーゼル委員会はLCRの完全段階的導入のスケジュールを延期し、2015年1月1日現在の最低LCRは60%に設定され、その後年10%ずつ引き上げて2019年1月1日現在にLCRを100%とするとした。2014年12月、FSCは、2015年1月1日現在の最低LCRを80%に引き上げ、その後年5%ずつ引き上げて2019年1月1日現在に韓国の商業銀行の最低LCRを100%とすることを含むバーゼルIIIの流動性要件を実施するための規則を公布した。

当行の流動性および資金需要の大部分は、短期顧客預金により手当てされており、かかる預金は通常、満期になると預け替えられている。当行の顧客の預金量はこれまで一般に安定的であったが、例えば、上げ相場の時にはその他の高利回りの投資機会（すなわち、株式および投資信託）への人気が高まったことで当行の顧客預金が大幅に減少した。このような時期に当行は、高いコストを支払って代替資金調達を行うことが必要であった。将来、同じような展開が起らないと保証することはできない。さらに近年、当行は預金商品に関して競合他社とのますます熾烈な価格競争に直面している。当行が預金顧客に対し競争力ある金利を提供し続けることができない場合、従来から当行の安定的かつ低コストの資金源であった預金顧客との取引を失う可能性がある。さらに、当行が競合他社による価格設定に合わせることもできたとしても、そのような価格設定を行うことは資金調達コストを上げる場合があり、当行の経営成績に悪影響を及ぼす可能性がある。

また当行は資本市場で資金調達を行い、その他金融機関から借り入れを行うが、そのコストは市場金利や一般的な信用供与状況に左右され、また配当金を支払ったり、買収を行ったりすることが制限されるほか、その他の制限条項に服する場合がある。現在当行はいかなる重要な点においても流動性の問題に直面していないものの、理由の如何を問わず、長期間当行が商業上受け入れることが可能な条件で資金調達をできない

場合、当行は財務上の継続性を確保し、規制要件を満たし、当行の戦略を実行し、効果的に競争することができなくなる可能性がある。

信用格付は当行が資金調達を可能とする費用とその他条件に影響を及ぼす。国内および国際格付機関は定期的に当行を評価し、これらの機関による当行の長期債務の格付は、様々な要因（財政力に加え、金融サービス業および韓国経済全般に影響を及ぼす条件を含む。）に基づいている。当行はムーディーズ・インベスターズ・サービスによる「Aa3」の発行体信用格付を2015年5月以来維持しており（A1から格上げされた。）、スタンダード・アンド・プアーズ・レーティングズ・サービスによる「A+」の格付けを2016年8月以来維持しており（Aから格上げされた。）、フィッチ・レーティングス・インクによる「A」の格付を2008年2月以来維持している。しかし、格付機関が当行の現在の信用格付および見通しを維持し、また一般的な韓国経済または当行特有の理由に関連して、当行の信用格付および見通しが引き下げられないと保証することはできない。当行の信用格付および見通しの引き下げにより、資金調達費用を引き上げ、資本市場へのアクセスおよびその他の借入を制限し、または、金融取引においてさらなる信用強化を提供することが要求される可能性が高く、これらのいずれかが当行の流動性、正味資金利鞘および収益性に悪影響を及ぼす可能性があり、その結果、当行の事業、財政状態および経営成績に悪影響を及ぼす可能性がある。

### **金利、外国為替相場、社債および株価ならびにその他の市場要素の変動は、当行の事業、経営成績および財政状態に影響を及ぼし、これからも影響を及ぼす。**

当行が直面する最も重要な市場リスクは、金利、外国為替相場、社債および株価リスクである。金利の水準、イールドカーブおよびスプレッドの変動は、貸出金と借入金との間で実現した利息マージンに影響を及ぼす場合がある。特にウォンと米ドルとの間の外国為替相場の変動は、当行の外貨建て資産および負債、当行の非韓国子会社の報告利益および外国為替取引による収益に影響を及ぼし、為替相場の大幅かつ急速な変動により、当行にとってコマーシャルベースで受け入れ可能な条件で国際金融市場で外貨建ての資金調達を行うことが困難となる場合がある。金融市場のパフォーマンスは社債および株価に影響を及ぼす場合があるため、当行の投資およびトレーディング・ポートフォリオの価値変動が生じる場合がある。当行は、これらの市場リスクおよび当行がさらされているその他の市場リスクを緩和し、抑制するためにリスク管理システムを実行しているものの、経済または市況の変化を正確に予測し、かかる変化が当行の事業、財政状態および経営成績に及ぼす影響を予想することは困難である。

### **金利の変動が当行の資産負債構成のミスマッチその他の要因により当行の正味資金利鞘を悪化させる可能性があり、かかる悪化が当行の資産の質および収益性に重大な悪影響を及ぼす可能性がある。**

2009年以来、韓国はその他の多くの国々と同様に、一部には政府による積極的な金利引下げ措置を通じて経済を刺激しようとする政策により、幾分のわずかな変動はあるものの低金利の状況が続いている。2009年から2014年の間、韓国銀行により設定される基準金利は2.00%から3.25%の範囲であった。最近の韓国の成長の減速および不確実な世界経済の見通しに鑑み、韓国銀行は2015年3月に基準金利を1.75%に引下げ、2015年6月に1.50%に引下げ、2016年6月にさらに歴史的な低金利である1.25%に引下げたが、それ以降は変更されていない。

金利の動向は、規模および時期ならびに当行の資産および負債に対するそれらの相対的な影響という点で、当行の正味資金利鞘および収益性、特にかかる金利動向に敏感な金融商品に関して著しい影響を及ぼす。例えば、当行の貸出（資産として計上される。）に適用される金利が、預金（負債として計上される。）に適用される金利よりも遅い速度もしくはより小幅に上昇したなら、正味資金利鞘は縮小し、収益性はマイナスの影響を受ける。さらに、変動金利の貸出および預金の相対的な規模および構成もまた（固定金利の貸出および預金に比較して）、正味資金利鞘に影響を及ぼす場合がある。さらに、当行の利付資産（主に貸出）と有利子負債（主に預金）を比べたときの平均期間の差が当行の正味資金利鞘に影響を与える場合がある。例えば、当行の預金の期間が平均して貸出の期間よりも長い傾向にあるため、当行の預金は、当行の預金および貸出の金利が連動する傾向にある基準金利の動向に対して平均して敏感ではなく、そのため、基準金利の引下げは、当行の正味資金利鞘を減少させる傾向にあり、一方、基準金利の引上げはその反対の効果をもつ傾向にある。当行は継続的にその資産および負債の金利変動に対するエクスポージャーを最小限にするよう管理しているものの、当行によるかかる取組みが金利変動に対するエクスポージャーを適時にかつ効果的に緩和することができない場合があり、当行の正味資金利鞘、ひいては当行の財政状態および経営成績が著しく悪化する場合がある。

当行は、政府が将来、市場金利と深く関わっている基準金利をいつ、どの程度調整すると断言することはできない。基準金利の調整の決定には、とりわけ、経済全般のサイクル、インフレ水準、他国の金利および為替レートを含む多くの政治的配慮ならびに市場の要因の影響を受ける。一般に、金利の引下げは、当行の資産および負債は上記のとおり様々な満期構成であるため、当行の受取利息に悪影響を与える。反対に、金利が著しくまたは持続的に上昇したなら、すべての他の条件が同じであれば、かかる変動により取引されている債務証券の価格は下落し、当行の資金調達コストが引き上げられる一方で、特に個人顧客による借入需要が後退する。それゆえ、金利の上昇により、当行は資産負債管理の潜在的なミスマッチのリスクを最小限に抑え、収益性を維持するために、当行の資産および負債のリバランスが求められることになる。さらに、金利水準の上昇は、韓国経済および当行の個人および企業の借り主の財政状態に悪影響を及ぼす可能性があ

り、その結果、当行の信用ポートフォリオの資産の質を悪化させる可能性がある。当行の法人向けおよび個人向け貸出の大半は、一般的な市場相場に基づき適用金利が定期的に調整されているため、金利水準の継続的な上昇により、当行の借り手の資金調達費用を増加させ、借入残高に対する支払能力に悪影響を及ぼす可能性がある。

**当行は最低所要水準を上回る自己資本比率を維持することが要求されており、維持できなかった場合には、当行の事業の一部または全部が停止することがある。**

当行は韓国の他の商業銀行と同様、規定の自己資本比率を維持することが要求されている。例えば、2015年1月1日から、当行は普通株式等Tier I自己資本比率を最低4.5%、Tier I自己資本比率を最低6.0%に維持し、合計資本(BIS)比率を最低8.0%に維持することを要求されている。これらの比率は連結ベースによるそれぞれの規制上の自己資本のリスク・アセットに占める割合として測定し、FSCの指針に基づき決定される。さらに下記に詳述するように、当行はまた国内のシステム上重要な銀行として資本保全バッファおよび追加資本を維持しなければならず、カウンターシクリカル資本バッファの維持も義務付けられる可能性がある。2016年12月31日現在、当行の普通株式等Tier I自己資本比率、Tier I自己資本比率および合計資本(BIS)比率は連結ベースでそれぞれ12.85%、13.15%および15.70%であった。

現在、当行は要求される規制上の最低水準を上回って自己資本比率を維持しているものの、リスクのある資産および引当金費用の増加、不良債権の処分に関する代替費用、有価証券ポートフォリオの価額の減少、外国為替相場の悪化、自己資本比率要件、自己資本比率の算出に関する指針もしくはFSCの指針の基本となるバーゼル委員会により定められた枠組みの変更、または当行の資産の質もしくは株式資本に影響を及ぼすその他の悪変化を含むいくつもの理由により自己資本比率要件を継続的に満たすことができない可能性がある。

2010年12月、バーゼル委員会は(i)より回復力のある銀行および銀行制度のための世界的な規制枠組みおよび(ii)流動性リスク測定、基準および監視のための国際的な枠組みに関する最終規則を発行し、これらは、通常「バーゼルIII」と総称される。バーゼルIIIに基づき、Tier I資本は普通株式等Tier I自己資本および追加的Tier I自己資本を含むと定義される。普通株式等Tier I自己資本は、主に普通株式、資本剰余金、利益剰余金およびその他包括利益(数年間にわたり資本比率の計算に段階的に組み込まれる。)からなる新たな資本区分である。普通株等Tier I自己資本比率の最低要件を4.5%および追加的強制資本保全バッファ要件を2.5%とすることを含む新たな最低資本要件が、2019年1月1日までに段階的に実施されている。追加的な任意のカウンターシクリカル資本バッファ要件は段階的に実施される予定で、リスクアセットの0%から2.5%の範囲で、国家の監督機関の裁量により定められる。バーゼルIIIはまた最低レバレッジ比率要件を導入した。2016年1月、バーゼル委員会の上位機関である中央銀行総裁・銀行監督当局長官グループは、(i)市場リスクの最低資本要件についての基準を改訂することにより2019年から実施される新たな市場リスクの枠組みを承認し、(ii)リスクアセットの過度なばらつきの問題を解消するための作業を2016年末までに完了することで合意し、(iii)レバレッジ比率の計算にはTier I資本による自己資本の定義を使用し、最低レバレッジ比率を3%とすることについて合意した。レバレッジ比率の定義のための最終的な数値およびさらなる調整は、2016年中に完了することが見込まれており、2018年1月1日から完全遵守が義務付けられる予定である。

韓国でバーゼルIIIの資本要件を実施するために銀行業務の監督に関する規則が改訂され、2013年12月1日に施行された。改訂された銀行業務の監督に関する規則に基づき、2015年1月1日から、韓国の商業銀行は最低普通株式等Tier I自己資本比率4.5%、最低Tier I自己資本比率6.0%および最低総自己資本比率(BIS比率)8.0%を維持しなければならない。バーゼルIIIに基づく流動性カバレッジ比率要件を実施するため、2014年12月26日付で銀行業務の監督に関する規則が再度改訂され、流動性カバレッジ比率の最低要件は2015年1月1日現在の80%から毎年5%ずつ上げられ、2019年1月1日現在には100%となる。資本保全バッファ要件もまた2016年1月1日から段階的に実施され、毎年0.625%ずつ上げられ、2019年1月1日には韓国の商業銀行は2.5%の資本保全バッファを維持しなければならない。商業銀行がかかる資本保全バッファ要件を維持できない場合、かかる銀行は配当金分配や自己株式買入れといったその利益の用途に関し一定の制約を受けることとなる。FSCは2016年1月1日付で、システム上重要な銀行の追加資本積立ておよびカウンターシクリカル資本バッファ要件に関するバーゼルIIIの要件を実施した。FSCは年ごとに国内の金融システム上重大な影響力(規模およびその他金融機関との関係に基づく)を有する銀行を国内のシステム上重要な銀行として指定し、以下のうち最も高いものに従い追加資本を積立てることを義務付けることができる。(i)普通株式資本のリスクアセットに対する比率がシステム上の重要性評価スコアにより、0.0%から2.0%、(ii)銀行の持株会社が国内のシステム上重要な持株会社である場合、金融持株会社監督規則に基づき銀行持株会社に義務付けられる追加資本に対応する比率、または(iii)銀行がまたバーゼル委員会によって定義されるグローバルなシステム上重要な銀行である場合、バーゼル委員会によって義務付けられる資本比率。FSCの指示に従い、当行を含む国内のシステム上重要な銀行は、2016年1月1日から0.25%の追加的資本バッファを維持することが義務付けられ、かかる資本バッファは毎年0.25%ずつ上げられ、2019年1月1日までに1.00%に上げられる。FSCはまた、四半期ごとの検討により、銀行が積立てなければならないカウンターシクリカル資本バッファの水準をGDPに対する与信の増加程度といった要因を考慮して、リスクアセットの0%から2.5%の範囲で、決定し、義務付けることができる。2016年3月から、FSCは0%のカウ

ンターシクリカル資本バッファー要件を維持しており、2017年第1四半期も0%のカウンターシクリカル資本バッファー要件を維持することが見込まれている。

当行は現在、バーゼルIIIを完全に遵守しており、また2013年12月のその導入以来、完全に遵守してきた。しかし、当行がバーゼルIIIの要件を遵守し続けることができると保証することはできない。バーゼルIIIに基づく新要件が将来、当行の信用リスクに対する自己資本要件の引き上げを要求する可能性があり、それにより当行は資産の質を改善するか、もしくは追加の資本金を調達するかのいずれかを要求される場合がある。さらに、当行の自己資本比率が所要水準を下回った場合、FSCは警告から業務停止または事業免許取消しまでの範囲の罰則を課す場合がある。所要水準を上回る自己資本比率を維持するために、当行はエクイティファイナンスを通じて追加的な資本を調達することが要求される場合があるが、商業上有利な条件でかかる調達を行えると保証することはできず、例え成功した場合においても、このような資金調達法が、当行の株主に対しその持分について希薄化効果を有する可能性がある。

**当行の貸出を担保する担保物件の価値が下落するかまたは当行が担保価値の全額を実現できなければ、当行の信用ポートフォリオが悪影響を受ける可能性がある。**

当行の抵当ローンおよび住宅担保ローンの大半は、借り手の住宅、その他不動産、その他証券および保証（主に政府およびその他金融機関により保証されたもの）により担保されており、当行の法人向け貸出の大部分は、不動産などにより担保されている。担保された当行の貸出（貸倒損失引当金および繰延貸付付帯費用控除前）は、2016年12月31日現在、101,758十億ウォン（ローン総額の48.82%）である。当行は担保価値が将来著しく下落しないと保証することはできない。当行の抵当ローンおよび住宅担保ローンの一般的な方針は、担保物件の鑑定評価額の40%から70%までを上限として貸出を行い、かかる担保を定期的に再評価することである。しかし、韓国の不動産市場が低迷した場合、担保物件の価値が抵当ローンの残存元本額を下回る水準まで下落する可能性がある。かかる担保された抵当ローンの借り手は、かかる抵当またはローンの全部もしくは一部の返済を迫られる場合があり、かかる返済により担保要件を満たすことができなければ、担保物件の売却を迫られる場合があり、かかる売却は、不動産全般の価格のさらなる低下を招く可能性があり、担保価値のさらなる低下によりその他の借り手の連鎖反応の引き金となる可能性がある。不動産価格が下落すれば、当行の抵当ローンおよび住宅担保ローンを担保する担保物件の価値の下落を招き、それにより担保価値が当行の有担保貸出にかかる回収不能額を補填するのに十分ではなくなる可能性がある。当行の貸出を担保する不動産またはその他の担保物件の価値が下落するか、またはこのような下落に際して追加の担保を入手できなければ、当行の資産の質の悪化を招き、当行は貸倒引当金をさらに積み増す必要に迫られる可能性がある。韓国では、担保権の実行には、一般に韓国の裁判所に書面で申立てを行うことが要求される。韓国での担保権実行手続は、通常、担保の性質にもよるが開始から回収まで10ヵ月から14ヵ月を要し、申請が行われた場合、遅延や行政上の要件による制約を受けることがあり、これによりかかる担保に関する実現価値が低下する可能性がある。数ある要因の中でも、担保権実行手続の遅れおよび担保権にかかる対抗要件の不備ならびに担保価値の全般的な下落により、当行が担保価値全額を実現できると保証することはできない。当行が予測される担保価値を回収できなければ、当行は著しい損失を被る可能性がある。

**当行の不動産融資に関して受けた保証は、十分な補償を与えない可能性がある。**

当行は、単独でまたはその他の金融機関と共に、不動産開発プロジェクトに対する融資を行っており、かかるプロジェクトは主に共同住宅建設に集中している。韓国のディベロッパーは、土地を取得し、関連プロジェクト開発費用を支払うために一般にプロジェクト・ファイナンスを用いる。市場慣行として、当行を含むプロジェクト・ファイナンスの貸し手は概して、ディベロッパーが小企業でレバレッジが高いことが多いため、総合建設請負業者からディベロッパーによるプロジェクトの完了について履行保証を、また建設発注を確保するためにディベロッパーにより設立された特別目的融資ビークルにより資金調達された借入金について支払保証を受ける。2016年12月31日現在、当行の不動産プロジェクト・ファイナンス関連エクスポージャーの残高合計は約1.6兆ウォンで、韓国の不動産市場の不振が続いていることから、当行はこの分野における新たなエクスポージャーを積極的に削減してきたため、この数年間で著しく減少した。しかし、当行の既存の不動産開発プロジェクトへの貸出について債務不履行が著しく増加し、総合建設請負業者が当行の融資額をカバーするのに必要な保証金額を支払わない場合、当行の事業、財政状態および経営成績に悪影響を及ぼす可能性がある。

**当行の保証および手形引受に係る求償資産の質の悪化は、当行の財政状態および経営成績に重大な悪影響を及ぼす可能性がある。**

当行は、通常の銀行業務において様々な約定を交わし、また保証および手形引受の形で一定の偶発債務を負担する。当行が保証の受益者に対して、保証を行った借り手が関連債務証券の条項に従い支払期日に支払を怠ったためにその受益者に生じた損失を補償するために特定の支払を行うべきことを定めた契約である金融保証は、当初その公正価値で計上され、かかる当初公正価値は金融保証の年数にわたって償却される。その他の保証は当行の財務書類に対する注記においてオフバランスシート項目として記録され、当行が支払いを確認した保証は手形引受となり、財政状態計算書に計上される。2016年12月31日現在、当行は14,392十億ウォンの保証および手形引受を有しており、損失引当金78.5十億ウォンを引当てた。

当行の保証および手形引受の裏付資産の質が著しく悪化した場合には、当行の引当金はこれらの負債により生じる実際の損失を補填するためには十分ではない可能性がある。

**当行は市場変動により、投資またはそれよりも程度は少ないもののトレーディング業務により、著しい損失を被る場合がある。**

当行は、「第2 - 3 事業の内容 - (1)事業 - 事業の概観 - その他銀行業務」の「財務」および「証券投資およびトレーディング」に記載するとおり、主に当行の資金運用および投資業務を通じて、確定利付商品において大きな投資ポジションを有し、また、これを維持する。また当行は、銀行業務の一環として、株式および株式連動型証券およびデリバティブ金融商品を含むより小さなトレーディング・ポジションを維持している。これらのポジションを取ることで、金融市場の動向およびトレンドについての評価が必要となる。当行がこれらのポジションおよび関連取引の多くから得る収入および利益は、市場価格に依存しているため、当行の支配が及ぶものではない。当行が債務証券または持分証券といった資産を保有しているときに、例えば市場金利もしくは株式相場指数の変動に伴い時価が下落した場合、それにより当行はトレーディング損失および評価損失を被る場合がある。市場価格が当行が予想していない方向に動いた場合、損失を被る場合がある。さらに、市場が変わりやすく、価格が急激な変動を伴う場合、実際の市場価格は当行の評価とは逆の動きをする場合があるため、収入または利益が予想を下回る可能性があり、関連取引およびポジションに関しては損失を伴うことさえある。

**当行の手数料ビジネスから損失が生じる場合がある。**

当行は、手数料ビジネスの提供を行い、またこれを提供する範囲を拡大しようとしている。株式市場の低迷は、主として当行がその顧客のために実行する取引額の減少につながり、その結果、非金利収益の減少をもたらす。さらに、当行が顧客ポートフォリオを管理するための報酬は多くの場合、資産運用額に基づくため、株式市場の低迷が顧客ポートフォリオの価値を引き下げる影響や、解約金額の増加により、当行が信託勘定管理およびその他勘定管理サービスから受取る報酬を一般に引き下げることとなる。市場が低迷しない場合でも、当行の様々な勘定サービスの実績が株価実績を下回った場合には、解約の増加およびキャッシュ・インフローの減少をもたらす可能性があり、その結果、これらのサービスから当行が受領する収益額が減少する可能性がある。さらに、長引く資産価格の下落により、当行が保有する資産の流動性が低下する可能性があり、時宜を得たやり方もしくはコマースベースで合理的な価格で悪化しているポジションを処分または売却できない場合には、重大な損失を被ることになる。

**当行はカウンターパーティー・エクスポージャーに伴う損失を被る場合がある。**

当行は、契約相手が当行に対する契約義務を履行できないというリスクに直面している。これらの当事者は、破産、流動性不足、経営上の失敗またはその他の理由により、当行に対する義務を履行しない可能性がある。このリスクは例えば、契約相手が当行に対し支払義務を有するスワップまたはその他のデリバティブ契約や、契約相手によるノンデリバリーまたは決済代理人、取引所、手形交換所もしくはその他金融仲介業者によるシステム障害により、要求される時期に決済できない通貨またはその他取引を実行する際に生じる可能性がある。カウンターパーティー・リスクが現実となった場合、当行の事業、経営および財政状態に悪影響を及ぼす可能性がある。

**当行のリスク管理政策および手続は、常に十分な効果が現われない場合がある。**

通常の場合の当行の事業において、信用リスク、市場リスクおよびオペレーショナル・リスクといった数々のリスクを管理しなければならない。当行は、集中リスク管理組織および信用評価システム、報告および管理システム、早期警告システムならびにその他のリスク管理インフラを包含する包括的なリスク管理プラットフォームを通じて、様々なリスク管理戦略および技術を用いて、リスク・エクスポージャーを監視し、管理している。「第2 - 3 - (3) リスク管理」を参照されたい。当行はリスク管理政策および手続を発展させ、改善するために重要な資源を注ぎ込み、今後も引き続きそのようにする予定であるが、当行のリスク管理慣行は、あらゆる市場環境におけるリスク・エクスポージャーまたはあらゆる種類のリスク（未確認または予期せぬリスクを含む。）を常に除去または緩和する上で十分に効果的でない場合がある。例えば、当行の限られた人数の従業員は、時として、当行のリスク管理制度により発見されるまでに、長期間かなりの額を着服していたことがあった。こうした出来事に対応して、当行はとりわけ、リアルタイムでの監視制度を実施することで内部統制手続を強化してきたが、このような措置が将来、従業員による類似の不正行為を防止する上で十分であると保証することはできない。信用リスク、市場リスクおよびオペレーショナル・リスクの管理には、とりわけ多数の取引および事象を適切に記録し、検証するための方針と手続が必要とされるため、当行はこういった方針および手続により当行が直面するあらゆるリスクに対して常に十分な有効性を有することを保証することはできない。

**労働不安が当行の事業に悪影響を及ぼす可能性がある。**

2016年12月31日現在、10,035名の従業員が労働組合の組合員であり、現在まで当行は従業員との関係において、重要な困難な状況を経験していない。しかし、韓国金融業界または韓国経済の他の部門における著しい労働不安が、当行の事業活動ならびに当行の多くの顧客の事業活動およびその借入の返済能力に悪影響を及ぼす可能性があり、また韓国企業一般の財政状態に影響を及ぼす可能性がある。こうした状況が、当行の事業、財政状態、経営成績および自己資本比率に悪影響を及ぼす可能性がある。

**当行は当行の情報技術システムに関する混乱、遅延およびその他の困難に遭遇する可能性がある。**

当行は、広範な金融サービスならびに当行の日常業務（請求、オンラインおよびオフラインによる金融取引の決済ならびに記録保管を含む。）を継ぎ目なく提供するために情報技術システムに依存している。また当行は、特に技術の進歩によるサイバー・セキュリティ・リスクの高まりに照らして、顧客データの共有関連およびその他の顧客関係管理システムを含む当行のグループ全体の情報技術システムを継続的にアップグレードし、かつアップグレードのために莫大な支出を行っている。しかし、当行の最高の取組みにもかかわらず、当行は、当行の情報技術システムに関する混乱、遅延、サイバーもしくはその他のセキュリティ侵害またはその他の困難に直面する可能性があり、現在計画した通りに当行のシステムを時宜更新することができない場合がある。特に当行の顧客が、当行が最高のセキュリティ・システムを提供しておらず、当行の情報技術システムの障害を適時にかつ完全に修正できないと認識している場合、これらの展開のいずれかが、当行の事業に悪影響を及ぼす可能性がある。

**当行の事業活動はサイバー・セキュリティ・リスクにさらされている。**

当行の事業活動は、増加するサイバー攻撃のリスクにさらされており、今後も引き続きさらされる。またその性質は引き続き進化している。サイバー・セキュリティ・リスクは、システム全体の「ハッキング」またはその他の手段を通じた、パスワードや口座情報を含む社外秘のセンシティブな顧客情報への権限のないアクセスおよびその不正な利用を含んでいる。様々な種類の金融取引をインターネットや携帯電話による銀行サービスに依存する顧客の数がますます増加したことにより、一般にサイバー・セキュリティ・リスクはますます高まっている。当行は暗号およびその他のセキュリティ・プログラムにより顧客データを油断なく保護し、サイバー攻撃による一層の脅威に立ち向かうためのシステムの構築およびアップグレードならびに防御策に多額の投資を行ってきたが、かかるデータが将来のセキュリティ侵害を受けないと保証することはできない。さらに、当行の従業員、外部コンサルタントもしくはハッカーその他による不正行為により、当行が顧客情報の漏えいまたはその他のセキュリティ侵害を経験しないと保証することはできない。

例えば、2013年3月、韓国の主要な放送ネットワークおよび金融機関のセキュリティ・システムに対する未確認の発信源による大規模なサイバー攻撃により、当行のオンラインによる金融サービスの提供に一時的な障害が発生した。当行のオンラインによる金融サービスにおける障害は約90分間続いた後にさらなる異常はなく再開した。FSSはこの事件について調査を行い、当行がその情報技術管理アカウントおよびワクチン・サーバーのメンテナンスを適切に行っていなかったことが判明した。その結果、2013年12月に、FSSは当行に対し機関注意（機関警告の繰返しとは異なり、重大な制裁に引上げられることはない。）を通知し、当行従業員の5名に対し、懲戒処分を課した。当行は、かかる事件が顧客情報もしくはその他のセンシティブな情報の重大な損失もしくは漏えいをもたらしたとは考えていない。

韓国の主要な金融機関はまた過去に大規模な情報漏洩の被害を受けた。2013年12月、韓国のスタンダード・チャータード・バンクおよびシティバンクの約130,000件の個人情報漏えいと報道され、かかる漏えいは、スタンダード・チャータード・バンクでは第三者の委託業者によるもので、シティバンクでは従業員によるものであった。さらに2014年1月、韓国のNHカード、ロッテ・カードおよびKBカードの約100百万の顧客の個人情報が漏えいと報道され、かかる漏えいはこれらのクレジットカード会社3社の情報技術プログラムの開発中に、第三者の信用情報会社の従業員によるかかる情報への不正なアクセスにより発生した。

上記の2013年3月のサーバー・セキュリティ攻撃を除き、類似する大規模な顧客情報の漏洩を含め、当行はこれまで重大なセキュリティ侵害を経験していない。顧客情報およびその他の専有情報に関するセキュリティ侵害のリスクを最小限に抑えるために、当行は最高クラスの情報セキュリティ・システムの採用および実施ならびに内部統制手法の強化といった一連の予防措置を取ってきた。当行はサイバー・セキュリティおよび消費者保護措置を最高水準に維持し、これらを継続的にアップグレードすることに全力を尽くしている。当行はISO 27001の認証を受けたセキュリティ管理システムを実施し、情報セキュリティ管理システムの認証を取得した。当行はかかる認証は当行が国際的なセキュリティ事項に関し最高の種類の国際的な水準を遵守していることが第三者により証明されたことを示していると考えている。当行のセキュリティ管理システムは潜在的なサイバー攻撃の兆候を継続的に監視し、当行が素早く対処できるよう早期警告を提供するように設計されている。当行はまたサイバー・セキュリティについての集中的な従業員研修を情報技術担当者およびその他の従業員に対して行い、強制ウェブサイト認証およびキーボードによるセキュリティ機能といったオンライン金融サービスの先進的なセキュリティ・インフラ（非常に優れた情報セキュリティの専門家チームの雇用を含む。）を採用している。さらに、適用ある規則を遵守し、当行は最高10億ウォンのサ

イバー・セキュリティ侵害を対象とする保険に加入している。さらに、金融サービスへのアクセスにスマートフォンおよびその他のモバイル機器の利用が拡大していることを鑑み、当行は、安全なモバイル・バンキング・サービスの提供に加え、顧客データの不法な漏えいおよび共有を防止し、顧客のプライバシー保護を強化するためのセキュリティ措置（暗号化およびサービス端末監視を含む。）を実施している。

さらに、当行は実際の金融詐欺および潜在的な金融詐欺に関して規制当局により推奨され、または義務付けられる防御その他の措置の実施を積極的に行っている。しかし、技術の進歩およびその他の理由により、サイバー・セキュリティの脅威の性質は予測不可能に、かつ継続的に進歩しているため、当行が最高のサイバー・セキュリティ・システムを最善の努力をもって維持しているにもかかわらず、当行が将来重大なサイバー・セキュリティ攻撃を受けないと保証することはできない。

公衆はその個人情報秘匿することの重要性についてますます認識を高めており、金融規制当局が金融サービス提供者による個人情報保護により重点を置くようになっている。例えば、改正された個人情報保護法に基づき、その他の法令により特別に住民登録番号の管理を要請もしくは許可されない限り、金融機関は個人情報管理者として、その顧客の住民登録番号を取得し、保管し、維持し、利用もしくは提供してはならない。さらに、改正された信用情報の利用および保護法に基づき、金融機関はその顧客から得たすべての情報を保護し、かかる情報を信用情報として取扱わなければならない。かかる規則は金融機関によるかかる情報のその関連会社もしくは持株会社への移転または提供をかなり制限し、かかる情報の漏洩について金融機関に対し3倍の損害賠償を課すことができる。さらに、改正された電子金融取引法に基づき、金融機関は、例えかかる違反がその金融機関に直接起因しない場合でも、金融機関のサイバー・セキュリティ違反による被害を受けた顧客に対する補償に主たる責任がある。当行は、当行の顧客情報に関し、情報保護についての法令を確実に遵守するよう緊密に監視する統合システムを維持している。

当行に関し、サイバーまたはその他のセキュリティ侵害が発生した場合、その被害を受けた顧客もしくは第三者による訴訟（集団訴訟を含む。）、サイバー・セキュリティ攻撃の被害者が被った損失の補償、風評悪化、顧客喪失、規制当局による検査および制裁の強化、現在および将来の規制上の制限のより厳密な遵守ならびに情報セキュリティ・システムの損害抑制、修復および強化に関するその他費用が発生する可能性があり、これらのいずれかが、当行の事業、財政状態および経営成績に重大な悪影響を及ぼす可能性がある。

#### **当行の事業運営において法的請求および規制上のリスクが発生する。**

当行の通常の営業過程において、当行は規制制度および潜在的な法的・行政的責任のリスクの対象となっている。また、当行は、韓国およびその事業を行っているその他の法域において、その他様々な請求、紛争、法的手続ならびに政府調査の対象となっている。これらの種類の手続により、当行は相当な金銭的および/または評判に対する損害および法的防御費用、差止請求、刑事上および民事上の罰則ならびに当行の事業に対する規制制限にさらされている。これらの事柄の結果は予期することはできず、当行の将来の事業に悪影響を及ぼす可能性がある。

当行は、当行に対する訴訟または規制上の手続きにおいて徹底的に防禦する予定であるが、かかる事件の最終結果を予想することは困難である。合計請求金額は訴訟中に増額される場合もあり、類似の申立てにより、当行に対して他の訴訟が起こされる可能性がある。したがって、これらの訴訟およびその他の手続きが、当行の事業、財政状態および経営成績に重大な悪影響を及ぼす可能性がある。

## 法律、規則および政府政策に関するリスク

**当行は厳しく規制されている事業体であり、変更されることがある法的・規制環境の中で営業しているため、これに違反した場合には罰則およびその他規制措置が課される可能性がある。**

金融サービス・プロバイダーとして、当行は、経済的およびその他義務を遵守し、リスク・エクスポージャーを制限することを確保するために、韓国の金融制度の安全性および健全性を維持するために考案された数々の規制に服している。これらの規制は当行の業務を制限する可能性があり、これらの規則の変更によって営業費用が増加する可能性がある。規制当局は、当行の事業に関する規制を頻繁に見直し、新しい規制措置（随時、当行に適用される貸倒引当金の最低水準または自己資本比率の引上げを含む。）を実行する。当行は、当行が事業を行っている規制環境は引き続き変化すると予想している。当行および当行の事業に適用される規則の変更またはかかる規則の実施もしくは解釈の変更が予想しえない方法で当行に影響を及ぼす可能性があり、当行の事業、経営成績および財政状態に悪影響を及ぼす可能性がある。

政府により提案されている金融消費者保護法が施行されれば（国会の準委員会による法案の検討中である）、金融商品提供者としての銀行は、より厳しいガイドラインの交付、改善された金融紛争解決制度、金融商品提供者が直接負担する損害賠償の増額および新たに課される加重罰金を含む手厚い投資家保護措置の対象となる。当行はまた、とりわけその要件の国際的な採択の速度および範囲を考慮しつつ、韓国において段階的に採択されているバーゼルIIIに基づくより厳密な流動性および資本要件を含む将来の法令の変更の結果、当行事業に対するその他の規制の対象となる場合がある。これらの規制上の展開のいずれかが、事業を拡大し、当行のリスクおよび負債を適切に管理する当行の能力に重大な悪影響を及ぼす場合がある。

さらに、法律および規則の違反により、当行は著しい負債および制裁を課される可能性がある。例えば、FSSが当行に対する定期監査を行い、その時々当行がFSSから機関警告を受けてきた。FSSがかかる監査の一環もしくはその他により当行の財政状態が健全ではないかもしくは当行がFSSの命令を含む適用法令に違反していると判断した場合、または場合により当行が韓国法で定められた適切な自己資本もしくは自己資本比率の要件を満たしていない場合、FSSはFSCにはとりわけ、事業の承認、認可もしくは登録の取消し、事業の一部もしくは全部の停止、支店の閉鎖、役員解任もしくは役員職務履行の停止を命じることを要請する場合があります。またはFSSは機関警告、機関注意、役員に対する懲戒警告、役員に対する注意警告もしくは役員に対する注意を命じる場合がある。財政状態が健全でないか、最低自己資本比率要件を遵守していないか、またはその他の理由により、当行がかかる措置のいずれかを課された場合、当行の事業、財政状態および経営成績は重大な悪影響を受けるであろう。

FSSは2012年の11月から12月まで当行の包括的監査を行い、当行が顧客口座を違法に監視したこと、一部の金融取引について守秘義務に違反したこと、および当行の関連会社に対する1件の投資について開示し、FSSに報告する義務を怠ったことが発覚した後、2013年7月に当行に機関注意（機関警告を繰り返した場合とは違い、重大な制裁とはならない。）を発し、当行の従業員65名に対する懲戒処分および87.5百万ウォンの罰金を課した。さらに2013年3月、FSSは申立てのあった当行の金融コンピューター・ネットワークの故障に関し、当行に対し特別監査を行った。当行がその情報技術管理者のアカウントおよびワクチン・サーバーに関して適切なメンテナンスを行っていなかったことが発覚した後、2013年12月に当行に機関注意を発し、当行の従業員5名に懲戒処分を課した。2013年10月から2014年11月、FSSはまた、申立てのあった違法な顧客口座の監視に関し、当行に対し一連の特別監査を行い、2014年2月、韓国の検察庁もまたこの件に関して当行の調査を開始した。当行が顧客口座を違法に監視したことが発覚し、FSSは2015年12月に当行に機関注意を通知し、当行の元役員2名に懲戒処分を課したが、2016年8月に検察庁は証拠不十分のため当行の元役員を起訴しないことを決定した。さらに、FSSは2015年4月から5月に当行の定期監査を行い、当行はかかる監査に関し、2016年6月に経営陣への注意要請5件および改善要請3件の通知を受けた。

当行に適用ある主たる法律および規則の詳細については、「第2 - 3 事業の内容 - (6) 監督および規制」を参照されたい。

**政府は、政策目的の推進において一定の部門に絞った貸出を奨励することがあり、当行はこの要因を考慮に入れることがある。**

政府は、政府の課題を推進するために一定の企業および個人への貸出をこれまで奨励してきており、また、将来において奨励する可能性がある。例えば、政府は随時、FSC等の規制機関を通じて、当行を含む韓国の銀行および金融機関が特定の業界、事業グループまたは顧客部門に対する貸出を行うことを促進するための貸付政策を発表しており、一部のケースにおいては、特定の顧客部門へのさらなる貸出を促進するために、韓国銀行による貸出を通じてより低いコストの融資を提供した。これらのイニシアチブの一環として、2000年代後半の韓国および世界経済の停滞により偏った影響を受け、今なお回復していない中小企業および低所得の個人を支援するために、政府は様々なイニシアチブをこれまで行っており、現在も行っている。これらのイニシアチブの一環として、例えば、FSSは最近、経済の回復が遅れている中で中小企業の財政負担を軽減するために、韓国の銀行に中小企業に対する貸出を増加することを奨励し、また2016年2月に韓国銀行は、経済全般の低迷が続いていることからかかる企業の流動性の困難が高まることを予想して、また貿易輸出、インフラ投資および起業の取組みを刺激するために、中小企業に対する貸出支援を9兆ウォン増加すると発表した。金融規制当局はまた商業銀行の一部の貸出慣行（かかる慣行は、中小企業に対する貸出提供を不当に禁止する効果があると認識されている。）を改善させることを企図したいいくつかの措置を採択した。さらに、有望な起業およびベンチャー企業を支援する政府のイニシアチブの支援の一環として、2015年2月、金融規制当局は、韓国の銀行に中小企業部門の技術企業に対する貸出を年20兆ウォンを目標として増加させ、技術関連の与信審査能力を強化することを奨励すると発表した。これらのイニシアチブにより、中小企業部門の技術企業への貸出合計は累計で2015年には32.6兆ウォンおよび2016年には58.4兆ウォンに達した。2017年1月、FSCは2017年末までに貸出合計が累計で80兆ウォンに達することを目標として技術企業への貸出をさらに奨励することを発表した。2016年12月31日現在、当行の技術企業に対する貸出合計は累計で9.5兆ウォンに達した。

さらに、金利が上昇した場合の消費者債務水準の増加および個人の借り手の債務返済能力に関する懸念の高まりに対応して、2014年2月、FSCは、商業銀行が提供する住宅ローン（従来、多くの場合変動金利で満期時に元金一括返済され、通常1年ごとに借り換えられる。）にしめる固定金利のローンおよび元金分割返済ローンの比率を増加する計画を発表した。この計画によると、固定金利のローンの比率目標は2014年末までに20%、2015年末までに35%、2016年末までに37.5%および2017年末までに40%とされ、元金分割返済に基づく住宅ローンの比率目標は2014年末までに20%、2015年末までに35%、2016年末までに40%および2017年末までに45%とされている。家計債務の増加に関する懸念の中で、2016年および2017年の固定金利の貸出の比率目標がそれぞれ40%および45%に上げられ、2016年および2017年の元本分割返済の住宅ローンの比率目標がそれぞれ45%および55%に上げられた。さらに、満期が10年以上の貸出（この計画以前は満期が15年以上の貸出が対象であった。）に対して、金利返済の税額控除の増額が付与される。FSCは銀行が毎年この目標を達成するかどうかの検査を継続することを発表した。

固定金利の住宅ローンの比率を拡大する政策を推進するため、FCSは2015年3月24日から3月27日および2015年3月30日から4月3日のそれぞれの期間に「債務転換救済」プログラムを実施し、これに基づき、適格な住宅ローンの借り手（つまり、当初の借入日から1年以上経過しており、過去6ヵ月間に延滞しておらず、元本額が500百万ウォン以下で、900百万ウォン以下の価額の住宅のための住宅ローンで、変動金利および/または利払いのみのローンの場合。）は、かかるローンを固定金利の新たなローンに転換することができる。これにより、借り手は元利金の返済を猶予期間なしで10年、15年、20年または30年の分割払いで返済することが義務付けられる。ただし、新たなローンは最高ローン資産価値比率を70%（資産の所在地にかかわらず）、最大負債所得比率を60%（一部の例外を除き一部の例外を除き、ソウル首都地域に所在する集合住宅に関して。）を充たさなければならない。借り手は、かかるローンを提供した銀行でのみ、元のローンを転換することが認められている。新たに転換された固定金利のローン債権を保有する銀行は、かかる債権を政府が支配する事業体である韓国住宅金融公社に売却することが義務付けられており、同公社は、かかる債権を証券化し、不動産担保証券（かかる債権を担保とする。）を発行し、そのローン債権を売却した銀行にその売却したローンの金額に比例して買い取らせる。かかる銀行はかかる証券を1年間保有しなければならないが、その後はかかる証券を市場その他で売却または処分することができる。FSCによれば、このプログラムに基づき、約327,000人の借り手が総額31.7兆ウォンのローンを固定金利ローンに転換した。このうち当行の占める割合は約13.5%であった。かかるイニシアチブを主たる要因として、固定金利ローンおよび元金分割返済ローンは、2017年1月に政府により発行された情報によると、2016年9月30日現在の韓国の商業銀行により提供された住宅ローン合計のそれぞれ41.4%および43.3%を占めていた。2016年12月31日現在、当行が提供した住宅ローンのうち、固定金利ローンおよび元金分割返済ローンは、それぞれ43.7%および45.4%を占めていた。

市場金利が、2015年の3月から4月の同プログラムが実施された期間に適用された金利よりも高くなった場合、当行はその保有する不動産担保証券について評価損または実現損失を受ける可能性がある。金利環境およびその他の市況により、当行は商業的に合理的な価格で不動産担保証券を市場で売却もしくはその他の方法により処分することができない場合がある。さらに、このプログラムの結果、当行は資産ポートフォリオの計測および資産・負債管理政策により追加コストを被る可能性がある。これらの展開のいずれかが当行の経営成績および財政状態に悪影響を及ぼす可能性がある。

貸出を行うか否かの最終決定権は当行にあり、政府の政策とは独立して当行の行内与信承認手続およびリスク管理制度に基づき決定されるものの、当行は、貸出の実施を検討する際に、任意に、政府の政策および奨励の存在を織り込むことがある。さらに、中小企業および低所得の個人に追加貸出を提供することと並行して、当行はかかる取決めの結果リスク因子の高い企業および個人に不良貸付を行うことから生じる潜在的悪影響を低減するために、貸付審査および貸付後監視プロセスの強化といった積極的な措置を講じている。しかしながら、当行は、かかる取決めは、かかる課題がない場合に当行が純粹に商業上の判断のみに基づいて行っていたであろう場合と比較して、リスクと報酬の観点から最適ではない貸付ポートフォリオ配分となっていないかもしくは将来そうならないこと、または類似のもしくは他の政府主導の課題が将来そうならないと保証することはできない。政府は、将来、経済全般の活性化または的を絞った業種の成長を促すためにまたは国民の一部を救済するために、類似のまたは他の課題を実施する可能性がある。政府は、特に経済の停滞によって中小企業または低所得の世帯が総じて一段と厳しい財政難もしくは脆弱性に直面しており、そのため、政府が提案する金額および方法によって中小企業に貸出を行うことが一段と高リスクかつ商業上望ましくないものとなっている場合には、貸出関連の課題を実施するかまたは現行の課題をより強化して実施する可能性がある。従って、かかる政策主導の貸出が、これらの課題がなかった場合と比較して、当行にリスク管理上の一層の困難、資産の質の悪化および利益の減少をもたらす可能性があり、そのため、当行の事業、財政状態および経営成績に悪影響を及ぼす可能性がある。

**政府はまた政策目的の促進のため、一部の機関に対する投資を奨励する可能性があり、当行は適時にまたは商業上合理的なその他の方法で、かかる投資を回収できない可能性がある。**

的を絞った貸出に加え、政府は随時、その政策目的の促進のために、当行およびその子会社を含む韓国の金融機関に対し、一部の機関に対する投資もしくはその他の形態による金融支援の提供を奨励または要請する可能性がある。これに対して、当行は行内のリスク査定に基づき、当行のリスク管理制度および方針に従い、かかる奨励もしくは要請を遵守するか否か、どのように、どの程度遵守するかについての最終決定を行ってきており、引き続き行う所存である。同時に、韓国の金融サービス業界の主導的な一員として、かつ、責任ある法人として、当行はまた、例えばかかる要請の遵守がさらなる短期的なコストおよび限られた範囲のリスクを伴う可能性があったとしても、特に、健全な金融システムを維持するための政策目的の推進により生じる長期的な利益に関して、政府からのかかる奨励または要請に対し十分に相当な配慮をする所存である。

例えば、2008年から2009年の世界的な金融危機の後の不良債権の増加に対処するために、政府は主要な政策銀行および商業銀行6行（すなわち、当行、国民銀行、KEBハナ銀行、中小企業銀行、ウリィ銀行、農協銀行）からの資本拠出による2009年10月の連合資産管理会社（以下「UAMCO」という。）の設立を支援した。政府は当初2015年中にUAMCOを処分し、会社再編を専門とする新たな会社を設立する計画であったが、かかる計画を取止め、その代わりにUAMCOを再編成し、その再編事業を拡大することを決定した。UAMCOはその貸借対照表を強化する取組みの一環として、2016年5月に新たな2社の株主（韓国産業銀行および韓国輸出入銀行）ならびに既存株主2社（ウリィ銀行および農協銀行）から追加の資本拠出を受けた。当行はUAMCOに対する資本のうち175十億ウォンを拠出することを約束しており、現在までに85.1十億ウォンを拠出している。本書の日付現在、当行はUAMCOの14%の持分を保有しており、その他の政策銀行および商業銀行7行はそれぞれ2%から14%の範囲で持分を有している。

UAMCOは、債務再編、資本注入、資産売却、会社更生、債務整理ならびに清算および破産手続きを含む広範な再編プログラムを通じて苦境にある会社の財務改善を行うことを目指している。UAMCOは韓国最大の不良金融資産一般の買い手である。当行は2015年および2016年にそれぞれ39.1十億ウォンおよび103.5十億ウォンの不良資産をUAMCOに売却した。

上記の近年の資本拠出を経て資本基盤が拡大したことにより、UAMCOは韓国の法人部門の再編においてより積極的な役割を担うことが期待されている。政府はまた、UAMCOの事業活動を促進するためにFSCMAの改訂を検討している。

UAMCOが拡大された再編事業に成功した場合、当行を含む金融機関は、苦境にある借り手の事業の再編に直接取組むよりもむしろ、より多くの不良債権をUAMCOに譲渡することにより、その財務上の健全性を一層強化できることが期待される。しかし、当行またはその他の銀行は、政府によりUAMCOに対する追加の資本拠出もしくは貸出を要請される可能性があり、これにより予期せぬ費用が生じる可能性がある。さらに、不良資産の質が総じて低いことから、当行が保有するかかる資産を商業上妥当な条件で適時にUAMCOに売却できる1と保証することはできない。さらに、政府が、同様の、またはその他の政策目的の推進のために、当行に対し、同様の、もしくはその他の投資もしくはその他の金融支援の提供を要請もしくはその他の方法で奨励する可能性がないと保証することはできない。かかる提供について、当行は十分に補償されないか、または通常であれば負うことのないさらなるリスクを負う可能性があり、そのために当行の事業、財政状態および経営成績に悪影響を及ぼす可能性がある。

**当行の個人向け貸出業務（特に抵当ローンおよび住宅担保ローン）に対する政府の監督の度合いおよび範囲は、経済または政治情勢により変更される可能性がある。**

韓国の非常に多くの世帯にとって不動産は最も重要な資産であり、住宅価格の変動は概して国内経済の方向に重大な影響を及ぼす。従って、住宅価格の規制は、住宅価格バブルが疑われる時には実際のもしくは予期される過剰投機を抑え込もうとする点で、また、不動産市場が停滞している時には租税補助金、貸出期間に対する指導もしくはその他の方法により不動産取引の価格および/または不動産取引の件数を刺激する点で、政府にとって重要な政策課題であった。

例えば、2000年台の初期から中期に、政府は、一般の不動産投資および選ばれた地域における投機の高まりを抑え込むために、いくつかの規制措置（個人向け銀行業に関連するものを含む。）を採択した。過去に実施された措置の一部には、とりわけ、投機性が高いとみなされる地域に所在する不動産向け抵当ローンに対してより厳格な債務所得比率およびローン資産価値比率を金融機関が課すことを義務づけ、複数の住宅を所有する者に対して不動産取引にかかる財産税を引き上げ、新築住宅の販売価格に上限を設け、商業銀行が抵当ローンおよび住宅担保ローンのさらなる提供を控えることを商業銀行に勧告することが含まれていた。さらに、韓国において住宅市場の低迷が長引く中で、2013年4月、不動産包括対策を発表し、これはとりわけ、(i)キャピタルゲイン課税の引下げ、および(ii)初めての住宅取得者に対する住宅取得税の免除を規定している。さらに、2014年2月、FSCは、商業銀行が提供する住宅ローン合計にしめる固定金利の住宅ローンおよび元金分割返済に基づく住宅ローンの比率を増加する計画を発表した。「政府は、政策目的の推進において一定の部門に絞った貸出を奨励することがあり、当行はこの要因を考慮に入れることがある。」を参照されたい。

さらに、FSSは住宅ローンに関する規則を合理化するために、銀行法に基づく銀行を含むすべての金融機関は2014年8月1日以降、最高ローン資産価値比率を70%（一部の例外を除き、資産の所在地にかかわらず。）とし、最高債務所得比率を60%（一部の例外を除き、ソウル広域首都地域に所在する集合住宅に関してのみ。）とする行政指導を2014年7月に定めた。かかる行政指導は数回延長され、現在は2017年7月31日まで効力を有している。さらに、2014年12月、国会はまた不動産市場を刺激するためのいくつかの法案を可決した。2016年11月、家計債務の増加に関する懸念の中で、政府は、ソウルで不動産を購入する場合、かかる不動産の所有権をより長い期間保持することを義務付け、かかる不動産の頭金を増加させる別の不動産包括対策を発表した。2017年1月、与信審査方法を近代化し、家計債務の管理を安定させるためにFSCは債務返済比率および新たな債務所得比率の導入計画を発表した。対象となる貸出の元金および利息の返済を反映するがその他の貸出の利息返済のみを反映するこれまでの債務所得比率とは異なり、債務返済比率は対象となる貸出およびその他の貸出の元金および利息の双方の返済を反映するもので、2017年に自主規制参照指数として使用される。新たな債務所得比率は、金融機関が借り手の将来所得の潜在的な成長性および所得の安定性といった要素を合理的に考慮できるようにするためにこれまでの債務所得比率を修正している。

不動産部門の成長を刺激するために企図された政府のこれらの措置により、少なくとも短期的には当行の個人向け貸出事業（特に抵当および住宅担保ローンに関するもの。）が成長し、その収益性が改善する可能性があるものの、かかる措置は、韓国の不動産市場に「バブル」とその後の市場崩壊をもたらす過剰投機を含む意図しない結果をもたらす場合がある。対照的に、政府がその刺激策の方向を変更した場合（例えば、不動産市場における実際の、または予想されるバブルを先手を打って取り除くための変更）、かかる政策変更が不動産市場の収縮を招き、不動産価格が下落し、その結果、当行の個人向けおよび/またはその他の貸出事業の成長率ならびに収益性が低下し、またはその他により、当行の事業、財政状態および経営成績または収益性に悪影響が及ぶ可能性がある。「当行の事業に関連するリスク - 当行の貸出を担保する担保物件の価値が下落するかまたは当行が担保価値の全額を実現できなければ、当行の信用ポートフォリオが悪影響を受ける可能性がある。」を参照されたい。

**当行はイランに関する限定的な決済取引に従事しており、これにより当行に法的小および評判リスクが発生している。**

米国財務省外国資産管理局（以下「OFAC」という。）は一定の法規制（以下「OFAC規制」という。）を運用し、執行しており、これによって米国人に対して、イランを含むOFAC規制対象である一部の諸国、政府、事業体および個人との取引またはこれらに関する取引について規制を課し、またその資産が凍結され、その米国人との取引が一般に禁止される特別指定国のリスト（以下「SDNリスト」という。）を保管している。様々な法的背景により、その一部が米国において完了した取引に従事することによって米国人による違反を非米国人が生じさせるような場合には、かかる非米国人が責任を負わなければならない場合がある。欧州連合も一定の法規制を執行しており、これによって加盟国の国民および事業体ならびに加盟国において行われる事業に対して、かかる規制対象である一部の諸国、政府、事業体および個人との活動または取引について規制を課している。国連安全保障理事会およびその他の政府関連事業体も類似の規制を課している。

2016年8月、韓国政府は、韓国とイラン事業との間のユーロ建て取引の決済銀行を務めることを当行に対し授権した。この認可を付与されるまでは、かかる事業活動の支払いは韓国ウォン建てでのみ決済されており、当行はかかる決済に参加していなかった。8月以降の2016年に、当行は3回のかかる取引を行い、最小限の収益を得た。当行は、一定額のこれらの取引およびこれにより得る収益は2017年および近い将来にも最小限続くと予想している。当行は合法的な取引のみに従事し、関連するすべてのOFACおよび欧州連合による規制に従うことを誓約しているが、当行の従業員が行う行為がかかる規制に違反しないと保証することはできない。さらに、包括的共同作業計画（以下「JCPOA」という。）に従って米国および欧州連合の規制が緩和されたが、イランがJCPOAに基づく約束を遵守しない場合には、制裁が復活（スナッチバック）する可能性がある。

る。そのため、当行は、当行のユーロ建てのイラン関連の決済業務が規制対象となるか否かの合理的な程度を予想することはできない。さらに、イランに関する米国の政策の変更によっても、当行のイランとの取引が規制対象となる可能性がある。従って、当行のイラン関連の事業は当行に法的および評判リスクをもたらしている。

**当行は通常、韓国の会計、規制、コーポレート・ガバナンスおよび開示基準に服しており、これらはその他諸国の銀行に適用されるものとは異なっている。**

当行を含む韓国の銀行は韓国の会計基準および開示要件に服しており、これらは米国を含む一部の国の銀行に適用されるものとは重要な点で異なっている。当行の財務書類は韓国IFRSに従い作成されており、これはその他諸国で適用されるIFRSとはいくつかの点で異なっている可能性がある。さらに、当行は韓国の銀行に適用されるコーポレート・ガバナンス基準の対象となっており、これはその他諸国で適用される基準と多くの点で異なっている。さらに、当行のような韓国の銀行に関して公式に入手できる情報は、その他諸国の公開または非公開企業について通常入手できるものに比べて少ない可能性がある。会計およびコーポレート・ガバナンス基準の相違ならびに入手可能な公開情報がより少ないことにより、コーポレート・ガバナンス慣行または投資家に対する開示が十分でない場合がある。

## 韓国に関連するリスク

**韓国および世界における金融および経済の好ましくない情勢が、当行の資産の質、流動性および財務実績に重大な悪影響を及ぼす可能性がある。**

当行は韓国で設立され、その資産の大半は韓国にあり、その収益の大半は韓国で生み出されている。そのため、当行は韓国固有の政治、経済、法律および規制上のリスクにさらされており、当行の事業、経営成績および財政状態は、韓国経済に関連する動向に実質的に依存している。韓国経済は、世界経済の健全性および方向性に依存しており、ある国の情勢に対する投資家の反応が他国の企業の有価証券の価格に悪影響を及ぼす可能性があるため、当行もまた世界経済および金融市場の変動により影響を被る。韓国または世界経済の景気循環を決定する要因は、その大部分が当行の支配の及ばないものであり、内在的に不確実なものである。本項の他の部分に記載された世界経済および市場の不確実性ならびに当行に関するリスクに関する最近の情勢に関する議論以外に、将来において韓国経済に悪影響を及ぼす可能性がある要素には、とりわけ以下のものが含まれる。

- ・ 継続する韓国の信用および資本市場のボラティリティまたは悪化。
- ・ 欧州、中国およびその他の金融部門の困難ならびにいくつかの国におけるソブリンの債務不履行リスクの高まりならびにその結果として生じる世界金融市場への悪影響。
- ・ 消費者信認の低下ならびに消費者支出および企業投資の減速。
- ・ 外貨準備高水準、商品価格（石油価格を含む。）、為替相場（米ドル、ユーロもしくは日本円の為替相場の変動または中国人民元の切上げならびに2016年6月に英国の国民投票で過半数の有権者が欧州連合からの脱退に賛成票を投じたこと（以下「ブレグジット」という。）の韓国ウォンの価値に対する全般的な影響を含む。）、金利、インフレ率または株式市場の悪化またはボラティリティの高まり。
- ・ 家計債務水準の増加。
- ・ 個人および中小企業の借り手による延滞および信用破綻の増加。
- ・ 韓国の重要な輸出市場である経済国および地域（米国、ヨーロッパ、日本および中国またはアジアもしくはその他の新興市場経済国）において継続する不利な状況に加え、ブレグジットによる不確実性の高まり。
- ・ 係属中または将来の自由貿易協定の経済的影響。
- ・ 社会・労働不安。
- ・ 韓国の不動産の市場価格の低下。
- ・ 税収の減少に加え、財政刺激、失業補償ならびにその他経済および社会プログラムのための政府歳出の莫大な増加による政府予算の赤字拡大。
- ・ 韓国の企業グループ、その他の苦境にある大企業、これらのサプライヤーまたは金融部門の財政問題またはこれらの再編が進展しないこと。
- ・ 企業会計の不正および一部の韓国の企業グループに関するコーポレート・ガバナンス問題による投資家の信頼性の喪失。
- ・ 韓国において高齢化する人口を支えるための社会支出の増加または韓国の人口減少による経済上の生産性の低下。

- ・地政学上の不確実性およびいわゆる「イスラム国」による行為を含む世界中のテロリスト集団によるさらなる攻撃のリスク。
  - ・最近のエボラ出血熱および中東呼吸器症候群（MERS）の発症を含む韓国および世界のその他地域における深刻な疫病の発生。
  - ・領土または貿易紛争もしくは外交政策の不一致による悪化を含む、韓国とその貿易相手国もしくは同盟国との間の経済上または外交上の関係の悪化。
  - ・最近の朴槿恵大統領の弾劾に関する政情不安を含む政局の不確実性または韓国の政党間もしくは政党内の対立の激化に加え、効果的かつ適時の政策策定を妨げたり、混乱させる政府もしくは議会の政治的停滞。
  - ・中東および北アフリカの産油国を巻き込む敵対的行為または政治的もしくは社会的緊張ならびに世界的な石油供給の重大な遮断または石油価格の急騰。
  - ・ロシアに関する政治もしくは社会的緊張ならびに世界的な石油供給もしくは世界的な金融市場に対するその悪影響。
  - ・韓国（数ヶ月にわたり消費者感情を著しく損ねた2014年4月の客船セウォル号の沈没など。）および特に韓国の貿易相手国である世界のその他地域における自然災害または人為的災害の発生。
  - ・北朝鮮と韓国または米国との間の緊張関係の度合いの高まりまたは敵対的行為の発生。
- 今後、韓国経済が悪化すれば、当行の事業、財政状態および経営成績が悪影響を受ける可能性がある。

### **北朝鮮との間の緊張関係が当行に悪影響を及ぼす可能性がある。**

韓国と北朝鮮との関係は、韓国の近代史を通じて緊張関係が続いている。両国間の緊張の度合いはこれまで変動してきており、現在および将来の出来事如何で突発的に高まる可能性がある。特に、2011年12月の金正日の死後、北朝鮮の政治的指導力に関する不確実性に加え、同地域の政治・経済の安定の行方に関する懸念が高まっている。金正日の三男である金正恩が、その父の指名した後継者として権力を承継したが、かかる指導力の移行による長期的な結果は今なお不透明である。

さらに、核兵器および長距離ミサイル計画に関する行為を含む北朝鮮の敵対的な軍事及び外交行動により、同地域の安全保障上の緊張の高まりが継続している。かかる行為の近年のいくつかの例には下記が含まれる。

- ・北朝鮮は2003年1月の核拡散防止条約に基づく義務を放棄し、2006年10月から2013年2月までの間に3ラウンドの核実験を行い、これにより同地域の緊張が高まり、世界中で激しい反対が起きた。2016年1月6日、国際的監視機関が北朝鮮の核実験区域とされる場所付近でマグニチュード5.1の地震を観測した数時間後、北朝鮮はその初の水爆実験に成功したと発表した。かかる主張は独自に検証されていない。問題の実験は、北朝鮮が水爆を開発したと主張する金正恩によるその前月に行われた声明の後に行われた。2016年2月7日、北朝鮮は科学的観測のための人工衛星打ち上げ用であるとされるロケットを発射した。かかる打ち上げは、国際社会により、核弾頭を運ぶことのできる長距離ミサイルのテスト発射であると広く疑われている。2016年2月18日、合衆国の大統領であるバラク・オバマは北朝鮮の最近の核およびミサイル実験、人権侵害ならびにサイバー犯罪に対する強制的制裁法に署名した。かかる法案は、北朝鮮のみを標的とした合衆国による初めての措置であり、北朝鮮の武器計画に関連する事業に従事する者の資産を差押えることを企図しており、北朝鮮へのラジオ放送および人道支援プロジェクトのために5年間に50百万米ドルを支出することを承認した。2016年3月2日、国際連合安全保障理事会は北朝鮮に対して制裁を課す決議を全会一致で採択した。かかる制裁には、北朝鮮を行き来するすべての貨物の検査、すべての武器取引の禁止および「不法行為」を行った北朝鮮外交官の退去を含んでいる。また、2016年3月4日、欧州連合は制裁対象者リストに記載される会社および個人をさらに追加し、北朝鮮に対する制裁を拡大することを発表した。2016年9月、北朝鮮は弾道ミサイルに搭載できる核弾頭実験に成功したと発表した。これに対し、韓国政府はかかる実験を非難し、国連安全保障理事会は2016年11月30日、北朝鮮の石炭輸出の上限ならびに銅、ニッケル、銀および亜鉛といった非鉄金属の輸出禁止を含むさらなる制裁を北朝鮮に課すとする決議を満場一致で可決した。
- ・2015年8月、非武装地帯の南側で所定のパトロール中の韓国兵士2名が地雷の爆発により負傷した。かかる地雷は北朝鮮により埋められたと主張して、韓国軍は非武装地帯付近で拡声器を利用した北朝鮮に対するプロパガンダ計画を再開した。北朝鮮軍はその報復として拡声器周辺を砲撃し、南北朝鮮の武装準備は最高の水準となった。その後、軍事的緊張を緩和するために南北朝鮮の高官による会談が行われ共同声明が発表され、この中で、とりわけ北朝鮮は地雷を埋めて韓国兵士を負傷させたことに対する遺憾の意を表明した。
- ・北朝鮮はその時々朝鮮半島沿岸から海に向かって短距離から長距離のミサイルを発射してきた。最近では2015年3月に、韓国と米国による年次共同軍事演習に対する明白な抗議として7発の地对空ミサイルを東岸から発射した。

- ・ 2013年12月、金正恩の親戚であり、金正恩に次ぐ副司令官であると広く推測されていた張成沢が扇動罪で処刑された。かかる展開が北朝鮮におけるさらなる政治・社会的不安定および/または北朝鮮とその他世界とのさらなる軋轢を生む可能性のあるより敵対的な政策の採択を引き起こす可能性があるとして報じられている。
- ・ 2013年4月、北朝鮮は国境付近の都市である開城の工業団地への韓国人の立ち入りを封じた。同月、合衆国は韓国の領空および領海に原子力搭載船を配備した。しかし、2013年9月、韓国と北朝鮮は合意に達し、開城工業団地の操業を再開した。2014年2月、米国議会調査局は、開城工業団地の拡大および国際化に向けた韓国のアプローチは、北朝鮮に対する制裁を拡大しようとする米国の法的取組みと対立するものであると報告した。2016年2月10日、北朝鮮の最近の長距離ロケットの発射に対する報復として、韓国は、北朝鮮が開城工業団地からの資金をその核およびミサイル計画の資金に利用することを阻止するため、その操業を停止することを発表した。これに対応し、2016年2月11日、北朝鮮はすべての韓国人従業員を工業団地から追放し、工業団地のすべての韓国の資産を凍結すると発表した。北朝鮮による発表の後、開城の全韓国労働者280名は同工業団地を去り、同工業団地は本書の日付現在閉鎖されている。
- ・ 2013年3月、北朝鮮は韓国と「戦争状態」に入ったと発表し、1953年の休戦協定が無効であると宣言し、韓国と米国の共同軍事訓練ならびにミサイルおよび核実験についての北朝鮮に対する追加制裁に抗議するために、最高水準の戦闘準備をして大砲を配備した。

北朝鮮の経済はまた、深刻なインフレおよび食糧不足を含む厳しい問題を抱えており、これらが北朝鮮の社会・政治的緊張を一層悪化させる可能性がある。さらに、将来、韓国と北朝鮮の再統一がなされる可能性があり、そのためには韓国による多大な経済上のコミットメントおよび支出が伴い、それは再統一によりもたらされる経済上の利益を上回る可能性がある。

将来、朝鮮半島における緊張の度合いが高まらなると保証することはできず、また北朝鮮の政治体制が突然崩壊しないと保証することもできない。朝鮮半島において軍事的、政治的または経済的な安定に関連する緊張または不確実性がさらに高まれば（北朝鮮の核計画を巡る外交交渉の決裂、軍事的敵対行動の勃発、北朝鮮政治指導層の安定に対する懸念の高まりもしくは実際の崩壊、指導層の危機または高官レベル協定の決裂もしくは再統一の加速を含む。）、当行の事業、財政状態および経営成績ならびに韓国、当行もしくは当行の社債の信用格付の格下げに重大な悪影響を及ぼす可能性がある。

## 5【経営上の重要な契約等】

該当事項なし。

## 6【研究開発活動】

該当事項なし。

## 7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

以下の議論および分析は、連結財務書類および注記（「第6 - 1 財務書類」に記載されている。）と併せて、これら全体を参照して読まれるべきである。下記に記載されるすべての財務情報は、別段の記載がない限り連結ベースで表示されている。本項におけるかかる議論には、将来予測に関する記述が含まれており、将来の事象および財務実績に関する当行の本書提出日現在の見解が反映されている。実際の結果は、いくつかの要因（「第3 - 4 事業等のリスク」および本書のその他の箇所に記載された要因が含まれる。）により、かかる将来予測に関する記述の中で予想されたものと大きく異なる場合がある。

### 概観

当行は、とりわけ資産合計、収入、収益性および自己資本の点において韓国大手商業銀行の一つである。とりわけ資産合計、収入、収益性および自己資本の点において韓国大手金融持株会社の一つである新韓フィナンシャル・グループの旗艦傘下会社である当行は、主に韓国において、また韓国における程度には及ばないものの選ばれた海外市場において、個人ならびに法人顧客向けに幅広い商業銀行業務およびその他銀行業務を提供している。当行は中小企業を対象とする韓国最大のレンダーの一つである。2016年12月31日現在、当行は国内支店871店舗、海外支店14店に加え、日本、中国、香港、ベトナム、米国、カナダ、ドイツ、カンボジア、カザフスタン、メキシコおよびインドネシアにそれぞれ所在する子会社計11社を有している。

当行の資産の大半は韓国に所在し、その収益の大半が韓国において発生している。したがって、当行の事業および収益性は、金利、インフレ、輸出、個人支出および消費、失業、企業商品およびサービスに対する需要、家計および企業の債務返済負担、信用能力全般、不動産および有価証券の資産価値ならびに当行の法人および個人顧客の財政状態に影響を与えるその他の要因を含む韓国の全般的な経済ならびに社会情勢に大きく依存している。韓国経済は世界経済および金融市場と密接に統合されており、世界経済および金融市場における動向に著しい影響を受けている。近年、世界経済および金融市場は厳しく、ボラティリティの高い状況にあり、このことは韓国経済に、ひいては当行の事業および収益性に悪影響を与えた。「第3 - 4 事業等のリスク - 当行の事業に関連するリスク - 韓国および世界経済ならびに金融市場の困難な状況および乱高下が、当行の事業、資産の質、自己資本および利益に不利な影響を及ぼす可能性がある。」を参照されたい。

当行は、その収益の大半を法人向けおよび個人向け貸出の資金調達費用（主に顧客預金に対する支払利息）控除後の利息から得ている。正味受取利息は主に貸出金の平均残高および貸出金にかかる正味利息スプレッドに連動している。

主に市場金利の全般的な低下ならびに2014年下半年の政府による最高債務所得比率および最高資産価値比率要件を緩和することを含む不動産市場を刺激するための政策が実施されたことを受けて、住宅ローンに対する需要の増加が続いたことにより、2015年、個人向け貸出の平均残高は2014年から11.7%増加した。さらに、住宅賃貸に必要な長期保証金の金額が大幅に上昇したことに加え、長期保証金賃貸住宅の供給が全般的に減少したことにより、より多くの家庭が住宅の購入を選択したため、抵当ローンおよび住宅担保ローンの金額が増加した。2015年、市場金利の全般的な低下に加え、SOHOおよび中小企業の成長を促進するための政府による政策的イニシアチブを背景に、これらの企業向けの貸出需要が増加したことにより、法人向け貸出の平均残高は2014年から7.8%増加した。

2016年、個人向け貸出の平均残高は、主に住宅賃貸に必要な長期保証金ローンに対する需要および高い信用プロフィールを有する借り手に対する貸出が継続して増加していることにより、2015年から12.8%増加した。さらに、韓国銀行は歴史的な低水準の基準金利を維持していたが、2016年6月、かかる金利をさらに引下げ、歴史的な低金利である1.25%とし、不動産市場を刺激するための政府による政策は2016年上半年中継続した。家計債務の増加に関する懸念の最中で、政府が2016年8月および11月に、抵当および住宅担保ローンの金額の急増を抑えるための政策と措置を発表したため、2016年下半年には個人向け貸出の増加は減速した。主に2016年を通じて市場金利が低水準であったことに加え、SOHOおよび特に製造業の中小企業の需要が増加したことから、2016年の法人向け貸出の平均残高は2015年から5.4%増加した。

2015年から2016年にかけて、主に2016年6月に韓国銀行が基準金利をさらに引下げたことにより、利付資産の平均利回りおよび有利子負債の平均金利はともにさらに減少したが（満期プロフィールの相対的な相違のため、有利子負債の平均金利は利付資産の平均利回りよりも大幅に減少した。）、利付資産および有利子負債の平均残高はともに増加した。主に有利子負債の平均金利の低下が利付資産の平均利回りの低下に比較してより大きかったため、当行の正味受取利息は2015年の4,165十億ウォンから8.1%増加して2016年には4,504十億ウォンとなった。貸倒損失引当金計上後の正味受取利息は2015年および2016年にそれぞれ3,572十億ウォンおよび3,848十億ウォンであった。当行の営業利益は2015年の1,734十億ウォンから13.0%増加して2016年には1,959十億ウォンとなった。

### 韓国経済の傾向

2016年、主要な経済国では経済回復が遅れ、発展途上国では景気が後退していることから、世界経済は低調な成長の兆しを示した。米国では、雇用とインフレの指数は様々な兆候を示しているものの、消費者支出の回復に助けられて、米国経済は緩やかな回復を維持することができた。その結果、2016年12月、米国連邦準備制度理事会（以下「連邦準備理事会」という。）は基準金利を0.25%に引上げ、2017年に徐々に利上げを行うことを計画していると発表した。ヨーロッパでは、金融緩和政策によりユーロ安になったことから、輸出が増加した。しかし、ブレグジットや難民危機といった政治リスクにより、ヨーロッパの成長は限定的であった。中国では、企業債務や構造改革の問題から、その経済成長は2015年に比較して引き続き低調であった。

2016年上半期、韓国経済は、個人消費税の引下げといった政府による積極的な国内消費刺激策や、不動産市場が活発化したことによる建設業界に対する投資の拡大により、緩やかであるものの安定した成長を示した。しかし、2016年第4四半期には、中国経済の停滞、主要国経済の回復の遅れ、輸出の減速、消費者の信頼性および民間支出の低下といった要因により、韓国経済の成長は減速の兆候を示した。韓国の国内総生産の2016年の年間成長率は2.7%で、2年連続で2%台であった。2017年上半期、個人消費税の引下げといった政府の金融政策にもかかわらず、企業再編その他の要因による消費者信認の潜在的な低下により、韓国経済は停滞する可能性がある。

2017年、当行は、(i)中国の成長の減速および中国のハードランディングの可能性、(ii)世界経済の様々な金融政策による外国為替市場のボラティリティの高まり、(iii)韓国の次の選挙を含む政治リスクならびに米国およびヨーロッパの政情不安、(iv)国内企業の再編、(v)家計債務水準の高まり、(vi)脆弱な消費者感情、ならびに(vii)人口の高齢化、を韓国経済の潜在的なリスクと考えている。

金利の変動に関しては、2009年以来、韓国は、その他の多くの国々と同様に、わずかな変動はあったものの低金利環境であった。これは一部には政府による積極的な金利引下げ措置による経済刺激政策によるものであった。2009年から2014年までの間、韓国銀行により設定される基準金利は2.00%から3.25%の範囲に留まっていた。近年の韓国の成長減速および世界経済の不確実な見通しに照らし、韓国銀行は2015年3月に基準金利を1.75%に引下げ、2015年6月には1.50%に引下げ、2016年6月にはさらに歴史的な低金利である1.25%に引下げ、それ以来変更していない。最近、2017年3月に連邦準備理事会が基準金利を0.75%から1%の範囲に引上げ、2017年中にさらに利上げを行うことを計画していると発表した。2017年および予見可能な将来の韓国銀行の金利政策の方向性は引続き不確実である。

2016年、韓国の主要な商業銀行は、主に個人および法人顧客からの貸出需要の回復により全般的にその資産において緩やかに成長した。資産の質もまた延滞率および不良債権比率の点では限定的な範囲で改善した。しかし、商業銀行の正味資金利鞘は全般的に縮小した。これは主に政府によって設定された基準金利が低下したことに加え、韓国の銀行間の競争が、特に一部の適格固定金利貸出および分割払い貸出に関して激化したためである。

当行は現在、韓国の商業銀行業界に重大な悪影響を及ぼす可能性のある重大な規制上の展開について認識していない。しかし、長引く低金利環境は、商業銀行が預かり金と貸出金との金利差を利用して利益を得る機会を制限し、主要な商業銀行間の良質な顧客を求める熾烈な競争を煽ってきた。さらに、オンラインによる金融サービス業者の人気の高まるにつれて、カカオ・コーポレーション、ネイバーおよびサムソン電子といったといった大規模な利用者ネットワークを有するオンライン・サービスのプロバイダーおよび技術会社もまた、一般に「fintech」（金融テクノロジー）と称する金融サービスと金融技術の成長中の集約に基づくシステムを通じた仮想振込サービスの提供に著しく参入して競争を激化させている。さらに、インターネットによるサービスのみを扱う銀行は、すでに営業開始しているか、または2017年上半期に営業を開始することが見込まれており（Kバンクは2017年4月3日に営業を開始しており、カカオバンクは2017年7月までに開業する予定である。）、既存の商業銀行の顧客を惹きつけるために新たなサービスを導入したり、販促活動を行う可能性がある。そのため商業銀行は、物理的な銀行店舗で対面での利用を主とする従来の顧客に比較して、成長著しい顧客基盤であるオンライン利用者を惹きつけ、維持するためにそのサービス基盤をアップグレードするべきとする圧力の高まりに直面するであろう。

## 金利

金利の変動は、その規模および時期ならびに当行の資産および負債に対する相対的な影響といった点で、当行の正味資金利鞘および収益性、特に金利変動に敏感な当行の金融商品に重大な影響を及ぼす。例えば、当行の貸出金（資産に計上されている。）に適用される金利が当行の預金（負債に計上されている。）に適用される金利と比較してより速いペースでもしくはより大きな幅で低下するか、またはより遅いペースでもしくはより小さい幅で上昇する場合、正味資金利鞘は縮小し、当行の収益性は悪影響を受ける。さらに、当行の変動金利の貸出金および預金の相対的規模および構成（固定金利の貸出金および預金と比較して）もまた、当行の正味資金利鞘に影響を与える場合がある。さらに、当行の利付資産（主に貸出金）と有利子負債（主に預金）の平均期間の相違もまた当行の正味資金利鞘に影響を与える場合がある。例えば、当行の預金の期間は現在は平均的に貸出金の期間よりも長期であるため、当行の預金は、当行の預金および貸出金が連動する傾向にある基準金利の変動に対して、平均的にそれほど敏感ではなく、そのため基準金利の上昇は当行の正味資金利鞘を上昇させる傾向にあり、一方、基準金利の低下はその反対の影響を有する傾向にある。当行は、金利のボラティリティに対するエクスポージャーを最小限に抑えるべく継続的にその資産および負債を管理しているものの、当行のかかる努力によっても金利ボラティリティを適時または効果的に緩和することができない可能性がある。

当行により顧客に課される金利は、一部には韓国銀行連合会によって公表される「資金調達コスト・インデックス」（COFIX）に基づいている。COFIXは、韓国の大手銀行8行（当行、国民銀行、ウリ銀行、KEBハナ銀行、農協銀行、中小企業銀行、シティバンク・コリア・インクおよびスタンダード・チャータード・バンク・コリア・リミテッドからなる。）の選ばれた資金調達商品（定期預金、住宅その他積立貯蓄預金、レボ、割引手形および非転換型シニア社債を含む。）の加重平均金利に基づいて計算されている。各銀行はその後、COFIXと自行の全般的な資金調達コスト、事務費用、顧客の信用スコア、貸出の満期およびかかる銀行との顧客関係に基づいたその他顧客に固有のプレミアムおよびディスカウントとの差に基づいて、COFIXにスプレッドを上乗せしてそれぞれの顧客への適用金利を個別に決定している。これらの金利は通常毎月調整される。

表示日現在のウォン建て借入の基準金利の一部を下表に示す。

	社債金利 <sup>(1)</sup>	国債金利 <sup>(2)</sup>	譲渡性預金 証書金利 <sup>(3)</sup>	COFIX 残高基準 <sup>(4)</sup>	COFIX新規 借入基準 <sup>(5)</sup>
	(%)				
2012年6月30日	3.87	3.30	3.54	3.91	3.63
2012年12月31日	3.29	2.82	2.89	3.57	3.01
2013年6月30日	3.31	2.88	2.69	3.17	2.66
2013年12月31日	3.29	2.86	2.66	2.91	2.60
2014年6月30日	3.10	2.68	2.65	2.79	2.59
2014年12月31日	2.43	2.10	2.13	2.58	2.10
2015年6月30日	2.01	1.79	1.65	2.22	1.75
2015年12月31日	2.11	1.66	1.67	1.90	1.66
2016年6月30日	1.69	1.25	1.37	1.75	1.54
2016年12月31日	2.13	1.64	1.52	1.62	1.51

出典：韓国金融投資協会

## 注記：

- (1) AA-格付を有する3年物社債の利回りにより測定されている。
- (2) 3年物国債の利回りにより測定されている。
- (3) 91日満期の譲渡性預金証書の利回りにより測定されている。
- (4) COFIXの報告対象の商業銀行による資金調達商品の月末ごとの残高についての借入金利の加重平均に基づき測定されている。
- (5) COFIXの報告対象の商業銀行による新規資金調達商品の各月の残高についての借入金利の加重平均に基づき測定されている。

## 重要な会計方針

当行の財務書類の作成にあたり、経営陣は、一定の会計方針の適用において、本質的に不確実性の高い事項の影響について重要な見積りおよび仮定を伴う判断を行うことが要求されている。これらの見積りおよび

仮定は、一部の資産、負債、収益および費用の報告金額に重大な影響を与える可能性があるが、財務書類の日付現在当行が入手可能な情報に基づいており、異なる見積りおよび仮定を用いることにより、時の経過によってかかる情報に変更がある場合には財務書類上の報告金額に重大な影響を与える可能性がある。一部の会計方針はその性質上、見積りおよび仮定の利用により大きく依拠しており、これにより、当初報告されたものと大きく異なる結果となることがある。

報告金額の基礎となる手法、見積りおよび仮定に対する財務書類数値の感応度に基づき、当行は重要な会計見積りに関わる以下の重要な会計方針を特定している。これらの方針は主観的または複雑な判断を要求しており、そのため、新たな情報が入手可能になることにより改定される場合がある。当行の重要な会計方針は、「第6 - 1 財務書類」に記載される連結財務書類に対する注記2により詳しく述べられている。

## 測定の基礎

連結財務書類は、下記の連結財政状態計算書における重要な項目を除き、取得原価に基づき作成されている。

- ・ 公正価値で測定されるデリバティブ金融商品
- ・ 公正価値で測定される当期損益認識金融商品
- ・ 公正価値で測定される売却可能金融資産
- ・ 公正価値で測定される株式基準報酬
- ・ 公正価値リスクヘッジ会計のリスクヘッジ対象項目に指定され、ヘッジ対象リスクによる公正価値の変動を当期損益として認識する金融負債
- ・ 確定給付債務の現在価値合計から社外積立資産の公正価値を減算した確定給付債務

## 金融資産の減損

当行は各報告期間末に、損益を通じて公正価値で測定される金融資産を除く金融資産または金融資産の集合体が減損している客観的な証拠があるか否かについて評価する。資産の当初認識後に発生し、損失事象が、信頼性をもって見積ることができる金融資産または金融資産の集合体の見積将来キャッシュフローに影響を与える一つ以上の事象により減損の客観的な証拠がある場合に限り、金融資産または金融資産の集合体が減損したものとし、減損損失が発生する。金融資産が減損した客観的な証拠には、借り手もしくは発行者の著しい財政上の困難、元利金支払の不履行もしくは延滞、当行がそれ以外の場合には検討しないような当行により付与された貸出金の再編もしくは条件緩和、借り手もしくは発行者が破産もしくはその他の財務再編に入る兆候、またはかかる資産の当初認識以降、支払の遅延回数増加等の金融資産の集合体からの見積将来キャッシュフローに計測可能な減少があることを示す観測可能なデータが含まれる。

**貸出金および債権** 当行はまず、減損の客観的な証拠が個別に重要な貸出金および債権について個別に存在するか、または個別には重要ではない金融資産について個別にもしくは集合的に存在するかを査定する。当行が個別に評価された金融資産について減損の客観的な証拠がないと判断する場合、これが重要であってもなくても、同程度の信用リスク特性を有する金融資産の集合体にかかる資産を含め、減損について集合的に評価する。個別に減損評価される資産で、減損損失が認識されるかまたは継続して認識される資産は集合的減損評価には含まれない。貸出金および債権に減損損失が発生している客観的な証拠がある場合、損失の金額は、資産の帳簿価額と金融資産の当初実効金利（すなわち、当初認識において計算された実効金利）で割り引いた見積将来キャッシュフロー（まだ発生していない将来の信用損失を除く。）の差額として測定される。貸出金および債権の金利が変動金利である場合、減損損失を評価するために用いられる割引率は契約において定義された現行実効金利である。担保付金融資産の見積将来キャッシュフローの現在価値は、かかる担保の実現可能性にかかわらず、担保を取得し売却する費用を控除した後の担保からのキャッシュフローを含めて計算される。集合的な減損を評価する際、当行は、資産の種類、業種、所在地、担保の種類、延滞およびその他関連要因を考慮した信用リスク評価または信用格付評価プロセスに基づき金融資産を格付けし、分類する。集合的減損評価に適用される金融資産の将来キャッシュフローは、債務不履行の可能性の実績における傾向、回収時期および発生した損失額についての統計的モデリングを用いて見積もられ、現在の経済および信用情勢のために歴史的モデリングで示唆される金額を減損損失が上回る可能性と下回る可能性とのどちらが高いかについての経営陣の判断により調整される。歴史的モデリングにより将来キャッシュフローを調整する際、その結果は観測可能データ（例えば、集合的資産の減損損失および失業率、資産価格、商品価格、支払状態および減損損失の規模を表すその他変数）の動向および傾向に一致しなければならない。将来キャッシュフローを見積るために用いられる方法および仮定は、減損見積りと実際の損失との乖離を小さくするために定期的に見直される。減損損失は損益において認識され、貸出金および債権に対する引当金勘定に反映される。減損損失の金額を減少させるような後発事象が起こり、かかる減少が減損認識後に発生した事象に客観的に関係している場合、減損損失の減少は当期の損益に戻入れられる。

**売却可能金融資産** 当社は、売却可能持分投資について、かかる投資の公正価値が著しく減少するか、または減少が長引く場合、減損損失を認識する。当社は公正価値が当初の原価の30%超減少する場合、これを「著しい減少」と考えている。また、持分投資の市場価格が6ヵ月連続して帳簿価格を下回った場合、これを「長引く減少」と考えている。売却可能金融資産の減損損失は、その他包括利益において認識され、資本の公正価値準備金において表示された累積損失を損益に振替えることにより認識される。その他包括利益から除かれ、損益において認識される累積損失は、元本返済および償却後の取得原価と従前損益に認識された減損損失を控除した現在の公正価値との差額である。時間的価値に帰属する減損引当金の変動は利息収益の要素として反映される。その後の期間に、減損した売却可能債務証券の公正価値が増加し、かかる増加が損益において減損損失が認識された後に発生した事象に明白に関連している場合、減損損失は損益において認識された戻入れ金額とともに戻し入れられる。ただし、減損した売却可能持分証券の公正価値のその後の回復分については、その他包括利益において認識される。

満期保有金融資産 償却原価で測定された満期保有金融資産に関する減損損失は、帳簿価額と、資産の当初実効金利で割り引かれた見積将来キャッシュフローの現在価値との差額として計算され、損益において認識される。減損資産の利息は、割引のアンワインディングとして引き続き認識される。減損損失の金額を減少させる後発事象が発生した場合、かかる減損損失の減少は損益を通じて戻し入れられる。

## 金融保証契約

金融保証とは、特定の債務者が債務証書の要項に従った期日に返済を行わなかったために発生した損失を債権者に払い戻すために、当行が特定の支払を行うことが義務付けられている契約である。金融保証負債は当初は公正価値で認識され、当初公正価値は金融保証の存続期間にわたり償却される。金融保証負債はその後、保証に基づく支払の可能性が高くなった場合、かかる償却金額と、予想される支払の現在価値のいずれが高い方の金額で計上される。金融保証はその他負債に含められる。

## 確定給付制度

確定給付制度とは、確定拠出制度を除く退職後従業員給付制度である。確定給付制度における当行の正味負債は、従業員が当期およびそれ以前の期間の勤務の見返りとして稼得し、現在価値を決定するために割引かれた将来の給付金額を見積ることにより計算される。社外積立資産の公正価値は控除される。かかる計算は独立した保険数理士により予測単位積立方式を用いて毎年行われる。割引率は、当行の債務の期間と満期日が近似しており、給付が支払われる通貨と同じ通貨建ての質の高い社債の報告日付の利回りである。当行は正味確定給付負債（資産）にかかる勤務費用および正味利息を損益において認識し、正味確定給付債務（資産）の再測定要素をその他包括利益において認識している。

## 採択されていない新たな基準および解釈

2015年9月25日に制定・公表された韓国IFRS第1109号は2018年1月1日以降に開始する事業年度から適用するが、早期適用が認められている。これは、現行の韓国IFRS第1039号「金融商品：認識および測定」に替わるものである。当行は、韓国IFRS第1109号を2018年1月1日以降に開始する年度から適用する予定である。

韓国IFRS第1109号の主要な特徴は、(i)金融資産の管理のための事業モデルおよび金融資産の契約上のキャッシュフロー特性に基づいた金融資産の分類ならびに測定、(ii)金融資産の「予想信用損失」モデルに基づいた減損方法論、ならびに(iii)ヘッジ会計の適用条件を充たすヘッジ対象項目およびヘッジ手段の範囲の拡大ならびにヘッジ会計の効果の評価方法の変更である。

韓国IFRS第1109号は、現行の韓国IFRS第1039号と比較して、その他包括利益を通じて償却原価または公正価値で測定されるものとして分類される金融資産について追加要件を導入し、これによって、損益を通じて公正価値で測定される金融資産の比率を潜在的に高めることにより、当行の損益のボラティリティを大きくする場合がある。韓国IFRS第1109号はまた、貸出、負債商品、リース債権、契約資産および金融保証契約について、現行の基準における「発生損失」モデルを、将来の「予想信用損失」モデルに替えることにより、現行の基準に基づき発生損失モデルを用いるよりも早期に減損損失を認識しやすくなる。さらに、韓国IFRS第1109号に基づき、ヘッジ会計の適用条件を充たすヘッジ対象項目およびヘッジ手段の範囲を決定する際に、原則に基づくわかりやすい基準を提供することにより、より多くのヘッジ対象項目およびヘッジ手段がヘッジ会計の適用条件を充たすこととなる。

韓国IFRS第1109号は当行に、韓国IFRS第1109号の適用による金融上の影響を評価し、金融商品に関するその会計プロセスおよび内部統制を修正することを義務付けている。韓国IFRS第1109号の採択による実際の影響は、当行が保有する金融商品およびその時点の経済状況に加え、将来行われる会計方針の選定および判断次第となるであろう。この詳細については、「第6 - 1 財務書類」に記載される連結財務書類に対する注記2に述べられている。

## 平均残高ならびに金額および金利分析

### 平均貸借対照表および関連金利

下表は、2015年および2016年12月31日終了年度の当行の平均残高および平均金利ならびに正味利息スプレッド、正味資金利鞘および資産負債比率を示している。

12月31日に終了した年度

2015年	2016年
-------	-------

	平均残高 <sup>(1)</sup>	受取利息 / 支払利息	利回り / 金利(%)	平均残高 <sup>(1)</sup>	受取利息 / 支払利息	利回り / 金利(%)
(単位：十億ウォン、%を除く)						
<b>利付資産：</b>						
他銀行への預け金	6,623	102	1.54	6,105	74	1.21
売買目的資産 <sup>(2)</sup>	9,337	163	1.74	11,220	168	1.50
<b>貸出金<sup>(3)</sup>：</b>						
個人向け	84,117	2,840	3.38	94,900	2,909	3.07
法人向け	107,425	3,500	3.26	113,235	3,505	3.10
公的機関およびその他貸出	2,098	74	3.56	2,197	71	3.24
他銀行への貸出	5,798	91	1.71	5,835	96	1.88
貸出金合計	199,438	6,505	3.27	216,167	6,581	3.05
<b>有価証券<sup>(2)</sup></b>						
売却可能金融資産	20,268	485	2.39	24,324	455	1.87
満期保有金融資産	9,283	319	3.44	10,358	324	3.13
有価証券合計	29,551	804	2.72	34,682	779	2.25
その他利付資産	-	75	-	-	94	-
<b>利付資産合計</b>	<b>244,949</b>	<b>7,649</b>	<b>3.12</b>	<b>268,174</b>	<b>7,696</b>	<b>2.87</b>
<b>非利付資産：</b>						
現金および預け金	8,515			9,792		
デリバティブ資産	1,458			1,772		
売却可能金融資産	1,848			1,463		
有形固定資産および無形資産	2,262			2,288		
その他非利付資産	11,032			12,649		
<b>非利付資産合計</b>	<b>25,115</b>			<b>27,964</b>		
<b>資産合計</b>	<b>270,064</b>	<b>7,649</b>		<b>296,138</b>	<b>7,696</b>	

12月31日に終了した年度

	2015年			2016年		
	平均残高 <sup>(1)</sup>	受取利息/支 払利息	利回り/ 金利(%)	平均残高 <sup>(1)</sup>	受取利息/支 払利息	利回り/ 金利(%)
(単位：十億ウォン、%を除く)						
<b>有利子負債：</b>						
預金：						
要求払預金	24,466	104	0.43	29,170	105	0.36
定期預金および貯蓄 預金	166,217	2,643	1.59	183,025	2,347	1.28
その他預金	3,432	41	1.19	4,501	65	1.44
利付預金合計	194,115	2,788	1.44	216,696	2,517	1.16
売買目的金融負債	12	-	-	10	-	-
借入金	14,568	173	1.19	14,534	162	1.11
債務証券	18,257	472	2.59	20,652	471	2.28
その他有利子負債	2,964	51	1.74	2,894	42	1.46
<b>有利子負債合計</b>	<b>229,916</b>	<b>3,484</b>	<b>1.52</b>	<b>254,786</b>	<b>3,192</b>	<b>1.25</b>
無利子負債：						
無利子預金	3,191			3,381		
デリバティブ負債	1,413			1,735		
その他無利子負債	14,958			15,053		
無利子負債合計	19,562			20,169		
負債合計	249,478	3,484		274,955	3,192	
株主持分	20,586	-		21,182	-	
<b>負債および資本合計</b>	<b>270,064</b>	<b>3,484</b>		<b>296,137</b>	<b>3,192</b>	
<b>正味利息スプレッド<sup>(4)</sup></b>			1.61%			1.62%
<b>正味資金利鞘<sup>(5)</sup></b>			1.70%			1.68%
<b>平均資産負債比率<sup>(6)</sup></b>			106.54%			105.25%

注記：

- (1) 日次平均残高に基づいている。
- (2) 年換算で表示されている。
- (3) 減損貸出は、それぞれの平均貸出残高に含まれている。かかる減損貸出に係る受取利息は当初の実効金利を用いて認識される。実効金利は、貸倒損失の測定にも用いられる。
- (4) 利付資産から得た利息の平均金利と有利子負債に支払われた利息の平均金利との差。
- (5) 正味受取利息の利付資産の平均残高に対する比率。
- (6) 利付資産の平均残高の有利子負債の平均残高に対する比率。

## 正味受取利息の変動分析-金額および金利分析

下表は、当行の2015年と比較した2016年の金額および金利の変動による受取利息、支払利息および正味受取利息の変動の分析を示している。

金額および金利の増減は、絶対金額および金利の変動に比例して、平均利付資産および平均有利子負債の平均残高の増減および金利の変動に基づき算出される。金額および金利双方の変動により生じた増減は、絶対金額および金利の変動に比例して割り当てられている。

2015年から2016年  
以下の変動による利息の増加（減少）

	金額	金利	増減
(単位：十億ウォン)			
<b>受取利息の増加（減少）</b>			
他銀行への預金	(6)	(22)	(28)
売買目的資産	28	(23)	5
貸出金：			
個人向け	331	(262)	69
法人向け	180	(175)	5
公的機関およびその他貸出	3	(6)	(3)
他銀行への貸出	1	4	5
貸出金合計	515	(439)	76
有価証券：			
売却可能金融資産	76	(106)	(30)
満期保有金融資産	34	(29)	5
有価証券合計	110	(135)	(25)
その他利付資産	-	19	19
受取利息合計	647	(600)	47
<b>支払利息の増加（減少）</b>			
預金：			
要求払預金	17	(16)	1
定期預金および貯蓄預金	216	(512)	(296)
その他預金	15	9	24
利付預金合計	248	(519)	(271)
借入金	-	(11)	(11)
債務証券	55	(57)	(2)
その他有利子負債	(1)	(9)	(10)
支払利息合計	302	(596)	(294)
<b>正味受取利息の純増（減少）</b>	345	(6)	339

## 経営成績

## 2016年と2015年との比較

## 正味受取利息

表示期間についての当行の正味受取利息の主要構成要素を下表に示す。

	12月31日に終了した年度		
	2015年	2016年	増減率(%)
	(単位：十億ウォン、%を除く)		
<b>受取利息：</b>			
現金および銀行預け金	102	74	(27.5)
売買目的資産	163	168	3.1
貸出金	6,505	6,581	1.2
売却可能金融資産	485	455	(6.2)
満期保有目的金融資産	319	324	1.6
その他受取利息	75	94	25.3
受取利息合計	7,649	7,696	0.6
<b>支払利息：</b>			
預金	2,788	2,517	(9.7)
借入金	173	162	(6.4)
債務証券	472	471	(0.2)
その他支払利息	51	42	(17.6)
支払利息合計	3,484	3,192	(8.4)
正味受取利息	4,165	4,504	8.1
正味資金利鞘 <sup>(1)</sup>	1.70%	1.68%	

注記：

(1) 正味受取利息の平均利付資産に対する比率。上記「平均残高ならびに金額および金利分析-平均貸借対照表および関連金利」を参照されたい。

## 受取利息

受取利息は、2015年の7,649十億ウォンから0.6%増加して2016年には7,696十億ウォンとなった。これは主に、貸出金の平均残高の増加により貸出金利息が2015年の6,505十億ウォンから1.2%増加して2016年に6,581十億ウォンとなったことによるが、これは韓国銀行により設定される基準金利の低下による全般的な市場金利水準の低下により一部相殺された。当行の貸出に係る平均貸出金利は、主に法人向け貸出に対する平均貸出金利および個人向け貸出金利が低下したため、2015年の3.27%から2016年の3.05%に低下した。当行の貸出金の平均残高は、主に個人向け貸出および法人向け貸出の平均残高の増加のため、2015年の199,438十億ウォンから2016年の216,167十億ウォンに8.4%増加した。その詳細は下記に記載されている。

さらに具体的には、以下の理由により受取利息は増加した。

- ・個人向け貸出に係る利息は、2015年の2,840十億ウォンから2016年の2,909十億ウォンに2.4%増加した。これは主に、個人向け貸出の平均残高が、2015年の84,117十億ウォンから2016年に94,900十億ウォンに増加したため、これは個人向け平均貸出金利が2015年の3.38%から2016年の3.07%に低下したことにより一部相殺された。個人向け貸出の平均貸出金利は主に、韓国銀行が基準金利を2015年3月の1.75%から2015年6月に1.50%に引下げ、2016年6月に1.25%へとさらに引下げたことによる市場金利の全般的な低下により低下した。韓国銀行が設定する基準金利は、譲渡性預金証書に対する市場金利を決定し、これにより主に当行の個人向け貸出の大半の貸出金利が決定される。個人向け貸出の平均残高が増加したのは主に、市場金利の全般的な低下ならびに最高債務所得比率および最高ローン資産価値比率の上限の緩和を含む不動産市場を刺激するための2政府による政策の実施を受けて住宅ローン需要が引続き増加したことによる。さらに、住宅賃貸に必要な長期保証金の金額が引き続き上昇したことに加え、長期保証金賃貸契約に基づく賃貸住宅の供給が減少したことにより、より多くの家庭が住宅の購入を選択したため、抵当ローンおよび住宅担保ローンの金額が増加したためである。かかる傾向は、抵当ローンおよび住宅担保ローンの金額の増加に関する懸念に対処して韓国政府が抵当規制を強化したことにより、2016年第4四半期にわずかに減速した。
- ・法人向け貸出に係る利息は、2015年の3,500十億ウォンから2016年の3,505十億ウォンに0.1%増加した。これは主に法人向け貸出の平均残高が2015年の107,425十億ウォンから2016年の113,235十億ウォンに5.4%増加したため、これは法人向け貸出に係る貸出金利が2015年の3.26%から2016年の3.10%に低下したことにより一部相殺された。法人向け貸出の平均残高の増加は主に、市場金利の全般的な低下ならびにSOHOおよび中小企業の成長を促進する政府の政策イニシアチブを背景に、これらの企業の貸出需要が増加したためである。法人向け貸出の平均貸出金利の低下は主に、市場金利の全般的な低下に加え、法人借り手に対する全般的な市場流動性が高まる中で商業銀行間の良質な法人向け貸出をめぐって競争が激化したことによるものである。

## 支払利息

支払利息は、2015年の3,484十億ウォンから8.4%減少して2016年には3,192十億ウォンとなった。これは主に、預金に係る支払利息が、2015年の2,788十億ウォンから2016年の2,517十億ウォンに9.7%減少したことに加え、より程度は少ないものの、借入金に係る支払利息が2015年の173十億ウォンから2016年の162十億ウォンから6.4%減少し、債務証券に係る支払利息が2015年の472十億ウォンから2016年の471十億ウォンに0.2%減少したことによる。

預金に係る支払利息が減少したのは主に、預金に係る平均支払金利が2015年の1.44%から2016年の1.16%から28ベースポイント低下したことによるが、これは、預金の平均残高が2015年の194,115十億ウォンから2016年の216,696十億ウォンに11.6%増加したことにより一部相殺された。預金に係る平均支払金利が低下したのは主に、定期預金および貯蓄預金に係る平均支払金利が2015年の1.59%から2016年の1.28%に低下したためである。定期預金および貯蓄預金に係る平均支払金利が低下したのは主に、韓国銀行により設定される基準金利の引下げに伴い市場金利が全般的に低下したことに加え、韓国金融市場における流動性が豊富であったためである。預金の平均残高が増加したのは主に、定期預金および貯蓄預金の平均残高が2015年の166,217十億ウォンから2016年の183,025十億ウォンに10.1%増加したためであり、これは主に金融市場の継続する不確実性に照らして、顧客が低リスクの投資を愛好したためである。

借入金に係る支払利息は、2015年の173十億ウォンから2016年の162十億ウォンに6.4%減少した。これは主に、借入金に係る支払金利が2015年の1.19%から2016年の1.11%から低下したためである。借入金に係る平均支払金利の低下は主に、2016年に市場金利が全般的に低かったことに加え、金利の高い借入金を借換えるための当行の積極的な取組みによるものである。

債務証券に係る支払利息は、2015年の472十億ウォンから2016年の471十億ウォンから0.2%減少したが、これは主に、債務証券の平均残高が2015年の18,257十億ウォンから2016年の20,652十億ウォンに13.1%増加したにもかかわらず、債務証券に係る平均支払金利が2015年の2.59%から2016年の2.28%に低下したことによる。債務証券に係る平均支払金利の低下は主に、2016年に韓国銀行が設定した基準金利が引き下げられたことによる市場金利の低下によるものである。債務証券の平均残高の増加は主に、当行の規制資本を増加するために外貨建ての劣後債を発行したためである。

## 正味資金利鞘

正味資金利鞘とは、正味受取利息の利付資産の平均残高に対する比率を表す。当行の総体的な正味資金利鞘は、2015年の1.70%から2016年の1.68%からに2ベースポイント減少した。これは、利付資産にかかる受取利息の平均金利が2015年の3.12%から2016年の2.87%に25ベースポイント低下し、利付資産の平均残高が2015年の244,949十億ウォンから9.5%増加して268,174十億ウォンとなったことによる。一方、正味金利スプレッドは、利付資産により得られる平均金利と有利子負債により支払われる平均金利の差を表しており、2015年から2016年に増加した。これは主に有利子負債にかかる支払利息の平均金利が2015年の1.52%から2016年の1.25%に27ベースポイント低下したためである。この低下は主に、韓国銀行が基準金利を2015年の1.50%から2016年の1.25%に引下げたことにより、ウォン建て社債の発行およびその他ウォン建ての資金調達に関連する費用が減少したためである。かかる低下は、主に上記の当行が保有するウォン建て貸出およびウォン建て有価証券からなる利付資産にかかる受取利息の平均金利の低下を相殺して余りあった。利付資産の平均残高は、主に市場金利の全般的な低下に加え、経済を刺激するための政府による政策イニシアチブにより、主に個人向け貸出および法人向け貸出の金額が増加したことにより増加した。

**正味手数料収益（費用）**

表示期間における当行の正味手数料収益の内訳を下表に示す。

	12月31日に終了した年度		
	2015年	2016年	増減率(%)
(単位：十億ウォン、%を除く)			
受取手数料：			
与信取扱手数料	69	70	1.4
電子金融手数料	136	136	0
仲介手数料	111	91	(18.0)
業務代行手数料	322	309	(4.0)
投資金融手数料	67	47	(29.9)
外国為替受取手数料	149	165	10.7
信託報酬手数料	71	98	38.0
受取保証料	55	60	9.1
その他	70	86	22.9
受取手数料合計	1,050	1,062	1.1
支払手数料：			
与信関連手数料	41	30	(26.8)
ブランド使用手数料	50	33	(34.0)
サービス関連手数料	13	15	15.4
売買および仲介関連手数料	7	8	14.3
外国為替支払手数料	25	30	20.0
その他	60	62	3.3
支払手数料合計	196	178	(9.2)
正味受取手数料	854	884	3.4

\* N/M=重要ではない。

正味受取手数料は2015年の854十億ウォンから2016年の884十億ウォンに3.4%増加した。これは主に信託報酬手数料が2015年の71十億ウォンから2016年の98十億ウォンに38.0%増加し、外国為替受取手数料が2015年の149十億ウォンから2016年の165十億ウォンに10.7%増加したためであるが、これは仲介手数料が2015年の111十億ウォンから2016年の91十億ウォンに18.0%減少したことに加え、投資金融手数料が2015年の67十億ウォンから2016年の47十億ウォンに29.9%減少したことにより一部相殺された。信託報酬手数料の増加は主に当行が提供した金銭信託商品の増加によるものである。外国為替受取手数料の増加は主に外貨建て取引の増加によるものである。仲介手数料の減少は主に株式連動ファンドの販売の減少によるものである。投資金融手数料の減少は主に合併・買収、SOC（社会資本）プロジェクトおよびその他法人取引の件数が減少したためである。

**正味非金利収益（費用）**

表示期間における当行の正味非金利収益（費用）の内訳を下表に示す。

## 12月31日に終了した年度

	2015年	2016年	増減率(%)
	(単位：十億ウォン、%を除く)		
受取配当金	184	124	(32.6)
正味売買利益(損失)	134	59	(56.0)
正味外国為替取引利益	75	245	226.7
正味売却可能金融資産売却利益	422	411	(2.6)
正味金融資産減損損失	(799)	(739)	(7.5)
一般管理費	(2,785)	(2,890)	3.8
その他営業費用(純額)	(516)	(640)	24.0
正味非営業費用	128	61	(52.3)
関連会社投資における持分利益	13	9	(30.8)
正味非金利収益(費用)合計	(3,144)	(3,360)	6.9

正味非金利費用は、2015年の3,144十億ウォンから6.9%増加して2016年の3,360十億ウォンとなった。これは主に、その他営業費用(純額)が2015年の516十億ウォンから2016年の640十億ウォンに増加したことに加え、一般管理費が2015年の2,785十億ウォンから2016年の2,890十億ウォンに3.8%増加したことによるが、これは正味外国為替取引利益が2015年の75十億ウォンから2016年の245十億ウォンへ226.7%増加したことにより一部相殺された。その他営業費用(純額)の増加は主に、貸出の販売利益の減少および支払保証引当金の増加によるものである。一般管理費の増加は主に、希望退職者の増加に加え、業績関連給付を含む従業員報酬の全般的な増加によるものである。当行は、トレーディング業務(主にデリバティブ取引に関連している。)および外国為替取引をともにネットポジションベースで管理している。そのため、正味売買利益または正味売買損失の増減は、通常、正味非金利費用に重大な影響を及ぼさない。しかし、主に2016年の関連通貨の不安定な変動により外貨建て資産および負債の正味評価益が増加したことから、2016年に正味外国為替取引利益が著しく増加し、正味売買利益が2015年の134十億ウォンから2016年の59十億ウォンに56%減少したことを上回った。

**金融資産の減損損失**

表示期間における減損損失を金融資産の種類別に下表に示す。

	12月31日に終了した年度		
	2015年	2016年	増減率(%)
	(単位：十億ウォン、%を除く)		
貸出金：			
個人向け	117	129	10.3
法人向け	492	543	10.4
その他	(3)	(2)	(33.3)
小計	606	670	10.6
有価証券 <sup>(1)</sup>	207	82	(60.4)
その他	(14)	(13)	(7.1)
金融資産の減損損失合計	799	739	(7.5)

注記：

(1) 売却可能金融資産および満期保有金融資産からなる。

金融資産の減損損失は、2015年の799十億ウォンから2016年の739十億ウォンから7.5%減少した。これは主に有価証券の減損が2015年の207十億ウォンから2016年の82十億ウォンに60.4%減少したため、これは貸出金にかかる減損損失の増加に一部相殺された。有価証券の減損損失の減少は主に、当行がPOSCO、大韓電線および双竜重工業に対する投資を含む2015年に認識した一部の投資についての減損損失を2016年に認識しなかったためである。貸出金にかかる減損損失の増加は主に、当行の建設業、造船業および海運業の法人の借り手の一部が再編中であったことから2016年上半年に貸倒損失引当金を増加したことにより、法人向け貸出金にかかる減損損失が2015年の492十億ウォンから2016年の543十億ウォンに10.4%増加したことに加え、主に個人向け貸出金の増加によりエクスポージャーが増加したことから個人向け貸出金の減損損失が2015年の117十億ウォンから2016年の129十億ウォンに10.3%増加したためである。

**法人税費用**

法人税費用は主に、損失の繰越による336十億ウォンの繰延税金資産の認識により、2015年の385十億ウォンから77.1%減少して2016年には88十億ウォンとなった。これは、2016年に当行の課税所得が増加したことにより一部相殺された。当行はこれまで、期限の経過した税務上の欠損金について実現可能性が低いと判断し、繰延税金資産を認識しなかった。しかし、2016年、預金・保険負債の消滅および最近の税還付に対し期限の経過した税務上の欠損金の使用を認める韓国国税庁が公表した新たな税務解釈に基づき、当行は将来の課税利益および預金・保険負債の消滅が将来見込まれることを考慮し、繰延税金資産を認識した。当行の実効税率は、2015年の20.54%から2016年には4.34%に低下した。

**当期純利益**

上記により、当行の当期純利益は、2015年の1,490十億ウォンから30.3%増加して2016年の1,941十億ウォンとなった。

## 当期その他包括利益（損失）

	12月31日に終了した年度		
	2015年	2016年	増減率(%)
	(単位：十億ウォン、%を除く)		
海外事業の外貨換算差益	(2)	2	N/M
売却可能金融資産の公正価値の正味変動	(241)	(248)	2.9
関連会社のその他包括利益に対する持分	6	3	(50.0)
確定給付制度に関連する再測定利益（損失）	(55)	20	N/M
その他包括損失合計（税引後）	(292)	(223)	(23.6)

\* N/M=重要ではない。

その他包括損失は2015年の292十億ウォンから23.6%減少して2016年には223十億ウォンとなった。これは主に、2015年に確定給付制度に関連する再測定損失を55十億計上したのに対し、2016年にはかかる再測定利益を20十億計上したためである。確定給付制度に関し、再測定損失から再測定利益となったのは、主に割引率および賃金成長を含む財務上の重要な仮定の変動によるものである。

## 事業セグメント

現在、当行の主な事業セグメントは以下のとおりである。

- ・個人向け銀行業：主に個人顧客（富裕層の個人および家族を含む。）ならびにより少ない程度ではあるが病院、空港および学校といった非営利機関に貸出を行い、これらから預金を受入れる業務
- ・法人向け銀行業：中小企業を含む営利目的の法人に貸出を行い、これらから預金を受け入れる業務ならびに法人顧客向けの投資銀行サービスの提供
- ・国際銀行業：主に海外子会社および海外支店の運営ならびにその他の海外業務
- ・その他銀行業：財務業務（行内資産負債管理およびその他の非預金の資金調達業務を含む）、有価証券の投資およびトレーディングならびにデリバティブのトレーディングに加え、銀行業務全般の管理からなる。

2015年4月より、当行は、進化する事業モデルと組織構成の変化を反映して、主要な事業セグメントを一部再調整した。かかる変更の結果、これまで法人向け銀行業セグメントのもとで行われていた一部の事業（資金業務、有価証券の投資およびトレーディングならびにデリバティブ・トレーディング業務）がその他銀行業セグメントに振り替えられた。詳細については「第6 - 1 財務書類」に記載される当行の連結財務書類に対する注記5を参照されたい。2015年のセグメント別業績はセグメント区分の変更を、かかる変更が2015年1月1日に起こったと仮定して作成されている。

下表は、2015年および2016年12月31日終了年度のセグメント別営業利益を示している。

	12月31日に終了した年度		
	2015年	2016年	増減率(%)
	(単位：%を除き十億ウォン)		
個人向け銀行業	536	758	41.4
法人向け銀行業	625	751	20.2
国際銀行業	179	189	5.6
その他銀行業	391	244	(37.6)
連結調整 <sup>(1)</sup>	3	17	466.7
営業利益合計	1,734	1,959	13.0

注記：

(1) 連結調整は、セグメント間取引の調整からなる。

### 個人向け銀行業

個人向け銀行業セグメントは主に、当行の個人向け銀行業支店が支店の顧客（主に個人および世帯からなる。）に提供する銀行サービスおよびその他サービスからなる。個人向け銀行業の商品は主に、抵当ローンおよび住宅担保ローンならびにその他個人向け貸出、預金およびその他貯蓄商品、ならびに投資およびバンカシュアランス商品の販売により稼得した手数料からなる。

表示期間における個人向け銀行業セグメントの損益計算書データを下表に示す。

	12月31日に終了した年度		
	2015年	2016年	増減率(%)
	(単位：%を除き十億ウォン)		
正味受取（支払）利息	2,542	2,753	8.3
正味受取（支払）手数料	539	517	(4.1)
正味その他利益（費用）	(2,545)	(2,512)	(1.3)
営業利益（費用）	536	758	41.4

### 2016年と2015年との比較

個人向け銀行業の営業利益は、2015年の536十億ウォンから41.4%増加して2016年の758十億ウォンとなった。

個人向け銀行業の正味受取利息は、当行の個人向け貸出金の平均金額が増加したため、2015年の2,542十億ウォンから8.3%増加して2016年には2,753十億ウォンとなったが、これは当行の正味資金利鞘の減少により一部相殺された。個人向け貸出の平均金額の増加は主に賃貸住宅長期保証金貸出および新規住宅購入のための抵当ローンの増加ならびに信用プロフィールの高い顧客への貸出の増加によるものである。当行の正味資金利鞘の減少は主に韓国銀行により設定された基準金利の低下を反映している。

正味受取手数料は2015年の539十億ウォンから4.1%減少して2016年には517十億ウォンとなった。この減少は主に、投資およびバンカシュアランス商品の販売による手数料が減少したためである。

### 法人向け銀行業

法人向け銀行業セグメントは主に、当行の法人向け銀行業支店が支店の法人顧客（大半が中小企業および大企業（財閥の傘下会社を含む。））に提供する一般貸出ならびに貸越およびその他貸出ファシリティ等の銀行サービスならびにその他サービスからなる。

表示期間における法人向け銀行業セグメントの損益計算書データを下表に示す。

	12月31日に終了した年度		
	2015年	2016年	増減率(%)
	(単位：%を除き十億ウォン)		
正味受取(支払)利息	1,001	1,111	11.0
正味受取(支払)手数料	278	283	1.8
正味その他利益(費用)	(654)	(643)	(1.7)
営業利益(費用)	625	751	20.2

#### 2016年と2015年との比較

法人向け銀行業の営業利益は、2015年の625十億ウォンから20.2%増加して2016年には751十億ウォンとなった。

正味受取利息は、2015年の1,001十億ウォンから11.0%増加して2016年には1,111十億ウォンとなった。この増加は主に、法人向け貸出の平均残高が増加したことによるもので、正味資金利鞘が縮小したことにより一部相殺された。当行の法人向け貸出の平均残高が増加したのは主に、特に製造業のSOHOおよび中小企業に対する貸出が増加したためである。当行の正味資金利鞘が縮小したのは主に、韓国銀行により設定された基準金利が低下したことを反映して2016年に市場金利が低下したためである。

正味その他費用は2015年の654十億ウォンから1.7%減少して2016年には643十億ウォンとなった。これは主に当行の外国為替サービスの換算マージンが増加したことによるものである。

#### 国際銀行業

国際銀行業セグメントは主に、セグメント間の貸出および借入といった当行の海外子会社および支店の業績からなっている。

表示期間における国際銀行業の損益計算書データを下表に示す。

	12月31日に終了した年度		
	2015年	2016年	増減率(%)
	(単位：%を除き十億ウォン)		
正味受取(支払)利息	331	366	10.6
正味受取(支払)手数料	64	74	15.6
正味その他利益(費用)	(216)	(251)	16.2
営業利益(費用)	179	189	5.6

#### 2016年と2015年との比較

国際銀行業の営業利益は、2015年の179十億ウォンから5.6%増加して2016年には189十億ウォンとなった。

正味受取利息は、2015年の331十億ウォンから10.6%増加して2016年の366十億ウォンとなった。この増加は主に、当行の海外支店(特にベトナムおよびインドネシアの子会社)によって提供された貸出の平均残高の増加によるものである。

正味受取手数料は2015年の64十億ウォンから15.6%増加して2016年には74十億ウォンとなった。この増加は主に海外子会社および支店で行われた貸出に関する受取手数料が増加したことによる。

正味その他費用は2015年の216十億ウォンから16.2%増加して2016年には251十億ウォンとなった。この増加は主に、当行の海外ネットワークの拡大による一般管理費の増加によるものである。

#### その他銀行業

同セグメントは主に、資金業務（行内資産負債管理および非預金の資金調達業務を含む）、債務証券およびより程度は小さいものの自己勘定での持分証券のトレーディングならびに投資、デリバティブのトレーディング業務に加え、バックオフィス機能の管理からなるその他業務からなっている。

表示期間におけるその他銀行業セグメントの営業費用の構成要素を下表に示す。

	12月31日に終了した年度		
	2015年	2016年	増減率(%)
	(単位：%を除き十億ウォン)		
正味受取（支払）利息	303	274	(9.6)
正味受取（支払）手数料	(24)	11	N/M
正味その他利益（費用）	112	(41)	N/M
営業利益（費用）	391	244	(37.6)

\* N/M=重要ではない。

#### 2016年と2015年との比較

その他銀行業セグメントの営業利益は、2015年の391十億ウォンから37.6%減少して2016年には244十億ウォンとなった。

正味受取利息は、2015年の303十億ウォンから9.6%減少して2016年には274十億ウォンとなった。この減少は主に、金利の全般的な低下により有価証券に関する正味資金利鞘が縮小したことによる。

当行のその他銀行業セグメントにおいて、2015年には24十億ウォンの正味支払手数料を計上したのに対し、2016年には11十億ウォンの正味受取手数料を計上した。これは主に新韓フィナンシャル・グループに支払われた法人識別ロイヤルティの減少によるものである。

当行のその他銀行業セグメントにおいて、2015年には112十億ウォンの正味その他利益を計上したのに対し、2016年には41十億ウォンの正味その他費用を計上した。これは主に、株式および社債の販売利益が減少したこと、希望退職者が増加したこと、ならびに貸倒損失および償却のための引当金を増加したためである。

## 財政状態

## 資産

表示日現在の当行の資産の主要項目を下表に示す。

	12月31日現在		
	2015年	2016年	増減率(%)
	(単位：%を除き十億ウォン)		
現金預け金	16,891	14,469	(14.3)
売買目的資産	9,057	11,271	24.4
デリバティブ資産	1,617	2,579	59.5
貸付債権	209,651	219,439	4.7
売却可能金融資産	24,461	27,815	13.7
満期保有金融資産	10,105	11,630	15.1
有形固定資産	2,003	2,044	2.9
無形資産	307	261	(17.1)
関係企業等に対する投資資産	233	131	(43.8)
投資不動産	766	675	(11.9)
当期法人税資産	7	12	71.4
繰延税金資産	78	448	474.4
その他資産	9,836	12,077	22.8
売却目的保有資産	4	4	0.0
資産合計	285,016	302,855	6.3

## 2016年12月31日現在と2015年12月31日現在との比較

当行の資産は、2015年12月31日現在の285,016十億ウォンから6.3%増加して2016年12月31日現在の302,855十億ウォンとなった。かかる増加は主に、貸付債権の増加ならびにより程度は少ないものの売却可能金融資産の増加によるものである。

当行の貸付債権は、2015年12月31日現在の209,651十億ウォンから4.7%増加して2016年12月31日現在の219,439十億ウォンとなった。かかる増加は主に、抵当および住宅担保ローンならびに個人向け一般ローンの増加ならびに上記のSOHOおよび中小企業の借り手への貸出の増加によるものである。

当行の売却可能金融資産は、2015年12月31日現在の24,461十億ウォンから13.7%増加して2016年12月31日現在には27,815十億ウォンとなった。かかる増加は主に、2015年1月に始まった最低流動性カバレッジ比率要件の実施に照らし、流動性の高い資産をさらに獲得しようとする当行の継続中の戦略を反映している。

当行のその他資産は2015年12月31日現在9,836の十億ウォンから22.8%増加して2016年12月31日に12,077十億ウォンとなった。かかる増加は主に、銀行間資金の受取債権が一時的に増加したためである。

## 負債および資本

表示日現在の当行の負債合計の主要項目を下表に示す。

	12月31日現在		
	2015年	2016年	増減率(%)
	(単位：%を除き十億ウォン)		
当期損益認識指定金融負債	14	6	(57.1)
預金	212,975	228,910	7.5
売買目的金融負債	464	486	4.7
デリバティブ負債	1,573	2,785	77.1
借入負債	12,998	14,314	10.1
債務証券	20,021	21,579	7.8
確定給付債務	155	50	(67.7)
引当負債	296	307	3.7
当期法人税負債	40	138	245.0
繰延税金負債	15	10	-
その他負債	15,622	12,803	(18.0)
負債合計	264,173	281,388	6.5
資本合計	20,843	21,467	3.0
資産合計	285,016	302,855	6.3

## 2016年12月31日現在と2015年12月31日現在との比較

当行の負債合計は、2015年12月31日現在の264,173十億ウォンから6.5%増加して2016年12月31日現在の281,388十億ウォンとなった。かかる増加は主に、預金（主に顧客預金からなる。）の増加および、より程度は少ないものの債務証券の増加によるものである。

当行の預金は、2015年12月31日現在の212,975十億ウォンから7.5%増加して2016年12月31日現在の228,910十億ウォンとなった。かかる増加は主に、金融市場で継続する不確実性に照らし、顧客が低リスクの投資を愛好したため、主に顧客預金が増加したことによるものである。

当行の債務証券は、2015年12月31日現在の20,021十億ウォンから7.8%増加して2016年12月31日現在の21,579十億ウォンとなった。かかる増加は主に、当行の規制資本を増加するために外貨建ての劣後債を発行したためである。

当行の資本合計は、2015年12月31日現在の20,843十億ウォンから3.0%増加して2016年12月31日現在の21,467十億ウォンとなった。かかる増加は主に、当期利益による内部留保の増加によるもので、ハイブリッド証券の償還、当期のその他包括損失の増加および配当金の支払により一部相殺された。

## 流動性および資金源

当行は、貸出、トレーディングおよび投資活動のための資金調達ならびにトレーディング・ポジションの管理から発生する流動性リスクにさらされている。流動性管理の目的は、苦境においても、すべての負債を期日通りに返済し、すべての投資機会に資金を投入することである。当行の流動性リスクの管理方法については、「第2 - 3 事業の内容 - (3) リスク管理 - 市場リスク管理 - 非トレーディング業務のための市場リスク管理 - 流動性リスク管理」を参照されたい。当行は、運転資本が当行の現在の需要を満たすために十分であると考えている。

表示日現在の当行の資金源を下表に示す。

	12月31日現在	
	2015年	2016年
	(単位：十億ウォン)	
預金	212,975	228,910
長期債務	25,585	28,022
コールマネー	268	807
韓国銀行からの借入金	2,035	2,621
その他短期借入金	5,141	4,442
株主資本 <sup>(1)</sup>	9,127	8,796
合計	255,131	273,598

注記：

(1) 株主払込資本のみを含む。

当行は、伝統的な商業銀行であったため、その主な資金源は、これまでも、また今後も、顧客預金である。2015年および2016年12月31日現在の預金は、それぞれ212,975十億ウォンおよび228,910十億ウォンであり、同日現在の当行の資金調達合計のそれぞれ83.5%および83.7%に相当した。従来、限られた状況を除き、特に低金利環境および株式市場の変動性に鑑みて、主に韓国の個人および家計には代替投資機会がなかったため、かかる顧客預金のほとんどが満期時に預け替えられる結果となり、当行にとって安定した資金源となっていた。しかしながら、株式市場が堅調である中、顧客は魅力ある代替投資機会に直面して、銀行預金のかなりの金額をより収益の高い投資機会を検索して、その代替投資機会に移転する可能性があり、そのために当行にとって有利な商業上の条件で効率的な資金調達手段を見い出すことが一時的に困難となる可能性がある。

当行はこれまで、そして現在も、いかなる重要な点においても流動性上の困難に直面していないものの、ウォン安その他の理由により長期間にわたり、当行にとって受入れ可能な商業上の条件で資金需要を満たすことができない場合、当行はその金融業者としての生命力を確保し、規制上の要件を満たし、その戦略を実行し、または効率的に競争することができない可能性がある。

2015年および2016年12月31日現在、それぞれ6,480十億ウォンおよび5,656十億ウォン（当行の預金合計のそれぞれ3.0%および2.5%）は、韓国の裁判所における訴訟に関連する訴訟当事者による預託金であった。裁判所預託金には、一般に市場金利より低い利息が付される。

さらに、当行は借入金ならびに社債および持分証券の発行によって資金を得ている。当行の借入金は主に、金融機関、韓国政府および韓国政府関連ファンドからの借入からなる。ウォン建ておよび外貨建ての双方で利用可能なコールマネーは、1ヵ月未満の満期を有する貸出のための短期貸出市場である国内コールローン市場で得られる。また、当行はその時々、新韓フィナンシャル・グループからの資本拠出も受ける。例えば、2008年12月、当時深刻化していた国際信用危機に関する懸念のただ中で当行の自己資本比率を改善するため、当行は新韓フィナンシャル・グループから800十億ウォンの資本拠出を受けた。当行は、2008年12月以降は、新韓フィナンシャル・グループからの資本拠出は受けていない。

当行は、重要な資金源として、主に社債の形で長期債務に依存している。1999年以降、当行は、韓国の固定利付証券市場で1年超の満期を有する長期社債を積極的に発行しており、現在も引き続き発行している。当行は、1999年以降、韓国の固定利付証券市場で取得できる最高の格付であるAAAを維持してきた。当行の長期債務証券の金利は概して預金金利よりも20ベースポイントから30ベースポイント高い。しかし、長期債務は預金保険および韓国銀行の準備金に支払われるプレミアムの対象となっていないため、長期債務証券による資金調達コストは、預金に係る当行の調達コストとほぼ同程度である。さらに、当行はまた、海外市場で外貨建て長期社債を発行することもできる。2015年および2016年12月31日現在、当行の長期債務（1年以内期限到来分を控除後）は、それぞれ25,585十億ウォンおよび28,022十億ウォンであり、うち、それぞれ7,116十億ウォンおよび7,592十億ウォンは外貨（主に米ドル）建てであった。

信用格付は、当行が資金を調達できる費用およびその他の条件に影響する。国内外の格付機関は、当行を定期的に評価し、それらによる当行の長期債務の格付は、当行の財務の健全性および金融サービス業界全般に影響する状況を含むいくつかの要因に基づいている。

当行は、韓国の固定利付証券市場で比較的高い債務格付を有していることから、長期社債発行によって借り換えを行うことができると考えている。しかしながら、とりわけ、世界または韓国の経済が再び下方転換するか、当行のコーポレート・ガバナンスが変更されるか、または当行の事業が大幅に悪化した場合には、当行が現在の信用格付を維持すると保証することはできない。当行が現在の信用格付および見通しを維持できない場合には、資金調達費用が増大し、資本市場およびその他借入へのアクセスが制限され、金融取引に担保を追加的に差し入れる必要が生じる可能性があり、これらのいずれかによって当行の流動性、正味資金利鞘および収益性が悪影響を受ける可能性がある。

補完的な資金源には、コールマネー、韓国銀行からの借入金およびその他短期借入金が含まれ、これらは、2015年および2016年12月31日現在、それぞれ7,444十億ウォンおよび7,870十億ウォンであり、同日現在の当行の資金調達合計のそれぞれ2.9%および2.9%を占めた。

さらに、自己資本比率および流動性比率の要件を確実に遵守するために策定された当行のリスク管理政策に従い、新韓フィナンシャル・グループは、流動性支援の限度額をその子会社に対してはその株主持分合計の70%、子会社1社に対してはその株主持分合計の35%と定めてきた。

## 契約債務、約定および保証

当行は、通常の業務において、数年間にわたる一定の契約上の金銭債務を負担し、また、約定を行っている。当行は、上記「流動性および資金源」に記載されたように様々な資金源から流動性および資金を取得することができるため、かかる契約上の現金債務および約定が流動性または資金源に重大な影響を有することになるとは考えていない。

## 契約上の現金債務

2016年12月31日現在の当行の契約上の現金債務を下表に示す。

	2016年12月31日現在の満期構成 <sup>(1)</sup>						合計
	1ヵ月未満	1-3ヵ月	3-6ヵ月	6-12ヵ月	1-5年	5年超	
	(単位：十億ウォン)						
預金	118,611	21,741	28,826	48,448	13,829	2,981	234,436
借入金	5,268	1,660	1,026	2,500	3,469	604	14,527
社債	622	1,812	3,116	3,931	9,958	4,029	23,468
合計	124,501	25,213	32,968	54,879	27,256	7,614	272,431

注記：

(1) 当行の有利子預金、借入金および発行済債務証券に係る見積契約利息支払額のすべてを反映しており、2016年12月31日現在において変動金利ベースであった借入金および債務証券に係る見積契約利息支払額は、最終適用日に使用された金利（例えば、かかる変動金利貸出については金利決定日の直前の利払日）が、その他の全期間に適用されたとみなして計算されている。

## 約定および保証

当行は、通常の銀行業務において、顧客の資金調達需要を満たすために様々な約定および保証を行っている。約定および保証は通常、とりわけ信用供与約定、商業信用状、スタンドバイ信用状および履行保証の形による。かかる金融商品の契約上の金額は、相手方が約定の実行を求めるか、または当行が保証に基づく義務を履行しなければならず、かつ相手方が契約に基づき履行しなかった場合における最大期待損失額を示す。「第2 - 3 事業の内容 - (2)資産および負債の詳細 - 与信関連の約定および保証」および「第6 - 1 財務書類」に記載される連結財務書類に対する注記38を参照されたい。

2016年12月31日現在の当行の連結ベースでの約定および保証を下表に示す。

	2016年12月31日現在の約定の満期構成			合計
	1年未満	1 - 5年	5年超	
	(単位：十億ウォン)			
信用供与約定 <sup>(1)</sup>	69,576	4,198	161	73,935
商業信用状 <sup>(2)</sup>	2,702	72	-	2,774
金融保証 <sup>(3)</sup>	1,180	154	10	1,344
履行保証 <sup>(4)</sup>	6,178	1,618	14	7,810
特別目的事業体向け流動性ファシリティ <sup>(5)</sup>	1,207	747	106	2,060
手形引受 <sup>(6)</sup>	373	-	-	373
裏書手形 <sup>(7)</sup>	8,855	-	-	8,855
その他	895	48	411	1,354
合計	90,966	6,837	702	98,505

注記：

- (1) 信用供与約定は、貸出の形で信用を供与することが承認されているもののうち、資金手当てされていない部分を表す。かかる約定は所定の日に終了し、顧客は、かかる約定に基づき資金を引き出すための事前に定められた条件に従わなければならない。与信枠を含む信用供与約定は、通常、債務者に影響する重大な悪変化があった場合にかかる約定を取り消すことを当行に認める規定を含む。
- (2) 商業信用状は、顧客に代わって、特定の条件に基づいて所定の金額を上限として当行宛の手形を振り出すことを第三者に承認する約束である。これらは通常、短期であり、関連する船荷によって担保される。
- (3) 金融保証は、債務証券の要項に従い特定の債務者が期日に返済を行わなかった場合、当行に、発生した損失について保有者に特定の払戻しを行うことを義務付ける契約である。金融保証債務は当初は公正価値で認識され、その当初の公正価値は金融保証の期間にわたり償却される。金融保証債務はその後、この償却金額と、保証に基づく支払いが可能となった場合に見込まれる支払いの現在価値のいずれか高い金額で計上される。金融保証はその他債務に含まれる。
- (4) 履行保証は、建設もしくは類似のプロジェクトへの顧客の入札を保証するため、または契約条件に従ったかかるプロジェクトの完成を保証するために発行される。また、製品、商品、保守またはその他サービスを第三者に提供する顧客の義務を補完するためにも発行される。
- (5) 特別目的事業体向け流動性ファシリティは、当行が管理者として行為する特別目的事業体へのコマーシャル・ペーパー購入契約を含む緊急時与信枠を提供する取消不能の約定を表す。
- (6) 手形引受は、顧客宛てに振り出された為替手形を支払う当行による保証を表す。当行は、大半の当行引受手形についてはその呈示がなされても、顧客は通常、直ちに償還すると予想している。
- (7) 裏書手形は当行によって第三者に譲渡される手形である。当行は、主たる支払義務者がかかる手形を期日に引受けない場合に支払い義務を履行しなければならない。

## 第4【設備の状況】

## 1【設備投資等の概要】

該当事項なし。

## 2【主要な設備の状況】

## 資産

当行の登録事務所および本社は大韓民国04513ソウル特別市中区世宗大路9道20に所在する。韓国にある当行資産の一部に関する情報は下表に示されている。

設備の種類	場所	面積 (平方メートル)	
		建物	敷地 (異なる場合)
登録事務所および本社	大韓民国04513ソウル特別市中区世宗大路9道20	59,519	5,418
新韓銀行廣橋別館	大韓民国04540ソウル特別市中区清溪川路54	3,652	6,783
新韓バックオフィス・サポート・センター	大韓民国10401京畿道高陽市一山東区中央路1311	24,496	5,856
新韓銀行バックオフィス・アンド・コールセンター	大韓民国06225ソウル特別市江南区驛三路251	23,374	7,964
新韓センテニアル・ビルディング	大韓民国04540ソウル特別市中区南大門路10道29	19,697	1,389
新韓銀行広橋支店	大韓民国04540ソウル特別市中区清溪川路54	16,727	6,783
新韓明洞支店	大韓民国04534ソウル特別市中区明洞路43	8,936	1,014
新韓永登浦支店	大韓民国07301ソウル特別市永登浦区永中路27	6,171	1,983
新韓銀行バックオフィス・アンド・ストレージセンター	大韓民国28784忠清北道清州市上党区291番道丹齋路3	6,019	5,376

当行の主要な施設は、韓国のソウルにあり、同ビルの延床面積は約59,519平方メートルである。当行は、直接または間接に、本店ビルの過半の権利を保有している。さらに、その支店のために様々な土地・建物を所有または賃借している。当行は、ソウル首都圏におけるITセンターに中央大型コンピューター・システムを備えている。

2016年12月31日現在、当行は全国規模ネットワークで871の支店を有している。これらの施設のうち約27.9%が当行が所有する建物にある一方で、残りの支店はリース物件に所在する。

2016年12月31日現在、当行により所有されるすべての資産の正味簿価は2,510十億ウォンであった。当行は、韓国国外に重要な資産を保有しない。

## 3【設備の新設、除却等の計画】

該当事項なし。

第5【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

(2016年12月31日現在)

授權株数	発行済株式総数	未発行株式数
2,000,000,000株	1,585,615,506株	414,384,494株

【発行済株式】

(2016年12月31日現在)

記名・無記名の別および 額面・無額面の別	種類	発行数	上場金融商品取 引所名または 登録認可金融商 品取引業協会名	内容
記名式額面5,000ウォン	普通株式	1,585,615,506株	該当なし	1株当り1個の 議決権

(2)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項なし。

(3)【発行済株式総数及び資本金の推移】

年月日	発行済株式総数(株)		資本金(ウォン)		摘要
	増減数	残高	増減額	残高	
2012年12月31日現在		1,585,615,506		7,928,077,530,000 (793,601百万円)	
2013年12月31日現在		1,585,615,506		7,928,077,530,000 (793,601百万円)	
2014年12月31日現在		1,585,615,506		7,928,077,530,000 (793,601百万円)	
2015年12月31日現在		1,585,615,506		7,928,077,530,000 (793,601百万円)	
2016年12月31日現在		1,585,615,506		7,928,077,530,000 (793,601百万円)	

( 4 ) 【所有者別状況】

( 2016年12月31日現在 )

区分	株主数	株主比率 (%)	保有株式数 (株)	保有比率 (%)
法人等	1	100.0	1,585,615,506	100.0
個人	0	0	0	0

( 5 ) 【大株主の状況】

( 2016年12月31日現在 )

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
新韓フィナンシャル・グループ	大韓民国04513ソウル特別市 中区世宗大路9道20	1,585,615,506	100.0

2 【配当政策】

株主に支払われる配当は、当行の個別財務書類において報告される分配可能な未処分利益剰余金（商法に定義される。）に基づく。

当行は、2016年および2015年に下記のとおり配当を支払った。

決議日	決議	配当金の総額 (百万ウォン)	一株当たりの配当金 (ウォン)
2016年3月23日	株主総会決議	650,000	409.94
2017年3月23日	株主総会決議	480,000	302.72

3 【株価の推移】

当行株式は、株式移転により新韓フィナンシャル・グループの完全保有子会社になった2001年9月1日に韓国証券取引所における上場を廃止して以来、いずれの証券取引所にも上場していない。

## 4【役員の状況】

### 経営陣

#### 取締役会

当行の政策面および戦略面の最終的な責任は当行の取締役会にあり、当行取締役会は当行の経営管理およびいくつかの統治機関を通じて日常業務を監督している。当行取締役会の各取締役の住所は、大韓民国04513ソウル特別市中区世宗大路9道20新韓銀行気付である。

当行取締役会は1名の業務執行取締役、1名の取締役兼常任監査役および6名の社外取締役から成っている。

業務執行取締役は、当行の株主総会による決定のとおり最長3年を任期として選任される（再任可能）。非常任取締役および社外取締役は、2年を任期として選任される（再任可能）。監査委員会（下記にて説明する。）の委員である取締役は3年を任期として選任される（再任可能）。当行取締役会は少なくとも四半期毎に1回開催され、当行取締役会会長の要請によりその他に臨時取締役会を招集することができる。

当行取締役会は当行取締役会の運営を下支えするための様々な任務を遂行するために4つの委員会（監査委員会、リスク管理委員会、役員候補推薦委員会および報酬委員会）を設置している。

監査委員会の目的は、(i)内部監査計画を策定し、かかる計画を実行し、結果を評価し、適切な事後措置を実施し、適切な改善を提案すること、(ii)内部統制にかかる包括的制度に関して適切な改善を評価し、提案すること、(iii)外部監査人の任命を承認すること、および(iv)上記と類似したその他様々な役割を果たすことにある。

リスク管理委員会の目的は、(i)当行のリスク、評価および限度方針を見直すこと、(ii)資産負債管理ならびに信用リスクおよび市場リスクの測定を見直すこと、(iii)資産の質、リスク・エクスポージャーおよび問題資産を統制することにある。

役員候補推薦委員会の目的は、当行の銀行長、社外取締役および監査委員会委員の任用候補者を指名し推薦することである。

報酬委員会の目的は、経営陣の業績を評価し、業務執行役員の適切な報酬（報奨および賞与を含む。）を決定することである。

#### 業務執行取締役

本書提出日現在、当行は1名の業務執行取締役を有している。同取締役は、当行の常勤従業員であり、下記に示した業務上の役職を有している。

氏名	生年月日	役職	取締役 就任年月日	任期終了日
魏 聖昊	1958年6月12日	銀行長兼最高経営責任者	2017年3月7日	2019年3月31日

魏聖昊氏は、2017年3月7日から当行の銀行長兼最高経営責任者兼業務執行取締役を務めている。魏氏はこれまで、新韓カードの社長を務めていた。同氏は、高麗大学校にて経済学の学士号を取得している。

**取締役兼常任監査役**

氏名	生年月日	役職	法定監査役 就任年月日	任期終了日
李 石根	1958年7月3日	取締役兼常任監査役	2014年1月1日	2017年12月31日

李石根氏は、2014年1月1日から当行の取締役兼常任監査役を務めている。李氏はこれまで、デロイト・コンサルティングの常任顧問ならびにFSSの戦略企画本部長および総務局長を務めた。李氏は延世大学校で経営学の学士号を取得している。

**非常任取締役**

氏名	生年月日	役職	取締役 就任年月日	任期終了日
禹 英熊	1960年3月5日	新韓フィナンシャルグループ副社長	2017年4月13日	2018年12月31日

禹英熊氏は、2017年4月13日から当行の非常任取締役を務めている。禹氏は現在、新韓フィナンシャル・グループの副社長である。禹氏はこれまで当行の副銀行長、法人向け投資銀行業グループの非取締役業務執行役員および投資銀行業部門の部門長を務めた。禹氏は釜山大学校で経営管理学の学士号を取得し、早稲田大学で国際経営学の修士号を取得している。

**社外取締役**

本書提出日現在、当行は当行の常勤従業員ではなく、当行に業務上の役職を有さず、かつ当行の関連会社においても役職を有さない6名の社外取締役を有している。

氏名	生年月日	役職	取締役 就任年月日	任期終了日
具 本一	1959年11月9日	延世大学校教授	2013年3月27日	2018年3月31日
黄 善泰	1948年10月11日	弁護士（ロゴス法律事務所）	2015年3月18日	2018年3月31日
黄 國在	1959年8月30日	西江大学校教授	2015年3月18日	2018年3月31日
福田博司	1949年6月4日	ニュージャパン・ツーリズム取締役	2015年3月18日	2018年3月31日
印 浩	1967年9月7日	高麗大学校大学院教授	2016年3月23日	2018年3月31日
李 聖宇	1961年7月25日	東亜大学校法学部教授	2016年5月25日	2018年3月31日

具本一氏は、2013年3月27日以降現在まで社外取締役を務めている。具氏は現在、延世大学校の教授を務めている。具氏は延世大学校で経営学の学士号を取得し、コロンビア大学で金融管理学の博士号を取得している。

黄善泰氏は、2015年3月18日以降現在まで社外取締役を務めている。黄氏は現在、ロゴス法律事務所の弁護士である。黄氏はこれまで、韓国法律公団の第10代理事長およびソウル東部検察局の主任検事を務めた。黄氏はソウル大学校で法学の学士号を取得している。

黄國在氏は、2015年3月18日以降現在まで社外取締役を務めている。黄氏は現在西江大学の教授を務めている。黄氏はこれまで公認会計士および研究員として三星経済研究所に勤務していた。黄氏はシラキュース大学で経営管理学の博士号を取得している。

福田博司氏は、2015年3月18日以降現在まで社外取締役を務めている。福田氏は現在、キョウワ・クリエイト・コーポレーション、キョウワ・コーポレーションおよびニュージャパン・ツーリズム・コーポレーションの取締役を務めている。福田氏は日本大学経済学部で経済学の学士号を取得している。

印浩氏は、2016年3月23日以降現在まで社外取締役を務めている。印氏は現在、高麗大学校大学院の教授であり、またFSCのフィンテック政策諮問委員会の委員である。印氏は高麗大学校でコンピューター・サイエンスの学士号を取得し、同大学校大学院にてコンピューター・サイエンスの修士号を取得している。また、南カリフォルニア大学でコンピューター・サイエンスの博士号を取得している。

李聖宇氏は、2016年5月25日以降現在まで社外取締役を務めている。李氏は現在、東亜大学校法学部の教授を務めている。李氏はソウル国立大学校で法学の学士号、修士号および博士号を取得している。

すべての社外取締役は、当行以外の会社または機関でも役職（主な役職は上記に明記されている。）に就いている。

**業務執行役員**

本書提出日現在、当行の経営陣は18名の非取締役業務執行役員から成る。

非取締役業務 執行役員	生年月日	部署	業務執行役員 就任年月日	任期終了日
徐 現周	1960年 7 月 5 日	販売企画グループ	2013年 1 月 1 日	2017年12月31日
王 太郁	1960年 5 月23日	消費者ブランド・グループ	2014年 1 月 1 日	2017年12月31日
崔 炳化	1962年 1 月 9 日	法人事業グループ	2014年 1 月 1 日	2017年12月31日
權 才重	1962年 9 月14日	管理企画グループ	2014年 1 月 1 日	2017年12月31日
許 順錫	1960年 1 月15日	コンプライアンス部	2015年 1 月 1 日	2017年12月31日
李 基俊	1961年11月22日	信用分析および評価グループ	2015年 1 月 1 日	2017年12月31日
徐 椿錫	1960年 3 月30日	ICTグループ	2016年 1 月 1 日	2017年12月31日
許 榮澤	1961年 8 月13日	グローバル事業グループ	2016年 1 月 1 日	2017年12月31日
尹 相敦	1960年 7 月25日	なし	2016年 1 月 1 日	2017年12月31日
李 昌九	1961年 1 月14日	資産運用グループ	2016年 1 月 1 日	2017年12月31日
朴 赫	1963年 6 月 3 日	信託・年金グループ 経営支援グループ	2017年 1 月 1 日	2018年12月31日
朱 哲秀	1960年 2 月10日	販売促進グループ	2017年 1 月 1 日	2018年12月31日
高 允柱	1962年 1 月30日	個人向け銀行業グループ	2017年 1 月 1 日	2018年12月31日
金 昌性	1963年 2 月 5 日	販売促進グループ	2017年 1 月 1 日	2018年12月31日
趙 在熙	1963年 8 月13日	リスク管理グループ	2016年 1 月 1 日	2017年12月31日
李 明九	1963年 9 月22日	情報セキュリティ・グループ	2016年 1 月 1 日	2017年12月31日

徐現周氏は、2013年 1 月 1 日以降現在まで当行の副銀行長兼非取締役業務執行役員を務めている。徐氏はこれまで、当行のシナジー・サポート部門、個人顧客部のゼネラル・マネジャーおよび顧客サービス部のゼネラル・マネジャーを務めた。徐氏は釜山商業高校を卒業し、成均館大学でAMPを修了した。

王太郁氏は2014年 1 月 1 日以降現在まで当行の副銀行長兼非取締役執行役員を務めている。王氏はこれまで、当行の江南第二地域営業本部長、当行の東ソウル地域営業本部長および当行広報部の部長を務めた。王氏は東亜大学校で経営学の学士号を取得している。

崔炳化氏は2014年 1 月 1 日以降現在まで当行の副銀行長兼非取締役業務執行役員を務めている。崔氏はこれまで、当行の工業団地金融本部長および当行の法人向け銀行業務部長を務めた。崔氏は光云大学校で経営学の学士号を取得している。

權才重氏は2014年 1 月 1 日以降現在まで当行の副銀行長兼非取締役業務執行役員を務めている。權氏はこれまで、当行の監査部長およびスタンダード・チャータード・ホールディング・カンパニーの政策・戦略・企画担当副社長を務めた。權氏はソウル国立大学校で経済学の学士号および米国のライス大学で経済学の博士号を取得している。

許順錫氏は2015年 1 月 1 日以降現在まで当行の副銀行長補兼非取締役業務執行役員を務めている。許氏はこれまで当行の機関銀行部の部長、当行の水原支店および鶴洞支店の支店長を務めた。許氏はソウル大学校で法学の学士号を取得している。

李基俊氏は2015年1月1日以降現在まで当行の副銀行長兼非取締役業務執行役員を務めている。李氏はこれまで当行の中部事業本部の本部長、当行の信用支援部門の部門長を務めた。李氏は高麗大学校で財政学の修士号を取得している。

徐椿錫氏は2016年1月1日以降現在まで当行の副銀行長補兼非取締役業務執行役員を務めている。徐氏はこれまで当行のICT部門の部門長および当行のIT開発部のゼネラル・マネジャーを務めた。徐氏は徳壽情報産業高校を卒業している。

許榮澤氏は2016年1月1日以降現在まで当行の副銀行長兼非取締役業務執行役員を務めている。許氏はこれまで新韓バンク・ベトナムの首席代表および当行のグローバル戦略部のゼネラル・マネジャーを務めた。許氏は高麗大学校で経営管理学の学士号を取得している。

尹相敦氏は2016年1月1日以降現在まで当行の副銀行長補兼非取締役業務執行役員を務めている。尹氏はこれまで仁川地域販売部門の部門長および当行の仁川市役所支店のゼネラル・マネジャーを務めた。尹氏はクワンシン商業高校を卒業している。

李昌九氏は2016年1月1日以降現在まで当行の副銀行長補兼非取締役業務執行役員を務めている。李氏はこれまで当行の資産運用部門の部門長および当行の聖水洞金融センターのゼネラル・マネジャーを務めた。李氏は漢陽大学校で会計学の学士号を取得している。

朴<sup>ㄱ</sup>赫氏は2017年1月1日以降現在まで当行の副銀行長補兼非取締役業務執行役員を務めている。朴氏はこれまで当行のコミュニティ開発本部の本部長および当行の京畿東部事業本部の本部長を務めている。朴氏は慶熙大学校で経済学の学士号を取得した。

朱哲秀氏は2017年1月1日以降現在まで当行の副銀行長補兼非取締役業務執行役員を務めている。朱氏はこれまで、当行の中部法人第1事業部長および当行江南第2地域販売本部の本部長を務めている。朱氏は高麗大学校で経営管理学の学士号および修士号を取得している。

高允柱氏は2017年1月1日以降現在まで当行の副銀行長補兼非取締役業務執行役員を務めている。高氏はこれまで、当行の瑞草事業本部長および江原事業本部長を務めている。高氏は江原大学で経済学の学士号を取得している。

金昌性氏は2017年1月1日以降現在まで当行の副銀行長補兼非取締役業務執行役員を務めている。金氏はこれまで、当行の京畿西部事業本部長および当行の個人向けバンキング・センターのゼネラル・マネジャーを務めている。金氏は京畿商業高校を卒業している。

趙在熙氏は2016年1月1日以降現在まで当行の常務兼非取締役業務執行役員を務めている。趙氏はこれまで当行の戦略企画部およびリスク管理部のそれぞれのゼネラル・マネジャーを務めた。趙氏はソウル大学校で経済学の学士号を取得し、延世大学校で金融工学の修士号を取得している。

李明九氏は2016年1月1日以降現在まで当行の常務兼非取締役業務執行役員を務めている。李氏はこれまで当行のIT事業開発部およびIT情報開発部のそれぞれのゼネラル・マネジャーを務めた。李氏は徳壽商業高校を卒業している。

## 取締役および上級経営陣の男女別人数の内訳

男性：25人

女性：0人（全体比0%）

## 5【コーポレート・ガバナンスの状況等】

## (1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

## 委員会

## 監査委員会

当行は当行取締役会の下に監査委員会を置いている。監査委員会の権利および責任は、(i)当行の会計および事業の監査を行うこと、(ii)定時株主総会に提出される議案および書類を調査し、定時株主総会において法令、規則または定款に違反がないか、もしくは著しい違法性がないかどうかについて意見を述べること、(iii)臨時株主総会の招集を要求すること、(iv)子会社の事業に関する報告書を要求し、必要であれば、子会社の事業または資産の状況を調査すること、(v)外部監査人の任命を承認すること、ならびに(vi)取締役会により委任されたその他の事項を処理することである。

本書提出日現在、当行監査委員会は以下の委員により構成されている。

氏名	生年月日	役職	監査委員会委員	
			就任年月日	任期終了日
具 本一	1959年11月9日	監査委員会委員 社外取締役	2013年3月27日	2018年3月31日
黄 國在	1959年8月30日	監査委員会委員 社外取締役	2015年3月18日	2018年3月31日
李 石根	1958年7月3日	監査委員会委員 取締役兼常任監査役	2014年1月1日	2017年12月31日

## リスク管理委員会

リスク管理委員会は現在、2名の社外取締役および1名の非常任取締役、つまり印浩、李聖宇および禹英熊により構成されている。同委員会は、当行の包括的リスク管理機能に関する重要な問題について、監督し、決定を行う。当行の安定的な財政状態を確保し、そのリスク調整後の収益を最大化するために、同委員会は当行の全般的なリスク・エクスポージャーを監視し、当行がリスク政策およびプロセスを遵守しているかを検討する。さらに、同委員会はリスク抑制戦略および政策を検討し、修正し、各リスクが適切な水準であるか否かを評価し、またリスクに基づく資本配分を検討する。同委員会は、四半期ごとに定例会を開催する。

## 役員候補推薦委員会

役員候補推薦委員会は当行銀行長を含む最高5名の取締役により構成され、その過半数は社外取締役でなければならない。同委員会は現在、具本一、黄國在、印浩、李聖宇および魏聖昊の5名の取締役によって構成されている。同委員会は、当行の株主総会において指名される当行の銀行長、当行の社外取締役および当行監査委員会委員の候補者を推薦する。同委員会の決議は、会議に出席した委員の過半数の賛成票により行わなければならない。ただし、当行監査委員会委員の候補者の推薦についての決議は、委員の3分の2以上の賛成票を要する。

## 報酬委員会

報酬委員会は現在、当行の2名の社外取締役および1名の非常任取締役、つまり、黄國在、李聖宇および禹英熊によって構成されている。同委員会は経営陣の業績を評価し、当行の業務執行役員に対する業績関連報酬を含む取締役の報酬について検討し、これを決定する。同委員会は必要に応じて会議を開く。

## 報酬

2016年12月31日現在、当行により当行取締役および業務執行役員に支払われた報酬および現物給付の合計金額は約1,776百万ウォンであった。

## 株式所有

当行の株式資本のすべては、新韓フィナンシャル・グループにより所有されている。

## ストックオプション

2010年4月1日以前、新韓フィナンシャル・グループは、選ばれた上級経営陣に対してストックオプションを付与していた。2016年3月17日現在、付与されたすべてのストックオプションの行使期間が終了しており、現在は付与されているストックオプションはない。

(2) 【監査報酬の内容等】

【外国監査公認会計士等に対する報酬の内容】

2016年および2015年についてケーピーエムジーサムジョン会計法人およびその外国関連法人に対する報酬の内訳を以下に掲げる。

(単位：百万ウォン)

	2015年		2016年	
	監査その他証明業務に基づく報酬	非監査業務に基づく報酬	監査その他証明業務に基づく報酬	非監査業務に基づく報酬
当行	1,598	-	1,678	-
連結子会社	812	213	768	132
合計	2,410	213	2,446	132(*)

(\*)2016年の非監査業務に基づく報酬は以下のとおりである。

(単位：百万ウォン)

項目	報酬
税務コンプライアンスおよび コンサルティング・サービス	132

【その他重要な報酬の内容】

該当事項なし

【外国監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項なし

【監査報酬の決定方針】

監査報酬は、監査委員会によって、監査報酬の適切性の検討後に承認される。

## 第6【経理の状況】

本書記載の当行の2016年および2015年12月31日に終了した事業年度に関する連結および個別財務書類は、韓国IFRSに準拠して作成された原文の財務書類の日本語訳である。当行の採用した会計処理の原則、手続および表示方法と、日本において一般に認められている会計処理の原則、手続および表示方法との間の主な相違点に関しては、下記「4 大韓民国と日本国の会計原則及び会計慣行の主な相違」に説明されている。

当該財務書類は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)第131条第1項の適用を受けている。

本書記載の2016年および2015年12月31日に終了した事業年度に関する財務書類は、韓国において当行の独立監査人であるKPMGサムジョン会計法人(ケーピーエムジーサムジョン会計法人)の監査を受けている。その監査報告書の原文および訳文が本書とともに提出されている。

当該財務書類は、「財務諸表等の監査証明に関する内閣府令」(昭和32年大蔵省令第12号)第1条の2の規定により、金融商品取引法第193条の2の規定に基づく日本国の公認会計士または監査法人による監査は受けていない。

原文の財務書類はウォンで表示されている。日本円で表示された金額は、東京の主要銀行が建値した2017年4月3日現在の対顧客電信直物売買為替相場の仲値である100ウォン=10.01円の換算レートで、ウォンから換算したものである。

上記の日本円で表示された換算金額および下記「2 主な資産・負債及び収支の内容」から「4 大韓民国と日本国の会計原則及び会計慣行の主な相違」までの記載は、当行の原文の財務書類には含まれておらず、上記の監査の対象にもなっていない。

## 1【財務書類】

## 2016年および2015年12月31日に終了した事業年度における監査済財務書類

## (1) 連結財務書類

## 連結財務状態表

=====

第185(当)期末 2016年12月31日現在

第184(前)期末 2015年12月31日現在

株式会社新韓銀行及びその従属企業

(単位:百万ウォン)

科目	注記	第185(当)期末		第184(前)期末	
資産					
1. 現金預け金	3,6,9,39,40	14,469,387		16,891,386	
2. 売買目的金融資産	3,7,40,42	11,270,758		9,056,812	
3. デリバティブ資産	3,8,40,42	2,579,121		1,617,518	
4. 貸付債権	3,9,16,40,42	219,438,681		209,651,483	
5. 売却可能金融資産	3,10,16,42	27,814,583		24,460,599	
6. 満期保有金融資産	3,10,16,42	11,630,270		10,105,051	
7. 有形資産	5,11,16	2,043,559		2,003,485	
8. 無形資産	5,12	260,566		306,666	
9. 関係企業等に対する投資資産	13	130,893		232,522	
10. 投資不動産	5,14	675,146		765,606	
11. 当期法人税資産	36	11,769		7,409	
12. 繰延税金資産	36	447,514		77,728	
13. その他資産	3,9,15,40,43	12,077,453		9,835,923	
14. 売却予定非流動資産		4,923		3,630	
資産合計			302,854,623		285,015,818
負債					
1. 当期損益認識指定金融負債	3,17	6,282		13,509	
2. 預金	3,18,40	228,910,092		212,975,192	
3. 売買目的金融負債	3,19	485,995		463,766	
4. デリバティブ負債	3,8,40,42	2,785,392		1,573,432	
5. 借入負債	3,20,42	14,314,329		12,998,479	
6. 社債	3,21	21,578,430		20,020,550	
7. 確定給付債務	22	50,103		154,769	
8. 引当負債	23,38,40	306,931		296,088	
9. 当期法人税負債	36,40	137,722		40,029	
10. 繰延税金負債	36	9,481		14,879	

11. その他負債	3,24,40,42,43	12,802,893		15,622,352	
負債合計			281,387,650		264,173,045
資本					
． 支配企業所有持分			21,460,412		20,830,422
1. 資本金	25	7,928,078		7,928,078	
2. 新種資本証券	25	469,392		801,298	
3. 資本剰余金	25	403,164		403,164	
4. 資本調整	25	(64,614)		(29,340)	
5. その他包括損益累計額	25,36	(276,445)		(59,948)	
6. 利益剰余金	25,26	13,000,837		11,787,170	
（貸倒準備金積立額）		(1,741,125)		(1,744,092)	
（貸倒準備金繰入（戻入）必要額）		(47,566)		((2,967))	
（貸倒準備金繰入（戻入）予定額）		(47,566)		((2,967))	
． 非支配持分	25		6,561		12,351
資本合計			21,466,973		20,842,773
負債及び資本合計			302,854,623		285,015,818

“ 添付の注記は本連結財務諸表の一部である ”

(単位：百万円)

科目	注記	第185(当)期末		第184(前)期末	
資産					
1. 現金預け金	3,6,9,39,40	1,448,386		1,690,828	
2. 売買目的金融資産	3,7,40,42	1,128,203		906,587	
3. デリバティブ資産	3,8,40,42	258,170		161,914	
4. 貸付債権	3,9,16,40,42	21,965,812		20,986,113	
5. 売却可能金融資産	3,10,16,42	2,784,240		2,448,506	
6. 満期保有金融資産	3,10,16,42	1,164,190		1,011,516	
7. 有形資産	5,11,16	204,560		200,549	
8. 無形資産	5,12	26,083		30,697	
9. 関係企業等に対する投資資産	13	13,102		23,275	
10. 投資不動産	5,14	67,582		76,637	
11. 当期法人税資産	36	1,178		742	
12. 繰延税金資産	36	44,796		7,781	
13. その他資産	3,9,15,40,43	1,208,953		984,575	
14. 売却予定非流動資産		493		363	
資産合計			30,315,748		28,530,083
負債					
1. 当期損益認識指定金融負債	3,17	629		1,352	
2. 預金	3,18,40	22,913,900		21,318,817	
3. 売買目的金融負債	3,19	48,648		46,423	
4. デリバティブ負債	3,8,40,42	278,818		157,501	
5. 借入負債	3,20,42	1,432,864		1,301,148	
6. 社債	3,21	2,160,000		2,004,057	
7. 確定給付債務	22	5,015		15,492	
8. 引当負債	23,38,40	30,724		29,638	
9. 当期法人税負債	36,40	13,786		4,007	
10. 繰延税金負債	36	949		1,489	
11. その他負債	3,24,40,42,43	1,281,570		1,563,797	
負債合計			28,166,903		26,443,721
資本					
・ 支配企業所有持分			2,148,188		2,085,126
1. 資本金	25	793,601		793,601	

2. 新種資本証券	25	46,986		80,210	
3. 資本剰余金	25	40,357		40,357	
4. 資本調整	25	(6,468)		(2,937)	
5. その他包括損益累計額	25,36	(27,672)		(6,001)	
6. 利益剰余金	25,26	1,301,384		1,179,896	
(貸倒準備金積立額)		(174,287)		(174,584)	
(貸倒準備金繰入(戻入)必要額)		(4,761)		(297)	
(貸倒準備金繰入(戻入)予定額)		(4,761)		(297)	
. 非支配持分	25		657		1,236
資本合計			2,148,845		2,086,362
負債及び資本合計			30,315,748		28,530,083

“ 添付の注記は本連結財務諸表の一部である ”

## 連結包括損益計算書

第185(当)期 自2016年1月1日 至2016年12月31日

第184(前)期 自2015年1月1日 至2015年12月31日

株式会社新韓銀行及びその従属企業

(単位：百万ウォン)

科目	注記	第185(当)期		第184(前)期	
・ 営業利益			1,958,978		1,733,726
(1) 純利息損益	3,5,27,40,42		4,504,121		4,164,715
1. 受取利息		7,696,201		7,649,492	
2. 支払利息		3,192,080		3,484,777	
(2) 純手数料損益	3,5,28,40,42		884,498		853,863
1. 受取手数料		1,061,620		1,050,286	
2. 支払手数料		177,122		196,423	
(3) 受取配当	29,42		123,559		184,101
(4) 売買目的金融商品関連損益	30		58,832		134,421
(5) 外国為替取引損益			245,153		75,053
(6) 当期損益認識指定金融商品関連損益	17		(206)		(16)
(7) 売却可能金融資産処分損益	10		411,430		422,279
(8) 金融商品資産減損損失	3,9,31,40		738,536		799,415
1. 貸倒償却費		656,433		592,845	
2. その他金融商品減損損失		82,103		206,570	
(9) 一般管理費	32,40		2,889,853		2,785,435
(10) その他営業損益	5,34,40		(640,020)		(515,840)
・ 営業外損益	5,35		61,131		127,945
・ 関係企業利益に対する持分	5,13		8,615		13,399
・ 税引前純利益			2,028,724		1,875,070
・ 法人税費用	5,36		88,103		385,082
・ 当期純利益 (貸倒準備金反映後の調整利益 当期：1,893,055百万ウォン 前期：1,492,955百万ウォン)	5,26		1,940,621		1,489,988
・ 当期その他包括損益	3,25		(222,652)		(292,027)
(1) 後続的に当期損益として再分類される項目			(242,231)		(237,157)
1. 海外事業損益		2,081		(2,521)	
2. 売却可能金融資産評価損益		(247,146)		(240,864)	
3. 関係企業のその他包括損益に対する持分		2,834		6,228	

(2) 後続的に当期損益として再分類されない項目			19,579		(54,870)
1. 確定給付型制度の再測定要素		19,571		(54,645)	
2. 関係企業のその他包括損益に対する持分		8		(225)	
. 総包括利益			1,717,969		1,197,961
(1) 当期純利益の帰属	5		1,940,621		1,489,988
1. 支配企業所有持分		1,940,256		1,489,654	
2. 非支配持分		365		334	
(2) 当期総包括利益の帰属			1,717,969		1,197,961
1. 支払企業所有持分		1,723,759		1,192,307	
2. 非支配持分		(5,790)		5,654	
. 1株当り利益	37				
(1) 基本的1株当り純利益			1,195ウォン		903ウォン
(2) 希薄化後1株当り純利益			1,195ウォン		903ウォン

“ 添付の注記は本連結財務諸表の一部である ”

(単位：百万円)

科目	注記	第185(当)期		第184(前)期	
・ 営業利益			196,094		173,546
(1) 純利息損益	3,5,27,40,42		450,863		416,888
1. 受取利息		770,390		765,714	
2. 支払利息		319,527		348,826	
(2) 純手数料損益	3,5,28,40,42		88,538		85,472
1. 受取手数料		106,268		105,134	
2. 支払手数料		17,730		19,662	
(3) 受取配当	29,42		12,368		18,428
(4) 売買目的金融商品関連損益	30		5,889		13,456
(5) 外国為替取引損益			24,540		7,513
(6) 当期損益認識指定金融商品関連損益	17		(21)		(2)
(7) 売却可能金融資産処分損益	10		41,184		42,270
(8) 金融商品資産減損損失	3,9,31,40		73,927		80,022
1. 貸倒償却費		65,709		59,344	
2. その他金融商品減損損失		8,218		20,678	
(9) 一般管理費	32,40		289,275		278,822
(10) その他営業損益	5,34,40		(64,065)		(51,635)
・ 営業外損益	5,35		6,119		12,808
・ 関係企業利益に対する持分	5,13		862		1,341
・ 税引前純利益			203,075		187,695
・ 法人税費用	5,36		8,819		38,547
・ 当期純利益 (貸倒準備金反映後の調整利益 当期：1,893,055百万ウォン 前期：1,492,955百万ウォン)	5,26		194,256		149,148
・ 当期その他包括損益	3,25		(22,287)		(29,231)
(1) 後続的に当期損益として再分類される項目			(24,247)		(23,738)
1. 海外事業損益		209		(252)	
2. 売却可能金融資産評価損益		(24,739)		(24,110)	
3. 関係企業のその他包括損益に対する持分		283		624	

(2) 後続的に当期損益として再分類されない項目			1,960		(5,493)
1. 確定給付型制度の再測定要素		1,959		(5,470)	
2. 関係企業のその他包括損益に対する持分		1		(23)	
・ 総包括利益			171,969		119,917
(1) 当期純利益の帰属	5		194,256		149,148
1. 支配企業所有持分		194,219		149,115	
2. 非支配持分		37		33	
(2) 当期総包括利益の帰属			171,969		119,917
1. 支払企業所有持分		172,548		119,351	
2. 非支配持分		(579)		566	
・ 1株当たり利益	37				
(1) 基本的1株当たり純利益			120円		89円
(2) 希薄化後1株当たり純利益			120円		89円

“ 添付の注記は本連結財務諸表の一部である ”

## 連結資本変動表

第185(当)期 自2016年1月1日 至2016年12月31日

第184(前)期 自2015年1月1日 至2015年12月31日

株式会社新韓銀行及びその従属企業

(単位:百万ウォン)

科目	資本金	新種 資本証券	資本 剰余金	資本調整	その他包括 損益累計額	利益 剰余金	非支配持分	合計
. 2015年1月1日(前期首)	7,928,078	1,100,250	403,164	(842)	237,399	10,805,574	3,277	20,476,900
総包括損益:	-	-	-	-	(297,347)	1,489,654	5,654	1,197,961
(1) 当期純利益	-	-	-	-	-	1,489,654	334	1,489,988
(2) その他包括損益	-	-	-	-	(297,347)	-	5,320	(292,027)
1. 海外事業損益	-	-	-	-	(7,841)	-	5,320	(2,521)
2. 売却可能金融資産評価損益	-	-	-	-	(240,864)	-	-	(240,864)
3. 関係企業のもう包括損益に 対する持分	-	-	-	-	6,003	-	-	6,003
4. 確定給付型制度の再測定要素	-	-	-	-	(54,645)	-	-	(54,645)
所有者との取引等:	-	(298,952)	-	(28,498)	-	(508,058)	-	(835,508)
(1) 年次配当	-	-	-	-	-	(450,000)	-	(450,000)
(2) 新種資本証券の配当	-	-	-	-	-	(57,158)	-	(57,158)
(3) 新種資本証券の償還	-	(298,952)	-	(30,898)	-	-	-	(329,850)
(4) 株式報酬費用	-	-	-	1,500	-	-	-	1,500
(5) その他	-	-	-	900	-	(900)	-	-
. 2015年12月31日(前期末)	7,928,078	801,298	403,164	(29,340)	(59,948)	11,787,170	8,931	20,839,353
. 2016年1月1日(当期首)	7,928,078	801,298	403,164	(29,340)	(59,948)	11,787,170	8,931	20,839,353
. 企業結合に関連する遡及調整 (注44)	-	-	-	-	-	-	3,420	3,420
. 2016年1月1日(当期首) (調整後の金額)	7,928,078	801,298	403,164	(29,340)	(59,948)	11,787,170	12,351	20,842,773
総包括損益:	-	-	-	-	(216,497)	1,940,256	(5,790)	1,717,969
(1) 当期純利益	-	-	-	-	-	1,940,256	365	1,940,621
(2) その他包括損益	-	-	-	-	(216,497)	-	(6,155)	(222,652)
1. 海外事業損益	-	-	-	-	8,338	-	(6,257)	2,081
2. 売却可能金融資産評価損益	-	-	-	-	(247,146)	-	-	(247,146)
3. 関係企業のもう包括損益に 対する持分	-	-	-	-	2,842	-	-	2,842
4. 確定給付型制度の再測定要素	-	-	-	-	19,469	-	102	19,571
所有者との取引等:	-	(331,906)	-	(35,274)	-	(726,589)	-	(1,093,769)

(1) 年次配当	-	-	-	-	-	(650,000)	-	(650,000)
(2) 新種資本証券の配当	-	-	-	-	-	(45,691)	-	(45,691)
(3) 新種資本証券の償還	-	(331,906)	-	(60,094)	-	-	-	(392,000)
(4) 株式報酬費用	-	-	-	(2,128)	-	-	-	(2,128)
(5) 子会社追加出資	-	-	-	(3,950)	-	-	-	(3,950)
(6) その他	-	-	-	30,898	-	(30,898)	-	-
. 2016年12月31日(当期末)	7,928,078	469,392	403,164	(64,614)	(276,445)	13,000,837	6,561	21,466,973

“ 添付の注記は本連結財務諸表の一部である ”

(単位：百万円)

科目	資本金	新種 資本証券	資本 剰余金	資本調整	その他包括 損益累計額	利益 剰余金	非支配持分	合計
・ 2015年1月1日(前期首)	793,601	110,135	40,357	(84)	23,764	1,081,638	328	2,049,739
総包括損益：	-	-	-	-	(29,764)	149,115	566	119,917
(1) 当期純利益	-	-	-	-	-	149,115	33	149,148
(2) その他包括損益	-	-	-	-	(29,764)	-	533	(29,231)
1. 海外事業損益	-	-	-	-	(785)	-	533	(252)
2. 売却可能金融資産評価損益	-	-	-	-	(24,110)	-	-	(24,110)
3. 関係企業のその他包括損益に 対する持分	-	-	-	-	601	-	-	601
4. 確定給付型制度の再測定要素	-	-	-	-	(5,470)	-	-	(5,470)
所有者との取引等：	-	(29,925)	-	(2,853)	-	(50,856)	-	(83,634)
(1) 年次配当	-	-	-	-	-	(45,045)	-	(45,045)
(2) 新種資本証券の配当	-	-	-	-	-	(5,721)	-	(5,721)
(3) 新種資本証券の償還	-	(29,925)	-	(3,093)	-	-	-	(33,018)
(4) 株式報酬費用	-	-	-	150	-	-	-	150
(5) その他	-	-	-	90	-	(90)	-	-
・ 2015年12月31日(前期末)	793,601	80,210	40,357	(2,937)	(6,000)	1,179,897	894	2,086,022
・ 2016年1月1日(当期首)	793,601	80,210	40,357	(2,937)	(6,000)	1,179,897	894	2,086,022
・ 企業結合に関連する遡及調整 (注44)	-	-	-	-	-	-	342	342
・ 2016年1月1日(当期首) (調整後の金額)	793,601	80,210	40,357	(2,937)	(6,000)	1,179,897	1,236	2,086,364
総包括損益：	-	-	-	-	(21,672)	194,219	(579)	171,968
(1) 当期純利益	-	-	-	-	-	194,219	37	194,256
(2) その他包括損益	-	-	-	-	(21,672)	-	(616)	(22,288)
1. 海外事業損益	-	-	-	-	835	-	(626)	209
2. 売却可能金融資産評価損益	-	-	-	-	(24,739)	-	-	(24,739)
3. 関係企業のその他包括損益 に対する持分	-	-	-	-	284	-	-	284
4. 確定給付型制度の再測定要素	-	-	-	-	1,948	-	10	1,958
所有者との取引等：	-	(33,224)	-	(3,531)	-	(72,732)	-	(109,487)
(1) 年次配当	-	-	-	-	-	(65,065)	-	(65,065)
(2) 新種資本証券の配当	-	-	-	-	-	(4,575)	-	(4,575)

(3) 新種資本証券の償還	-	(33,224)	-	(6,015)	-	-	-	(39,239)
(4) 株式報酬費用	-	-	-	(213)	-	-	-	(213)
(5) 子会社追加出資	-	-	-	(395)	-	-	-	(395)
(6) その他	-	-	-	3,092	-	(3,092)	-	-
. 2016年12月31日(当期末)	793,601	46,986	40,357	(6,468)	(27,672)	1,301,384	657	2,148,845

“ 添付の注記は本連結財務諸表の一部である ”

## 連結キャッシュ・フロー計算書

第185(当)期 自2016年1月1日 至2016年12月31日

第184(前)期 自2015年1月1日 至2015年12月31日

株式会社新韓銀行及びその従属企業

(単位:百万ウォン)

科目	第185(当)期		第184(前)期	
営業活動によるキャッシュ・フロー		3,441,594		974,564
(1) 税引前純利益	2,028,724		1,875,070	
(2) 損益調整項目	(4,627,680)		(4,348,816)	
1. 受取利息	(7,696,201)		(7,649,492)	
2. 支払利息	3,192,080		3,484,777	
3. 受取配当	(123,559)		(184,101)	
(3) 現金の流入のない損益項目	725,049		633,784	
1. 当期損益指定金融商品関連損益	206		(95)	
2. 売買目的金融商品関連損益	51,669		(54,706)	
3. 外国為替取引損益	(14,219)		84,640	
4. 売却可能金融資産処分損益	(411,430)		(422,279)	
5. 貸倒償却費	656,433		592,845	
6. その他金融商品減損損失	82,103		206,570	
7. 従業員関連費用	149,531		134,465	
8. 減価償却費及びその他償却費	160,417		165,381	
9. その他営業損益	49,447		(74,827)	
10. 関係企業利益に対する持分	(8,615)		(13,399)	
11. 営業外損益	9,507		15,189	
(4) 資産・負債の増減	799,792		(964,025)	
1. 預け金	3,445,119		(1,706,862)	
2. 売買目的金融資産	(2,218,771)		(746,002)	
3. デリバティブ資産	1,146,199		890,191	
4. 貸付債権	(10,310,156)		(21,318,857)	
5. その他資産	(2,261,259)		(1,755,738)	
6. 当期損益指定金融負債	(7,433)		7,464	
7. 預金	15,317,603		22,711,569	
8. 売買目的金融負債	(43,734)		59,749	
9. デリバティブ負債	(1,126,126)		(965,843)	

10. 確定給付負債	(219,788)		(292,930)	
11. 引当負債	(18,218)		(13,108)	
12. その他負債	(2,903,644)		2,166,342	
(5) 法人税の納付	(287,173)		(408,194)	
(6) 利息の受取	7,805,108		7,662,357	
(7) 利息の支払	(3,156,234)		(3,661,561)	
(8) 配当金の受取	154,008		185,949	
. 投資活動によるキャッシュ・フロー		(4,780,063)		(4,472,193)
1. 売却可能金融資産の減少	20,517,584		21,368,695	
2. 売却可能金融資産の取得	(23,725,867)		(23,502,156)	
3. 満期保有金融資産の減少	1,223,646		1,691,705	
4. 満期保有金融資産の取得	(2,728,536)		(3,771,041)	
5. 有形資産の処分	1,438		3,537	
6. 有形資産の取得	(79,285)		(102,583)	
7. 無形資産の処分	1,313		819	
8. 無形資産の取得	(37,052)		(95,596)	
9. 関係企業等に対する投資資産の処分	332		-	
10. 関係企業等に対する投資資産の取得	(11,607)		(5,974)	
11. 投資不動産の処分	18,075		6,725	
12. 投資不動産の取得	(6,910)		(10,296)	
13. 売却予定資産の処分	2,215		2,950	
14. その他資産の減少	868,794		664,775	
15. その他資産の増加	(824,203)		(571,819)	
16. 従属企業の取得（保有現金減算後）	-		(151,934)	
. 財務活動によるキャッシュ・フロー		2,414,553		2,535,128
1. 借入負債の純増減	1,072,852		(6,432)	
2. 社債の発行	8,765,677		9,980,618	
3. 社債の償還	(6,314,687)		(6,600,652)	
4. 配当金の支払	(703,612)		(512,863)	
5. 新種資本証券の償還	(392,000)		(329,850)	
6. その他負債の増加	131,204		98,633	
7. その他負債の減少	(134,377)		(94,326)	
8. 外部株主持分の取得	(10,504)		-	

・ 外貨表示現金及び現金性資産に 対する為替レート変動効果		(27,018)		5,015
・ 現金及び現金性資産の増加（減少）		1,049,066		(957,486)
・ 現金及び現金性資産の期首残高（注39）		3,578,718		4,536,204
・ 現金及び現金性資産の期末残高（注39）		4,627,784		3,578,718

“ 添付の注記は本連結財務諸表の一部である ”

(単位：百万円)

科目	第185(当)期		第184(前)期	
・ 営業活動によるキャッシュ・フロー		344,504		97,554
(1) 税引前純利益	203,075		187,695	
(2) 損益調整項目	(463,229)		(435,317)	
1. 受取利息	(770,388)		(765,714)	
2. 支払利息	319,527		348,826	
3. 受取配当	(12,368)		(18,429)	
(3) 現金の流入のない損益項目	72,577		63,442	
1. 当期損益指定金融商品関連損益	21		(10)	
2. 売買目的金融商品関連損益	5,172		(5,476)	
3. 外国為替取引損益	(1,423)		8,472	
4. 売却可能金融資産処分損益	(41,184)		(42,270)	
5. 貸倒償却費	65,709		59,344	
6. その他金融商品減損損失	8,219		20,678	
7. 従業員関連費用	14,968		13,460	
8. 減価償却費及びその他償却費	16,058		16,555	
9. その他営業損益	4,947		(7,490)	
10. 関係企業利益に対する持分	(862)		(1,341)	
11. 営業外損益	952		1,520	
(4) 資産・負債の増減	80,059		(96,499)	
1. 預け金	344,856		(170,857)	
2. 売買目的金融資産	(222,099)		(74,675)	
3. デリバティブ資産	114,735		89,108	
4. 貸付債権	(1,032,047)		(2,134,018)	
5. その他資産	(226,352)		(175,749)	
6. 当期損益指定金融負債	(744)		747	
7. 預金	1,533,292		2,273,428	
8. 売買目的金融負債	(4,378)		5,981	
9. デリバティブ負債	(112,725)		(96,681)	
10. 確定給付負債	(22,001)		(29,322)	
11. 引当負債	(1,824)		(1,312)	

12. その他負債	(290,654)		216,851	
(5) 法人税の納付	(28,746)		(40,860)	
(6) 利息の受取	781,291		767,002	
(7) 利息の支払	(315,939)		(366,522)	
(8) 配当金の受取	15,416		18,613	
. 投資活動によるキャッシュ・フロー		(478,484)		(447,667)
1. 売却可能金融資産の減少	2,053,810		2,139,006	
2. 売却可能金融資産の取得	(2,374,959)		(2,352,566)	
3. 満期保有金融資産の減少	122,487		169,340	
4. 満期保有金融資産の取得	(273,126)		(377,481)	
5. 有形資産の処分	144		354	
6. 有形資産の取得	(7,936)		(10,269)	
7. 無形資産の処分	131		82	
8. 無形資産の取得	(3,709)		(9,569)	
9. 関係企業等に対する投資資産の処分	33		-	
10. 関係企業等に対する投資資産の取得	(1,162)		(598)	
11. 投資不動産の処分	1,809		673	
12. 投資不動産の取得	(692)		(1,031)	
13. 売却予定資産の処分	222		295	
14. その他資産の減少	86,966		66,544	
15. その他資産の増加	(82,502)		(57,238)	
16. 従属企業の取得（保有現金減算後）	-		(15,209)	
. 財務活動によるキャッシュ・フロー		241,697		253,766
1. 借入負債の純増減	107,392		(644)	
2. 社債の発行	877,444		999,060	
3. 社債の償還	(632,100)		(660,725)	
4. 配当金の支払	(70,432)		(51,338)	
5. 新種資本証券の償還	(39,239)		(33,018)	
6. その他負債の増加	13,134		9,873	
7. その他負債の減少	(13,451)		(9,442)	
8. 外部株主持分の取得	(1,051)		-	
. 外貨表示現金及び現金性資産に 対する為替レート変動効果		(2,705)		503

・ 現金及び現金性資産の増加（減少）		105,012		(95,844)
・ 現金及び現金性資産の期首残高（注39）		358,230		454,074
・ 現金及び現金性資産の期末残高（注39）		463,241		358,230

“ 添付の注記は本連結財務諸表の一部である ”

## 注記

=====  
第185（当）期 2016年 12月31日現在  
第184（前）期 2015年 12月31日現在

### 株式会社新韓銀行及びその従属企業

#### 1. 連結対象会社の概要

##### （1） 支配企業の概要

支配企業である株式会社新韓銀行（以下、“当行”）はソウル特別市中区世宗大路9道20に本店を有しています。2016年12月31日をもって終了する報告期間に対する連結財務諸表は当行及び当行の従属企業（以下、総称して“連結実体”）、連結実体の関係企業及び共同支配企業に対する持分で構成されています。

当行は金融業を主な目的として1897年2月19日に設立された漢城銀行と1906年8月8日に設立された東一銀行の新設合併（1943年10月1日、銀行名：株式会社朝興銀行）により設立されました。

当行は1999年に忠北銀行及び江原銀行を吸収合併し、2006年4月1日には旧新韓銀行を吸収合併して銀行の社名を株式会社新韓銀行に変更しました。当期末現在における当行の資本金は7,928,078百万ウォン、発行株式数は1,585,615,506株であり、当行の株式は新韓金融持株会社が100%保有しています。当期末現在、当行は国内支店762ヶ所、国内出張所109ヶ所、営業所23ヶ所、海外支店14ヶ所を運営しています。

## (2) 連結対象従属企業（構造化企業を除く）

当期末及び前期末現在、構造化企業を除いた連結対象従属企業は以下の通りです。

従属企業名	所在地	決算月	業種	第185（当）期	第184（前）期
				持分率	持分率
新韓アジュ金融有限公司	香港	12月	卸売金融	99.99%	99.99%
アメリカ新韓銀行	アメリカ	12月	銀行業	100.00%	100.00%
ヨーロッパ新韓銀行	ドイツ	12月	銀行業	100.00%	100.00%
新韓クメール銀行	カンボジア	12月	銀行業	90.00%	90.00%
新韓カザフスタン銀行	カザフスタン	12月	銀行業	100.00%	100.00%
カナダ新韓銀行	カナダ	12月	銀行業	100.00%	100.00%
新韓銀行中国有限公司	中国	12月	銀行業	100.00%	100.00%
SBJ銀行	日本	3月	銀行業	100.00%	100.00%
新韓バンク・ベトナム	ベトナム	12月	銀行業	100.00%	100.00%
メキシコ新韓銀行	メキシコ	12月	銀行業	99.99%	99.99%
新韓インドネシア銀行（注1）	インドネシア	12月	銀行業	98.98%	97.76%
PT Centratama Nasional Bank（注1）	インドネシア	12月	銀行業	-	75.00%

（注1） 2016年12月6日基準で、PT Centratama Nasional Bankと新韓インドネシア銀行が合併して新韓インドネシア銀行になりました。

## 1) 新韓アジュ金融有限公司（Shinhan Asia Ltd.）

総合金融業務を営業している香港現地法人で、当期末現在における資本金は100,000千米ドルです。

## 2) アメリカ新韓銀行（Shinhan Bank America）

ニューヨーク朝興銀行（Chohung Bank of New York）とカルフォルニア朝興銀行（California Chohung Bank）の新設合併により設立されて金融サービス提供業務を営業しており、当期末現在における資本金は123,000千米ドルです。

## 3) ヨーロッパ新韓銀行（Shinhan Bank Europe GmbH）

銀行業営業等を目的として1994年に設立され、当期末現在における資本金は23,000千ユーロです。

## 4) 新韓クメール銀行（Shinhan Khmer Bank）

銀行業営業等を目的として2007年10月15日に設立され、当期末現在における資本金は20,000千米ドルです。

## 5) 新韓カザフスタン銀行（Shinhan Kazakhstan Bank）

銀行業営業等を目的として2008年12月16日に設立され、当期末現在における資本金は10,029百万テンゲです。

6) カナダ新韓銀行 (Canada Shinhan Bank)

銀行業営業等を目的として2009年3月9日に設立され、当期中に有償増資を進行して当期末現在における資本金は80,000千カナダドルです。

7) 新韓銀行中国有限公司 (Shinhan Bank China Limited)

銀行業営業等を目的として2008年5月12日、当行の現地支店から転換されたもので、当期末現在における資本金は2,000百万人民元です。

8) SBJ銀行 (Shinhan Bank Japan)

銀行業営業等を目的として2009年9月14日、現地支店からの転換により設立され、当期末現在における資本金は15,000百万円です。

9) 新韓バンク・ベトナム (Shinhan Bank Vietnam)

銀行業営業等を目的として2009年11月16日、現地支店からの転換により設立され、2011年11月28日に新韓ピナ銀行を吸収合併しました。当期末現在における資本金は4,547,100百万ベトナムドンです。

10) メキシコ新韓銀行 (Banco Shinhan de Mexico)

銀行業営業等を目的として2015年10月12日に設立され、当期に有償増資を行ったことにより当期末現在における資本金は655,000千メキシコペソです。また、当期に1株当りの額面金額を1,000メキシコペソから1メキシコペソに変更する額面分割を行いました。

11) 新韓インドネシア銀行 (PT Bank Shinhan Indonesia)

銀行業営業等を目的として1967年9月8日に設立された法人であるPT Bank Metro Expressを2015年11月30日に引き受けて従属会社として編入し、当期中に新韓インドネシア銀行 (PT Bank Shinhan Indonesia) に商号を変更しました。2016年12月6日に連結実体内のPT Centratama Nasional Bankと合併し、合併後に有償増資を行って当期末現在における資本金は490,087百万インドネシアルピアです。

(3) 連結対象構造化企業

当期末現在における連結対象の構造化企業は以下の通りです。

企業	所在地	決算月	業種
MPC栗村グリーン第一次(株)	大韓民国	3/6/9/12月	その他金融業
ARプラス第二次(株)	大韓民国	2月	その他金融業
MPC栗村2号機(株)	大韓民国	3/6/9/12月	その他金融業
MPC栗村1号機(株)	大韓民国	3/6/9/12月	その他金融業

エスヌリ第一次(株)	大韓民国	2/4/6/8/10/12月	その他金融業
エスヌリ第四次(株)	大韓民国	2/5/8/11月	その他金融業
エスヌリ第九次(株)	大韓民国	1/4/7/10月	その他金融業
新韓エスラッセル(株)	大韓民国	3/6/9/12月	その他金融業
ジーピーエス第二次(株)	大韓民国	12月	その他金融業
ジーピーエス第四次(株)	大韓民国	3/6/9/12月	その他金融業
ジーピーエス第五次(株)	大韓民国	1/4/7/10月	その他金融業
エスナレ第一次(有)	大韓民国	1/4/7/10月	その他金融業
ジーピーエス第七次(有)	大韓民国	2/5/8/11月	その他金融業
ケアキャンプ第一次(株)	大韓民国	2月	その他金融業
ジーピーエス第十一次(株)	大韓民国	1/4/7/10月	その他金融業
ジーピーエス第十次(株)	大韓民国	1/4/7/10月	その他金融業
ジーピーエス第八次(株)	大韓民国	3/6/9/12月	その他金融業
サニー金融第一次(株)	大韓民国	2/5/8/11月	その他金融業
エスウェイ第五次(株)	大韓民国	10月	その他金融業
サニー金融第二次(株)	大韓民国	2/5/8/11月	その他金融業
サニー金融第九次(株)	大韓民国	1/4/7/10月	その他金融業
サニーモア第三次(株)	大韓民国	1/4/7/10月	その他金融業
サニー金融第六次(株)	大韓民国	1/4/7/10月	その他金融業
サニーモア第一次(株)	大韓民国	1/4/7/10月	その他金融業
サニーモア第二次(株)	大韓民国	1/4/7/10月	その他金融業
サニーモア第五次(株)	大韓民国	2/5/8/11月	その他金融業
サニーモア第七次(株)	大韓民国	3/6/9/12月	その他金融業
サニーモア第六次(株)	大韓民国	3/6/9/12月	その他金融業
シージーアンド栗村2号機(株)	大韓民国	3/6/9/12月	その他金融業
サニーモア第十次(株)	大韓民国	2/5/8/11月	その他金融業
サニードリーム第四次(有)	大韓民国	3/6/9/12月	その他金融業
サニードリーム第七次(株)	大韓民国	10月	その他金融業
サニードリーム第九次(有)	大韓民国	2/5/8/11月	その他金融業
サニードリーム第六次(株)	大韓民国	9月	その他金融業
サニーモア第九次(株)	大韓民国	3/6/9/12月	その他金融業
サニーラッセル第二次(株)	大韓民国	2/5/8/11月	その他金融業
サニードリーム第五次(株)	大韓民国	1/4/7/10月	その他金融業

サニーラッセル第三次(有)	大韓民国	2/5/8/12月	その他金融業
サニードリーム第一次(株)	大韓民国	7月	その他金融業
サニーラッセル第八次(株)	大韓民国	12月	その他金融業
サニーラッセル第七次(有)	大韓民国	3/6/9/12月	その他金融業
サニーラッセル第六次(株)	大韓民国	3/6/9/12月	その他金融業
新韓銀行-デソン文化コンテンツ投資組合	大韓民国	12月	その他
開発信託	大韓民国	12月	信託
不特定金銭信託	大韓民国	12月	信託
老後年金信託	大韓民国	12月	信託
新個人年金信託	大韓民国	12月	信託
個人年金信託	大韓民国	12月	信託
退職信託	大韓民国	12月	信託
新老後年金信託	大韓民国	12月	信託
年金信託	大韓民国	12月	信託
家計金銭信託(旧新韓)	大韓民国	12月	信託
企業金銭信託(旧新韓)	大韓民国	12月	信託
新韓BNPP法人用私募証券投資信託第25号	大韓民国	1月	受益証券
新韓BNPP法人用私募証券投資信託第18号	大韓民国	1月	受益証券

連結実体は構造化企業の設立約定条件を考慮し、構造化企業の営業による変動利益にさらされており、このような変動利益に最も重要な影響を及ぼす可能性のある構造化企業の活動を指示できる能力を保有している場合、当該構造化企業を連結対象に含めています。構造化企業に対する所有持分は連結実体の負債として表示されるため、構造化企業に対する非支配持分はありません。

連結実体は上記で説明している構造化企業に対し、2,098,735百万ウォンの信用補強(ABCP買入約定等)を提供しています。

(4) 従属企業の変動状況

当期に新規で連結財務諸表に含まれた従属企業及び当期中に連結財務諸表の作成対象から除外された従属企業の状況は以下の通りです。

区分	従属企業名
新規に含まれた会社	サニー金融第一次(株) エスウェイ第五次(株) サニー金融第二次(株) サニー金融第九次(株) サニーモア第三次(株) サニー金融第六次(株) サニーモア第一次(株) サニーモア第二次(株) サニーモア第五次(株) サニーモア第七次(株) サニーモア第 <sup>06</sup> / <sub>2F</sub> 次(株) シージーアンド栗村2号機(株) サニーモア第十次(株) サニードリーム第四次(有) サニードリーム第七次(株) サニードリーム第九次(有) サニードリーム第六次(株) サニーモア第九次(株) サニーラッセル第二次(株) サニードリーム第五次(株) サニーラッセル第三次(有) サニードリーム第一次(株) サニーラッセル第八次(株) サニーラッセル第七次(有) サニーラッセル第六次(株) 新韓銀行 デソン文化コンテンツ投資組合

当期に除外された会社	新韓BNPPチャムチョウン高配当証券者投資信託 [ 株式 ] ( 種類C 1 ) エスドリーム第五次(株) エスウェイ第二次(株) エイタスドライブ第一次(有) 家計金銭信託 ( 旧朝興 ) 積立式目的信託 ( 旧朝興 ) 積立式目的信託 ( 旧新韓 ) 企業金銭信託 ( 旧朝興 ) ドンブダガッチ私募証券投資信託第九号 [ 受益証券 ] 現代ヘリテージ私募証券投資信託SH 第三号 [ 受益証券 ] 三星パートナー私募証券投資信託第六号 [ 受益証券 ] 興国ムジゲ私募証券投資信託T 41号 [ 受益証券 ]
------------	--

## 2. 重要な会計方針

連結実体が適用している重要な会計方針は以下の通りです。

### (1) 財務諸表の作成基準

連結実体は株式会社の外部監査に関する法律第13条第1項第1号で規定している国際会計基準審議会の国際会計基準を採択して定めた会計処理基準である韓国採択国際会計基準に基づいて財務諸表を作成しました。

当期及び比較表示された前期の財務諸表は以下に記述される会計方針に従って作成しました。

### (2) 測定基準

連結財務諸表は以下に挙げる財務状態表の主要項目を除いては、取得原価を基準に作成されています。

- 公正価値で測定されるデリバティブ
- 公正価値で測定される当期損益認識金融商品
- 公正価値で測定される売却可能金融商品
- 公正価値で測定される株式基準報酬
- 公正価値リスクヘッジ会計のリスクヘッジ対象項目に指定され、ヘッジ対象リスクによる公正価値の変動を当期損益として認識する金融資産及び金融負債
- 確定給付債務の現在価値から社外積立資産の公正価値を減算した確定給付債務

### (3) 機能通貨及び表示通貨

連結実体は各企業実体の財務諸表に含まれる項目を各企業実体の営業活動が行われる主な経済環境の通貨（機能通貨）で表示しています。連結財務諸表の作成のために個別企業の経営成績と財務状態は当行の機能通貨であり連結財務諸表の作成のための表示通貨であるウォン貨で表示しています。機能通貨が銀行の表示通貨（ウォン貨）と異なる従属企業は以下の通りです。

機能通貨	従属企業
米ドル (USD)	新韓アジュ金融有限公司
	アメリカ新韓銀行
	新韓クメール銀行
ユーロ (EUR)	ヨーロッパ新韓銀行
カザフスタンテンゲ (KZT)	新韓カザフスタン銀行
カナダドル (CAD)	カナダ新韓銀行
人民元 (CNY)	新韓銀行中国有限公司
日本円 (JPY)	SBJ銀行
ベトナムドン (VND)	新韓バンク・ベトナム
メキシコペソ (MXN)	メキシコ新韓銀行
インドネシアルピア (IDR)	新韓インドネシア銀行

#### (4) 見積と判断

韓国採択国際会計基準では財務諸表を作成するに当たって会計方針の適用や、報告期間末現在の資産、負債及び収益、費用の報告金額に影響を及ぼす事項に対し、経営陣の最善の判断に基づいた見積値及び仮定の使用を要求しています。

報告期間末現在における経営陣の最善の判断に基づいた見積値及び仮定が実際の環境とは異なる場合、実際の結果はこのような見積値とは異なることがあります。

見積値と見積に対する基本仮定は継続的に検討されており、会計見積の変更は見積が変更された期間と将来に影響を受ける期間にわたって認識されています。より複雑な判断が必要な部分または仮定と見積が連結財務諸表に重要な部分は注記4に開示されています。

#### (5) 会計方針の変更

連結実体は2015年12月31日をもって終了する会計年度の年次連結財務諸表を作成する際に適用したものと同一な会計方針を適用しています。

#### (6) 財務諸表の発行承認日

連結実体の財務諸表は2017年2月7日の取締役会で承認されました。

## (7) 連結

### 1) 従属企業

従属企業は連結実体により支配されている企業です。連結実体は被投資企業に対する関与により変動利益にさらされるか、或いは変動利益に対する権利があり、被投資企業に対して自身の力でそのような利益に影響を及ぼす能力がある時に被投資企業を支配します。従属企業の財務諸表は支配企業が従属企業に対する支配力を獲得する日から支配力を喪失する時点まで連結財務諸表に含まれます。

連結実体は多数の構造化企業を設立、または投資しています。このような企業に対して直・間接的に株式を保有していません。構造化企業が設立された約定の条件を考慮すると、連結実体は構造化企業の営業による損益を実質的に全部得ることになり、このような損益に最も重要に影響を及ぼす可能性のある連結構造化企業の活動を指示することができる能力を保有していると判断される場合には連結対象に含めています。構造化企業に対する所有持分は連結実体の負債に表示されるため、構造化企業に対する非支配持分はありません。

### 2) 内部取引除去

連結実体内の取引、これに関連する残高、収益及び費用、未実現損益は連結財務諸表の作成時に全て除去しています。内部取引で発生した未実現損失に連結財務諸表で認識すべき資産減損の兆候がある場合は、当期損失として認識しています。

### 3) 非支配持分

従属企業の持分のうち支配企業に帰属しない非支配持分は、支配企業の所有者持分とは区分して表示しています。当期純利益及びその他包括損益の各構成要素は、支配企業の所有者及び非支配持分に帰属され、非支配持分が負( - )の残高となるとしても、総包括損益は支配企業の所有者及び非支配持分に帰属させています。

## (8) 企業結合

### 1) 企業結合

企業結合は同一支配下の企業実体、事業に対する結合を除き、取得法を適用して会計処理しました。連結実体は、識別可能な取得資産、引受負債は以下の例外事項を除き、取得日の公正価値で測定して認識しています。

- リース契約：約定日の契約上条件及びその他要素に基づいて分類
- 偶発債務：現在、義務があり、信頼性をもって測定できる偶発債務を認識
- 繰延税金資産及び負債：企業会計基準書第1012号“法人税”により認識及び測定
- 従業員給与：企業会計基準書第1019号“従業員給与”により認識及び測定
- 補償資産：補償対象項目と一貫性のある基準により認識及び測定
- 再取得した権利：特別規定により測定
- 株式基準報酬：株式基準報酬に関連する負債または持分商品を企業会計基準書第1102号“株式基準報酬”により測定

- 売却予定資産：企業会計基準書第1105号“売却予定非流動資産及び中断事業”により純公正価値で測定

また、連結実体は取得日現在、被取得者に対する非支配持分を被取得者の識別可能な純資産のうち非支配持分の比例的持分で測定しています。

企業結合で移転対価は公正価値で測定し、同公正価値は連結実体が移転する資産、連結実体が被取得者の以前の所有者に対して負担する負債及び連結実体が発行した持分の取得日の公正価値の合計で算定します。但し、企業結合の移転対価に含まれた被取得者の従業員が保有している報酬と交換して取得者が付与した株式基準報酬は公正価値で測定せず、上記の方法で測定します。

なお、連結実体が企業結合の効果をあげるために発生させた取得に関連する費用には仲介手数料、即ち、諮問、法律、会計、価値評価及びその他専門家またはコンサルティング手数料、内部の取得部署の維持のための費用を含めた一般管理費用、債務証券、持分証券を登録、発行する費用を含めます。このような取得に関連する費用は企業会計基準書第1032号“金融商品：表示、企業会計基準書第1039号“金融商品：認識及び測定”により認識する債務証券、持分証券の発行費用を除外し、費用が発生し、役務の提供を受けた期間に費用として会計処理しています。

## 2) のれん

連結実体は取得日現在、移転対価、被取得者に対する非支配持分及び段階的企業結合の場合、連結実体が保有している被取得者に対する持分取得日の公正価値合計が取得する従属企業の識別可能な純資産を超過する金額をのれんとして認識しています。しかし、取得した識別可能な純資産が移転対価、被取得者に対する非支配持分及び段階的に行われる企業結合の場合、連結実体が保有していた被取得者に対する持分取得日の公正価値の合計を超過する場合、測定を再検討し、再検討後にも継続して残る超過分は直ちに当期損益として認識します。

非支配持分の追加取得は株主間取引として会計処理し、その結果、関連するのれん等は認識していません。

連結実体は2010年1月1日以降に発生した企業結合に対してのみ韓国採択国際会計基準を遡及適用して再表示しました。従って、2010年1月1日以前の企業結合に関連するのれんは連結実体の過去の会計基準により認識された金額で表示しました。

## (9) 関係企業及び共同企業

関係企業は連結実体が財務政策及び営業政策に関する意思決定に参加できる重要な影響力を有する会社で、一般的に連結実体が被投資企業の議決権の20～50%を所有している場合、或いは15%を超過して銀行法上の子会社に分類される場合には重要な影響力があると判断しています。

共同企業は約定の共同支配力を保有する当事者がその約定の純資産に対する権利を保有する共同約定をいい、共同支配力は約定の支配力に対する契約上で合意された共有として、関連活動に対する決定に支配力を共有する当事者全体の同意が要求される時にのみ存在します。

関係企業及び共同企業の投資持分は当初に取得原価を含めて原価として認識し、取得後には持分法を使用して会計処理しています。即ち、取得日以降に発生した被投資者の当期純損益及び資本変動分のうち連結実体の持分に該当する金額を帳簿価額に加減し、被投資者から受け取った分配額は投資持分の帳簿価額から減算しています。連結実体と関係企業間の内部取引で発生した未実現利益は連結実体持分だけ除去しています。未実現損失もまた取引が移転された資産に対する減損の証拠を提供しない限り除去しています。

関係企業または共同企業が類似する状況で発生した同一の取引及び事象に対して他の会計方針を使用した場合は、関係企業及び共同企業の財務諸表を適切に調整しています。

投資持分の帳簿価額がゼロ（0）に減少した後、追加損失分に対して法的義務またはみなし義務があるか、或いは被投資者に代わり支払うべき場合を除いては、損失を認識していません。

#### （10） 営業セグメント

連結実体はセグメントに配分される資源に対して意思決定し、セグメントの成果を評価するために最高営業意思決定者が定期的に検討する内部報告資料に基づいてセグメントを区分しています。最高営業意思決定者に報告されるセグメント情報はセグメントに直接帰属される項目と合理的に配分できる項目を含めます。配分されない項目は主に本社建物のような共通資産、本社関連費用及び法人税資産、負債です。連結実体は銀行長を最高営業意思決定者としています。

#### （11） 外貨換算

##### 1) 外貨取引

連結実体を構成する個別企業の財務諸表の作成に当り、その企業の機能通貨以外の通貨（外貨）で行われた取引は取引日の為替レートを適用して記録しています。報告期間末毎に貨幣性外貨項目は報告期間末の為替レートの終値で換算しています。公正価値で測定する非貨幣性外貨項目は公正価値が決定された日の為替レートで換算し、取得原価で測定する非貨幣性項目は取引日の為替レートで換算しています。

海外事業損益とキャッシュ・フローリスクヘッジ及び純投資のリスクヘッジ手段として指定された金融負債で発生した換算差額を除いた貨幣性項目の換算により発生した為替差異及び貨幣性項目の決済時点に生じる為替差異は、全て当期損益として認識しています。非貨幣性項目で発生した損益をその他包括損益として認識する場合には、その損益に含まれた為替レート変動効果もその他包括損益として認識し、当期損益として認識する場合には為替レート変動効果も当期損益として認識しています。

## 2) 在外営業活動体

在外営業活動体の機能通貨が連結実体の表示通貨とは異なる場合には、経営成績と財務状態を以下の方法で表示通貨に換算しています。

在外営業活動体の機能通貨が超インフレーション経済の通貨ではない場合、財務状態表（比較表示する財務状態表を含む）の資産及び負債は当該報告期末の為替レートの終値で換算し、包括損益計算書（比較表示する包括損益計算書を含む）の収益と費用は当該取引日の為替レートで換算し、換算によって生じる為替差異はその他包括損益として認識します。

在外営業活動体の取得により生じるのれんと資産・負債の帳簿価額に対する公正価値調整額は在外営業活動体の資産・負債とみなして在外営業活動体の機能通貨で表示し、在外営業活動体の他の資産・負債と共に為替レートの終値を適用してウォン貨に換算しています。

在外営業活動体を処分する場合には、独立の資本項目としてその他包括損益において認識した在外営業活動体に関連する為替差異の累計額は在外営業活動体の処分損益を認識する時点で資本から当期損益に再分類します。在外営業活動体を含めた従属企業の一部の処分時、その他包括損益に認識された換算差額の累計額のうち、比例的な持分をその在外営業活動体の非支配持分に再帰属させ、その他の場合は在外営業活動体を一部処分した時にその他包括損益に認識された換算差額の累計額のうち、比例的な持分のみを当期損益に再分類します。

## 3) 在外営業活動体に対する純投資の換算

在外営業活動体から受け取るか、或いは在外営業活動体に支払う貨幣性項目のうち、予測できる将来に決済する計画がなく、決済される可能性が低い項目はその在外営業活動体に対する純投資の一部とみなして連結財務諸表で為替差異をその他包括損益として認識し、関連純投資の処分時点で当期損益に再分類します。

### (12) 現金及び現金性資産

連結実体は保有現金と要求払預金、流動性が極めて高く、確定された金額の現金への転換が容易で、価値変動のリスクが軽微な短期投資資産を現金及び現金性資産に分類しています。持分商品は現金性資産から除外していますが、償還日が定められており、取得日から償還日までの期間が短い優先株のような実質的な現金性資産の場合には、現金性資産に含めています。但し、外貨他店借入は借入負債勘定に含めます。

### (13) 非デリバティブ資産

金融資産は認識及び測定のために当期損益認識金融資産、満期保有金融資産、貸付金及び受取債権、売却可能金融資産の4つのカテゴリーに区分し、契約の当事者となる時点で財務状態表に認識しています。また、定型化された買入または売渡取引（即ち、関連市場の規定或いは慣行により一般的に設定された期間内に当該金融商品を引き渡す契約条件により金融資産を買い入れるか或いは売り渡す場合）の場合は売買日に認識しています。

金融資産は当初認識時点で公正価値で測定し、当期損益認識金融資産ではない場合、金融資産の取得と直接関連する取引費用は当初認識時点で公正価値に加算しています。

#### 1) 当期損益認識金融資産

売買目的金融資産、または当初認識時点で当期損益認識金融資産に指定した金融資産を当期損益認識金融資産に分類しています。当期損益認識金融資産は当初認識後、公正価値で測定し、公正価値の変動は当期損益として認識しています。一方、当初認識時点で取得と関連して発生した取引費用は、発生時点で直ちに当期損益として認識しています。

#### 2) 満期保有金融資産

満期が固定しており、支払金額が確定しているか、或いは決定可能な非デリバティブ資産として連結実体が満期まで保有する積極的な意図と能力がある場合、満期保有金融資産に分類しています。当初認識後には実効利率法を適用して償却後原価で測定しています。

#### 3) 貸付金及び受取債権

支払金額が確定しているか、或いは決定可能で、活発な市場で取引価格が開示されていない非デリバティブ資産は貸付金及び受取債権に分類しています。当初認識後には実効利率法を適用して償却後原価で測定しています。

#### 4) 売却可能金融資産

売却可能項目として指定されるか、或いは当期損益認識金融資産、満期保有金融資産、または貸付金及び受取債権に分類されない非デリバティブ資産は売却可能金融資産に分類しています。当初認識後には公正価値で測定し、公正価値の変動はその他包括損益として認識しています。但し、活発な市場で開示される市場価格がなく、公正価値を信頼性をもって測定できない持分商品及びこのような持分商品と関係しており、その持分商品の引渡によって決済されるべきデリバティブは原価で測定しています。

#### 5) 金融資産の認識の中止

金融資産のキャッシュ・フローに対する契約上の権利が消滅するか、或いは金融資産のキャッシュ・フローに対する権利を譲渡して金融資産の所有によるリスクと経済価値の大部分を移転する場合、金融資産認識の中止しています。仮に金融資産の所有によるリスクと経済価値の大部分を保有しておらず、移転もしていない場合、連結実体が金融資産を統制していなければ金融資産の認識の中止し、金融資産を継続して統制している場合は、その譲渡資産に対して引き続き関与する程度まで継続して認識し、関連負債を共に認識しています。

仮に金融資産のキャッシュ・フローに対する権利を譲渡したものの、金融資産の所有によるリスクと経済価値の大部分を連結実体が保有している場合には、当該金融資産を継続して認識し、受け取った売却金額は負債として認識しています。

#### 6) 金融資産と負債の相殺

金融資産と負債は連結実体が資産と負債を相殺できる法的権利があり、純額で決済するか、或いは資産を実現すると同時に負債を決済する意図がある場合に限り相殺して財務状態表に純額で表示しています。

#### (14) 金融資産の減損

連結実体は当期損益認識金融資産を除外した金融資産の減損発生に対する客観的な証拠があるかどうかを報告期間末毎に評価しています。当初認識以降に発生した一つまたはそれ以上の事象の結果により金融資産の見積将来キャッシュ・フローに影響を受けた場合、金融資産が減損されたと判断します。しかし、将来事象の結果として予想される減損損失は認識しません。

減損発生の客観的な証拠がある場合、金融資産のカテゴリー別に以下のように減損損失を測定して当期損益として認識します。

##### 1) 貸付債権

償却後原価で測定される貸付債権の減損損失は当該資産の帳簿価額と当初の実効利子率で割り引いた見積将来キャッシュ・フロー（発生していない将来の貸倒は除外）の現在価値の差異で測定します。

そのために連結実体は、個別的に重要な金融資産に対して、優先的に減損発生の客観的な証拠があるかどうか個別的に検討します。

個別的に重要ではない金融資産の場合、個別的または集散的に検討します。個別的な検討結果、減損発生の客観的な証拠がなければ、その金融資産は類似する信用リスクの特性を有する金融資産の集合に含めて集散的に減損の有無を検討します。

減損損失は貸倒引当金勘定を使用して減算し、同金融資産の回収が不可能であると判断される場合、当該金融資産と共に償却します。既に貸倒償却した貸付債権が後続的に回収された場合、貸倒引当金を増加させ、その変動は当期損益として認識します。

#### 個別評価貸倒引当金

個別評価貸倒引当金は評価対象債権から回収されると期待されるキャッシュ・フローの現在価値に対する経営陣の最善の見積に基づきます。このようなキャッシュ・フローを見積る時、連結実体は関連する相手の営業キャッシュ・フロー等の財務的な状況、関連する担保物の正味実現可能価額等、利用可能な全ての情報を利用して判断します。

#### 集合評価貸倒引当金

集合評価貸倒引当金はポートフォリオに内在された発生損失の測定のために過去の経験損失率に基づいた見積モデルを利用します。同モデルは商品及び借主の種類、信用格付、ポートフォリオの規模、減損発現期間、回収期間等、様々な要因を考慮して各資産（または資産集合）の発生デフォルト率（PD：Probability of Default）と担保及び与信科目別の名目回収率、デフォルト時の発生損失率（LGD：Loss Given Default）を適用します。また、内在された損失の測定をモデル化し、過去の経験及び現状に基づいた入力変数の決定のために一定の仮定を適用します。同モデルの方法論及び仮定は貸倒引当金見積値と実際の損失との差異を減少させるために定期的に検討されます。

#### 2) 売却可能金融資産

公正価値減少額をその他包括損益として認識する売却可能金融資産は公正価値が取得原価に達しない金額から以前の期間に既に当期損益として認識した当該金融資産の減損損失を減算した金額をその他包括損益から当期損益に再分類します。

後続期間に売却可能金融資産の公正価値が増加し、その増加が減損損失認識後に発生した事象と客観的に関連する場合、売却可能債務商品は当期損益に戻し入れ、売却可能持分商品はその他包括損益として認識します。

### 3) 満期保有金融資産

償却後原価で測定される満期保有金融資産は帳簿価額と当初の実効利子率で割り引いた見積将来キャッシュ・フローの現在価値の差異で減損損失を測定し、帳簿価額から直接減算します。

後続期間中、減損損失の金額が減少し、その減少が減損の認識後に発生した事象と客観的に関連する場合には、既に認識した減損損失は回復後の帳簿価額が当初減損を認識していなければ回復日現在に認識したであろう償却後原価を超過しない限度内で当期損益に直接戻し入れます。

#### (15) デリバティブ

デリバティブは当初認識時に契約日の公正価値で見積り、後続的に報告期間末毎の公正価値で見積っています。デリバティブの公正価値の変動による評価損益はそれぞれ以下のように認識しています。

##### 1) リスクヘッジ会計

連結実体は金利リスクと為替レートリスクをヘッジするために通貨先渡、金利スワップ、通貨スワップ等のデリバティブ契約を締結しています。ヘッジ対象リスクによる資産または負債、確定契約の公正価値の変動（公正価値リスクヘッジ）、発生可能性が極めて高い予想取引または確定取引の為替レート変動（キャッシュ・フローリスクヘッジ）、在外営業活動体純投資の為替レート変動リスク（純投資のリスクヘッジ）をヘッジするために一部のデリバティブ及び非デリバティブをリスクヘッジ手段として指定しています。

連結実体はリスクヘッジ関係の開始時点にリスクヘッジ関係、リスク管理目的及びリスクヘッジ戦略を公式的に指定して文書化を行っています。また、この文書にはリスクヘッジ手段、リスクヘッジ対象項目及びリスクヘッジ関係の開始時点及びその後続期間にヘッジ対象リスクによるリスクヘッジ対象項目の公正価値またはキャッシュ・フローの変動をリスクヘッジ手段が相殺する効果を評価する方法等を含んでいます。

#### 公正価値リスクヘッジ

リスクヘッジ手段として指定され、公正価値リスクヘッジ会計の適用要件を満たすデリバティブの公正価値変動は当期損益として認識し、ヘッジ対象リスクによるリスクヘッジ対象項目の公正価値変動も当期損益として認識しています。リスクヘッジ手段の公正価値変動とヘッジ対象リスクによるリスクヘッジ対象項目の公正価値変動はリスクヘッジ対象項目に関連する包括損益計算書の同一項目に認識されます。公正価値リスクヘッジ会計は連結実体がこれ以上リスクヘッジ関係を指定しないが、リスクヘッジ手段が消滅、売却、清算または行使されるか公正価値リスクヘッジ会計の適用要件をこれ以上満たさなくなった場合に中断されます。ヘッジ対象リスクによるリスクヘッジ対象項目の帳簿価額調整額はリスクヘッジ会計が中断された日から償却して当期損益として認識しています。

#### キャッシュ・フローリスクヘッジ

リスクヘッジ手段として指定され、キャッシュ・フローリスクヘッジ会計の適用要件を満たすデリバティブの公正価値変動分のうち、リスクヘッジに効果的な部分はその他包括損益として処理し、リスクヘッジに効果的でない部分は当期損益として認識しています。キャッシュ・フローリスクヘッジ会計は連結実体がこれ以上リ

スクヘッジ関係を指定しないかリスクヘッジ手段が消滅、売却、清算、行使されるか、キャッシュ・フローリスクヘッジ会計の適用要件をこれ以上満たさなくなった場合に中断されます。

#### 純投資リスクヘッジ

リスクヘッジ手段として指定され、在外営業活動体純投資のリスクヘッジ会計の適用要件を満たした金融商品の公正価値の変動のうち、リスクヘッジに効果的な部分はその他包括損益として認識し、効果的ではない部分は当期損益として認識しています。リスクヘッジに効果的であるため、その他包括損益として認識した部分は、今後その在外営業活動体を処分するか、或いはその在外営業活動体の一部を処分する時点で企業会計基準書第1021号“為替レート変動効果”による再分類調整により、その他包括損益から当期損益に再分類します。

#### 2) 組込デリバティブ

組込デリバティブは主契約の経済的な特性及びリスクの程度と密接な関連性がなく、組込デリバティブと同一条件の別途の商品がデリバティブの定義を充足する場合、複合金融商品が当期損益認識項目として指定されていない時には組込デリバティブを主契約と分離して別途会計処理しています。主契約と分離した組込デリバティブの公正価値変動は当期損益として認識しています。

#### 3) その他デリバティブ

リスクヘッジ手段として指定されていないデリバティブの公正価値変動は直ちに損益として認識しています。

#### (16) 有形資産

有形資産は当初に原価で測定して認識しています。有形資産の原価には経営陣の意図する方式で資産を稼動するに当たって必要な場所と状態とするために直接関連する原価及び資産の解体、除去や敷地を復旧するために所要されると見積もられる原価が含まれています。

有形資産は当初認識後に原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を減算した金額を帳簿価額としています。但し、有形資産のうち土地及び建物については企業会計基準書第1101号“韓国採択国際会計基準の当初採択”を適用して韓国採択国際会計基準転換日現在の公正価値で測定し、これをその時点のみなし原価として使用しました。公正価値の評価結果として発生した有形資産再評価利益は取締役会の決議によって配当が制限されます。

有形資産の一部を取り替える時に発生する費用は、当該資産から発生する将来の経済的便益が連結実体に流入する可能性が高く、その費用を信頼性をもって測定できる場合に、資産の帳簿価額に含めるか、或いは適切な場合は別途の資産として認識しています。この際、取り替えられた部分の帳簿価額は除去しています。それ以外の日常的な修繕・維持と関連して発生する費用は発生時点で当期損益として認識しています。

有形資産のうち、土地は減価償却をせず、それ以外の有形資産は資産の取得原価から残存価値を差し引いた金額に対して以下に提示する経済的耐用年数にわたって定額法で償却しています。当期及び前期の耐用年数は以下の通りです。

区分	耐用年数
建物	40年
その他有形資産	4年～5年

有形資産の除去により発生する損益は純売却価額と帳簿価額の差異で決定され、その差額は当期損益として認識しています。

連結実体は報告期間末毎に資産の残存価値、耐用年数及び減価償却方法を再検討し、その結果、見積値が従来のもものと異なる場合は、その差異を会計見積の変更として処理しています。

#### (17) 無形資産

無形資産は当初認識する時に原価で測定し、当初認識後に原価から償却累計額と減損損失累計額を減算した金額を帳簿価額として認識しています。のれん及び会員権を除いた無形資産は使用可能な時点から残存価値をゼロ(0)として以下の耐用年数にわたり定額法で償却しています。関連する償却費は一般管理費として認識されます。

区分	耐用年数
ソフトウェア	5年
開発費	5年
その他無形資産	5年または契約期間

耐用年数を確定できる無形資産の償却期間と償却方法は会計年度末毎に再検討し、耐用年数を確定できない無形資産に対しては、その資産の耐用年数を確定できないという評価が引き続き正当であるかどうかを報告期間毎に再検討し、これを変更することが適切であると判断される場合は会計見積の変更として処理しています。

研究または内部プロジェクトの研究段階に対する支出は発生時点で費用として認識しています。開発段階の支出は資産を完成することができる技術的な実現可能性、資産を完成して使用するか、販売しようとする企業の意図、能力及び必要な資源の入手可能性、無形資産の将来の経済的便益を全て提示することができ、関連支出を信頼性をもって測定することができる場合に無形資産として認識しており、その他開発関連支出は発生時点で費用として認識しています。

## (18) 投資不動産

賃貸収益、資本増価を獲得するために保有する不動産は投資不動産に分類しています。投資不動産は当初認識時点で取引費用を含めて原価で測定し、原価モデルを適用しています。当初認識後には、原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を減算した金額を帳簿価額として認識しており、当期及び前期の見積耐用年数及び減価償却方法は以下の通りです。

区分	耐用年数	減価償却方法
建物	40年	定額法

後続費用は、資産から発生する将来の経済的便益が流入する可能性が高く、その費用を信頼性をもって測定できる場合に限って資産の帳簿価額に含めるか、或いは適切な場合は別途の資産として認識しており、その後の支出により振り替えられた部分の帳簿価額は認識を中止しています。一方、日常的な修繕・維持に関連して発生する費用は発生時点で当期損益として認識しています。

投資不動産の減価償却方法、残存価値及び耐用年数は報告期間末毎に再検討し、これを変更することが適切であると判断される場合は会計見積りの変更として会計処理しています。

## (19) リース

連結実体はリース資産の所有によるリスクと経済価値の大部分がリース利用者に移転される場合にはファイナンスリースに分類し、リスクと経済価値の大部分を移転しないリースはオペレーティングリースに分類しています。

## 1) ファイナンスリース

連結実体はリース約定日に測定された最低リース料の現在価値とリース資産の公正価値のうち、いずれか低い金額をリース期間開始日にファイナンスリース資産とファイナンスリース負債としてそれぞれ認識しています。リース開設直接原価はファイナンスリース資産に含まれています。

最低リース料は金融費用とリース負債の償還額に分けて認識しており、金融費用は負債残額に対して一定の期間利率が算出されるようリース期間の各報告期間にわたって配分しています。調整リース料は発生した期間に費用として処理しています。

ファイナンスリース資産の減価償却は連結実体が所有する他の減価償却対象資産と一貫した体系的な基準で償却しており、リース期間終了時点まで資産の所有権を獲得することが確実でない場合には、リース期間とリース資産の耐用年数のうち短い期間にわたって減価償却しています。また、連結実体はファイナンスリース資産に対して減損の有無を検討しています。

## 2) オペレーティングリース

オペレーティングリースのリース料はリース期間にわたって定額法で費用を認識しています。

### (20) 売却予定非流動資産

資産または処分資産集団の帳簿価額が、継続使用ではなく売却取引を通じて主に回収されることが予想される場合は、売却予定資産に分類しています。このような条件は当該資産（または処分資産集団）が現在の状態で直ちに売却可能でなければならず、売却される可能性が非常に高い場合にのみ充足されたとみなしています。資産（または処分資産集団）を売却予定として当初に分類する直前に当該資産（または資産と負債）の帳簿価額と純公正価値のうち、いずれか低い金額で測定しています。資産の純公正価値が下落すると、減損損失を直ちに当期損益として認識し、純公正価値が増加すると、過去に認識していた減損損失累計額を限度として利益として認識しています。

資産が売却予定に分類されるか、売却予定に分類された処分資産集団の一部である場合は、その資産は償却しません。

### (21) 非金融資産の減損

従業員給与で発生した資産、繰延税金資産及び売却予定に分類される資産を除いた全ての非金融資産に対しては、報告期間末毎に資産減損を示唆する兆候があるかどうかを検討し、仮にそうした兆候があれば、当該資産の回収可能価額を見積もっています。但し、企業結合により取得したのれん及び耐用年数を確定できない無形資産、まだ使用できない無形資産については、資産減損を示唆する兆候と関係なく、毎年回収可能価額と帳簿価額を比較して減損テストを行っています。

回収可能価額は個別資産別に、または個別資産の回収可能価額を見積もることができなければ、その資産が属する現金創出単位別に回収可能価額を見積もっています。回収可能価額は使用価値と純公正価値のうち大きい金額で決定しています。使用価値は資産や現金創出単位から創出されると期待される将来キャッシュ・フローを貨幣の時間価値及び将来キャッシュ・フローを見積もる際に調整されない資産の特有リスクに対する現行の市場評価を反映した適切な割引率で割り引いて見積もります。

資産や現金創出単位の回収可能価額が帳簿価額に満たない場合、資産の帳簿価額を減少させて直ちに当期損益として認識しています。

企業結合により取得したのれんは企業結合によるシナジー効果の恩恵を受けると期待される各現金創出単位に配分します。現金創出単位に対する減損損失はまず、現金創出単位に配分されたのれんの帳簿価額を減少させ、その後、現金創出単位に属する他の資産それぞれの帳簿価額に比例して資産の帳簿価額を減少させています。のれんに対して認識した減損損失は後続期間に戻し入れることができません。報告期間末毎にのれんを除いた資産に対して過去期間に認識した減損損失がこれ以上存在しないか減少したことを示唆する兆候があるか

どうかを検討し、減損損失の最後の認識時点以後に回収可能価額を決定するに当たって使用された見積値に変化がある場合にのみ戻し入れます。減損損失戻入により増加した帳簿価額は、過去に減損損失を認識する前の帳簿価額の減価償却または償却後残高を超過することはできません。

## (22) 非デリバティブ負債

連結実体は契約上の内容の実質と金融負債の定義によって金融負債を当期損益認識金融負債とその他金融負債に分類し、契約の当事者となる時に財務状態表に認識しています。

### 1) 当期損益認識金融負債

当期損益認識金融負債は売買目的金融負債、或いは当初認識時点で当期損益認識金融負債に指定した金融負債を含めています。当期損益認識金融負債は当初認識後、公正価値で測定し、公正価値の変動は当期損益として認識しています。一方、当初認識時点に発行と関連して発生した取引費用は発生時点で直ちに当期損益として認識しています。

### 2) その他金融負債

当期損益認識金融負債に分類されていない非デリバティブ負債はその他金融負債に分類し、これには預金、借入負債、社債等が含まれます。その他金融負債は当初認識時の発行と直接関連する取引費用を減算した公正価値で測定しています。後続的にその他金融負債は実効利子率法を使用して償却後原価で測定し、支払利息は実効利子率法を使用して認識しています。

金融負債は消滅した場合、即ち、契約上の義務が履行、取消または満了した場合に限り、財務状態表から除去しています。

## (23) 払込資本

### 1) 持分証券

普通株は資本に分類し、資本取引に直接関連して発生する追加費用は税金効果を反映した純額を資本から減算しています。

### 2) 新種資本証券

連結実体は商品の契約条件の実質によって資本証券を金融負債または持分商品に分類します。連結実体が契約上の義務を決済するための現金等金融資産の引渡を回避できる無条件的な権利を有している一部の新種資本証券の場合、持分商品に分類して資本の一部として表示しています。

### 3) 非支配持分

非支配持分は支配企業が直接または他の従属企業を通じて間接に所有しない持分に帰属される従属企業の当期純損益及び純資産の当該部分を意味し、企業会計基準書第1103号“企業結合”に基づいて計算した当初の企業結合時点の非支配持分純資産に該当する金額と企業結合以後の資本の変動分のうち非支配持分に該当する金額で構成されます。

#### (24) 従業員給与

##### 1) 短期従業員給与

従業員が関連勤務役務を提供した報告期間末から12ヶ月以内に決済される短期従業員給与は勤務役務と交換して支給が予想される金額を、勤務役務が提供される際に当期損益として認識しています。短期従業員給与は割引しない金額で測定しています。

##### 2) その他長期従業員給与

従業員が関連勤務役務を提供した報告期間の末日から12ヶ月以内に支給されないその他長期従業員給与（退職給与、解雇給与は除外）は当期及び過去期間に提供した勤務役務の対価として獲得した将来の給与額を現在価値に割り引いています。再測定による変動は発生した期間に当期損益として認識しています。

##### 3) 退職給付費用：確定給付型制度

報告期間末現在、確定給付型制度に関連する退職給付に係る負債は確定給付債務の現在価値から社外積立資産の公正価値を減算して認識しています。確定給付債務は毎年独立した計理士による予測単位積立方式で計算されています。確定給付債務の現在価値は確定給付型制度で支給される将来キャッシュ・フローを関連退職給付費用の満期と類似する満期を有する退職金が支給される通貨で表示された優良社債の収益率を使用して見積将来キャッシュ・フローを割り引いた後、決定されています。確定給付の費用のうち、勤務費用及び純確定給付債務（資産）の純利子は当期損益として認識し、純確定給付債務（資産）の再測定要素はその他包括損益として認識しています。

##### 4) 退職給付費用：確定拠出型制度

当行は確定拠出型制度の実施により当該会計期間中に当行が納付しなければならない負担金を退職給付費用の科目で当期費用として認識しています。

## 5) 解雇給与

連結実体は通常の退職時点前に従業員を解雇することを現実的な撤回可能性なしに明示的に確約するか、或いは連結実体が従業員に早期退職に対する解雇給与を提案し、従業員が自発的に提案を受諾する場合に解雇給与を当期損益として認識しています。

### (25) 株式基準報酬

連結実体は提供を受ける財貨または役務の対価として従業員に株式またはストックオプションを付与する株式決済型株式報酬取引に対して、提供を受ける財貨や役務の公正価値、または提供を受ける財貨、或いは役務の公正価値を信頼性をもって測定することができない場合は付与した持分商品の公正価値に基づいて財貨や役務の公正価値を間接的に測定し、その金額を稼得期間にわたって従業員給付費用及び資本として認識しています。ストックオプションの稼得条件が役務提供条件または市場条件ではない稼得条件である場合は最終的に稼得されるストックオプションの実際の数量に基づいて決定されるように認識された従業員費用を調整しています。

提供を受ける財貨や役務の対価として現金を支払う現金決済型株式基準報酬取引の場合は提供を受ける財貨、役務とその対価で負担する負債を公正価値で測定し、稼得期間にわたって従業員給付費用及び負債として認識しています。また、負債が決済されるまで毎報告期間末と最終決済日に負債の公正価値を再測定し、公正価値の変動額は給与として認識しています。

連結実体の役員・職員には親会社である新韓金融持株会社の株式に基づいた株式基準報酬が付与されており、連結実体は新韓金融持株会社との償還支払約定により株式基準報酬取引の報酬費用を現金で負担することとなっています。連結実体は当該株式報酬費用を約定役務提供期間に按分し、期間費用及び未払費用としてそれぞれ計上しています。約定役務提供期間中に役員・職員等の死亡、退職または解雇等により契約義務を履行しないために付与された権利が行使されず消滅する場合には、既に認識した未払費用を報酬費用から減算します。一方、新韓金融持株会社との償還支払約定に関係なく、連結実体が株式基準報酬取引を決済する義務がない連結実体内の企業間の株式基準報酬取引は、株式決済型株式基準報酬取引で測定しています。

## (26) 引当負債

過去事象の結果、現在の法的義務またはみなし義務が存在し、当該義務を履行するために経済的便益を有する資源が流出する可能性が高く、当該義務の履行に所要される金額を信頼性をもって見積もることができる場合に、引当負債を認識しています。

引当負債に認識する金額は、関連事象と状況に対する避けられないリスクと不確実性を考慮して現在の義務を報告期間末に履行するために所要される支出に対する最善の見積値です。貨幣の時間価値効果が重要な場合、引当負債は義務の履行のために予想される支出額の現在価値で評価しています。

報告期間末毎に引当負債の残高を検討し、報告期間末現在の最善の見積値を反映して調整しています。義務履行のために経済的便益を有する資源が流出される可能性が高くない場合には、関連引当負債を戻し入れていません。引当負債は当初認識に関連する支出にのみ使用しています。

## (27) 金融保証契約

金融保証契約は債務商品の当初契約条件または変更された契約条件により支払期日に特定債務者が支払うことができないことから、保有者が受けた損失を補償するために、発行者が特定金額を支払わなければならない契約です。

金融保証契約は当初認識時に公正価値で測定して支払保証引当負債に含め、公正価値は当該金融保証契約の期間にわたって償却されます。

当初認識後には以下の金額のうち、いずれか高い金額で測定されます。

- 企業会計基準書第1037号“引当負債、偶発債務及び偶発資産”により決定された金額（当該金融保証契約から期待される支払金額の現在価値）
- 当初認識金額から企業会計基準書第1018号“収益”により認識した償却累計額を減算した金額

## (28) 収益・費用の認識

### 1) 受取利息と支払利息

受取利息と支払利息は実効利率法を適用して包括損益計算書に認識します。実効利率法は金融資産、金融負債の償却後原価を計算し、関連する期間にわたって受取利息や支払利息を配分する方法です。

実効利率の計算時、当該金融商品の全ての契約条件を考慮して将来キャッシュ・フローを見積もるものの、将来の信用リスクによる損失は考慮しません。また、契約当事者間で支払うか、受け取る手数料、取引費用及びその他の割増額、割引額等を反映します。金融商品に対するキャッシュ・フローまたは期待存続期間を信頼性をもって見積もることができない例外的な場合には、全体契約期間にわたって契約上のキャッシュ・フローを使用して実効利率を算定します。

金融資産、類似する金融資産の集合が減損損失により減額されると、その後の受取利息は減損損失を見積る目的で将来キャッシュ・フローを割り引くために使用した利率を使用して認識します。

## 2) 受取手数料

連結実体は金融役務手数料をその手数料の賦課目的と関連金融商品の会計処理基準により以下のように区分して処理します。

### 金融商品の有効収益を構成する手数料

金融商品の実効利率の一部を構成する手数料の場合、一般的に実効利率に対する調整項目として処理します。このような手数料には借入者の財務状態、保証、担保、その他保障約定に関連する評価及び事務処理、関連書類の準備及び作成等の活動に対する補償、金融負債の発行時に受け取った開設手数料等が含まれます。しかし、金融商品が当期損益認識金融商品に該当する場合、手数料は商品の当初認識時点で収益として認識します。

### 役務の提供により稼得される手数料

資産管理手数料、業務受託手数料、保証役務手数料等、一定期間にわたって役務の提供対価として賦課される手数料はその役務の提供時に収益として認識します。また、特定の貸付約定が締結される可能性が低く、その貸付約定が企業会計基準書第1039号“金融商品：認識及び測定”の適用範囲に該当しない場合は、当該約定手数料は約定期間にわたって期間に比例して収益として認識します。

### 重要な行為の遂行により稼得される手数料

株式またはその他証券売買、事業譲渡・譲受けの斡旋のように第三者のための取引の交渉または交渉参加の対価として受け取る手数料及び販売手数料等、重要な行為を遂行することにより稼得される手数料は重要な行為を完了した時点で収益として認識します。

## 3) 受取配当

受取配当は株主として配当を受ける権利が確定される時点で収益を認識しています。

### (29) 法人税

法人税費用は当期法人税と繰延税金で構成されており、その他包括損益や資本に直接認識される取引や事象または企業結合から発生する税額を除いては、当期損益として認識しています。

連結実体の親会社である新韓金融持株会社は当行を含めた国内完全子会社を一つの納税単位とみなして所得金額を通算して法人税を申告・納付し、連結実体は新韓金融持株会社に連結法人税負担税額の個別帰属額を支払う義務のみが存在するため、当該金額を当期法人税負債に含まれる未払金として計上しました。資産・負債の

帳簿価額と税務価額の差異である一時差異と繰越控除が可能な税務上の欠損金及び税額控除等に対して将来負担する法人税負担額と将来軽減される法人税負担額のうち、連結実体に直接帰属される項目に対してそれぞれ繰延税金負債及び資産として認識しています。また、当行を除いた従属企業は各課税当局によって適用される税法により別途法人税を算出し、当該金額を当期法人税負債に含まれる未払法人税として計上しています。

従属企業、関係企業及び共同企業投資持分に関する将来加算一時差異に対しては連結実体が一時差異の消滅時点を統制でき、予測可能な将来に一時差異が消滅しない可能性が高い場合を除いては、全て繰延税金負債を認識しています。また、将来減算一時差異によって発生する繰延税金資産は一時差異が予測可能な将来に消滅する可能性が高く、一時差異が使用できる課税所得が発生する可能性が高い場合に認識しています。

繰延税金資産及び負債は報告期間末に制定されたか、或いは実質的に制定された税法に基づいて当該資産が実現されるか、或いは負債が支払われる報告期間に適用されると期待される税率を使用して測定しています。繰延税金資産と繰延税金負債を測定する時には、報告期間末現在、連結実体が関連資産と負債の帳簿価額を回収するか、或いは決済すると予想される方式に基づいて税効果を反映しました。

繰延税金資産の帳簿価額は毎報告期間末に検討し、繰延税金資産による恩恵が使用されるに十分な課税所得が発生する可能性が高くない場合、繰延税金資産の帳簿価額を減少させています。

繰延税金資産及び負債は同一の課税当局が賦課する法人税であり、連結実体が認識した金額を相殺できる法的権限を有しており、当期法人税負債及び資産を純額で決済する意図がある場合に限り相殺しています。配当金の支払により追加的に発生する法人税費用があれば、配当金の支払に関連する負債が認識される時点で認識しています。

#### (30) 信託関連会計処理

連結実体は資本市場と金融投資業に関する法律第114条により信託財産を固有財産と区分して会計処理しています。これに関連して信託勘定に貸し付けた資金を信託勘定貸付金、信託勘定から借り入れた資金を信託勘定未払金として計上しており、金融投資業規定によって信託財産の運用、管理及び処分に関連して信託報酬を取得し、これを信託業務運用収益として計上しています。

#### (31) 1株当たり利益

連結実体は普通株の基本的1株当たり利益と希薄化後1株当たり利益を継続事業損益と当期純損益に対して計算し、包括損益計算書に表示しています。基本的1株当たり利益は普通株に帰属する当期純損益を報告期間に流通される普通株式数を加重平均した株式数で除して計算しています。希薄化後1株当たり利益は転換社債及び従業員に付与した株式基準報酬等、全ての希薄化効果のある潜在的普通株の影響を考慮して普通株に帰属する当期純損益及び加重平均流通普通株式数を調整して計算しています。

(32) 未適用制定・改正基準書

制定・公表されたものの、2016年1月1日以降開始する会計年度に施行日が到来していない制定・改正基準書は以下の通りです。連結実体は期連結財務諸表の作成時、以下の制定・改正基準書を早期適用していません。以下の制定・改正基準書の適用時に期連結財務諸表に及ぼす影響は報告期間末現在、見積もることができません。

1) 企業会計基準書第1109号“金融商品”

2015年9月25日に制定された企業会計基準書第1109号“金融商品”は、2018年1月1日以降に初めて開始する会計年度から適用する一方、早期適用することもできます。同基準書は現行の企業会計基準書第1039号“金融商品：認識及び測定”を代替する予定です。連結実体は企業会計基準書第1109号を2018年1月1日以降に開始する会計年度から適用する予定です。

新たな企業会計基準書第1109号は遡及適用することが原則となっているものの、金融商品の分類・測定、減損の場合は比較情報の再作成を免除する等の一部の例外条項を設けており、リスクヘッジ会計の場合は、オプションの時間価値の会計処理等の一部の例外条項を除いては、非遡及的に適用します。

企業会計基準書第1109号の主な特徴には、金融資産の管理のための事業モデル及び金融資産の契約上のキャッシュ・フローの特性に基づいた金融資産の分類及び測定、予想信用損失に基づいた金融商品の減損モデル、リスクヘッジ会計の適用条件を満たすリスクヘッジ対象項目及びリスクヘッジ手段の拡大またはリスクヘッジ効果の評価方法の変更等を挙げることができます。

企業会計基準書第1109号では、金融資産を償却後原価、或いはその他包括損益 - 公正価値測定対象に分類するための要件が現行の企業会計基準書第1039号より厳しいため、企業会計基準書第1109号の導入時、当期損益 - 公正価値測定対象金融資産の比率が増加して当期損益の変動性が大きくなる可能性があります。

現行の企業会計基準書第1039号で全部当期損益として認識した当期損益 - 公正価値測定項目に指定した金融負債の公正価値変動のうち、信用リスクの変動による部分はその他包括損益として表示されるため、金融負債の評価に関連して当期損益が減少する可能性があります。

企業会計基準書第1109号では金融資産の当初認識後、信用リスクの増加程度によって下表のように3段階に区分して12ヶ月予想信用損失や全体期間の予想信用損失に該当する金額で損失引当金を測定するように定めているため、現行の企業会計基準書第1039号の発生損失モデルに比べて信用損失を早期に認識することができます。

区分	損失引当金
----	-------

当初認識後、信用リスクが重要に増加していない場合	12ヶ月予想信用損失：報告期間末以降12ヶ月以内に発生する可能性のある金融商品の債務不履行事象による予想信用損失
当初認識後、信用リスクが重要に増加した場合	全体期間予想信用損失：予想存続期間に発生する可能性のある全ての債務不履行事象による予想信用損失
信用減損の場合	

企業会計基準書第1109号のリスクヘッジ会計を適用する場合、現行の企業会計基準書第1039号のリスクヘッジ会計の適用要件を充足していない一部の取引に対してもリスクヘッジ会計を適用することができるようになったため、当期損益の変動性が減少する可能性があります。

一方、企業会計基準書第1109号の円滑な導入のためには、財務影響分析及び会計方針の樹立、会計システムの構築、システム安定化等の準備作業が必要です。連結実体は同基準書の導入のために主な従属企業を対象として2015年11月から財務影響分析及び会計方針の樹立手続に着手し、報告期間末現在、会計システムの構築を進行中であり、2017年にシステム安定化作業を進行する計画です。

同基準書を初めて適用する会計期間の財務諸表に及ぼす影響は、同基準書による会計方針の選択及び判断だけでなく、当該期間に連結実体が保有する金融商品及び経済状況等により異なる可能性があります。これにより、同基準書の適用時に連結財務諸表に及ぼす影響は、報告期間末現在において見積もることは難しいです。連結実体は今後のシステム構築作業の完了後に、具体的な財務影響を分析する計画です。

## 2) 企業会計基準書第1115号“顧客との契約から発生する収益”

企業会計基準書第1115号“顧客との契約から発生する収益”は顧客との全ての契約に適用される単一の基準で、収益認識のための5段階の分析を提示し、統制に基づいたモデルがリスク及び補償に基づくモデルを代替します。既存のリスク及び補償のモデルは遂行義務の履行時点を表す一つの指標として変更されました。同基準書は2018年1月1日以降に開始する会計年度から適用が義務付けられます。

## 3. 金融商品のリスク管理

### 3-1. 信用リスク

連結実体は一定水準の信用リスクにさらされています。これは取引相手の義務不履行により連結実体が財務的損失を被るリスクを意味します。信用リスクは会社の営業活動において最も重要に管理されなければならないリスクに分類され、経営陣は信用リスクエクスポージャーを注意深く管理しています。信用リスクへのエクスポージャーは主に預け金と貸付債権に関連する貸付過程及び債務証券に対する投資活動及びグループ資産ポートフォリオの為替手形等で発生し、貸付約定等の財務諸表のオフバランス勘定に関連する信用リスクが存在します。

## (1) 信用リスク管理

連結実体の信用リスク管理に対する基本政策はリスク政策委員会で決定されます。リスク政策委員会はCRO (Chief Risk Officer) を委員長に、CCO (Chief Credit Officer) と事業グループ担当グループ長及びリスク総括部長により構成され、銀行全般の信用リスク管理案と与信政策の方向を意思決定しています。リスク政策委員会と別途で与信審議委員会を設置して巨額与信及び限度承認等の与信審査を分離しており、CCOを委員長に、CROと与信関連事業グループ担当副行長、与信企画部長及び選任審査役で構成され、与信の健全性を引き上げ、運用収益性を向上する方向で与信審査を行っています。

信用リスク対象資産を保有及び管理する全ての営業単位で1次的に当該資産に対するリスク管理を行い、リスク総括部及び与信企画部等の信用リスク管理部署では2次的に銀行全体の信用リスク管理を担当します。リスク総括部はリスク政策委員会で設定された信用リスク限度及び同一借主別、系列別、業種別、国家別の信用エクスポージャー限度を管理する等、信用ポートフォリオ管理を行っています。また、信用評価システム、担保管理システムの運用を通じたPD、LGD、EAD (Exposure At Default) 等の信用リスク算出要素 (Risk Component) を測定及び管理しています。与信意思決定の支援及び牽制組織として与信企画部は銀行全体の与信政策及び制度を管理しており、与信審査部では独立的な信用評価の遂行及び与信意思決定を行っています。また、与信管理部では巨額与信等に対する個別与信管理を行っています。

全ての与信顧客（個人及び企業）に対して信用格付が付与されて管理されますが、個人は身上情報、銀行内部実績情報、外部信用情報を合算して算出され、企業の場合は財務項目と産業リスク、営業リスク、経営リスク等の非財務項目等を総合的に考慮して信用評価システムで算出されます。算出された信用格付は与信承認、限度管理、価格決定、貸倒引当金の積立等に活用される等、信用リスク管理の基本となります。

連結実体の信用評価システムはBasel III要件を反映して個人評価システム（ACE：Automatic Credit Evaluation）、エクスポージャー額5億ウォン以下の小売SOHO信用評価システム、企業信用評価システム（AIRS：Advanced Internal Rating System）を運営しています。

企業与信に対する審査は集団意思決定体制を取ることによって客観的かつ慎重な意思決定を行っています。一般的な与信の場合は営業店のRM（リレーションシップ・マネジャー）と各セグメントの本部審査役の合意の下で与信承認が行われ、規模が大きいか或いは重要な与信の場合は審査協議体等で与信承認が行われます。特に、専決限度を超過する巨額与信等の重要な与信に対しては、与信最高意思決定機構である与信審議委員会で審査を行っています。個人与信は個人与信審査部で客観的な統計方法及び銀行の信用政策に基づく自動化された個人与信評価システム（CSS：Credit Scoring System）によって審査が行われています。

個別与信に対する常時管理のために常時モニタリングシステムを稼働しています。企業与信取引先のうち、不良予想企業を自動検索して審査役とRMによって貸付査定が行われるようにしており、事業グループと独立した与信管理部では貸付査定結果の適正性を判断し、必要に応じて当該企業の信用格付調整を要請します。このような手続に従って不良予想企業を早期警報企業、観察企業及び正常企業に分類した後、リスク段階別の管理指針によって差別管理することで与信の不良化を早期に遮断しています。専門信用評価機関と提携した財務分析支援システムは与信審査及び管理を支援しており、FSB研究所の産業情報チームで産業格付を算出・管理し、産業動向及び企業情報を分析・提供しています。

## (2) リスク限度管理及びリスク軽減政策

信用リスクを適正水準に統制するために、以下のような限度管理体系を樹立・運用しています。

- 信用リスク限度は信用VaR及びエクスポージャーを基準として事業セグメント別、顧客別、商品別、業種別等、各セグメント別に設定して管理する。
- リスク総括部では信用VaR及びエクスポージャー基準の限度設定と管理業務を行い、与信企画部と与信審査部でも信用リスク管理のために設定されたエクスポージャー限度管理業務を行う。
- リスク総括部、リスク工学部は毎年1回以上、銀行全体の信用リスク限度運営計画を樹立してリスク政策委員会に付議する。
- 各セグメントはセグメント別に割り当てられた信用リスク限度をモニタリングして遵守する。
- 識別された信用リスクに対して個人顧客及び企業顧客、産業と国籍別限度を指定及び管理する。
- 個別借主または借主グループ、地理的産業別セグメントに対して受容できるリスクの限度を設定する。
- 当該リスクは年間基準もしくは必要であると判断される場合、期間内に再検討され、商品別、産業別、国家別リスクの限度は四半期別に取り締役会の承認を得る。
- 機関を含めた借主別エクスポージャーは財務諸表上の勘定とオフバランス勘定に対して個別設定された下位水準の限度により管理され、外貨先渡取引等の商品取引に関連する日別の取引に対してもリスクの限度を決定する。
- 限度対比の実際エクスポージャーは日別に管理する。
- 信用リスクエクスポージャーは借主に対する利子と元金償還能力を分析する過程でも管理され、必要な場合はこの過程で貸付限度を変更する。

その他のリスク管理案は以下の通りです。

### 1) 担保

連結実体は信用リスクを緩和するための政策と手続を導入しています。信用リスクに関しては一般的に担保が使用され、連結実体は特定種類の資産に対する質権設定に関する政策を導入しており、主な担保形態は以下の通りです。

- 住宅担保
- 不動産、棚卸資産及び売上債権等
- 債務証券及び持分証券等の金融商品

相対的に長期貸付債権は、通常、担保が設定されています。一方、リボルビング個人信用貸付は無担保である場合が一般的です。また、信用リスクによる損失を最小化するために、連結実体は資産減損の兆候がある場合、取引相手に追加担保を設定しています。

貸付債権以外の金融資産に対する担保は商品の特性によって差異があります。

金融商品ポートフォリオ等の担保設定されたABS等の特殊な場合を除くと、債務証券では無担保が一般的です。

2) デリバティブ

連結実体は購入後から処分契約の間のデリバティブに対して金額と期間に関する限度を維持して管理しています。

3) 一括相殺約定

連結実体は相当な規模の取引を行うにあたって、取引相手と一括相殺約定を締結することにより信用損失に対するエクスポージャーを制限しています。

取引は通常、総額基準で設定されていることから、一括相殺約定は一般的に財務状態表上、資産と負債を相殺した結果としては表示されません。しかし、取引相手に対する全ての金額が純額基準で設定される時に損失が発生する場合は、利益の生じている契約に関連する信用リスクはその範囲内で一括相殺約定により減少します。

一括相殺約定に属している信用リスクに対するグループの全体的なエクスポージャーは約定に属する各取引に影響を受けるため、短期間内に実質的に変動することもあります。

4) 信用関連約定

保証と信用供与は与信のような信用リスクを有しています。信用状（特定期間と状況の下で要求される金額に対し、連結実体で第三者に手形を発行して顧客に代わり信用を保証）はこれらに関連する基礎的な商品の船積により担保が設定されているため、与信よりも更に低いリスクが伴います。信用補強に対する約定は与信、保証或いは信用状の形態で信用を補強する限度の未使用比率を表します。信用を補強する約定に対する信用リスクに関連して、連結実体は総未使用約定と同一の金額に対して潜在的にリスクにさらされています。長期約定は一般的に短期約定よりも信用リスクの程度が大きいため、連結実体は信用約定の満期に対してモニタリングしています。

(3) 信用リスクエクスポージャー額

当期末及び前期末現在において保有している金融商品の信用リスクエクスポージャー額の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)半	第184(前)期
----	----------	----------

預け金及び 貸付債権 (注1,2)	銀行		10,032,848	9,266,841
	個人	住居用不動産担保貸付	45,068,588	44,937,977
		その他	61,786,832	54,408,820
		小計	106,855,420	99,346,797
	政府/公共機関/中央銀行		11,482,301	16,394,736
	企業	大企業	31,988,958	31,255,834
		中小企業	68,047,999	64,888,159
		特殊金融	3,719,100	3,467,796
		その他	542	981
		小計	103,756,599	99,612,770
	カード債権		17,565	20,745
合計		232,144,733	224,641,889	
売買目的金融資産	債務証券		9,229,544	8,097,168
	金/銀預け金		247,845	149,220
	合計		9,477,389	8,246,388
デリバティブ資産		2,579,121	1,617,518	
売却可能金融資産	債務証券		25,280,758	22,026,203
満期保有金融資産	債務証券		11,630,270	10,105,051
その他金融資産(注1,3)		11,957,522	9,702,482	
オフバランス勘定	金融保証		3,403,788	3,656,213
	貸付約定及びその他信用関連負債		75,287,793	76,224,534
	合計		78,691,581	79,880,747
合計		371,761,374	356,220,278	

(注1) 預け金及び貸付債権、その他金融資産のエクスポージャー額は、未償却残高及び貸倒引当金を減算した純帳簿価額です。

(注2) 新BIS規制(Basel III)の自己資本比率(BIS比率)の算出上、類似する信用リスク集団に分類しました。

(注3) 未収金、未収収益、保証金、未回収内国為替債権、仮払金等で構成されています。

(4) 預け金と貸付債権の減損情報

1) 当期末及び前期末現在における預け金と貸付債権の減損の有無に関する内訳は以下の通りです。

< 第185 (当) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分	銀行	個人		政府 公共機関 中央銀行	企業				カード 債権	合計
		住居用 不動産 担保貸付	その他		大企業	中小企業	特殊金融	その他		
延滞及び減損され て いない預け金及び 貸付債権	10,056,795	44,860,766	61,765,011	11,484,207	32,041,666	67,966,187	3,706,325	560	17,739	231,899,256
延滞されたが減損 されていない貸付 債権	-	167,829	144,040	-	26,936	166,566	21,802	-	532	527,705
減損された貸付債 権	-	55,524	194,515	-	433,857	473,408	32,081	-	9	1,189,394
小計	10,056,795	45,084,119	62,103,566	11,484,207	32,502,459	68,606,161	3,760,208	560	18,280	233,616,355
貸倒引当金	(23,947)	(15,531)	(316,734)	(1,906)	(513,501)	(558,162)	(41,108)	(18)	(715)	(1,471,622)
合計	10,032,848	45,068,588	61,786,832	11,482,301	31,988,958	68,047,999	3,719,100	542	17,565	232,144,733

< 第184 (前) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分	銀行	個人		政府 公共機関 中央銀行	企業				カード 債権	合計
		住居用 不動産 担保貸付	その他		大企業	中小企業	特殊金融	その他		
延滞及び減損され て いない預け金及び 貸付債権	9,292,002	44,716,279	54,365,054	16,397,262	31,241,269	64,889,217	3,452,126	1,013	20,817	224,375,039
延滞されたが減損 されていない貸付 債権	-	179,935	140,088	-	32,153	98,118	-	-	477	450,771
減損された貸付債 権	-	59,237	178,804	-	536,500	463,858	61,020	1	13	1,299,433

小計	9,292,002	44,955,451	54,683,946	16,397,262	31,809,922	65,451,193	3,513,146	1,014	21,307	226,125,243
貸倒引当金	(25,161)	(17,474)	(275,126)	(2,526)	(554,088)	(563,034)	(45,350)	(33)	(562)	(1,483,354)
合計	9,266,841	44,937,977	54,408,820	16,394,736	31,255,834	64,888,159	3,467,796	981	20,745	224,641,889

2) 当期末及び前期末現在、延滞及び減損されていない預け金及び貸付債権の信用健全性別の構成内訳は以下の通りです。

< 第185 ( 当 ) 期 >

( 単位 : 百万ウォン )

区分	銀行	個人		政府 公共機関 中央銀行	企業				カード 債権	合計
		住居用 不動産 担保貸付	その他		大企業	中小企業	特殊金融	その他		
レベル : 1. 優良	10,056,795	43,394,567	58,036,325	11,484,207	23,166,139	44,707,624	3,543,974	-	14,844	194,404,475
レベル : 2. 普通	-	1,466,199	3,728,686	-	8,875,527	23,258,563	162,351	560	2,895	37,494,781
小計	10,056,795	44,860,766	61,765,011	11,484,207	32,041,666	67,966,187	3,706,325	560	17,739	231,899,256
貸倒引当金	(23,947)	(10,316)	(176,697)	(1,906)	(251,645)	(381,636)	(15,642)	(18)	(715)	(862,522)
合計	10,032,848	44,850,450	61,588,314	11,482,301	31,790,021	67,584,551	3,690,683	542	17,024	231,036,734
担保による 信用リスク 軽減効果	34,632	43,464,781	28,423,358	-	7,886,771	44,836,832	940,644	-	148	125,587,166

< 第184 ( 前 ) 期 >

( 単位 : 百万ウォン )

区分	銀行	個人		政府 公共機関 中央銀行	企業				カード 債権	合計
		住居用 不動産 担保貸付	その他		大企業	中小企業	特殊金融	その他		
レベル : 1. 優良	9,292,002	42,499,598	51,838,634	16,397,262	21,965,379	40,705,502	3,139,614	-	18,446	185,856,437
レベル : 2. 普通	-	2,216,681	2,526,420	-	9,275,890	24,183,715	312,512	1,013	2,371	38,518,602
小計	9,292,002	44,716,279	54,365,054	16,397,262	31,241,269	64,889,217	3,452,126	1,013	20,817	224,375,039
貸倒引当金	(25,161)	(12,137)	(149,192)	(2,526)	(257,694)	(383,770)	(18,877)	(33)	(562)	(849,952)
合計	9,266,841	44,704,142	54,215,862	16,394,736	30,983,575	64,505,447	3,433,249	980	20,255	223,525,087
担保による 信用リスク 軽減効果	1,051	43,657,467	21,410,889	-	8,359,242	43,483,152	848,611	-	85	117,760,497

3) 当期末及び前期末現在、延滞されたものの減損されていない預け金及び貸付債権の延滞期間別の構成内訳は以下の通りです。

< 第185 ( 当 ) 期 >

( 単位 : 百万ウォン )

区分	個人		企業			カード 債権	合計
	住居用 不動産 担保貸付	その他	大企業	中小企業	特殊金融		
30日以内延滞	139,657	87,893	23,757	109,793	21,802	242	383,144
30日～60日延滞	18,590	23,838	116	41,015	-	41	83,600
60日～90日延滞	9,390	19,041	239	15,548	-	23	44,241
90日以上延滞	192	13,268	2,824	210	-	226	16,720
小計	167,829	144,040	26,936	166,566	21,802	532	527,705
貸倒引当金	(2,060)	(30,645)	(1,431)	(9,379)	(128)	-	(43,643)
合計	165,769	113,395	25,505	157,187	21,674	532	484,062
担保による 信用リスク軽減効果	161,728	64,863	1,025	93,996	-	1	321,613

< 第184 ( 前 ) 期 >

( 単位 : 百万ウォン )

区分	個人		企業		カード 債権	合計
	住居用 不動産 担保貸付	その他	大企業	中小企業		
30日以内延滞	148,391	90,370	20,738	68,465	182	328,146
30日～60日延滞	21,042	24,296	310	19,276	43	64,967
60日～90日延滞	10,310	13,766	1,798	6,720	34	32,628
90日以上延滞	192	11,656	9,307	3,657	218	25,030
小計	179,935	140,088	32,153	98,118	477	450,771
貸倒引当金	(1,754)	(27,954)	(3,783)	(5,164)	-	(38,655)
合計	178,181	112,134	28,370	92,954	477	412,116
担保による 信用リスク軽減効果	176,821	64,178	2,241	48,097	1	291,338

4) 当期末及び前期末現在、減損された預け金及び貸付債権の種類別の担保による信用リスク軽減効果の内訳は以下の通りです。

< 第185 (当) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分	個人		企業				カード 債権	合計
	住居用 不動産 担保貸付	その他	大企業	中小企業	特殊金融	その他		
減損された貸付債権	55,524	194,515	433,857	473,408	32,081	-	9	1,189,394
貸倒引当金	(3,155)	(109,392)	(260,425)	(167,147)	(25,338)	-	-	(565,457)
合計	52,369	85,123	173,432	306,261	6,743	-	9	623,937
担保による 信用リスク軽減効果	53,243	43,629	120,990	262,677	-	-	-	480,539

< 第184 (前) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分	個人		企業				カード 債権	合計
	住居用 不動産 担保貸付	その他	大企業	中小企業	特殊金融	その他		
減損された貸付債権	59,237	178,804	536,500	463,858	61,020	1	13	1,299,433
貸倒引当金	(3,583)	(97,980)	(292,611)	(174,100)	(26,473)	-	-	(594,747)
合計	55,654	80,824	243,889	289,758	34,547	1	13	704,686
担保による 信用リスク軽減効果	58,075	46,405	96,083	243,848	-	-	-	444,411

## (5) 債務証券の信用格付別の構成内訳

1) 当期末及び前期末現在における債務証券の信用格付別構成内訳は以下の通りです。

&lt; 第185 (当) 期 &gt;

(単位：百万ウォン)

区分	売買目的金融資産	売却可能金融資産	満期保有金融資産	合計
AAA	2,829,395	16,576,071	10,490,786	29,896,252
AA- から AA+	808,494	3,616,869	471,502	4,896,865
A- から A+	3,135,329	2,248,558	171,550	5,555,437
BBB- から BBB+	811,787	1,017,426	137,241	1,966,454
BBB- 未満	25,000	465,177	148,893	639,070
未格付	1,619,539	1,356,657	210,298	3,186,494
合計	9,229,544	25,280,758	11,630,270	46,140,572

&lt; 第184 (前) 期 &gt;

(単位：百万ウォン)

区分	売買目的金融資産	売却可能金融資産	満期保有金融資産	合計
AAA	2,191,647	16,680,379	9,118,585	27,990,611
AA- から AA+	1,146,951	1,555,147	425,682	3,127,780
A- から A+	2,505,680	1,837,268	369,117	4,712,065
BBB- から BBB+	596,975	716,343	-	1,313,318
BBB- 未満	75,916	419,080	68,672	563,668
未格付	1,579,999	817,986	122,995	2,520,980
合計	8,097,168	22,026,203	10,105,051	40,228,422

2) 外部評価機関の信用格付による有価証券の信用健全性基準は以下の通りです。

区分	韓国信用評価	韓国企業評価	S&P	Fitch	Moody's
AAA	-	-	AAA	AAA	Aaa
AA-からAA+	AAA	AAA	AA-からAA+	AA-からAA+	Aa3からAa1
A-からA+	AA-からAA+	AA-からAA+	A-からA+	A-からA+	A3からA1
BBB-からBBB+	BBB-からA	BBB-からA	BBB-からBBB+	BBB-からBBB+	Baa3からBaa1
BBB-未満	BBB-未満	BBB-未満	BBB-未満	BBB-未満	Baa3未満
未格付	未格付	未格付	未格付	未格付	未格付

3) 当期末及び前期末現在における債務証券の信用健全性の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
延滞及び減損されていない有価証券	46,140,572	40,228,422
減損された有価証券	-	-
合計	46,140,572	40,228,422

(6) 当期末及び前期末現在において、担保の実行により取得した資産658百万ウォン及び705百万ウォンを売却予定資産として認識しています。

## (7) 地域別の構成内訳

当期末及び前期末現在において保有している金融商品の地域別構成内訳は以下の通りです。

< 第185 (当) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分	韓国	アメリカ	イギリス	日本	ドイツ	ベトナム	中国	その他	合計
< 預け金 >									
銀行	342,942	751,684	16,677	94,826	24,745	361,781	1,991,413	248,918	3,832,986
政府/公共機関/中央銀行	6,917,670	321,516	-	717,922	82,034	109,943	696,051	27,930	8,873,066
預け金小計	7,260,612	1,073,200	16,677	812,748	106,779	471,724	2,687,464	276,848	12,706,052
< 貸付債権 >									
銀行	2,447,168	17,985	-	233,741	422,635	98,541	1,942,321	1,037,471	6,199,862
個人	103,278,915	336,637	3,508	2,270,102	2,330	294,761	275,900	393,267	106,855,420
住居用不動産担保貸付	44,716,068	109,920	977	2,071	94	842	156,714	81,902	45,068,588
その他	58,562,847	226,717	2,531	2,268,031	2,236	293,919	119,186	311,365	61,786,832
政府/公共機関/中央銀行	2,587,372	-	-	-	-	-	-	21,863	2,609,235
企業	91,848,742	1,959,566	60,174	2,040,149	55,002	1,630,144	2,269,651	3,893,171	103,756,599
大企業	26,988,073	1,228,489	42,137	1,151,220	927	781,375	587,948	1,208,789	31,988,958
中小企業	61,621,186	705,684	18,037	888,929	54,055	848,769	1,681,703	2,229,636	68,047,999
特殊金融	3,239,034	25,381	-	-	-	-	-	454,685	3,719,100
その他	449	12	-	-	20	-	-	61	542
カード債権	3,410	1,091	-	6	-	13,012	8	38	17,565
貸付債権小計	200,165,607	2,315,279	63,682	4,543,998	479,967	2,036,458	4,487,880	5,345,810	219,438,681
< 売買目的金融資産 >									
債務証券	9,209,693	-	-	-	-	-	19,851	-	9,229,544
金/銀預け金	-	-	247,845	-	-	-	-	-	247,845
売買目的金融資産小計	9,209,693	-	247,845	-	-	-	19,851	-	9,477,389
< 売却可能金融資産 >									
債務証券	23,177,345	414,831	58,912	112,381	35,911	484,002	588,334	409,042	25,280,758
< 満期保有金融資産 >									
債務証券	11,074,151	33,465	-	56,196	-	155,916	166,560	143,982	11,630,270
合計	250,887,408	3,836,775	387,116	5,525,323	622,657	3,148,100	7,950,089	6,175,682	278,533,150

< 第184 ( 前 ) 期 >

( 単位 : 百万ウォン )

区分	韓国	アメリカ	イギリス	日本	ドイツ	ベトナム	中国	その他	合計
< 預け金 >									
銀行	356,282	346,834	6,503	21,950	12,117	283,706	1,347,780	273,166	2,648,338
政府/公共機関/中央銀行	10,753,092	294,332	602	550,439	41,023	67,251	438,214	197,115	12,342,068
預け金小計	11,109,374	641,166	7,105	572,389	53,140	350,957	1,785,994	470,281	14,990,406
< 貸付債権 >									
銀行	2,572,273	31,611	-	246,329	491,639	57,227	2,455,903	763,521	6,618,503
個人	97,197,341	291,392	2,673	1,313,049	3,117	117,797	98,175	323,253	99,346,797
住居用不動産担保貸付	44,934,886	1,432	-	-	-	-	174	1,485	44,937,977
その他	52,262,455	289,960	2,673	1,313,049	3,117	117,797	98,001	321,768	54,408,820
政府/公共機関/中央銀行	4,049,328	-	-	-	-	-	-	3,340	4,052,668
企業	88,805,122	1,539,268	108,986	1,722,262	50,686	1,398,081	2,436,301	3,552,064	99,612,770
大企業	27,127,164	763,460	88,595	940,218	31,590	533,178	532,149	1,239,480	31,255,834
中小企業	58,762,731	757,099	20,391	782,044	19,086	864,903	1,904,152	1,777,753	64,888,159
特殊金融	2,914,354	18,683	-	-	-	-	-	534,759	3,467,796
その他	873	26	-	-	10	-	-	72	981
カード債権	11,928	1,044	1	3	-	7,734	7	28	20,745
貸付債権小計	192,635,992	1,863,315	111,660	3,281,643	545,442	1,580,839	4,990,386	4,642,206	209,651,483
< 売買目的金融資産 >									
債務証券	8,097,168	-	-	-	-	-	-	-	8,097,168
金預け金	-	-	149,220	-	-	-	-	-	149,220
売買目的金融資産小計	8,097,168	-	149,220	-	-	-	-	-	8,246,388
< 売却可能金融資産 >									
債務証券	21,002,919	190,884	23,388	89,433	34,984	418,865	46,545	219,185	22,026,203
< 満期保有金融資産 >									
債務証券	9,826,888	23,465	-	26,770	-	73,226	148,258	6,444	10,105,051
合計	242,672,341	2,718,830	291,373	3,970,235	633,566	2,423,887	6,971,183	5,338,116	265,019,531

## (8) 産業別の構成内訳

当期末及び前期末現在において保有している金融商品の産業別構成内訳は以下の通りです。

< 第185(当)期 >

(単位：百万ウォン)

区分	金融及び 保険業	製造業	卸売及び 小売業	不動産賃貸 及び事業 サービス業	建設業	宿泊及び 飲食店業	その他	個人顧客	合計
< 預け金 >									
銀行	1,933,527	-	-	-	-	-	1,899,459	-	3,832,986
政府/公共機関/中央銀行	8,158,086	3,990	-	-	-	-	710,990	-	8,873,066
預け金小計	10,091,613	3,990	-	-	-	-	2,610,449	-	12,706,052
< 貸付債権 >									
銀行	5,052,578	68	-	110,443	-	-	1,036,773	-	6,199,862
個人	-	-	-	-	-	-	-	106,855,420	106,855,420
住居用不動産担保貸付	-	-	-	-	-	-	-	45,068,588	45,068,588
その他	-	-	-	-	-	-	-	61,786,832	61,786,832
政府/公共機関/中央銀行	2,605,389	-	-	3,315	-	-	531	-	2,609,235
企業	2,533,061	39,601,460	14,491,117	17,630,180	2,183,218	4,540,871	22,776,692	-	103,756,599
大企業	1,283,023	16,606,475	4,282,359	838,481	585,580	206,144	8,186,896	-	31,988,958
中小企業	450,555	22,980,128	10,132,905	15,988,510	1,243,522	4,267,758	12,984,621	-	68,047,999
特殊金融	799,483	14,567	75,835	803,186	354,116	66,969	1,604,944	-	3,719,100
その他	-	290	18	3	-	-	231	-	542
カード債権	-	-	-	-	-	-	-	17,565	17,565
貸付債権小計	10,191,028	39,601,528	14,491,117	17,743,938	2,183,218	4,540,871	23,813,996	106,872,985	219,438,681
< 売買目的金融資産 >									
債務証券	5,497,048	639,264	921,410	217,794	60,432	3,746	1,889,850	-	9,229,544
金/銀預け金	247,845	-	-	-	-	-	-	-	247,845
売買目的金融資産小計	5,744,893	639,264	921,410	217,794	60,432	3,746	1,889,850	-	9,477,389
< 売却可能金融資産 >									
債務証券	18,939,223	756,134	89,261	367,060	167,324	-	4,961,756	-	25,280,758
< 満期保有金融資産 >									
債務証券	4,183,860	44,915	-	62,881	30,000	-	7,308,614	-	11,630,270

合計	49,150,617	41,045,831	15,501,788	18,391,673	2,440,974	4,544,617	40,584,665	106,872,985	278,533,150
----	------------	------------	------------	------------	-----------	-----------	------------	-------------	-------------

< 第184 (前) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分	金融及び 保険業	製造業	卸売及び 小売業	不動産賃貸 及び事業 サービス業	建設業	宿泊及び 飲食店業	その他	個人顧客	合計
< 預け金 >									
銀行	1,495,565	-	-	-	-	-	1,152,773	-	2,648,338
政府/公共機関/中央銀行	11,464,018	-	-	-	-	-	878,050	-	12,342,068
預け金小計	12,959,583	-	-	-	-	-	2,030,823	-	14,990,406
< 貸付債権 >									
銀行	5,166,009	-	-	67,609	-	-	1,384,885	-	6,618,503
個人	-	-	-	-	-	-	-	99,346,797	99,346,797
住居用不動産担保貸付	-	-	-	-	-	-	-	44,937,977	44,937,977
その他	-	-	-	-	-	-	-	54,408,820	54,408,820
政府/公共機関/中央銀行	4,051,668	-	-	-	-	-	1,000	-	4,052,668
企業	2,196,351	37,990,569	13,753,184	17,213,766	2,472,712	4,521,791	21,464,397	-	99,612,770
大企業	979,842	16,888,961	4,190,145	653,212	841,729	241,583	7,460,362	-	31,255,834
中小企業	647,458	21,076,184	9,537,765	15,762,705	1,235,385	4,240,137	12,388,525	-	64,888,159
特殊金融	569,051	24,906	25,239	797,814	395,598	40,030	1,615,158	-	3,467,796
その他	-	518	35	35	-	41	352	-	981
カード債権	-	-	-	-	-	-	-	20,745	20,745
貸付債権小計	11,414,028	37,990,569	13,753,184	17,281,375	2,472,712	4,521,791	22,850,282	99,367,542	209,651,483
< 売買目的金融資産 >									
債務証券	4,991,014	402,271	530,298	241,718	70,611	19,902	1,841,354	-	8,097,168
金預け金	149,220	-	-	-	-	-	-	-	149,220
売買目的金融資産小計	5,140,234	402,271	530,298	241,718	70,611	19,902	1,841,354	-	8,246,388
< 売却可能金融資産 >									
債務証券	16,894,445	682,557	60,612	198,201	187,407	-	4,002,981	-	22,026,203
< 満期保有金融資産 >									
債務証券	3,600,524	66,283	-	73,578	99,955	-	6,264,711	-	10,105,051
合計	50,008,814	39,141,680	14,344,094	17,794,872	2,830,685	4,541,693	36,990,151	99,367,542	265,019,531

### 3-2. 市場リスク

市場リスクは金利、株価、為替レート等のような市場価格の変動により発生する可能性のある損失リスクを意味します。連結実体は短期売買差益の獲得を目的として保有する有価証券、外国為替ポジション、デリバティブ等をトレーディングポジションとして管理し、与信、預け金及び短期売買差益の獲得目的を除いた債務証券等で構成された金利敏感資産及び受信、借入金、社債等で構成された金利敏感負債、金利リスクヘッジのためにリスクヘッジ手段として使用する金利敏感デリバティブを非トレーディングポジションとして管理していません。

連結実体はリスク政策委員会で市場リスク管理に関する政策樹立、限度設定等の意思決定機能を行い、リスク総括部は銀行全体の運用部署及びデスクに対する総合的な市場リスク管理を行い、リスク工学部は市場リスクシステム管理及びミドル・オフィス機能を果たしています。

市場リスク管理の基本は市場リスクによる最大損失可能額を一定水準以内で維持するための限度管理です。リスク政策委員会は運用部署及びデスク別VaR限度、損失限度、感応度限度、投資限度及びポジション限度、ストレス損失限度等を設定して運営しており、リスク総括部及びリスク工学部は運用部署とは独立して運営状況をモニタリングし、リスク政策委員会及びリスク管理委員会に定期的に報告しています。また、公正価額評価協議会は各事業セグメントの新商品（または取引）が施行される以前に公正価額評価方法に対する検討及びリスク評価等を遂行し、デリバティブ及び仕組商品リスクレビュー協議会でリスク要因に対する点検、投資規模制限を検討する等、合理的な意思決定を支援して事前にリスク要因に対する客観的な分析、検討が行われるようにしています。

#### (1) トレーディングポジションの市場リスク管理

トレーディングポジション測定対象である外国為替、株式、債券、デリバティブ取引データは、フロントシステムに取引を入力して管理し、市場リスク管理システム（RiskWatch）により自動インターフェースを行って日別にリスク測定及び限度管理を実施しています。また、統計的方法によるリスク測定を補完し、経済環境の急激な変化による影響度及び損失規模の管理のために定期的にストレステストを並行して実施しており、これにより連結実体の危機状況時に損失規模が一定範囲以内で管理されるようにしています。

## 1) トレーディングポジションから発生する市場リスクの測定方法

連結実体はトレーディングポジションがさらされている金利、株価、為替レート等の各リスクに対し、歴史的なシミュレーションVaR (Value at Risk) 方法論を適用して99.9%信頼区間で市場リスクを算出します。VaRは反対の市場状況から現在のポジションに対する潜在的な損失の統計学的な評価に基づいています。これは99.9%の信頼レベルで連結実体にて発生可能な最大損失金額を表現しています。そのため、実際の損失がVaRの測定値より大きいという統計学的な可能性(0.1%)が存在します。

VaRモデルは、測定時点の日別ポジションが維持されると同時に各測定時点から過去10日間の市場の動向が今後も継続するとの仮定に従って予想損失を測定しています。

過去の動向に対する連結実体の評価は過去5年間のデータに基づいており、現在ポジションで金利、株価、為替レート、オプション変動性の歴史的な変化を直接的に適用する歴史的シミュレーション方法を使用しています。また、VaR計算上で使用される仮定と媒介変数の有効性テストを定期的にモニタリングしており、同方法の適用は各パラメーターの想定を超える大規模な市場変動によるリスクを防ぐものではありません。

連結実体のVaR限度は毎年、リスク管理委員会により設定されており、この限度に対する実際のエクスポージャー額は毎日検討されています。また、VaRモデルの品質はVaR結果に対する事後検証により継続してモニタリングしており、全ての事後検証の結果を取締役に報告します。

## 2) トレーディングポジションのVaR

連結実体が保有しているトレーディングポジションに対する報告期間中の最小、最大、平均VaR及び報告期間末のVaRの内訳は以下の通りです。

< 第185 (当) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分	平均	最大	最小	当期末
金利リスク	33,246	48,851	18,764	44,447
株価リスク	5,161	5,787	4,815	5,484
為替レートリスク(注)	56,089	61,389	53,678	60,088
オプション変動性リスク	149	256	101	221
商品リスク	13	35	-	21
分散効果	(38,677)	(54,670)	(24,272)	(49,278)
VaR合計	55,981	61,648	53,086	60,983

< 第184 (前) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分	平均	最大	最小	前期末
金利リスク	37,341	43,746	33,849	35,976
株価リスク	8,258	9,049	6,995	7,056
為替レートリスク(注)	45,102	54,459	36,549	44,475
オプション変動性リスク	355	550	262	262
商品リスク	5	21	-	3
分散効果	(35,789)	(45,895)	(25,953)	(30,699)
VaR合計	55,272	61,930	51,702	57,073

(注) トレーディングポジション及び非トレーディングポジションを含む金額です。

## (2) 非トレーディングポジションの市場リスク管理

非トレーディングポジションから発生する最も主要な市場リスクは金利リスクです。そのため、非トレーディングポジションの市場リスクは市場金利の変動により純資産価値及び純受取利息が変動するリスクで測定されます。

連結実体はリスク政策委員会で金利リスク管理に関する政策樹立、詳細限度設定等の意思決定機能を行い、同原則及び限度内で国外店舗を始めとした子会社及び資金部、信託部、総合金融市場部等、勘定別管理部署は1次的に金利リスクを認識して管理します。リスク総括部及びリスク工学部はリスク政策委員会の金利リスク関連意思決定を支援し、金利リスクの許容限度超過の如何をモニタリングし、会社全体の金利リスクを評価して管理します。

連結実体はALMシステム(OFSA)を通じて金利ギャップ、デュレーションギャップ、シナリオ別NII(Net Interest Income)シミュレーション等、様々な分析方法を利用して金利リスクを測定及び管理しており、金利VaR、金利EaR、金利ギャップ比率に対しては限度を設定して月別にモニタリングしています。また、ストレステストを通じて様々な危機状況で金利リスクに及ぼす影響を評価しています。

### 1) 非トレーディングポジションから発生する市場リスクの測定方法

連結実体は歴史的な金利シナリオにより発生する純資産価値の変動分布を把握して今後1年間の最大損失予想額である金利VaR(Value at Risk)を確率論的に評価・管理します。また、資金量シナリオに基づいて過去の基準金利と年平均金利との変動性を活用した歴史的な金利シナリオにより発生する純受取利息の変動分布を把握して今後1年間の最大純受取利息の減少予想額である金利EaR(Earning at Risk)を確率論的に評価・管理します。

また、国際決済銀行(BIS)が提示した標準方法論により、満期区間別の標準修正デュレーション及び金利変動性を利用して金利VaRを算出し、満期区間別の金利変動による影響を受ける期間及び金利変動性を利用して金利EaRを算出しています。

## 2) 非トレーディングポジションの金利VaR及び金利EaR

当期末及び前期末現在においてBISが提示した標準方法論に従って算出された非トレーディングポジションに対する金利VaR及び金利EaRの内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
金利VaR	1,088,995	938,790
金利EaR	58,091	185,254

## (3) 外国為替リスク

連結実体は海外現地法人及び構造化企業等の連結対象の現物、先物外国為替ポジションを全て含めた総合ポジションに基づいて為替リスクを管理しています。リスク政策委員会は市場リスク限度に基づいて部署別、デスク別の外国為替ポジション限度等を設定して各営業単位別にトレーディング及び非トレーディング活動での為替リスクを管理・監督しています。連結実体の金融工学センターで銀行全体の為替ポジションを集中して管理しています。同部署のデスク及びディーラーは設定された市場リスク及び外国為替ポジション限度内で現物為替と通貨デリバティブ取引を通じて総合ポジションを管理します。主に米ドル(USD)、日本円(JPY)、ユーロ(EUR)、人民元(CNY)で取引されており、その他の外国為替は制限的に運用します。

当期末及び前期末現在における外貨建資産・負債の通貨別構成内訳は以下の通りです。

< 第185 ( 当 ) 期 >

( 単位 : 百万ウォン )

区分	米ドル	日本円	ユーロ	人民元	その他	合計
< 資産 >						
現金預け金	1,532,410	1,125,013	208,453	2,692,185	1,129,052	6,687,113
売買目的金融資産	44,678	-	-	-	247,845	292,523
デリバティブ資産	59,340	515	47	4,088	400	64,390
貸付債権	15,139,025	5,524,117	1,270,320	2,566,910	4,015,728	28,516,100
売却可能金融資産	1,443,574	68,920	4,178	427,871	669,899	2,614,442
満期保有金融資産	26,604	187,039	-	166,560	306,729	686,932
その他金融資産	1,696,418	396,875	117,139	376,181	154,564	2,741,177
資産合計	19,942,049	7,302,479	1,600,137	6,233,795	6,524,217	41,602,677
< 負債 >						
預金	10,640,722	5,990,709	606,767	4,418,828	4,002,441	25,659,467
売買目的金融負債	-	-	-	-	485,995	485,995
デリバティブ負債	105,380	3,171	100	2,061	295	111,007
借入負債	4,923,146	524,217	318,600	812,980	147,960	6,726,903
社債	3,857,223	103,681	152,112	207,912	34,438	4,355,366
その他金融負債	1,981,226	493,286	181,673	558,932	206,966	3,422,083
負債合計	21,507,697	7,115,064	1,259,252	6,000,713	4,878,095	40,760,821
相殺後外貨資産	(1,565,648)	187,415	340,885	233,082	1,646,122	841,856
オフバランス・ デリバティブ エクスポージャー額	2,063,897	(18,166)	(282,241)	88,689	(753,040)	1,099,139
外貨純 エクスポージャー額	498,249	169,249	58,644	321,771	893,082	1,940,995

&lt; 第184 (前) 期 &gt;

(単位：百万ウォン)

区分	米ドル	日本円	ユーロ	人民元	その他	合計
< 資産 >						
現金預け金	1,689,209	1,063,720	128,339	1,840,422	842,198	5,563,888
売買目的金融資産	-	-	-	-	149,220	149,220
デリバティブ資産	76,151	8,009	2,596	3,989	129	90,874
貸付債権	14,544,718	4,460,935	1,150,044	2,881,059	2,943,028	25,979,784
売却可能金融資産	1,067,423	65,075	16,979	5,441	594,535	1,749,453
満期保有金融資産	43	143,529	-	148,258	83,892	375,722
その他金融資産	2,226,985	268,276	126,115	654,230	183,754	3,459,360
資産合計	19,604,529	6,009,544	1,424,073	5,533,399	4,796,756	37,368,301
< 負債 >						
預金	8,354,417	5,294,863	452,006	3,535,629	2,560,067	20,196,982
売買目的金融負債	-	-	-	-	453,605	453,605
デリバティブ負債	58,210	636	260	2,260	77	61,443
借入負債	5,675,943	179,299	390,562	717,309	311,926	7,275,039
社債	3,131,783	291,603	153,664	216,660	144,381	3,938,091
その他金融負債	2,362,636	211,698	336,225	827,811	314,265	4,052,635
負債合計	19,582,989	5,978,099	1,332,717	5,299,669	3,784,321	35,977,795
相殺後外貨資産	21,540	31,445	91,356	233,730	1,012,435	1,390,506
オフバランス・ デリバティブ エクスポージャー額	737,265	103,134	(56,193)	101,979	(362,963)	523,222
外貨純 エクスポージャー額	758,805	134,579	35,163	335,709	649,472	1,913,728

### 3-3. 流動性リスク

連結実体はリスク政策委員会で流動性リスク管理に関する政策樹立、詳細限度設定等の意思決定機能を行い、同原則及び限度内で国外店舗を始めとした子会社と資金部、信託部、総合金融市場部等、勘定別管理部署が1次的に流動性リスクを認識して管理します。リスク総括部及びリスク工学部はリスク政策委員会の流動性リスクに関連する意思決定を支援し、流動性リスク許容限度をモニタリングし、銀行全体の流動性リスクを評価して管理します。

連結実体は以下の基本原則に基づいて流動性リスクを管理しています。

- 1) 十分な量の資金を必要な時点で、適切な水準の調達費用で調達
- 2) 許容限度及び早期警報指標の管理を通じてリスクを適正水準に維持し、関連リスク要因を事前に管理
- 3) 資金の調達源泉と満期を効果的に分散させる資金調達戦略を樹立して損失を最小化し、安定的に収益確保
- 4) 正常な状況及び危機状況で適時に支払決済債務を履行することができるように毎日日中流動性ポジション及びリスクを管理
- 5) 流動性危機発生に備えて危機状況分析を定期的を実施し、危機発生時に措置できる非常調達計画を樹立
- 6) 流動性関連費用、便益及びリスクは商品価格決定、成果評価及び新商品の承認手続に反映

連結実体はALMシステムを通じて流動性ギャップ、流動性比率、預貸率、顧客行動モデルを反映した実質流動性ギャップ等、様々な分析方法を利用する一方、リスク限度、早期警報指標、モニタリング指標等、様々な管理指標を通じてウォン貨及び外貨流動性リスクを管理しています。資産及び負債の満期構造分析時、要求払預金の場合は顧客の支払要請時には常時引出が可能で最短期に分類することができますが、通常は一定比率の平均残高を維持する顧客の行動を勘案して非コア預金を最短期に区分して流動性リスクを管理します。

## (1) 金融商品の残存期間

当期末及び前期末現在における金融商品資産及び金融商品負債の残存期間別の構成内訳は以下の通りです。

< 第185(当)期 >

(単位：百万ウォン)

区分	1ヶ月以内	1～3ヶ月	3～6ヶ月	6ヶ月～1年	1～5年	5年超過	合計
< 資産 >							
現金預け金	13,018,880	908,479	325,599	227,946	34,830	-	14,515,734
売買目的金融資産	11,270,758	-	-	-	-	-	11,270,758
デリバティブ資産	2,593,963	43,781	62,792	118,786	270,886	117,375	3,207,583
貸付債権	20,394,874	25,966,414	35,001,023	51,563,376	58,877,474	50,425,410	242,228,571
売却可能金融資産	26,283,770	-	-	-	-	1,530,813	27,814,583
満期保有金融資産	125,180	214,884	150,728	1,374,925	9,469,785	1,679,461	13,014,963
その他金融資産	10,887,984	-	-	-	1,127,142	-	12,015,126
資産合計	84,575,409	27,133,558	35,540,142	53,285,033	69,780,117	53,753,059	324,067,318
< 負債 >							
当期損益認識指定 金融負債	35	-	1,916	-	4,598	-	6,549
預金	118,610,459	21,741,507	28,826,207	48,447,733	13,829,012	2,980,713	234,435,631
売買目的金融負債	485,995	-	-	-	-	-	485,995
デリバティブ負債	2,479,292	24,418	29,040	27,249	81,619	26,054	2,667,672
借入負債	5,268,211	1,660,314	1,026,052	2,499,657	3,468,909	604,343	14,527,486
社債	622,234	1,811,544	3,115,445	3,930,882	9,958,411	4,028,492	23,467,008
その他金融負債	12,558,637	-	-	-	121,158	-	12,679,795
負債合計	140,024,863	25,237,783	32,998,660	54,905,521	27,463,707	7,639,602	288,270,136

&lt; 第184 (前) 期 &gt;

(単位：百万ウォン)

区分	1ヶ月以内	1～3ヶ月	3～6ヶ月	6ヶ月～1年	1～5年	5年超過	合計
< 資産 >							
現金預け金	15,731,618	742,946	298,047	120,519	29,538	-	16,922,668
売買目的金融資産	9,056,812	-	-	-	-	-	9,056,812
デリバティブ資産	1,608,964	200,356	63,397	79,454	138,195	42,056	2,132,422
貸付債権	19,678,457	24,477,482	32,524,431	49,278,674	54,805,352	51,224,025	231,988,421
売却可能金融資産	23,587,340	-	-	-	-	873,259	24,460,599
満期保有金融資産	39,106	135,278	391,036	756,853	8,298,757	1,869,644	11,490,674
その他金融資産	6,304,826	-	-	-	3,480,967	-	9,785,793
資産合計	76,007,123	25,556,062	33,276,911	50,235,500	66,752,809	54,008,984	305,837,389
< 負債 >							
当期損益認識指定 金融負債	-	-	491	-	13,675	-	14,166
預金	105,483,803	21,593,511	25,805,879	50,371,099	13,210,241	3,366,244	219,830,777
売買目的金融負債	463,766	-	-	-	-	-	463,766
デリバティブ負債	1,465,665	22,756	16,357	28,301	59,384	30,157	1,622,620
借入負債	3,629,220	2,037,321	1,213,117	2,097,626	3,698,846	543,234	13,219,364
社債	344,047	1,564,023	1,602,688	5,528,306	9,857,636	2,964,351	21,861,051
その他金融負債	15,300,954	-	-	-	124,327	-	15,425,281
負債合計	126,687,455	25,217,611	28,638,532	58,025,332	26,964,109	6,903,986	272,437,025

表示された金額は金融商品資産及び金融商品負債の元金及び利息のキャッシュ・フローを全て含めています。割引されていないキャッシュ・フローに基づき連結実体の支払義務が発生する最も早い満期日で分類しました。また、直ちに処分可能な売買目的金融商品及び処分制限された資産を除いた売却可能金融資産は1ヶ月以内の最短期に分類しました。

## (2) オフバランス項目の残存期間

連結実体が提供した社債発行、融資担保等、金融保証に該当する支払保証、貸付約定及びその他信用供与の場合、約定満期が存在するものの、取引相手が支払を要請する場合には直ちに支払を履行しなければなりません。

当期末及び前期末現在における関連オフバランス項目の構成内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
金融保証	3,403,788	3,656,213
貸付約定及びその他信用関連負債	75,287,793	76,224,534
合計	78,691,581	79,880,747

## 3-4. 金融商品の公正価値測定

活発な市場で取引される金融商品の公正価値は、報告期間終了日現在において告示される市場価格に基づき算定されます。連結実体が保有している金融資産の開示される市場価格は、売買仲介機関の開示価格に基づいています。

活発な市場で取引されない金融商品(例：店頭デリバティブ)の公正価値は、評価手法を使用して決定するか、或いは独立した外部専門評価機関の評価結果を利用します。

連結実体は多様な評価手法を活用しており、報告期間終了日現在における市場状況に基づき合理的な仮定を樹立しています。

連結実体が使用する公正価値の評価手法には、合理的な判断力及び取引意思がある独立した当事者間の最近取引を使用する方法、実質的に同一な他の金融商品の現行公正価値を利用することができればこれを参照する方法、見積キャッシュ・フロー割引方法、オプション価格決定モデル等があります。例えば、金利スワップの公正価値は将来予想キャッシュ・フローの現在価値で計算され、外国為替先渡契約の公正価値は報告期間末の告示先渡為替レートを適用して算出されます。

連結実体は、金融商品の公正価値を以下の3つのレベルに分類して開示します。

- レベル1：活発な市場で開示される価格を公正価値として測定する金融商品の場合、同金融商品の公正価値はレベル1に分類しています。

- レベル2：評価手法を使用して金融商品の公正価値を測定する場合、重要な投入変数が市場で観測した情報に基づいていれば、同金融商品の公正価値はレベル2に分類しています。
- レベル3：評価手法を使用して金融商品の公正価値を測定する場合、重要な投入変数が市場で観測不可能な情報に基づいていれば、同金融商品の公正価値はレベル3に分類しています。

(1) 公正価値で測定する金融商品

- 1) 当期末及び前期末現在、財務状態表にて公正価値で測定する金融商品の公正価値序列体系のレベル別の内訳は以下の通りです。

< 第185 (当) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分		レベル1	レベル2	レベル3	合計
売買目的金融資産	債務証券	1,343,122	7,871,486	14,936	9,229,544
	持分証券	192,929	1,600,440	-	1,793,369
	金/銀預け金	247,845	-	-	247,845
	小計	1,783,896	9,471,926	14,936	11,270,758
デリバティブ資産	売買目的	-	2,533,182	25,370	2,558,552
	リスクヘッジ目的	-	12,904	7,665	20,569
	小計	-	2,546,086	33,035	2,579,121
売却可能金融資産	債務証券	6,558,428	18,722,330	-	25,280,758
	持分証券	655,631	746,595	1,131,599	2,533,825
	小計	7,214,059	19,468,925	1,131,599	27,814,583
資産合計		8,997,955	31,486,937	1,179,570	41,664,462
当期損益認識指定 金融負債	預金	-	4,277	2,005	6,282
売買目的金融負債	金預金	485,995	-	-	485,995
デリバティブ負債	売買目的	-	2,444,794	3,803	2,448,597
	リスクヘッジ目的	-	77,668	259,127	336,795
	小計	-	2,522,462	262,930	2,785,392
負債合計		485,995	2,526,739	264,935	3,277,669

&lt; 第184 (前) 期 &gt;

(単位：百万ウォン)

区分		レベル1	レベル2	レベル3	合計
売買目的金融資産	債務証券	1,121,057	6,926,357	49,754	8,097,168
	持分証券	110,147	700,277	-	810,424
	金/銀預け金	149,220	-	-	149,220
	小計	1,380,424	7,626,634	49,754	9,056,812
デリバティブ資産	売買目的	-	1,554,306	7,689	1,561,995
	リスクヘッジ目的	-	27,625	27,898	55,523
	小計	-	1,581,931	35,587	1,617,518
売却可能金融資産	債務証券	7,903,323	14,122,880	-	22,026,203
	持分証券	1,098,069	422,339	913,988	2,434,396
	小計	9,001,392	14,545,219	913,988	24,460,599
資産合計		10,381,816	23,753,784	999,329	35,134,929
当期損益認識指定 金融負債	預金	-	10,542	2,967	13,509
売買目的金融負債	売渡有価証券	10,161	-	-	10,161
	金預金	453,605	-	-	453,605
	小計	463,766	-	-	463,766
デリバティブ負債	売買目的	-	1,441,241	5,416	1,446,657
	リスクヘッジ目的	-	34,803	91,972	126,775
	小計	-	1,476,044	97,388	1,573,432
負債合計		463,766	1,486,586	100,355	2,050,707

2) 当期及び前期において公正価値で測定する金融商品のうちレベル1とレベル2の間の移動金額はありません。

## 3) 公正価値レベル3に分類された金融商品の内訳

当期及び前期において公正価値レベル3に該当する金融商品の増減内訳は以下の通りです。

< 第185 (当) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分	売買目的 金融資産	売却可能 金融資産	純デリバティブ	当期損益認識 指定金融負債	合計
期首	49,754	913,988	(61,801)	(2,967)	898,974
総損益					
当期損益認識金額(注1)	139	13,470	(188,240)	(5)	(174,636)
その他包括損益認識金額	-	(65,685)	-	-	(65,685)
購入/発行	-	383,992	(1,163)	-	382,829
決済	(34,957)	(108,854)	1,621	967	(141,223)
レベル3への移動(注2)	-	-	19,688	-	19,688
レベル3からの移動(注2)	-	(5,312)	-	-	(5,312)
期末	14,936	1,131,599	(229,895)	(2,005)	914,635

< 第184 (前) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分	売買目的 金融資産	売却可能 金融資産	純デリバティブ	当期損益認識 指定金融負債	合計
期首	-	1,079,981	44,513	(3,085)	1,121,409
総損益					
当期損益認識金額(注1)	(246)	59,561	(89,761)	6	(30,440)
その他包括損益認識金額	-	(85,337)	-	-	(85,337)
購入/発行	50,000	216,251	2,050	(179)	268,122
決済	-	(292,969)	(18,542)	291	(311,220)
レベル3への移動(注2)	-	1,397	-	-	1,397
レベル3からの移動(注2)	-	(64,896)	(61)	-	(64,957)
期末	49,754	913,988	(61,801)	(2,967)	898,974

(注1) 当期及び前期に公正価値レベル3に分類された金融商品の増減内訳のうち、当期損益として認識された金額及び報告期間末現在、保有している金融商品に関連する当期損益認識額は包括損益計算書上、以下のような個別項目で表示されています。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期		第184(前)期	
	当期損益 認識金額	報告期間末 保有金融商品 に関連する 当期損益認識額	当期損益 認識金額	報告期間末 保有金融商品 に関連する 当期損益認識額
売買目的金融商品関連損益	(877)	(993)	(368)	(368)
当期損益認識指定金融商品関連損益	(5)	(5)	6	6
売却可能金融資産処分損益	22,042	483	123,215	-
金融商品資産減損損失	(8,572)	(7,914)	(63,654)	(61,007)
その他営業損益	(187,224)	(187,224)	(89,639)	(89,639)
合計	(174,636)	(195,653)	(30,440)	(151,008)

(注2) 当該金融商品に対する観測可能な市場資料の利用可能性が変更されたことによりレベル間の移動が発生しました。連結実体はレベル間移動が発生させる事象や状況の変動が発生した報告期間末にレベルの変動を認識します。

## 4) 公正価値の評価手法及び投入変数

当期末及び前期末現在、公正価値レベル2に分類された金融商品の公正価値の測定時に使用された評価手法と投入変数及び帳簿価額は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第185(当)期	第184(前)期	評価方法	投入変数
売買目的 金融資産	債務証券	7,871,486	6,926,357	キャッシュ・フロー 割引モデル	割引率
	持分証券	1,600,440	700,277	純資産価値評価	株式、債券等の 基礎資産の価格
	小計	9,471,926	7,626,634		
デリバティブ 資産	売買目的	2,533,182	1,554,306	オプションモデル	割引率、為替レート、 変動性、株価及び 商品指数等
	リスクヘッジ目的	12,904	27,625	キャッシュ・フロー 割引モデル	
	小計	2,546,086	1,581,931		
売却可能 金融資産	債務証券	18,722,330	14,122,880	キャッシュ・フロー 割引モデル	割引率
	持分証券	746,595	422,339	純資産価値評価	株式、債券等の 基礎資産の価格
	小計	19,468,925	14,545,219		
金融資産合計		31,486,937	23,753,784		
当期損益 認識指定 金融負債	預金	4,277	10,542	オプションモデル	割引率、変動性、 株価指数
デリバティブ 負債	売買目的	2,444,794	1,441,241	オプションモデル	割引率、為替レート、 変動性、株価及び 商品指数等
	リスクヘッジ目的	77,668	34,803	キャッシュ・フロー	
	小計	2,522,462	1,476,044	割引モデル	
金融負債合計		2,526,739	1,486,586		

当期末及び前期末現在において公正価値レベル3に分類された金融商品の公正価値測定時に使用された評価手法及び重要であるが観測不可能な投入変数は以下の通りです。

< 第185 ( 当 ) 期 >

( 単位 : 百万ウォン )

金融商品種類	価値評価手法	種類	帳簿価額	重要であるが、観測できない投入変数	範囲
売買目的金融資産	オプションモデル ( 注 )	利率関連	14,936	基礎資産の変動性 相関係数	36.30% 69.90%
デリバティブ資産	オプションモデル ( 注 )	株式及び為替レート関連	22,723	基礎資産の変動性 相関係数	13.10% ~ 21.99% ( 19.03% )
	オプションモデル ( 注 )	利率関連	10,312	基礎資産の変動性 回帰係数 相関係数	0.54% ~ 0.87% 0.02% ~ 2.05% 61.01%
	小計		33,035		
売却可能金融資産	割引されたキャッシュ・フロー	持分証券	1,131,599	割引率 成長率	1.73% ~ 18.49% 0.00%
資産合計			1,179,570		
当期損益認識指定金融負債	オプションモデル ( 注 )	株式関連	2,005	基礎資産の変動性 相関係数	15.97% ~ 29.44% ( 1.80% ) ~ 61.10%
デリバティブ負債	オプションモデル ( 注 )	株式及び為替レート関連	1,156	基礎資産の変動性 相関係数	19.90% ~ 33.69% ( 19.03% ) ~ 61.10%
	オプションモデル ( 注 )	利率関連	261,774	基礎資産の変動性 回帰係数 相関係数	0.51% ~ 0.87% 0.02% ~ 3.02% 42.93% ~ 61.01%
	小計		262,930		
負債合計			264,935		

( 注 ) デリバティブ公正価値を測定するために適用されたオプションモデルはブラックショールズモデル、ハルホワイトモデル等を含めており、商品類型によって一部商品に対してはモンテカルロシミュレーション ( Monte Carlo simulation ) 等の方法を適用しています。

< 第184 (前) 期 >

(単位：百万ウォン)

金融商品 種類	価値評価手法	種類	帳簿価額	重要であるが、観測で きない投入変数	範囲
売買目的 金融資産	オプションモデル(注)	利率関連	49,754	基礎資産の変動性 相関係数	24.90% 75.25%
デリバティブ 資産	オプションモデル(注)	株式及び 為替レート関連	2,346	基礎資産の変動性 相関係数	6.75%~34.62% 0.87%
	オプションモデル(注)	利率関連	33,241	基礎資産の変動性 回帰係数 相関係数	0.44%~0.65% 0.02%~2.05% 49.53%~94.60%
	小計		35,587		
売却可能 金融資産	割引された キャッシュ・フロー	持分証券	913,988	割引率 成長率	1.72%~20.65% 0.00%~2.50%
資産合計			999,329		
当期損益認識 指定金融負債	オプションモデル (注)	株式関連	2,967	基礎資産の変動性 相関係数	22.20%~28.48% 15.43%~52.70%
デリバティブ 負債	オプションモデル (注)	株式及び為替 レート関連	64	基礎資産の変動性 相関係数	10.20%~34.62% 0.87%~52.70%
	オプションモデル (注)	利率関連	97,324	基礎資産の変動性 回帰係数 相関係数	0.16%~0.65% 0.02%~2.04% 31.38%~94.60%
	小計		97,388		
負債合計			100,355		

(注) デリバティブ公正価値を測定するために適用されたオプションモデルはブラックショールズモデル、ハルホワイトモデル等を含めており、商品類型によって一部商品に対してはモンテカルロシミュレーション(Monte Carlo simulation)等の方法を適用しています。

## 5) 観測不可能な投入変数の変更に対する感応度

当期末及び前期末現在、レベル3に分類された金融商品の公正価値の測定時に観測不可能な投入変数を合理的に代替可能な他の投入変数に変更する場合、当期損益またはその他包括損益等として認識される変動の効果は以下の通りです。

<第185(当)期>

(単位：百万ウォン)

金融商品の種類		当期損益		その他包括損益	
		有利な変動	不利な変動	有利な変動	不利な変動
デリバティブ資産(注1)	株式及び為替レート関連	1,652	(1,039)	-	-
	利率関連	1,397	(1,488)	-	-
売却可能金融資産(注2)	持分証券	-	-	12,673	(6,531)
資産合計		3,049	(2,527)	12,673	(6,531)
当期損益認識指定金融負債(注1)	株式関連	1	(1)	-	-
デリバティブ負債(注1)	株式及び為替レート関連	59	(68)	-	-
	利率関連	8,211	(9,424)	-	-
負債合計		8,271	(9,493)	-	-

(注1) 主な観測不可能な投入変数の基礎資産の変動性または相関係数等を10%増加または減少させることにより、公正価値の変動を算出しています。

(注2) 主な観測不可能な投入変数の成長率(0%~1%)及び割引率(-1%~1%)を増加または減少させることにより、公正価値の変動を算出しています。

< 第184 (前) 期 >

(単位：百万ウォン)

金融商品の種類		当期損益		その他包括損益	
		有利な変動	不利な変動	有利な変動	不利な変動
売買目的金融資産(注1)	利率関連	11	(45)	-	-
デリバティブ資産(注1)	株式及び 為替レート関連	1,118	(719)	-	-
	利率関連	1,293	(5,100)	-	-
売却可能金融資産(注2)	持分証券	-	-	24,001	(6,839)
資産合計		2,422	(5,864)	24,001	(6,839)
当期損益認識指定 金融負債(注1)	株式関連	4	(4)	-	-
デリバティブ負債(注1)	株式及び 為替レート関連	11	(9)	-	-
	利率関連	4,218	(14,421)	-	-
負債合計		4,233	(14,434)	-	-

(注1) 主な観測不可能な投入変数の基礎資産の変動性または相関係数等を10%増加または減少させることにより、公正価値の変動を算出しています。

(注2) 主な観測不可能な投入変数の成長率(0%~1%)及び割引率(-1%~1%)を増加または減少させることにより、公正価値の変動を算出しています。

(2) 償却後原価で測定する金融商品

1) 償却後原価で測定する金融商品の公正価値算出方法は以下の通りです。

勘定科目	公正価値算出方法
現金預け金	現金は帳簿価額及び公正価値が同一で、預け金は変動利率預け金及び超短期性である翌日預け金はその大部分であるため、公正価値の代用値として帳簿価額を使用しました。
貸付債権	貸付債権の公正価値は受け取るものと予想される期待キャッシュ・フローを市場利子率及び借主の信用リスク等を考慮した割引率で割り引いて算出しました。
満期保有 金融資産	韓国資産評価(株)、KIS債権評価(株)が提供する最近取引日の基準単価のうち、いずれか低い金額を公正価値として算出しました。
預金及び 借入負債	要求払預金、手形管理口座受託金、コールマネーは超短期性負債として、帳簿価額を公正価値として評価しています。残りの預金及び借入負債は、契約上のキャッシュ・フローを市場利子率に残余リスクを考慮した割引率で割り引いた現在価値を公正価値として算出しました。
社債	活発な市場価格に基づいています。活発な市場価格が有効ではない場合は、契約上のキャッシュ・フローを市場利子率に残余リスクを考慮した割引率で割り引いた現在価値を公正価値として算出しました。

2) 当期末及び前期末現在、償却後原価で測定する金融商品の帳簿価額及び公正価値は以下の通りです。

&lt; 第185 (当) 期 &gt;

(単位：百万ウォン)

勘定科目		帳簿価額				公正価値
		残高	未償却残高	引当金	合計	
現金 預け金	現金	1,763,335	-	-	1,763,335	1,763,335
	預け金	12,721,790	-	(15,738)	12,706,052	12,706,052
	小計	14,485,125	-	(15,738)	14,469,387	14,469,387
貸付 債権	家計貸付	97,305,741	318,034	(286,220)	97,337,555	98,218,214
	企業貸付	116,475,754	57,587	(1,153,613)	115,379,728	116,028,276
	公共及び その他資金貸付	2,092,423	1,200	(7,683)	2,085,940	2,096,380
	銀行間資金貸付	4,625,545	-	(7,653)	4,617,892	4,612,515
	カード債権	18,281	-	(715)	17,566	18,202
	小計	220,517,744	376,821	(1,455,884)	219,438,681	220,973,587
満期保有金 融資産	国公債	6,826,115	-	-	6,826,115	7,003,549
	金融債	891,397	-	-	891,397	895,570
	社債	3,912,758	-	-	3,912,758	3,939,728
	小計	11,630,270	-	-	11,630,270	11,838,847
その他金融資産		12,015,126	(31,708)	(25,896)	11,957,522	11,979,492
資産合計		258,648,265	345,113	(1,497,518)	257,495,860	259,261,313
預金	要求払預金	92,650,456	-	-	92,650,456	92,650,456
	期限付預金	122,858,599	-	-	122,858,599	122,864,014
	譲渡性預金証書	6,319,914	-	-	6,319,914	6,343,094
	発行手形預金	4,581,276	-	-	4,581,276	4,581,110
	手形管理口座受託金	2,473,048	-	-	2,473,048	2,473,048
	その他	26,799	-	-	26,799	26,800
	小計	228,910,092	-	-	228,910,092	228,938,522
借入 負債	コールマネー	807,268	-	-	807,268	807,268
	売渡手形	12,427	-	-	12,427	12,407
	買戻条件付売渡債券	578,108	-	-	578,108	578,108
	借入負債	12,917,249	(723)	-	12,916,526	12,933,129
	外貨受託金	-	-	-	-	-
	小計	14,315,052	(723)	-	14,314,329	14,330,912
社債	ウォン貨社債	17,259,843	(19,599)	-	17,240,244	17,307,246
	外貨社債	4,355,366	(17,180)	-	4,338,186	4,345,499
	小計	21,615,209	(36,779)	-	21,578,430	21,652,745

その他金融負債	12,708,705	(2,404)	-	12,706,301	12,683,889
負債合計	277,549,058	(39,906)	-	277,509,152	277,606,068

< 第184 (前) 期 >

(単位：百万ウォン)

勘定科目		帳簿価額				公正価値
		残高	未償却残高	引当金	合計	
現金 預け金	現金	1,900,980	-	-	1,900,980	1,900,980
	預け金	15,003,242	-	(12,836)	14,990,406	14,990,406
	小計	16,904,222	-	(12,836)	16,891,386	16,891,386
貸付 債権	家計貸付	90,426,301	292,165	(247,741)	90,470,725	91,752,196
	企業貸付	113,635,229	48,343	(1,204,355)	112,479,217	113,455,688
	公共及び その他資金貸付	2,129,768	2,176	(7,961)	2,123,983	2,132,915
	銀行間資金貸付	4,566,712	-	(9,899)	4,556,813	4,568,637
	カード債権	21,307	-	(562)	20,745	20,745
	小計	210,779,317	342,684	(1,470,518)	209,651,483	211,930,181
満期保有金 融資産	国公債	5,731,934	-	-	5,731,934	6,007,460
	金融債	524,855	-	-	524,855	534,186
	社債	3,848,262	-	-	3,848,262	3,917,994
	小計	10,105,051	-	-	10,105,051	10,459,640
その他金融資産		9,785,793	(41,561)	(41,750)	9,702,482	9,735,470
資産合計		247,574,383	301,123	(1,525,104)	246,350,402	249,016,677
預金	要求払預金	82,731,920	-	-	82,731,920	82,731,920
	期限付預金	120,562,491	-	-	120,562,491	120,772,773
	譲渡性預金証書	4,351,326	-	-	4,351,326	4,368,540
	発行手形預金	3,018,551	-	-	3,018,551	3,018,428
	手形管理口座受託金	2,280,816	-	-	2,280,816	2,280,816
	その他	30,088	-	-	30,088	30,092
	小計	212,975,192	-	-	212,975,192	213,202,569
借入 負債	コールマネー	268,114	-	-	268,114	268,114
	売渡手形	24,245	-	-	24,245	24,198
	買戻条件付売渡債券	518,574	-	-	518,574	518,574
	借入負債	12,117,420	(1,684)	-	12,115,736	12,158,679
	外貨受託金	71,810	-	-	71,810	71,840
	小計	13,000,163	(1,684)	-	12,998,479	13,041,405

社債	ウォン貨社債	16,125,059	(31,794)	-	16,093,265	16,384,034
	外貨社債	3,938,091	(10,806)	-	3,927,285	3,970,791
	小計	20,063,150	(42,600)	-	20,020,550	20,354,825
その他金融負債		15,460,006	(2,651)	-	15,457,355	15,435,380
負債合計		261,498,511	(46,935)	-	261,451,576	262,034,179

3) 当期末及び前期末現在において財務状態表で公正価値で測定されないが、公正価値で開示される金融資産負債の評価レベル別の公正価値の内訳は以下の通りです。

< 第185 (当) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分		レベル1	レベル2	レベル3	合計
現金 預け金	現金	1,763,335	-	-	1,763,335
	預け金	-	12,706,052	-	12,706,052
	小計	1,763,335	12,706,052	-	14,469,387
貸付 債権	家計貸付	-	-	98,218,214	98,218,214
	企業貸付	-	-	116,028,276	116,028,276
	公共及びその他資金貸付	-	-	2,096,380	2,096,380
	銀行間資金貸付	-	2,020,837	2,591,678	4,612,515
	カード債権	-	-	18,202	18,202
	小計	-	2,020,837	218,952,750	220,973,587
満期保有 金融資産	国公債	2,017,133	4,986,416	-	7,003,549
	金融債	600,846	294,724	-	895,570
	社債	-	3,939,728	-	3,939,728
	小計	2,617,979	9,220,868	-	11,838,847
その他金融資産		-	9,882,608	2,096,884	11,979,492
資産合計		4,381,314	33,830,365	221,049,634	259,261,313
預金	要求払預金	-	92,650,456	-	92,650,456
	期限付預金	-	-	122,864,014	122,864,014
	譲渡性預金証書	-	-	6,343,094	6,343,094
	発行手形預金	-	-	4,581,110	4,581,110
	手形管理口座受託金	-	2,473,048	-	2,473,048
	その他	-	-	26,800	26,800
	小計	-	95,123,504	133,815,018	228,938,522

借入 負債	コールマネー	-	807,268	-	807,268
	売渡手形	-	-	12,407	12,407
	買戻条件付売渡債券	-	-	578,108	578,108
	借入負債	-	-	12,933,129	12,933,129
	外貨受託金	-	-	-	-
	小計	-	807,268	13,523,644	14,330,912
社債	ウォン貨社債	-	14,867,524	2,439,722	17,307,246
	外貨社債	-	4,345,499	-	4,345,499
	小計	-	19,213,023	2,439,722	21,652,745
その他金融負債		-	4,741,882	7,942,007	12,683,889
負債合計		-	119,885,677	157,720,391	277,606,068

&lt; 第184 (前) 期 &gt;

(単位：百万ウォン)

区分		レベル1	レベル2	レベル3	合計
現金 預け金	現金	1,900,980	-	-	1,900,980
	預け金	-	14,990,406	-	14,990,406
	小計	1,900,980	14,990,406	-	16,891,386
貸付債権	家計貸付	-	-	91,752,196	91,752,196
	企業貸付	-	-	113,455,688	113,455,688
	公共及びその他資金貸付	-	-	2,132,915	2,132,915
	銀行間資金貸付	-	1,577,960	2,990,677	4,568,637
	カード債権	-	-	20,745	20,745
	小計	-	1,577,960	210,352,221	211,930,181
満期保有 金融資産	国公債	2,131,592	3,875,868	-	6,007,460
	金融債	102,921	431,265	-	534,186
	社債	-	3,917,994	-	3,917,994
	小計	2,234,513	8,225,127	-	10,459,640
その他金融資産		-	7,669,815	2,065,655	9,735,470
資産合計		4,135,493	32,463,308	212,417,876	249,016,677

預金	要求払預金	-	82,731,920	-	82,731,920
	期限付預金	-	-	120,772,773	120,772,773
	譲渡性預金証書	-	-	4,368,540	4,368,540
	発行手形預金	-	-	3,018,428	3,018,428
	手形管理口座受託金	-	2,280,816	-	2,280,816
	その他	-	-	30,092	30,092
	小計	-	85,012,736	128,189,833	213,202,569
借入負債	コールマネー	-	268,114	-	268,114
	売渡手形	-	-	24,198	24,198
	買戻条件付売渡債券	-	-	518,574	518,574
	借入負債	-	-	12,158,679	12,158,679
	外貨受託金	-	-	71,840	71,840
	小計	-	268,114	12,773,291	13,041,405
社債	ウォン貨社債	-	14,021,649	2,362,385	16,384,034
	外貨社債	-	3,970,791	-	3,970,791
	小計	-	17,992,440	2,362,385	20,354,825
その他金融負債		-	7,488,937	7,946,443	15,435,380
負債合計		-	110,762,227	151,271,952	262,034,179

4) 当期末及び前期末現在、公正価値の開示のために使用された評価手法及び投入変数は以下の通りです。

< 第185 (当) 期 >

(単位：百万ウォン)

公正価値レベル	区分	公正価値(注)	評価モデル	投入変数
レベル2	満期保有金融資産	9,220,868	キャッシュ・フロー 割引モデル	割引率
レベル3	貸付債権	218,952,750		割引率、信用スプレッド、 早期償還率
	その他金融資産	2,096,884		割引率
資産合計		230,270,502		
レベル2	社債	19,213,023	キャッシュ・フロー 割引モデル	割引率
レベル3	預金(注)	133,251,903		割引率
	借入負債(注)	7,783,129		割引率
	社債	2,439,722		割引率、回帰係数、相関係数
	その他金融負債	7,942,007		割引率

負債合計	170,629,784		
------	-------------	--	--

< 第184 (前) 期 >

(単位：百万ウォン)

公正価値レベル	区分	公正価値(注)	評価モデル	投入変数
レベル2	満期保有金融資産	8,225,127	キャッシュ・フロー 割引モデル	割引率
レベル3	貸付債権	210,352,221		割引率、信用スプレッド、 早期償還率
	その他金融資産	2,065,655		割引率
資産合計		220,643,003		
レベル2	社債	17,992,440	キャッシュ・フロー 割引モデル	割引率
レベル3	預金(注)	127,455,894		割引率
	借入負債(注)	7,611,260		割引率
	社債	2,362,385		割引率、回帰係数、相関係数
	その他金融負債	7,946,443		割引率
負債合計		163,368,422		

(注) 帳簿価額を公正価値の合理的な近似値とみなして帳簿価額を公正価値として開示した項目に関連する評価手法及び投入変数は開示していません。

(3) 当期及び前期において公正価値で測定される金融商品の当初認識時に発生した取引当日(day1)損益の変動内訳は以下の通りです。

< 第185 (当) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分	期首	繰延	償却	期末
当期損益認識指定金融負債	(39)	-	27	(12)
株式スワップ	38	-	(26)	12

< 第184 (前) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分	期首	繰延	償却	期末
当期損益認識指定金融負債	(64)	(8)	33	(39)
株式スワップ	63	-	(25)	38

## (4) 金融商品のカテゴリー別分類

金融資産及び金融負債は公正価値または償却後原価で測定されます。金融商品のカテゴリー別帳簿価額の詳細な測定方法は注記2で説明しています。当期末及び前期末現在における各金融資産及び金融負債のカテゴリー別帳簿価額は以下の通りです。

&lt; 第185(当)期 &gt;

(単位：百万ウォン)

金融資産	売買目的 金融資産	売却可能 金融資産	満期保有 金融資産	貸付金及び 受取債権	リスクヘッジ デリバティブ資産	合計
預け金	-	-	-	12,706,052	-	12,706,052
売買目的金融資産	11,270,758	-	-	-	-	11,270,758
デリバティブ資産	2,558,552	-	-	-	20,569	2,579,121
貸付債権	-	-	-	219,438,681	-	219,438,681
売却可能金融資産	-	27,814,583	-	-	-	27,814,583
満期保有金融資産	-	-	11,630,270	-	-	11,630,270
その他金融資産	-	-	-	11,957,522	-	11,957,522
合計	13,829,310	27,814,583	11,630,270	244,102,255	20,569	297,396,987

(単位：百万ウォン)

金融負債	当期損益認識金融負債		償却後原価 測定金融負債	リスクヘッジ デリバティブ負債	合計
	売買目的 金融負債	当期損益認識指 定金融負債			
預金	-	-	228,910,092	-	228,910,092
売買目的金融負債	485,995	-	-	-	485,995
当期損益認識指定 金融負債	-	6,282	-	-	6,282
デリバティブ負債	2,448,597	-	-	336,795	2,785,392
借入負債	-	-	14,314,329	-	14,314,329
社債	-	-	21,578,430	-	21,578,430
その他金融負債	-	-	12,706,301	-	12,706,301
合計	2,934,592	6,282	277,509,152	336,795	280,786,821

&lt; 第184 (前) 期 &gt;

(単位：百万ウォン)

金融資産	売買目的 金融資産	売却可能 金融資産	満期保有 金融資産	貸付金及び 受取債権	リスクヘッジ デリバティブ資産	合計
預け金	-	-	-	14,990,406	-	14,990,406
売買目的金融資産	9,056,812	-	-	-	-	9,056,812
デリバティブ資産	1,561,995	-	-	-	55,523	1,617,518
貸付債権	-	-	-	209,651,483	-	209,651,483
売却可能金融資産	-	24,460,599	-	-	-	24,460,599
満期保有金融資産	-	-	10,105,051	-	-	10,105,051
その他金融資産	-	-	-	9,702,482	-	9,702,482
合計	10,618,807	24,460,599	10,105,051	234,344,371	55,523	279,584,351

(単位：百万ウォン)

金融負債	当期損益認識金融負債		償却後原価 測定金融負債	リスクヘッジ デリバティブ負債	合計
	売買目的 金融負債	当期損益認識指 定金融負債			
預金	-	-	212,975,192	-	212,975,192
売買目的金融負債	463,766	-	-	-	463,766
当期損益認識 指定金融負債	-	13,509	-	-	13,509
デリバティブ負債	1,446,657	-	-	126,775	1,573,432
借入負債	-	-	12,998,479	-	12,998,479
社債	-	-	20,020,550	-	20,020,550
その他金融負債	-	-	15,457,355	-	15,457,355
合計	1,910,423	13,509	261,451,576	126,775	263,502,283

## (5) 金融収益及び金融費用

当期及び前期における金融収益及び金融費用の詳細内訳は以下の通りです。

## &lt; 第185 (当) 期 &gt;

(単位：百万ウォン)

区分	受取利息 (支払利息)	受取手数料	減損損失	その他	合計	その他 包括損益
売買目的金融資産	168,205	6,782	-	(10,911)	164,076	-
売却可能金融資産	454,557	-	(82,103)	502,541	874,995	(320,496)
満期保有金融資産	324,128	-	-	-	324,128	-
貸付金及び受取債権	6,749,311	234,039	(656,433)	20,576	6,347,493	-
売買目的金融負債	-	72	-	-	72	-
当期損益認識指定 金融負債	-	-	-	(206)	(206)	-
償却後原価測定金融負債	(3,192,080)	120	-	240,602	(2,951,358)	(59,168)
純リスクヘッジ デリバティブ	-	-	-	(250,133)	(250,133)	4,775
合計	4,504,121	241,013	(738,536)	502,469	4,509,067	(374,889)

## &lt; 第184 (前) 期 &gt;

(単位：百万ウォン)

区分	受取利息 (支払利息)	受取手数料 (支払手数料)	減損損失	その他	合計	その他 包括損益
売買目的金融資産	162,624	5,855	-	170,001	338,480	-
売却可能金融資産	485,026	-	(206,570)	569,508	847,964	(317,763)
満期保有金融資産	318,940	-	-	-	318,940	-
貸付金及び受取債権	6,682,902	170,823	(592,845)	98,054	6,358,934	-
売買目的金融負債	-	(6)	-	-	(6)	-
当期損益認識指定 金融負債	-	-	-	(16)	(16)	-
償却後原価測定金融負債	(3,484,777)	(5)	-	141,029	(3,343,753)	(31,497)
純リスクヘッジ デリバティブ	-	-	-	(139,184)	(139,184)	(2,368)
合計	4,164,715	176,667	(799,415)	839,392	4,381,359	(351,628)

### 3-5. 資本リスク管理

銀行に対する自己資本規制制度は、1980年代の金融規制緩和による金融機関のリスク増加により、銀行の健全性を確保し、預金者保護及び国際金融秩序の安定性を確保するために、BIS加盟国を中心に1988年に導入されました。当初のBasel規制の導入以降、規制自己資本の要求量が銀行の保有リスクをより効率的に反映できる方向に発展してきました。Basel委員会（BCBS）はグローバル金融危機以降、銀行システムの復元力強化のためにBasel III基準を設けて発表し、韓国は銀行業監督規定の改正を通じて2013年12月1日から従来よりも強化した資本規制であるBasel IIIを施行しています。同基準は連結実体を含めた国内銀行が普通株資本比率、基本資本比率、総自己資本比率に対して施行日から段階的にそれぞれ一定比率以上を維持することを義務付けており、連結実体は国内銀行の監督機構である金融監督院に銀行に関連する法規による自己資本比率の遵守しているかを報告しています。

上記の監督法規により、連結実体が管理する規制資本は以下の2つに分類されます。

#### 1) Tier 1 capital（基本資本：普通株資本＋その他基本資本）

普通株資本：銀行の損失を最も先に補填することができ、銀行清算時の最劣後で、清算時を除いては償還されない資本である。普通株、資本剰余金、利益剰余金（貸倒準備金を除く）、その他包括損益累計額、その他資本剰余金、資本調整、銀行の従属企業の非支配株主持分の一部金額等を含みます。

その他基本資本：永久的な性格の認定要件を満たす資本証券及びこれに関連する資本剰余金、従属企業が発行したその他基本資本の外部投資家の保有金額のうち一部金額等を含みます。

#### 2) Tier 2 capital（補完資本）

清算時に銀行の損失を補填することができる認定要件を満たす資本証券及びこれに関連する資本剰余金、従属企業が発行した補完資本の外部投資家の保有金額のうち一部金額等を含みます。

連結実体は、自己資本（上記の基本資本と補完資本の合計から控除項目を減算した金額）をリスク加重資産で除して自己資本比率を算出します。リスク加重資産（risk weighted assets）は、銀行の実質的なリスクを反映するために、リスクにさらされている程度が高いほどに、高い加重値を適用して算出し、信用リスク加重資産、運営リスク加重資産及び市場リスク加重資産の合計で構成されます。

連結実体は、別途の内部基準を通じて資本適正性を評価及び管理しています。資本適正性の評価は、経済的資本（エクスポージャー額別に内在されたリスクに備えるために銀行が保有すべき実質的な必要資本量として、銀行内部のリスク認識及び評価基準により算出されたリスク量）に比べて可用資本（銀行の実際の損失発生時に損失処理に引き当てられる資本）の水準が適切であるかどうかを銀行内部的に評価することを意味します。連結実体はリスクの種類別（信用、市場、運営、金利、流動性、偏重リスク）に算出されたリスクの合算金額及び各類型別金額を管理します。

連結実体は、リスク加重資産に対する自己資本比率を連結財務諸表に基づいて算出、管理しており、当期末及び前期末における自己資本比率は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第185(当)期	第184(前)期	
総自己資本	Tier 1	普通株資本	19,913,369	17,324,193
		その他基本資本	472,121	805,603
		基本資本	20,385,490	18,129,796
	Tier 2	補完資本	3,953,215	3,240,443
		合計	24,338,705	21,370,239
総リスク加重資産		155,027,378	144,843,681	
総自己資本比率	Tier 1	普通株資本比率	12.85%	11.96%
		基本資本比率	13.15%	12.52%
	Tier 2	補完資本比率	2.55%	2.24%
		合計	15.70%	14.75%

連結実体は上表のように、資本適正性基準(総自己資本比率8.0%以上、基本資本比率6.0%以上、普通株資本比率4.5%以上)を遵守しています。

## 3-6. 金融商品の譲渡取引

## (1) 認識の中止条件が充足されていない金融商品

## 1) 買戻条件付売渡債券

当期末及び前期末現在において買戻条件付売渡債券のうち連結実体が保有有価証券を確定価格で再買入することを条件として売却し、認識の中止条件が充足されていない金融商品の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第185(当)期	第184(前)期
譲渡資産	売却可能金融資産	223,790	140,380
	満期保有金融資産	489,204	497,786
	小計	712,994	638,166
関連負債	買戻条件付売渡債券	578,108	518,574

## 2) 有価証券の貸借取引

連結実体が保有している有価証券を貸し付ける場合、有価証券の所有権は移転されるものの、貸付期間満了時に当該有価証券を返還しなければならないため、連結実体は当該有価証券のリスク及び経済価値の大部分を保有することによって貸付有価証券の全体を継続して認識しています。当期末及び前期末現在における貸付有価証券の帳簿価額は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期	貸付先
国公債	40,186	29,788	韓国証券金融
金融債	260,014	130,019	韓国証券金融、韓国預託決済院
合計	300,200	159,807	

## (2) 認識の中止条件を充足するが、継続的に関与する金融商品

当期末及び前期末現在において認識の中止条件を充足するものの、連結実体が継続的に関与する金融商品はありません。

## 3-7. 金融商品の相殺

当期末及び前期末現在において実行可能な一括相殺約定またはこれに類似する約定の適用を受ける金融商品の内訳は以下の通りです。

< 第185 (当) 期 >

(単位：百万ウォン)

金融資産	認識された 金融資産 総額	相殺される 認識された 金融負債 総額	連結財務状態表に 表示される 金融資産純額	連結財務状態表で 相殺されていない関連金額		純額
				金融商品	受け取った 現金担保	
デリバティブ資産(注1)	2,569,683	-	2,569,683	4,950,273	287,143	1,378,112
その他金融資産(注1)	4,045,845	-	4,045,845			
買戻条件付売渡担保 有価証券(注2)	712,994	-	712,994	578,108	-	134,886
買戻条件付買入 (貸付債権)(注2)	3,475,156	-	3,475,156	3,475,156	-	-
貸付有価証券(注2)	300,200	-	300,200	300,200	-	-
未回収内国為替債権(注3)	30,365,320	24,299,035	6,066,285	-	-	6,066,285
証券未収金等(注4)	1,891	494	1,397	-	-	1,397
合計	41,471,089	24,299,529	17,171,560	9,303,737	287,143	7,580,680

(単位：百万ウォン)

金融負債	認識された 金融負債 総額	相殺される 認識された 金融資産 総額	連結財務状態表に 表示される 金融負債純額	連結財務状態表で 相殺されていない関連金額		純額
				金融商品	提供した 現金担保	
デリバティブ負債(注1)	2,774,650	-	2,774,650	4,950,273	467,195	1,011,154
その他金融負債(注1)	3,653,972	-	3,653,972			
買戻条件付売渡 (借入負債)(注2)	578,108	-	578,108	578,108	-	-
売渡有価証券	-	-	-	-	-	-
未払内国為替債務(注3)	25,219,267	24,299,035	920,232	920,232	-	-
証券未払金等(注4)	499	494	5	5	-	-
合計	32,226,496	24,299,529	7,926,967	6,448,618	467,195	1,011,154

&lt; 第184 (前) 期 &gt;

(単位：百万ウォン)

金融資産	認識された 金融資産 総額	相殺される 認識された 金融負債 総額	連結財務状態表に 表示される 金融資産純額	連結財務状態表で 相殺されていない関連金額		純額
				金融商品	受け取った 現金担保	
デリバティブ資産(注1)	1,603,275	-	1,603,275	6,182,907	-	885,031
その他金融資産(注1)	5,464,663	-	5,464,663			
買戻条件付売渡担保 有価証券(注2)	638,166	-	638,166	518,574	-	119,592
買戻条件付買入 (貸付債権)(注2)	5,279,170	-	5,279,170	5,279,170	-	-
貸付有価証券(注2)	159,807	-	159,807	159,807	-	-
未回収内国為替債権(注3)	27,204,105	24,896,522	2,307,583	-	-	2,307,583
証券未収金等(注4)	2,117	523	1,594	-	-	1,594
合計	40,351,303	24,897,045	15,454,258	12,140,458	-	3,313,800

(単位：百万ウォン)

金融負債	認識された 金融負債 総額	相殺される 認識された 金融資産 総額	連結財務状態表に 表示される 金融負債純額	連結財務状態表で 相殺されていない関連金額		純額
				金融商品	提供した 現金担保	
デリバティブ負債(注1)	1,566,718	-	1,566,718	6,205,671	-	506,161
その他金融負債(注1)	5,145,114	-	5,145,114			
買戻条件付売渡 (借入負債)(注2)	518,574	-	518,574	518,574	-	-
売渡有価証券	10,161	-	10,161	10,161	-	-
未払内国為替債務(注3)	27,022,554	24,896,522	2,126,032	2,126,032	-	-
証券未払金等(注4)	575	523	52	47	-	5
合計	34,263,696	24,897,045	9,366,651	8,860,485	-	506,166

(注1) 当行及び各従属企業の店頭デリバティブの一部はISDA(International Derivatives Swaps and Dealers Association)一括相殺約定によって取引が行われています。同約定によると、取引相手の不渡のような信用事件発生時に当該取引相手との全てのデリバティブ取引が解約され、解約時点で取引当事者が各取引別に支払われるか、或いは支払われるべき金額を互いに相殺して単一金額を一方が他の取引相手に支払うこととなります。

(注2) 買戻(売戻)条件付売買取引及び有価証券貸借取引等もISDA一括相殺約定と類似する相殺約定の適用を受けています。

- (注3) 銀行間の内国為替取引による債権及び債務を処理する勘定で法的相殺権利を保有して純額で決済しているため、財務状態表に純額で表示しています。
- (注4) 市場内で取引される上場株式の決済による債権及び債務を処理する勘定で法的相殺権利を保有して純額で決済しているため、財務状態表に純額で表示しています。当期末の金額の場合には、中央清算所制度による店頭デリバティブの市場内決済による関連債権と債務の相殺金額が含まれています。

[次へ](#)

#### 4. 重要な会計見積及び判断

連結実体は連結財務諸表を作成するにあたって将来に対する見積及び仮定に対する判断を行っています。このような見積及び判断は継続的に評価され、過去の経験及び現在の状況で合理的に予測可能な将来の事象のような他の要素を考慮して行われます。このように算出された会計見積値は実際の発生結果と一致しないこともあります。報告期間末現在、計上された資産及び負債の帳簿価額を重要に変動させる重要なリスクを含む会計見積及び仮定に対する判断は以下の通りです。

##### (1) 法人税

連結実体は複数の他国家法人税の適用を受けています。通常の営業過程で最終税金価額の決定を不確定とするいくつかの種類の取引及び計算方式が存在します。連結実体は報告期間末現在までの営業活動の結果として将来に負担すると予想される税効果を、最善の見積過程を経て当期法人税及び繰延税金として認識しました。しかし、実際の将来の最終法人税負担額は認識した関連資産・負債と一致しないこともあり、このような差異は最終の税効果が確定された時点の当期法人税及び繰延税金資産・負債に影響を与えることもあります。

##### (2) 金融商品の公正価値

活発な市場で取引されない金融商品（例：店頭デリバティブ）の公正価値は評価手法を使用して決定しています。連結実体は報告期間終了日現在に主要市場状況に基づいて様々な評価手法の選択及び仮定に対する判断を行っています。連結実体は正常取引市場で取引されない様々な金融商品の公正価値を決定するために評価モデルを利用する場合、一般的な価値評価モデルから発展させた独自の評価モデルまで様々な方法を使用しますが、この際、様々な投入変数及び仮定が適用されます。

##### (3) 貸倒引当金、支払保証引当負債及び未使用約定引当負債

連結実体は貸付債権に対して減損を評価して貸倒引当金を設定し、支払保証及び未使用約定限度に対しては引当負債を設定します。このような信用損失に対する引当金は、個別評価貸倒引当金の見積のための借主別期待キャッシュ・フローの見積、集合評価貸倒引当金及び支払保証、未使用約定引当負債の見積のために使用されたモデルの仮定及び変数により決定されます。

##### (4) 確定給付債務

確定給付債務の現在価値は保険数理的方式により決定される様々な要素によって異なることとなります。年金の純費用（利益）を決定するにあたり使用される仮定は割引率を含んでおり、このような仮定の変動は確定給付債務の帳簿価額に影響を与えます。

連結実体は半期毎に適合する割引率を決定しています。このような割引率は確定給付債務の精算時に発生が予想される将来の見積現金流出額の現在価値を決定する際に使用されなければならない利率を表します。連結実体は、年金が支給される通貨で表示され、関連確定給付債務の期間と類似する満期を有する優良社債の利子

率を考慮して、適切な割引率を決定しています。確定給付債務に関連する他の主な仮定は一部、現在の市場状況に基づいています。

(5) 売却可能持分証券の減損

売却可能持分証券の公正価値が取得原価以下に著しくまたは継続的に下落する場合は、減損が発生したという客観的な証拠に該当します。これに従い、連結実体は取得原価対比で30%以上の公正価値の下落を“著しい下落”、市場性のある持分証券の市場価格が取得原価以下に下落した状態が6ヶ月以上継続する場合は“継続的な下落”とみなしています。

## 5. 事業別セグメント情報

## (1) 事業別セグメントに対する一般情報

連結実体は戦略的な営業単位である4つの報告部門を有しています。これらのセグメントは互いに異なるサービスを提供しているため、分離して管理しています。

事業別部門	一般情報
リテール部門	個人、機関、富裕層顧客に対する与信、受信、これに伴う業務
企業部門	大企業、中小企業、投資銀行に対する与信、受信、これに伴う業務
国際部門	海外営業及びこれに伴う業務
その他	資金管理、有価証券投資、その他業務と各種支援業務

## (2) 当期及び前期における事業別セグメントの経営成果は以下の通りです。

< 第185(当)期 >

(単位：百万ウォン)

区分	リテール部門	企業部門	国際部門	その他	連結調整	合計
純利息損益	2,753,459	1,110,564	365,800	274,423	(125)	4,504,121
純手数料損益	517,334	283,403	74,309	11,095	(1,643)	884,498
その他損益(注)	(2,512,298)	(642,609)	(251,063)	(41,791)	18,120	(3,429,641)
営業利益	758,495	751,358	189,046	243,727	16,352	1,958,978
営業外損益	11,448	4,544	(1,179)	71,279	(24,961)	61,131
関係企業利益 に対する持分	-	-	-	-	8,615	8,615
税引前純利益	769,943	755,902	187,867	315,006	6	2,028,724
法人税費用	(11,840)	(13,198)	(58,135)	(4,912)	(18)	(88,103)
当期純利益	758,103	742,704	129,732	310,094	(12)	1,940,621
支配企業所有持分	758,103	742,704	129,732	310,094	(377)	1,940,256
非支配持分	-	-	-	-	365	365

(注) 在外営業活動体純投資ヘッジ会計処理による損益効果が反映されました。

## &lt; 第184 (前) 期 &gt;

(単位：百万ウォン)

区分	リテール部門	企業部門	国際部門	その他	連結調整	合計
純利息損益	2,542,203	1,000,832	331,075	302,709	(12,104)	4,164,715
純手数料損益	538,758	277,769	64,178	(24,228)	(2,614)	853,863
その他損益(注)	(2,545,247)	(653,123)	(216,216)	111,909	17,825	(3,284,852)
営業利益	535,714	625,478	179,037	390,390	3,107	1,733,726
営業外損益	46,337	3,047	(293)	(14,408)	93,262	127,945
関係企業利益 に対する持分	-	-	-	-	13,399	13,399
税引前純利益	582,051	628,525	178,744	375,982	109,768	1,875,070
法人税費用	(125,255)	(135,566)	(46,793)	(78,972)	1,504	(385,082)
当期純利益	456,796	492,959	131,951	297,010	111,272	1,489,988
支配企業所有持分	456,796	492,959	131,951	297,010	110,938	1,489,654
非支配持分	-	-	-	-	334	334

(注) 在外営業活動体純投資ヘッジ会計処理による損益効果が反映されました。

(3) 当期及び前期中の、セグメント別外部顧客からの利息損益及びセグメント間の利息損益は以下の通りです。

## &lt; 第185 (当) 期 &gt;

(単位：百万ウォン)

区分	リテール部門	企業部門	国際部門	その他	連結調整	合計
外部顧客からの 利息損益	2,927,414	885,938	394,061	296,708	-	4,504,121
セグメント間 利息損益	(173,955)	224,626	(28,261)	(22,285)	(125)	-
合計	2,753,459	1,110,564	365,800	274,423	(125)	4,504,121

< 第184 (前) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分	リテール部門	企業部門	国際部門	その他	連結調整	合計
外部顧客からの 利息損益	2,637,393	857,084	343,073	327,165	-	4,164,715
セグメント間 利息損益	(95,190)	143,748	(11,998)	(24,456)	(12,104)	-
合計	2,542,203	1,000,832	331,075	302,709	(12,104)	4,164,715

(4) 地域別セグメントの財務情報

1) 当期及び前期における外部顧客からの収益の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	営業収益		営業費用		営業利益	
	第185 (当) 期	第184 (前) 期	第185 (当) 期	第184 (前) 期	第185 (当) 期	第184 (前) 期
国内	15,718,353	13,885,506	14,015,643	12,393,602	1,702,710	1,491,904
海外	953,984	771,346	697,716	529,524	256,268	241,822
合計	16,672,337	14,656,852	14,713,359	12,923,126	1,958,978	1,733,726

2) 当期末及び前期末現在における非流動資産の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185 (当) 期 (注1)	第184 (前) 期 (注1,2)
国内	2,836,507	2,944,529
海外	142,765	131,229
合計	2,979,272	3,075,758

(注1) 非流動資産は有形資産、無形資産、投資不動産で構成されています。

(注2) 当期にPT Centratama Nasional Bankの企業結合による会計処理が完了したため、前期末の金額を遡及調整しました。

## 6. 現金預け金

## (1) 現金預け金の種類別の内訳

当期末及び前期末現在における現金預け金の種類別の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第185(当)期	第184(前)期
現金		1,763,335	1,900,980
ウォン貨預け金	支払準備預け金	2,718,354	7,794,542
	その他金融機関預け金	3,767,363	2,072,672
	小計	6,485,717	9,867,214
外貨預け金	外貨他店預け金	3,784,019	3,211,601
	外貨定期預け金	2,370,700	1,858,016
	外貨その他預け金	81,354	66,411
	小計	6,236,073	5,136,028
貸倒引当金		(15,738)	(12,836)
合計		14,469,387	16,891,386

## (2) 使用制限預け金

当期末及び前期末現在において銀行法及びその他関係法令等により使用が制限されている預け金の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第185(当)期	第184(前)期	根拠法令等
ウォン貨預け金	支払準備預け金	2,718,354	7,794,542	韓国銀行法第56条
	その他金融機関預け金	3,754,358	2,050,263	韓国銀行法 第28条及び第70条等
	小計	6,472,712	9,844,805	
外貨預け金	外貨他店預け金	1,013,342	1,590,183	韓国銀行法等
	外貨定期預け金	20,545	19,924	ニューヨーク州銀行法等
	外貨その他預け金	725	687	デリバティブ関連
	小計	1,034,612	1,610,794	
合計		7,507,324	11,455,599	

7. 売買目的金融資産

当期末及び前期末現在における売買目的金融資産の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第185(当)期	第184(前)期
債務証券	国公債	1,040,648	1,098,637
	金融債	2,067,814	1,791,606
	社債	1,291,174	1,284,843
	買入手形	3,016,745	2,329,928
	CMA資産	1,793,312	1,572,270
	その他	19,851	19,884
	小計	9,229,544	8,097,168
持分証券	株式	70,097	87,176
	受益証券	1,723,272	723,248
	小計	1,793,369	810,424
金/銀預け金		247,845	149,220
合計		11,270,758	9,056,812

8. デリバティブ

## (1) 未決済約定契約金額

当期末及び前期末現在に保有しているデリバティブの未決済約定契約金額の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第185(当)期	第184(前)期	
外国為替 デリバティブ	店頭デリバティブ	通貨先渡	82,556,281	48,399,755
		通貨スワップ	27,268,230	19,384,776
		通貨オプション	1,205,825	2,420,036
		小計	111,030,336	70,204,567
	上場デリバティブ	通貨先物	70,093	67,976
合計		111,100,429	70,272,543	
金利デリバティブ	店頭デリバティブ	金利スワップ	32,028,409	38,324,278
		金利オプション	750,000	1,216,000
		小計	32,778,409	39,540,278
	上場デリバティブ	金利先物	346,947	600,539
		金利スワップ(注)	22,141,755	14,573,000
		小計	22,488,702	15,173,539
合計		55,267,111	54,713,817	
株式関連 デリバティブ	店頭デリバティブ	株式スワップ	6,509	13,871
		株式オプション	563,454	397,786
		小計	569,963	411,657
	上場デリバティブ	株式先物	2,080	18,394
	合計		572,043	430,051
商品関連 デリバティブ	店頭デリバティブ	商品スワップ及び先渡	193,066	258,621
		商品オプション	539	-
	合計		193,605	258,621
リスクヘッジ デリバティブ	公正価値リスクヘッジ	金利スワップ	7,491,505	6,874,755
	純投資リスクヘッジ	通貨先渡	241,700	234,400
	合計		7,733,205	7,109,155
合計		174,866,393	132,784,187	

(注) 中央清算取引所で決済されるデリバティブ未決済約定金額です。

## (2) 公正価値

当期末及び前期末現在に保有しているデリバティブの公正価値は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分			第185(当)期		第184(前)期	
			資産	負債	資産	負債
外国為替 デリバティブ	店頭デリバティブ	通貨先渡	1,580,696	1,416,071	731,358	505,205
		通貨スワップ	705,350	754,387	395,764	534,128
		通貨オプション	11,860	9,422	17,713	10,652
	合計	2,297,906	2,179,880	1,144,835	1,049,985	
金利 デリバティブ	店頭デリバティブ	金利スワップ	249,395	246,508	403,321	372,945
		金利オプション	7,154	5,133	9,951	11,931
	合計	256,549	251,641	413,272	384,876	
株式関連 デリバティブ	店頭デリバティブ	株式スワップ	44	19	4	109
		株式オプション	3,317	4,065	3,882	2,540
	合計	3,361	4,084	3,886	2,649	
商品関連 デリバティブ	店頭デリバティブ	商品スワップ 及び先渡	715	12,971	2	9,147
		商品オプション	21	21	-	-
	合計	736	12,992	2	9,147	
リスクヘッジ デリバティブ	公正価値リスクヘッジ	金利スワップ	15,185	333,651	52,722	123,561
	純投資リスクヘッジ	通貨先渡	5,384	3,144	2,801	3,214
	合計	20,569	336,795	55,523	126,775	
合計			2,579,121	2,785,392	1,617,518	1,573,432

(3) デリバティブ評価損益

当期及び前期におけるデリバティブの評価損益は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分			第185(当)期		第184(前)期	
			評価益	評価損	評価益	評価損
外国為替 デリバティブ	店頭デリバティブ	通貨先渡	1,294,171	1,405,389	662,649	490,396
		通貨スワップ	561,504	536,947	355,696	487,159
		通貨オプション	14,383	4,761	16,928	4,775
	合計	1,870,058	1,947,097	1,035,273	982,330	
金利 デリバティブ	店頭デリバティブ	金利スワップ	125,087	117,001	139,032	147,160
		金利オプション	997	1,618	3,814	3,776
	合計	126,084	118,619	142,846	150,936	
株式関連 デリバティブ	店頭デリバティブ	株式スワップ	90	-	8	81
		株式オプション	755	2,099	1,289	904
	合計	845	2,099	1,297	985	
商品関連 デリバティブ	店頭デリバティブ	商品スワップ 及び先渡	715	12,971	2	9,147
		商品オプション	5	4	-	-
	合計	720	12,975	2	9,147	
リスクヘッジ デリバティブ	公正価値リスクヘッジ	金利スワップ	15,697	256,069	18,515	139,175
	純投資リスクヘッジ	通貨先渡	-	2,535	1,954	-
	合計	15,697	258,604	20,469	139,175	
合計			2,013,404	2,339,394	1,199,887	1,282,573

## (4) リスクヘッジ目的に関連する損益

当期及び前期における公正価値リスクヘッジ目的に関連する損益は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
リスクヘッジ対象	237,112	139,737
リスクヘッジ手段	(250,133)	(139,184)
合計	(13,021)	553

## (5) 在外営業活動体のリスクヘッジ

在外営業活動体のうち、一部に対してリスクヘッジ会計を適用しており、当期及び前期中にリスクヘッジ手段別の海外事業損益に反映された金額は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
外貨借入負債	(23,441)	(17,492)
外貨社債	(35,727)	(14,005)
通貨先渡	4,775	(2,368)
合計	(54,393)	(33,865)

## 9. 貸付債権

(1) 当期末及び前期末現在、貸付金の顧客別の構成内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

科目	第185(当)期	第184(前)期
家計貸付	97,305,741	90,426,301
企業貸付	116,475,754	113,635,229
公共及びその他資金貸付	2,092,423	2,129,768
銀行間資金貸付	4,625,545	4,566,712
カード債権	18,281	21,307
貸付債権合計	220,517,744	210,779,317
繰延貸付付帯費用	376,821	342,684
引当金減算前貸付債権合計	220,894,565	211,122,001
貸倒引当金	(1,455,884)	(1,470,518)
引当金減算後貸付債権合計	219,438,681	209,651,483

## (2) 貸倒引当金の増減内訳

当期及び前期における預け金と貸付債権及びその他資産に対する貸倒引当金の変動内訳は以下の通りです。

< 第185 (当) 期 >

(単位：百万ウォン)

科目	預け金	貸付債権			その他資産	合計
		家計貸付	企業貸付	その他		
期首	12,836	247,741	1,204,355	18,422	41,750	1,525,104
繰入(戻入)額	2,902	129,113	542,883	(1,761)	(16,704)	656,433
償却額	-	(119,770)	(642,105)	(558)	(582)	(763,015)
割引差金償却	-	-	(24,167)	-	-	(24,167)
貸付債権売却	-	(2,731)	(37,703)	(95)	-	(40,529)
償却債権回収	-	31,867	114,802	43	1,348	148,060
その他(注)	-	-	(4,452)	-	84	(4,368)
期末	15,738	286,220	1,153,613	16,051	25,896	1,497,518

(注) その他変動額は債権調整、デット・エクイティ・スワップ、為替レート変動等による金額です。

< 第184 (前) 期 >

(単位：百万ウォン)

科目	預け金	貸付債権			その他資産	合計
		家計貸付	企業貸付	その他		
期首	23,695	227,721	1,329,006	22,944	62,177	1,665,543
繰入(戻入)額	(10,859)	116,814	492,217	(2,629)	(2,698)	592,845
償却額	-	(116,497)	(562,628)	(67)	(290)	(679,482)
割引差金償却	-	-	(26,168)	-	-	(26,168)
貸付債権売却	-	(4,447)	(55,143)	(1,911)	-	(61,501)
償却債権回収	-	24,150	72,360	85	407	97,002
その他(注)	-	-	(45,289)	-	(17,846)	(63,135)
期末	12,836	247,741	1,204,355	18,422	41,750	1,525,104

(注) その他変動額は債権調整、デット・エクイティ・スワップ、為替レート変動等による金額です。

## (3) 繰延貸付付帯費用

当期及び前期における繰延貸付付帯費用の変動内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
期首	342,684	268,219
増加	217,907	234,469
減少	(183,770)	(160,004)
期末	376,821	342,684

## 10. 売却可能金融資産及び満期保有金融資産

## (1) 売却可能金融資産及び満期保有金融資産の状況

当期末及び前期末現在、売却可能金融資産及び満期保有金融資産の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第185(当)期	第184(前)期
売却可能金融資産			
債務証券	国公債	3,601,179	2,884,987
	金融債	15,048,027	12,973,647
	社債	6,618,509	6,145,312
	その他	13,043	22,257
	小計	25,280,758	22,026,203
持分証券(注)	株式	1,032,813	1,305,500
	出資金	253,795	311,897
	受益証券	1,207,415	763,042
	その他	39,802	53,957
	小計	2,533,825	2,434,396
売却可能金融資産合計		27,814,583	24,460,599
満期保有金融資産			
債務証券	国公債	6,826,115	5,731,934
	金融債	891,397	524,855
	社債	3,912,758	3,848,262
満期保有金融資産合計		11,630,270	10,105,051

(注) 活発な市場で開示される市場価格がなく、公正価値を信頼性をもって測定することができないため、原価で測定した持分証券の帳簿価額は当期末及び前期末現在、それぞれ26,989百万ウォン、26,896百万ウォンです。

## (2) 売却可能金融資産の処分損益

当期及び前期における売却可能金融資産の処分による損益は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
売却可能金融資産処分益	439,740	471,149
売却可能金融資産処分損	(28,310)	(48,870)
合計	411,430	422,279

## 11. 有形資産

(1) 当期末及び前期末現在における有形資産の内訳は以下の通りです。

<第185(当)期>

(単位：百万ウォン)

区分	取得価額	減価償却累計額	帳簿価額
土地	1,203,810	-	1,203,810
建物	825,503	(193,978)	631,525
その他有形資産	1,370,795	(1,162,571)	208,224
合計	3,400,108	(1,356,549)	2,043,559

<第184(前)期>

(単位：百万ウォン)

区分	取得価額	減価償却累計額	帳簿価額
土地(注)	1,145,236	-	1,145,236
建物(注)	804,571	(165,952)	638,619
その他有形資産	1,347,562	(1,127,932)	219,630
合計	3,297,369	(1,293,884)	2,003,485

(注) 当期にPT Centratama Nasional Bankの企業結合による会計処理が完了したことにより、前期金額の遡及調整を行いました。

(2) 当期及び前期における有形資産の帳簿価額の変動内訳は以下の通りです。

< 第185 (当) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分	土地	建物	その他有形資産	合計
期首	1,145,236	638,619	219,630	2,003,485
取得(注1,2)	-	17,068	79,425	96,493
処分(注1,3)	(472)	(217)	(1,944)	(2,633)
減価償却費	-	(29,558)	(91,008)	(120,566)
投資不動産からの振替	58,478	4,443	-	62,921
売却予定非流動資産からの振替	410	1	-	411
為替レート変動	158	1,169	2,121	3,448
期末	1,203,810	631,525	208,224	2,043,559

(注1) 建設仮勘定から本勘定に振り替えられた金額15,405百万ウォンが含まれています。

(注2) 新規取得資産の復旧引当負債繰入額1,803百万ウォンが含まれています。

(注3) 除却金額927百万ウォンが含まれています。

< 第184 (前) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分	土地	建物	その他有形資産	合計
期首	1,155,856	651,471	228,792	2,036,119
取得(注1,2)	1	19,975	89,318	109,294
処分(注1,3)	(933)	(874)	(4,581)	(6,388)
減価償却費	-	(31,580)	(97,038)	(128,618)
投資不動産への振替	(28,563)	(2,354)	-	(30,917)
為替レート変動	92	(3,052)	2,026	(934)
企業結合(注4)	18,783	5,033	1,113	24,929
期末	1,145,236	638,619	219,630	2,003,485

(注1) 建設仮勘定から本勘定に振り替えられた金額3,255百万ウォンが含まれています。

(注2) 新規取得資産の復旧引当負債繰入額3,456百万ウォンが含まれています。

(注3) 除却金額643百万ウォンが含まれています。

(注4) 当期にPT Centratama Nasional Bankの企業結合による会計処理が完了したことにより、前期金額の遡及調整を行いました。

(3) 保険加入内訳

当期末現在において現金、有形資産、投資不動産及び売却予定資産に対する保険加入内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

保険種類	付保資産	付保金額	保険会社名
金融機関総合保険	現金	20,000	三星火災他9社
財産総合保険	業務用動産、不動産等	981,688	三星火災他6社
盗難保険	現金及び有価証券	60,000	三星火災他9社
役員賠償責任保険		50,000	メリッツ火災他8社
ガス事故賠償責任保険		500	メリッツ火災
個人情報保護賠償責任保険		10,000	現代海上他2社
電子金融取引賠償責任保険	-	2,000	東部火災他2社
合計		1,124,188	

上記保険以外に車両保険、役員・職員に対する医療保険、資産災害保険及び従業員災害保障保険等に加入しています。

## 12. 無形資産

(1) 当期及び前期における無形資産の帳簿価額の変動内訳は以下の通りです。

< 第185(当)期 >

(単位：百万ウォン)

区分	のれん	ソフトウェア	開発費	会員権	その他 無形資産	合計
期首	45,175	65,971	29,607	47,512	118,401	306,666
取得(注1)	-	19,720	13,717	788	5,652	39,877
処分	-	-	-	(1,344)	(67)	(1,411)
減損損失(注2)	-	-	-	(98)	-	(98)
償却(注3)	-	(25,917)	(11,161)	-	(47,779)	(84,857)
為替レート変動	-	339	-	(25)	75	389
期末	45,175	60,113	32,163	46,833	76,282	260,566

(注1) その他無形資産取得額のうち、2,825百万ウォンは未払金として処理されました。

(注2) 会員権はゴルフ及びコンドミニアムの会員権で、全て耐用年数を特定期間に確定できない無形資産です。報告期間末現在、取引所の時価が帳簿価額より低い場合、減損損失を認識しました。

(注3) その他無形資産償却費のうち、45,006百万ウォンはその他営業損益に含まれています。

< 第184 (前) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分	のれん	ソフトウェア	開発費	会員権	その他 無形資産	合計
期首	-	42,448	13,372	47,914	76,533	180,267
取得(注1)	-	47,432	24,807	374	82,793	155,406
処分(注2)	-	-	-	(827)	(101)	(928)
償却(注3)	-	(24,090)	(10,089)	-	(42,139)	(76,318)
為替レート変動	-	54	-	51	10	115
企業結合(注4)	45,175	127	1,517	-	1,305	48,124
期末	45,175	65,971	29,607	47,512	118,401	306,666

(注1) その他無形資産取得額のうち、59,810百万ウォンは未払金として処理されました。

(注2) 除却金額101百万ウォンが含まれています。

(注3) その他無形資産償却費のうち、39,544百万ウォンはその他営業損益に含まれています。

(注4) 当期にPT Centratama Nasional Bankの企業結合による会計処理が完了したことにより、前期金額の遡及調整を行いました。

## (2) のれん

### 1) 構成内訳

当期末及び前期末現在、各現金創出単位に配賦されているのれんの内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

現金創出単位	第185(当)期	第184(前)期
新韓インドネシア銀行(注1)	45,175	33,317
PT Centratama Nasional Bank(注1,2)	-	11,858
合計	45,175	45,175

(注1) 2016年12月6日に連結実体内の新韓インドネシア銀行とPT Centratama Nasional Bankとの合併により発生しました。合併後の会社名は“新韓インドネシア銀行”です。合併に関連する事項は45.同一支配下の企業結合の注記事項をご参考ください。

(注2) 2015年12月18日に引き受けたPT Centratama Nasional Bankの場合、価値評価資料が入手できなかったため、企業結合に対する最初の会計処理が企業結合が発生した報告期間末までに完了されませんでした。よって、前期末には暫定金額で計上しており、当期に企業結合による会計処理を完了し、遡及調整を行いました。当該報告期間に認識した暫定価値の調整内訳は44.企業結合による暫定金額の遡及調整に関連する注記事項をご参考ください。

## 2) 減損テスト

現金創出単位に対し、回収可能価額は使用価値を基準として評価しました。使用価値による回収可能価額の評価時には金融機関の特性を考慮し、伝統的アプローチ法のうちキャッシュ・フロー割引法（DCF）を適用しました。

### 評価基準日及び予測期間

回収可能価額の評価のための評価基準日は2016年6月30日で、使用価値の評価時の予測期間は、引受以降のシナジー効果を考慮して9.5年（2016年7月～2025年）としました。また、予測期間以降の価値は永久価値を算出して反映しました。

### 割引率及び永久成長率

株主の要求収益率及び自己資本費用を算定して割引率を適用しており、自己資本費用は無リスク収益率及びリスクに対する対価として支払う市場リスクプレミアム（Market Risk Premium）に当該企業の体系的リスクを考慮して計算しました。

永久成長率は物価上昇率を基準として見積もりました。現金創出単位に使用した割引率及び永久成長率は以下の通りです。

割引率	永久成長率
13.20%	3.20%

現金創出単位で創出されるものと期待される将来キャッシュ・フローの見積りに使用した主な仮定は、消費者物価指数（CPI）上昇率、市場規模の成長率及び連結実体の占有率に対する事項です。

3) 評価基準日現在、のれんを保有している現金創出単位の総回収可能価額及び総帳簿価額は、以下の通りです。

（単位：百万ウォン）

区分	新韓インドネシア銀行
回収可能価額	187,461

帳簿価額	171,990
余裕額	15,471

### 13. 関係企業に対する投資資産

(1) 当期末及び前期末現在、関係企業に対する投資資産の現況は以下の通りです。

被投資会社	所在地	財務諸表 基準月	持分率(%)	
			第185(当)期	第184(前)期
アジュキャピタル(注1,2,6)	大韓民国	9月末	12.85	12.85
BNPパリバカーディフ生命保険(注1,3)	大韓民国	9月末	14.99	14.99
連合資産管理(注4)	大韓民国	-	-	17.50
浦項テクノパーク2PFV(注2)	大韓民国	12月末	14.90	14.90
デウォントス(注1,5)	大韓民国	9月末	36.33	36.33
インヒ(注1,5)	大韓民国	9月末	15.36	15.36
デギ電設(注1,5)	大韓民国	9月末	27.45	27.45
極東建設(注4)	大韓民国	-	-	14.30
ヨンウンシステム(注1,5)	大韓民国	9月末	21.77	21.77
ドゥドゥロジテック(注1,5)	大韓民国	9月末	27.96	27.96
Neoplux技術価値評価投資組合(注1)	大韓民国	9月末	33.33	33.33
EQPグローバルエネルギーインフラ 私募投資専門会社(注1)	大韓民国	9月末	22.64	22.64
ジェヨンソリューテック(注1,5,6,7)	大韓民国	9月末	10.45	11.90
パートナーズ第4号Growth 投資組合(注1)	大韓民国	9月末	25.00	25.00
PSA第1号フィンテック 私募投資合資会社(注1)	大韓民国	9月末	20.00	20.00
KTB Newlake医療グローバル進出 私募投資専門会社(注1)	大韓民国	9月末	20.00	-
ジェヤンインダストリー(注5,8)	大韓民国	3月末	25.90	-
ティグリスアウルム 新技術事業投資組合第1号(注1)	大韓民国	9月末	27.27	-
ナムワアイ(注1,5)	大韓民国	9月末	23.72	-
チュンヨン(注1,5)	大韓民国	9月末	18.94	-
シメンティック(注1,5)	大韓民国	9月末	19.25	-
デグアン半導体(注5,8)	大韓民国	6月末	20.94	-

ブランビル(注5,8)	大韓民国	12月末	15.53	-
-------------	------	------	-------	---

- (注1) 12月末の決算財務諸表を入手することができないため、2016年9月30日基準で作成した財務諸表を使用して持分法を適用し、関係企業の報告期間終了日と投資会社の報告期間終了日の間に発生した重要な取引、事象は適切に反映しました。
- (注2) アジュキャピタルと浦項テクノパーク2PFVの持分率は15%以下ですが、連結実体が被投資会社の財務政策、営業政策に関する意思決定に参加できる役員の選任に重要な影響力を行使することができるため、持分法を適用しました。
- (注3) BNPパリバカード生命保険の持分率は15%以下ですが、連結実体と重要な営業上の取引を通じて重要な影響力を行使することができるため持分法を適用しました。
- (注4) 当期に連合資産管理は重要な影響力を喪失して関係企業に対する投資資産から売却可能金融資産に再分類され、極東建設は全額無償減資されました。
- (注5) 更生手続の過程で出資転換により株式を取得し、更生手続中には議決権を行使することができないため売却可能金融資産に分類し、公正価値で評価しました。前期以前及び当期に更生手続が終了したことにより正常な議決権の行使が可能となったため、売却可能金融資産から関係企業に対する投資資産に再分類しました。
- (注6) 当期末現在、保有している市場性のある関係企業投資株式の市場価値はそれぞれ51,543百万ウォン及び10,466百万ウォンです。これは韓国取引所の2016年12月29日付の終値6,970ウォン及び2,760ウォン、総保有株式数7,395,000株と3,792,000株を基準として算出しました。
- (注7) ジェヨンソリュートックの持分率は15%以下であるものの、株式売却協議会の主管機関として重要な影響力を行使することができるため、関係企業に対する投資資産として計上し、当期中に第三者の転換請求権の行使により持分率が変動しました。
- (注8) 12月末決算の財務諸表を入手することができなかつたため、決算日から入手可能な直近の財務諸表を使用して持分法を適用し、関係企業の報告期間終了日と投資会社の報告期間終了日との間に発生した重要な取引や事象は適切に反映しました。
- (2) 当期末及び前期末現在、関係企業に対する投資資産の内訳は以下の通りです。

<第185(当)期>

(単位：百万ウォン)

被投資会社	取得原価	期首	取得(処分)	処分損益	持分法損益	持分法資本変動(減少)	配当	当期末
アジュキャピタル	36,971	34,444	-	-	9,038	(58)	(2,588)	40,836
BNPパリバカード生命保険	35,279	57,356	-	-	(2,516)	5,428	-	60,268
連合資産管理	85,050	125,822	(102,775)	909	2,882	123	(26,961)	-
浦項テクノパーク2PFV	4,470	1,976	-	-	(1)	-	-	1,975
デウォントス	-	-	-	-	-	-	-	-

インヒ	-	254	-	-	(39)	-	-	215
デジ電設	-	149	-	-	(21)	-	-	128
極東建設	9,092	-	-	3,478	-	(3,478)	-	-
ヨンウンシステム	-	106	-	-	(29)	-	-	77
ドゥドゥロジテック	-	384	-	-	(137)	-	-	247
Neoplux技術価値評価 投資組合	7,668	1,993	5,668	-	765	-	(900)	7,526
EQPグローバル エネルギーインフラ 私募投資専門会社	280	-	105	-	(105)	-	-	-
ジェヨンソリューテック	6,238	6,238	-	-	(504)	2	-	5,736
パートナーズ第4号 Growth投資組合	4,880	1,800	3,080	-	(325)	-	-	4,555
PSA第1号フィンテック 私募投資合資会社	2,000	2,000	-	-	(35)	-	-	1,965
KTB Newlake 医療グローバル進出 私募投資専門会社	162	-	922	-	(143)	-	-	779
ジェヤンインダストリー	-	-	-	-	-	-	-	-
ティグリスアウルム新技 術事業投資組合第1号	1,500	-	1,500	-	(19)	-	-	1,481
ナムワイ	92	-	92	-	(13)	-	-	79
チュンヨン	-	-	-	-	-	-	-	-
シメンティック	249	-	249	-	-	-	-	249
デグァン半導体	4,776	-	4,777	-	-	-	-	4,777
ブランビル	183	-	183	-	(183)	-	-	-
合計	198,890	232,522	(86,199)	4,387	8,615	2,017	(30,449)	130,893

< 第184 (前) 期 >

(単位：百万ウォン)

被投資会社	取得 原価	期首	取得 (処分)	持分法 損益	持分法 資本変動 (減少)	配当	減額	前期末
アジュキャピタル	36,971	30,426	-	6,277	(410)	(1,849)	-	34,444
BNPパリバカードィフ 生命保険	35,279	56,897	-	(3,297)	3,756	-	-	57,356
連合資産管理	85,050	114,238	-	11,632	(48)	-	-	125,822
浦項テクノパーク2PFV	4,470	1,977	-	(1)	-	-	-	1,976

デウオントス	-	-	-	-	-	-	-	-
インヒ	-	532	-	(278)	-	-	-	254
デギ電設	-	44	-	105	-	-	-	149
極東建設	9,092	7,158	-	(1,556)	3,422	-	(9,024)	-
ヨンウンシステム	-	-	-	106	-	-	-	106
ドウドウロジテック	-	-	-	384	-	-	-	384
Neoplux技術価値評価 投資組合	2,000	-	2,000	(7)	-	-	-	1,993
EQPグローバル エネルギーインフラ 私募投資専門会社	174	-	174	(174)	-	-	-	-
ジェヨンソリュウテック	6,238	-	6,238	-	-	-	-	6,238
パートナーズ第4号Growth 投資組合	1,800	-	1,800	-	-	-	-	1,800
PSA第1号フィンテック 私募投資合資会社	2,000	-	2,000	-	-	-	-	2,000
BANK METRO EXPRESS	25,300	-	(208)	208	-	-	-	-
合計	208,374	211,272	12,004	13,399	6,720	(1,849)	(9,024)	232,522

(3) 当期末と前期末現在及び報告期間中の主な関係企業の要約財務情報は以下の通りです。

&lt; 第185(当)期 &gt;

(単位:百万ウォン)

被投資会社	関係企業の要約財務情報					
	資産	負債	営業収益	当期純利益	その他 包括損益	総包括損益
アジュキャピタル	6,543,737	5,744,415	757,345	70,598	(458)	70,140
BNPパリバカーディフ生命保険	4,182,208	3,779,257	144,583	(16,706)	36,189	19,483
浦項テクノパーク2PFV	14,660	1,401	-	(4)	-	(4)
デウォントス	399	2,492	517	(624)	-	(624)
インヒ	10,713	9,310	3,135	(253)	-	(253)
デギ電設	659	191	-	(76)	-	(76)
ヨンウンシステム	497	146	25	(135)	-	(135)
ドウドウロジテック	891	6	213	(609)	-	(609)
Neoplux技術価値評価 投資組合	22,577	-	3,441	2,295	-	2,295
EQPグローバル エネルギーインフラ 私募投資専門会社	1	1,376	-	(1,842)	-	(1,842)
ジェヨンソリューテック	155,368	120,184	137,920	(7,095)	(614)	(7,709)
パートナーズ第4号 Growth投資組合	18,479	258	113	(1,300)	-	(1,300)
PSA第1号フィンテック 私募投資合資会社	9,825	-	-	(175)	-	(175)
KTB Newlake 医療グローバル進出 私募投資専門会社	3,805	478	-	(716)	-	(716)
ジェヤンインダストリー	2,146	4,717	212	(69)	-	(69)
ティグリスアウルム 新技術事業投資組合第1号	5,431	-	-	(69)	-	(69)
ナムワイ	1,193	859	325	(54)	-	(54)
チュンヨン	2,341	6,753	-	-	-	-
シメンティック	3,098	1,804	-	-	-	-
デグアン半導体	35,204	12,392	-	-	-	-
ブランビル	2,177	2,870	-	-	-	-
合計	11,015,409	9,688,909	1,047,829	43,166	35,117	78,283

&lt; 第184 (前) 期 &gt;

(単位：百万ウォン)

被投資会社	関係企業の要約財務情報					
	資産	負債	営業収益	当期純利益	その他 包括損益	総包括損益
アジュキャピタル	6,906,603	6,155,236	844,216	48,870	(3,191)	45,679
BNPパリバカードライフ 生命保険	4,128,588	3,745,119	481,472	(21,533)	25,039	3,506
連合資産管理	4,068,354	3,331,647	452,759	66,455	(276)	66,179
浦項テクノパーク2PFV	14,664	1,401	-	(4)	-	(4)
デウォントス	1,952	3,420	3,994	(263)	-	(263)
インヒ	11,237	9,582	3,921	(1,803)	-	(1,803)
デギ電設	1,051	508	65	385	-	385
極東建設	278,497	233,376	269,079	(10,881)	(3,072)	(13,953)
ヨンウンシステム	1,040	554	59	12	-	12
ドウドウロジテック	1,418	44	65	(42)	-	(42)
Neoplux技術価値評価投資組合	6,000	22	-	(22)	-	(22)
EQPグローバル エネルギーインフラ 私募投資専門会社	2	467	-	(767)	-	(767)
ジェヨンソリュウテック	161,439	126,297	-	-	-	-
パートナーズ第4号 Growth投資組合	7,200	-	-	-	-	-
PSA第1号フィンテック 私募投資合資会社	10,000	-	-	-	-	-
合計	15,598,045	13,607,673	2,055,630	80,407	18,500	98,907

(4) 当期末及び前期末現在における関係企業の財務情報金額を関係企業に対する持分の帳簿価額に調整した内訳は以下の通りです。

< 第185(当)期 >

(単位：百万ウォン)

被投資会社	当期末の 純資産(a)	連結実体の 持分率(b)	純資産持分 金額 (a) × (b)	内部取引	その他	帳簿価額
アジュキャピタル(注1)	749,882	12.85%	96,365	-	(55,529)	40,836
BNPパリバカード生命保険	402,951	14.99%	60,443	(175)	-	60,268
浦項テクノパーク2PFV	13,259	14.90%	1,975	-	-	1,975
デウォントス(注2)	(2,093)	36.33%	(760)	-	760	-
インヒ	1,403	15.36%	215	-	-	215
デギ電設	468	27.45%	128	-	-	128
ヨンウンシステム	351	21.77%	77	-	-	77
ドゥドゥロジテック	885	27.96%	247	-	-	247
Neoplux技術価値評価投資組合	22,577	33.33%	7,526	-	-	7,526
EQPグローバル エネルギーインフラ 私募投資専門会社(注2)	(1,375)	22.64%	(311)	-	311	-
ジェヨンソリュートック(注3)	34,147	10.45%	3,567	-	2,169	5,736
パートナーズ第4号Growth 投資組合	18,221	25.00%	4,555	-	-	4,555
PSA第1号フィンテック 私募投資合資会社	9,825	20.00%	1,965	-	-	1,965
KTB Newlake 医療グローバル進出 私募投資専門会社(注4)	3,327	20.00%	666	-	113	779
ジェヤンインダストリー (注4)	(2,571)	25.90%	(666)	-	666	-
ティグリスアウルム 新技術事業投資組合 第1号	5,431	27.27%	1,481	-	-	1,481
ナムワアイ	334	23.72%	79	-	-	79
チュンヨン(注4)	(4,412)	18.94%	(836)	-	836	-
シメンティック	1,294	19.25%	249	-	-	249
デグァン半導体	22,812	20.94%	4,777	-	-	4,777
ブランビル(注4)	(693)	15.53%	(108)	-	108	-
合計	1,276,023		181,634	(175)	(50,566)	130,893

- (注1) 当期末の純資産は非支配持分を除いた残高であり、その他は当期末まで認識した減損損失の累積を含めてます。
- (注2) その他は当期欠損累積により投資勘定の残高が“0”となったため持分法認識を中止したことで認識できなかった累積損失金額です。
- (注3) 当期末における純資産は非支配持分を除いた残高であり、その他は取得時に発生した公正価値の調整金額です。
- (注4) その他は取得時に発生した公正価値の調整金額です。

<第184(前)期>

(単位：百万ウォン)

被投資会社	当期末の 純資産(a)	連結実体の 持分率(b)	純資産持分 金額 (a) × (b)	内部取引	減額	その他	帳簿価額
アジュキャピタル(注1)	700,147	12.85%	89,969	-	-	(55,525)	34,444
BNPパリバカーディフ生命保険	383,468	14.99%	57,520	(164)	-	-	57,356
連合資産管理(注2)	718,983	17.50%	125,822	-	-	-	125,822
浦項テクノパーク2PFV	13,264	14.90%	1,976	-	-	-	1,976
デウォントス(注3)	(1,469)	36.33%	(534)	-	-	534	-
インヒ	1,655	15.36%	254	-	-	-	254
デギ電設	544	27.45%	149	-	-	-	149
極東建設(注4)	46,376	14.30%	6,629	-	(9,024)	2,395	-
ヨンウンシステム	486	21.77%	106	-	-	-	106
ドゥドゥロジテック	1,374	27.96%	384	-	-	-	384
Neoplux技術価値 評価投資組合	5,978	33.33%	1,993	-	-	-	1,993
EQPグローバル エネルギーインフラ 私募投資専門会社(注5)	(464)	22.64%	(105)	-	-	105	-
ジェヨンソリューテック (注4)	34,193	11.90%	4,069	-	-	2,169	6,238
パートナーズ第4号 Growth投資組合	7,200	25.00%	1,800	-	-	-	1,800
PSA第1号フィンテック 私募投資合資会社	10,000	20.00%	2,000	-	-	-	2,000
合計	1,921,735		292,032	(164)	(9,024)	(50,322)	232,522

- (注1) 前期末の純資産は非支配持分を除いた残高であり、その他は前期末まで認識した減損損失の累積を含めてます。
- (注2) 前期末の純資産は非支配持分を除いた残高です。
- (注3) その他は前期欠損累積により投資勘定の残高が“0”となったため持分法認識を中止したことで認識できなかった累積損失金額です。
- (注4) 前期末における純資産は非支配持分を除いた残高であり、その他は取得時に発生した公正価値の調整金額です。
- (注5) その他は、関係企業が現在営業の開始前であることにより投資勘定の残高が“0”となったため持分法認識を中止したことで認識できなかった累積損失金額です。
- (5) 持分法適用の中止により認識できなかった当期及び前期の累積未反映持分法損失金額は以下の通りです。

< 第185 (当) 期 >

(単位：百万ウォン)

被投資会社	未反映当期持分法利益	未反映累積持分法損失
デウォントス	(226)	(760)
EQPグローバルエネルギー インフラ私募投資専門会社	(311)	(311)
ジェヤンインダストリー	(18)	(18)
合計	(555)	(1,089)

< 第184 (前) 期 >

(単位：百万ウォン)

被投資会社	未反映前期持分法損失	未反映累積持分法損失
デウォントス	(96)	(534)
EQPグローバルエネルギー インフラ私募投資専門会社	(105)	(105)
合計	(201)	(639)

## 14. 投資不動産

(1) 当期末及び前期末現在の投資不動産の内訳は以下の通りです。

< 第185(当)期 >

(単位：百万ウォン)

区分	取得価額	減価償却累計額	帳簿価額
土地	506,638	-	506,638
建物	229,345	(60,837)	168,508
合計	735,983	(60,837)	675,146

< 第184(前)期 >

(単位：百万ウォン)

区分	取得価額	減価償却累計額	帳簿価額
土地	572,069	-	572,069
建物	231,253	(37,716)	193,537
合計	803,322	(37,716)	765,606

(2) 投資不動産の公正価値

当期末及び前期末現在の投資不動産の公正価値の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
投資不動産(注)	773,511	836,030

(注) 投資不動産の公正価値の評価は、独立した第三者との取引条件による最近の市場取引価格及び市場で観測可能ではない重要な投入変数が反映されるため、公正価値の序列水準においてレベル3に該当します。

## (3) 投資不動産から発生した損益

当期及び前期中に、投資不動産に関連して連結包括損益計算書に計上された関連損益の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
投資不動産から発生した賃貸収益	23,185	24,400
賃貸収益が発生した投資不動産に 直接関連する営業費用	5,798	5,770

15. その他資産

当期末及び前期末現在のその他資産の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
未収金	3,984,874	5,547,053
未回収内国為替債権	6,066,285	2,307,584
預け保証金	1,040,801	1,089,375
未収収益	837,531	757,772
前払費用	62,819	72,001
仮払金	53,756	50,563
雑資産	86,839	94,142
その他	2,152	744
現在価値割引調整	(31,708)	(41,561)
貸倒引当金	(25,896)	(41,750)
合計	12,077,453	9,835,923

16. 担保提供資産及び担保として提供を受けた資産

(1) 当期末及び前期末現在、担保として提供された資産の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第185(当)期	第184(前)期	担保提供事由
貸付債権		76,232	94,871	借入金
有価証券 (注1)	売却可能金融資産	1,225,722	584,334	借入金、韓国銀行決済履行担保、 借入有価証券等
	満期保有金融資産	7,824,930	6,068,588	借入金、韓国銀行決済履行担保、 対顧客リパーチャエスアグリーメント等
	小計	9,050,652	6,652,922	
有形資産(注2)		6,525	3,905	根抵当権の設定等
合計		9,133,409	6,751,698	

(注1) 第三者が連結実体の債務不履行と関係なく売渡及び再担保の提供が可能な担保の帳簿価額は、当期末及び前期末現在、それぞれ1,209,161百万ウォン、759,654百万ウォンです。

(注2) 根抵当権の設定等、関連する債権最高額の基準です。

(2) 債務不履行と関係なく売渡及び再担保の提供が可能な担保保有物

当期末及び前期末現在、債務不履行と関係なく売渡及び再担保の提供が可能な担保の公正価値は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期		第184(前)期	
	担保物の公正価値	売渡すか、或いは担保として再度提供した担保物の公正価値	担保物の公正価値	売渡すか、或いは担保として再度提供した担保物の公正価値
有価証券	3,749,791	-	5,285,701	-

17. 当期損益認識指定金融負債

(1) 当期末及び前期末現在における当期損益認識指定金融負債の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分(注1)	第185(当)期	第184(前)期
預金(注2,3)	6,282	13,509

(注1) 連結実体は組込デリバティブが含まれた複合金融商品のうち、企業会計基準書第1039号“金融商品：認識及び測定”によって当期損益認識金融負債の指定が許容される複合契約を当期損益認識金融負債として指定しました。

(注2) 当期損益認識指定金融負債の帳簿価額は、連結実体が採択したオプション評価モデルに基づいて算定しました。

(注3) 当期及び前期において連結実体の信用リスク変動により損益として認識された金額はありません。

(2) 当期末及び前期末現在、当期損益認識指定金融負債の契約条件に従う元金に対する満期償還金額及び帳簿価額は以下の通りです。

< 第185(当)期 >

(単位：百万ウォン)

区分	契約上の満期償還金額	帳簿価額	差異金額
預金	6,247	6,282	(35)

< 第184(前)期 >

(単位：百万ウォン)

区分	契約上の満期償還金額	帳簿価額	差異金額
預金	13,607	13,509	98

(3) 当期及び前期中に当期損益認識指定金融負債に関連する純損益の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期			第184(前)期		
	評価損益	売買損益	合計	評価損益	売買損益	合計
預金	(97)	(109)	(206)	95	(111)	(16)

## 18. 預金

当期末及び前期末現在における預金の種類別の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

科目		第185(当)期	第184(前)期
要求払預金	ウォン貨預金	81,617,492	74,319,215
	外貨預金	11,032,964	8,412,705
	小計	92,650,456	82,731,920
期限付預金	ウォン貨預金	110,106,106	110,090,844
	外貨預金	12,790,861	10,489,601
	公正価値リスクヘッジ損益	(38,368)	(17,954)
	小計	122,858,599	120,562,491
譲渡性預金証書		6,319,914	4,351,326
発行手形預金		4,581,276	3,018,551
手形管理口座受託金		2,473,048	2,280,816
その他		26,799	30,088
合計		228,910,092	212,975,192

## 19. 売買目的金融負債

当期末及び前期末現在における売買目的金融負債の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

科目	第185(当)期		第184(前)期	
	利率(%)	金額	利率(%)	金額
売渡有価証券	-	-	2.25	10,161
金/銀預金	-	485,995	-	453,605
合計		485,995		463,766

## 20. 借入負債

当期末及び前期末現在、借入負債の種類別の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

科目		第185(当)期			第184(前)期		
		利率(%)		金額	利率(%)		金額
		最高	最低		最高	最低	
コールマネー	ウォン貨	1.23	1.08	394,400	-	-	-
	外貨	10.00	0.35	412,868	7.00	0.32	268,114
	小計			807,268			268,114
売渡手形		1.52	0.65	12,427	2.00	0.75	24,245
買戻条件付 売渡債券	ウォン貨	0.80	0.80	8,152	1.58	1.00	8,110
	外貨	6.29	1.42	569,956	3.49	0.69	510,464
	小計			578,108			518,574
ウォン貨 借入負債	韓国銀行借入負債	0.75	0.50	2,621,345	0.75	0.50	1,963,472
	その他借入負債	4.30	0.00	4,551,825	4.35	0.00	3,729,298
	小計			7,173,170			5,692,770
外貨 借入負債	外貨他店借入	0.00	0.00	152,589	0.76	0.00	180,527
	銀行借入負債	3.95	0.24	3,678,949	7.95	0.10	4,297,151
	転貸借入負債	1.72	0.00	470,176	1.18	0.47	571,829
	その他借入負債	1.18	1.02	1,442,365	0.80	0.53	1,375,143
	小計			5,744,079			6,424,650
外貨受託金		-	-	-	0.10	0.10	71,810
繰延付帯費用				(723)			(1,684)
合計				14,314,329			12,998,479

## 21. 社債

当期末及び前期末現在、社債の種類別の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

科目		第185(当)期			第184(前)期		
		利率(%)		金額	利率(%)		金額
		最高	最低		最高	最低	
ウォン貨 社債	一般社債	8.00	0.00	13,905,995	8.00	0.00	12,676,830
	劣後社債	4.60	2.20	3,501,056	5.10	2.72	3,500,808
	公正価額リスクヘッジ 利益			(147,208)			(52,579)
	割引発行差金			(19,599)			(31,794)
	小計			17,240,244			16,093,265
外貨 社債	一般社債	4.38	0.03	3,176,276	4.38	0.32	3,912,108
	劣後社債	3.88	3.88	1,189,067	-	-	-
	公正価額リスクヘッジ 損失			(9,977)			25,983
	割引発行差金			(17,180)			(10,806)
	小計			4,338,186			3,927,285
合計				21,578,430			20,020,550

## 22. 確定給付債務

連結実体は、従業員の役務提供期間に基づき、確定給付型年金制度を運営しています。また、連結実体は社外積立資産を信託会社、ファンド会社及びその他類似企業に信託しています。

## (1) 確定給付型制度の資産及び負債

当期末及び前期末現在、確定給付型制度における資産及び負債の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
確定給付債務の現在価値	1,258,473	1,173,709
社外積立資産の公正価値	(1,208,370)	(1,018,940)
連結財務状態表計上負債	50,103	154,769

## (2) 確定給付債務の現在価値

当期及び前期における確定給付債務の現在価値の変動内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
期首	1,173,709	999,623
当期勤務費用	136,566	119,239
支払利息	37,947	38,229
再測定要素(注1)	(39,969)	58,822
為替レート差異	24	96
給与支給額	(52,196)	(47,413)
その他(注2)	2,392	5,113
期末	1,258,473	1,173,709

(注1) 当期現在における再測定要素は人口統計的仮定変動による保険数理的損失4,634百万ウォン及び財務的仮定の変動による保険数理的利益 8,347百万ウォン、そして経験調整による利益36,256百万ウォンで構成されています。

(注2) 前期末の当該金額には企業結合による増加額2,359百万ウォンが含まれています。

## (3) 社外積立資産の公正価値

当期及び前期における社外積立資産の変動内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
期首	1,018,940	753,648
受取利息	34,033	30,297
再測定要素	(14,376)	(13,269)
使用者の拠出金	210,300	290,800
給与支給額	(40,527)	(42,536)
期末	1,208,370	1,018,940

## (4) 社外積立資産の構成内訳

当期末及び前期末現在、社外積立資産の構成内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
定期預金	1,180,374	977,723
その他	27,996	41,217
合計	1,208,370	1,018,940

## (5) 保険数理的仮定

当期末及び前期末現在における保険数理的仮定の内訳は以下の通りです。

区分	第185(当)期	第184(前)期	備考
割引率(期待収益率)	3.40%	3.34%	AA0社債収益率
将来賃金上昇率	2.92% + 昇給率	2.92% + 昇給率	過去5ヶ年の平均

## (6) 感応度分析

当期末及び前期末現在における主な仮定の変動による確定給付債務の現在価値は以下の通りです。

## 1) 割引率

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
確定給付債務の現在価値	1,258,473	1,173,709
1%ポイント増加	1,137,551	1,057,735
1%ポイント減少	1,399,688	1,309,579

## 2) 賃金上昇率

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
確定給付債務の現在価値	1,258,473	1,173,709
1%ポイント増加	1,399,091	1,308,913
1%ポイント減少	1,135,816	1,056,141

(7) 当期末及び前期末の評価時に適用した確定給付債務の加重平均満期はそれぞれ13.16年及び13.24年です。

## 23. 引当負債

(1) 当期及び前期における引当負債の増減内訳は以下の通りです。

< 第185 (当) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分	復旧引当負債	訴訟	未使用信用枠	支払保証	その他	合計
期首	33,934	19,576	101,096	80,289	61,193	296,088
繰入(戻入)額	2,255	(7,897)	(6,747)	4,222	40,155	31,988
使用額	(1,894)	-	-	-	(16,103)	(17,997)
為替レート変動	-	365	636	993	60	2,054
その他(注)	1,803	-	-	(7,005)	-	(5,202)
期末	36,098	12,044	94,985	78,499	85,305	306,931

< 第184 (前) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分	復旧引当負債	訴訟	未使用信用枠	支払保証	その他	合計
期首	29,096	22,230	85,691	106,952	54,759	298,728
繰入(戻入)額	1,958	(3,382)	14,818	(33,519)	18,926	(1,199)
使用額	(530)	-	-	-	(12,762)	(13,292)
為替レート変動	-	728	587	2,552	270	4,137
その他(注)	3,410	-	-	4,304	-	7,714
期末	33,934	19,576	101,096	80,289	61,193	296,088

(注) 当初公正価値で評価する金融保証契約の新規発生と満期到来による変動及び割引率変動による効果等です。

## (2) 復旧引当負債

復旧引当負債は報告期間末現在、賃借店舗の将来予想復旧費用の最善の見積値を適切な割引率で割り引いた現在価値です。同復旧費用の支出は個別賃借店舗の賃借契約終了時点で発生する予定であり、これを合理的に見積るために過去10年間、賃借契約が終了した賃借店舗の平均存続期間を利用しました。また、予想復旧費用を見積るために、過去3年間復旧工事が発生した店舗の実際の復旧工事費用の平均値及び3年間の平均インフレーション率を使用しました。

## 24. その他負債

当期末及び前期末現在におけるその他負債の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

科目	第185(当)期	第184(前)期
未払金	3,938,413	5,528,790
信託勘定未払金	3,443,287	2,966,681
未払費用	2,333,120	2,268,540
代理店	799,462	1,311,763
未払内国為替債務	920,232	2,126,032
代行業務収入金	494,278	534,070
受取保証金	374,932	368,468
未払外国為替債務	226,920	208,939
仮受金	44,882	83,965
前受収益	80,744	66,398
諸税預り金	61,073	70,022
未払配当金	1,309	9,231
雑負債	86,645	82,104
現在価値割引調整	(2,404)	(2,651)
合計	12,802,893	15,622,352

## 25. 資本

(1) 当期末及び前期末現在における資本の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

科目		第185(当)期	第184(前)期
資本金	普通株資本金	7,928,078	7,928,078
新種資本証券		469,392	801,298
資本剰余金	株式発行超過金	398,080	398,080
	その他資本剰余金	5,084	5,084
	小計	403,164	403,164
資本調整	ストックオプション	(887)	1,363
	その他資本調整	(63,727)	(30,703)
	小計	(64,614)	(29,340)
その他 包括損益累計額	売却可能金融資産評価損益	139,824	386,970
	関係企業のおのほ包括損益に 対する持分	16,583	13,741
	海外事業損益	(151,936)	(160,274)
	再測定要素	(280,916)	(300,385)
	小計	(276,445)	(59,948)
利益剰余金	法定積立金(注1)	1,497,370	1,375,731
	任意積立金(注2)	9,064,867	8,719,986
	その他準備金(注3)	87,029	75,215
	未処分利益剰余金(注4)	2,351,571	1,616,238
	小計	13,000,837	11,787,170
非支配持分(注5)		6,561	12,351
合計		21,466,973	20,842,773

(注1) 銀行法第40条の規定により資本金の総額に達するまで、決算純利益金の配当時毎にその純利益金の10%以上を決算期毎に積み立てた利益準備金で、欠損補填及び資本繰入の場合を除いてはこれを使用できません。

(注2) 当期末における1,706,925百万ウォンの個別財務諸表基準の貸倒準備金及び355,898百万ウォンの再評価積立金が含まれており、前期末1,738,249百万ウォンの個別財務諸表基準の貸倒準備金及び355,898百万ウォンの再評価積立金が含まれています。

(注3) 海外支店で現地の法規により積み立てた準備金で、現地所在支店の欠損補填に対してのみ使用することができます。

(注4) 当期末現在、個別財務諸表基準の貸倒準備金積立額と連結財務諸表基準の貸倒準備金積立額の差異は34,200百万ウォンであり、連結財務諸表基準の貸倒準備金への繰入予定額47,566百万ウォンが含まれています。

(注5) 当期にPT Centratama Nasional Bankの企業結合の会計処理の完了により前期末金額の遡及調整を行いました。

(2) 当期末及び前期末現在における資本金の内訳は以下の通りです。

科目	第185(当)期	第184(前)期
発行する株式総数	2,000,000,000株	2,000,000,000株
1株当り金額	5,000ウォン	5,000ウォン
発行済株式数	1,585,615,506株	1,585,615,506株

(3) 新種資本証券

当期末及び前期末現在、資本に分類された新種資本証券は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	発行日	満期日	金額		利率(%)
			第185(当)期	第184(前)期	
外貨新種 資本証券	2006-09-20	2036-09-20	-	94,761	6.82
	2006-09-20	2036-09-20	-	237,144	6.82
ウォン貨 新種資本証券	2008-03-21	2038-03-21	119,878	119,878	7.30
	2008-03-25	2038-03-25	49,947	49,947	7.30
	2013-06-07	2043-06-07	299,568	299,568	4.63
合計			469,393	801,298	
新種資本証券配当金			45,691	57,158	
加重平均利率(%)			6.45	6.72	

上記の新種資本証券は、発行日以降5年または10年が経過した後、連結実体が早期償還することができ、満期日に同一の条件で満期を延長することができます。また、普通株に対する配当を支払わないことと決議した場合は、約定利息を支払いません。

## (4) その他包括損益累計額

当期及び前期におけるその他包括損益累計額の再分類調整を含めた増減内訳は以下の通りです。

< 第185 (当) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分	売却可能金融 資産評価損益	関係企業の その他包括損益 に対する持分	海外事業 損益	確定給付型制度 再測定要素	合計
期首	386,970	13,741	(160,274)	(300,385)	(59,948)
当期発生差益(差損)：					
公正価値評価による増減	(83,447)	-	-	-	(83,447)
持分法評価による増減	-	2,016	-	-	2,016
当期損益に含まれた差益の 再分類調整：					
資産減損による増減	26,259	-	-	-	26,259
処分による増減	(265,357)	-	-	-	(265,357)
リスクヘッジ会計適用効果	2,289	-	(54,393)	-	(52,104)
為替レート差異による効果	(240)	-	49,119	-	48,879
確定給付型制度の再測定	-	-	-	25,593	25,593
税効果	73,350	826	13,612	(6,124)	81,664
期末	139,824	16,583	(151,936)	(280,916)	(276,445)

< 第184 (前) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分	売却可能金融 資産評価損益	関係企業の その他包括損益 に対する持分	海外事業損益	確定給付型制度 再測定要素	合計
期首	627,834	7,738	(152,433)	(245,740)	237,399
当期発生差益(差損)：					
公正価値評価による増減	69,743	-	-	-	69,743
持分法評価による増減	-	6,720	-	-	6,720
当期損益に含まれた差益の 再分類調整：					
資産減損による増減	9,567	-	-	-	9,567
処分による増減	(398,794)	-	-	-	(398,794)
リスクヘッジ会計適用効果	(864)	-	(33,865)	-	(34,729)

為替レート差異による効果	2,585	-	25,123	-	27,708
確定給付型制度の再測定	-	-	-	(72,091)	(72,091)
税効果	76,899	(717)	901	17,446	94,529
期末	386,970	13,741	(160,274)	(300,385)	(59,948)

(5) 利益剰余金処分計算書

当期及び前期における利益剰余金処分計算書は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

内容(注)	第185(当)期	第184(前)期
	処分予定日：2017年3月22日	処分確定日：2016年3月23日
I. 未処分利益剰余金	1,731,381	1,159,233
1. 前期繰越未処分利益剰余金	-	-
2. 新種資本証券配当	(45,691)	(57,158)
3. 当期純利益	1,777,072	1,216,391
II. 任意積立金等の取崩額	6,723,196	6,378,313
1. 任意積立金	6,723,196	6,346,989
2. 貸倒準備金	-	31,324
合計	8,454,577	7,537,546
III. 利益剰余金処分額	8,454,577	7,537,546
1. 利益準備金	177,707	121,639
2. 貸倒準備金	47,848	-
3. その他準備金	12,652	11,814
4. 任意積立金	7,676,276	6,723,196
5. 新種資本証券償還損失	60,094	30,897
6. 配当金		
：普通株現金配当	480,000	650,000
1株当り：当期302.72ウォン(6.05%)		
前期409.94ウォン(8.20%)		
IV. 次期繰越未処分利益剰余金	-	-

(注) 上記の利益剰余金処分計算書は、当行の個別財務諸表に基づき作成されました。

## (6) 配当金

当期及び前期における普通株の配当金計算内訳は以下の通りです。

(単位：株、ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
配当対象株式数	1,585,615,506	1,585,615,506
1株当り額面金額	5,000	5,000
額面配当率	6.05%	8.20%
1株当り配当金額	302.72	409.94

## (7) 配当性向

当期及び前期の普通株に対する配当性向の計算内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
普通株配当金	480,000	650,000
当期純利益(注)	1,940,256	1,489,654
配当性向(当期純利益基準)	24.74%	43.63%
貸倒準備金反映後の調整利益(注)	1,892,690	1,492,621
配当性向(貸倒準備金反映後の調整利益基準)	25.36%	43.55%

(注) 当期純利益及び貸倒準備金反映後の調整利益は、支配企業所有持分基準の金額です。

## 26. 貸倒準備金

貸倒準備金は銀行業監督規定第29条第1項及び第2項により算出及び開示される事項です。

## (1) 貸倒準備金の残高

当期末及び前期末現在における貸倒準備金の残高は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
貸倒準備金積立額	1,741,125	1,744,092
貸倒準備金繰入(戻入)予定額	47,566	(2,967)
貸倒準備金残高	1,788,691	1,741,125

## (2) 貸倒準備金繰入額及び貸倒準備金反映後の調整利益等

当期及び前期の貸倒準備金繰入額及び貸倒準備金反映後の調整利益等は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
貸倒準備金繰入(戻入)額	47,566	(2,967)
貸倒準備金反映後の調整利益	1,893,055	1,492,955
貸倒準備金反映後の1株当り調整利益(ウォン)	1,165	906

27. 純受取利息

(1) 当期及び前期における受取利息の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
現金預け金利息	73,921	101,931
売買目的金融資産利息	168,205	162,624
売却可能金融資産利息	454,557	485,026
満期保有金融資産利息	324,128	318,940
貸付債権利息	6,581,065	6,505,540
その他利息	94,325	75,431
合計	7,696,201	7,649,492
減損された金融資産から発生した受取利息	24,167	26,168

(2) 当期及び前期における支払利息の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
預金利息	2,516,627	2,787,728
借入負債利息	162,393	172,764
社債利息	470,765	472,676
その他利息	42,295	51,609
合計	3,192,080	3,484,777

## 28 . 純受取手数料

当期及び前期における手数料の受取・支払の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第185(当)期	第184(前)期
受取手数料	与信取扱手数料	69,953	68,509
	電子金融手数料	136,180	135,996
	仲介手数料	90,547	110,684
	業務代行手数料	308,596	321,506
	投資金融手数料	47,348	67,277
	外国為替受取手数料	164,680	149,057
	信託報酬手数料	98,406	71,533
	受取保証料	60,279	54,829
	その他手数料	85,631	70,895
	合計	1,061,620	1,050,286
支払手数料	与信関連手数料	30,037	41,113
	ブランド使用手数料	32,883	49,905
	サービス関連手数料	14,573	12,787
	売買及び仲介関連手数料	7,539	7,006
	外国為替支払手数料	29,899	24,766
	その他手数料	62,191	60,846
	合計	177,122	196,423

## 29. 受取配当

当期及び前期における受取配当の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
売買目的金融資産	28,957	35,580
売却可能金融資産	94,602	148,521
合計	123,559	184,101

## 30. 売買目的金融商品関連損益

当期及び前期における売買目的金融商品関連損益の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第185(当)期	第184(前)期	
売買目的 金融商品	債務証券	評価益	3,044	8,414
		処分益	28,977	16,060
		評価損	(34,816)	(13,199)
		処分損	(23,403)	(6,018)
		小計	(26,198)	5,257
	持分証券	評価益	14,848	5,961
		処分益	27,440	39,794
		評価損	(3,504)	(1,618)
		処分損	(16,851)	(37,696)
		小計	21,933	6,441
	金/銀関連	評価益	18,336	24,366
		処分益	4,397	2,183
		評価損	(61,321)	(5,238)
		処分損	(1,808)	(379)
		小計	(40,396)	20,932
	合計		(44,661)	32,630

売買目的 デリバティブ	外国為替 関連	評価及び取引益	4,911,654	2,820,344
		評価及び取引損	(4,898,751)	(2,681,979)
		小計	12,903	138,365
	金利関連	評価及び取引益	497,453	461,209
		評価及び取引損	(479,927)	(464,253)
		小計	17,526	(3,044)
	株式関連	評価及び取引益	50,601	9,728
		評価及び取引損	(7,912)	(10,931)
		小計	42,689	(1,203)
	商品関連	評価及び取引益	55,694	10,594
		評価及び取引損	(25,319)	(42,921)
		小計	30,375	(32,327)
	合計		103,493	101,791
合計		58,832	134,421	

### 3 1 . 金融商品資産減損損失

当期及び前期における金融商品資産の減損損失の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第185(当)期	第184(前)期
金融商品 減損損失	貸付債権及びその他金融資産	656,433	592,845
	売却可能金融資産	82,103	206,570
合計		738,536	799,415

## 32. 一般管理費

当期及び前期における一般管理費の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第185(当)期	第184(前)期
従業員給与	長・短期従業員給与	1,538,465	1,472,898
	確定給付型退職給付費用	140,480	127,171
	確定拠出型退職給付費用	102	-
	解雇給与	94,478	59,549
	小計	1,773,525	1,659,618
減価償却費及び その他償却費	減価償却費	120,566	128,617
	無形資産償却費	39,851	36,764
	小計	160,417	165,381
その他 一般管理費	福利厚生費	112,189	106,869
	賃借料	258,277	260,651
	役務費	219,709	219,857
	租税公課	75,334	78,254
	広告宣伝費	57,394	57,950
	電算運用費	56,903	63,436
	その他管理費	176,105	173,418
	小計	955,911	960,435
合計	2,889,853	2,785,434	

## 33. 株式基準報酬

(1) 当期末現在における株式基準報酬約定は以下の通りです。

区分	4次発行分	5次発行分	6次発行分	7次発行分
権利付与日	2005.03.30	2006.03.21	2007.03.20	2008.03.19
行使価格(注1)	28,006ウォン	38,829ウォン	54,560ウォン	49,053ウォン
付与数量	1,903,200株	2,157,600株	715,500株	332,850株
行使可能期間	権利付与日から 3年以降4年間	権利付与日から 3年以降4年間	権利付与日から 3年以降4年間	権利付与日から 3年以降4年間
数量増減内訳				
期首	93,426株	101,963株	50,513株	26,233株
消滅	-	-	-	-
当期末(注2)	93,426株	101,963株	50,513株	26,233株
公正価値(注3)	17,244ウォン	6,421ウォン	-	-

(注1) 当期末現在においてストックオプションは全て稼働されており、残余数量272,135株の加重平均行使価格は39,019ウォンです。

(注2) 当期末現在、第4次、第5次、第6次、第7次付与分における残余数量の行使は保留されています。

(注3) 当期末現在における保留分に対する公正価値は新韓金融持株株式の終値と行使価格の差異である内在価値で評価しました。

(2) 株式決済型株式基準報酬約定

当期末現在における成果連動型株式基準報酬の内容は以下の通りです。

区分	内容
類型	株式決済型(注)
付与期間 (約定役務期間)	2013年までの付与分：2010年4月1日以降の選任及び昇進時 (付与日から3年間) 2014年からの付与分：2014年1月1日以降の選任及び昇進時 (付与日から1年間)
成果条件	2013年まで相対株価連動(33.4%)及び4年間の経営指標連動(66.6%)、 2014年から相対株価連動(20.0%)及び4年間の経営指標連動(80.0%)

(注) 新韓金融持株の株式を付与し、支払約定により当行が新韓金融持株会社に支払うべき金額を負債として認識し、株式決済型により認識する報酬費用との差異は資本に反映しています。

付与数量及び付与時点の公正価値は以下の通りです。

(単位：株、ウォン)

付与日	付与数量	公正価値（注1）	見積数量（注2）
2010-04-01	306,400	45,150	10,471
2012-02-08	30,900	46,650	122
2012-10-15	4,100	37,200	357
2013-01-01	183,100	40,050	105,325
2013-03-21	4,400	37,750	1,156
2013-05-27	14,500	40,250	9,681
2013-08-01	4,400	41,250	2,931
2014-01-01	109,800	47,300	101,819
2014-02-08	5,400	44,300	4,439
2014-04-01	4,800	47,000	3,282
2014-10-15	2,400	47,150	449
2015-01-01	159,000	44,500	138,695
2015-03-18	16,800	42,650	11,736
2015-04-10	2,300	40,350	1,484
2015-05-01	2,300	46,000	1,370
2015-05-22	5,300	42,800	2,893
2015-05-27	2,300	40,200	1,229
2015-08-01	2,300	41,900	872
2015-08-24	2,300	40,250	724
2016-01-01	221,900	39,000	145,295
合計	1,084,700		544,330

（注1） 付与時点の新韓金融持株株式の終値を単位当りの公正価値で算定し、当期末現在における新韓金融持株株式の公正価値は45,250ウォンです。

（注2） 当初付与時点の付与数量に、約定役務期間中の在任日数に該当する基準数量に基づき相対株価上昇率による付与数量を調整し（2013年まで33.4%、2014年から20.0%）、経営成績達成率による付与数量を調整し（2013年まで66.6%、2014年から80.0%）、運営期間終了後に獲得数量を確定します。

（3） 当期及び前期に発生した報酬費用の内訳は以下の通りです。

（単位：百万ウォン）

区分	第185（当）期	第184（前）期
総報酬費用	17,577	7,009

（4） 当期末及び前期末現在、株式基準報酬に関連する未払費用及の内訳は以下の通りです。

（単位：百万ウォン）

区分	第185(当)期	第184(前)期
未払費用	27,942	22,116

### 34. その他営業損益

当期及び前期におけるその他営業損益の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期	
その他営業収益			
資産処分関連	貸付債権処分益	28,314	72,554
	償却債権処分益	3,044	34,476
	小計	31,358	107,030
その他 営業収益	リスクヘッジ対象関連利益	270,662	176,204
	リスクヘッジ手段関連利益	33,753	38,007
	支払保証引当金戻入額	6,780	33,519
	その他負債性引当金戻入額	14,569	1,958
	その他	20,187	23,917
	小計	345,951	273,605
その他営業収益合計		377,309	380,635
その他営業費用			
資産処分関連	貸付債権処分損	10,783	8,974
その他 営業費用	リスクヘッジ対象関連損失	33,550	36,467
	リスクヘッジ手段関連損失	283,885	177,191
	支払保証引当金繰入額	11,003	-
	その他負債性引当金繰入額	42,334	34,278
	基金出捐金	244,661	267,454
	預金保険料	274,881	248,960
	その他	116,232	123,151
	小計	1,006,546	887,501
その他営業費用合計		1,017,329	896,475
その他営業損益		(640,020)	(515,840)

## 35. 営業外損益

当期及び前期における営業外損益の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第185(当)期	第184(前)期
営業外収益			
資産処分関連	有形資産処分益	298	1,122
	無形資産処分益	51	2
	投資不動産処分益	1,438	1,402
	売却予定資産処分益	821	705
	非業務用資産処分益	3	433
	小計	2,611	3,664
従属企業及び関係企業に対する投資資産関連	処分益	5,177	95,232
その他営業外収益	投資不動産賃貸収益	23,185	24,400
	その他	81,751	72,705
	小計	104,936	97,105
営業外収益合計		112,724	196,001
営業外費用			
資産処分関連	有形資産処分損	566	75
	無形資産処分損	149	9
	投資不動産処分損	248	13
	売却予定資産処分損	-	29
	非業務用資産処分損	78	-
	小計	1,041	126
従属企業及び関係企業に対する投資資産関連	減損損失	-	9,024
	処分損	17	277
	小計	17	9,301
その他営業外費用	投資不動産減価償却費	15,356	9,324
	寄付金	13,334	18,614
	有形資産減損損失	7	100
	無形資産減損損失	98	-
	その他	21,740	30,591
	小計	50,535	58,629

営業外費用合計	51,593	68,056
営業外損益	61,131	127,945

### 36. 法人税費用及び繰延税金

#### (1) 法人税費用の構成内訳

当期及び前期における法人税費用の算出内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
当期法人税負担額	378,526	275,694
一時差異による繰延税金変動額	(36,362)	15,302
税務上の欠損金による繰延税金変動額	(336,468)	-
資本に直接反映された繰延税金	82,407	94,086
法人税費用	88,103	385,082

#### (2) 法人税費用の差異内訳

当期及び前期における税引前純利益と法人税費用間の関係は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
税引前継続事業利益	2,028,724	1,875,070
適用税率	24.20%	24.20%
適用税率による法人税	490,489	453,305
非課税収益	(26,128)	(15,329)
非控除費用	11,619	4,161
連結納税	(25,216)	(23,692)
税務上の欠損金の認識	(336,468)	-
法人税還付額	(22,316)	(9,795)
その他	(3,877)	(23,568)
法人税費用	88,103	385,082
実効税率(注)	4.34%	20.54%

(注) 連結実体は前期まで期限が経過した税務上の欠損金に対して実現可能性がないと判断して繰延税金資産を認識しませんでした。当期中に課税官庁の還付決定及び有権解釈、会社の営業実績、今後の消滅時

効満了預金に対する見積等を総合的に考慮して資産性があると判断し、繰延税金資産（法人税収益）を認識しました。

## (3) 一時差異及び繰延税金

当期及び前期における一時差異及び繰延税金資産（負債）の増減内訳は以下の通りです。

< 第185（当）期 >

（単位：百万ウォン）

区分	期首残高	減少	増加	期末残高	繰延税金資産 （負債）（注1）
未収収益	(352,041)	(352,041)	(343,790)	(343,790)	(83,197)
未収金	(45,943)	(45,943)	(36,089)	(36,089)	(8,734)
売買目的金融資産	(117,749)	(117,749)	(56,431)	(56,431)	(13,656)
売却可能金融資産	1,145,851	545,921	189,234	789,164	190,978
関係企業に対する投資資産 （注2）	(104,035)	(104,035)	(217,184)	(217,184)	(52,558)
繰延貸付付帯収益（費用）	(344,697)	(344,697)	(378,933)	(378,933)	(91,702)
有形資産評価及び償却等	(483,906)	(6,985)	18,133	(458,788)	(111,161)
デリバティブ資産（負債）	(121,775)	(79,169)	(99,269)	(141,875)	(34,334)
預金	63,688	(3,782)	7,581	75,051	18,162
未払費用	257,820	245,813	287,577	299,584	72,499
確定給付債務	1,041,404	40,526	132,423	1,133,301	274,259
社外積立資産	(1,018,940)	(40,527)	(10,184)	(988,597)	(239,241)
その他引当負債	215,799	215,799	228,432	228,432	55,280
支払保証引当負債	80,290	80,290	78,499	78,499	18,997
圧縮記帳引当負債	(179,485)	(47)	-	(179,438)	(45,977)
一時償却引当負債	(2,387)	(232)	-	(2,155)	(521)
みなし配当	5,513	-	-	5,513	1,334
売却可能金融資産評価損益	(510,514)	(510,514)	(190,018)	(190,018)	(50,194)
未払寄付金	44,134	44,134	35,717	35,717	8,644
貸倒引当金及び貸倒金	286,635	286,635	318,993	318,993	85,739
株式報酬費用関連調整額	1,230	1,152	2,266	2,344	567
みなし配当	3,913	21	134	4,026	974
その他	227,132	193,424	120,905	154,613	37,415
小計	91,937	47,994	87,996	131,939	33,573
< 繰越欠損金 >					
時効満了預金の欠損金の引当	-	30,806	1,421,168	1,390,362	336,468
< 繰延税金資産及び負債として認識しなかった一時差異 >					
関係企業に対する投資資産 （注2）	(146,133)	-	(134,824)	(280,957)	(67,992)

合計	238,070	78,800	1,643,988	1,803,258	438,033
----	---------	--------	-----------	-----------	---------

(注1) 為替レート変動効果により、海外従属会社の繰延税金資産 1,954百万ウォンが増加しました。

(注2) 持分法評価による税効果は、関係企業被投資会社別に繰延税金の適用可能金額及び実現可能性を考慮して合理的に見積もっています。

< 第184 (前) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分	期首残高	減少	増加	期末残高	繰延税金資産 (負債) (注1)
未収収益	(347,483)	(347,483)	(352,041)	(352,041)	(85,194)
未収金	(58,567)	(58,567)	(45,943)	(45,943)	(11,118)
売買目的金融資産	(84,746)	(102,318)	(135,321)	(117,749)	(28,495)
売却可能金融資産	1,171,729	256,361	230,483	1,145,851	277,296
関係企業に対する投資資産 (注2)	43,362	43,362	(104,035)	(104,035)	(25,177)
繰延貸付付帯収益(費用)	(263,296)	(263,296)	(344,697)	(344,697)	(83,417)
有形資産評価及び償却等(注3)	(449,814)	18,411	(15,681)	(483,906)	(117,241)
デリバティブ資産(負債)	(71,770)	(798)	(50,803)	(121,775)	(29,469)
預金	120,696	49,698	(7,310)	63,688	15,412
未払費用	330,472	330,458	257,806	257,820	62,392
確定給付債務	868,023	42,536	215,917	1,041,404	252,020
社外積立資産	(753,648)	(42,536)	(307,828)	(1,018,940)	(246,583)
その他引当負債	191,776	191,776	215,799	215,799	52,223
支払保証引当負債	106,952	106,952	80,290	80,290	19,430
圧縮記帳引当負債	(181,031)	(1,546)	-	(179,485)	(45,989)
一時償却引当負債	(2,618)	(231)	-	(2,387)	(578)
みなし配当	5,513	-	-	5,513	1,334
売却可能金融資産評価損益	(828,276)	(828,276)	(510,514)	(510,514)	(123,544)
未払寄付金	49,300	49,300	44,134	44,134	10,680
貸倒引当金及び貸倒金	192,503	192,503	286,635	286,635	77,700
株式報酬費用関連調整額	2,196	2,118	1,152	1,230	298
みなし配当	3,909	3	7	3,913	947
その他(注3)	264,399	242,751	205,484	227,132	54,558
小計	309,581	(118,822)	(336,466)	91,937	27,485
< 繰延税金資産及び負債として認識しなかった一時差異 >					

関係企業に対する投資資産 (注2)	(11,532)	-	(134,601)	(146,133)	(35,364)
合計	321,113	(118,822)	(201,865)	238,070	62,849

(注1) 為替レート変動効果により、海外従属会社の繰延税金資産1,455百万ウォンが増加しました。

(注2) 持分法評価による税効果は、関係企業被投資会社別に繰延税金の適用可能金額及び実現可能性を考慮して合理的に見積もっています。

(注3) 当期にPT Centratama Nasional Bankの企業結合の会計処理の完了により前期末金額の遡及調整を行いました。

(4) 資本に直接加減する項目に関連する法人税

当期及び前期中に資本に直接付加されるか、或いは減算された法人税の内訳は以下の通りです。

<第185(当)期>

(単位：百万ウォン)

区分	期末		期首		税効果増減
	期末金額	税効果	期首金額	税効果	
売却可能金融資産評価損益	190,018	(50,194)	510,514	(123,544)	73,350
関係企業のその他包括損益 に対する持分	16,392	191	14,376	(635)	826
海外事業損益	(140,918)	(11,018)	(135,644)	(24,630)	13,612
再測定要素	(370,692)	89,776	(396,286)	95,901	(6,125)
その他資本調整	(1,170)	283	1,904	(461)	744
合計	(306,370)	29,038	(5,136)	(53,369)	82,407

<第184(前)期>

(単位：百万ウォン)

区分	期末		期首		税効果増減
	期末金額	税効果	期首金額	税効果	
売却可能金融資産評価損益	510,514	(123,544)	828,277	(200,443)	76,899
関係企業のその他包括損益 に対する持分	14,376	(635)	7,656	82	(717)
海外事業損益	(135,644)	(24,630)	(126,901)	(25,531)	901
再測定要素	(396,286)	95,901	(324,196)	78,456	17,445
その他資本調整	1,904	(461)	77	(19)	(442)
合計	(5,136)	(53,369)	384,913	(147,455)	94,086



## (5) 当期法人税資産及び負債

当期末及び前期末現在における当期法人税資産及び負債の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第185(当)期	第184(前)期
当期法人税資産	前払法人税等	11,769	7,409
当期法人税負債	法人税未払金 (連結納税負担額)	122,866	22,476
	未払法人税	14,856	17,553
	合計	137,722	40,029

## (6) 総額基準法人税内訳

当期末及び前期末現在、相殺前総額基準による繰延税金資産、繰延税金負債、当期法人税資産及び当期法人税負債の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
繰延税金資産	1,858,502	1,299,151
繰延税金負債(注)	1,420,469	1,236,302
当期法人税資産	182,653	251,324
当期法人税負債	308,606	283,944

(注) 当期にPT Centratama Nasional Bankの企業結合の会計処理の完了により前期末金額の遡及調整を行いました。

## 37. 1株当たり純利益

当期及び前期における1株当たり利益の計算内訳は以下の通りです。

## (1) 1株当たり利益

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
支配企業純利益	1,940,256	1,489,654
新種資本証券配当	(45,691)	(57,158)
普通株に帰属される利益	1,894,565	1,432,496
加重平均流通普通株式数(株)	1,585,615,506	1,585,615,506
基本的及び希薄化後1株当たり純利益 (ウォン)	1,195	903

連結実体は希薄化後潜在的普通株を保有しておらず、ストックオプションは希薄化効果がないため、当期及び前期の希薄化後1株当たり純利益は基本的1株当たり純利益と一致します。

(2) 加重平均流通普通株式数

(単位：株、日)

区分	期間	株式数	加重値	加重平均流通普通株式数
第185(当)期	2016.01.01～2016.12.31	1,585,615,506	366/366	1,585,615,506
第184(前)期	2015.01.01～2015.12.31	1,585,615,506	365/365	1,585,615,506

38. 偶発及び約定事項

(1) 当期末及び前期末現在、支払保証及び約定の種類別の金額は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第185(当)期	第184(前)期
支払保証	確定支払保証	9,304,497	10,087,055
	未確定支払保証	2,995,307	3,032,620
	合計	12,299,804	13,119,675
約定	ウォン貸貸付約定	53,470,641	53,154,222
	外貨貸付約定	20,464,116	21,764,967
	ABS及びABCP買入約定	2,060,089	2,668,370
	その他	1,350,937	1,303,246
	合計	77,345,783	78,890,805
裏書手形	担保裏書手形	32,187	29,549
	無担保裏書手形	8,822,654	7,542,862
	合計	8,854,841	7,572,411
買戻権付貸付債権売却	ウォン貸	2,099	2,099

## (2) 支払保証引当負債

当期末及び前期末現在、支払保証引当負債の設定対象及び支払保証引当負債の設定比率は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
確定支払保証	9,304,497	10,087,055
未確定支払保証	2,995,307	3,032,620
ABS及びABCP買入約定	2,060,089	2,668,370
担保裏書手形	32,187	29,549
設定対象支払保証総額	14,392,080	15,817,594
支払保証引当負債	78,499	80,289
引当負債設定比率(%)	0.55	0.51

## (3) 係争中の訴訟事件

当期末現在、連結実体に関連して係争中の被訴訟事件は以下の通りです。

(単位：件、百万ウォン)

事件名	件数	訴価	事件内容	訴訟現況
物品代金 請求の訴	1	43,761	偽造の支払保証書に基づいて物品を納品し、物品代金を受け取れなくなり、当該支払保証書に基づいて未回収の物品代金に対して当行に支払保証責任履行を請求した。	1審の一部の敗訴金額に対して全額支払っており、2審で一部勝訴して敗訴率の削減、(敗訴率70%60%、差額回収)、3審が進行中である。
株式返還等の 請求の訴	1	31,000	原告とPEFの間に締結したメディソン株式会社に対する売買契約は解約ないし取り消されており、これと一体となっている当事者間のオプション契約、修正オプション契約もまた無効となったため、株式売買契約の無効を根拠としてメディソン株式の返還等を要求している。	1次～4次の弁論期間中、原告と被告との間に準備書面の提出を通じた攻防が行われ、被告側は2次の弁論期日以降には、原告側が要請して裁判所が承認した資料以外に別途の準備書面は提出していない。

Lehman Brothers Special Financing Inc (LBSF)	1	12,085	Lehman Brothersが破産した後、 当行及び投資者にCDO投資金を返 還したが、これは、アメリカ破 産法に反するもので、誤って支 払われたものであるため、返還 することを請求した。	Lehman Brothers側と仲裁手続を 行って合意金を支払うために準 備していたものの、当行を含む 被告が1審で勝訴したため、合意 金の支払を拒絶している状態 である。今後、仲裁の効力及び2審 の勝訴可能性等を勘案して対応 する予定である。
その他	124	167,651	損害賠償等多数	
合計	127	254,497		

連結実体は当期末現在、1審で敗訴が決定された訴訟案件等に関して 12,044百万ウォンを訴訟引当負債として  
 計上しており、引当負債として計上された訴訟以外の残余訴訟結果は財務諸表に重大な影響を及ぼさないと予  
 測されているものの、今後の訴訟結果により追加的な損失が発生する可能性もあります。

(4) オペレーティングリースの満期構造

当期末及び前期末現在、解約不可能リース契約により支払わなければならない将来最低リース料約定金額は以  
 下の通りです。

< 第185 (当) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分	1年以内	1年超過5年以内	5年超過	合計
最低リース料	169,055	155,618	3,720	328,393

< 第184 (前) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分	1年以内	1年超過5年以内	5年超過	合計
最低リース料	191,107	227,287	3,873	422,267

## 39. キャッシュ・フロー計算書に対する注記

(1) 当期末及び前期末現在、現金及び現金性資産の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
現金	1,763,335	1,900,980
支払準備預け金	2,718,354	7,794,542
その他預け金	9,987,698	7,195,864
小計	14,469,387	16,891,386
使用制限預け金	(7,491,447)	(11,454,577)
取得当時に満期日が 3ヶ月を超過した預け金	(2,350,156)	(1,858,091)
小計	(9,841,603)	(13,312,668)
合計	4,627,784	3,578,718

(2) 当期及び前期中に、現金の流入及び流出を伴わない取引の主な内容は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
新種資本証券未払配当金	1,309	9,231
貸付債権出資転換	32,229	34,218
無形資産取得未払金	2,825	59,810

## 40. 特殊関係者取引

## (1) 特殊関係者債権・債務

当期末及び前期末現在、特殊関係者間の重要な債権・債務の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

特殊関係者	勘定科目	第185(当)期	第184(前)期
1) 連結実体の支配企業			
新韓金融持株会社	その他資産	-	47
	預金	42	500,909
	その他負債	166,191	57,888
2) 同一支配企業			
新韓カード	デリバティブ資産	4,365	10,452
	その他資産	2,097	2,039
	預金	86,658	88,779
	デリバティブ負債	119	-
	引当負債	48	48
	その他負債	19,881	20,130
新韓金融投資	現金預け金	725	-
	デリバティブ資産	53,546	9,676
	貸付債権	-	9,426
	貸倒引当金	-	(83)
	その他資産	18,823	18,530
	預金	252,707	180,784
	デリバティブ負債	4,354	5,180
	引当負債	33	76
	その他負債	34,423	32,786
新韓生命	デリバティブ資産	40,604	14,215
	その他資産	7	8
	預金	9,526	6,424
	デリバティブ負債	369	566
	引当負債	4	4
	その他負債	13,913	38,690

新韓キャピタル	預金	457	573
	借入負債	13,000	-
	引当負債	10	10
	その他負債	9,670	1,299
済州銀行	貸付債権	2,903	4,282
	貸倒引当金	(1)	(2)
	その他資産	6	20
	預金	3,530	3,605
	その他負債	1,604	1,604
新韓信用情報	預金	7,836	8,571
	その他負債	1,119	1,188
新韓プライベートエクイティ	貸付債権	-	3,000
	貸倒引当金	-	(16)
	預金	12	65
	引当負債	-	8
新韓BNPパリバ資産運用	預金	42,549	72,601
	その他負債	821	1,127
SHCマネージメント	預金	-	100
	その他負債	-	2
新韓データシステム	預金	3,940	3,069
	その他負債	6,658	4,148
新韓貯蓄銀行	その他負債	8,987	-
新韓アイタス	預金	20,296	16,200
	その他負債	42	69
3) 関係企業及び同一支配企業の関係企業			
アジュキャピタル	売買目的金融資産	49,990	99,953
	貸付債権	210,000	160,000
	貸倒引当金	(611)	(466)
	預金	692	1,061
	引当負債	73	55
BNPパリバカーディフ生命保険	預金	353	644
	引当負債	1	1

連合資産管理(注1)	貸付債権	-	23,100
	貸倒引当金	-	(31)
	預金	-	410
	引当負債	-	46
浦項テクノパーク2PFV	預金	14,658	14,662
極東建設(注1)	預金	-	5,388
	引当負債	-	15
BNPパリバカードィフ損害保険	預金	13	12
ドリームハイ投資組合3号	預金	1	4
SHレンタルサービス	預金	-	219
SP新技術事業投資組合1号	預金	-	283
マイダス東亜スノーボール投資組合	預金	427	303
IBKS 新韓創造経済 新技術事業投資組合	預金	1,751	1,463
EQPグローバルエネルギー インフラ私募投資専門会社	預金	1	3
ジェヨンソリュートック	貸付債権	14,356	15,276
	貸倒引当金	(69)	(159)
	預金	7,638	15,261
	引当負債	7	15
パートナーズ第4号 Growth投資組合	預金	2,160	2,704
クレディアンヘルスケア第2号 私募投資合資会社	預金	7	-
スノーボール投資組合第2号	預金	242	-
IBKS 新韓創造経済 新技術事業投資組合第2号	預金	179	-
PSA第1号フィンテック 私募投資合資会社	預金	525	-
イウム第3号私募投資合資会社	預金	80	-
(株)ブランビル	貸付債権	15	-
	預金	28	-
4) 主な経営陣			
貸付債権		936	1,497
貸倒引当金		(1)	(1)

引当負債	1	1
------	---	---

(注1) 当期中に関係企業及び同一支配企業の関係企業から除外されました。

## (2) 特殊関係者収益・費用

当期及び前期における特殊関係者間の重要な取引内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

特殊関係者	勘定科目	第185(当)期	第184(前)期
1) 連結実体の支配企業			
新韓金融持株会社	その他営業収益	2,011	2,054
	支払利息	(1,751)	(2,429)
	支払手数料	(29,893)	(45,368)
2) 同一支配企業			
新韓カード	受取利息	417	199
	受取手数料	180,127	175,800
	デリバティブ関連利益	7,317	8,649
	その他営業収益	1,726	1,930
	支払利息	(251)	(346)
	支払手数料	(325)	(317)
	デリバティブ関連損失	(5,986)	(2,490)
	その他営業費用	(1,982)	(395)
新韓金融投資	受取利息	796	1,382
	受取手数料	4,517	4,077
	デリバティブ関連利益	59,157	9,003
	その他営業収益	4,431	3,692
	支払利息	(1,317)	(2,135)
	支払手数料	-	(12)
	デリバティブ関連損失	(13,564)	(7,630)
	貸倒償却費	83	(22)
	その他営業費用	(1,171)	(824)
新韓生命	受取利息	45	50
	受取手数料	6,688	9,939
	デリバティブ関連利益	45,570	22,643
	その他営業収益	1,400	1,889
	支払利息	(315)	(828)
	デリバティブ関連損失	(9,531)	(3,766)
	その他営業費用	(557)	(645)

新韓キャピタル	受取利息	-	1
	デリバティブ関連利益	-	29
	その他営業収益	302	899
	支払利息	(150)	(219)
	支払手数料	(14)	(2)
	その他営業費用	-	(6)
済州銀行	受取利息	43	41
	その他営業収益	230	204
	支払利息	(33)	(30)
	貸倒償却費	1	1
	その他営業費用	(11)	-
新韓信用情報	受取手数料	2	2
	その他営業収益	67	77
	支払利息	(126)	(190)
	支払手数料	(4,895)	(5,474)
新韓 プライベートエクイティ	その他営業収益	8	-
	支払利息	-	(3)
	貸倒償却費	16	3
	その他営業費用	-	(3)
新韓 BNPパリバ資産運用	受取手数料	42	55
	その他営業収益	52	53
	支払利息	(747)	(1,770)
	支払手数料	(2,243)	(2,579)
SHCマネージメント	支払利息	-	(2)
新韓データシステム	その他営業収益	119	89
	支払利息	(142)	(141)
	その他営業費用	(31,281)	(32,447)
新韓貯蓄銀行	受取手数料	481	229
	その他営業収益	116	61
	支払利息	(60)	-
新韓アイタス	受取手数料	28	27
	その他営業収益	49	55
	支払利息	(153)	(215)
	支払手数料	-	(8)

新韓BNPP名品ファンド セレクション証券投資信託	受取手数料	2	-
3) 関係企業及び同一支配企業の関係企業			
アジュキャピタル	受取利息	7,332	6,440
	受取手数料	72	78
	その他営業収益	-	23
	支払利息	(2)	(1)
	貸倒償却費	(146)	148
	その他営業費用	(18)	-
BNPパリバカードィフ 生命保険	受取手数料	30	30
	その他営業費用	(1)	-
連合資産管理(注1)	受取利息	-	4
	受取手数料	-	9
	その他営業収益	-	4
	支払利息	-	-
	貸倒償却費	-	(31)
浦項テクノパーク2PFV	支払利息	(15)	(15)
極東建設(注1)	受取利息	-	26
	受取手数料	-	16
	支払利息	-	(35)
	支払手数料	-	(3)
	その他営業費用	-	(15)
BNPパリバカードィフ 損害保険	受取手数料	2	2
ドリームハイ投資組合3号	支払利息	-	(5)
SHレンタルサービス	支払利息	-	(1)
マイダス東亜 スノーボール投資組合	支払利息	(4)	(3)
IBKS 新韓創造経済 新技術事業投資組合	支払利息	(1)	(2)

ジェヨンソリュートック	受取利息	671	616
	受取手数料	1	1
	その他営業収益	7	-
	支払利息	(21)	(47)
	貸倒償却費	90	(159)
	その他営業費用	-	(15)
パートナーズ第4号 Growth投資組合	支払利息	(2)	(6)
アルバトロスグロスファンド	支払利息	(6)	-
PSA第1号フィンテック	支払利息	(5)	-
スノーボール投資組合第2号	支払利息	(1)	-
シメンティック	受取利息	15	-
プランビル	受取手数料	1	-
ナムワアイ	受取利息	3	-
4) 主な経営陣			
受取利息		35	63

(注1) 当期中に関係企業及び同一支配企業の関係企業から除外されました。

(3) 特殊関係者に対する給与

当期及び前期における特殊関係者に対する給与の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

勘定科目	第185(当)期	第184(前)期
長・短期従業員給与	7,770	8,684
退職給付	327	242
株式基準報酬	4,447	2,830
合計	12,544	11,756

(4) 特殊関係者の支払保証内訳

当期末及び前期末における特殊関係者間の主な支払保証の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

提供者	提供を受けている者	保証金額		保証内訳
		第185(当)期	第184(前)期	

新韓銀行	新韓金融投資	6,043	10,548	履行保証（支払保証書方式）
		181,000	181,000	未使用貸付限度
	新韓カード	500,000	500,000	未使用貸付限度
	新韓生命	50,000	50,000	未使用貸付限度
	新韓キャピタル	50,000	50,000	未使用貸付限度
	新韓BNPパリバ 資産運用	104,008	43,063	証券引受約定
	新韓プライベートエクイ ティ	-	4,344	未使用貸付限度
	KoFC新韓フロンティア チャンプ2010の4号 私募投資専門会社	-	13,417	証券引受約定
	BNPパリバカードィフ 生命保険	10,000	10,000	未使用貸付限度
	アジュキャピタル	50,000	50,000	未使用貸付限度
	連合資産管理（注1）	-	89,100	未使用貸付限度
		-	89,950	証券引受約定
	極東建設（注1）	-	1,574	履行保証（支払保証書方式）
	Neoplux技術価値評価 投資組合	12,000	18,000	証券引受約定
	ジェヨンソリュートック	600	600	未使用貸付限度
483		469	輸入信用状発行	
合計	964,134	1,112,065		

（注1） 当期中に関係企業及び同一支配企業の関係企業から除外されました。

（5） 特殊関係者への担保提供内訳

1) 当期末及び前期末現在、特殊関係者に提供している担保は以下の通りです。

（単位：百万ウォン）

提供者	会社名	担保提供資産	第185（当）期		第184（前）期	
			帳簿価額	担保設定額	帳簿価額	担保設定額
同一支配企業	新韓金融投資	有価証券	235,084	43,799	195,496	37,646
	新韓生命		21,963	10,310	10,349	10,349
合計			257,047	54,109	205,845	47,995

2) 当期末及び前期末現在、特殊関係者から提供を受けている担保は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

提供者	会社名	担保提供資産	担保設定額	
			第185(当)期	第184(前)期
同一 支配企業	新韓金融投資	預金	112,011	22,000
		不動産	91,974	91,974
	済州銀行	国債	20,000	20,000
	新韓生命	国債	7,518	7,686
	新韓信用情報	預金	210	210
関係企業	アジュキャピタル	信託1種受益権	160,000	160,000
	BNPパリバカードィフ 生命保険	国公債	13,699	13,676
	ナムワイ	不動産	200	-
	ジェヨンソリューテック	不動産	20,814	20,814
		輸出保険公社保証書	7,037	7,214
合計			433,463	343,574

#### 4 1 . 従属企業財務諸表の要約

(1) 当期末及び前期末現在、支配企業である新韓銀行(個別)及び連結対象従属企業の要約財務状態表は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

会社名	第185(当)期			第184(前)期(注3)		
	資産合計	負債合計	資本合計	資産合計	負債合計	資本合計
新韓銀行	282,819,576	261,858,830	20,960,746	269,018,149	248,550,069	20,468,080
アメリカ新韓銀行	1,443,057	1,263,893	179,164	1,151,705	987,281	164,424
カナダ新韓銀行	493,736	427,823	65,913	489,113	451,490	37,623
ヨーロッパ新韓銀行	495,306	417,345	77,961	457,882	380,874	77,008
新韓銀行中国有限公司	5,861,287	5,480,614	380,673	4,957,520	4,559,552	397,968
新韓アジュ金融有限公司	476,735	257,202	219,533	372,005	166,062	205,943
新韓カザフスタン銀行	81,659	37,409	44,250	63,512	22,400	41,112
新韓クメール銀行	163,563	118,219	45,344	142,260	104,025	38,235
SBJ銀行	6,106,195	5,702,025	404,170	5,225,394	4,890,613	334,781
新韓バンク・ベトナム (注1)	2,926,241	2,405,067	521,174	2,202,300	1,738,772	463,528

メキシコ新韓銀行	34,680	369	34,311	41,484	284	41,200
新韓インドネシア銀行 (注1)	400,127	186,513	213,614	178,966	86,549	92,417
PT Centratama Nasional Bank (注1,2)	-	-	-	97,863	72,497	25,366
構造化企業等	6,943,817	6,945,661	(1,844)	5,879,249	5,890,951	(11,702)

(注1) 企業結合時に行われた公正価値の調整事項を反映しました。

(注2) 2016年12月6日基準でPT Centratama Nasional Bankと新韓インドネシア銀行が合併して新韓インドネシア銀行となりました。

(注3) 当期にPT Centratama Nasional Bankの企業結合による会計処理が完了したことにより、前期末金額の遡及調整を行いました。

(2) 当期及び前期における支配企業である新韓銀行（個別）及び連結対象従属企業の要約包括損益計算書は以下の通りです。

（単位：百万ウォン）

会社名	第185（当）期			第184（前）期		
	営業収益	期純損益	総包括損益	営業収益	期純損益	総包括損益
新韓銀行	15,839,813	1,777,072	1,582,484	13,946,587	1,216,391	931,730
アメリカ新韓銀行	56,921	9,858	14,740	50,352	3,586	13,344
カナダ新韓銀行	14,100	(769)	1,296	12,421	884	(3,599)
ヨーロッパ新韓銀行	13,861	1,754	953	11,790	1,854	(1,401)
新韓銀行中国有限公司	230,131	8,145	(17,295)	200,248	12,039	20,048
新韓アジュ金融有限公司	19,721	11,950	13,591	18,940	14,029	22,694
新韓カザフスタン銀行	6,724	1,364	3,138	8,405	2,528	(28,310)
新韓クメール銀行	10,197	5,680	7,109	9,084	3,343	5,623
SBJ銀行	171,099	48,396	69,389	141,070	32,674	49,002
新韓バンク・ベトナム （注1）	148,766	48,630	57,645	125,882	56,558	65,124
メキシコ新韓銀行	1,405	(1,784)	(7,229)	362	(2,650)	(5,296)
新韓インドネシア銀行 （注1,2）	24,444	235	6,334	8,674	854	858
PT Centratama Nasional Bank（注1）	-	-	-	10,478	345	347
構造化企業等	221,192	(2,642)	2,526	218,186	9,011	8,891

（注1） 企業結合時に行われた公正価値の調整事項を反映しました。

（注2） 2016年12月6日基準でPT Centratama Nasional Bankと新韓インドネシア銀行が合併して新韓インドネシア銀行となりました。

4 2 . 非連結構造化企業に対する持分

(1) 非連結構造化企業に対する持分の性格及び範囲

連結実体は資産流動化証券、構造化金融、投資ファンド等の投資を通じて構造化企業に關与しています。同構造化企業の主な特性は以下の通りです。

区分	主な特性
資産流動化証券	資産流動化会社は資産保有者から資産を購入し、これに基づいて資産流動化証券を発行する当事者として、企業の資金調達を円滑にして財務構造の健全性を高めるために設立された有限会社です。連結実体は構造化企業が売上債権等を基礎資産として発行した流動化証券を購入するか、或いは同構造化企業に対して信用供与及び流動化証券購入約定等を提供しています。
構造化金融	構造化金融のための構造化企業は、企業吸収合併、民間投資方式の建設プロジェクト或いは船舶投資のためのプロジェクト金融等の目的のために設立され、調達した資金は同目的の実施のために使用されます。連結実体は構造化金融のための構造化企業に貸付、持分投資等の形態で資金を提供するか、或いは必要によって様々な形態の信用供与を提供しています。
投資ファンド	投資ファンドは投資者に収益（出資）証券等を発行して資金を調達し、株式または債券等に投資してその収益を投資者に配分する投資信託、私募投資専門会社及び組合等です。連結実体は投資ファンド持分に投資するか或いは集合投資会社、業務執行社員（組員）等としてその他投資者に代わって資産を運用及び管理しています。

1) 当期末及び前期末現在における非連結構造化企業の規模は以下の通りです。

< 第185 (当) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分	資産流動化証券	構造化金融	投資ファンド	合計
資産合計	60,869,229	32,231,488	11,262,929	104,363,646

< 第184 (前) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分	資産流動化証券	構造化金融	投資ファンド	合計
資産合計	58,379,605	27,913,420	8,884,598	95,177,623

2) 当期及び前期中に非連結構造化企業から発生した損益は以下の通りです。

< 第185 (当) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分		資産流動化証券	構造化金融	投資ファンド	合計
利益	受取利息	88,830	92,706	4,163	185,699
	受取手数料	9,504	16,421	110	26,035
	受取配当	-	4,323	42,055	46,378
	その他	267	4,941	67	5,275
	合計	98,601	118,391	46,395	263,387
損失		67	9	26,402	26,478

< 第184 (前) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分		資産流動化証券	構造化金融	投資ファンド	合計
利益	受取利息	60,712	99,363	-	160,075
	受取手数料	13,836	15,039	-	28,875
	受取配当	-	4,155	89,159	93,314
	その他	185	1,801	61	2,047
	合計	74,733	120,358	89,220	284,311
損失		8	147	29,502	29,657

## (2) 非連結構造化企業に対する持分に関連するリスクの性格

- 1) 当期末及び前期末現在における非連結構造化企業の持分に関して、連結実体が連結財務諸表に認識した資産及び負債の帳簿価額は以下の通りです。

&lt; 第185(当)期 &gt;

(単位：百万ウォン)

区分	資産流動化証券	構造化金融	投資ファンド	合計
連結財務状態表上の資産				
貸付債権	180,611	2,777,119	76,661	3,034,391
売買目的金融資産	2,051,332	29,966	30,121	2,111,419
デリバティブ資産	19,144	-	-	19,144
売却可能金融資産	1,994,025	196,758	1,356,365	3,547,148
満期保有金融資産	2,381,934	-	-	2,381,934
その他	12,327	21,017	2,010	35,354
合計	6,639,373	3,024,860	1,465,157	11,129,390
連結財務状態表上負債				
デリバティブ負債	137	-	-	137
借入負債	-	1,318	-	1,318
合計	137	1,318	-	1,455

&lt; 第184(前)期 &gt;

(単位：百万ウォン)

区分	資産流動化証券	構造化金融	投資ファンド	合計
連結財務状態表上の資産				
貸付債権	190,778	2,790,044	-	2,980,822
売買目的金融資産	1,793,038	44,733	-	1,837,771
デリバティブ資産	16,722	-	-	16,722
売却可能金融資産	2,185,577	81,324	930,049	3,196,950
満期保有金融資産	2,346,400	-	-	2,346,400
その他	-	2,884	-	2,884
合計	6,532,515	2,918,985	930,049	10,381,549
連結財務状態表上の負債				
デリバティブ負債	8	-	-	8

合計	8	-	-	8
----	---	---	---	---

2) 当期末及び前期末現在における連結実体の非連結構造化企業に対する最大エクスポージャーは以下の通りです。

< 第185 (当) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分	資産流動化証券	構造化金融	投資ファンド	合計
保有資産	6,639,373	3,024,860	1,465,156	11,129,389
仕入約定	1,048,282	30,000	-	1,078,282
未実行信用供与	977,383	123,810	47,246	1,148,439
支払保証	-	10,559	-	10,559
合計	8,665,038	3,189,229	1,512,402	13,366,669

< 第184 (前) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分	資産流動化証券	構造化金融	投資ファンド	合計
保有資産	6,532,515	2,918,985	930,049	10,381,549
仕入約定	1,063,171	31,134	74,328	1,168,633
未実行信用供与	1,589,389	400,599	36,179	2,026,167
支払保証	-	26,240	-	26,240
合計	9,185,075	3,376,958	1,040,556	13,602,589

#### 4 3 . 信託セグメント経営成績

(1) 信託勘定の当期末及び前期末現在における資産合計、当期及び前期中の営業収益は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	資産合計		営業収益	
	第185 (当) 期	第184 (前) 期	第185 (当) 期	第184 (前) 期
連結対象	4,314,473	4,114,569	139,767	144,781
連結非対象	40,743,814	33,189,301	530,690	505,820
合計	45,058,287	37,303,870	670,457	650,601

(2) 当期末及び前期末における信託セグメントの主な債権・債務の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
信託勘定未払金	3,443,287	2,966,681
信託報酬未収収益	30,485	21,515
未払利息	782	998

(3) 当期及び前期における信託セグメントとの主な収益・費用の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
信託業務運用収益	98,406	71,533
中途解約による受取手数料	87	-
信託勘定未払金支払利息	35,877	44,976

#### 4.4. 企業結合による暫定金額の遡及調整

連結実体は2015年12月18日、インドネシアで銀行業を営業する現地法人であるPT Centratama Nasional Bank (以下、“CNB”)の持分75%を現金で取得し、同社を連結対象従属企業に編入しました。

連結実体はCNBの価値評価資料の未入手等により企業結合に対する当初の会計処理を企業結合が発生した報告期間末まで完了されなかったため、暫定金額で開示しました。当期にCNBの識別可能な純資産に対する価値評価を反映して企業結合の会計処理を完了しました。

それにより連結実体はCNBの取得日に認識した識別可能な純資産の暫定金額を遡及して調整しました。

(1) 識別可能な純資産の遡及調整

CNBの企業結合の会計処理の完了により識別可能な純資産の遡及調整は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		以前報告金額	調整後金額	調整金額
資産	現金及び現金性資産	1,026	1,026	-
	預け金	22,551	22,551	-
	貸付債権	51,443	51,443	-
	有形資産(注1)	3,815	20,753	16,938
	無形資産(注2)	48	1,354	1,306
	その他資産	734	734	-
	小計	79,617	97,861	18,244
負債	預金	66,179	66,179	-
	引当負債	837	837	-
	繰延税金負債(注3)	-	4,961	4,961
	その他負債	520	520	-
	小計	67,536	72,497	4,961
識別可能な純資産の公正価値		12,081	25,364	13,283

(注1) 原価法で認識した土地及び建物の帳簿価額を取得日基準の公正価値で評価することにより発生した評価増です。

(注2) 企業結合の結果として取得した識別可能な無形資産は次順位調達方法に比べて低い原価で調達可能な預金に関連して、将来予想される調達費用節減効果の現在価値です。

(注3) 識別可能な純資産の公正価値と税務上基準額の差異により発生する一時差異から発生した金額です。

(2) のれんの遡及調整

識別可能な純資産の遡及調整によるのれんの遡及調整は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	以前報告金額	調整後金額	調整金額
移転対価	30,782	30,782	-
識別可能な純資産の公正価値	(12,081)	(25,364)	(13,283)
非支配持分(注)	3,020	6,440	3,420
のれん	21,721	11,858	(9,863)

(注) 非上場企業である従属企業に対する非支配持分は、識別可能な純資産の公正価値のうち現在の持分商品の比例分で測定しました。

## 45. 同一支配下の企業結合

## (1) 一般事項

2016年12月6日に連結実体内の新韓インドネシア銀行とPT Centratama Nasional Bankとの合併が発生し、合併後の会社名は“新韓インドネシア銀行”です。同合併は、企業会計基準書第1103号“企業結合”による同一支配下にある企業間の企業結合に該当するため、連結実体の選択により帳簿価額法で会計処理しました。

合併はPT Centratama Nasional Bankの株式を新韓インドネシア銀行の株式と交換する方式で行われ、株式間の交換比率はPT Centratama Nasional Bankの株式2,357.93株当り、新韓インドネシア銀行の株式1株を交付する方式です。企業結合の主な理由は、インドネシア現地の両銀行間の合併を通じた営業シナジー効果及び費用節減並びにインドネシア現地における営業力の拡大です。

## (2) 識別可能な資産及び負債

取得日現在において認識したPT Centratama Nasional Bankの資産及び負債は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		金額
資産	現金及び現金性資産	1,456
	預け金	13,610
	貸付債権	66,339
	有形資産	5,170
	その他	8,995
	小計	95,570
負債	預金	74,373
	その他負債	8,885
	小計	83,258
識別可能な純資産の帳簿価額		12,312

## (3) 持分率の変動

同企業結合の過程で発生した主な持分率の変動は以下の通りです。

## &lt; 合併前 &gt;

投資家	被投資会社			
	新韓インドネシア銀行		PT Centratama Nasional Bank	
	株式数	比率	株式数	比率
当行	217,850	97.76%	100,500,000	100.00%
その他	5,000	2.24%	-	0.00%
合計	222,850	100%	100,500,000	100%

## &lt; 合併後 &gt;

投資家	被投資会社	
	新韓インドネシア銀行	
	株式数	比率
当行(注)	260,472	98.12%
その他	5,000	1.88%
合計	265,472	100%

(注) 合併以降の不平等有償増資により、当期末における当行の新韓インドネシア銀行に対する持分率は98.98%です。

[次へ](#)

연 결 재 무 상 태 표

제185(당)기 기말 2016년 12월 31일 현재

제184(전)기 기말 2015년 12월 31일 현재

주식회사 신한은행 및 그 종속기업

(단위 : 백만원)

과 목	제185(당)기 기말	제184(전)기 기말
<b>자 산</b>		
1. 현금및예치금 (주식3,6,9,39,40)	14,469,387	16,891,386
2. 단기매매금융자산 (주식3,7,40,42)	11,270,758	9,056,812
3. 파생상품자산 (주식3,8,40,42)	2,579,121	1,617,518
4. 대출채권 (주식3,9,16,40,42)	219,438,681	209,651,483
5. 매도가능금융자산 (주식3,10,16,42)	27,814,583	24,460,599
6. 만기보유금융자산 (주식3,10,16,42)	11,630,270	10,105,051
7. 유형자산 (주식5,11,16)	2,043,559	2,003,485
8. 무형자산 (주식5,12)	260,566	306,666
9. 관계기업등에대한투자자산 (주식13)	130,893	232,522
10. 투자부동산 (주식5,14)	675,146	765,606
11. 당기법인세자산 (주식36)	11,769	7,409
12. 이연법인세자산 (주식36)	447,514	77,728
13. 기타자산 (주식3,9,15,40,43)	12,077,453	9,835,923
14. 매각예정비유동자산	4,923	3,630
<b>자 산 총 계</b>	<b>302,854,623</b>	<b>285,015,818</b>
<b>부 채</b>		
1. 당기손익인식지경금융부채 (주식3,17)	6,282	13,509
2. 예수부채 (주식3,18,40)	228,910,092	212,975,192
3. 단기매매금융부채 (주식3,19)	485,995	463,766
4. 파생상품부채 (주식3,8,40,42)	2,785,392	1,573,432
5. 차입부채 (주식3,20,42)	14,314,329	12,998,479
6. 사채 (주식3,21)	21,578,430	20,020,550
7. 확정급여부채 (주식22)	50,103	154,769
8. 총당부채 (주식23,38,40)	306,931	296,088
9. 당기법인세부채 (주식36,40)	137,722	40,029
10. 이연법인세부채 (주식36)	9,481	14,879
11. 기타부채 (주식3,24,40,42,43)	12,802,893	15,622,352
<b>부 채 총 계</b>	<b>281,387,650</b>	<b>264,173,045</b>
<b>자 본</b>		
I. 지배기업 소유지분	21,460,412	20,830,422

과 목	제185(당)기 기말		제184(전)기 기말	
1. 자본금 (주식25)	7,928,078		7,928,078	
2. 신종자본증권 (주식25)	469,302		801,298	
3. 자본잉여금 (주식25)	403,164		403,164	
4. 자본조정 (주식25)	(64,614)		(29,340)	
5. 기타포괄손익누계액 (주식25,36)	(276,445)		(59,948)	
6. 이익잉여금 (주식25,26)	13,000,837		11,787,170	
(대손준비금 적립액)	(1,741,125)		(1,744,082)	
(대손준비금 전입(환입) 필요액)	(47,566)		((2,967))	
(대손준비금 전입(환입) 예정액)	(47,566)		((2,967))	
II. 비지배지분 (주식25)		6,561		12,351
자 본 총 계		21,466,973		20,842,773
부채외자본총계		302,854,623		285,015,818

"첨부된 주석은 본 연결재무제표의 일부입니다."

연 결 포 괄 손 익 계 산 서

제185(당)기 2016년 1월 1일부터 2016년 12월 31일까지

제184(전)기 2015년 1월 1일부터 2015년 12월 31일까지

주식회사 신한은행 및 그 종속기업

(단위 : 백만원)

과 목	제185(당)기	제184(전)기
I. 영업이익	1,958,978	1,733,726
(1) 순이자손익 (주석3,5,27,40,42)	4,504,121	4,164,715
1. 이자수익	7,696,201	7,649,492
2. 이자비용	3,192,080	3,484,777
(2) 순수수수료손익 (주석3,5,28,40,42)	884,498	853,863
1. 수수료수익	1,061,620	1,050,286
2. 수수료비용	177,122	196,423
(3) 배당수익 (주석29,42)	123,559	184,101
(4) 단기매매금융상품관련손익 (주석30)	58,832	134,421
(5) 외환거래손익	245,153	75,053
(6) 당기손익인식지정금융상품관련손익 (주석17)	(206)	(16)
(7) 매도가능금융자산처분손익 (주석10)	411,430	422,279
(8) 금융상품자산손상차손 (주석3,9,31,40)	738,536	799,415
1. 대손상각비	656,433	592,845
2. 기타금융상품손상차손	82,103	206,570
(9) 일반관리비 (주석32,40)	2,889,853	2,785,435
(10) 기타영업손익 (주석5,34,40)	(640,020)	(515,840)
II. 영업외손익 (주석 5,36)	61,131	127,945
III. 관계기업이익에대한지분 (주석5,13)	8,615	13,399
IV. 법인세비용차감전순이익	2,028,724	1,875,070
V. 법인세비용 (주석5,36)	88,103	385,082
VI. 당기순이익 (주석5,26) (대손준비금 반영후 조정이익 당기 : 1,893,055백만원, 전기 : 1,492,955백만원)	1,940,621	1,489,988
VII. 기타포괄손익 (주석3,25)	(222,652)	(292,027)
(1) 후속적으로 당기손익으로 재분류되는 항목	(242,231)	(237,157)
1. 해외사업환산손익	2,081	(2,521)
2. 매도가능금융자산평가손익	(247,146)	(240,864)
3. 관계기업의기타포괄손익에대한지분	2,834	6,228
(2) 후속적으로 당기손익으로	19,579	(54,870)

과 목	제185(당기)	제184(전기)
재분류되지 않는 항목		
1. 확정급여제도의 재측정요소	19,571	(54,645)
2. 관계기업의기타포괄손익에대한지분	8	(225)
VII. 총포괄이익	1,717,969	1,197,961
(1) 당기순이익의 귀속 (주식5)	1,940,621	1,489,988
1. 지배기업소유지분	1,940,256	1,489,654
2. 비지배지분	365	334
(2) 당기총포괄이익의 귀속	1,717,969	1,197,961
1. 지배기업소유지분	1,723,759	1,192,307
2. 비지배지분	(5,790)	5,654
IX. 주당이익 (주식37)		
1. 기본주당순이익	1,195원	903원
2. 희석주당순이익	1,195원	903원

"첨부된 주석은 본 연결재무제표의 일부입니다."

연결 자본 변동표

제185(당기) 2016년 1월 1일부터 2016년 12월 31일까지

제184(전기) 2015년 1월 1일부터 2015년 12월 31일까지

주식회사 신한은행 및 그 종속기업

(단위: 백만원)

과 목	자본금	신용 자본증권	자본잉여금	자본조정	기타포괄 손익누계액	이익잉여금	비지배지분	합 계
I. 2015년 1월 1일 (전기초)	7,928,078	1,100,250	403,184	(842)	237,399	10,805,574	3,277	20,478,900
총포괄손익:	-	-	-	-	(297,347)	1,489,854	5,654	1,197,981
(1) 당기순이익	-	-	-	-	-	1,489,854	334	1,489,988
(2) 기타포괄손익	-	-	-	-	(297,347)	-	5,320	(292,027)
1. 해외사업환산손익	-	-	-	-	(7,841)	-	5,320	(2,521)
2. 대도기능금융자산평가손익	-	-	-	-	(240,864)	-	-	(240,864)
3. 관계기업의기타포괄손익에대항지분	-	-	-	-	6,009	-	-	6,009
4. 확정급여제도의 재측정요소	-	-	-	-	(54,845)	-	-	(54,845)
소유주와의 거래 등:	-	(298,952)	-	(28,498)	-	(508,058)	-	(835,508)
(1) 연차배당	-	-	-	-	-	(450,000)	-	(450,000)
(2) 신용자본증권 배당	-	-	-	-	-	(57,158)	-	(57,158)
(3) 신용자본증권 상환	-	(298,952)	-	(30,898)	-	-	-	(329,850)
(4) 주식보상비용	-	-	-	1,500	-	-	-	1,500
(5) 기타	-	-	-	900	-	(900)	-	-
II. 2015년 12월 31일 (전기말)	7,928,078	801,298	403,184	(29,340)	(59,948)	11,787,170	8,931	20,899,353
III. 2016년 1월 1일 (당기초)	7,928,078	801,298	403,184	(29,340)	(59,948)	11,787,170	8,931	20,899,353
IV. 사업결합 관련 소급조정(주식 4)	-	-	-	-	-	-	3,420	3,420
V. 2016년 1월 1일 (당기초) (조정후금액)	7,928,078	801,298	403,184	(29,340)	(59,948)	11,787,170	12,351	20,842,773
총포괄손익:	-	-	-	-	(218,497)	1,940,258	(5,790)	1,717,989
(1) 당기순이익	-	-	-	-	-	1,940,258	385	1,940,621
(2) 기타포괄손익	-	-	-	-	(218,497)	-	(6,155)	(222,652)
1. 해외사업환산손익	-	-	-	-	8,338	-	(6,257)	2,081
2. 대도기능금융자산평가손익	-	-	-	-	(247,148)	-	-	(247,148)
3. 관계기업의기타포괄손익에대항지분	-	-	-	-	2,842	-	-	2,842
4. 확정급여제도의 재측정요소	-	-	-	-	19,489	-	102	19,571
소유주와의 거래 등:	-	(331,908)	-	(35,274)	-	(728,589)	-	(1,095,769)
(1) 연차배당	-	-	-	-	-	(650,000)	-	(650,000)
(2) 신용자본증권 배당	-	-	-	-	-	(45,891)	-	(45,891)
(3) 신용자본증권 상환	-	(331,908)	-	(60,094)	-	-	-	(392,000)
(4) 주식보상비용	-	-	-	(2,128)	-	-	-	(2,128)
(5) 자회사추가출자	-	-	-	(3,950)	-	-	-	(3,950)
(6) 기타	-	-	-	30,898	-	(30,898)	-	-
VI. 2016년 12월 31일 (당기말)	7,928,078	469,392	403,184	(64,614)	(278,445)	13,000,837	6,581	21,468,973

\*첨부분 주석은 본 연결재무제표의 일부입니다.\*

연 결 현 금 흐름 표

제185(당)기 2016년 1월 1일부터 2016년 12월 31일까지

제184(전)기 2015년 1월 1일부터 2015년 12월 31일까지

주식회사 신한은행 및 그 종속기업

(단위 : 백만원)

과 목	제185(당)기	제184(전)기
1. 영업활동으로 인한 현금흐름	3,441,594	974,564
(1) 법인세비용차감전순이익	2,028,724	1,875,070
(2) 손익조정사항	(4,627,680)	(4,348,816)
1. 이자수익	(7,696,201)	(7,649,492)
2. 이자비용	3,192,080	3,484,777
3. 배당수익	(123,559)	(184,101)
(3) 현금유출입이없는손익항목	725,049	633,784
1. 당기손익지정금융상품관련손익	206	(95)
2. 단기매매금융상품관련손익	51,689	(54,706)
3. 외환거래손익	(14,219)	84,640
4. 매도가능금융자산처분손익	(411,430)	(422,279)
5. 대손상각비	666,433	592,845
6. 기타금융상품손상차손	82,103	206,570
7. 종업원관련비용	149,531	134,465
8. 감가상각비및기타상각비	160,417	165,381
9. 기타영업손익	49,447	(74,827)
10. 관계기업이익에대한지분	(8,615)	(13,399)
11. 영업외손익	9,507	15,189
(4) 자산·부채의증감	799,792	(964,025)
1. 예치금	3,445,119	(1,706,862)
2. 단기매매금융자산	(2,218,771)	(746,002)
3. 파생상품자산	1,146,199	890,191
4. 대출채권	(10,310,156)	(21,318,857)
5. 기타자산	(2,261,259)	(1,755,738)
6. 당기손익지정금융부채	(7,433)	7,464
7. 예수부채	15,317,603	22,711,569
8. 단기매매금융부채	(43,734)	59,749
9. 파생상품부채	(1,126,126)	(965,843)
10. 확정급여부채	(219,788)	(292,930)
11. 총당부채	(18,218)	(13,108)
12. 기타부채	(2,903,644)	2,166,342

과 목	제185(당기)		제184(전기)	
(5) 법인세의 납부	(287,173)		(408,194)	
(6) 이자의 수취	7,805,108		7,662,357	
(7) 이자의 지급	(3,156,234)		(3,661,561)	
(8) 배당금의 수취	154,008		185,949	
II. 투자활동으로 인한 현금흐름		(4,780,063)		(4,472,193)
1. 매도가능금융자산의 감소	20,517,584		21,368,695	
2. 매도가능금융자산의 취득	(23,725,867)		(23,502,156)	
3. 만기보유금융자산의 감소	1,223,646		1,691,705	
4. 만기보유금융자산의 취득	(2,728,536)		(3,771,041)	
5. 유형자산의 처분	1,438		3,537	
6. 유형자산의 취득	(79,285)		(102,583)	
7. 무형자산의 처분	1,313		819	
8. 무형자산의 취득	(37,052)		(95,596)	
9. 관계기업에대한투자자산의 처분	332		-	
10. 관계기업에대한투자자산의 취득	(11,607)		(5,974)	
11. 투자부동산의 처분	18,075		6,725	
12. 투자부동산의 취득	(6,910)		(10,296)	
13. 매각예정자산의 처분	2,215		2,950	
14. 기타자산의 감소	868,794		664,775	
15. 기타자산의 증가	(824,203)		(571,819)	
16. 종속기업의 취득(보유현금 차감 후)	-		(151,934)	
III. 재무활동으로 인한 현금흐름		2,414,553		2,535,128
1. 차입부채의 순증감	1,072,852		(6,432)	
2. 사채의 발행	8,765,677		9,980,618	
3. 사채의 상환	(6,314,687)		(6,600,652)	
4. 배당금의 지급	(703,612)		(512,863)	
5. 신종자본증권의 상환	(392,000)		(329,850)	
6. 기타부채의 증가	131,204		98,633	
7. 기타부채의 감소	(134,377)		(94,326)	
8. 외부주주지분의 취득	(10,504)		-	
IV. 의회표시 현금 및 현금성자산에 대한 환율변동효과		(27,018)		5,015
V. 현금 및 현금성자산의 증가(감소)		1,049,066		(957,486)
VI. 기초의 현금 및 현금성자산 (주석39)		3,578,718		4,536,204
VII. 기말의 현금 및 현금성자산 (주석39)		4,627,784		3,578,718

\*첨부된 주석은 본 연결재무제표의 일부입니다.\*

## 주식

제185(당)기 2016년 12월 31일 현재

제184(전)기 2015년 12월 31일 현재

### 주식회사 신한은행 및 그 종속기업

#### 1. 연결대상회사의 개요

##### (1) 지배기업의 개요

지배기업인 주식회사 신한은행(이하 "당행"이라 함)은 서울특별시 중구 세종대로 9길 20에 본점을 두고 있습니다. 2016년 12월 31일로 종료하는 보고기간에 대한 연결재무제표는 당행과 당행의 종속기업(이하 통칭하여 "연결실체"), 연결실체의 관계기업 및 공동기업에 대한 지분으로 구성되어 있습니다.

당행은 금융업을 주목적사업으로 하여 1897년 2월 19일 설립된 한성은행과 1906년 8월 8일 설립된 동일은행의 신설합병(1943년 10월 1일, 은행명: 주식회사 조흥은행)으로 설립되었습니다.

당행은 1999년에 충북은행과 강원은행을 흡수합병하였고, 2006년 4월 1일에는 구 신한은행을 흡수합병하였으며, 은행의 사명을 주식회사 신한은행으로 변경하였습니다. 당기말 현재 당행의 자본금은 7,928,078백만원, 발행주식수는 1,585,615,506주이며, 당행의 주식은 신한금융지주회사가 100% 보유하고 있습니다. 당기말 현재 당행은 국내지점 762개, 국내출장소 109개, 영업장 23개, 해외지점 14개를 운영하고 있습니다.

(2) 연결대상 종속기업(구조화기업 제외)

당기말과 전기말 현재 구조화기업을 제외한 연결대상 종속기업 현황은 다음과 같습니다.

종속기업명	소재지	결산월	업종	제185(당기)	제184(전기)
				지분율	지분율
신한아주금융유한공사	홍콩	12월	도매금융	99.99%	99.99%
아메리카신한은행	미국	12월	은행업	100.00%	100.00%
유럽신한은행	독일	12월	은행업	100.00%	100.00%
신한크메르은행	캄보디아	12월	은행업	90.00%	90.00%
신한카자흐스탄은행	카자흐스탄	12월	은행업	100.00%	100.00%
캐나다신한은행	캐나다	12월	은행업	100.00%	100.00%
신한은행중국유한공사	중국	12월	은행업	100.00%	100.00%
SBJ은행	일본	3월	은행업	100.00%	100.00%
신한베트남은행	베트남	12월	은행업	100.00%	100.00%
멕시코신한은행	멕시코	12월	은행업	99.99%	99.99%
신한인도네시아은행(주1)	인도네시아	12월	은행업	98.98%	97.76%
PT Centratama Nasional Bank(주1)	인도네시아	12월	은행업	-	75.00%

(주1) 2016년 12월 6일 기준, PT Centratama Nasional Bank와 신한인도네시아은행이 합병하여 신한인도네시아은행이 되었습니다.

1) 신한아주금융유한공사(Shinhan Asia Ltd.)

종합금융업무를 영위하고 있는 홍콩현지법인으로 당기말 현재 자본금은 USD 100,000천입니다.

2) 아메리카신한은행(Shinhan Bank America)

뉴욕조흥은행(Chohung Bank of New York)과 캘리포니아조흥은행(California Chohung Bank)의 신설합병으로 설립되어 금융서비스 제공업무를 영위하고 있으며, 당기말 현재 자본금은 USD 123,000천입니다.

3) 유럽신한은행(Shinhan Bank Europe GmbH)

은행업 영위 등을 목적으로 1994년에 설립되었으며, 당기말 현재 자본금은 EUR 23,000천입니다.

4) 신한크메르은행(Shinhan Khmer Bank)

은행업 영위 등을 목적으로 2007년 10월 15일 설립되었으며, 당기말 현재 자본금은 USD 20,000천입니다.

5) 신한카자흐스탄은행(Shinhan Kazakhstan Bank)

은행업 영위 등을 목적으로 2008년 12월 16일 설립되었으며, 당기말 현재 자본금은 KZT 10,029백만입니다.

6) 캐나다신한은행(Canada Shinhan Bank)

은행업 영위 등을 목적으로 2009년 3월 9일 설립되었으며, 당기 중 유상증자를 진행하여 당기말 현재 자본금은 CAD 80,000천입니다.

7) 신한은행중국유한공사(Shinhan Bank China Limited)

은행업 영위 등을 목적으로 2008년 5월 12일 당행의 현지지점이 전환된 것으로 당기말 현재 자본금은 CNY 2,000백만입니다.

8) SBJ은행(Shinhan Bank Japan)

은행업 영위 등을 목적으로 2009년 9월 14일 현지지점이 전환되어 설립되었으며, 당기말 현재 자본금은 JPY 15,000백만입니다.

9) 신한베트남은행(Shinhan Bank Vietnam)

은행업 영위 등을 목적으로 2009년 11월 16일 현지지점이 전환되어 설립되었으며, 2011년 11월 28일 신한비나은행을 인수합병하였습니다. 당기말 현재 자본금은 VND 4,547,100백만입니다.

10) 멕시코신한은행

은행업 영위 등을 목적으로 2015년 10월 12일 설립되었으며, 당기 중 유상증자를 진행하여 당기말 현재 자본금은 MXN 655,000천입니다. 또한 당기 중 주당 액면가액을 MXN 1,000에서 MXN 1로 변경하는 액면분할을 진행하였습니다.

11) 신한인도네시아은행(PT Bank Shinhan Indonesia)

은행업 영위 등을 목적으로 1967년 9월 8일 설립된 법인 PT Bank Metro Express을 2015년 11월 30일 인수하여 종속기업으로 편입하였으며, 당기 중 신한인도네시아은행(PT Bank Shinhan Indonesia)으로 상호변경을 하였습니다. 2016년 12월 6일에 연결실체 내의 PT Centratama Nasional Bank와 합병하였으며, 합병후 유상증자를 진행하여 당기말 현재 자본금은 IDR 490,087백만입니다.

(3) 연결대상 구조화기업

당기말 현재 연결대상 구조화기업 현황은 다음과 같습니다.

구조화기업	소재지	결산월	업종
엠피씨올촌그린제일차(주)	대한민국	3/6/9/12월	기타금융업
에이알플러스제이차(주)	대한민국	2월	기타금융업
엠피씨올촌2호기(주)	대한민국	3/6/9/12월	기타금융업
엠피씨올촌1호기(주)	대한민국	3/6/9/12월	기타금융업
에스누리제일차(주)	대한민국	2/4/6/8/10/12월	기타금융업
에스누리제사차(주)	대한민국	2/5/8/11월	기타금융업
에스누리제구차(주)	대한민국	1/4/7/10월	기타금융업
신한에스터셀(주)	대한민국	3/6/9/12월	기타금융업
지피에스제이차(주)	대한민국	12월	기타금융업
지피에스제사차(주)	대한민국	3/6/9/12월	기타금융업
지피에스제오차(주)	대한민국	1/4/7/10월	기타금융업
에스나라제일차(유)	대한민국	1/4/7/10월	기타금융업
지피에스제일차(유)	대한민국	2/5/8/11월	기타금융업
케어캠프제일차(주)	대한민국	2월	기타금융업
지피에스제십일차(주)	대한민국	1/4/7/10월	기타금융업
지피에스제십차(주)	대한민국	1/4/7/10월	기타금융업
지피에스제팔차(주)	대한민국	3/6/9/12월	기타금융업
씨니금융제일차(주)	대한민국	2/5/8/11월	기타금융업
에스웨이제오차(주)	대한민국	10월	기타금융업
씨니금융제이차(주)	대한민국	2/5/8/11월	기타금융업
씨니금융제구차(주)	대한민국	1/4/7/10월	기타금융업
씨니모아제삼차(주)	대한민국	1/4/7/10월	기타금융업
씨니금융제육차(주)	대한민국	1/4/7/10월	기타금융업
씨니모아제일차(주)	대한민국	1/4/7/10월	기타금융업
씨니모아제이차(주)	대한민국	1/4/7/10월	기타금융업
씨니모아제오차(주)	대한민국	2/5/8/11월	기타금융업
씨니모아제칠차(주)	대한민국	3/6/9/12월	기타금융업
씨니모아제육차(주)	대한민국	3/6/9/12월	기타금융업
씨지앤올촌2호기(주)	대한민국	3/6/9/12월	기타금융업
씨니모아제십차(주)	대한민국	2/5/8/11월	기타금융업
씨니드림제사차(유)	대한민국	3/6/9/12월	기타금융업
씨니드림제일차(주)	대한민국	10월	기타금융업
씨니드림제구차(유)	대한민국	2/5/8/11월	기타금융업
씨니드림제육차(주)	대한민국	9월	기타금융업
씨니모아제구차(주)	대한민국	3/6/9/12월	기타금융업
씨니러셀제이차(주)	대한민국	2/5/8/11월	기타금융업
씨니드림제오차(주)	대한민국	1/4/7/10월	기타금융업
씨니러셀제삼차(유)	대한민국	2/5/8/12월	기타금융업

구조화기업	소재지	결산월	업종
씨니드림제일채(주)	대한민국	7월	기타금융업
씨니러셀제일채(주)	대한민국	12월	기타금융업
씨니러셀제일채(유)	대한민국	3/6/9/12월	기타금융업
씨니러셀제일채(주)	대한민국	3/6/9/12월	기타금융업
신한은행-대성문화콘텐츠 투자조합	대한민국	12월	기타
개발신탁	대한민국	12월	신탁
불특정공전신탁	대한민국	12월	신탁
노후연금신탁	대한민국	12월	신탁
신개인연금신탁	대한민국	12월	신탁
개인연금신탁	대한민국	12월	신탁
퇴직신탁	대한민국	12월	신탁
신노후연금신탁	대한민국	12월	신탁
연금신탁	대한민국	12월	신탁
가계공전신탁(구신탁)	대한민국	12월	신탁
기업공전신탁(구신탁)	대한민국	12월	신탁
신한BNPP법인용사모증권투자신탁 제25호	대한민국	1월	수익증권
신한BNPP법인용사모증권투자신탁 제18호	대한민국	1월	수익증권

연결실체는 구조화기업의 설립 약정 조건을 고려하여, 구조화기업의 영업에 따른 변동이익에 노출되어 있고 이러한 변동이익에 가장 유의적으로 영향을 미칠 수 있는 구조화기업의 활동을 지시할 수 있는 능력을 보유한 경우 해당 구조화기업을 연결대상으로 포함하고 있습니다. 구조화기업에 대한 소유지분은 연결실체의 부채로 표시되기 때문에 구조화기업에 대한 비지배지분은 없습니다.

연결실체는 상기에서 설명하고 있는 구조화기업에 대해 2,098,735백만원의 신용공여(ABCP매입약정 등)를 제공하고 있습니다.

(4) 종속기업 변동 현황

당기에 신규로 연결재무제표에 포함된 종속기업과 당기 중 연결재무제표의 작성대상에서 제외된 종속기업의 현황은 다음과 같습니다.

구분	종속기업명
신규 포함	씨니금융제일차(주) 에스웨이제오차(주) 씨니금융제이차(주) 씨니금융제구차(주) 씨니모아제삼차(주) 씨니금융제육차(주) 씨니모아제일차(주) 씨니모아제이차(주) 씨니모아제오차(주) 씨니모아제철차(주) 씨니모아제육차(주) 씨지앤솔루션2호기(주) 씨니모아제십차(주) 씨니드림제사차(유) 씨니드림제철차(주) 씨니드림제구차(유) 씨니드림제육차(주) 씨니모아제구차(주) 씨니러셀제이차(주) 씨니드림제오차(주) 씨니러셀제삼차(유) 씨니드림제일차(주) 씨니러셀제팔차(주) 씨니러셀제철차(유) 씨니러셀제육차(주) 신한은행-대성문화콘텐츠 투자조합
당기 제외	신한BNPP참좋은고배당증권투자신탁[주식](종류C-) 에스드림제오차(주) 에스웨이제이차(주) 에이타스드라이브제일차(유) 가계금전신탁(구조총) 적립식육적신탁(구조총) 적립식육적신탁(구신한) 기업금전신탁(구조총) 동부다갈이사모증권투자신탁 제9호 [수익증권] 현대헤리티지사모증권투자신탁 SH-3호 [수익증권] 삼성파트너사모증권투자신탁 제6호 [수익증권] 흥국무지개사모증권투자신탁 T-41호 [수익증권]

## 2. 유의적인 회계정책

연결실체가 채택하고 있는 유의적인 회계정책은 다음과 같습니다.

### (1) 재무제표 작성기준

연결실체는 주식회사의 외부감사에 관한 법률 제13조 1항 1호에서 규정하고 있는 국제회계기준위원회의 국제회계기준을 채택하여 정한 회계처리기준인 한국채택국제회계기준에 따라 재무제표를 작성하였습니다.

당기 및 비교 표시된 전기의 재무제표는 아래에 기술되는 회계정책에 따라 작성되었습니다.

### (2) 측정기준

연결재무제표는 아래에서 열거하고 있는 재무상태표의 주요항목을 제외하고는 역사적 원가를 기준으로 작성되었습니다.

- 공정가치로 측정되는 파생상품
- 공정가치로 측정되는 당기손익인식금융상품
- 공정가치로 측정되는 매도가능금융상품
- 공정가치로 측정되는 주식기준보상
- 공정가치위험회피회계 위험회피대상항목으로 지정되어 회피대상위험으로 인한 공정가치 변동을 당기손익으로 인식하는 금융부채
- 확정급여채무의 현재가치에서 사외적립자산의 공정가치를 차감한 확정급여부채

### (3) 기능통화와 표시통화

연결실체는 각 기업실체의 재무제표에 포함되는 항목들을 각 기업실체의 영업활동이 이루어지는 주된 경제환경의 통화(기능통화)로 표시하고 있습니다. 연결재무제표 작성을 위해 종속기업의 경영성과와 재무상태는 당행의 기능통화이면서 연결재무제표 작성을 위한 표시통화인 '원'으로 표시하고 있습니다. 기능통화가 당행의 표시통화(원화)와 다른 종속기업은 다음과 같습니다.

기능통화	종속기업
USD	신한아주금융유한공사
	아메리카신한은행
	신한크메르은행
EUR	유럽신한은행
KZT	신한카자흐스탄은행
CAD	캐나다신한은행
CNY	신한은행중국유한공사
JPY	SBJ은행
VND	신한베트남은행
MXN	멕시코신한은행
IDR	신한인도네시아은행

(4) 추정과 판단

한국채택국제회계기준에서는 재무제표를 작성함에 있어서 회계정책의 적용이나, 보고기간 말 현재 자산, 부채 및 수익, 비용의 보고금액에 영향을 미치는 사항에 대하여 경영진의 최선의 판단을 기준으로한 추정치와 가정의 사용을 요구하고 있습니다.

보고기간 말 현재 경영진의 최선의 판단을 기준으로 한 추정치와 가정이 실제 환경과 다를 경우 이러한 추정치와 실제결과는 다를 수 있습니다.

추정치와 추정에 대한 기본 가정은 지속적으로 검토되고 있으며, 회계추정의 변경은 추정이 변경된 기간과 미래 영향을 받을 기간 동안 인식되고 있습니다. 보다 높은 정도의 판단과 복잡성이 필요한 부분 또는 가정과 추정이 연결재무제표에 유의적인 부분은 주석 4에 공시되어 있습니다.

(5) 회계정책의 변경

연결실체는 2015년 12월 31일로 종료하는 회계연도의 연차재무제표를 작성할 때에 적용한 것과 동일한 회계정책을 적용하고 있습니다.

(6) 재무제표의 발행승인일

연결실체의 재무제표는 2017년 2월 7일 이사회에서 승인되었습니다.

(7) 연결

1) 종속기업

종속기업은 연결실체에 의해 지배되는 기업입니다. 연결실체는 피투자기업에 대한 관여로 변동이익에 노출되거나 변동이익에 대한 권리가 있고 피투자기업에 대하여 자신의 힘으로 그러한 이익에 영향을 미치는 능력이 있을 때 피투자기업을 지배합니다. 종속기업의 재무제표는 지배기업이 종속기업에 대한 지배력을 획득하는 날부터 지배력을 상실할 때까지 연결재무제표에 포함됩니다.

연결실체는 다수의 구조화기업을 설립하거나 투자하고 있습니다. 이러한 기업에 대해 직·간접적으로 주식을 보유하고 있지 않습니다. 구조화기업이 설립된 약정의 조건을 고려할 때, 연결실체는 구조화기업의 영업에 따른 손익을 실질적으로 모두 얻게 되고 이러한 손익에 가장 유의적으로 영향을 미칠 수 있는 연결구조화기업의 활동을 지시할 수 있는 능력을 보유하고 있다고 판단되는 경우에는 연결대상에 포함하고 있습니다. 구조화기업에 대한 소유지분은 연결실체의 부채로 표시되기 때문에 구조화기업에 대한 비지배지분은 없습니다.

2) 내부거래제거

연결실체내의 거래, 이와 관련된 잔액, 수익과 비용, 미실현손익은 연결재무제표 작성시 모두 제거하고 있습니다. 내부거래에서 발생한 미실현손실이 연결재무제표에서 인식해야 하는 자산손상의 징후일 경우 당기손실로 인식하고 있습니다.

3) 비지배지분

종속기업의 지분 중 지배기업에게 귀속되지 않는 비지배지분은 지배기업의 소유주 지분과는 구분하여 표시하고 있습니다. 당기순이익과 기타포괄손익의 각 구성요소는 지배기업의 소유주와 비지배지분에 귀속되며, 비지배지분이 부(-)의 잔액이 되더라도 총포괄손익은 지배기업의 소유주와 비지배지분에 귀속시키고 있습니다.

## (8) 사업결합

### 1) 사업결합

사업결합은 동일지배 하에 있는 기업실체나 사업에 대한 결합을 제외하고는 취득법을 적용하여 회계처리하였습니다. 연결실체는 식별가능한 취득 자산, 인수 부채는 다 음의 예외사항을 제외하고는 취득일의 공정가치로 측정하여 인식하고 있습니다.

- 리스계약: 약정일의 계약상 조건 및 기타 요소를 기초로 하여 분류
- 우발부채: 현재의무로 신뢰성 있게 측정될 수 있는 우발부채를 인식
- 이연법인세자산과 부채: 기업회계기준서 제1012호 '법인세'에 따라 인식 및 측정
- 종업원급여: 기업회계기준서 제1019호 '종업원급여'에 따라 인식 및 측정
- 보상자산: 보상대상항목과 일관성 있는 기준에 따라 인식 및 측정
- 재취득한 권리: 특별규정에 따라 측정
- 주식기준보상: 주식기준보상과 관련된 부채 또는 지분상품을 기업회계기준서 제1102호 '주식기준보상'에 따라 측정
- 매각예정비유동자산: 기업회계기준서 제1105호 '매각예정비유동자산과 중단영업'에 따라 순공정가치로 측정

또한, 연결실체는 취득일 현재 피취득자에 대한 비지배지분을 피취득자의 식별가능한 순자산 중 비지배지분의 비례적 지분으로 측정하고 있습니다.

사업결합에서 이전대가는 공정가치로 측정하며, 그 공정가치는 연결실체가 이전하는 자산, 연결실체가 피취득자의 이전 소유주에 대하여 부담하는 부채 및 연결실체가 발행한 지분의 취득일의 공정가치 합계로 산정합니다. 다만, 사업결합의 이전대가에 포함된 피취득자의 종업원이 보유하고 있는 보상과 교환하여 취득자가 부여한 주식기준보상은 공정가치로 측정하지 않고 상기에서 언급하고 있는 방법으로 측정합니다.

그리고, 연결실체가 사업결합의 효과를 거두기 위하여 발생시킨 취득관련원가에는 중개수수료 즉 자문, 법률, 회계, 가치평가 및 그 밖의 전문가 또는 컨설팅 수수료, 내부의 취득 부서를 유지하기 위한 원가를 포함한 일반관리원가, 채무증권과 지분증권을 등록하고 발행하는 원가를 포함합니다. 이러한 취득관련원가는 기업회계기준서 제1032호 '금융상품: 표시'와 기업회계기준서 제1039호 '금융상품: 인식과 측정'에 따라 인식하는 채무증권과 지분증권의 발행원가를 제외하고, 원가가 발생하고 용역을 제공받은 기간에 비용으로 회계처리하고 있습니다.

## 2) 영업권

연결실체는 취득일 현재 이전대가, 피취득자에 대한 비지배지분 및 단계적 사업결합의 경우 연결실체가 보유하고 있는 피취득자에 대한 지분의 취득일의 공정가치 합계가 취득하는 종속기업의 식별가능한 순자산을 초과하는 금액을 영업권으로 인식하고 있습니다. 그러나, 취득한 식별가능한 순자산이 이전대가, 피취득자에 대한 비지배지분 및 단계적으로 이루어지는 사업결합의 경우 연결실체가 보유하고 있던 피취득자에 대한 지분의 취득일의 공정가치의 합계를 초과하는 경우 측정을 재검토하고, 재검토 이후에도 계속해서 남은 초과분은 즉시 당기손익으로 인식합니다.

비지배지분의 추가취득은 주주간의 거래로 회계처리하고, 그 결과 관련 영업권 등은 인식하지 않고 있습니다.

연결실체는 2010년 1월 1일 이후 발생한 사업결합에 대해서만 한국채택국제회계기준을 소급적용하여 재작성하였습니다. 따라서, 2010년 1월 1일 이전의 사업결합과 관련한 영업권은 연결실체의 과거회계기준에 따라 인식된 금액으로 표시하였습니다.

### (9) 관계기업과 공동기업

관계기업은 연결실체가 재무정책 및 영업정책에 관한 의사결정에 참여할 수 있는 유의적인 영향력을 가지고 있는 회사이며, 일반적으로 연결실체가 피투자기업 의결권의 20%에서 50%를 소유하고 있거나, 15%를 초과하며 은행법상 자회사로 분류되는 경우에는 유의적인 영향력이 있는 것으로 판단하고 있습니다.

공동기업은 약정의 공동지배력을 보유하는 당사자들이 그 약정의 순자산에 대한 권리를 보유하는 공동약정을 말하며, 공동지배력은 약정의 지배력에 대한 계약상 합의된 공유로서, 관련활동에 대한 결정에 지배력을 공유하는 당사자들 전체의 동의가 요구될 때에만 존재합니다.

관계기업과 공동기업 투자지분은 최초에 거래원가를 포함하여 원가로 인식하고, 취득후에는 지분법을 사용하여 회계처리하고 있습니다. 즉, 취득일 이후에 발생한 피투자자의 당기순이익 및 자본변동분 중 연결실체의 지분에 해당하는 금액을 장부금액에 가감하고, 피투자자에게 받은 분배액은 투자지분의 장부금액에서 차감하고 있습니다. 연결실체와 관계기업간의 내부거래에서 발생한 미실현이익은 연결실체지분만큼 제거하고 있습니다. 미실현손실 또한 거래가 이전된 자산에 대한 손상의 증거를 제공하지 않는 한 제거하고 있습니다.

관계기업 또는 공동기업이 유사한 상황에서 발생한 동일한 거래와 사건에 대하여 다른 회계정책을 사용한 경우에는 관계기업 및 공동기업의 재무제표를 적절히 조정하고 있습니다.

투자지분의 장부금액이 영(0)으로 감소된 이후 추가 손실분에 대하여 법적의무 또는 의제의무가 있거나 피투자자를 대신하여 지불하여야 하는 경우를 제외하고는 손실을 인식하지 않고 있습니다.

#### (10) 영업부문

연결실체는 부문에 배분될 자원에 대한 의사결정을 하고 부문의 성과를 평가하기 위하여 최고영업의사결정자가 주기적으로 검토하는 내부보고 자료에 기초하여 부문을 구분하고 있습니다. 최고영업의사결정자에게 보고되는 부문정보는 부문에 직접 귀속되는 항목과 합리적으로 배분할 수 있는 항목을 포함합니다. 배분되지 않은 항목은 주로 본사 건물과 같은 공동자산, 본사 관련 비용 및 법인세 자산과 부채입니다. 연결실체는 은행장을 최고영업의사결정자로 보고 있습니다.

#### (11) 외화환산

##### 1) 외화거래

연결실체를 구성하는 종속기업의 재무제표 작성에 있어서 그 기업의 기능통화 외의 통화(외화)로 이루어진 거래는 거래일의 환율을 적용하여 기록하고 있습니다. 매 보고기간말에 화폐성 외화항목은 보고기간 말의 마감환율로 환산하고 있습니다. 공정가치로 측정하는 비화폐성 외화항목은 공정가치가 결정된 날의 환율로 환산하고, 역사적원가로 측정하는 비화폐성항목은 거래일의 환율로 환산하고 있습니다.

해외사업장순투자 환산차이와 현금흐름위험회피 및 순투자의 위험회피 수단으로 지정된 금융부채에서 발생한 환산차이를 제외하고 화폐성항목의 환산으로 인해 발생한 외환차이와 화폐성항목의 결제시점에 생기는 외환차이는 모두 당기손익으로 인식하고 있습니다. 비화폐성항목에서 발생한 손익을 기타포괄손익으로 인식하는 경우에는 그 손익에 포함된 환율변동효과도 기타포괄손익으로 인식하고, 당기손익으로 인식하는 경우에는 환율변동효과도 당기손익으로 인식하고 있습니다.

## 2) 해외사업장

해외사업장의 기능통화가 연결실체의 표시통화와 다른 경우에는 경영성과와 재무상태를 다음의 방법으로 표시통화로 환산하고 있습니다.

해외사업장의 기능통화가 초인플레이션 경제의 통화가 아닌 경우 재무상대표(비교표시하는 재무상대표 포함)의 자산과 부채는 해당 보고기간 말의 마감환율로 환산하고, 포괄손익계산서(비교표시하는 포괄손익계산서 포함)의 수익과 비용은 해당 거래일의 환율로 환산하고, 환산에서 생기는 외환차이는 기타포괄손익으로 인식합니다.

해외사업장의 취득으로 생기는 영업권과 자산·부채의 장부금액에 대한 공정가치 조정액은 해외사업장의 자산·부채로 보아 해외사업장의 기능통화로 표시하고, 해외사업장의 다른 자산·부채와 함께 마감환율을 적용하여 원화로 환산하고 있습니다.

해외사업장을 처분하는 경우에는 기타포괄손익과 별도의 자본항목으로 인식한 해외사업장관련 외환차이의 누계액은 해외사업장의 처분손익을 인식하는 시점에 자본에서 당기손익으로 재분류합니다. 해외사업장을 포함한 종속기업을 일부 처분 시 기타포괄손익에 인식된 외환차이의 누계액 중 비례적 지분을 그 해외사업장의 비지배지분으로 재귀속시키며, 이 외의 경우에는 해외사업장을 일부 처분한 때에 기타포괄손익에 인식된 외환차이의 누계액 중 비례적 지분만을 당기손익으로 재분류하고 있습니다.

## 3) 해외사업장에 대한 순투자의 환산

해외사업장으로부터 수취하거나 해외사업장에 지급할 화폐성항목 중에서 예측할 수 있는 미래에 결제할 계획이 없고 결제될 가능성이 낮은 항목은 그 해외사업장에 대한 순투자의 일부로 보아 연결재무제표에서 외환차이를 기타포괄손익으로 인식하고 관련 순투자의 처분 시점에 당기손익으로 재분류하고 있습니다.

(12) 현금 및 현금성자산

연결실체는 보유현금과 요구불예금, 유동성이 매우 높고 확정된 금액의 현금으로 전환이 용이하고 가치변동의 위험이 경미한 단기 투자자산을 현금 및 현금성자산으로 분류하고 있습니다. 지분상품은 현금성자산에서 제외하고 있으나, 상환일이 정해져 있고 취득일로부터 상환일까지의 기간이 단기인 우선주와 같이 실질적인 현금성자산인 경우에는 현금성자산에 포함하고 있습니다. 단, 외화타점차는 차입부채 계정에 포함됩니다.

(13) 비파생금융자산

금융자산은 인식 및 측정을 위하여 당기손익인식금융자산, 만기보유금융자산, 대여금 및 수취채권, 대도가능금융자산의 네가지 범주로 구분하고 계약의 당사자가 되는 때에 재무상태표에 인식하고 있습니다. 또한, 정형화된 매입이나 매도거래(즉, 관련 시장의 규정이나 관행에 의하여 일반적으로 설정된 기간 내에 당해 금융상품을 인도하는 계약조건에 따라 금융자산을 매입하거나 매도하는 경우)의 경우에는 매매일에 인식하고 있습니다.

금융자산은 최초인식시점에 공정가치로 측정하며, 당기손익인식금융자산이 아닌 경우 금융자산의 취득과 직접 관련되는 거래원가는 최초 인식시점에 공정가치에 가산하고 있습니다.

1) 당기손익인식금융자산

단기매매금융자산이나 최초 인식시점에 당기손익인식금융자산으로 지정한 금융자산을 당기손익인식금융자산으로 분류하고 있습니다. 당기손익인식금융자산은 최초 인식 후 공정가치로 측정하며, 공정가치의 변동은 당기손익으로 인식하고 있습니다. 한편, 최초 인식시점에 취득과 관련하여 발생한 거래비용은 발생 즉시 당기손익으로 인식하고 있습니다.

2) 만기보유금융자산

단기가 고정되어 있고 지급금액이 확정되었거나 결정 가능한 비파생금융자산으로 연결실체가 만기까지 보유할 적극적인 의도와 능력이 있는 경우 만기보유금융자산으로 분류하고 있습니다. 최초 인식 후에는 유효이자율법을 적용하여 상각후원가로 측정하고 있습니다.

### 3) 대여금 및 수취채권

지급금액이 확정되었거나 결정 가능하고, 활성시장에서 거래가격이 공시되지 않는 비파생금융자산은 대여금 및 수취채권으로 분류하고 있습니다. 최초인식 후에는 유효이자율법을 적용하여 상각후원가로 측정하고 있습니다.

### 4) 매도가능금융자산

매도가능항목으로 지정되거나 당기손익인식금융자산, 만기보유금융자산, 또는 대여금 및 수취채권으로 분류되지 않은 비파생금융자산을 매도가능금융자산으로 분류하고 있습니다. 최초인식후에는 공정가치로 측정하며 공정가치의 변동은 기타포괄손익으로 인식하고 있습니다. 다만, 활성시장에서 공시되는 시장가격이 없고 공정가치를 신뢰성 있게 측정할 수 없는 지분상품과 이터한 지분상품과 연계되어 있으며 그 지분상품의 인도로 결제되어야 하는 파생상품은 원가로 측정하고 있습니다.

### 5) 금융자산의 제거

금융자산의 현금흐름에 대한 계약상 권리가 소멸하거나, 금융자산의 현금흐름에 대한 권리를 양도하고 금융자산의 소유에 따른 위험과 보상의 대부분을 이전할 때 금융자산을 제거하고 있습니다. 만약, 금융자산의 소유에 따른 위험과 보상의 대부분을 보유하지도 않고 이전하지도 아니한 경우, 연결실체가 금융자산을 통제하고 있지도 않다면 금융자산을 제거하고, 금융자산을 계속 통제하고 있다면 그 양도자산에 대하여 지속적으로 관여하는 정도까지 계속하여 인식하고, 관련부채를 함께 인식하고 있습니다.

만약, 금융자산의 현금흐름에 대한 권리를 양도하였으나 금융자산의 소유에 따른 위험과 보상의 대부분을 연결실체가 보유하고 있는 경우에는 당해 금융자산을 계속 인식하고, 수취한 매각금액은 부채로 인식하고 있습니다.

### 6) 금융자산과 부채의 상계

금융자산과 부채는 연결실체가 자산과 부채를 상계할 수 있는 법적인 권리가 있고 순액으로 결제하거나, 자산을 실현하는 동시에 부채를 결제할 의도가 있는 경우에만 상계하여 재무상태표에 순액으로 표시하고 있습니다.

#### (14) 금융자산의 손상

연결실체는 당기손익인식금융자산을 제외한 금융자산의 손상 발생에 대한 객관적인 증거가 있는지를 매 보고기간말에 평가하고 있습니다. 최초 인식 이후에 발생한 하나 또는 그 이상의 사건의 결과로 금융자산의 추정미래현금흐름이 영향을 받았을 경우 금융자산이 손상되었다고 판단합니다. 그러나, 미래 사건의 결과로 예상되는 손상차손은 인식하지 아니합니다.

손상발생의 객관적인 증거가 있는 경우 금융자산 범주별로 다음과 같이 손상차손을 측정하여 당기손익으로 인식합니다.

##### 1) 대출채권

상각후원가로 측정되는 대출채권의 손상차손은 당해 자산의 장부금액과 최초의 유효이자율로 할인한 추정미래현금흐름(아직 발생하지 아니한 미래의 대손은 제외)의 현재가치의 차이로 측정합니다. 이를 위해 연결실체는 개별적으로 유의적인 금융자산에 대해 우선적으로 손상발생의 객관적인 증거가 있는지를 개별적으로 검토합니다.

개별적으로 유의적이지 않은 금융자산의 경우 개별적으로 또는 집합적으로 검토합니다. 개별적인 검토결과 손상발생의 객관적인 증거가 없다면, 그 금융자산은 유사한 신용위험의 특성을 가진 금융자산의 집합에 포함하여 집합적으로 손상여부를 검토합니다.

손상차손은 대손충당금계정을 사용하여 차감하고, 동 금융자산이 회수 불가능하다고 판단되는 경우 해당 금융자산과 같이 상각합니다. 기존에 대손상각하였던 대출채권이 후속적으로 회수된 경우 대손충당금을 증가시키며, 대손충당금의 변동은 당기손익으로 인식합니다.

##### ① 개별평가 대손충당금

개별평가 대손충당금은 평가대상 채권으로부터 회수될 것으로 기대되는 현금흐름의 현재가치에 대한 경영진의 최선의 추정에 근거합니다. 이러한 현금흐름을 추정할 때, 연결실체는 관련 상대방의 영업현금흐름 등의 재무적인 상황과 관련 담보물의 순실현가능가치 등 모든 이용가능한 정보를 이용하여 판단합니다.

## ② 집합평가 대손충당금

집합평가 대손충당금은 포트폴리오에 내재된 발생손실을 측정하기 위하여 과거 경험 손실률에 근거한 추정모형을 이용합니다. 동 모형은 상품 및 차주의 유형, 신용등급, 포트폴리오 크기, 손상발현기간, 회수기간 등 다양한 요인을 고려하여 각 자산(또는 자산집합)의 발생부도율(PD: Probability of Default), 담보 및 여신과목별 명목회수율과 부도시 발생손실률(LGD: Loss Given Default)을 적용합니다. 또한, 내재된 손실의 측정을 모형화하고 과거의 경험과 현재의 상황에 기초한 입력변수를 결정하기 위해서 일정한 가정을 적용합니다. 동 모형의 방법론과 가정은 대손충당금 추정치와 실제 손실과의 차이를 감소시키기 위하여 정기적으로 검토됩니다.

### 2) 매도가능금융자산

공정가치 감소액을 기타포괄손익으로 인식하는 매도가능금융자산은 공정가치가 취득원가에 미달하는 금액에서 이전 기간에 이미 당기손익으로 인식한 당해 금융자산의 손상차손을 차감한 금액을 기타포괄손익에서 당기손익으로 재분류합니다.

후속기간에 매도가능금융자산의 공정가치가 증가하고 그 증가가 손상차손을 인식한 후에 발생한 사건과 객관적으로 관련된 경우, 매도가능채무상품은 당기손익으로 환입하고 매도가능지분상품은 기타포괄손익으로 인식합니다.

### 3) 만기보유금융자산

상각후원가로 측정되는 만기보유금융자산은 장부금액과 최초의 유효이자율로 할인한 추정미래현금흐름의 현재가치의 차이로 손상차손을 측정하며, 장부금액에서 직접 차감합니다.

후속기간 중 손상차손의 금액이 감소하고, 그 감소가 손상을 인식한 후에 발생한 사건과 객관적으로 관련된 경우에는 이미 인식한 손상차손은 회복 후 장부금액이 당초 손상을 인식하지 않았다면 회복일 현재 인식하였을 상각후 원가를 초과하지 않는 한도 내에서 당기손익으로 직접 환입합니다.

(15) 파생금융상품

파생상품은 최초 인식시 계약일의 공정가치로 측정하며, 후속적으로 매 보고기간 말의 공정가치로 측정하고 있습니다. 파생상품의 공정가치 변동으로 인한 평가손익은 각각 아래와 같이 인식하고 있습니다.

1) 위험회피회계

연결실체는 이자율위험과 환율위험을 회피하기 위하여 통화선도, 이자율스왑, 통화스왑 등의 파생금융상품계약을 체결하고 있습니다. 회피대상 위험으로 인한 자산 또는 부채, 확정계약의 공정가치의 변동(공정가치위험회피), 발생가능성이 매우 높은 예상거래 또는 확정거래의 환율변동(현금흐름위험회피), 해외사업장 순투자의 환율변동위험(순투자의 위험회피)을 회피하기 위하여 일부파생상품 및 비파생금융상품을 위험회피수단으로 지정하고 있습니다.

연결실체는 위험회피관계의 개시시점에 위험회피관계, 위험관리목적과 위험회피전략을 공식적으로 지정하고 문서화를 수행하고 있습니다. 또한 이 문서에는 위험회피수단, 위험회피대상항목 및 위험회피관계의 개시시점과 그 후속기간에 회피대상위험으로 인한 위험회피대상항목의 공정가치 또는 현금흐름의 변동을 위험회피수단이 상쇄하는 효과를 평가하는 방법 등을 포함하고 있습니다.

① 공정가치위험회피

위험회피수단으로 지정되고 공정가치위험회피회계의 적용요건을 충족한 파생상품의 공정가치 변동은 당기손익으로 인식하고 있으며, 회피대상위험으로 인한 위험회피대상항목의 공정가치변동도 당기손익으로 인식하고 있습니다. 위험회피수단의 공정가치변동과 회피대상위험으로 인한 위험회피대상항목의 공정가치변동은 위험회피대상항목과 관련된 포괄손익계산서의 같은 항목에 인식됩니다. 공정가치위험회피회계는 연결실체가 더 이상 위험회피관계를 지정하지 않거나 위험회피수단이 소멸, 매각, 청산 또는 행사되거나 공정가치 위험회피회계의 적용요건을 더 이상 충족하지 않을 경우 중단됩니다. 회피대상위험으로 인한 위험회피대상항목의 장부금액조정액은 위험회피회계가 중단된 날부터 상각하여 당기손익으로 인식하고 있습니다.

② 현금흐름위험회피

위험회피수단으로 지정되고 현금흐름위험회피회계의 적용요건을 충족한 파생상품의 공정가치변동분 중 위험회피에 효과적인 부분은 기타포괄손익으로 처리하며, 위험회피에 비효과적인 부분은 당기손익으로 인식하고 있습니다. 현금흐름위험회피회계는 연결실체가 더 이상 위험회피관계를 지정하지 않거나 위험회피수단이 소멸, 매각, 정산, 행사되거나, 현금흐름위험회피회계의 적용요건을 더 이상 충족하지 않을 경우 중단됩니다.

③ 순투자의 위험회피

위험회피수단으로 지정되고 해외사업장순투자의 위험회피회계의 적용요건을 충족한 금융상품의 공정가치 변동 중 위험회피에 효과적인 부분은 기타포괄손익으로 인식하며, 위험회피에 비효과적인 부분은 당기손익으로 인식하고 있습니다. 위험회피에 효과적이어서 기타포괄손익으로 인식한 부분은 향후 그 해외사업장을 처분하거나 그 해외사업장의 일부를 처분하는 시점에 기업회계기준서 제1021호 '환율변동효과'에 따라 재분류조정으로 기타포괄손익에서 당기손익으로 재분류합니다.

2) 내재파생상품

내재파생상품은 주계약의 경제적 특성 및 위험도와 밀접한 관련성이 없고 내재파생상품과 동일한 조건의 별도의 상품이 파생상품의 정의를 충족하는 경우, 복합금융상품이 당기손익인식항목으로 지정되지 않았다면 내재파생상품을 주계약과 분리하여 별도로 회계처리하고 있습니다. 주계약과 분리한 내재파생상품의 공정가치 변동은 당기손익으로 인식하고 있습니다.

3) 기타 파생상품

위험회피수단으로 지정되지 않은 파생상품의 공정가치 변동은 즉시 손익으로 인식하고 있습니다.

(16) 유형자산

유형자산은 최초에 원가로 측정하여 인식하고 있습니다. 유형자산의 원가에는 경영진이 의도하는 방식으로 자산을 가동하는데 필요한 장소와 상태에 이르게 하는데 직접 관련되는 원가 및 자산을 해체, 제거하거나 부지를 복구하는데 소요될 것으로 추정되는 원가가 포함됩니다.

유형자산은 최초 인식 후에 원가에서 감가상각누계액과 손상차손누계액을 차감한 금액을 장부금액으로 하고 있습니다. 다만, 유형자산 중 토지 및 건물에 대해서는 기업회계기준서 제1101호 '한국채택국제회계기준의 최초채택'을 적용하여 한국채택국제회계기준 전환일 현재의 공정가치로 측정하고 이를 그 시점의 간주원가로 사용하였습니다. 공정가치 평가결과 발생한 유형자산재평가이익은 이사회 결의에 따라 배당이 제한됩니다.

유형자산의 일부를 대체할 때 발생하는 원가는 해당 자산으로부터 발생하는 미래 경제적 효익이 연결실체에 유입될 가능성이 높으며 그 원가를 신뢰성 있게 측정할 수 있는 경우에 자산의 장부금액에 포함하거나 적절한 경우 별도의 자산으로 인식하고 있습니다. 이 때 대체된 부분의 장부금액은 제거하고 있습니다. 그 외의 일상적인 수선·유지와 관련하여 발생하는 원가는 발생시점에 당기손익으로 인식하고 있습니다.

유형자산 중 토지는 감가상각을 하지 않으며, 그 외 유형자산은 자산의 취득원가에서 잔존가치를 차감한 금액에 대하여 아래에 제시된 경제적 내용연수에 걸쳐 정액법으로 상각하고 있습니다. 당기와 전기의 추정 내용연수는 다음과 같습니다.

구 분	내용연수
건물	40년
기타의 유형자산	4년 ~ 5년

유형자산의 제거로 인하여 발생하는 손익은 순매각금액과 장부금액의 차이로 결정되고 그 차액은 당기손익으로 인식하고 있습니다.

연결실체는 매 보고기간말에 자산의 잔존가치와 내용연수 및 감가상각방법을 재검토하고 재검토 결과 추정치가 종전 추정치와 다르다면 그 차이는 회계추정의 변경으로 처리하고 있습니다.

(17) 무형자산

무형자산은 최초 인식할 때 원가로 측정하며, 최초 인식 후에는 원가에서 상각누계액과 손상차손누계액을 차감한 금액을 장부금액으로 인식하고 있습니다. 영업권과 회원권을 제외한 무형자산은 사용가능한 시점부터 잔존가치를 영(0)으로 하여 아래의 내용연수 동안 정액법으로 상각하고 있습니다. 관련 상각비는 일반관리비로 인식됩니다.

구분	내용연수
소프트웨어	5년
개발비	5년
기타의 무형자산	5년 또는 계약기간

내용연수가 유한한 무형자산의 상각기간과 상각방법은 매 회계연도 말에 재검토하고 내용연수가 비한정인 무형자산에 대해서는 그 자산의 내용연수가 비한정이라는 평가가 계속하여 정당한 지를 매 보고기간말에 재검토하며, 이를 변경하는 것이 적절하다고 판단되는 경우 회계추정의 변경으로 처리하고 있습니다.

연구 또는 내부프로젝트의 연구단계에 대한 지출은 발생시점에 비용으로 인식하고 있습니다. 개발단계의 지출은 자산을 완성할 수 있는 기술적 실현가능성, 자산을 완성하여 사용하거나 판매하려는 기업의 의도와 능력 및 필요한 자원의 입수가능성, 무형자산의 미래 경제적 효익을 모두 제시할 수 있고, 관련 지출을 신뢰성 있게 측정할 수 있는 경우에 무형자산으로 인식하고 있으며, 기타 개발관련 지출은 발생시점에 비용으로 인식하고 있습니다.

(18) 투자부동산

임대수익이나 시세차익을 얻기 위하여 보유하는 부동산은 투자부동산으로 분류하고 있습니다. 투자부동산은 최초 인식시점에 거래원가를 포함하여 원가로 측정하고, 원가모형을 적용하고 있습니다. 최초 인식 후에는 원가에서 감가상각누계액과 손상차손누계액을 차감한 금액을 장부금액으로 인식하고 있으며, 당기와 전기의 추정내용연수와 감가상각방법은 다음과 같습니다.

구 분	내용연수	감가상각방법
건 물	40년	정액법

후속원가는 자산으로부터 발생하는 미래 경제적 효익이 유입될 가능성이 높으며, 그 원가를 신뢰성 있게 측정할 수 있는 경우에 한하여 자산의 장부금액에 포함하거나 적절한 경우 별도의 자산으로 인식하고 있으며, 후속지출에 의해 대체된 부분의 장부금액은 제거하고 있습니다. 한편, 일상적인 수선·유지와 관련하여 발생하는 원가는 발생시점에 당기손익으로 인식하고 있습니다.

투자부동산의 감가상각방법, 잔존가치 및 내용연수는 매 보고기간말에 재검토하고 이를 변경하는 것이 적절하다고 판단되는 경우 회계추정의 변경으로 회계처리하고 있습니다.

(19) 리스

연결실체는 리스자산의 소유에 따른 위험과 보상의 대부분이 리스이용자에게 이전되는 경우에는 금융리스로 분류하고, 위험과 보상의 대부분을 이전하지 않는 리스는 운용리스로 분류하고 있습니다.

1) 금융리스

연결실체는 리스약정일에 측정된 최소리스료의 현재가치와 리스자산의 공정가치 중 작은 금액을 리스기간개시일에 금융리스자산과 금융리스부채로 각각 인식하고 있습니다. 리스개설직접원가는 금융리스자산에 포함하고 있습니다.

최소리스료는 금융원가와 리스부채의 상환액으로 나누어서 인식하고 있으며, 금융원가는 부채잔액에 대하여 일정한 기간이자율이 산출되도록 리스기간의 각 보고기간동안 배분하고 있습니다. 조정리스료는 발생한 기간에 비용으로 처리하고 있습니다.

금융리스자산의 감가상각은 연결실체가 소유한 다른 감가상각대상자산과 일관된 체계적인 기준으로 상각하고 있으며, 리스기간 종료시점까지 자산의 소유권을 획득할 것이 확실하지 않은 경우에는 리스기간과 리스자산의 내용연수 중 짧은 기간에 걸쳐 감가상각하고 있습니다. 또한, 연결실체는 금융리스자산에 대해서 손상여부를 검토하고 있습니다.

2) 운용리스

운용리스의 리스료는 리스기간에 걸쳐 정액기준으로 비용을 인식하고 있습니다.

(20) 매각예정비유동자산

자산 또는 처분자산집단의 장부금액이 계속 사용이 아닌 매각거래를 통하여 주로 회수될 것으로 예상된다면 이를 매각예정비유동자산으로 분류하고 있습니다. 이러한 조건은 당해 자산(또는 처분자산집단)이 현재의 상태로 즉시 매각가능하여야 하며 매각될 가능성이 매우 높을 때에만 충족된 것으로 간주하고 있습니다. 자산(또는 처분자산집단)을 매각예정으로 최초 분류하기 직전에 해당 자산(또는 자산과 부채)의 장부금액과 순공정가치 중 작은 금액으로 측정하고 있습니다. 자산의 순공정가치가 하락하면 손상차손을 즉시 당기손익으로 인식하고, 순공정가치가 증가하면 과거에 인식하였던 손상차손누계액을 한도로 하여 이익으로 인식하고 있습니다.

자산이 매각예정으로 분류되거나 매각예정으로 분류된 처분자산집단의 일부인 경우에는 그 자산은 상각하지 아니하고 있습니다.

(21) 비금융자산의 손상

종업원급여에서 발생한 자산, 이연법인세자산 및 매각예정으로 분류되는 자산을 제외한 모든 비금융자산에 대해서는 매 보고기간 말마다 자산손상을 시사하는 징후가 있는지를 검토하며, 만약 그러한 징후가 있다면 당해 자산의 회수가능액을 추정하고 있습니다. 단, 사업결합으로 취득한 영업권 및 내용연수가 비한정인 무형자산, 아직 사용할 수 없는 무형자산에 대해서는 자산손상을 시사하는 징후와 관계없이 매년 회수가능액과 장부금액을 비교하여 손상검사를 하고 있습니다.

회수가능액은 개별 자산별로, 또는 개별 자산의 회수가능액을 추정할 수 없다면 그 자산이 속하는 현금창출단위별로 회수가능액을 추정하고 있습니다. 회수가능액은 사용가치와 순공정가치 중 큰 금액으로 결정하고 있습니다. 사용가치는 자산이나 현금창출단위에서 창출될 것으로 기대되는 미래현금흐름을 화폐의 시간가치 및 미래현금흐름을 추정할 때 조정되지 아니한 자산의 특유위험에 대한 현행 시장의 평가를 반영한 적절한 할인율로 할인하여 추정합니다.

자산이나 현금창출단위의 회수가능액이 장부금액에 미달하는 경우 자산의 장부금액을 감소시키며 즉시 당기손익으로 인식하고 있습니다.

사업결합으로 취득한 영업권은 사업결합으로 인한 시너지효과의 혜택을 받게 될 것으로 기대되는 각 현금창출단위에 배분합니다. 현금창출단위에 대한 손상차손은 우선, 현금창출단위에 배분된 영업권의 장부금액을 감소시키고, 그 다음 현금창출단위에 속하는 다른 자산 각각의 장부금액에 비례하여 자산의 장부금액을 감소시키고 있습니다. 영업권에 대해 인식한 손상차손은 후속기간에 환입할 수 없습니다. 매 보고기간말에 영업권을 제외한 자산에 대해 과거기간에 인식한 손상차손이 더 이상 존재하지 않거나 감소된 것을 시사하는 징후가 있는지를 검토하고 직전 손상차손의 인식시점 이후 회수가능액을 결정하는 데 사용된 추정치에 변화가 있는 경우에만 환입합니다. 손상차손환입으로 증가된 장부금액은 과거에 손상차손을 인식하기 전 장부금액의 감가상각 또는 상각 후 잔액을 초과할 수 없습니다.

(22) 비파생금융부채

연결실체는 계약상 내용의 실질과 금융부채의 정의에 따라 금융부채를 당기손익인식 금융부채와 기타금융부채로 분류하고 계약의 당사자가 되는 때에 재무상대표에 인식하고 있습니다.

1) 당기손익인식금융부채

당기손익인식금융부채는 단기매매금융부채나 최초 인식시점에 당기손익인식금융부채로 지정한 금융부채를 포함하고 있습니다. 당기손익인식금융부채는 최초인식 후 공정가치로 측정하며, 공정가치의 변동은 당기손익으로 인식하고 있습니다. 한편, 최초 인식시점에 발행과 관련하여 발생한 거래비용은 발생 즉시 당기손익으로 인식하고 있습니다.

2) 기타금융부채

당기손익인식금융부채로 분류되지 않은 비파생금융부채는 기타금융부채로 분류하며, 기타금융부채는 예수부채, 차입부채, 사채 등을 포함합니다. 기타금융부채는 최초 인식시 발행과 직접 관련되는 거래원가를 차감한 공정가치로 측정하고 있습니다. 후속적으로 기타금융부채는 유효이자율법을 사용하여 상각후원가로 측정되며, 이자비용은 유효이자율법을 사용하여 인식합니다.

금융부채는 소멸한 경우 즉, 계약상 의무가 이행, 취소 또는 만료된 경우에만 재무상대표에서 제거하고 있습니다.

(23) 납입자본

1) 지분상품

보통주는 자본으로 분류하며 자본거래에 직접 관련되어 발생하는 증분원가는 세금효과를 반영한 순액을 자본에서 차감하고 있습니다.

2) 신종자본증권

연결실체는 상품의 계약조건의 실질에 따라 자본증권을 금융부채 또는 지분상품으로 분류합니다. 연결실체가 계약상 의무를 결제하기 위한 현금 등 금융자산의 인도를 회피할 수 있는 무조건적인 권리를 가지고 있는 일부 신종자본증권의 경우 지분상품으로 분류하여 자본의 일부로 표시하고 있습니다.

### 3) 비지배지분

비지배지분은 지배기업이 직접으로 또는 다른 종속기업을 통하여 간접으로 소유하지 않는 지분에 귀속되는 종속기업의 당기순이익 및 순자산의 해당 부분을 의미하며, 기업회계기준서 제1103호 '사업결합'에 따라 계산한 최초 사업결합시점의 비지배지분 순자산에 해당하는 금액과 사업결합이후 자본의 변동분 중 비지배지분에 해당하는 금액으로 구성됩니다.

### (24) 종업원급여

#### 1) 단기종업원급여

종업원이 관련 근무용역을 제공한 보고기간의 말부터 12개월 이내에 결제될 단기종업원급여는 근무용역과 교환하여 지급이 예상되는 금액을, 근무용역이 제공된 때에 당기순이익으로 인식하고 있습니다. 단기종업원급여는 할인하지 않은 금액으로 측정하고 있습니다.

#### 2) 기타장기종업원급여

종업원이 관련 근무용역을 제공한 보고기간의 말일부터 12개월 이내에 지급되지 않을 기타장기종업원급여(퇴직급여와 해고급여 제외)는 당기와 과거기간에 제공한 근무용역의 대가로 획득한 미래의 급여액을 현재가치로 할인하고 있습니다. 재측정에 따른 변동은 발생한 기간에 당기순이익으로 인식하고 있습니다.

#### 3) 퇴직급여: 확정급여제도

보고기간 말 현재 확정급여제도와 관련된 확정급여부채는 확정급여채무의 현재가치에서 사외적립자산의 공정가치를 차감하여 인식하고 있습니다. 확정급여부채는 매년 독립적인 계리사에 의해 예측단위적립방식으로 계산되고 있습니다. 확정급여채무의 현재가치는 확정급여제도에서 지급될 미래 현금흐름을 관련 퇴직급여의 만기와 유사한 만기를 가지는 퇴직금이 지급되는 통화로 표시된 우량회사채의 수익률을 사용하여 추정 미래 현금흐름을 할인한 후 결정되고 있습니다. 확정급여 원가 중 근무원가와 순확정급여부채(자산)의 순이자는 당기순이익으로 인식하며, 순확정급여부채(자산)의 재측정요소는 기타포괄손익으로 인식하고 있습니다.

#### 4) 퇴직급여: 확정기여제도

당행은 확정기여제도를 실시함에 따라 당해 회계기간중에 당행이 납부하여야 할 부

담금을 퇴직급여의 과목으로 당기비용으로 인식하고 있습니다.

#### 5) 해고급여

연결실체가 통상적인 퇴직시점 이전에 종업원을 해고할 것을 현실적인 철회가능성이 없이 명시적으로 확약하거나, 연결실체가 종업원에게 명예퇴직에 대한 해고급여를 제안하고 종업원이 자발적으로 제안을 수락하는 경우 해고급여를 당기손익으로 인식하고 있습니다.

#### (25) 주식기준보상

연결실체는 제공받는 재화나 용역의 대가로 종업원에게 주식이나 주식선택권을 부여하는 주식결제형 주식보상거래에 대하여, 제공받는 재화나 용역의 공정가치 또는 제공받는 재화나 용역의 공정가치를 신뢰성 있게 측정할 수 없다면 부여한 지분상품의 공정가치에 기초하여 재화나 용역의 공정가치를 간접측정하고 그 금액을 가득기간 동안에 종업원급여비용과 자본으로 인식하고 있습니다. 주식선택권의 가득조건이 용역제공조건 또는 시장조건이 아닌 가득조건인 경우에는 궁극적으로 가득되는 주식선택권의 실제수량에 기초하여 결정되도록 인식된 종업원비용을 조정하고 있습니다.

제공받는 재화나 용역의 대가로 현금을 지급하는 현금결제형 주식기준보상거래의 경우에는 제공받는 재화나 용역과 그 대가로 부담하는 부채를 공정가치로 측정하고 가득기간 동안 종업원급여비용과 부채로 인식하고 있습니다. 또한 부채가 결제될 때까지 매 보고기간 말과 최종결제일에 부채의 공정가치를 재측정하고, 공정가치의 변동액은 급여로 인식하고 있습니다.

연결실체의 임직원에게는 모회사인 신한금융지주회사의 주식에 근거한 주식기준보상이 부여되어 있으며, 연결실체는 신한금융지주회사와의 상환지급약정에 따라 주식기준보상거래의 보상원가를 현금으로 부담하게 되어 있습니다. 연결실체는 해당 주식보상비용을 약정용역제공기간에 안분하여 기간비용 및 미지급비용으로 각각 계상하고 있습니다. 약정용역제공기간 동안 임직원 등의 사망, 퇴직 또는 해고 등으로 계약의무를 이행하지 못하여 부여된 권리가 행사되지 않고 소멸하는 경우에는 기 인식한 미지급비용을 보상비용에서 차감합니다. 한편, 신한금융지주회사와의 상환지급약정에 관계없이 연결실체가 주식기준보상거래를 결제할 의무가 없는 연결실체 내 기업간의 주식기준보상거래는 주식결제형 주식기준보상거래로 측정하고 있습니다.

(26) 충당부채

과거사건의 결과, 현재의 법적의무 또는 의제의무가 존재하고, 당해 의무를 이행하기 위하여 경제적효익을 갖는 자원이 유출될 가능성이 높으며, 당해 의무의 이행에 소요되는 금액을 신뢰성 있게 추정할 수 있는 경우에 충당부채를 인식하고 있습니다.

충당부채로 인식하는 금액은 관련된 사건과 상황에 대한 불가피한 위험과 불확실성을 고려하여 현재의무를 보고기간말에 이행하기 위하여 소요되는 지출에 대한 최선의 추정치입니다. 화폐의 시간가치 효과가 중요한 경우 충당부채는 의무를 이행하기 위하여 예상되는 지출액의 현재가치로 평가하고 있습니다.

매 보고기간 말마다 충당부채의 잔액을 검토하고, 보고기간 말 현재 최선의 추정치를 반영하여 조정하고 있습니다. 의무이행을 위하여 경제적 효익을 갖는 자원이 유출될 가능성이 더 이상 높지 않은 경우에는 관련 충당부채를 환입하고 있습니다. 충당부채는 최초 인식과 관련 있는 지출에만 사용하고 있습니다.

(27) 금융보증계약

금융보증계약은 채무상품의 최초 계약조건이나 변경된 계약조건에 따라 지급기일에 특정 채무자가 지급하지 못하여 보유자가 입은 손실을 보상하기 위해 발행자가 특정 금액을 지급하여야 하는 계약입니다.

금융보증계약은 최초 인식시 공정가치로 측정하여 지급보증충당부채에 포함되며, 공정가치는 당해 금융보증계약의 기간 동안 상각됩니다.

최초 인식 이후에는 다음 중 큰 금액으로 측정됩니다.

- 기업회계기준서 제1037호 '충당부채, 우발부채 및 우발자산'에 따라 결정된 금액 (당해 금융보증계약으로부터 기대되는 지급 금액의 현재가치)
- 최초인식금액에서 기업회계기준서 제1018호 '수익'에 따라 인식한 상각누계액을 차감한 금액

(28) 수익·비용의 인식

1) 이자수익과 이자비용

이자수익과 이자비용은 유효이자율법을 적용하여 포괄손익계산서에 인식합니다. 유효이자율법은 금융자산이나 금융부채의 상각후원가를 계산하고 관련 기간에 걸쳐 이자수익이나 이자비용을 배분하는 방법입니다.

유효이자율을 계산할 때 당해 금융상품의 모든 계약조건을 고려하여 미래현금흐름을 추정하나, 미래 신용위험에 따른 손실은 고려하지 않습니다. 또한, 계약 당사자 사이에서 지급하거나 수취하는 수수료, 거래원가 및 기타의 할증액과 할인액 등을 반영합니다. 금융상품에 대한 현금흐름 또는 기대존속기간을 신뢰성 있게 추정할 수 없는 예외적인 경우에는 전체 계약기간 동안 계약상 현금흐름을 사용하여 유효이자율을 구합니다.

금융자산이나 유사한 금융자산의 집합이 손상차손으로 감액되면, 그 후의 이자수익은 손상차손을 측정할 목적으로 미래현금흐름을 할인하는 데 사용한 이자율을 사용하여 인식합니다.

2) 수수료수익

연결실체는 금융용역수수료를 그 수수료의 부과목적과 관련 금융상품의 회계처리 기준에 따라 다음과 같이 구분하여 처리합니다.

① 금융상품의 유효수익을 구성하는 수수료

금융상품의 유효이자율의 일부를 구성하는 수수료의 경우 일반적으로 유효이자율에 대한 조정항목으로 처리합니다. 이러한 수수료에는 차입자의 재무상태, 보증, 담보와 기타 보장약정과 관련된 평가 및 사무처리, 관련 서류의 준비 및 작성 등의 활동에 대한 보상, 금융부채 발행시 수취된 개설수수료 등이 포함됩니다. 그러나, 금융상품이 당기손익인식금융상품에 해당하는 경우 수수료는 상품의 최초 인식시점에 수익으로 인식합니다.

② 용역을 제공함으로써 가득되는 수수료

자산관리수수료, 업무수탁수수료, 보증용역수수료 등 일정기간 동안 용역의 제공대가로 부과되는 수수료는 그 용역을 제공하는 때에 수익으로 인식합니다. 또한, 특정한 대출약정이 체결될 가능성이 낮고, 그 대출약정이 기업회계기준서 제1039호 '금융상품: 인식과 측정'의 적용범위에 해당하지 않는다면, 해당 약정수수료는 약정기간에 걸쳐 기간에 비례하여 수익으로 인식합니다.

③ 유의적인 행위를 수행함으로써 가득되는 수수료

주식 또는 기타증권 매매, 사업양수도의 주선과 같이 제3자를 위한 거래의 협상 또는 협상참여의 대가로 수취하는 수수료 및 판매수수료 등 유의적인 행위를 수행함으로써 가득되는 수수료는 유의적인 행위를 완료한 시점에 수익으로 인식합니다.

3) 배당수익

배당수익은 주주로서 배당을 받을 권리가 확정되는 시점에 수익을 인식하고 있습니다.

(29) 법인세

법인세비용은 당기법인세와 이연법인세로 구성되어 있으며, 기타포괄손익이나 자본에 직접 인식되는 거래나 사건 또는 사업결합에서 발생하는 세액을 제외하고는 당기손익으로 인식하고 있습니다.

연결실체의 모회사인 신한금융지주회사는 당행을 포함한 국내완전자회사를 하나의 납세단위로 보아 소득금액을 통산하여 법인세를 신고·납부하고, 연결실체는 신한금융지주회사에 연결법인세 부담세액 개별귀속액을 지급할 의무만 존재하므로, 해당 금액을 당기법인세부채에 포함된 미지급금으로 계상하였습니다. 자산·부채의 장부금액과 세무가액의 차이인 일시적차이와 이월공제가 가능한 세무상결손금과 세액공제 등에 대하여 미래에 부담하게 될 법인세부담액과 미래에 경감될 법인세부담액 중 연결실체에 직접 귀속되는 항목에 대하여 각각 이연법인세부채 및 자산으로 인식하고 있습니다. 한편, 당행을 제외한 종속기업은 각 과세당국에 의해 적용되는 세법에 따라 별도로 법인세를 산출하며, 해당 금액을 당기법인세부채에 포함된 미지급법인세로 계상하고 있습니다.

종속기업, 관계기업 및 공동기업 투자지분에 관한 가산할 일시적차이에 대해서는 연결실체가 일시적차이의 소멸시점을 통제할 수 있으며, 예측가능한 미래에 일시적차이가 소멸하지 않을 가능성이 높은 경우를 제외하고는 모두 이연법인세부채를 인식하고 있습니다. 또한, 차감할 일시적차이로 인하여 발생하는 이연법인세자산은 일시적차이가 예측가능한 미래에 소멸 가능할 가능성이 높고, 일시적차이가 사용될 수 있는 과세소득이 발생할 가능성이 높은 경우에 인식하고 있습니다.

이연법인세자산과 부채는 보고기간말 제정되었거나 실질적으로 제정된 세법에 근거하여 당해 자산이 실현되거나 부채가 지급될 보고기간에 적용될 것으로 기대되는 세율을 사용하여 측정하고 있습니다. 이연법인세자산과 이연법인세부채를 측정할 때에는 보고기간말 현재 연결실체가 관련 자산과 부채의 장부금액을 회수하거나 결제할 것으로 예상되는 방식에 따라 법인세효과를 반영하였습니다.

이연법인세자산의 장부금액은 매 보고기간말에 검토하고, 이연법인세자산으로 인한 혜택이 사용되기에 충분한 과세소득이 발생할 가능성이 더 이상 높지 않은 경우 이연법인세자산의 장부금액을 감소시키고 있습니다.

이연법인세자산과 부채는 동일 과세당국이 부과하는 법인세이고, 연결실체가 인식된 금액을 상계할 수 있는 법적 권한을 가지고 있으며 당기 법인세부채와 자산을 순액으로 결제할 의도가 있는 경우에만 상계하고 있습니다. 배당금 지급에 따라 추가적으로 발생하는 법인세비용이 있다면 배당금지급과 관련한 부채가 인식되는 시점에 인식하고 있습니다.

(30) 신탁관련 회계처리

연결실체는 자본시장과 금융투자업에 관한 법률 제114조에 따라 신탁재산을 고유재산과 구분하여 회계처리하고 있습니다. 이와 관련하여 신탁계정에 대여한 자금을 신탁계정대여금, 신탁계정으로부터 차입한 자금을 신탁계정미지급금으로 계상하고 있으며 금융투자업규정에 따라 신탁재산의 운용, 관리 및 처분과 관련하여 신탁보수를 취득하고 이를 신탁업무운용수익으로 계상하고 있습니다.

(31) 주당이익

연결실체는 보통주 기본주당이익과 희석주당이익을 계속영업손익과 당기순손익에 대하여 계산하고 연결포괄손익계산서에 표시하고 있습니다. 기본주당이익은 보통주에 귀속되는 당기순손익을 보고기간 동안에 유통된 보통주식수를 가중평균한 주식수로 나누어 계산하고 있습니다. 희석주당이익은 전환사채와 종업원에게 부여한 주식기준보상 등 모든 희석효과가 있는 잠재적 보통주의 영향을 고려하여 보통주에 귀속되는 당기순손익 및 가중평균유통보통주식수를 조정하여 계산하고 있습니다.

(32) 미적용 제·개정 기준서

제정·공표되었으나 2016년 1월 1일 이후 시작하는 회계연도에 시행일이 도래하지 아니한 제·개정 기준서는 다음과 같습니다. 연결실체는 연결재무제표 작성시 다음의 제·개정 기준서를 조기적용하지 아니하였습니다. 다음의 제·개정 기준서 및 해석서 적용시 연결재무제표에 미치는 영향은 보고기간말 현재로 추정할 수 없습니다.

1) 기업회계기준서 제1109호 '금융상품'

2015년 9월 25일 제정된 기업회계기준서 제1109호 '금융상품'은 2018년 1월 1일 이후 최초로 시작되는 회계연도부터 적용하되 조기 적용할 수도 있습니다. 동 기준서는 현행 기업회계기준서 제1039호 '금융상품: 인식과 측정'을 대체할 예정입니다. 연결실체는 기업회계기준서 제1109호를 2018년 1월 1일 이후 시작되는 회계연도부터 적

용할 예정입니다.

새로운 기업회계기준서 제1109호는 소급 적용함이 원칙이나, 금융상품의 분류·측정, 손상의 경우 비교정보 재작성을 면제하는 등 일부 예외조항을 두고 있고, 위험회피회계의 경우 옵션의 시간가치 회계처리 등 일부 예외조항을 제외하고는 전진적으로 적용합니다.

기업회계기준서 제1109호의 주요 특징으로 금융자산의 판리를 위한 사업모형과 금융자산의 계약상 현금흐름 특성에 근거한 금융자산의 분류와 측정, 기대신용손실에 기초한 금융상품의 손상모형, 위험회피회계 적용조건을 충족하는 위험회피대상항목과 위험회피수단의 확대 또는 위험회피효과 평가방법의 변경 등을 들 수 있습니다.

기업회계기준서 제1109호에서 금융자산을 상각후원가 또는 기타포괄손익-공정가치 측정 대상으로 분류하기 위한 요건이 현행 기업회계기준서 제1039호의 요건보다 엄격하므로, 기업회계기준서 제1109호 도입 시 당기손익-공정가치 측정 대상 금융자산의 비중이 증가하여 당기손익의 변동성이 확대될 수 있습니다.

현행 기업회계기준서 제1039호에서 모두 당기손익으로 인식했던 당기손익-공정가치 측정 항목으로 지정한 금융부채의 공정가치 변동 중 신용위험 변동으로 인한 부분은 기타포괄손익으로 표시되므로 금융부채의 평가 관련 당기손익이 감소할 수 있습니다.

기업회계기준서 제1109호에서는 금융자산 최초 인식 후 신용위험의 증가 정도에 따라 아래 표와 같이 3단계로 구분하여 12개월 기대신용손실이나 전체기간 기대신용손실에 해당하는 금액으로 손실충당금을 측정하도록 하고 있어 현행 기업회계기준서 제1039호의 발생손실모형에 비하여 신용손실을 조기에 인식할 수 있습니다.

구분	손실충당금
최초 인식 후 신용위험이 유의적으로 증가하지 않은 경우	12개월 기대신용손실: 보고기간 말 이후 12개월 내에 발생 가능한 금융상품의 채무불이행 사건으로 인한 기대신용손실
최초 인식 후 신용위험이 유의적으로 증가한 경우	전체기간 기대신용손실: 기대존속기간에 발생할 수 있는 모든 채무불이행 사건으로 인한 기대신용손실
신용이 손상된 경우	

기업회계기준서 제1109호의 위험회피회계를 적용할 경우, 현행 기업회계기준서 제1039호의 위험회피회계 적용요건을 충족하지 못하는 일부 거래에 대해서도 위험회피회계를 적용할 수 있게 되어 당기손익의 변동성이 축소될 수 있습니다.

한편, 기업회계기준서 제1109호의 원활한 도입을 위해서는 재무영향분석 및 회계정책 수립, 회계시스템 구축, 시스템 안정화 등의 준비 작업이 필요합니다. 연결실체는 동 기준서의 도입을 위해 주요 종속기업을 대상으로 2015년 11월부터 재무영향분석 및 회계정책 수립 절차에 착수하여, 보고기간말 현재 회계시스템 구축을 진행 중이며 2017년에 시스템 안정화 작업을 진행할 계획입니다.

동 기준서를 최초로 적용하는 회계기간의 재무제표에 미치는 영향은 동 기준서에 따른 회계정책의 선택과 판단뿐 아니라 해당 기간에 연결실체가 보유하는 금융상품과 경제상황 등에 따라 다를 수 있습니다. 이에 따라 동 기준서 적용 시 연결재무제표에 미치는 영향은 보고기간말 현재로 추정하기는 어렵습니다. 연결실체는 향후 시스템 구축 작업 완료 후에 구체적인 재무영향을 분석할 계획입니다.

## 2) 기업회계기준서 제1115호 '고객과의 계약에서 생기는 수익'

기업회계기준서 제1115호 '고객과의 계약에서 생기는 수익'은 고객과의 모든 계약에 적용되는 단일의 기준서로서 수익인식을 위한 5단계 분석을 제시하고 통제에 기반한 모형이 위험과 보상에 기반한 모형을 대체합니다. 기존 위험과 보상 모델은 수행의무의 이행 시점을 나타내는 하나의 지표로 변경되었습니다. 동 기준서는 2018년 1월 1일 이후 개시하는 회계연도부터 의무적으로 적용됩니다.

### 3. 금융상품 위험관리

#### 3-1. 신용위험

연결실체는 일정 수준의 신용위험에 노출되어 있으며, 이는 거래상대방의 의무불이행으로 인해 연결실체가 재무적 손실을 입을 위험을 의미합니다. 신용위험은 회사의 영업활동에 있어 가장 중요하게 관리되어야 할 위험으로 분류되며, 경영진은 신용위험 최대노출액을 주의 깊게 관리하고 있습니다. 신용노출은 주로 예치금과 대출채권과 관련된 대출 과정 및 채무증권에 대한 투자활동과 그룹 자산 포트폴리오의 환어음 등에서 발생하며, 대출약정 등의 재무제표의 난외 계정과 관련한 신용위험이 존재합니다.

##### (1) 신용위험 관리

연결실체의 신용리스크 관리에 대한 기본 정책은 리스크정책위원회에서 결정됩니다. 리스크정책위원회는 CRO(Chief Risk Officer)를 위원장으로, CCO(Chief Credit Officer)와 사업그룹 담당 그룹장 및 리스크총괄부장으로 구성되어, 은행 전반의 신용위험관리 방향과 여신정책 방향을 의사결정하고 있습니다. 리스크정책위원회와 별도로 여신심의위원회를 설치하여 거래여신 및 한도승인 등의 여신 심사를 분리하고 있으며, CCO를 위원장으로, CRO와 여신관련 사업그룹 담당 부행장, 여신기획부장 및 선임심사역으로 구성되어 여신의 건전성을 제고하고 운용 수익성을 제고하는 방향으로 여신 심사를 하고 있습니다.

신용리스크 대상자산을 보유 및 관리하는 모든 영업단위에서 1차적으로 해당자산에 대한 리스크관리를 수행하고, 리스크총괄부 및 여신기획부 등 신용리스크 관리 부서에서는 2차적으로 은행 전체의 신용리스크 관리를 담당합니다. 리스크총괄부는 리스크정책위원회에서 설정된 신용리스크 한도 및 동일 차주별, 계열별, 업종별, 국가별 신용 최대노출액 한도를 관리하는 등 신용포트폴리오 관리를 수행하고 있습니다. 또한 신용평가시스템, 담보관리시스템 운용을 통한 PD, LGD, EAD(Exposure At Default) 등 신용리스크 산출요소(Risk Component)를 측정 및 관리하고 있습니다. 여신 의사결정 지원 및 견제 조직으로서 여신기획부는 은행 전체의 여신정책 및 제도를 관리하고 있으며, 여신심사부에서는 독립적인 신용평가 수행 및 여신 의사결정을 수행하고 있습니다. 또한 여신감리부에서는 거래 여신 등에 대한 개별 여신감리를 수행하고 있습니다.

모든 여신고객(개인 및 기업)에 대하여 신용등급이 부여되어 관리되는데, 개인은 신상정보, 은행내부실적정보, 외부신용정보를 합산하여 산출되고, 기업의 경우 재무항목과 산업위험, 영업위험, 경영위험 등의 비재무항목 등을 종합적으로 고려하여 신용평가시스템에서 산출됩니다. 산출된 신용등급은 여신승인, 한도관리, 가격결정, 대손충당금 적립 등에 활용되는 등 신용리스크 관리의 기본이 됩니다.

연결실체의 신용평가시스템은 Basel III 요건을 반영하여 개인평가시스템(ACE: Automatic Credit Evaluation), 최대노출액 5억 이하 소매SOHO신용평가시스템, 기업신용평가시스템(AIRS: Advanced Internal Rating System)을 운영하고 있습니다.

기업여신에 대한 심사는 집단 의사결정체제를 취함으로써 객관적이고 신중한 의사 결정을 하고 있습니다. 일반적인 여신의 경우 영업점의 RM(Relationship Manager)과 각 사업부문 본부 심사역의 합의 하에 여신 승인이 이루어지며, 규모가 크거나 중요한 여신의 경우는 심사협의체 등에서 여신 승인이 이루어집니다. 특히, 전결한도를 초과하는 거액 여신 등 중요 여신에 대하여는 여신 최고의사결정기구인 여신심의회 위원회에서 심사를 하고 있습니다. 개인여신은 개인여신심사부에서 객관적인 통계방법과 은행의 신용정책에 기초한 자동화된 개인여신평가시스템(CSS: Credit Scoring System)에 의하여 심사가 이루어지고 있습니다.

개별 여신에 대한 상시 관리를 위하여 상시모니터링시스템을 가동하고 있습니다. 기업여신 거래처 중 부실예상기업을 자동 검색하여 심사역과 RM으로 하여금 Loan Review를 하도록 하고 있으며, 사업그룹과 독립된 여신감리부에서는 Loan Review 결과의 적정성을 판단하고 필요에 따라 해당 기업의 신용등급 조정을 요청합니다. 이러한 절차에 따라 부실예상기업을 조기경보기업, 관찰기업 및 정상기업으로 분류한 뒤 위험단계별 관리지침에 따라 차별 관리함으로써 여신의 부실화를 조기에 차단하고 있습니다. 전문 신용평가기관과 제휴한 재무분석지원시스템은 여신심사 및 관리를 지원하고 있으며, 창조금융지원실에서 산업등급을 산출·관리하고, 산업동향 및 기업정보를 분석·제공하고 있습니다.

(2) 위험한도관리 및 위험경감 정책

연결실체는 신용리스크를 적정 수준으로 통제하기 위하여 아래와 같은 한도관리 체계를 수립·운영하고 있습니다.

- 신용리스크 한도는 신용VaR 및 최대노출액 기준으로 사업부문별, 고객별, 상품별, 업종별 등 각 부문별로 설정하여 관리함
- 리스크총괄부에서는 신용VaR 및 최대노출액 기준의 한도 설정과 관리업무를 수행하고, 여신기획부와 여신심사부에서도 신용리스크 관리를 위해 설정된 최대노출액 한도관리 업무를 실행함
- 리스크총괄부, 리스크공학부는 매년 1회 이상 은행 전체의 신용리스크 한도 운영 계획을 수립하여 리스크정책위원회에 부의함
- 각 사업부문은 사업부문별로 할당된 신용리스크 한도를 모니터링하고 준수함
- 식별된 신용위험에 대해 개인고객 및 기업고객, 산업과 국적별 한도를 지정 및 관리함
- 개별 차주 혹은 차주 집단, 지리적 산업별 부문에 대해 수용할 수 있는 위험의 한도를 설정함
- 해당 위험은 연간 기준 혹은 필요하다고 판단되는 경우 기간 내에 재검토되며, 상품별, 산업별, 국가별 위험의 한도는 분기별로 이사회에 승인을 득함
- 기관을 포함한 차주별 최대노출액은 재무제표상의 계정과 난외계정에 대해 개별 설정된 하위 수준의 한도에 의해 관리되며, 외화선도 거래 등 상품 거래와 관련된 일별 거래에 대해서도 위험의 한도를 결정함
- 한도에 대비한 실제 최대노출액은 일별로 관리함
- 신용위험 최대노출액은 차주에 대한 이자와 원금 상환능력을 분석하는 과정에서도 관리되며, 필요한 경우 이 과정에서 대출한도를 변경함

기타 위험관리 방안은 다음과 같습니다.

#### 1) 담보

연결실체는 신용위험을 완화하기 위한 정책과 절차들을 도입하고 있습니다. 신용위험과 관련하여 일반적으로 담보채가 사용되며, 연결실체는 특정 종류의 자산에 대한 질권설정에 대한 정책을 도입하고 있으며, 주요 담보 형태는 다음과 같습니다.

- 주택 담보
- 부동산, 재고자산 및 대출채권 등
- 채무증권 및 지분증권 등 금융상품

상대적으로 장기 대출채권은 일반적으로 담보가 설정되어 있습니다. 반면, 리볼빙 개인 신용대출은 무담보인 경우가 일반적입니다. 또한, 신용위험으로 인한 손실을 최소화하기 위해 연결실체는 자산 손상의 징후가 있는 경우 거래상대방에 추가 담보를 설정하고 있습니다.

대출채권 외의 금융자산에 대한 담보는 상품의 성격에 따라 차이가 있습니다. 금융상품 포트폴리오 등의 담보 설정된 ABS 등 특수한 경우를 제외하면, 채무증권의 경우 무담보가 일반적입니다.

#### 2) 파생금융상품

연결실체는 매입 이후 처분 계약 사이에 있는 파생금융상품에 대해 금액과 기간에 대한 한도를 유지하여 관리하고 있습니다.

### 3) 일괄상계약정

연결실체는 상당한 규모의 거래를 수행하는데 있어 거래상대방과 일괄상계약정을 체결함에 따라 신용 손실에 대한 최대노출액을 제한하고 있습니다.

거래는 보통 총액 기준으로 설정되어 있음에 따라 일괄상계약정은 일반적으로 재무상태표상 자산과 부채를 상계한 결과로 나타나지 않습니다. 하지만, 거래상대방에 대한 모든 금액이 순액 기준으로 설정될 때, 손실이 발생한다면 favourable 계약과 관련된 신용 위험은 범위 내에서 일괄상계약정에 의해 줄어듭니다.

일괄상계약정에 속해 있는 신용 위험에 대한 그룹의 전체적인 최대노출액은 약정에 속해 있는 각 거래에 영향을 받기 때문에 짧은 기간 내에 실질적으로 변동할 수 있습니다.

### 4) 신용 관련 약정

보증과 신용공여는 여신과 같은 신용 위험을 가지고 있습니다. 신용장(특정 기간과 상황 아래 요구된 금액에 대하여 연결실체에서 제3자에 어음을 발행하여 고객을 대신하여 신용을 보증)은 그들과 관련된 기초적인 상품의 선적에 의해 담보가 설정되어 있으므로 여신보다 더 적은 위험을 수반합니다. 신용 보강에 대한 약정들은 여신, 보증 혹은 신용장의 형태에서 신용을 보강시키는 한도의 미사용 비율을 나타냅니다. 신용을 보강하는 약정에 대한 신용위험과 관련하여, 당행은 총 미사용약정과 동일한 금액에 대하여 잠재적으로 노출되어 있습니다. 장기 약정은 일반적으로 단기 약정보다 신용위험의 정도가 크기 때문에 연결실체는 신용약정의 만기에 대하여 모니터링하고 있습니다.

(3) 신용위험에 대한 최대 노출액

당기말과 전기말 현재 보유 금융상품의 신용위험에 대한 최대노출액의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)				
구 분		제185(당기)	제184(전기)	
예치금 및 대출채권(주1,2)	은행		10,032,848	9,266,841
	개인	주거용부동산담보대출	45,068,588	44,937,977
		기타	61,786,832	54,408,820
		소 계	106,855,420	99,346,797
	정부/공공기관/중앙은행		11,482,301	16,394,736
	기업	대기업	31,988,958	31,255,834
		중소기업	68,047,999	64,888,159
		특수금융	3,719,100	3,467,796
		기타	542	981
		소 계	103,756,599	99,612,770
	카드채권		17,565	20,745
합 계		232,144,733	224,641,889	
단기매대금융자산	채무증권	9,229,544	8,097,168	
	금/은예치금	247,845	149,220	
	합 계	9,477,389	8,246,388	
파생상품자산		2,579,121	1,617,518	
매도가능금융자산	채무증권	25,280,758	22,026,203	
만기보유금융자산	채무증권	11,630,270	10,105,051	
기타금융자산(주1,3)		11,957,522	9,702,482	
난외계정	금융보증	3,403,788	3,656,213	
	대출약정 및 기타 신용관련 부채	75,287,793	76,224,534	
	합 계	78,691,581	79,880,747	
총 계		371,761,374	366,220,278	

(주1) 예치금 및 대출채권, 기타금융자산의 최대 노출액은 이상각잔액과 대손충당금을 차감한 순장부금액입니다.

(주2) 신BIS협약(Basel III)의 자기자본비율(BIS 비율) 산출상 유사한 신용위험집단으로 분류하였습니다.

(주3) 미수금, 미수수익, 예치보증금, 미회수내국환채권, 가지금금 등으로 구성되어 있습니다.

(4) 예치금과 대출채권의 손상정보

1) 당기말과 전기말 현재 예치금과 대출채권의 손상 여부에 대한 내역은 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

(단위: 백만원)										
구분	은행	개인		정부 공공기관 중앙은행	기업				카드채권	합계
		주거용부동산 담보대출	기타		대기업	중소기업	특수금융	기타		
연청 및 손상되지 않은 예치금과 대출채권	10,058,795	44,880,788	81,785,011	11,484,207	32,041,888	87,988,187	3,708,325	580	17,739	231,899,258
연청되었으나 손상되지 않은 대출채권	-	167,829	144,040	-	28,938	188,568	21,802	-	532	527,705
손상된 대출채권	-	55,524	194,515	-	433,857	473,408	32,081	-	9	1,189,394
소계	10,058,795	45,084,119	82,103,568	11,484,207	32,502,459	88,808,161	3,760,208	580	18,280	233,618,355
대손충당금	(23,947)	(15,591)	(318,734)	(1,908)	(513,501)	(558,182)	(41,108)	(18)	(715)	(1,471,822)
합계	10,032,848	45,068,528	81,788,832	11,482,301	31,988,958	88,047,999	3,719,100	542	17,565	232,144,733

<제184(전기)>

(단위: 백만원)										
구분	은행	개인		정부 공공기관 중앙은행	기업				카드채권	합계
		주거용부동산 담보대출	기타		대기업	중소기업	특수금융	기타		
연청 및 손상되지 않은 예치금과 대출채권	9,292,002	44,718,279	54,385,054	16,397,282	31,241,289	84,889,217	3,452,128	1,013	20,817	224,375,039
연청되었으나 손상되지 않은 대출채권	-	179,935	140,088	-	32,153	98,118	-	-	477	450,771
손상된 대출채권	-	59,237	178,804	-	538,500	483,858	81,020	1	13	1,299,433
소계	9,292,002	44,955,451	54,883,948	16,397,282	31,809,922	85,451,199	3,513,148	1,014	21,307	228,125,243
대손충당금	(25,181)	(17,474)	(275,128)	(2,528)	(554,088)	(583,034)	(45,350)	(33)	(582)	(1,483,354)
합계	9,266,841	44,937,977	54,408,820	16,394,738	31,255,834	84,888,159	3,467,798	981	20,745	224,641,889

2) 당기말과 전기말 현재 연체 및 손상되지 않은 예치금과 대출채권의 신용건전성별 구성내역은 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

구분	은행	(단위: 백만원)								
		개인		정부 공공기관 중앙은행	기업				카드채권	합계
		주거용부동산 담보대출	기타		대기업	중소기업	특수금융	기타		
등급 1. 우량	10,058,795	43,394,587	58,038,325	11,484,207	23,188,139	44,707,824	3,543,974	-	14,844	194,404,475
등급 2. 보통	-	1,488,199	3,728,688	-	8,875,527	23,258,563	162,351	580	2,895	37,484,781
소계	10,058,795	44,882,786	61,767,013	11,484,207	32,063,666	67,966,387	3,706,325	580	17,739	231,889,256
다손충당금	(23,947)	(10,318)	(178,897)	(1,906)	(251,845)	(381,638)	(15,642)	(18)	(715)	(882,522)
합계	10,032,848	44,850,450	61,588,116	11,482,301	31,790,021	67,584,749	3,690,683	542	17,024	231,006,734
담보여익한 신용위험 경감효과	34,632	43,484,781	28,423,258	-	7,888,771	44,838,832	940,644	-	148	125,587,186

<제184(전기)>

구분	은행	(단위: 백만원)								
		개인		정부 공공기관 중앙은행	기업				카드채권	합계
		주거용부동산 담보대출	기타		대기업	중소기업	특수금융	기타		
등급 1. 우량	9,292,002	42,489,596	51,838,834	18,397,282	21,985,379	40,705,502	3,139,814	-	18,448	185,858,437
등급 2. 보통	-	2,218,881	2,528,420	-	9,275,890	24,183,715	312,512	1,013	2,371	38,518,802
소계	9,292,002	44,708,477	54,367,254	18,397,282	31,261,269	64,889,217	3,452,326	1,013	20,819	224,377,239
다손충당금	(25,161)	(12,137)	(148,192)	(2,528)	(257,894)	(383,770)	(18,877)	(33)	(582)	(848,952)
합계	9,266,841	44,696,340	54,219,062	18,394,754	30,999,575	64,505,447	3,433,449	980	20,237	223,528,287
담보여익한 신용위험 경감효과	1,051	43,857,487	21,410,889	-	8,389,242	43,483,152	848,811	-	85	117,780,487

3) 당기말과 전기말 현재 연체되었으나 손상되지 않은 예치금과 대출채권의 연체기간별 구성내역은 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

(단위: 백만원)							
구 분	개인		기업			카드채권	합 계
	주거용부동산 담보대출	기타	대기업	중소기업	특수금융		
30일 이내 연체	139,657	87,893	23,757	109,793	21,802	242	383,144
30일~60일 연체	18,590	23,838	116	41,015	-	41	83,600
60일~90일 연체	9,390	19,041	239	15,548	-	23	44,241
90일 이상 연체	192	13,288	2,824	210	-	226	16,720
소 계	167,829	144,040	25,936	166,566	21,802	532	527,705
대손충당금	(2,060)	(30,645)	(1,431)	(9,379)	(128)	-	(43,643)
합 계	165,769	113,395	25,505	157,187	21,674	532	484,062
담보에 의한 신용위험 경감효과	161,728	64,863	1,025	93,996	-	1	321,613

<제184(전기)>

(단위: 백만원)							
구 분	개인		기업		카드채권	합 계	
	주거용부동산 담보대출	기타	대기업	중소기업			
30일 이내 연체	148,391	90,370	20,738	68,465	182	328,146	
30일~60일 연체	21,042	24,296	310	19,276	43	64,967	
60일~90일 연체	10,310	13,786	1,798	6,720	34	32,628	
90일 이상 연체	192	11,656	9,307	3,657	218	25,030	
소 계	179,935	140,088	32,153	98,118	477	450,771	
대손충당금	(1,754)	(27,954)	(3,783)	(5,164)	-	(38,655)	
합 계	178,181	112,134	28,370	92,954	477	412,116	
담보에 의한 신용위험 경감효과	176,821	64,178	2,241	48,097	1	291,338	

4) 당기말과 전기말 현재 손상된 예치금과 대출채권 종류별 담보에 의한 신용위험경감효과의 내역은 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

(단위: 백만원)								
구분	개인		기업				카드차권	합계
	주거용부동산 담보대출	기타	대기업	중소기업	특수금융	기타		
손상된 대출차권	55,524	194,515	433,857	473,408	32,081	-	9	1,189,394
대손충당금	(3,155)	(109,392)	(280,425)	(187,147)	(25,338)	-	-	(585,457)
합계	52,369	85,123	173,432	308,281	6,743	-	9	623,937
담보에 의한 신용위험 경감효과	53,243	43,629	120,990	282,877	-	-	-	480,539

<제184(전기)>

(단위: 백만원)								
구분	개인		기업				카드차권	합계
	주거용부동산 담보대출	기타	대기업	중소기업	특수금융	기타		
손상된 대출차권	59,237	178,804	538,500	483,858	61,020	1	13	1,299,433
대손충당금	(3,583)	(97,980)	(292,811)	(174,100)	(28,473)	-	-	(594,747)
합계	55,654	80,824	243,889	289,758	34,547	1	13	704,686
담보에 의한 신용위험 경감효과	58,075	48,405	98,083	243,848	-	-	-	444,411

(5) 채무증권의 신용등급별 구성 내역

1) 당기말과 전기말 현재 채무증권의 신용등급별 구성내역은 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

(단위: 백만원)				
구 분	단기매매금융자산	매도가능금융자산	만기보유금융자산	합 계
AAA	2,829,395	16,576,071	10,490,786	29,896,252
AA- to AA+	808,494	3,616,869	471,502	4,896,865
A- to A+	3,135,329	2,248,558	171,550	5,555,437
BBB- to BBB+	811,787	1,017,426	137,241	1,966,454
Lower than BBB-	25,000	465,177	148,893	639,070
Unrated	1,619,539	1,356,657	210,298	3,186,494
합 계	9,229,544	25,280,758	11,630,270	46,140,572

<제184(전기)>

(단위: 백만원)				
구 분	단기매매금융자산	매도가능금융자산	만기보유금융자산	합 계
AAA	2,191,647	16,680,379	9,118,585	27,990,611
AA- to AA+	1,146,951	1,555,147	425,682	3,127,780
A- to A+	2,505,680	1,837,268	369,117	4,712,065
BBB- to BBB+	596,975	716,343	-	1,313,318
Lower than BBB-	75,916	419,080	68,672	563,668
Unrated	1,579,999	817,986	122,995	2,520,980
합 계	8,097,168	22,026,203	10,105,051	40,228,422

2) 외부평가기관 신용등급에 따른 유가증권의 신용건전성 기준은 다음과 같습니다.

구분	한신평	한기평	S&P	Fitch	Moody's
AAA	-	-	AAA	AAA	Aaa
AA- to AA+	AAA	AAA	AA- to AA+	AA- to AA+	Aa3 to Aa1
A- to A+	AA- to AA+	AA- to AA+	A- to A+	A- to A+	A3 to A1
BBB- to BBB+	BBB- to A	BBB- to A	BBB- to BBB+	BBB- to BBB+	Baa3 to Baa1
Lower than BBB-	Lower than Baa3				
Unrated	Unrated	Unrated	Unrated	Unrated	Unrated

3) 당기말과 전기말 현재 채무증권의 신용건전성 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구분	제185(당기)	제184(전기)
연체 및 손상되지 않은 유가증권	46,140,572	40,228,422
손상된 유가증권	-	-
합계	46,140,572	40,228,422

(6) 당기말과 전기말 현재 담보 실행으로 취득한 자산 658백만원 및 705백만원을 매각예정자산으로 인식하고 있습니다.

(7) 지역별 구성내역

당기말과 전기말 현재 보유 금융상품 지역별 구성내역은 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

(단위: 백만원)									
구분	한국	미국	영국	일본	독일	베트남	중국	기타	합계
<b>&lt;예치금&gt;</b>									
은행	342,942	751,664	16,677	94,626	24,745	361,791	1,991,413	249,919	3,632,968
정부/공공기관/중앙은행	6,917,670	321,516	-	717,922	62,034	109,943	698,051	27,930	8,673,066
예치금 소계	7,260,612	1,073,200	16,677	812,748	106,779	471,724	2,687,464	276,848	12,706,052
<b>&lt;대출차권&gt;</b>									
은행	2,447,188	17,965	-	233,741	422,635	96,541	1,942,321	1,037,471	6,199,662
개인	103,278,915	336,637	3,508	2,270,102	2,330	294,761	275,900	393,267	108,655,420
주거용부동산담보대출	44,716,068	109,920	977	2,071	94	642	156,714	61,902	45,068,589
기타	58,562,847	226,717	2,531	2,268,031	2,236	293,919	119,186	311,365	61,786,632
정부/공공기관/중앙은행	2,567,372	-	-	-	-	-	-	21,963	2,609,235
기업	91,648,742	1,959,566	60,174	2,040,149	55,002	1,630,144	2,269,651	3,893,171	103,756,599
다기업	26,968,073	1,226,489	42,137	1,151,220	927	781,375	567,948	1,203,789	31,966,958
중소기업	61,621,188	705,684	18,037	888,929	54,055	848,769	1,661,703	2,229,636	68,047,999
특수금융	3,239,034	25,381	-	-	-	-	-	454,685	3,719,100
기타	449	12	-	-	20	-	-	61	542
카드차권	3,410	1,091	-	6	-	13,012	8	38	17,585
대출차권 소계	200,165,607	2,315,279	63,662	4,543,996	479,967	2,036,469	4,487,990	5,345,910	219,436,661
<b>&lt;단기대차금융자산&gt;</b>									
차무채권	9,209,693	-	-	-	-	-	19,851	-	9,229,544
금/은예치금	-	-	247,845	-	-	-	-	-	247,845
단기대차금융자산 소계	9,209,693	-	247,845	-	-	-	19,851	-	9,477,389
<b>&lt;대도가능금융자산&gt;</b>									
차무채권	23,177,345	414,631	59,912	112,381	35,911	464,002	568,334	409,042	25,260,759
<b>&lt;만기보유금융자산&gt;</b>									
차무채권	11,074,151	33,485	-	56,196	-	155,916	166,560	143,962	11,630,270
<b>합계</b>	<b>250,667,408</b>	<b>3,636,775</b>	<b>387,116</b>	<b>5,525,323</b>	<b>622,657</b>	<b>3,148,100</b>	<b>7,950,089</b>	<b>6,175,662</b>	<b>278,533,150</b>

<제184(전)기>

(단위: 백만원)										
구분	한국	미국	영국	일본	독일	베트남	중국	기타	합계	
<b>&lt;예치금&gt;</b>										
은행	358,282	346,834	6,503	21,950	12,117	283,708	1,347,790	273,188	2,648,339	
정부/공공기관/중앙은행	10,753,092	294,332	602	550,439	41,023	67,251	438,214	197,115	12,342,068	
예치금 소계	11,109,374	641,166	7,105	572,389	53,140	350,957	1,785,994	470,281	14,990,408	
<b>&lt;대출가액&gt;</b>										
은행	2,572,273	31,611	-	246,329	491,639	57,227	2,455,903	783,521	6,618,503	
개인	97,197,341	291,392	2,673	1,313,048	3,117	117,797	98,175	323,253	99,346,797	
주거용부동산담보대출	44,934,898	1,432	-	-	-	-	174	1,485	44,937,977	
기타	52,262,455	289,960	2,673	1,313,048	3,117	117,797	98,001	321,768	54,408,620	
정부/공공기관/중앙은행	4,049,328	-	-	-	-	-	-	3,340	4,052,668	
기업	88,605,122	1,539,268	108,968	1,722,282	50,688	1,398,081	2,438,301	3,552,084	99,612,770	
대기업	27,127,184	783,480	88,595	940,218	31,550	533,178	532,149	1,239,480	31,255,634	
중소기업	58,782,731	757,099	20,391	782,044	19,088	864,903	1,904,152	1,777,753	64,888,159	
특수금융	2,914,354	18,683	-	-	-	-	-	534,759	3,487,798	
기타	873	28	-	-	10	-	-	72	981	
카드차권	11,928	1,044	1	3	-	7,734	7	28	20,745	
대출가액 소계	192,635,992	1,863,315	111,660	3,281,643	545,442	1,580,839	4,990,398	4,642,206	209,651,483	
<b>&lt;단기대금용자산&gt;</b>										
차무증권	8,097,188	-	-	-	-	-	-	-	8,097,188	
금융채권	-	-	148,220	-	-	-	-	-	148,220	
단기대금용자산 소계	8,097,188	-	148,220	-	-	-	-	-	8,245,388	
<b>&lt;대도가능금융자산&gt;</b>										
차무증권	21,002,919	190,884	23,368	89,433	34,984	418,885	48,545	219,185	22,028,203	
<b>&lt;만기보유금융자산&gt;</b>										
차무증권	9,828,898	23,485	-	26,770	-	73,228	148,258	6,444	10,105,051	
합계	242,672,341	2,718,830	291,373	3,970,235	633,588	2,423,887	6,971,183	5,338,116	285,019,531	

(8) 산업별 구성내역

당기말과 전기말 현재 보유 금융상품의 산업별 구성내역은 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

(단위: 백만원)									
구분	금융 및 보험업	제조업	도매 및 소매업	부동산임대 및 사업 서비스업	건설업	숙박 및 음식점업	기타	개인고객	합계
<b>&lt;예치금&gt;</b>									
은행	1,933,527	-	-	-	-	-	1,899,459	-	3,832,986
정부/공공기관/중앙은행	9,158,098	3,990	-	-	-	-	710,990	-	9,873,088
예치금 소계	10,091,613	3,990	-	-	-	-	2,610,449	-	12,706,052
<b>&lt;대출차권&gt;</b>									
은행	5,052,578	68	-	110,443	-	-	1,038,773	-	6,199,862
개인	-	-	-	-	-	-	-	106,855,420	106,855,420
주거용부동산 담보대출	-	-	-	-	-	-	-	45,068,588	45,068,588
기타	-	-	-	-	-	-	-	61,786,832	61,786,832
정부/공공기관/중앙은행	2,605,389	-	-	3,315	-	-	531	-	2,609,235
기업	2,533,081	39,801,480	14,491,117	17,630,180	2,183,218	4,540,871	22,778,892	-	103,758,599
대기업	1,283,023	16,806,475	4,262,369	838,481	585,590	208,144	8,188,896	-	31,968,958
중소기업	450,555	22,990,128	10,132,905	15,998,510	1,243,522	4,267,758	12,984,821	-	69,047,999
특수금융	799,483	14,567	75,835	803,188	354,118	68,989	1,604,944	-	3,719,100
기타	-	290	18	3	-	-	231	-	542
카드차권	-	-	-	-	-	-	-	17,585	17,585
대출차권 소계	10,191,028	39,801,528	14,491,117	17,743,938	2,183,218	4,540,871	23,813,996	106,872,985	219,438,681
<b>&lt;단기대여금융자산&gt;</b>									
차무권	5,497,048	839,264	921,410	217,794	60,432	3,748	1,889,850	-	9,229,544
금/은예치금	247,845	-	-	-	-	-	-	-	247,845
단기대여금융자산 소계	5,744,893	839,264	921,410	217,794	60,432	3,748	1,889,850	-	9,477,389
<b>&lt;대도기능금융자산&gt;</b>									
차무권	18,939,223	758,134	89,281	387,080	167,324	-	4,981,758	-	25,263,758
<b>&lt;만기보유금융자산&gt;</b>									
차무권	4,183,880	44,915	-	82,881	30,000	-	7,308,814	-	11,630,270
합계	49,150,617	41,045,831	15,501,788	18,391,673	2,440,974	4,544,617	40,584,685	106,872,985	278,533,150

<제184(전)기>

(단위: 백만원)									
구분	금융 및 보험업	제조업	도매 및 소매업	부동산임대 및 사업 서비스업	건설업	숙박 및 음식음료업	기타	개인고객	합계
<예치금>									
은행	1,485,585	-	-	-	-	-	1,152,773	-	2,648,358
정부/공공기관/중앙은행	11,484,018	-	-	-	-	-	878,050	-	12,342,068
예치금 소계	12,969,583	-	-	-	-	-	2,030,823	-	14,990,406
<대출차권>									
은행	5,188,009	-	-	87,809	-	-	1,384,885	-	6,619,503
개인	-	-	-	-	-	-	-	99,348,797	99,348,797
주거용부동산 담보대출	-	-	-	-	-	-	-	44,937,977	44,937,977
기타	-	-	-	-	-	-	-	54,408,820	54,408,820
정부/공공기관/중앙은행	4,051,888	-	-	-	-	-	1,000	-	4,052,888
기업	2,198,351	37,990,589	13,753,184	17,213,788	2,472,712	4,521,791	21,484,397	-	99,612,770
대기업	979,842	18,888,961	4,190,145	853,212	841,729	241,583	7,480,362	-	31,255,834
중소기업	647,459	21,078,184	9,537,785	15,782,705	1,235,385	4,240,137	12,388,525	-	64,888,199
특수금융	589,051	24,908	25,239	797,814	385,999	40,030	1,615,158	-	3,487,798
기타	-	518	35	35	-	41	352	-	981
카드차권	-	-	-	-	-	-	-	20,745	20,745
대출차권 소계	11,414,028	37,990,589	13,753,184	17,281,375	2,472,712	4,521,791	22,850,282	99,367,542	209,851,483
<단기대매금융자산>									
차우련권	4,991,014	402,271	530,298	241,718	70,811	19,902	1,841,354	-	8,097,168
금융채권	148,220	-	-	-	-	-	-	-	148,220
단기대매금융자산 소계	5,140,234	402,271	530,298	241,718	70,811	19,902	1,841,354	-	8,245,388
<대도가능금융자산>									
차우련권	18,894,445	882,557	80,812	198,201	187,407	-	4,002,981	-	22,026,203
<만기보유금융자산>									
차우련권	3,800,524	88,283	-	73,578	99,955	-	8,284,711	-	10,105,051
합계	50,008,814	39,141,860	14,344,094	17,794,872	2,830,885	4,541,893	38,990,151	99,367,542	285,019,531

### 3-2. 시장위험

시장위험은 금리, 주가, 환율 등과 같은 시장가격의 변동으로 인해 발생할 수 있는 손실 위험을 의미합니다. 연결실체는 단기매매차익 획득을 목적으로 보유하는 유가증권, 외환포지션, 파생금융상품 등을 트레이딩포지션으로 관리하고 여신, 예치금 및 단기매매차익 획득 목적을 제외한 채무증권 등으로 구성된 금리민감 자산과 수신, 차입금, 사채 등으로 구성된 금리민감 부채, 금리 위험을 회피하고자 위험회피수단으로 사용하는 금리민감 파생상품을 비트레이딩 포지션으로 관리하고 있습니다.

연결실체는 리스크정책위원회에서 시장위험 관리에 관한 정책수립과 한도설정 등의 사결정 기능을 수행하며, 리스크총괄부는 전행의 운용부서 및 데스크에 대한 종합적인 시장위험관리를 수행하고 리스크공학부는 시장리스크시스템관리 및 Middle Office 기능을 수행하고 있습니다.

시장위험 관리의 기본은 시장위험으로 인한 최대손실가능액을 일정수준 이내로 유지하기 위한 한도관리입니다. 리스크정책위원회는 운용부서 및 데스크별 VaR한도, 손실한도, 민감도한도, 투자한도 및 포지션한도, 스트레스손실한도 등을 설정하여 운영하고 있으며, 리스크총괄부 및 리스크공학부는 운용부서와는 독립적으로 운영상황을 모니터하며, 리스크정책위원회 및 리스크관리위원회에 정기적으로 보고하고 있습니다. 또한 공평가액평가협의회는 각 사업부문의 신상품(또는 거래)이 시행되기 이전에 공평가액 평가방법에 대한 검토 및 리스크 평가 등을 수행하고, 파생상품 및 구조화상품 리스크리뷰협의회에서는 리스크요인에 대한 점검, 투자규모 제한을 검토하는 등 합리적 의사결정을 지원하여 사전에 리스크요인에 대한 객관적인 분석 및 검토가 이루어지도록 하고 있습니다.

#### (1) 트레이딩 포지션의 시장위험 관리

연결실체는 트레이딩 포지션의 시장위험 측정대상인 외환, 주식, 채권, 파생상품 거래데이터는 프론트시스템에 거래를 입력하여 관리하고, 시장리스크관리시스템(Risk Watch)으로 자동 인터페이스하여 일별 리스크측정 및 한도관리를 수행하고 있습니다. 또한 통계적 방법에 의한 리스크 측정을 보완하고, 경제환경의 급격한 변화에서의 영향도 및 손실규모를 관리하기 위하여 정기적으로 Stress testing을 병행하여 실시하고 있으며, 이를 통해 연결실체의 위기상황시 손실규모가 일정범위 이내로 관리되도록 하고 있습니다.

1) 트레이딩 포지션에서 발생하는 시장위험의 측정방법

연결실체는 트레이딩 포지션에 노출된 금리, 주가, 환율 등의 각 위험에 대하여 역사적 시뮬레이션 VaR(Value at Risk) 방법론을 적용하여 99.9% 신뢰구간에서 시장위험을 산출합니다. VaR는 반대의 시장 상황으로부터 현재 포지션에 대한 잠재적인 손실의 통계적 평가를 기초로 하고 있습니다. 이는 99.9%의 확신의 수준에서 연결실체의 발생가능한 최대손실금액을 표현하고 있습니다. 그러므로 실제 손실이 VaR의 측정치보다 더 클 수 있는 통계적인 가능성(0.1%)이 존재합니다.

VaR 모델은 측정시점의 일별 포지션은 유지가 됨과 동시에 각 측정시점으로부터 과거 10일간의 시장 움직임이 향후에도 지속될 것이라는 가정에 따라 예상손실을 측정하고 있습니다.

과거 움직임에 대한 연결실체의 평가는 과거 5년간의 데이터를 기초로 하고 있고, 현재 포지션에서 금리, 주가, 환율, 옵션변동성의 역사적 변화를 직접적으로 적용하는 역사적인 시뮬레이션 방법을 사용하고 있습니다. 또한 VaR 계산상에서 사용되는 가정과 매개변수의 유효성을 테스트하는 것을 정기적으로 모니터링하고 있으며, 이 방법의 적용은 더 큰 시장 움직임에 대한 현상의 한계의 범위를 넘어서는 손실을 예방하지는 않습니다.

연결실체의 VaR 한도는 매년 리스크관리위원회에서 설정하며, 이 한도에 대한 실제 노출은 매일 검토합니다. VaR 모델의 품질은 VaR 결과에 대한 사후 검증에 의하여 계속적으로 모니터링하고 있고, 모든 사후검증 결과를 이사회에 보고합니다.

2) 트레이딩 포지션의 VaR

연결실체가 보유중인 트레이딩 포지션에 대한 보고기간 중 최소, 최대, 평균 VaR 및 보고기간 말의 VaR의 내역은 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

(단위: 백만원)				
구 분	평균	최대	최소	당기말
금리위험	33,246	48,851	18,764	44,447
주가위험	5,161	5,787	4,815	5,484
환율위험(주)	56,089	61,389	53,678	60,088
옵션변동성위험	149	256	101	221
상품위험	13	35	-	21
분산효과	(38,677)	(54,670)	(24,272)	(49,278)
Total VaR	55,981	61,648	53,086	60,983

<제184(전기)>

(단위: 백만원)				
구 분	평균	최대	최소	전기말
금리위험	37,341	43,746	33,849	35,976
주가위험	8,258	9,049	6,995	7,056
환율위험(주)	45,102	54,459	36,549	44,475
옵션변동성위험	355	550	262	262
상품위험	5	21	-	3
분산효과	(35,789)	(45,895)	(25,953)	(30,699)
Total VaR	55,272	61,930	51,702	57,073

(주) 트레이딩 포지션 및 비트레이딩 포지션을 포함한 금액입니다.

(2) 비드레이딩 포지션의 시장위험 관리

비드레이딩 포지션에서 발생하는 가장 주요한 시장위험은 금리위험입니다. 그러므로 비드레이딩 포지션의 시장위험은 시장금리의 변동으로 인해 순자산가치 및 순이자이익이 변동하는 위험으로 측정됩니다.

연결실체는 리스크정책위원회에서 금리위험관리에 관한 정책수립과 세부한도설정 등 의사결정기능을 수행하며, 동 원칙 및 한도내에서 국외점포를 비롯한 자회사 및 자금부, 신탁부, 중금시장부 등 계정별 관리부서는 1차적으로 금리위험을 인식하고 관리합니다. 리스크총괄부 및 리스크공학부는 리스크정책위원회의 금리위험관련 의사결정을 지원하고 금리위험 허용한도 초과여부를 모니터링하며 회사 전체의 금리위험을 평가하고 관리합니다.

연결실체는 ALM시스템(OPSA)을 통해 금리갭, 듀레이션갭, 시나리오별 NII(Net Interest Income)시뮬레이션 등 다양한 분석방법을 이용하여 금리리스크를 측정 및 관리하고 있으며, 금리VaR, 금리EaR, 금리갭비율에 대해서는 한도를 설정하여 월별로 모니터링하고 있습니다. 또한 Stress testing을 통하여 다양한 위기상황에서 금리리스크에 미치는 영향을 평가하고 있습니다.

1) 비드레이딩 포지션에서 발생하는 시장위험의 측정방법

연결실체는 역사적인 금리시나리오에 의하여 발생하는 순자산가치의 변동분포를 파악하여 향후 1년간의 최대손실 예상액인 금리 VaR(Value at Risk)를 확률론적으로 평가·관리합니다. 또한, 자금량 시나리오를 바탕으로 하여, 과거 기준금리와 연평균 금리와의 변동성을 활용한 역사적인 금리시나리오에 의해 발생하는 순이자이익의 변동분포를 파악하여 향후 1년간의 최대 순이자이익 감소 예상액인 금리 EaR(Earnings at Risk)을 확률론적으로 평가·관리합니다.

또한 국제결제은행(BIS)에서 제시한 표준방법론에 따라 만기구간별 표준 수정듀레이션 및 금리 변동성을 이용하여 금리 VaR를 산출하고, 만기구간별 충격기간 및 금리 변동성을 이용하여 금리 EaR을 산출하고 있습니다.

2) 비드레이딩 포지션의 금리 VaR 및 금리 EaR

당기말과 전기말 현재 BIS에서 제시한 표준방법론에 따라 산출된 비드레이딩 포지션에 대한 금리 VaR 및 금리 EaR 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당)기	제184(전)기
금리 VaR	1,088,995	938,790
금리 EaR	58,091	185,254

(3) 외환위험

연결실체는 해외현지법인 및 구조화기업 등 연결대상의 현물, 선물 외환포지션을 모두 포함한 종합포지션에 기반하여 환위험을 관리하고 있습니다. 리스크정책위원회는 시장리스크 한도를 기반으로 부서별, 데스크별 외환포지션한도 등을 설정하여, 각 영업단위별로 트레이딩 및 비트레이딩 활동에서의 환위험을 관리 및 감독하고 있습니다. 연결실체의 금융공학센터에서 전행의 환포지션을 집중하여 관리하고 있습니다. 동 부서의 데스크 및 딜러들은 설정된 시장리스크 및 외환포지션 한도내에서 현물환과 통화파생상품 거래를 통하여 종합포지션을 관리합니다. 주로 미국 달러(USD), 일본 엔화(JPY), 유로화(EUR), 중국 위안화(CNY) 위주로 거래되고 있으며, 기타 외환은 제한적으로 운용합니다.

당기말과 전기말 현재 외화자산·부채의 통화별 구성내역은 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

(단위: 백만원)						
구분	USD	JPY	EUR	CNY	기타	합계
<b>&lt;자산&gt;</b>						
현금및예치금	1,532,410	1,125,013	208,453	2,692,185	1,129,052	6,687,113
단기대매금융자산	44,678	-	-	-	247,845	292,523
파생상품자산	58,340	515	47	4,088	400	64,390
대출채권	15,139,025	5,524,117	1,270,320	2,566,910	4,015,728	28,516,100
매도가능금융자산	1,443,574	68,920	4,178	427,871	669,899	2,614,442
만기보유금융자산	26,604	187,039	-	166,560	306,729	686,932
기타금융자산	1,696,418	396,875	117,139	376,181	154,564	2,741,177
자산총계	19,942,049	7,302,479	1,600,137	6,233,795	6,524,217	41,602,677
<b>&lt;부채&gt;</b>						
예수부채	10,640,722	5,990,709	606,767	4,418,828	4,002,441	25,659,467
단기대매금융부채	-	-	-	-	485,995	485,995
파생상품부채	106,380	3,171	100	2,061	295	111,007
차입부채	4,923,146	524,217	318,600	812,980	147,960	6,726,903
사채	3,857,223	103,681	152,112	207,912	34,438	4,355,366
기타금융부채	1,981,226	493,286	181,673	558,932	206,966	3,422,083
부채총계	21,507,697	7,115,064	1,259,252	6,000,713	4,878,095	40,760,821
순자산계정	(1,565,648)	187,415	340,885	233,082	1,646,122	841,856
난외 파생상품 노출액	2,063,897	(18,166)	(282,241)	88,689	(753,040)	1,099,139
외화 순 노출액	498,249	169,249	58,644	321,771	893,082	1,940,995

<제184(전)기>

(단위: 백만원)						
구분	USD	JPY	EUR	CNY	기타	합계
<b>&lt;자산&gt;</b>						
현금및예치금	1,689,209	1,063,720	128,339	1,840,422	842,198	5,563,888
단기대매금융자산	-	-	-	-	149,220	149,220
파생상품자산	76,151	8,009	2,596	3,989	129	90,874
대출채권	14,544,718	4,460,935	1,150,044	2,881,059	2,943,028	25,979,784
매도가능금융자산	1,067,423	65,075	16,979	5,441	594,536	1,749,453
만기보유금융자산	43	143,529	-	148,258	83,862	375,722
기타금융자산	2,226,985	268,276	126,115	654,230	183,754	3,459,360
자산 합계	19,604,529	6,009,544	1,424,073	5,533,399	4,796,756	37,368,301
<b>&lt;부채&gt;</b>						
예수부채	8,354,417	5,294,863	452,006	3,535,629	2,560,057	20,196,982
단기대매금융부채	-	-	-	-	453,605	453,605
파생상품부채	58,210	636	260	2,260	77	61,443
차입부채	5,675,943	179,299	390,562	717,309	311,926	7,275,039
사채	3,131,783	291,603	153,664	216,660	144,381	3,938,091
기타금융부채	2,362,636	211,698	336,225	827,811	314,265	4,062,635
부채 합계	18,582,989	5,978,099	1,332,717	5,299,669	3,784,321	35,977,795
순자산계정	21,540	31,445	91,356	233,730	1,012,435	1,390,506
내외 파생상품 노출액	737,265	103,134	(56,193)	101,979	(362,963)	523,222
외화 순 노출액	758,805	134,579	35,163	335,709	649,472	1,913,728

### 3-3. 유동성위험

연결실체는 리스크정책위원회에서 유동성위험관리에 관한 정책수립과 세부한도설정 등 의사결정 기능을 수행하며, 동 원칙과 한도 내에서 국외점포를 비롯한 자회사, 자금부, 신탁부, 중금시장부 등 계정별 관리부서가 1차적으로 유동성위험을 인식하고 관리합니다. 리스크총괄부와 리스크공학부는 리스크정책위원회의 유동성위험 관련 의사결정을 지원하고 유동성위험 허용한도를 모니터링하며 은행전체 유동성위험을 평가·관리합니다.

연결실체는 다음의 기본 원칙에 따라 유동성위험을 관리하고 있습니다.

- 1) 충분한 양의 자금을 필요한 시점에, 적절한 수준의 조달비용으로 조달
- 2) 허용한도 및 조기경보지표 관리를 통하여 위험을 적정수준으로 유지하고, 관련 위험 요인을 사전에 관리
- 3) 자금의 조달원천과 만기를 효과적으로 분산시킬 수 있는 자금조달전략을 수립하여 손실을 최소화하고 안정적으로 수익확보
- 4) 정상적인 상황 및 위기상황 하에서 적시에 지급결제 채무를 이행할 수 있도록 매일 일중 유동성 포지션 및 위험 관리
- 5) 유동성위기 발생에 대비하여 위기상황분석을 정기적으로 실시하고, 위기발생시 조치할 수 있는 비상조달계획을 수립
- 6) 유동성 관련 비용, 편익 및 위험은 상품가격결정, 성과평가 및 신상품 승인절차에 반영

연결실체는 ALM시스템을 통해 유동성갭, 유동성비율, 예대율, 고객행동모형을 반영한 실질유동성갭 등 다양한 분석방법을 이용하는 한편, 리스크한도, 조기경보지표, 모니터링지표 등 다양한 관리지표를 통하여 원화 및 외화 유동성리스크를 관리하고 있습니다. 자산과 부채의 만기구조 분석시 요구불예금의 경우는 고객의 지급요청시 언제든지 인출이 가능하여 최단기로 분류할 수 있으나, 평상시에는 일정비율의 평잔을 유지하는 고객의 행동을 감안하여 비핵심예금을 최단기로 구분하여 유동성위험을 관리합니다.

(1) 금융상품의 잔존기간

당기말과 전기말 현재 금융상품자산과 금융상품부채의 잔존기간별 구성내역은 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

(단위: 백만원)							
구분	1월이하	1월~3월	3월~6월	6월~1년	1년~5년	5년초과	합계
<b>&lt;자산&gt;</b>							
현금및예치금	13,018,880	908,479	325,599	227,948	34,830	-	14,515,734
단기대여금융자산	11,270,758	-	-	-	-	-	11,270,758
파생금융상품자산	2,593,983	43,781	62,792	118,788	270,888	117,375	3,207,583
대출차권	20,394,874	25,988,414	35,001,023	51,583,378	58,877,474	50,425,410	242,228,571
매도가능금융자산	28,283,770	-	-	-	-	1,530,813	27,814,583
만기보유금융자산	125,180	214,884	150,728	1,374,925	9,489,785	1,679,481	13,014,983
기타금융자산	10,887,984	-	-	-	1,127,142	-	12,015,126
자산 합계	84,575,409	27,133,558	35,540,142	53,285,033	69,780,117	53,753,099	324,087,319
<b>&lt;부채&gt;</b>							
당기손익인식지정금융부채	35	-	1,916	-	4,588	-	6,549
예수부채	118,810,459	21,741,507	28,828,207	48,447,733	13,829,012	2,980,713	234,435,831
단기대여금융부채	485,995	-	-	-	-	-	485,995
파생금융상품부채	2,479,292	24,418	29,040	27,249	81,819	28,054	2,687,872
차입부채	5,288,211	1,880,314	1,028,052	2,489,857	3,488,909	604,343	14,527,486
사채	822,234	1,811,544	3,115,445	3,930,882	9,958,411	4,028,482	23,487,008
기타금융부채	12,558,837	-	-	-	121,158	-	12,679,795
부채 합계	140,024,883	25,237,783	32,998,680	54,905,521	27,483,707	7,609,602	288,270,136

<제184(전기)>

(단위: 백만원)							
구분	1월이하	1월~3월	3월~6월	6월~1년	1년~5년	5년초과	합계
<b>&lt;자산&gt;</b>							
현금및예치금	15,731,818	742,948	298,047	120,519	29,538	-	16,922,868
단기대매금융자산	9,058,812	-	-	-	-	-	9,058,812
파생금융상품자산	1,808,984	200,368	63,397	79,454	138,195	42,058	2,132,422
대출차권	19,678,457	24,477,482	32,524,431	49,278,674	54,805,352	51,224,025	231,988,421
매도가능금융자산	23,587,340	-	-	-	-	873,259	24,460,599
단기보유금융자산	39,108	135,278	391,038	758,853	8,298,757	1,889,844	11,480,874
기타금융자산	6,304,828	-	-	-	3,480,987	-	9,785,793
자산 합계	78,007,123	25,558,062	33,278,911	50,235,500	68,752,609	54,008,984	305,837,389
<b>&lt;부채&gt;</b>							
당기손익인식지정금융부채	-	-	491	-	13,875	-	14,168
예수부채	105,483,803	21,593,511	25,605,879	50,371,099	13,210,241	3,388,244	219,630,777
단기대매금융부채	483,788	-	-	-	-	-	483,788
파생금융상품부채	1,485,685	22,758	18,357	28,301	59,384	30,157	1,622,822
차입부채	3,829,220	2,037,321	1,213,117	2,097,826	3,696,848	543,234	13,219,384
사채	344,047	1,564,023	1,602,888	5,528,306	9,857,638	2,984,351	21,881,051
기타금융부채	15,300,954	-	-	-	124,327	-	15,425,281
부채 합계	128,687,455	25,217,611	28,838,532	58,025,332	28,984,109	6,903,988	272,437,025

표시된 금액은 금융상품자산 및 금융상품부채의 원금 및 이자 현금흐름을 모두 포함하고 있습니다. 할인되지 않은 현금흐름을 기초로 연결실체의 지급의무가 발생하는 가장 빠른 만기일로 분류하였습니다. 즉시 처분가능한 단기매매 금융상품과 처분제한된 자산을 제외한 매도가능금융자산은 1개월 이내 최단기로 분류하였습니다.

(2) 난외항목의 잔존기간

연결실체가 제공한 사채발행, 음자담보 등 금융보증에 해당하는 지급보증, 대출약정 및 기타 신용 공여의 경우 약정 만기가 존재하나, 거래 상대방이 지급을 요청하는 경우 즉시 지급을 이행하여야 합니다.

당기말과 전기말 현재 관련 난외항목의 구성 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구분	제185(당기)	제184(전기)
금융보증	3,403,788	3,656,213
대출약정 및 기타 신용관련 부채	75,287,793	76,224,534
합계	78,691,581	79,880,747

#### 3-4. 금융상품의 공정가치 측정

활성시장에서 거래되는 금융상품의 공정가치는 보고기간말 현재 고시되는 시장가격에 기초하여 산정됩니다. 연결실체가 보유하고 있는 금융자산의 공시되는 시장가격은 매매중개기관의 공시가격(dealer price quotations)에 기초합니다.

활성시장에서 거래되지 아니하는 금융상품(예: 장외파생상품)의 공정가치는 평가기법을 사용하여 결정하거나, 독립적인 외부전문평가기관의 평가결과를 이용합니다.

연결실체는 다양한 평가기법을 활용하고 있으며 보고기간종료일에 현재 시장상황에 근거하여 합리적인 가정을 수립하고 있습니다.

연결실체가 사용하는 공정가치 평가기법은 합리적인 판단력과 거래의사가 있는 독립된 당사자 사이의 최근 거래를 사용하는 방법, 실질적으로 동일한 다른 금융상품의 현행공정가치를 이용할 수 있다면 이를 참조하는 방법, 추정현금흐름할인방법, 옵션가격결정모형 등이 있습니다. 예를 들어 이자율 스왑의 공정가치는 미래예상현금흐름의 현재가치로 계산되며 외환선도계약의 공정가치는 보고기간말의 고시선도환율을 적용하여 산출합니다.

연결실체는 금융상품의 공정가치를 다음의 3가지 수준으로 분류하여 공시합니다.

- 수준 1: 활성시장에서 공시되는 가격을 공정가치로 측정하는 금융상품의 경우, 동 금융상품의 공정가치는 수준 1로 분류하고 있습니다.
- 수준 2: 평가기법을 사용하여 금융상품의 공정가치를 측정하는 경우, 유의적인 투입변수가 시장에서 관측한 정보에 기초한다면 동 금융상품의 공정가치는 수준 2로 분류하고 있습니다.
- 수준 3: 평가기법을 사용하여 금융상품의 공정가치를 측정하는 경우, 유의적인 투입변수가 시장에서 관측불가능한 정보에 기초한다면 동 금융상품의 공정가치는 수준 3으로 분류하고 있습니다.

(1) 공정가치로 측정하는 금융상품

1) 당기말과 전기말 현재 연결재무상태표에서 공정가치로 측정하는 금융상품의 공정가치서열체계의 수준별 내역은 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

구 분		(단위: 백만원)			
		수준 1	수준 2	수준 3	합 계
당기(당)금융자산	채무증권	1,343,122	7,871,486	14,936	9,229,544
	지분증권	192,929	1,600,440	-	1,793,369
	금/은예치금	247,845	-	-	247,845
	소 계	1,783,896	9,471,926	14,936	11,270,758
파생상품자산	매매목적	-	2,533,182	25,370	2,558,552
	위험회피목적	-	12,904	7,665	20,569
	소 계	-	2,546,086	33,035	2,579,121
매도가능금융자산	채무증권	6,558,428	18,722,330	-	25,280,758
	지분증권	655,631	746,595	1,131,599	2,533,825
	소 계	7,214,059	19,468,925	1,131,599	27,814,583
자산 합계		8,997,955	31,486,937	1,179,570	41,664,462
당기손익인식지정금융부채	예수부채	-	4,277	2,005	6,282
당기(당)금융부채	금예수부채	485,995	-	-	485,995
파생상품부채	매매목적	-	2,444,794	3,803	2,448,597
	위험회피목적	-	77,668	259,127	336,795
	소 계	-	2,522,462	262,930	2,785,392
부채 합계		485,995	2,526,739	264,935	3,277,669

<제184(전)기>

		(단위: 백만원)			
구분		수준 1	수준 2	수준 3	합계
단기(대)금융자산	채무증권	1,121,057	6,926,357	49,754	8,097,168
	지분증권	110,147	700,277	-	810,424
	금/은예치금	149,220	-	-	149,220
	소계	1,380,424	7,626,634	49,754	9,056,812
파생상품자산	대매목적	-	1,554,306	7,699	1,561,995
	위험회피목적	-	27,625	27,898	55,523
	소계	-	1,581,931	35,597	1,617,518
매도가능금융자산	채무증권	7,903,323	14,122,880	-	22,026,203
	지분증권	1,098,069	422,339	913,988	2,434,396
	소계	9,001,392	14,545,219	913,988	24,460,599
자산 합계		10,381,816	23,753,784	999,329	35,134,929
당기손익인식지정금융부채	예수부채	-	10,542	2,967	13,509
단기(대)금융부채	대도유가증권	10,161	-	-	10,161
	금예수부채	453,605	-	-	453,605
	소계	463,766	-	-	463,766
파생상품부채	대매목적	-	1,441,241	5,416	1,446,657
	위험회피목적	-	34,803	91,972	126,775
	소계	-	1,476,044	97,388	1,573,432
부채 합계		463,766	1,486,586	100,355	2,050,707

2) 당기와 전기 중 공정가치로 측정하는 금융상품 중 수준 1과 수준 2 사이의 이동금액은 없습니다.

3) 공정가치 수준 3으로 분류된 금융상품의 내역

당기와 전기 중 공정가치 수준 3에 해당되는 금융상품 변동내역은 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

(단위: 백만원)					
구분	당기대매금융자산	매도가능금융자산	순파생상품	당기손익인식지정 금융부채	합계
기초금액	48,754	913,988	(81,801)	(2,987)	898,974
총손익					
당기손익인식금액(주1)	139	13,470	(188,240)	(5)	(174,836)
기타포괄손익인식금액	-	(85,885)	-	-	(85,885)
매입/발행	-	383,992	(1,183)	-	382,809
결계	(34,957)	(108,854)	1,821	987	(141,223)
수준3으로 이동(주2)	-	-	19,688	-	19,688
수준 3으로부터의 이동(주2)	-	(5,312)	-	-	(5,312)
기말금액	14,938	1,131,599	(229,895)	(2,005)	914,837

<제184(전기)>

(단위: 백만원)					
구분	당기대매금융자산	매도가능금융자산	순파생상품	당기손익인식지정 금융부채	합계
기초금액	-	1,079,981	44,513	(3,085)	1,121,409
총손익					
당기손익인식금액(주1)	(248)	59,581	(89,781)	6	(30,440)
기타포괄손익인식금액	-	(85,337)	-	-	(85,337)
매입/발행	50,000	218,251	2,050	(179)	268,122
결계	-	(292,989)	(18,542)	291	(311,220)
수준3으로 이동(주2)	-	1,397	-	-	1,397
수준 3으로부터의 이동(주2)	-	(84,898)	(81)	-	(84,979)
기말금액	48,754	913,988	(81,801)	(2,987)	898,974

(주1) 당기와 전기 중 공정가치 수준 3으로 분류된 금융상품의 변동내역 중 당기손익으로 인식된 금액과 보고기간 말 현재 보유하고 있는 금융상품 관련 당기손익 인식액은 연결포괄손익계산서 상 다음과 같은 개별항목으로 표시되고 있습니다.

구분	(단위: 백만원)			
	제185(당)기		제184(전)기	
	당기손익 인식금액	보고기간말 보유 금융상품관련 당기손익 인식액	당기손익 인식금액	보고기간말 보유 금융상품관련 당기손익 인식액
당기매매금융상품관련손익	(877)	(993)	(368)	(368)
당기손익인식지정금융상품관련손익	(5)	(5)	6	6
매도가능금융자산처분손익	22,042	483	123,215	-
금융상품자산손상차손	(8,572)	(7,914)	(63,654)	(61,007)
기타영업손익	(187,224)	(187,224)	(89,639)	(89,639)
합계	(174,636)	(195,653)	(30,440)	(151,008)

(주2) 해당 금융상품에 대한 판측가능한 시장 자료의 이용가능여부가 변경됨에 따라 수준간 이동이 발생하였습니다. 연결실체는 수준 간 이동을 발생시키는 사건이나 상황의 변동이 일어난 보고기간말에 수준의 변동을 인식합니다.

4) 공정가치 평가기법 및 투입변수

① 당기말과 전기말 현재 공정가치 수준 2로 분류된 금융상품의 공정가치 측정시 사용된 평가기법과 투입변수 및 장부금액은 다음과 같습니다.

구분		제185(당)기	제184(전)기	평가방법	투입변수
당기매대금융자산	채무증권	7,871,488	8,928,357	현금흐름할인모형	할인율
	지분증권	1,800,440	700,277	순자산가치평가	주식, 채권 등 기초자산 가격
	소 계	9,471,928	7,828,634		
파생상품자산	매대목적	2,533,182	1,554,308	옵션모형	할인율, 현율, 변동성
	위험회피목적	12,904	27,825	현금흐름할인모형	주가 및 상품지수 등
	소 계	2,546,086	1,582,133		
매도가능금융자산	채무증권	18,722,330	14,122,880	현금흐름할인모형	할인율
	지분증권	748,595	422,338	순자산가치평가	주식, 채권 등 기초자산 가격
	소 계	19,470,925	14,545,219		
자산 합계		31,488,937	23,753,784		
당기손익인식지경 금융부채	매수부채	4,277	10,542	옵션모형	할인율, 변동성, 주가지수
	소 계	4,277	10,542		
파생상품부채	매대목적	2,444,794	1,441,241	옵션모형	할인율, 현율, 변동성
	위험회피목적	77,888	34,803	현금흐름할인모형	주가 및 상품지수 등
	소 계	2,522,682	1,476,044		
부채 합계		2,526,959	1,486,586		

② 당기말과 전기말 현재 공정가치 수준 3으로 분류된 금융상품의 공정가치 측정시 사용된 평가방법 및 유의적이지만 관측가능하지 않은 투입변수는 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

(단위: 백만원)					
금융상품	가치평가방법	종류	장부금액	유의적이지만 관측가능하지 않은 투입변수	범위
당기매대금융자산	옵션모형(주)	이자율관련	14,936	기초자산의 변동성 상관계수	36.30% 69.90%
파생상품자산	옵션모형(주)	주식 및 환율관련	22,723	기초자산의 변동성 상관계수	13.10%~21.99% (-)19.03%
	옵션모형(주)	이자율관련	10,312	기초자산의 변동성 회귀계수 상관계수	0.54%~0.87% 0.02%~2.06% 61.01%
	소 계		33,035		
매도가능금융자산	할인된 현금흐름 등	자본증권	1,131,599	할인을 성장률	1.73%~18.49% 0.00%
자산 합계			1,179,570		
당기손익인식지정 금융부채	옵션모형(주)	주식관련	2,005	기초자산의 변동성 상관계수	15.97%~29.44% (-)1.80%~61.10%
파생상품부채	옵션모형(주)	주식 및 환율관련	1,156	기초자산의 변동성 상관계수	19.90%~33.69% (-)18.03%~61.10%
	옵션모형(주)	이자율관련	261,774	기초자산의 변동성 회귀계수 상관계수	0.51%~0.87% 0.02%~3.02% 42.93%~61.01%
	소 계		262,930		
부채 합계			264,935		

(주) 파생상품 공정가치를 측정하기 위해 적용된 옵션모형은 Black-Scholes 모델, Hull-White 모델 등을 포함하고 있으며, 상품 유형에 따라 일부 상품에 대해서는 몬테카를로 시뮬레이션(Monte Carlo simulation) 등의 방법을 적용하고 있습니다.

<제184(전)기>

(단위: 백만원)					
금융상품	가치평가방법	종류	장부금액	유의적이지만 관측가능하지 않은 투입변수	범위
단기매대금융자산	옵션모형(주)	이자율관련	49,754	기초자산의 변동성 상관계수	24.90% 75.25%
파생상품자산	옵션모형(주)	주식 및 환율관련	2,346	기초자산의 변동성 상관계수	6.75%~34.62% 0.87%
	옵션모형(주)	이자율관련	33,241	기초자산의 변동성 회귀계수 상관계수	0.44%~0.65% 0.02%~2.05% 49.53%~94.60%
	소 계		35,587		
매도가능금융자산	할인된 현금흐름 등	지분증권	913,988	할인율 성장률	1.72%~20.65% 0.00%~2.50%
자산 합계			999,329		
당기손익인식지정 금융부채	옵션모형(주)	주식관련	2,967	기초자산의 변동성 상관계수	22.20%~28.48% 15.43%~52.70%
파생상품부채	옵션모형(주)	주식 및 환율관련	64	기초자산의 변동성 상관계수	10.20%~34.62% 0.87%~52.70%
	옵션모형(주)	이자율관련	97,324	기초자산의 변동성 회귀계수 상관계수	0.16%~0.65% 0.02%~2.04% 31.38%~94.60%
	소 계		97,388		
부채 합계			100,355		

(주) 파생상품 공정가치를 측정하기 위해 적용된 옵션모형은 Black-Scholes 모델, Hull-White 모델 등을 포함하고 있으며, 상품 유형에 따라 일부 상품에 대해서는 몬테카를로 시뮬레이션(Monte Carlo simulation) 등의 방법을 적용하고 있습니다.

5) 관측가능하지 않은 투입변수의 변경에 대한 민감도

당기말과 전기말 현재 수준 3으로 분류된 금융상품의 공정가치 측정시 관측가능하지 않은 투입변수를 합리적으로 대체가능한 다른 투입변수로 변경하는 경우 당기손익 또는 기타포괄손익 등으로 인식되는 변동의 효과는 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

금융상품 종류		(단위: 백만원)			
		당기손익		기타포괄손익	
		유리한 변동	불리한 변동	유리한 변동	불리한 변동
파생상품자산(주1)	주식 및 환율관련	1,652	(1,039)	-	-
	이자율관련	1,397	(1,488)	-	-
매도가능금융자산(주2)	지분증권	-	-	12,673	(6,531)
자산 합계		3,049	(2,527)	12,673	(6,531)
당기손익인식지정 금융부채(주1)	주식관련	1	(1)	-	-
파생상품부채(주1)	주식 및 환율관련	59	(68)	-	-
	이자율관련	8,211	(9,424)	-	-
부채 합계		8,271	(9,493)	-	-

- (주1) 주요 관측불가능한 투입변수의 기초자산의 변동성 또는 상관계수 등을 10%만큼 증가 또는 감소시킴으로써 공정가치 변동을 산출하고 있습니다.
- (주2) 주요 관측불가능한 투입변수의 성장률(0%~1%)과 할인율(-1%~1%)을 증가 또는 감소시킴으로써 공정가치 변동을 산출하고 있습니다.

<제184(전)기>

금융상품 종류		당기손익		기타포괄손익	
		유리한 변동	불리한 변동	유리한 변동	불리한 변동
단기매대금융자산(주1)	이자율관련	11	(45)	-	-
파생상품자산(주1)	주식 및 환율관련	1,118	(719)	-	-
	이자율관련	1,293	(5,100)	-	-
매도가능금융자산(주2)	자본증권	-	-	24,001	(6,839)
자산 합계		2,422	(5,864)	24,001	(6,839)
당기손익인식지정 금융부채(주1)	주식관련	4	(4)	-	-
파생상품부채(주1)	주식 및 환율관련	11	(9)	-	-
	이자율관련	4,218	(14,421)	-	-
부채 합계		4,233	(14,434)	-	-

(주1) 주요 관측불가능한 투입변수의 기초자산의 변동성 또는 상관계수 등을 10%만을 증가 또는 감소시킴으로써 공정 가치 변동을 산출하고 있습니다.

(주2) 주요 관측불가능한 투입변수의 성장률(0%~1%)과 할인율(-1%~1%)을 증가 또는 감소시킴으로써 공정가치 변동을 산출하고 있습니다.

(2) 상각후원가로 측정하는 금융상품

1) 상각후원가로 측정하는 금융상품의 공정가치 산출 방법은 다음과 같습니다.

계정과목	공정가치 산출 방법
현금및예치금	현금은 장부금액과 공정가치가 동일하며 예치금은 변동이자율 예치금과, 초단기성인 익일 예치금이 대부분이므로 공정가치의 대응치로 장부금액을 사용하였습니다.
대출채권	대출채권의 공정가치는 수취할 것으로 예상되는 기대 현금흐름을 시장이자율과 차주의 신용위험 등을 고려한 할인율로 할인하여 산출하였습니다.
만기보유금융자산	한국자산평가(주), KIS채권평가(주)가 제공하는 최근거래일의 기준단가 중 적은값을 공정가치로 산출하였습니다.
예수부채 및 차입부채	요구불예수부채, 어음관리계좌수탁금, 풀머니는 초단기성 부채로 장부금액을 공정가치로 평가하였으며, 나머지 예수부채와 차입부채는 계약상 현금흐름을 시장이자율에 잔여위험을 고려한 할인율로 할인한 현재가치를 공정가치로 산출하였습니다.
사 채	활성시장 가격을 기초로 하고 있습니다. 활성시장 가격이 유효하지 않는 경우, 계약상 현금흐름을 시장이자율에 잔여위험을 고려한 할인율로 할인한 현재가치를 공정가치로 산출하였습니다.

2) 당기말과 전기말 현재 상각후원가로 측정하는 금융상품의 장부금액과 공정가치는 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

계정과목		장부금액				공정가치
		잔액	미상각잔액	충당금	합계	
현금및예치금	현금	1,763,335	-	-	1,763,335	1,763,335
	예치금	12,721,790	-	(15,738)	12,706,052	12,706,052
	소계	14,485,125	-	(15,738)	14,469,387	14,469,387
대출채권	가계대출	97,305,741	318,034	(286,220)	97,337,555	98,218,214
	기업대출	116,475,754	57,587	(1,153,613)	115,379,728	116,028,276
	공공및기타자금대출	2,092,423	1,200	(7,683)	2,085,940	2,086,380
	은행간자금대출	4,625,545	-	(7,653)	4,617,892	4,612,515
	카드채권	18,281	-	(715)	17,566	18,202
	소계	220,517,744	376,821	(1,455,884)	219,438,681	220,973,587
만기보유금융자산	국공채	6,826,115	-	-	6,826,115	7,003,549
	금융채	891,397	-	-	891,397	895,570
	회사채	3,912,758	-	-	3,912,758	3,939,729
	소계	11,630,270	-	-	11,630,270	11,838,847
기타금융자산		12,015,126	(31,708)	(25,896)	11,957,522	11,979,492
자산 합계		258,648,265	345,113	(1,497,518)	257,495,860	259,261,313
예수부채	요구불예수부채	92,650,456	-	-	92,650,456	92,650,456
	기한불예수부채	122,858,599	-	-	122,858,599	122,864,014
	양도성예금증서	6,319,914	-	-	6,319,914	6,343,094
	발행어음예수부채	4,581,276	-	-	4,581,276	4,581,110
	어음관리계좌수탁금	2,473,048	-	-	2,473,048	2,473,048
	기타	26,799	-	-	26,799	26,800
	소계	228,910,092	-	-	228,910,092	228,938,522
차입부채	클레디	807,268	-	-	807,268	807,268
	매출어음	12,427	-	-	12,427	12,407
	환매조건부채권매도	578,108	-	-	578,108	578,108
	차입부채	12,917,249	(723)	-	12,916,526	12,933,129
	외환수탁금	-	-	-	-	-
소계	14,315,052	(723)	-	14,314,329	14,330,912	
사채	원회사채	17,259,843	(19,599)	-	17,240,244	17,307,246
	외회사채	4,355,366	(17,180)	-	4,338,186	4,345,499
	소계	21,615,209	(36,779)	-	21,578,430	21,652,745
기타금융부채		12,708,705	(2,404)	-	12,706,301	12,683,889
부채 합계		277,549,058	(39,906)	-	277,509,152	277,606,088

<제184(전)기>

계정 과 목		장부금액				공정가치
		잔액	미상각잔액	충당금	합계	
(단위: 백만원)						
현금및예치금	현금	1,900,980	-	-	1,900,980	1,900,980
	예치금	15,003,242	-	(12,836)	14,990,406	14,990,406
	소 계	16,904,222	-	(12,836)	16,891,386	16,891,386
대출채권	가계대출	90,426,301	292,165	(247,741)	90,470,725	91,752,196
	기업대출	113,635,229	48,343	(1,204,355)	112,479,217	113,455,688
	공공및기타자금대출	2,129,788	2,176	(7,961)	2,123,983	2,132,915
	은행간자금대출	4,566,712	-	(9,899)	4,556,813	4,568,637
	카드채권	21,307	-	(562)	20,745	20,745
	소 계	210,779,317	342,684	(1,470,518)	209,651,483	211,930,181
만기보유금융자산	국공채	5,731,934	-	-	5,731,934	6,007,460
	금융채	524,855	-	-	524,855	534,186
	회사채	3,848,262	-	-	3,848,262	3,917,994
	소 계	10,105,051	-	-	10,105,051	10,459,640
기타금융자산		9,785,793	(41,561)	(41,750)	9,702,482	9,735,470
자산 합계		247,574,383	301,123	(1,525,104)	246,350,402	249,016,677
예수부채	요구불예수부채	82,731,920	-	-	82,731,920	82,731,920
	기한부예수부채	120,562,491	-	-	120,562,491	120,772,773
	양도성예금증서	4,351,326	-	-	4,351,326	4,368,540
	발행어음예수부채	3,018,551	-	-	3,018,551	3,018,428
	어음관리계좌수탁금	2,280,816	-	-	2,280,816	2,280,816
	기타	30,088	-	-	30,088	30,092
	소 계	212,975,192	-	-	212,975,192	213,202,569
차입부채	콜머니	268,114	-	-	268,114	268,114
	매출어음	24,245	-	-	24,245	24,198
	환매조건부채권매도	518,574	-	-	518,574	518,574
	차입부채	12,117,420	(1,684)	-	12,115,736	12,158,679
	외화수탁금	71,810	-	-	71,810	71,840
	소 계	13,000,163	(1,684)	-	12,998,479	13,041,405
사채	원화사채	16,125,059	(31,794)	-	16,093,265	16,384,034
	외화사채	3,938,091	(10,806)	-	3,927,285	3,970,791
	소 계	20,063,150	(42,600)	-	20,020,550	20,354,825
기타금융부채		15,460,006	(2,651)	-	15,457,355	15,435,380
부채 합계		251,498,511	(46,935)	-	251,451,576	252,034,179

3) 당기말과 전기말 현재 연결재무상태표에서 공정가치로 측정되지는 않으나 공정가치가 공시되는 금융자산부채의 평가수준별 공정가치의 내역은 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

		(단위: 백만원)			
구 분		수준 1	수준 2	수준 3	합 계
현금및예치금	현금	1,763,335	-	-	1,763,335
	예치금	-	12,706,052	-	12,706,052
	소 계	1,763,335	12,706,052	-	14,469,387
대출채권	가계대출	-	-	98,218,214	98,218,214
	기업대출	-	-	116,028,276	116,028,276
	공공및기타자금대출	-	-	2,096,380	2,096,380
	은행간자금대출	-	2,020,837	2,591,678	4,612,515
	카드채권	-	-	18,202	18,202
	소 계	-	2,020,837	218,852,750	220,973,587
만기보유금융자산	국공채	2,017,133	4,886,416	-	7,003,549
	금융채	600,846	294,724	-	895,570
	회사채	-	3,939,728	-	3,939,728
	소 계	2,617,979	9,220,868	-	11,838,847
기타금융자산		-	9,882,608	2,096,884	11,979,492
자산 합계		4,381,314	33,830,365	221,049,634	259,261,313
예수부채	요구불예수부채	-	92,650,456	-	92,650,456
	기한부예수부채	-	-	122,864,014	122,864,014
	양도성예금증서	-	-	6,343,094	6,343,094
	발행어음예수부채	-	-	4,581,110	4,581,110
	어음관리계좌수탁금	-	2,473,048	-	2,473,048
	기타	-	-	26,800	26,800
	소 계	-	95,123,504	133,815,018	228,938,522
차입부채	물머니	-	807,268	-	807,268
	대출어음	-	-	12,407	12,407
	환매조건부채권매도	-	-	578,108	578,108
	차입부채	-	-	12,933,129	12,933,129
	외화수탁금	-	-	-	-
	소 계	-	807,268	13,523,644	14,330,912
사채	원화사채	-	14,867,524	2,439,722	17,307,246
	외화사채	-	4,345,499	-	4,345,499
	소 계	-	19,213,023	2,439,722	21,652,745
기타금융부채		-	4,741,882	7,942,007	12,683,889
부채 합계		-	119,885,677	157,720,391	277,606,068

<제184(전기)>

		(단위: 백만원)			
구 분		수준 1	수준 2	수준 3	합 계
현금및예치금	현금	1,900,980	-	-	1,900,980
	예치금	-	14,990,406	-	14,990,406
	소 계	1,900,980	14,990,406	-	16,891,386
대출채권	가계대출	-	-	91,752,196	91,752,196
	기업대출	-	-	113,455,688	113,455,688
	공공및기타자금대출	-	-	2,132,915	2,132,915
	은행간자금대출	-	1,577,960	2,990,677	4,568,637
	카드채권	-	-	20,745	20,745
	소 계	-	1,577,960	210,352,221	211,930,181
만기보유금융자산	국공채	2,131,562	3,875,868	-	6,007,460
	금융채	102,921	431,265	-	534,186
	회사채	-	3,917,994	-	3,917,994
	소 계	2,234,513	8,225,127	-	10,459,640
기타금융자산		-	7,689,815	2,065,655	9,735,470
자산 합계		4,135,493	32,463,308	212,417,876	249,016,677
예수부채	요구불예수부채	-	82,731,920	-	82,731,920
	기한부예수부채	-	-	120,772,773	120,772,773
	양도성예금증서	-	-	4,368,540	4,368,540
	발행어음예수부채	-	-	3,018,428	3,018,428
	어음관리계좌수탁금	-	2,280,816	-	2,280,816
	기타	-	-	30,092	30,092
	소 계	-	85,012,736	128,189,833	213,202,569
차입부채	물대니	-	268,114	-	268,114
	대출어음	-	-	24,198	24,198
	원매조건부채권매도	-	-	518,574	518,574
	차입부채	-	-	12,158,679	12,158,679
	외화수탁금	-	-	71,840	71,840
	소 계	-	268,114	12,773,291	13,041,405
사채	원회사채	-	14,021,649	2,362,385	16,384,034
	외회사채	-	3,970,791	-	3,970,791
	소 계	-	17,992,440	2,362,385	20,354,825
기타금융부채		-	7,488,937	7,946,443	15,435,380
부채 합계		-	110,762,227	151,271,962	262,034,179

4) 당기말과 전기말 현재 공정가치 공시를 위하여 사용된 평가기법 및 투입변수는 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

(단위: 백만원)				
공정가치수준	구분	공정가치(주)	평가모형	투입변수
수준 2	만기보유금융자산	9,220,868		할인율
수준 3	대출채권	218,952,750	현금흐름 할인모형	할인율, 신용스프레드, 조기상환율
	기타금융자산	2,096,884		
자산 합계		230,270,502		
수준 2	사채	19,213,023	현금흐름 할인모형	할인율
수준 3	예수부채(주)	133,251,903		할인율
	차입부채(주)	7,783,129		할인율
	사채	2,439,722		할인율, 회귀계수, 상관계수
	기타금융부채	7,942,007		할인율
부채 합계		170,629,784		

<제184(전기)>

(단위: 백만원)				
공정가치수준	구분	공정가치(주)	평가모형	투입변수
수준 2	만기보유금융자산	8,225,127		할인율
수준 3	대출채권	210,352,221	현금흐름 할인모형	할인율, 신용스프레드, 조기상환율
	기타금융자산	2,065,655		
자산 합계		220,643,003		
수준 2	사채	17,992,440	현금흐름 할인모형	할인율
수준 3	예수부채(주)	127,455,894		할인율
	차입부채(주)	7,611,260		할인율
	사채	2,362,385		할인율, 회귀계수, 상관계수
	기타금융부채	7,946,443		할인율
부채 합계		163,368,422		

(주) 장부금액을 공정가치의 합리적인 근사치로 보아 장부금액을 공정가치로 공시한 항목과 관련한 평가기법과 투입변수는 공시하지 않습니다.

(3) 당기 및 전기 중 공정가치로 측정되는 금융상품의 최초 인식 시 발생한 거래일 (day1) 손익의 변동내역은 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

(단위: 백만원)				
구분	기초	이연	상각	기말
당기손익인식지정금융부채	(38)	-	27	(12)
주식스왑	38	-	(26)	12

<제184(전기)>

(단위: 백만원)				
구분	기초	이연	상각	기말
당기손익인식지정금융부채	(64)	(8)	33	(39)
주식스왑	63	-	(25)	38

(4) 금융상품의 범주별 분류

금융자산과 금융부채는 공정가치 또는 상각후원가로 측정됩니다. 금융상품 범주별 장부금액의 자세한 측정 방법은 주석 2에서 설명하고 있습니다. 당기말과 전기말 현재 각 금융자산과 금융부채의 범주별 장부금액은 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

(단위: 백만원)						
금융자산	당기매매 금융자산	매도가능 금융자산	만기보유 금융자산	대여금 및 수취채권	위험회피 파생자산	합 계
예치금	-	-	-	12,706,062	-	12,706,062
당기매매금융자산	11,270,758	-	-	-	-	11,270,758
파생상품자산	2,558,552	-	-	-	20,569	2,579,121
대출채권	-	-	-	219,438,681	-	219,438,681
매도가능금융자산	-	27,814,583	-	-	-	27,814,583
만기보유금융자산	-	-	11,630,270	-	-	11,630,270
기타금융자산	-	-	-	11,957,522	-	11,957,522
합 계	13,829,310	27,814,583	11,630,270	244,102,255	20,569	297,395,987

(단위: 백만원)					
금융부채	당기손익인식금융부채		상각후원가 측정금융부채	위험회피 파생부채	합 계
	당기매매 금융부채	당기손익인식지정 금융부채			
예수부채	-	-	228,910,082	-	228,910,082
당기매매금융부채	485,965	-	-	-	485,965
당기손익인식지정금융부채	-	6,282	-	-	6,282
파생상품부채	2,448,597	-	-	336,795	2,785,392
차입부채	-	-	14,314,329	-	14,314,329
사채	-	-	21,578,430	-	21,578,430
기타금융부채	-	-	12,706,301	-	12,706,301
합 계	2,934,562	6,282	277,509,152	336,795	280,786,821

<제184(전)기>

(단위: 백만원)						
금융자산	단기매대 금융자산	매도가능 금융자산	만기보유 금융자산	대여금 및 수취채권	위험회피 파생자산	합 계
예치금	-	-	-	14,990,406	-	14,990,406
단기매대금융자산	9,056,812	-	-	-	-	9,056,812
파생상품자산	1,561,996	-	-	-	55,523	1,617,518
대출채권	-	-	-	209,651,483	-	209,651,483
매도가능금융자산	-	24,460,599	-	-	-	24,460,599
만기보유금융자산	-	-	10,105,051	-	-	10,105,051
기타금융자산	-	-	-	9,702,482	-	9,702,482
합 계	10,618,807	24,460,599	10,105,051	234,344,371	55,523	279,584,351

(단위: 백만원)					
금융부채	당기손익인식금융부채		상각후원가 측정금융부채	위험회피 파생부채	합 계
	단기매대 금융부채	당기손익인식지정 금융부채			
예수부채	-	-	212,975,192	-	212,975,192
단기매대금융부채	463,766	-	-	-	463,766
당기손익인식지정금융부채	-	13,509	-	-	13,509
파생상품부채	1,446,657	-	-	126,775	1,573,432
차입부채	-	-	12,998,479	-	12,998,479
사채	-	-	20,020,550	-	20,020,550
기타금융부채	-	-	15,457,355	-	15,457,355
합 계	1,910,423	13,509	261,451,576	126,775	263,502,283

(5) 금융수익과 금융원가

당기 및 전기 금융수익과 금융원가의 상세내역은 다음과 같습니다.

<제185(당)기>

(단위: 백만원)						
구분	이자수익(비용)	수수료수익	손실차손	기타	합계	기타포괄손익
단기매대금융자산	168,205	6,782	-	(10,911)	164,076	-
매도가능금융자산	454,557	-	(82,103)	502,541	874,995	(320,496)
만기보유금융자산	324,128	-	-	-	324,128	-
대여금 및 수취채권	6,749,311	234,039	(656,433)	20,576	6,347,493	-
단기매대금융부채	-	72	-	-	72	-
당기손익인식지정금융부채	-	-	-	(206)	(206)	-
상각후원가측정금융부채	(3,192,080)	120	-	240,602	(2,951,358)	(59,168)
순위험회피파생상품	-	-	-	(250,133)	(250,133)	4,775
합계	4,504,121	241,013	(738,536)	502,469	4,509,067	(374,889)

<제184(전)기>

(단위: 백만원)						
구분	이자수익(비용)	수수료수익(비용)	손실차손	기타	합계	기타포괄손익
단기매대금융자산	162,624	5,855	-	170,001	338,480	-
매도가능금융자산	485,026	-	(206,570)	569,508	847,964	(317,763)
만기보유금융자산	318,940	-	-	-	318,940	-
대여금 및 수취채권	6,682,902	170,823	(592,845)	98,054	6,358,934	-
단기매대금융부채	-	(6)	-	-	(6)	-
당기손익인식지정금융부채	-	-	-	(16)	(16)	-
상각후원가측정금융부채	(3,484,777)	(5)	-	141,029	(3,343,753)	(31,497)
순위험회피파생상품	-	-	-	(139,184)	(139,184)	(2,368)
합계	4,164,715	176,667	(799,415)	839,392	4,381,359	(351,628)

### 3-5. 자본위험관리

은행에 대한 자기자본 규제제도는 1980년대 금융규제완화에 따른 금융기관의 위험 증가에 따라, 은행의 건전성을 확보하고, 예금자 보호와 국제 금융질서의 안정성을 확보하기 위하여 BIS 회원국가를 중심으로 1988년에 도입되었습니다. 최초의 Basel 협약이 도입된 이후 규제 자기자본 요구량이 은행이 보유한 리스크를 보다 잘 반영할 수 있는 방향으로 발전되어 왔습니다. 바젤위원회(BCBS)는 글로벌 금융위기 이후 은행 시스템의 복원력 강화를 위하여 바젤 III 기준을 마련하여 발표하였고, 우리나라는 은행업감독규정 개정을 통해 2013년 12월 1일부터 기존보다 강화된 자본규제인 바젤 III 를 시행하고 있습니다. 동 기준은 연결실체를 포함한 국내은행이 보통주자본 비율, 기본자본비율, 총자기자본비율에 대해 시행일로부터 단계적으로 각각 일정비율이상을 유지할 것을 의무화하고 있으며, 연결실체는 국내은행의 감독기구인 금융감독원에 은행 관련 법규에 따른 자기자본비율의 준수 여부를 보고하고 있습니다.

상기의 감독 법규에 따라 연결실체가 관리하는 규제자본은 아래의 두 분류로 구분됩니다.

#### 1) Tier 1 capital (기본자본: 보통주자본+기타기본자본)

- ① 보통주자본: 은행의 손실을 가장 먼저 보전할 수 있으며 은행 청산시 최후순위이고 청산시를 제외하고는 상환되지 않는 자본으로 보통주, 자본잉여금, 이익잉여금(대손준비금 제외), 기타포괄손익누계액, 기타자본잉여금, 자본조정, 은행의 종속기업 비지배주주지분의 일부금액 등을 포함합니다.
- ② 기타기본자본: 영구적 성격의 인정요건을 충족하는 자본증권 및 이와 관련된 자본잉여금, 종속기업이 발행한 기타기본자본의 외부투자자 보유금액 중 일부금액 등을 포함합니다.

#### 2) Tier 2 capital (보완자본)

청산시 은행의 손실을 보전할 수 있는 인정요건을 충족하는 자본증권 및 이와 관련된 자본잉여금, 종속기업이 발행한 보완자본의 외부투자자 보유금액 중 일부금액 등을 포함합니다.

연결실체는 자기자본(상기의 기본자본과 보완자본의 합에서 공제항목을 차감한 금액)을 위험가중자산으로 나누어 자기자본비율을 산출합니다. 위험가중자산(risk weighted assets)은 은행의 실질적인 위험을 반영하기 위해 위험의 노출정도가 높을수록 높은 가중치를 적용하여 산출하며, 신용위험가중자산, 운영위험가중자산 및 시장위험가중자산의 합으로 구성됩니다.

연결실체는 별도 내부기준을 통해 자본적정성을 평가 및 관리하고 있습니다. 자본적정성의 평가는 경제적 자본(최대노출액별로 내재된 리스크에 대비하기 위하여 은행이 보유해야 하는 실질적인 필요자본량으로 은행 내부의 리스크 인식 및 평가 기준에 따라 산출된 리스크량) 대비 가용자본(은행의 실제 손실발생시 손실처리에 충당할 수 있는 자본)의 수준이 적절한가를 은행 내부적으로 평가하는 것을 말합니다. 연결실체는 리스크유형별(신용, 시장, 운영, 금리, 유동성, 편중, 외환결제리스크)로 산출된 리스크의 합산 금액 및 각 유형별 금액을 관리합니다.

연결실체는 위험가중자산에 대한 자기자본비율을 연결재무제표 기준으로 산출, 관리하고 있으며, 당기말과 전기말의 자기자본비율은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)					
구 분			제185(당기)	제184(전기)	
총자기자본	Tier 1	보통주자본	19,913,369	17,324,193	
		기타기본자본	472,121	805,603	
		기본자본	20,385,490	18,129,796	
	Tier 2	보완자본	3,953,215	3,240,443	
	합 계			24,338,705	21,370,239
총 위험가중자산			155,027,378	144,843,681	
총자기자본비율	Tier 1	보통주자본비율	12.85%	11.96%	
		기본자본비율	13.15%	12.52%	
	Tier 2	보완자본비율	2.55%	2.24%	
	합 계			15.70%	14.75%

연결실체는 상기의 표와 같이 자본적정성 기준(총자기자본비율 8.0% 이상, 기본자본비율 6.0% 이상, 보통주자본비율 4.5% 이상)을 준수하고 있습니다.

3-6. 금융상품 양도거래

(1) 제거조건이 충족되지 않은 금융상품

1) 환매조건부채권매도

당기말과 전기말 현재 환매조건부채권매도 중 연결실체가 보유 유가증권을 확정가격으로 재매입할 것을 조건으로 매각하여 제거조건이 충족되지 않은 금융상품의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
구 분		제185(당기)	제184(전기)
양도자산	매도가능금융자산	223,790	140,380
	만기보유금융자산	489,204	497,786
	합 계	712,994	638,166
관련부채	환매조건부채권매도	578,108	518,574

2) 유가증권 대차거래

연결실체가 보유한 유가증권을 대여하는 경우 유가증권의 소유권이 이전되나, 대여기간 만료시 해당 유가증권을 반환하여야 하므로, 연결실체는 해당 유가증권의 위험과 보상의 대부분을 보유함에 따라 대여유가증권 전체를 계속하여 인식하고 있습니다. 당기말과 전기말 현재 대여유가증권의 장부금액은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
구 분	제185(당기)	제184(전기)	대여처
국공채	40,185	29,788	한국증권금융
금융채	260,014	130,019	한국증권금융, 한국예탁결제원
합 계	300,200	159,807	

(2) 제거조건을 충족하나 지속적으로 관여하는 금융상품

당기말과 전기말 현재 제거조건을 충족하나 연결실체가 지속적으로 관여하는 금융상품은 없습니다.

3-7. 금융상품 상계

당기말과 전기말 현재 실행가능한 일관 상계약정 또는 이와 유사한 약정의 적용을 받는 금융상품의 내역은 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

금융자산	인식된 금융자산 총액	상계되는 인식된 금융부채 총액	연결재무상태표에 표시되는 금융자산 순액	연결재무상태표에서 상계되지 않은 관련 금액		순액
				금융상품	수취한 현금담보	
파생상품자산(주1)	2,589,883	-	2,589,883	4,950,273	287,143	1,378,112
기타금융자산(주1)	4,045,845	-	4,045,845	-	-	-
환대조건부대도담보 유가증권(주2)	712,994	-	712,994	578,108	-	134,888
환대조건부대수(대출차권)(주2)	3,475,158	-	3,475,158	3,475,158	-	-
대여유가증권(주2)	300,200	-	300,200	300,200	-	-
미회수내국환차권(주3)	30,385,320	24,299,035	6,086,285	-	-	6,086,285
증권미수금 등(주4)	1,891	494	1,397	-	-	1,397
합 계	41,471,089	24,299,529	17,171,560	9,303,737	287,143	7,580,680

금융부채	인식된 금융부채 총액	상계되는 인식된 금융자산 총액	연결재무상태표에 표시되는 금융부채 순액	연결재무상태표에서 상계되지 않은 관련 금액		순액
				금융상품	제공한 현금담보	
파생상품부채(주1)	2,774,650	-	2,774,650	4,950,273	487,195	1,011,154
기타금융부채(주1)	3,653,972	-	3,653,972	-	-	-
환대조건부대도(차입부채)(주2)	578,108	-	578,108	578,108	-	-
대도유가증권	-	-	-	-	-	-
미지급내국환차무(주3)	25,219,287	24,299,035	920,232	920,232	-	-
증권미지급금 등(주4)	499	494	5	5	-	-
합 계	32,228,498	24,299,529	7,928,967	6,448,618	487,195	1,011,154

<제184(전)기>

(단위: 백만원)						
금융자산	인식된 금융자산 총액	상계되는 인식된 금융부채 총액	연결재무상태표에 표시되는 금융자산 순액	연결재무상태표에서 상계되지 않은 관련 금액		순액
				금융상품	수취한 현금당보	
파생상품자산(주1)	1,803,275	-	1,803,275	6,182,907	-	985,031
기타금융자산(주1)	5,484,883	-	5,484,883	-	-	-
환매조건부매도당보 유가증권(주2)	838,188	-	838,188	518,574	-	119,592
환매조건부매수(대출차권)(주2)	5,279,170	-	5,279,170	5,279,170	-	-
대여유가증권(주2)	159,807	-	159,807	159,807	-	-
미회수내국환차권(주3)	27,204,105	24,896,522	2,307,583	-	-	2,307,583
증권미수금 등(주4)	2,117	523	1,594	-	-	1,594
합 계	40,351,303	24,897,045	15,454,258	12,140,458	-	3,313,800

(단위: 백만원)						
금융부채	인식된 금융부채 총액	상계되는 인식된 금융자산 총액	연결재무상태표에 표시되는 금융부채 순액	연결재무상태표에서 상계되지 않은 관련 금액		순액
				금융상품	제공한 현금당보	
파생상품부채(주1)	1,588,718	-	1,588,718	6,205,671	-	508,181
기타금융부채(주1)	5,145,114	-	5,145,114	-	-	-
환매조건부매도(차입부채)(주2)	518,574	-	518,574	518,574	-	-
매도유가증권	10,181	-	10,181	10,181	-	-
미지급내국환차무(주3)	27,022,554	24,896,522	2,128,032	2,128,032	-	-
증권미지급금 등(주4)	575	523	52	47	-	5
합 계	34,283,696	24,897,045	9,388,651	8,880,485	-	508,188

- (주1) 당행과 각 종속기업의 장외 파생상품 중 일부는 ISDA (International Swaps and Derivatives Association) 일괄상계약정에 따라 거래가 이루어지고 있습니다. 동 약정에 의하면, 거래상대방의 부도와 같은 신용사건 발생시 해당 거래상대방과의 모든 파생상품 거래는 해지되며, 해지 시점에서 거래 당사자들이 각 거래별로 지급받거나 지급받아야 할 금액을 서로 상계하여 단일의 금액을 일방이 다른 거래상대방에게 지급하게 됩니다.
- (주2) 환매조건부 매매거래 및 유가증권 대차거래 등도 ISDA일괄상계약정과 유사한 상계약정의 적용을 받고 있습니다.
- (주3) 은행간의 내국환거래에 따른 채권 및 채무를 처리하는 계정으로 법적 상계권리를 보유하고 순액으로 결제하고 있으므로 연결재무상태표에 순액으로 표시하고 있습니다.
- (주4) 장내에서 거래되는 상장주식의 결제에 따른 채권 및 채무를 처리하는 계정으로 법적 상계권리를 보유하고 순액으로 결제하고 있으므로 연결재무상태표에 순액으로 표시하고 있습니다. 당기말 금액의 경우 중앙청산소 제도에 의한 장외파생상품의 장내 결제에 따른 관련 채권과 채무의 상계금액이 포함되어 있습니다.

#### 4. 유의적인 회계추정 및 판단

연결실체는 연결재무제표를 작성함에 있어 미래에 대한 추정 및 가정에 대한 판단을 하고 있습니다. 이러한 추정 및 판단은 지속적으로 평가되며, 과거 경험 및 현재의 상황에서 합리적으로 예측가능한 미래의 사건과 같은 다른 요소들을 고려하여 이루어 집니다. 이렇게 산출된 회계추정치는 실제 발생 결과와 일치하지 않을 수 있습니다. 보고기간말 현재 계상된 자산과 부채의 장부금액을 중요하게 변동시킬 수 있는 유의적인 위험을 포함하고 있는 회계추정 및 가정에 대한 판단은 다음과 같습니다.

##### (1) 법인세

연결실체는 여러 다른 국가 법인세의 적용을 받고 있습니다. 정상적인 영업과정에서 최종 세금금액의 결정을 불확실하게 하는 여러 종류의 거래와 계산방식이 존재합니다. 연결실체는 보고기간말 현재까지의 영업활동의 결과로 미래에 부담할 것으로 예상되는 법인세효과를 최선의 추정과정을 거쳐 당기법인세 및 이연법인세로 인식하였습니다. 하지만 실제 미래 최종 법인세부담은 인식한 관련 자산·부채와 일치하지 않을 수 있으며, 이러한 차이는 최종 법인세효과가 확정된 시점의 당기법인세 및 이연법인세 자산·부채에 영향을 줄 수 있습니다.

##### (2) 금융상품의 공정가치

활성시장에서 거래되지 않는 금융상품(예: 장외파생상품)의 공정가치는 평가기법을 사용하여 결정하고 있습니다. 연결실체는 보고기간 종료일 현재 주요한 시장상황에 기초하여, 다양한 평가기법의 선택 및 가정에 대한 판단을 하고 있습니다. 연결실체는 정상거래시장에서 거래되지 않는 다양한 금융상품의 공정가치를 결정하기 위해 평가모형을 이용하는 경우 일반적인 가치평가모형부터 발전된 자체 평가모형까지 다양한 방법을 사용하며 이때 다양한 투입변수와 가정이 적용됩니다.

##### (3) 대손충당금, 지급보증충당부채 및 미사용약정충당부채

연결실체는 대출채권에 대해서 손상을 평가하여 대손충당금을 설정하고, 지급보증 및 미사용약정 한도에 대해서는 충당부채를 설정합니다. 이러한 신용손실에 대한 충당금은 개별평가 대손충당금 추정을 위한 차주별 기대현금흐름의 추정과 집합평가 대손충당금 및 지급보증, 미사용약정충당부채 추정을 위해 사용된 모형의 가정과 변수들에 의해 결정됩니다.

#### (4) 확정급여부채

확정급여채무의 현재가치는 보험수리적 방식에 의해 결정되는 다양한 요소들에 따라 달라질 수 있습니다. 연금의 순원가(이익)를 결정하는 데 사용되는 가정은 할인율을 포함하고 있으며, 이러한 가정의 변동은 확정급여부채의 장부금액에 영향을 줄 것입니다.

연결실체는 반기별로 적합한 할인율을 결정하고 있습니다. 이러한 할인율은 확정급여부채의 정산 시 발생할 것으로 예상되는 미래의 추정 현금 유출액의 현재가치를 결정할 때 사용되어야 하는 이자율을 나타냅니다. 연결실체는 연금이 지급되는 통화로 표시되고 관련 확정급여부채의 기간과 유사한 만기를 가진 우량회사채 이자율을 고려하여 적절한 할인율을 결정하고 있습니다. 확정급여부채와 관련된 다른 주요한 가정들은 일부 현재의 시장 상황에 근거하고 있습니다.

#### (5) 매도가능지분증권의 손상

매도가능지분증권의 공정가치가 취득원가 이하로 유의적으로 또는 지속적으로 하락하는 경우는 손상이 발생하였다는 객관적인 증거에 해당합니다. 이에 따라, 연결실체는 취득원가 대비 30% 이상 공정가치의 하락을 "유의적인 하락"으로, 시장성있는 지분증권의 시장가격이 취득원가 이하로 하락한 상태가 6개월 이상 지속되는 경우를 "지속적인 하락"으로 간주하고 있습니다.

5. 사업별 부문정보

(1) 사업별 부문에 대한 일반정보

연결실체는 전략적 영업단위인 4개의 보고부문을 가지고 있습니다. 이러한 부문들은 서로 다른 서비스를 제공하고 있으며, 분리하여 관리하고 있습니다.

사업별 부문	일반 정보
리테일부문	개인, 기관, WM고객에 대한 여신, 수신, 이에 수반되는 업무
기업부문	대기업, 중소기업, IB에 대한 여신, 수신, 이에 수반되는 업무
국제부문	해외영업과 이에 수반되는 업무
기타	자금관리, 유가증권투자, 기타업무와 각종 지원업무

(2) 당기와 전기 중 사업별 부문의 경영성과는 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

구 분	(단위: 백만원)					
	리테일부문	기업부문	국제부문	기타	연결조정	합 계
순이자손익	2,753,459	1,110,564	365,800	274,423	(125)	4,504,121
순수수료손익	517,334	283,403	74,309	11,096	(1,643)	884,498
기타손익(주)	(2,512,298)	(642,609)	(251,063)	(41,791)	18,120	(3,429,641)
영업이익	758,495	751,358	189,046	243,727	16,362	1,968,978
영업외손익	11,448	4,544	(1,179)	71,279	(24,961)	61,131
관계기업이익에대한지분	-	-	-	-	8,615	8,615
법인세비용차감전순이익	769,943	755,902	187,867	315,006	6	2,028,724
법인세비용	(11,840)	(13,198)	(58,136)	(4,912)	(18)	(88,103)
당기순이익	758,103	742,704	129,732	310,094	(12)	1,940,621
지배기업소유자분	758,103	742,704	129,732	310,094	(377)	1,940,256
비지배자분	-	-	-	-	365	365

(주) 해외사업장 순투자해지 회계처리로 인한 손익효과가 반영되었습니다.

<제184(전)기>

(단위: 백만원)						
구분	리테일부문	기업부문	국제부문	기타	연결조정	합계
순이자손익	2,542,203	1,000,832	331,075	302,709	(12,104)	4,164,715
순수수료손익	538,758	277,769	64,178	(24,228)	(2,614)	863,863
기타손익(주)	(2,545,247)	(663,123)	(216,216)	111,909	17,825	(3,284,852)
영업이익	535,714	625,478	179,037	390,390	3,107	1,733,726
영업외손익	46,337	3,047	(293)	(14,408)	93,262	127,945
관계기업이익에대한지분	-	-	-	-	13,399	13,399
법인세차감전계속영업이익	582,051	628,525	178,744	375,982	109,768	1,875,070
법인세비용	(125,255)	(135,565)	(46,793)	(78,972)	1,504	(385,082)
당기순이익	456,796	492,960	131,951	297,010	111,272	1,489,988
지배기업 소유지분	456,796	492,960	131,951	297,010	110,938	1,489,654
비지배지분	-	-	-	-	334	334

(주) 해외사업장 순투자해지 회계처리로 인한 손익효과가 반영되었습니다.

(3) 당기와 전기 중 부문별 외부고객으로부터의 이자손익 및 부문간 이자손익은 다음과 같습니다.

<제185(당)기>

(단위: 백만원)						
구분	리테일부문	기업부문	국제부문	기타	연결조정	합계
외부고객으로부터의 이자손익	2,927,414	885,938	394,061	295,708	-	4,504,121
부문간 이자손익	(173,955)	224,626	(28,261)	(22,285)	(125)	-
합계	2,753,459	1,110,564	365,800	274,423	(125)	4,504,121

<제184(전)기>

(단위: 백만원)						
구분	리테일부문	기업부문	국제부문	기타	연결조정	합계
외부고객으로부터의 이자손익	2,637,393	857,084	343,073	327,165	-	4,164,715
부문간 이자손익	(95,190)	143,748	(11,998)	(24,456)	(12,104)	-
합계	2,542,203	1,000,832	331,075	302,709	(12,104)	4,164,715

(4) 지역별 부문의 재무정보

1) 당기와 전기 중 외부고객으로부터의 수익 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)						
구분	영업수익		영업비용		영업이익	
	제185(당기)	제184(전기)	제185(당기)	제184(전기)	제185(당기)	제184(전기)
국내	15,718,353	13,885,506	14,015,643	12,393,602	1,702,710	1,491,904
해외	953,984	771,346	697,716	529,524	256,268	241,822
합계	16,672,337	14,656,852	14,713,359	12,923,126	1,958,978	1,733,726

2) 당기말과 전기말 현재 비유동자산 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구분	제185(당기)(주1)	제184(전기)(주1,2)
국내	2,836,507	2,944,529
해외	142,765	131,229
합계	2,979,272	3,075,758

- (주1) 비유동자산은 유형자산, 무형자산, 투자부동산으로 구성되어 있습니다.  
 (주2) 당기 중 PT Centratama Nasional Bank의 사업결합 회계처리가 완료됨에 따라 전기말금액을 소급 조정하였습니다

6. 현금및예치금

(1) 현금및예치금의 종류별 내역

당기말과 전기말 현재 현금및예치금의 종류별 내역은 다음과 같습니다.

			(단위: 백만원)	
구 분		제185(당기)	제184(전기)	
현금		1,763,335	1,900,980	
원화예치금	지준예치금	2,718,354	7,794,542	
	기타금융기관예치금	3,767,363	2,072,672	
	소 계	6,485,717	9,867,214	
외화예치금	외화타점예치금	3,784,019	3,211,601	
	외화정기예치금	2,370,700	1,858,016	
	외화기타예치금	81,354	66,411	
	소 계	6,236,073	5,136,028	
대손충당금		(15,738)	(12,836)	
합 계		14,469,387	16,891,386	

(2) 사용제한 예치금

당기말과 전기말 현재 은행법 및 기타 관계법령 등에 따라 사용이 제한되어 있는 예치금 내역은 다음과 같습니다.

					(단위: 백만원)
구 분		제185(당기)	제184(전기)	근거 법령 등	
원화예치금	지준예치금	2,718,354	7,794,542	한국은행법 제56조	
	기타금융기관예치금	3,754,358	2,050,263	한국은행법 제28조 및 제70조 등	
	소 계	6,472,712	9,844,805		
외화예치금	외화타점예치금	1,013,342	1,590,183	한국은행법 등	
	외화정기예치금	20,545	19,924	뉴욕주 은행법 등	
	외화기타예치금	725	687	파생상품 관련	
	소 계	1,034,612	1,610,794		
합 계		7,507,324	11,455,599		

7. 단기매매금융자산

당기말과 전기말 현재 단기매매금융자산의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
구 분		제185(당)기	제184(전)기
채무증권	국공채	1,040,648	1,098,637
	금융채	2,067,814	1,791,606
	회사채	1,291,174	1,284,843
	매입어음	3,016,745	2,329,928
	CMA자산	1,793,312	1,572,270
	기타	19,851	19,884
	소 계	9,229,544	8,097,168
지분증권	주식	70,097	87,176
	수익증권	1,723,272	723,248
	소 계	1,793,369	810,424
금/은예치금		247,845	149,220
합 계		11,270,758	9,056,812

8. 파생상품

(1) 미결제약정 계약금액

당기말과 전기말 현재 보유중인 파생상품의 미결제약정 계약금액 내역은 다음과 같습니다.

			(단위: 백만원)	
구분			제185(당)기	제184(전)기
외환 파생상품	장외파생상품	통화선도	82,556,281	48,389,755
		통화스왑	27,268,230	19,384,776
		통화옵션	1,205,825	2,420,036
		소 계	111,030,336	70,204,567
	장내파생상품	통화선물	70,093	67,976
합 계			111,100,429	70,272,543
이자율 파생상품	장외파생상품	이자율스왑	32,028,409	38,324,278
		이자율옵션	750,000	1,216,000
		소 계	32,778,409	39,540,278
	장내파생상품	이자율선물	346,947	600,539
		이자율스왑(주)	22,141,755	14,573,000
		소 계	22,488,702	15,173,539
합 계			55,267,111	54,713,817
주식관련 파생상품	장외파생상품	주식스왑	6,509	13,871
		주식옵션	563,454	397,786
		소 계	569,963	411,657
	장내파생상품	주식선물	2,080	18,394
합 계			572,043	430,051
상품관련 파생상품	장외파생상품	상품스왑 및 선도	193,066	258,621
		상품옵션	539	-
합 계			193,605	258,621
위험회피 파생상품	공정가치위험회피	이자율스왑	7,491,505	6,874,755
	순투자위험회피	통화선도	241,700	234,400
	합 계		7,733,205	7,109,155
총 계			174,866,393	132,784,187

(주) 중앙청산소에서 결제되는 파생상품의 미결제약정 금액입니다.

(2) 공정가치

당기말과 전기말 현재 보유중인 파생상품의 공정가치는 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)						
구 분			제185(당)기		제184(전)기	
			자산	부채	자산	부채
외환 파생상품	장외파생상품	통화선도	1,580,696	1,416,071	731,358	505,205
		통화스왑	705,350	754,387	395,764	534,128
		통화옵션	11,860	9,422	17,713	10,652
	합 계		2,297,906	2,179,880	1,144,835	1,049,985
이자율 파생상품	장외파생상품	이자율스왑	249,395	246,508	403,321	372,945
		이자율옵션	7,154	5,133	9,951	11,931
	합 계		256,549	251,641	413,272	384,876
주식관련 파생상품	장외파생상품	주식스왑	44	19	4	109
		주식옵션	3,317	4,065	3,882	2,540
	합 계		3,361	4,084	3,886	2,649
상품관련 파생상품	장외파생상품	상품스왑 및 선도	715	12,971	2	9,147
		상품옵션	21	21	-	-
	합 계		736	12,992	2	9,147
위험회피 파생상품	공정가치위험회피	이자율스왑	15,185	333,651	52,722	123,561
	순투자위험회피	통화선도	5,384	3,144	2,801	3,214
	합 계		20,569	336,795	55,523	126,775
총 계			2,579,121	2,785,382	1,617,518	1,573,432

(3) 파생상품 평가손익

당기와 전기 중 파생상품의 평가손익은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)						
구 분			제185(당)기		제184(전)기	
			평가이익	평가손실	평가이익	평가손실
외환 파생상품	장외파생상품	통화선도	1,294,171	1,405,389	662,649	490,396
		통화스왑	561,504	536,947	355,696	487,159
		통화옵션	14,383	4,761	16,928	4,775
	합 계		1,870,058	1,947,097	1,035,273	982,330
이자율 파생상품	장외파생상품	이자율스왑	125,087	117,001	139,032	147,160
		이자율옵션	997	1,618	3,814	3,776
	합 계		126,084	118,619	142,846	150,936
주식관련 파생상품	장외파생상품	주식스왑	90	-	8	81
		주식옵션	755	2,099	1,289	904
	합 계		845	2,099	1,297	985
상품관련 파생상품	장외파생상품	상품스왑 및 선도	715	12,971	2	9,147
		상품옵션	5	4	-	-
	합 계		720	12,975	2	9,147
위험회피 파생상품	공정가치 위험회피	이자율스왑	15,697	256,069	18,515	139,175
	순투자 위험회피	통화선도	-	2,535	1,954	-
	합 계		15,697	258,604	20,469	139,175
총 계			2,013,404	2,339,394	1,199,887	1,282,573

(4) 위험회피목적 관련 손익

당기와 전기 중 공정가치 위험회피목적 관련 손익은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당)기	제184(전)기
위험회피대상	237,112	139,737
위험회피수단	(250,133)	(139,184)
합 계	(13,021)	553

(5) 해외사업장 순투자의 위험회피

해외사업장순투자 중 일부에 대해 위험회피회계를 적용하였으며, 당기와 전기 중 위험회피수단별 해외사업환산손익에 반영된 금액은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당)기	제184(전)기
외화차입부채	(23,441)	(17,492)
외화사채	(35,727)	(14,005)
통화선도	4,775	(2,368)
합 계	(54,393)	(33,865)

9. 대출채권

(1) 당기말과 전기말 현재 대출금의 고객별 구성내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
과 목	제185(당)기	제184(전)기
가계대출	97,305,741	90,426,301
기업대출	116,475,754	113,635,229
공공 및 기타자금대출	2,092,423	2,129,768
은행간 자금 대출	4,625,545	4,566,712
카드채권	18,281	21,307
대출채권 총계	220,517,744	210,779,317
이연대출부대비용	376,821	342,684
총당금 차감전 대출채권 총계	220,894,565	211,122,001
대손충당금	(1,455,884)	(1,470,518)
총당금 차감후 대출채권 총계	219,438,681	209,651,483

(2) 대손충당금 증감내역

당기와 전기 중 예치금과 대출채권 및 기타자산에 대한 대손충당금 변동내역은 다음과 같습니다.

<제185(당)기>

(단위: 백만원)						
과 목	예치금	대출채권			기타자산	합 계
		가계대출	기업대출	기타		
기 초	12,836	247,741	1,204,355	18,422	41,750	1,525,104
전입(환입)액	2,902	129,113	542,883	(1,761)	(16,704)	656,433
상각액	-	(119,770)	(642,105)	(558)	(582)	(763,015)
할인차금 상각	-	-	(24,167)	-	-	(24,167)
대출채권 매각	-	(2,731)	(37,703)	(95)	-	(40,529)
상각채권 회수	-	31,867	114,802	43	1,348	148,060
기타(주)	-	-	(4,452)	-	84	(4,368)
기 말	15,738	286,220	1,153,613	16,051	25,896	1,497,518

(주) 기타 변동액은 채권조정, 출자전환, 환율변동 등으로 인한 금액입니다.

<제184(전)기>

(단위: 백만원)						
과 목	예치금	대출채권			기타자산	합 계
		가계대출	기업대출	기타		
기 초	23,695	227,721	1,329,006	22,944	62,177	1,665,543
전입(환입)액	(10,859)	116,814	492,217	(2,629)	(2,698)	592,845
상각액	-	(116,497)	(562,628)	(67)	(290)	(679,482)
할인차금 상각	-	-	(26,168)	-	-	(26,168)
대출채권 매각	-	(4,447)	(55,143)	(1,911)	-	(61,501)
상각채권 회수	-	24,150	72,360	85	407	97,002
기타(주)	-	-	(45,289)	-	(17,846)	(63,135)
기 말	12,836	247,741	1,204,355	18,422	41,750	1,525,104

(주) 기타 변동액은 채권조정, 출자전환, 환율변동 등으로 인한 금액입니다.

(3) 이연대출부대비용

당기와 전기 중 이연대출부대비용 변동내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당)기	제184(전)기
기 초	342,684	268,219
증 가	217,907	234,469
감 소	(183,770)	(160,004)
기 말	376,821	342,684

10. 매도가능금융자산과 만기보유금융자산

(1) 매도가능금융자산과 만기보유금융자산 현황

당기말과 전기말 현재 매도가능금융자산 및 만기보유금융자산의 내역은 다음과 같습니다.

			(단위: 백만원)	
구 분		제185(당)기	제184(전)기	
<b>매도가능금융자산</b>				
채무증권	국공채	3,601,179	2,884,987	
	금융채	15,048,027	12,973,647	
	회사채	6,618,509	6,145,312	
	기타	13,043	22,257	
	소 계	25,280,758	22,026,203	
지분증권(주)	주식	1,032,813	1,305,500	
	출자금	253,795	311,897	
	수익증권	1,207,415	763,042	
	기타	39,802	53,957	
	소 계	2,533,825	2,434,396	
매도가능금융자산 합계		27,814,583	24,460,599	
<b>만기보유금융자산</b>				
채무증권	국공채	6,826,115	5,731,934	
	금융채	891,397	524,855	
	회사채	3,912,758	3,848,262	
만기보유금융자산 합계		11,630,270	10,105,051	

(주) 활성시장에서 공시되는 시장가격이 없고 공정가치를 신뢰성있게 측정할 수 없어 원가로 측정된 지분증권의 장부금액은 당기말과 전기말 현재 각각 26,989백만원, 26,806백만원입니다.

(2) 매도가능금융자산 처분손익

당기와 전기 중 매도가능금융자산 처분으로 인한 손익은 다음과 같습니다.

			(단위: 백만원)	
구 분	제185(당)기	제184(전)기		
매도가능금융자산처분이익	439,740	471,149		
매도가능금융자산처분손실	(28,310)	(48,870)		
합 계	411,430	422,279		

11. 유형자산

(1) 당기말과 전기말 현재 유형자산의 내역은 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

(단위: 백만원)			
구 분	취득가액	감가상각누계액	장부금액
토지	1,203,810	-	1,203,810
건물	825,503	(193,978)	631,525
기타의유형자산	1,370,795	(1,162,571)	208,224
합 계	3,400,108	(1,356,549)	2,043,559

<제184(전기)>

(단위: 백만원)			
구 분	취득가액	감가상각누계액	장부금액
토지(주)	1,145,236	-	1,145,236
건물(주)	804,571	(165,952)	638,619
기타의유형자산	1,347,562	(1,127,932)	219,630
합 계	3,297,369	(1,293,884)	2,003,485

(주) 당기 중 PT Centraterra Nasional Bank의 사업결합 회계처리가 완료됨에 따라 전기금액을 소급조정 하였습니다.

(2) 당기와 전기 중 유형자산의 장부금액의 변동내역은 다음과 같습니다.

<제185(당)기>

(단위: 백만원)				
구 분	토지	건물	기타의유형자산	합 계
기 초	1,145,236	638,619	219,630	2,003,485
취득(주1,2)	-	17,068	79,425	96,493
처분(주1,3)	(472)	(217)	(1,944)	(2,633)
감가상각비	-	(29,568)	(91,008)	(120,566)
투자부동산으로부터 대체	58,478	4,443	-	62,921
매각예정비유동자산으로부터 대체	410	1	-	411
환율변동	158	1,169	2,121	3,448
기 말	1,203,810	631,525	208,224	2,043,559

(주1) 건설중인자산에서 본계정으로 대체된 금액 15,405백만원이 포함되어 있습니다.

(주2) 신규 취득자산의 복구충당부채 전입액 1,803백만원이 포함되어 있습니다.

(주3) 제각금액 927백만원이 포함되어 있습니다.

<제184(전)기>

(단위: 백만원)				
구 분	토지	건물	기타의유형자산	합 계
기 초	1,155,856	651,471	228,792	2,036,119
취득(주1,2)	1	19,975	89,318	109,294
처분(주1,3)	(933)	(874)	(4,581)	(6,388)
감가상각비	-	(31,580)	(97,038)	(128,618)
투자부동산으로 대체	(28,563)	(2,354)	-	(30,917)
환율변동	92	(3,052)	2,026	(934)
사업결합(주4)	18,783	5,033	1,113	24,929
기 말	1,145,236	638,619	219,630	2,003,485

(주1) 건설중인자산에서 본계정으로 대체된 금액 3,255백만원이 포함되어 있습니다.

(주2) 신규 취득자산의 복구충당부채 전입액 3,456백만원이 포함되어 있습니다.

(주3) 제각금액 643백만원이 포함되어 있습니다.

(주4) 당기 중 PT Centratarra Nasional Bank의 사업결합 회계처리가 완료됨에 따라 전기금액을 소급조정 하였습니다.

(3) 보험가입 내역

당기말 현재 현금, 유형자산, 투자부동산 및 매각예정비유동자산에 대한 보험가입내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
보험종류	부보자산	부보액	부보처
금융기관종합보험	현금	20,000	삼성화재 외 9개사
재산종합보험	업무용동산, 부동산 등	981,688	삼성화재 외 6개사
도난보험	현금 및 유가증권	60,000	삼성화재 외 9개사
임원배상책임보험	-	50,000	메리츠화재 외 8개사
가스사고배상책임보험	-	500	메리츠화재
개인정보보호배상책임보험	-	10,000	현대해상 외 2개사
전자금융거래배상책임보험	-	2,000	동부화재 외 2개사
합 계		1,124,188	

상기 보험 외에 차량보험, 임직원에 대한 의료보험, 자산재해보험 및 종업원재해 보장보험 등에 가입하고 있습니다.

12. 무형자산

(1) 당기와 전기 중 무형자산의 변동내역은 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

(단위: 백만원)						
구분	영업권	소프트웨어	개발비	회원권	기타의무형자산	합계
기초	45,175	65,971	29,607	47,512	118,401	306,666
취득(주1)	-	19,720	13,717	788	5,652	39,877
처분	-	-	-	(1,344)	(67)	(1,411)
손실(주2)	-	-	-	(98)	-	(98)
상각(주3)	-	(25,917)	(11,161)	-	(47,779)	(84,857)
환율변동	-	339	-	(25)	75	389
기말	45,175	60,113	32,163	46,833	76,282	260,566

- (주1) 기타의무형자산 취득액 중 2,825백만원은 미지급금으로 처리되었습니다.
- (주2) 회원권은 골프 및 콘도 회원권으로 내용연수를 특정기간으로 한정할 수 없는 무형자산으로, 보고기간말 현재 거래소 시가가 장부금액보다 낮은 경우 손상차손을 인식하였습니다.
- (주3) 기타의무형자산 상각비 중 45,006백만원은 기타의영업손익에 포함되어 있습니다.

<제184(전기)>

(단위: 백만원)						
구분	영업권	소프트웨어	개발비	회원권	기타의무형자산	합계
기초	-	42,448	13,372	47,914	76,533	180,267
취득(주1)	-	47,432	24,807	374	82,793	155,406
처분(주2)	-	-	-	(827)	(101)	(928)
상각(주3)	-	(24,090)	(10,089)	-	(42,139)	(76,318)
환율변동	-	54	-	51	10	115
사업결합(주4)	45,175	127	1,517	-	1,305	48,124
기말	45,175	65,971	29,607	47,512	118,401	306,666

- (주1) 기타의무형자산 취득액 중 59,810백만원은 미지급금으로 처리되었습니다.
- (주2) 제각금액 101백만원이 포함되어 있습니다.
- (주3) 기타의무형자산 상각비 중 39,544백만원은 기타영업비용에 포함되어 있습니다.
- (주4) 당기 중 PT Centratama Nasional Bank의 사업결합 회계처리가 완료됨에 따라 전기금액을 소급조정하였습니다.

(2) 영업권

1) 구성내역

당기말과 전기말 현재 각 현금장출단위에 배부된 영업권의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
현금장출단위	제185(당기)	제184(전기)
신한인도네시아은행(주1)	45,175	33,317
PT Centratama Nasional Bank(주1,2)	-	11,868
합 계	45,175	45,175

(주1) 2016년 12월 6일에 연결실체 내의 신한인도네시아은행과 PT Centratama Nasional Bank간의 합병이 발생하였으며 합병 후 회사명은 '신한인도네시아은행'입니다. 합병과 관련된 사항은 45.동일지배하의 사업결합 주석사항을 참고하시기 바랍니다.

(주2) 2015년 12월 18일에 인수한 PT Centratama Nasional Bank의 경우 가치평가자료 미입수 등으로 인하여 사업결합에 대한 최초 회계처리가 사업결합이 발생한 보고기간 말까지 완료되지 못하여 전기말에는 잠정금액으로 계산하였으며, 당기 중 사업결합 회계처리를 완료하여 소급 재작성 하였습니다. 당해 보고기간에 인식한 잠정가치의 조정내역은 44.사업결합으로 인한 잠정금액의 소급조정 관련 주석사항을 참고하시기 바랍니다.

2) 손상점사

현금장출단위에 대하여 회수가능가액은 사용가치를 기준으로 평가하였습니다. 사용가치에 의한 회수가능가액 평가시에는 금융기관의 특성을 고려하여, 전통적 접근법 중 현금흐름할인법(DCF)을 적용하였습니다.

① 평가기준일 및 예측기간

회수가능가액 평가를 위한 평가기준일은 2016년 6월 30일이며, 사용가치 평가시 예측기간은 인수 이후 시너지효과를 고려하여 9.5년(2016년 7월~2025년)으로 하였고, 예측기간 이후의 가치는 영구가치를 산출하여 반영하였습니다.

② 할인율 및 영구성장률

주주의 요구수익률 및 자기자본비용을 산정하여 할인율을 적용하였으며, 자기자본비용은 무위험수익률과 위험에 대한 대가로 지급하는 시장위험프리미엄(Market Risk Premium)에 해당기업의 체계적 위험을 고려하여 계산하였습니다.

영구성장률은 물가상승률을 기준으로 추정하였습니다. 현금장출단위에 사용한 할인율 및 영구성장률은 다음과 같습니다.

할인율	영구성장률
13.20%	3.20%

③ 현금장출단위에서 장출될 것으로 기대되는 미래현금흐름 추정시 사용된 주요 가정은 소비자물가지수(CPI) 상승률, 시장 규모의 성장률 및 연결실체의 점유율에 대한 사항입니다.

3) 평가기준일 현재 영업권을 보유한 현금장출단위의 총회수가능액과 총장부금액은 아래와 같습니다.

(단위: 백만원)	
구 분	신한인도네시아은행
회수가능액	187,461
장부금액	171,990
여유액	15,471

13. 관계기업에 대한 투자자산

(1) 당기말과 전기말 현재 관계기업에 대한 투자자산 지분율의 변동내역은 다음과 같습니다.

피투자회사	소재지	재무제표 기준월	지분율(%)	
			제185(당)기	제184(전)기
아주캐피탈(주1,2,6)	대한민국	9월말	12.85	12.85
비엔피파리바카디프생명보험(주1,3)	대한민국	9월말	14.99	14.99
연합자산관리(주4)	대한민국	-	-	17.50
포항테크노파크2PF(주2)	대한민국	12월말	14.90	14.90
대원토스(주1,5)	대한민국	9월말	36.33	36.33
인희(주1,5)	대한민국	9월말	15.36	15.36
대기정설(주1,5)	대한민국	9월말	27.45	27.45
극동건설(주4)	대한민국	-	-	14.30
연웅시스템(주1,5)	대한민국	9월말	21.77	21.77
두두로지텍(주1,5)	대한민국	9월말	27.96	27.96
네오플릭스 기술가치평가 투자조합(주1)	대한민국	9월말	33.33	33.33
이큐피글로벌에너지인프라사모투자전문회사(주1)	대한민국	9월말	22.64	22.64
재영솔루텍(주1,5,6,7)	대한민국	9월말	10.45	11.90
파트너스 제4호 Growth 투자조합(주1)	대한민국	9월말	25.00	25.00
피에스에이 제1호 핀테크 사모투자합자회사(주1)	대한민국	9월말	20.00	20.00
KTBN레이크 의료글로벌진출 사모투자전문회사(주1)	대한민국	9월말	20.00	-
제왕인더스트리(주5,8)	대한민국	3월말	25.90	-
티그리스아우톤싱기술사업투자조합1호(주1)	대한민국	9월말	27.27	-
나무와아이(주1,5)	대한민국	9월말	23.72	-
충영(주1,5)	대한민국	9월말	18.94	-
시먼텍(주1,5)	대한민국	9월말	19.25	-
대공반도체(주5,8)	대한민국	6월말	20.94	-
브랜빌(주5,8)	대한민국	12월말	15.53	-

- (주1) 12월말 결산 재무제표를 입수할 수 없어 2016년 9월 30일 기준으로 작성한 재무제표를 사용하여 지분율을 적용하였으며 관계기업의 보고기간 종료일과 투자회사의 보고기간 종료일 사이에 발생한 유의적인 거래나 사건은 적절히 반영하였습니다.
- (주2) 아주캐피탈과 포항테크노파크2PFV의 지분율은 15% 이하이나, 연결실체가 피투자회사의 재무정책과 영업정책에 관한 의사결정에 참여할 수 있는 임원의 선임에 유의적인 영향력을 행사할 수 있으므로 지분율을 적용하였습니다.
- (주3) 비엔피파리바카디프생명보험의 지분율은 15% 이하이나, 연결실체와 중요한 영업상의 거래를 통하여 유의적인 영향력을 행사할 수 있으므로 지분율을 적용하였습니다.
- (주4) 당기 중 연합자산관리는 유의적인 영향력을 상실하여 관계기업에 대한 투자자산에서 매도가능금융자산으로 재분류되었으며, 극동건설은 전액 무상감자되었습니다.
- (주5) 회생절차 과정에서 출자전환을 통해 주식을 취득하였으며, 회생절차 중에는 의결권을 행사할 수 없으므로 매도가능금융자산으로 분류하고 공평가치로 평가하였습니다. 전기 이전 및 당기

중 회생절차가 종료됨에 따라 정상적인 의결권 행사가 가능하여, 매도가능금융자산에서 관계기업에 대한 투자자산으로 재분류하였습니다.

- (주6) 당기말 현재 보유한 시장성있는 관계기업 투자주식의 시장가치는 각각 51,543백만원 및 10,466백만원이며, 이는 한국거래소의 2016년 12월 29일자의 종가 6,970원 및 2,760원, 총보유주식수 7,395,000주 및 3,792,000주를 기준으로 산출하였습니다.
- (주7) 재영솔루텍의 지분율은 15% 이하이나, 주식매각협의회 주관기관으로서 유의적인 영향력을 행사할 수 있으므로 관계기업에 대한 투자자산으로 계상하였으며, 당기 중 제3자의 전환청구권 행사로 지분율이 변동되었습니다.
- (주8) 12월말 결산 재무제표를 입수할 수 없어 결산일로부터 입수가능한 최근의 재무제표를 사용하여 지분법을 적용하였으며 관계기업의 보고기간 종료일과 투자회사의 보고기간 종료일 사이에 발생한 유의적인 거래나 사건은 적절히 반영하였습니다.

(2) 당기말과 전기말 현재 관계기업에 대한 투자자산의 내역은 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

(단위: 백만원)									
피투자회사	취득원가	기초	취득(처분)	처분손익	지분법손익	(부의)지분법 자본변동	비당	기말	
아주카피탈	38,971	34,444	-	-	9,038	(58)	(2,588)	40,838	
비엠펜테크비바디프생명 보험	35,279	57,358	-	-	(2,518)	5,428	-	60,268	
연합자산관리	85,050	125,822	(102,775)	909	2,882	123	(28,981)	-	
포항테크노파크2PPV	4,470	1,978	-	-	(1)	-	-	1,975	
대원토스	-	-	-	-	-	-	-	-	
인회	-	254	-	-	(38)	-	-	215	
대기건설	-	148	-	-	(21)	-	-	128	
크웰건설	9,092	-	-	3,478	-	(3,478)	-	-	
연웅시스템	-	108	-	-	(29)	-	-	77	
두두로지텍	-	384	-	-	(137)	-	-	247	
비오블록스 기술가치평가 투자조합	7,888	1,993	5,888	-	785	-	(900)	7,528	
이유펜글로벌에너지인프 라사모투자전문회사	280	-	105	-	(105)	-	-	-	
자영솔루션	8,238	8,238	-	-	(504)	2	-	5,738	
파트너스 제4호 Growth 투자조합	4,880	1,800	3,080	-	(325)	-	-	4,555	
피에스케이 제1호 권터크 사모투자합자회사	2,000	2,000	-	-	(35)	-	-	1,965	
KTB뉴레이크 의료글로벌 진출 사모투자전문회사	182	-	922	-	(143)	-	-	779	
저양인더스트리	-	-	-	-	-	-	-	-	
티그리스아우름신기술사 합투자조합1호	1,500	-	1,500	-	(19)	-	-	1,481	
나무와아이	92	-	92	-	(13)	-	-	79	
총영	-	-	-	-	-	-	-	-	
시안텍	249	-	249	-	-	-	-	249	
대광반도체	4,778	-	4,777	-	-	-	-	4,777	
브랜빌	183	-	183	-	(183)	-	-	-	
합 계	198,890	232,522	(88,199)	4,387	8,615	2,017	(30,448)	130,893	

<제184(전)기>

(단위: 백만원)								
피투자회사	취득원가	기초	취득(처분)	지분법손익	(부익)지분법 지분변동	배당	감익	기말
아주라이피탈	38,971	30,428	-	8,277	(410)	(1,848)	-	34,444
비엠펜피파리바카디프 생명보험	35,279	58,897	-	(3,297)	3,758	-	-	57,358
연합자산관리	85,050	114,238	-	11,832	(48)	-	-	125,822
포항테크노파크2PPV	4,470	1,977	-	(1)	-	-	-	1,978
다원토스	-	-	-	-	-	-	-	-
인희	-	532	-	(278)	-	-	-	254
대기건설	-	44	-	105	-	-	-	149
극동건설	9,092	7,158	-	(1,558)	3,422	-	(9,024)	-
연풍시스템	-	-	-	108	-	-	-	108
두두로지텍	-	-	-	384	-	-	-	384
네오블릭스 기술가치평가 투자조합	2,000	-	2,000	(7)	-	-	-	1,993
이큐피글로벌에너지 인프라사모투자전문회사	174	-	174	(174)	-	-	-	-
자영솔루션	8,238	-	8,238	-	-	-	-	8,238
파트너스 제4호 Growth 투자조합	1,800	-	1,800	-	-	-	-	1,800
피에스에이 제1호 링크 사모투자합자회사	2,000	-	2,000	-	-	-	-	2,000
BANK METRO EXPRESS	25,300	-	(208)	208	-	-	-	-
합 계	208,374	211,272	12,004	13,399	8,720	(1,848)	(9,024)	232,522

(3) 당기말과 전기말 현재 및 보고기간 중 주요 관계기업의 요약 재무정보는 다음과 같습니다.

<제185(당)기>

피투자회사	(단위: 백만원)					
	관계기업의 요약재무정보					
	자산	부채	영업수익	당기순이익	기타포괄손익	총포괄손익
아주캐피탈	6,543,737	5,744,415	757,345	70,598	(458)	70,140
비엔피파리바카디프생명보험	4,182,208	3,779,257	144,583	(16,706)	36,189	19,483
포항테크노파크2PFV	14,680	1,401	-	(4)	-	(4)
대원토스	399	2,492	517	(624)	-	(624)
인희	10,713	9,310	3,135	(253)	-	(253)
대기건설	659	191	-	(76)	-	(76)
연웅시스템	497	146	25	(136)	-	(136)
두두로지텍	891	6	213	(609)	-	(609)
네오플렉스 기술가치평가 투자조합	22,577	-	3,441	2,295	-	2,295
이큐피글로벌에너지인프라 사모투자전문회사	1	1,376	-	(1,842)	-	(1,842)
재영솔루션	155,368	120,184	137,920	(7,095)	(614)	(7,709)
파트너스 제4호 Growth 투자조합	18,479	258	113	(1,300)	-	(1,300)
피에스에이 제1호 핀테크 사모 투자합자회사	9,825	-	-	(175)	-	(175)
KTB뉴레이크 의료글로벌진출 사모투자전문회사	3,805	478	-	(716)	-	(716)
제양인더스트리	2,146	4,717	212	(99)	-	(99)
티그리스아우름신기술사업 투자조합1호	5,431	-	-	(99)	-	(99)
나무와아이	1,193	859	325	(54)	-	(54)
충영	2,341	6,753	-	-	-	-
시먼텍	3,098	1,804	-	-	-	-
대광반도체	35,204	12,392	-	-	-	-
브런빌	2,177	2,870	-	-	-	-
합 계	11,015,409	9,698,909	1,047,829	43,166	35,117	78,283

<제184(전)기>

(단위: 백만원)						
피투자회사	관계기업의 요약재무정보					
	자산	부채	영업수익	당기순이익	기타포괄손익	총포괄손익
아주캐피탈	6,906,603	6,155,236	844,216	48,870	(3,191)	45,679
비엔피파리바카디프생명보험	4,128,588	3,745,119	481,472	(21,533)	25,039	3,506
연합자산관리	4,068,354	3,331,647	452,759	66,455	(276)	66,179
포항테크노파크	14,664	1,401	-	(4)	-	(4)
대원토스	1,952	3,420	3,994	(263)	-	(263)
인희	11,237	9,582	3,921	(1,803)	-	(1,803)
대기전설	1,051	508	65	385	-	385
극동건설	278,497	233,376	269,079	(10,881)	(3,072)	(13,953)
연웅시스템	1,040	554	59	12	-	12
두두로지텍	1,418	44	65	(42)	-	(42)
네오플릭스 기술가치평가 투자조합	6,000	22	-	(22)	-	(22)
이큐피글로벌에너지인프라 사모투자전문회사	2	467	-	(767)	-	(767)
재영솔루텍	161,439	126,297	-	-	-	-
파트너스 제4호 Growth 투자조합	7,200	-	-	-	-	-
피에스에이 제1호 핀테크 사모투자합자회사	10,000	-	-	-	-	-
합 계	15,598,045	13,607,673	2,055,630	80,407	18,500	98,907

(4) 당기말과 전기말 현재 관계기업의 재무정보금액을 관계기업에 대한 지분의 장부 금액으로 조정 한 내역은 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

(단위: 백만원)						
피투자회사	당기말 순자산 (a)	연결실체 지분율 (b)	순자산지분금액 (a) x (b)	미실현손익	기타	장부금액
아주캐피탈(주1)	749,882	12.85%	96,365	-	(55,529)	40,836
비엔피파리바카드프생영보험	402,951	14.99%	60,443	(175)	-	60,268
포항테크노파크2PFV	13,259	14.90%	1,975	-	-	1,975
대원토스(주2)	(2,083)	36.33%	(760)	-	760	-
인희	1,403	15.36%	215	-	-	215
대기전설	468	27.45%	128	-	-	128
연웅시스템	351	21.77%	77	-	-	77
두두로지력	885	27.96%	247	-	-	247
네오플렉스 기술자평가 투자조합	22,577	33.33%	7,526	-	-	7,526
이큐피글로벌에너지인프라사모 투자전문회사(주2)	(1,375)	22.64%	(311)	-	311	-
재영솔루트(주3)	34,147	10.45%	3,567	-	2,169	5,736
파트너스 제4호 Growth 투자조합	18,221	25.00%	4,555	-	-	4,555
피에스에이 제1호 펀테크 사모투자합자회사	9,825	20.00%	1,965	-	-	1,965
KT비뉴레이크 의료글로벌진출 사모투자전문회사(주4)	3,327	20.00%	666	-	113	779
제양인더스트리(주4)	(2,571)	25.90%	(666)	-	666	-
티그리스아우름신기술사업 투자조합1호	5,431	27.27%	1,481	-	-	1,481
나무와아이	334	23.72%	79	-	-	79
흥영(주4)	(4,412)	18.94%	(836)	-	836	-
시멘틱	1,294	19.25%	249	-	-	249
대광반도체	22,812	20.94%	4,777	-	-	4,777
브랜빌(주4)	(693)	15.53%	(108)	-	108	-
합 계	1,276,023		181,634	(175)	(50,566)	130,893

(주1) 당기말 순자산은 비지배지분을 제외한 잔액이며, 기타는 당기말까지 인식한 누적 손실차손을 포함하고 있습니다.

(주2) 기타는 당기 결산 목적으로 투자계정 잔액이 '0'이 되어 지분법 인식을 중지함으로 인해 인식하지 못한 누적손실 금액입니다.

(주3) 당기말 순자산은 비지배지분을 제외한 잔액이며, 기타는 취득 시 발생한 공평가치 조정금액입니다.

(주4) 기타는 취득시 발생한 공평가치 조정금액입니다.

<제184(전)기>

(단위: 백만원)							
피투자회사	전기말 순자산 (a)	연결실체 지분율 (b)	순자산지분금액 (a) x (b)	미실현손익	감액	기타	정부금액
아주캐피탈(주1)	700,147	12.85%	89,969	-	-	(55,525)	34,444
비엔피파리바카디프생명보험	383,468	14.99%	57,520	(164)	-	-	57,356
연합자산관리(주2)	718,983	17.50%	125,822	-	-	-	125,822
포항테크노파크2PFV	13,264	14.90%	1,976	-	-	-	1,976
대원토스(주3)	(1,459)	36.33%	(534)	-	-	534	-
인회	1,655	15.36%	254	-	-	-	254
대기전설	544	27.45%	149	-	-	-	149
극동건설(주4)	46,376	14.30%	6,629	-	(9,024)	2,395	-
연흥시스템	486	21.77%	106	-	-	-	106
두두로지력	1,374	27.96%	384	-	-	-	384
비오펀릭스 기술가치평가 투자조합	5,978	33.33%	1,993	-	-	-	1,993
이큐피글로벌에너지인프라 사모투자전문회사(주5)	(464)	22.64%	(106)	-	-	105	-
재영솔루텍(주4)	34,193	11.90%	4,069	-	-	2,169	6,238
파트너스 제4호 Growth 투자조합	7,200	25.00%	1,800	-	-	-	1,800
피에스에이 제1호 핀테크 사모투자합자회사	10,000	20.00%	2,000	-	-	-	2,000
합 계	1,921,735		292,032	(164)	(9,024)	(50,322)	232,522

(주1) 전기말 순자산은 비지배지분을 제외한 잔액이며, 기타는 당기말까지 인식한 누적 손상차손을 포함하고 있습니다.

(주2) 전기말 순자산은 비지배지분을 제외한 잔액입니다.

(주3) 기타는 당기 결산 누적으로 투자계정 잔액이 '0'이 되어 지분법 인식을 중지함으로써 인해 인식하지 못한 누적손실금액입니다.

(주4) 전기말 순자산은 비지배지분을 제외한 잔액이며, 기타는 취득시 발생한 영업권 금액입니다.

(주5) 기타는 관계기업이 현재 영업을 개시하기 전이므로, 투자계정 잔액이 '0'이 되어 지분법 인식을 중지함으로써 인해 인식하지 못한 누적손실금액입니다.

(5) 지분법 적용의 증지로 인하여 인식하지 못한 당기 및 전기 누적 미반영 지분법 손실 금액은 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

(단위: 백만원)		
피투자회사	미반영 당기 지분법 손실	미반영 누적 지분법 손실
대원토스	(226)	(760)
이큐피글로벌에너지인프라 사모투자전문회사	(311)	(311)
제양인더스트리	(18)	(18)
합 계	(555)	(1,089)

<제184(전기)>

(단위: 백만원)		
피투자회사	미반영 전기 지분법 손실	미반영 누적 지분법 손실
대원토스	(96)	(534)
이큐피글로벌에너지인프라 사모투자전문회사	(105)	(105)
합 계	(201)	(639)

14. 투자부동산

(1) 당기말과 전기말 현재 투자부동산의 내역은 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

(단위: 백만원)			
구 분	취득가액	감가상각누계액	장부금액
토지	506,638	-	506,638
건물	229,345	(60,837)	168,508
합 계	735,983	(60,837)	675,146

<제184(전기)>

(단위: 백만원)			
구 분	취득가액	감가상각누계액	장부금액
토지	572,069	-	572,069
건물	231,253	(37,716)	193,537
합 계	803,322	(37,716)	765,606

(2) 투자부동산 공정가치

당기말과 전기말 현재 투자부동산의 공정가치 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당기)	제184(전기)
투자부동산(주)	773,511	836,030

(주) 투자부동산의 공정가치 평가는 독립적인 제3자와의 거래조건에 따른 최근 시장거래가격과 시장에서 관측가능하지 않은 유의한 투입변수가 반영되므로 공정가치 서열수준에 있어 수준3에 해당합니다.

(3) 투자부동산으로부터 발생한 손익

당기와 전기 중 투자부동산과 관련하여 연결포괄손익계산서에 계상된 관련 손익의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당기)	제184(전기)
투자부동산에서 발생한 임대수익	23,185	24,400
임대수익이 발생한 투자부동산과 직접 관련된 영업비용	5,798	5,770

15. 기타자산

당기말과 전기말 현재 기타자산의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당기)	제184(전기)
미수금	3,984,874	5,547,053
미회수내국환채권	6,066,285	2,307,584
예치보증금	1,040,801	1,089,375
미수수익	837,531	757,772
선급비용	62,819	72,001
가지급금	53,756	50,563
잡자산	86,839	94,142
기타	2,152	744
현재가치할인차금	(31,708)	(41,561)
대손충당금	(25,896)	(41,750)
합 계	12,077,453	9,835,923

16. 담보제공자산 및 담보로 제공받은 자산

(1) 당기말과 전기말 현재 담보로 제공한 자산의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
구분	제185(당기)	제184(전기)	담보제공사유
대출채권	76,232	94,871	차입부채
유가증권(주1)	매도가능금융자산	584,334	차입부채, 한은결제이행담보, 차입유가증권 등
	만기보유금융자산	6,068,588	차입부채, 한은결제이행담보, 대고객FP 등
	소 계	6,652,922	
유형자산(주2)	6,525	3,905	근저당권 설정 등
합 계	9,133,409	6,751,688	

(주1) 제3자가 연결실체의 채무불이행과 무관하게 매도 및 재담보 제공 가능한 담보의 장부금액은 당기말과 전기말 현재 각각 1,209,161백만원, 759,654백만원입니다.

(주2) 근저당권 설정 등 관련 채권최고액 기준입니다.

(2) 채무불이행과 무관하게 매도 및 재담보 제공 가능한 담보 보유물

당기말과 전기말 현재 채무불이행과 무관하게 매도 및 재담보 제공 가능한 담보의 공정가치는 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)				
구분	제185(당기)		제184(전기)	
	담보물의 공정가치	매도하거나 담보로 다시 제공한 담보물의 공정가치	담보물의 공정가치	매도하거나 담보로 다시 제공한 담보물의 공정가치
유가증권	3,749,791	-	5,285,701	-

17. 당기손익인식지정금융부채

(1) 당기말과 전기말 현재 당기손익인식지정금융부채의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구분(주1)	제185(당기)	제183(전기)
예수부채(주2,3)	6,282	13,509

- (주1) 연결실체는 내재파생상품이 포함된 복합금융상품 중 기업회계기준서 제1039호 '금융상품: 인식과 측정'에 따라 당기손익인식금융부채의 지정이 허용되는 복합계약을 당기손익인식금융부채로 지정하였습니다.  
 (주2) 당기손익인식지정금융부채의 장부금액은 연결실체가 채택한 옵션평가모형에 근거하여 산정하였습니다.  
 (주3) 당기 및 전기 중 연결실체의 신용위험 변동으로 인하여 손익으로 인식된 금액은 없습니다.

(2) 당기말과 전기말 현재 당기손익인식지정금융부채의 계약조건에 따른 원금에 대한 만기상환금액과 장부금액은 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

(단위: 백만원)			
구분	계약상 만기상환금액	장부금액	차이금액
예수부채	6,247	6,282	(35)

<제184(전기)>

(단위: 백만원)			
구분	계약상 만기상환금액	장부금액	차이금액
예수부채	13,607	13,509	98

(3) 당기 및 전기 중 당기손익인식지정금융부채 관련 순손익의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)						
구분	제185(당기)			제184(전기)		
	평가손익	거래손익	합계	평가손익	거래손익	합계
예수부채	(97)	(109)	(206)	85	(111)	(16)

18. 예수부채

당기말과 전기말 현재 예수부채의 종류별 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
과 목		제185(당)기	제184(전)기
요구불예수부채	원화예수부채	81,617,492	74,319,215
	외화예수부채	11,032,964	8,412,705
	소 계	92,650,456	82,731,920
기한부예수부채	원화예수부채	110,106,106	110,090,844
	외화예수부채	12,790,861	10,489,601
	공정가치위험회피손익	(38,368)	(17,954)
	소 계	122,858,599	120,562,491
양도성예금증서		6,319,914	4,351,326
발행어음예수부채		4,581,276	3,018,551
어음관리계좌수탁금		2,473,048	2,280,816
기타		26,799	30,088
합 계		228,910,092	212,975,192

19. 단기매매금융부채

당기말과 전기말 현재 단기매매금융부채의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)				
과 목	제185(당)기		제184(전)기	
	이자율(%)	금액	이자율(%)	금액
매도유가증권	-	-	2.25	10,161
금/은예수부채	-	485,995	-	453,605
합 계		485,995		463,766

20. 차입부채

당기말과 전기말 현재 차입부채의 종류별 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)							
과목		제185(당기)			제184(전기)		
		이자율(%)		금액	이자율(%)		금액
		최고	최저		최고	최저	
콜머니	원화	1.23	1.08	394,400	-	-	-
	외화	10.00	0.35	412,868	7.00	0.32	268,114
	소계			807,268			268,114
매출어음		1.52	0.65	12,427	2.00	0.75	24,245
환매조건부 채권매도	원화	0.80	0.80	8,152	1.58	1.00	8,110
	외화	6.29	1.42	569,956	3.49	0.69	510,464
	소계			578,108			518,574
원화차입부채	한은차입부채	0.75	0.50	2,621,345	0.75	0.50	1,963,472
	기타차입부채	4.30	0.00	4,551,825	4.35	0.00	3,729,298
	소계			7,173,170			5,692,770
외화차입부채	외화타점차	0.00	0.00	152,589	0.76	0.00	180,527
	은행차입부채	3.95	0.24	3,678,949	7.95	0.10	4,297,151
	전대차입부채	1.72	0.00	470,176	1.18	0.47	571,829
	기타차입부채	1.18	1.02	1,442,365	0.80	0.53	1,375,143
	소계			5,744,079			6,424,650
외화수탁금		-	-	-	0.10	0.10	71,810
이연부대비용				(723)			(1,684)
합계				14,314,329			12,998,479

21. 사채

당기말과 전기말 현재 사채의 종류별 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)							
과 목		제185(당)기			제184(전)기		
		이자율(%)		금액	이자율(%)		금액
		최고	최저		최고	최저	
원화사채	일반사채	8.00	0.00	13,905,995	8.00	0.00	12,676,830
	후순위사채	4.60	2.20	3,501,056	5.10	2.72	3,500,808
	공정가액위험회피손익			(147,208)			(52,579)
	할인발행차금			(19,599)			(31,794)
	소 계			17,240,244			16,093,265
외화사채	일반사채	4.38	0.03	3,176,276	4.38	0.32	3,912,108
	후순위사채	3.88	3.88	1,189,067	-	-	-
	공정가액위험회피손익			(9,977)			25,983
	할인발행차금			(17,180)			(10,806)
	소 계			4,338,186			3,927,285
합 계				21,578,430			20,020,550

22. 확정급여부채

연결실체는 종업원의 용역제공기간을 기초로 확정급여연금제도를 운영하고 있습니다. 또한, 연결실체는 사외적립자산을 신탁사, 펀드사 및 기타 유사기업에 신탁하고 있습니다.

(1) 확정급여제도 자산 및 부채

당기말과 전기말 현재 확정급여제도하의 자산 및 부채의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당기)	제184(전기)
확정급여채무의 현재가치	1,258,473	1,173,709
사외적립자산의 공정가치	(1,208,370)	(1,018,940)
연결재무상태표 계상 부채	50,103	154,769

(2) 확정급여채무의 현재가치

당기와 전기 중 확정급여채무 현재가치의 변동내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당기)	제184(전기)
기 초	1,173,709	999,623
당기근무원가	136,566	119,239
이자비용	37,947	38,229
재측정요소(주1)	(39,969)	58,822
환율차이	24	96
급여지급액	(52,196)	(47,413)
기타(주2)	2,392	5,113
기 말	1,258,473	1,173,709

(주1) 당기말 현재 재측정요소는 인구통계적가정 변동에 따른 보험수리적손실 4,634백만원과 재무적가정 변동에 따른 보험수리적이익 8,347백만원, 그리고 경험조정으로 인한 이익 36,256백만원으로 구성되어 있습니다.

(주2) 전기말 해당 금액에는 사업결합으로 인한 증가액 2,359백만원이 포함되어 있습니다.

(3) 사외적립자산의 공정가치

당기와 전기 중 사외적립자산 공정가치의 변동내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당)기	제184(전)기
기 초	1,018,940	753,648
이자수익	34,033	30,297
재측정요소	(14,376)	(13,269)
사용자의 기여금	210,300	290,800
급여지급액	(40,527)	(42,536)
기 말	1,208,370	1,018,940

(4) 사외적립자산 구성내역

당기말과 전기말 현재 사외적립자산의 구성내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당)기	제184(전)기
정기예금	1,180,374	977,723
기타	27,996	41,217
합 계	1,208,370	1,018,940

(5) 보험수리적 가정

당기말과 전기말 현재 보험수리적 가정의 내역은 다음과 같습니다.

구 분	제185(당)기	제184(전)기	비 고
할인율(기대수익률)	3.40%	3.34%	AA0 회사채 수익률
미래인출상승률	2.92%+ 상승률	2.92%+ 상승률	과거 5개년의 평균

(6) 민감도 분석

당기말과 전기말 현재 주요 가정의 변동에 따른 확정급여채무의 현재가치는 다음과 같습니다.

1) 할인율

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당기)	제184(전기)
적용된 가정에 따른 현재가치	1,258,473	1,173,709
1%Point 증가	1,137,551	1,057,735
1%Point 감소	1,399,688	1,309,579

2) 임금인상률

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당기)	제184(전기)
적용된 가정에 따른 현재가치	1,258,473	1,173,709
1%Point 증가	1,399,091	1,308,913
1%Point 감소	1,135,816	1,056,141

(7) 당기말과 전기말 평가 시 적용한 확정급여채무의 가중평균 만기는 각각 13.16년과 13.24년입니다.

23. 총당부채

(1) 당기와 전기 중 총당부채 변동내역은 다음과 같습니다.

<제185(당)기>

(단위: 백만원)						
구 분	복구총당부채	소송	미사용한도	지급보증	기타	합 계
기 초	33,934	19,576	101,096	80,289	61,193	296,088
전입(환입)액	2,255	(7,897)	(6,747)	4,222	40,155	31,988
사용액	(1,894)	-	-	-	(16,103)	(17,997)
환출변동	-	365	636	993	60	2,054
기타(주)	1,803	-	-	(7,005)	-	(5,202)
기 말	36,098	12,044	94,985	78,499	85,305	306,931

<제184(전)기>

(단위: 백만원)						
구 분	복구총당부채	소송	미사용한도	지급보증	기타	합 계
기 초	29,096	22,230	85,991	106,952	54,759	298,728
전입(환입)액	1,968	(3,382)	14,818	(33,519)	18,926	(1,199)
사용액	(530)	-	-	-	(12,782)	(13,292)
환출변동	-	728	587	2,552	270	4,137
기타(주)	3,410	-	-	4,304	-	7,714
기 말	33,934	19,576	101,096	80,289	61,193	296,088

(주) 최초 공정가치로 평가하는 금융보증계약의 신규 발생과 만기 도래에 따른 변동 및 할인을 변동에 따른 효과 등입니다.

(2) 복구총당부채

복구총당부채는 보고기간말 현재 임차점포의 미래 예상 복구비용의 최선의 추정치를 적절한 할인율로 할인한 현재가치입니다. 동 복구비용의 지출은 개별 임차점포의 임차계약 종료시점에 발생할 예정이며, 이를 합리적으로 추정하기 위하여 과거 10개년 간 임차계약이 종료된 임차점포의 평균존속기간을 이용하였습니다. 또한 예상 복구비용을 추정하기 위하여 과거 3개년간 복구공사가 발생한 점포의 실제 복구공사비용의 평균값 및 3개년간 평균 인플레이션율을 사용하였습니다.

24. 기타부채

당기말과 전기말 현재 기타부채의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
과 목	제185(당)기	제184(전)기
미지급금	3,938,413	5,528,790
신탁계정미지급금	3,443,287	2,966,681
미지급비용	2,333,120	2,268,540
대리점	799,462	1,311,763
미지급내국환채무	920,232	2,126,032
대행업무수입금	494,278	534,070
수입보증금	374,932	368,468
미지급외국환채무	226,920	208,939
가수금	44,882	83,965
선수수익	80,744	66,398
제세예수금	61,073	70,022
미지급배당금	1,309	9,231
잡부채	86,645	82,104
현재가치할인차금	(2,404)	(2,651)
합 계	12,802,893	15,622,352

25. 자본

(1) 당기말과 전기말 현재 자본 내역은 다음과 같습니다.

		(단위: 백만원)	
과 목		제185(당기)	제184(전기)
자본금	보통주자본금	7,928,078	7,928,078
신종자본증권		469,392	801,298
자본잉여금	주식발행초과금	398,080	398,080
	기타자본잉여금	5,084	5,084
	소 계	403,164	403,164
자본조정	주식선택권	(887)	1,363
	기타자본조정	(63,727)	(30,703)
	소 계	(64,614)	(29,340)
기타포괄손익누계액	매도가능금융자산평가손익	139,824	386,970
	관계기업의 기타포괄손익에대한지분	16,583	13,741
	해외사업환산손익	(151,936)	(160,274)
	확정급여제도의 재측정요소	(280,916)	(300,385)
	소 계	(276,445)	(59,948)
이익잉여금	법정적립금(주1)	1,497,370	1,375,731
	임의적립금(주2)	9,064,867	8,719,986
	기타준비금(주3)	87,029	75,215
	미처분이익잉여금(주4)	2,351,571	1,616,238
	소 계	13,000,837	11,787,170
비지배지분(주5)		6,561	12,351
합 계		21,466,973	20,842,773

- (주1) 은행법 제40조 규정에 의하여 자본금의 총액에 달할 때까지 결산순이익금을 배당할 때마다 그 순이익금의 10% 이상을 매 결산기에 적립한 이익준비금으로, 결손보전과 자본전입의 경우를 제외하고는 이를 사용할 수 없습니다.
- (주2) 당기말 1,706,925백만원의 별도재무제표 기준 대손준비금과 355,888백만원의 재평가적립금이 포함되어 있으며, 전기말 1,738,249백만원의 별도재무제표 기준 대손준비금과 355,888백만원의 재평가적립금이 포함되어 있습니다.
- (주3) 해외시장에서 현지 법규에 의하여 적립한 준비금으로 현지 소재지점의 결손보전을 위해서만 사용할 수 있습니다.
- (주4) 당기말 현재 별도재무제표 기준 대손준비금 적립액과 연결재무제표 기준 대손준비금 적립액의 차이는 34,200백만원이며, 연결재무제표 기준 대손준비금 적립액의 47,566백만원이 포함되어 있습니다.
- (주5) 당기 중 PT Centrafera Nacional Bank의 사업결합 회계처리가 완료됨에 따라 전기말금액을 소급조정하였습니다.

(2) 당기말과 전기말 현재 자본금 내역은 다음과 같습니다.

과 목	제185(당기)	제184(전기)
발행할 주식의 총수	2,000,000,000주	2,000,000,000주
1주의 금액	5,000원	5,000원
발행한 주식의 수	1,585,615,506주	1,585,615,506주

(3) 신종자본증권

당기말과 전기말 현재 자본으로 분류한 신종자본증권은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)					
구 분	발행일	만기일	금 액		이자율(%)
			제185(당기)	제184(전기)	
외화신종 자본증권	2006-09-20	2036-09-20	-	94,761	6.82
	2006-09-20	2036-09-20	-	237,144	6.82
원화신종 자본증권	2008-03-21	2038-03-21	119,878	119,878	7.30
	2008-03-25	2038-03-25	49,947	49,947	7.30
	2013-06-07	2043-06-07	299,568	299,568	4.63
합 계			469,393	801,298	
신종자본증권 배당금			45,691	57,158	
가중평균이자율(%)			6.45	6.72	

상기 신종자본증권은 발행일이후 5년 또는 10년이 지난 후 연결실체가 조기상환할 수 있으며, 만기일에 동일한 조건으로 만기를 연장할 수 있습니다. 또한, 보통주에 대한 배당을 지급하지 않기로 결의한 경우 약정이자를 지급하지 아니합니다.

(4) 기타포괄손익누계액

당기와 전기 중 기타포괄손익누계액의 재분류조정을 포함한 변동내역은 다음과 같습니다.

<제185(당)기>

(단위: 백만원)					
구분	매도가능금융자산 평가손익	관계기업의 기타포괄손익에 대한지분	해외사업 환산손익	확정급여제도 재측정요소	합계
기초금액	386,970	13,741	(160,274)	(300,385)	(59,948)
당기 발생 차익(차손):					
공정가치평가로 인한 증감	(83,447)	-	-	-	(83,447)
지분법평가로 인한 증감	-	2,016	-	-	2,016
당기손익에 포함된 차익의 재분류조정:					
자산손상으로 인한 증감	26,259	-	-	-	26,259
처분으로 인한 증감	(265,357)	-	-	-	(265,357)
위험회피회계적용효과	2,289	-	(54,393)	-	(52,104)
환율차이로 인한 효과	(240)	-	49,119	-	48,879
확정급여제도의 재측정	-	-	-	25,593	25,593
법인세효과	73,350	826	13,612	(6,124)	81,664
기말금액	139,824	16,583	(151,936)	(290,916)	(276,445)

<제184(전)기>

(단위: 백만원)					
구분	매도가능금융자산 평가손익	관계기업의 기타포괄손익에 대한지분	해외사업 환산손익	확정급여제도 재측정요소	합계
기초금액	627,834	7,738	(152,433)	(245,740)	237,399
당기 발생 차익(차손):					
공정가치평가로 인한 증감	69,743	-	-	-	69,743
지분법평가로 인한 증감	-	6,720	-	-	6,720
당기손익에 포함된 차익의 재분류조정:					
자산손상으로 인한 증감	9,567	-	-	-	9,567
처분으로 인한 증감	(398,794)	-	-	-	(398,794)
위험회피회계적용효과	(864)	-	(33,865)	-	(34,729)
환율차이로 인한 효과	2,585	-	25,123	-	27,708
확정급여제도의 재측정	-	-	-	(72,091)	(72,091)
법인세효과	76,899	(717)	901	17,446	94,529
기말금액	386,970	13,741	(160,274)	(300,385)	(59,948)

(5) 이익잉여금처분계산서

당기와 전기의 이익잉여금처분계산서는 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
내 용(주)	제185(당)기	제184(전기)
	처분예정일: 2017년 3월 22일	처분확정일: 2016년 3월 23일
I. 미처분이익잉여금	1,731,381	1,159,233
1. 전기이월미처분이익잉여금	-	-
2. 신종자본증권이자	(45,691)	(57,158)
3. 당기순이익	1,777,072	1,216,391
II. 임의적립금등의이입액	6,723,196	6,378,313
1. 임의적립금	6,723,196	6,346,989
2. 대손준비금	-	31,324
합 계	8,454,577	7,537,546
III. 이익잉여금처분액	8,454,577	7,537,546
1. 이익준비금	177,707	121,639
2. 대손준비금	47,848	-
3. 기타준비금	12,652	11,814
4. 임의적립금	7,676,276	6,723,196
5. 신종자본증권상환손실	60,094	30,897
6. 배당금	480,000	650,000
보통주 현금배당		
주당: 당기 302.72원(6.05%)		
전기 409.94원(8.20%)		
IV. 차기이월미처분이익잉여금	-	-

(주) 상기 이익잉여금처분계산서는 당행의 별도재무제표에 근거하여 작성되었습니다.

(6) 배당금

당기와 전기의 보통주 배당금 계산내역은 다음과 같습니다.

(단위: 주, 원)		
구 분	제185(당기)	제184(전기)
배당받을 주식수	1,585,615,506	1,585,615,506
주당액면금액	5,000	5,000
액면배당률	6.05%	8.20%
주당배당금액	302.72	409.94

(7) 배당성향

당기와 전기 보통주에 대한 배당성향의 계산내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당기)	제184(전기)
보통주 배당금	480,000	650,000
당기순이익(주)	1,940,256	1,489,654
배당성향 (당기순이익 기준)	24.74%	43.63%
대손준비금 반영후 조정이익(주)	1,892,690	1,492,621
배당성향 (대손준비금 반영후 조정이익 기준)	25.36%	43.55%

(주) 당기순이익과 대손준비금 반영 후 조정이익은 지배기업 소유지분 기준 금액입니다.

26. 대손준비금

대손준비금은 은행업감독규정 제29조 제1항 및 제2항에 따라 산출 및 공시되는 사항입니다.

(1) 대손준비금 잔액

당기말과 전기말 현재 대손준비금 잔액은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당)기	제184(전)기
대손준비금 적립액	1,741,125	1,744,092
대손준비금 전입(환입)예정액	47,566	(2,967)
대손준비금 잔액	1,788,691	1,741,125

(2) 대손준비금 전입액 및 대손준비금 반영 후 조정이익 등

당기와 전기 중 대손준비금 전입액 및 대손준비금 반영후 조정이익 등은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당)기	제184(전)기
대손준비금 전입(환입) 필요액	47,566	(2,967)
대손준비금 반영후 조정이익	1,893,055	1,492,955
대손준비금 반영후 주당 조정이익(원)	1,165	906

27. 순이자손익

(1) 당기와 전기 중 이자수익의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당)기	제184(전)기
현금및예치금이자	73,921	101,931
단기매매금융자산이자	168,205	162,624
매도가능금융자산이자	454,557	485,026
만기보유금융자산이자	324,128	318,940
대출채권이자	6,581,065	6,505,540
기타이자	94,325	75,431
합 계	7,696,201	7,649,492
손상된 금융자산에서 발생한 이자수익	24,167	26,168

(2) 당기와 전기 중 이자비용의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당)기	제184(전)기
예수부채이자	2,516,627	2,787,728
차입부채이자	162,393	172,764
사채이자	470,765	472,676
기타이자	42,295	51,609
합 계	3,192,080	3,484,777

28. 순수수수료손익

당기와 전기 중 순수료 수익·비용의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
구 분		제185(당)기	제184(전)기
수수료수익	여신취급수수료	69,953	68,509
	전자금융수수료	136,180	135,996
	중개수수료	90,547	110,684
	업무대행수수료	308,596	321,506
	투자금융수수료	47,348	67,277
	외환수입수수료	164,680	149,057
	신탁보수수료	98,406	71,533
	수입보증료	60,279	54,829
	기타수수료	85,631	70,895
	합 계	1,061,620	1,050,286
수수료비용	여신관련수수료	30,037	41,113
	브랜드사용수수료	32,883	49,905
	서비스관련수수료	14,573	12,787
	매매및중개관련수수료	7,539	7,006
	외환지급수수료	29,899	24,766
	기타수수료	62,191	60,846
	합 계	177,122	196,423

29. 배당수익

당기와 전기 중 배당수익의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당)기	제184(전)기
단기매매금융자산	28,957	35,580
매도가능금융자산	94,602	148,521
합 계	123,559	184,101

30. 단기매매금융상품 관련 손익

당기와 전기 중 단기매매금융상품 관련 손익의 내역은 다음과 같습니다.

			(단위: 백만원)		
구 분			제185(당)기	제184(전)기	
단기매매 금융상품	채무증권	평가이익	3,044	8,414	
		처분이익	28,977	16,060	
		평가손실	(34,816)	(13,199)	
		처분손실	(23,403)	(6,018)	
		소 계	(26,198)	5,257	
	지분증권	평가이익	14,848	5,961	
		처분이익	27,440	39,794	
		평가손실	(3,504)	(1,618)	
		처분손실	(16,851)	(37,696)	
		소 계	21,933	6,441	
	금/은관련	평가이익	18,336	24,366	
		처분이익	4,397	2,183	
		평가손실	(61,321)	(5,238)	
		처분손실	(1,808)	(379)	
		소 계	(40,396)	20,932	
합 계			(44,661)	32,630	
매매목적 파생금융상품	외환관련	평가 및 거래이익	4,911,654	2,820,344	
		평가 및 거래손실	(4,898,751)	(2,681,979)	
		소 계	12,903	138,365	
	이자율관련	평가 및 거래이익	497,453	461,209	
		평가 및 거래손실	(479,927)	(464,253)	
		소 계	17,526	(3,044)	
	주식관련	평가 및 거래이익	50,601	9,728	
		평가 및 거래손실	(7,912)	(10,931)	
		소 계	42,689	(1,203)	
	상품관련	평가 및 거래이익	55,684	10,594	
		평가 및 거래손실	(25,319)	(42,921)	
		소 계	30,375	(32,327)	
	합 계			103,493	101,791
	총 계			58,832	134,421

31. 금융상품자산 손상차손

당기와 전기 중 금융상품자산 손상차손의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
구 분		제185(당기)	제184(전기)
금융상품 손상차손	대출채권 및 기타금융자산	656,433	592,845
	매도가능금융자산	82,103	206,570
합 계		738,536	799,415

32. 일반관리비

당기와 전기 중 일반관리비의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
구 분		제185(당기)	제184(전기)
종업원급여	장·단기 종업원급여	1,538,465	1,472,898
	확정급여형 퇴직급여	140,480	127,171
	확정기여형 퇴직급여	102	-
	해고급여	94,478	59,549
	소 계	1,773,525	1,659,618
감가상각비및 기타상각비	감가상각비	120,566	128,617
	무형자산상각비	39,851	36,764
	소 계	160,417	165,381
기타일반관리비	복리후생비	112,189	106,869
	임차료	258,277	260,651
	용역비	219,709	219,857
	제세공과금	75,334	78,254
	광고선전비	57,394	57,950
	전산운영비	56,903	63,436
	기타의 관리비	176,105	173,418
	소 계	955,911	960,435
합 계		2,889,853	2,785,434

33. 주식기준보상

(1) 당기말 현재 주식기준보상약정은 다음과 같습니다.

구분	4차발행분	5차발행분	6차발행분	7차발행분
① 권리부여일	2005.3.30	2006.03.21	2007.03.20	2008.03.19
② 행사가격(주1)	28,006원	38,829원	54,560원	49,053원
③ 부여수량	1,903,200주	2,157,600주	715,500주	332,850주
④ 행사가능기간	권리부여일로부터 3년이후 4년간	권리부여일로부터 3년이후 4년간	권리부여일로부터 3년이후 4년간	권리부여일로부터 3년이후 4년간
⑤ 수량증감내역				
기초	93,426주	101,963주	50,513주	26,233주
소멸	-	-	-	-
기말(주2)	93,426주	101,963주	50,513주	26,233주
⑥ 공정가치(주3)	17,244원	6,421원	-	-

- (주1) 당기말 현재 주식매수선택권은 모두 가득되었으며, 잔여수량 272,135개의 가중평균행사가격은 39,019원입니다.
- (주2) 당기말 현재 4,5,6,7차 부여분의 잔여 수량은 행사가 보류되어 있습니다.
- (주3) 당기말 현재 보류분에 대한 공정가치는 신한금융지주 주식 증가와 행사가격의 차이인 내재가치로 평가하였습니다.

(2) 주식결제형 주식기준보상약정

① 당기말 현재 성과연동형 주식기준보상 내용은 다음과 같습니다.

구분	내용
유형	주식결제형(주)
부여기간(약정용역기간)	2013년까지 부여분 : 2010년 4월 1일 이후 선임 및 승진시(부여일로부터 3년간) 2014년부터 부여분 : 2014년 1월 1일 이후 선임 및 승진시(부여일로부터 1년간)
성과조건	2013년까지 상대주가연동(33.4%) 및 4년간 경영지표연동(66.6%) 2014년부터 상대주가연동(20.0%) 및 4년간 경영지표연동(80.0%)

- (주) 신한금융지주 주식을 부여하며, 지급약정에 따라 당행이 신한금융지주회사에 지급해야 할 금액을 부채로 인식하고 주식결제형에 따라 인식할 보상원가와의 차이는 자본에 반영하고 있습니다.

② 부여 수량 및 부여시점의 공정가치는 다음과 같습니다.

(단위: 주, 원)			
부여일	부여수량	공정가치(주1)	추정수량(주2)
2010-04-01	306,400	45,150	10,471
2012-02-08	30,900	46,650	122
2012-10-15	4,100	37,200	357
2013-01-01	183,100	40,050	105,325
2013-03-21	4,400	37,750	1,156
2013-05-27	14,500	40,250	9,681
2013-08-01	4,400	41,250	2,931
2014-01-01	109,800	47,300	101,819
2014-02-08	5,400	44,300	4,439
2014-04-01	4,800	47,000	3,282
2014-10-15	2,400	47,150	449
2015-01-01	159,000	44,500	138,695
2015-03-18	16,800	42,650	11,736
2015-04-10	2,300	40,350	1,484
2015-05-01	2,300	46,000	1,370
2015-05-22	5,300	42,800	2,893
2015-05-27	2,300	40,200	1,229
2015-08-01	2,300	41,900	872
2015-08-24	2,300	40,250	724
2016-01-01	221,900	39,000	145,295
합계	1,084,700		544,330

(주1) 부여시점의 신한금융지주 주식 종가를 단위당 공정가치로 산정하였으며, 당기말 현재 신한금융지주주식의 공정가치는 45,250원입니다.

(주2) 최초 부여 시점의 부여수량에 약정유역기간 중 재일일수에 해당하는 기준수량을 기준으로 상대주가상승률에 따른 부여수량을 조정하고(2013년까지 33.4%, 2014년부터 20.0%), 경영성과달성률에 따른 부여수량을 조정하여(2013년까지 66.6%, 2014년부터 80.0%) 운영기간 종료 후 획득수량을 확정합니다.

(3) 당기와 전기 중 발생한 보상원가의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당기)	제184(전기)
총보상원가	17,577	7,009

(4) 당기말과 전기말 현재 주식기준보상 관련 미지급비용의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당기)	제184(전기)
미지급비용	27,942	22,116

34. 기타영업손익

당기와 전기 중 기타영업손익의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
구 분		제185(당)기	제184(전)기
기타영업수익			
자산처분관련	대출채권처분이익	28,314	72,554
	상각채권처분이익	3,044	34,476
	소 계	31,358	107,030
기타영업수익	위험회피대상관련이익	270,662	176,204
	위험회피수단관련이익	33,753	38,007
	지급보증충당금환입액	6,780	33,519
	기타부채성충당금환입액	14,569	1,958
	기타	20,187	23,917
	소 계	345,951	273,605
기타영업수익 합계		377,309	380,635
기타영업비용			
자산처분관련	대출채권처분손실	10,783	8,974
기타영업비용	위험회피대상관련손실	33,550	36,467
	위험회피수단관련손실	283,885	177,191
	지급보증충당금전입액	11,003	-
	기타부채성충당금전입액	42,334	34,278
	기금출연금	244,661	267,454
	예금보험료	274,881	248,960
	기타	116,232	123,151
	소 계	1,006,546	887,501
기타영업비용 합계		1,017,329	896,475
기타영업손익		(640,020)	(515,840)

35. 영업외손익

당기와 전기 중 영업외손익의 내역은 다음과 같습니다.

		(단위: 백만원)	
구 분		제185(당)기	제184(전)기
<b>영업외수익</b>			
자산처분관련	유형자산처분이익	298	1,122
	무형자산처분이익	51	2
	투자부동산처분이익	1,438	1,402
	매각예정자산처분이익	821	705
	비업무용자산처분이익	3	433
	소 계	2,611	3,664
종속기업 및 관계기업 투자자산관련	처분이익	5,177	95,232
기타영업외수익	투자부동산임대수익	23,185	24,400
	기타	81,751	72,705
	소 계	104,936	97,105
영업외수익 합계		112,724	196,001
<b>영업외비용</b>			
자산처분관련	유형자산처분손실	566	75
	무형자산처분손실	149	9
	투자부동산처분손실	248	13
	매각예정자산처분손실	-	29
	비업무용자산처분손실	78	-
	소 계	1,041	126
종속기업 및 관계기업 투자자산관련	손상차손	-	9,024
	처분손실	17	277
	소 계	17	9,301
기타영업외비용	투자부동산감가상각비	15,356	9,324
	기부금	13,334	18,614
	유형자산손상차손	7	100
	무형자산손상차손	98	-
	기타	21,740	30,591
	소 계	50,535	58,629
영업외비용 합계		51,593	68,056
영업외손익		61,131	127,945

36. 법인세비용 및 이연법인세

(1) 법인세비용 구성내역

당기와 전기 중 법인세비용 산출내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당)기	제184(전)기
당기 법인세 부담액	378,526	275,694
일시적차이로 인한 이연법인세 변동액	(36,362)	15,302
결손금 총당할 이연법인세 변동액	(336,468)	-
자본에 직접 반영된 이연법인세	82,407	94,086
법인세비용	88,103	385,082

(2) 법인세비용 차이내역

당기와 전기 중 법인세비용차감전순이익과 법인세비용간의 관계는 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당)기	제184(전)기
법인세비용차감전순이익	2,028,724	1,875,070
적용세율	24.20%	24.20%
적용세율에 따른 법인세	490,489	453,305
비과세수익	(26,128)	(15,329)
비공제비용	11,619	4,161
연결납세	(25,216)	(23,692)
결손금 총당할 이연법인세 변동액	(336,468)	-
법인세환급액	(22,316)	(9,795)
기타	(3,877)	(23,568)
법인세비용	88,103	385,082
유효세율(주)	4.34%	20.54%

(주) 연결실체는 전기까지 기한이 경과된 세무상 결손금에 대하여 실현가능성이 없다고 판단하여 이연법인세자산을 인식하지 아니하였으나, 당기 중 과세관청의 환급결정과 유권해석, 회사의 영업실적과 향후 소멸시효 완성 예금에 대한 추정 등을 종합적으로 고려하여 자산성이 있다고 판단하고 이연법인세 자산(법인세수익)을 인식하였습니다.

(3) 일시적차이와 이연법인세

당기와 전기 중 일시적차이 및 이연법인세자산(부채)의 증감내역은 다음과 같습니다.

<제185(당)기>

(단위: 백만원)					
구분	기초잔액	감소	증가	기말잔액	이연법인세자산 (부채)(주1)
미수수익	(352,041)	(352,041)	(343,790)	(343,790)	(83,197)
미수금	(45,943)	(45,943)	(36,089)	(36,089)	(8,734)
당기매매금융자산	(117,749)	(117,749)	(56,431)	(56,431)	(13,656)
매도가능금융자산	1,145,851	545,921	189,234	789,164	190,978
관계기업등에대한투자자산(주2)	(104,035)	(104,035)	(217,184)	(217,184)	(52,558)
이연대출부대수의(비용)	(344,697)	(344,697)	(378,933)	(378,933)	(91,702)
유형자산평가 및 손상 등	(483,906)	(6,985)	18,133	(468,788)	(111,161)
파생상품자산(부채)	(121,775)	(79,169)	(99,269)	(141,875)	(34,334)
예수부채	63,688	(3,782)	7,581	75,051	18,162
미지급비용	257,820	245,813	287,577	299,584	72,499
확정급여부채	1,041,404	40,526	132,423	1,133,301	274,259
사외적립자산	(1,018,940)	(40,527)	(10,184)	(988,597)	(239,241)
기타충당부채	215,799	215,799	228,432	228,432	55,280
지급보증충당부채	80,290	80,290	78,499	78,499	18,997
압축기장충당부채	(179,485)	(47)	-	(179,438)	(45,977)
일시상각충당부채	(2,387)	(232)	-	(2,155)	(521)
간주배당	5,513	-	-	5,513	1,334
매도가능금융자산평가손익	(510,514)	(510,514)	(190,018)	(190,018)	(50,194)
미지급기부금	44,134	44,134	35,717	35,717	8,644
대손충당금 및 대손금	286,635	286,635	318,993	318,993	85,739
주식보상비용 관련 조정액	1,230	1,152	2,266	2,344	567
의제배당	3,913	21	134	4,026	974
기타	227,132	183,424	120,905	154,613	37,415
소 계	91,937	47,994	87,996	131,939	33,573
<b>&lt;이월결손금&gt;</b>					
시효완성여금 결손금 총당	-	30,806	1,421,168	1,390,362	336,468
<b>&lt;이연법인세자산 및 부채로 인식하지 않은 일시적 차이&gt;</b>					
관계기업등에대한투자자산(주2)	(146,133)	-	(134,824)	(280,957)	(67,992)
합 계	238,070	78,800	1,643,988	1,803,258	438,033

(주1) 환율변동효과로 해외종속기업의 이연법인세자산 1,954백만원이 증가하였습니다.

(주2) 지분법평가로 인한 법인세 효과는 관계기업 피투자회사별로 이연법인세의 적용가능금액 및 실현가능성을 고려하여 합리적으로 추정하고 있습니다.

<제184(전)기>

(단위: 백만원)					
구분	기초잔액	감소	증가	기말잔액	이연법인세자산 (부채)(주1)
미수수익	(347,483)	(347,483)	(362,041)	(362,041)	(86,194)
미수금	(58,567)	(58,567)	(45,943)	(45,943)	(11,118)
당기매대금융자산	(84,746)	(102,318)	(135,321)	(117,749)	(28,485)
매도가능금융자산	1,171,729	256,361	230,483	1,145,851	277,296
관계기업등에대한투자자산(주2)	43,362	43,362	(104,035)	(104,035)	(25,177)
이연대출부대수익(비용)	(263,296)	(263,296)	(344,697)	(344,697)	(83,417)
유형자산평가 및 하락 등(주3)	(449,814)	18,411	(15,681)	(483,906)	(117,241)
파생상품자산(부채)	(71,770)	(798)	(50,803)	(121,775)	(29,469)
예수부채	120,696	49,698	(7,310)	63,688	15,412
미지급비용	330,472	330,458	257,806	257,820	62,362
확정급여부채	988,023	42,536	215,917	1,041,404	252,020
사외적립자산	(753,648)	(42,536)	(307,828)	(1,018,940)	(246,583)
기타충당부채	191,776	191,776	215,799	215,799	52,223
지급보증충당부채	106,962	106,962	80,290	80,290	19,430
압축기장충당부채	(181,031)	(1,546)	-	(179,485)	(45,989)
일시상각충당부채	(2,618)	(231)	-	(2,387)	(578)
간주배당	5,513	-	-	5,513	1,334
매도가능금융자산평가손익	(828,276)	(828,276)	(510,514)	(510,514)	(123,544)
미지급기부금	49,300	49,300	44,134	44,134	10,680
대손충당금 및 대손금	192,503	192,503	286,635	286,635	77,700
주식보상비용 관련 조정액	2,196	2,118	1,152	1,230	298
의제배당	3,909	3	7	3,913	947
기타(주3)	264,399	242,751	205,484	227,132	54,568
소 계	309,581	(118,822)	(336,466)	91,937	27,485
<이연법인세자산 및 부채로 인식하지 않은 일시적 차이>					
관계기업등에대한투자자산(주2)	(11,532)	-	(134,601)	(146,133)	(35,364)
합 계	321,113	(118,822)	(201,865)	238,070	62,849

- (주1) 환율변동효과로 해외종속회사의 이연법인세자산 1,455백만원이 증가하였습니다.
- (주2) 지분법평가로 인한 법인세 효과는 관계기업 피투자회사별로 이연법인세의 적용가능금액 및 실현가능성을 고려하여 합리적으로 추정하고 있습니다.
- (주3) 당기 중 PT Centratama Nasional Bank의 사업결합 회계처리가 완료됨에 따라 전기말금액을 소급조정하였습니다.

(4) 자본에 직접 가감하는 항목과 관련된 이연법인세

당기와 전기 중 자본에 직접 추가되거나 차감된 법인세 내역은 다음과 같습니다.

<제185(당)기>

(단위: 백만원)					
구분	기말		기초		법인세효과 증감
	세전 금액	법인세효과	세전 금액	법인세효과	
매도가능금융자산평가손익	190,018	(50,194)	510,514	(123,544)	73,350
관계기업의기타포괄손익에대한지분	16,392	191	14,376	(635)	826
해외사업환산손익	(140,918)	(11,018)	(135,644)	(24,630)	13,612
재측정요소	(370,692)	89,776	(396,286)	95,901	(6,125)
기타자분조정	(1,170)	283	1,904	(461)	744
합계	(306,370)	29,038	(5,136)	(53,369)	82,407

<제184(전)기>

(단위: 백만원)					
구분	기말		기초		법인세효과 증감
	세전 금액	법인세효과	세전 금액	법인세효과	
매도가능금융자산평가손익	510,514	(123,544)	828,277	(200,443)	76,899
관계기업의기타포괄손익에대한지분	14,376	(635)	7,656	82	(717)
해외사업환산손익	(135,644)	(24,630)	(126,901)	(25,531)	901
재측정요소	(396,286)	95,901	(324,196)	78,456	17,445
기타자분조정	1,904	(461)	77	(19)	(442)
합계	(5,136)	(53,369)	384,913	(147,455)	94,086

(5) 당기법인세자산 및 당기법인세부채

당기말과 전기말 현재 당기법인세자산 및 부채의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
구분	제185(당)기	제184(전)기	
당기법인세자산	11,769	7,409	
당기법인세부채	선급법인세 등		
	법인세미지급금 (연결납세부담액)	122,866	22,476
	미지급법인세	14,856	17,553
합계	137,722	40,029	

(6) 총액 기준 법인세 내역

당기말과 전기말 현재 상계전 총액기준에 의한 이연법인세자산과 이연법인세부채 및 당기법인세자산과 당기법인세부채의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당)기	제184(전)기
이연법인세자산	1,858,502	1,299,151
이연법인세부채(주)	1,420,469	1,236,302
당기법인세자산	182,653	251,324
당기법인세부채	308,606	283,944

(주) 당기 중 PT Centratama Nasional Bank의 사업결합 회계처리가 완료됨에 따라 전기말금액을 소급조정하였습니다.

37. 주당이익

당기와 전기의 주당이익의 계산내역은 다음과 같습니다.

(1) 주당이익

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당)기	제184(전)기
지배기업순이익	1,940,256	1,489,654
신종자본증권 배당	(45,691)	(57,158)
보통주에 귀속되는 이익	1,894,565	1,432,496
가중평균보통유통주식수(주)	1,585,615,506	1,585,615,506
기본 및 희석주당이익(원)	1,195	903

연결실체는 희석성 잠재적 보통주를 보유하고 있지 아니하고 주식선택권은 희석효과가 없으므로, 당기와 전기의 희석주당이익은 기본주당이익과 일치합니다.

(2) 가중평균유통보통주식수

(단위: 주, 일)				
구 분	기간	주식수	가중치	가중평균유통보통주식수
제185(당)기	2016.01.01 ~ 2016.12.31	1,585,615,506	366/366	1,585,615,506
제184(전)기	2015.01.01 ~ 2015.12.31	1,585,615,506	365/365	1,585,615,506

38. 우발 및 약정사항

(1) 당기말과 전기말 현재 지급보증 및 약정의 종류별 금액은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
구 분		제185(당)기	제184(전)기
지급보증	확정지급보증	9,304,497	10,087,055
	미확정지급보증	2,995,307	3,032,620
	합 계	12,299,804	13,119,675
약정	원화대출약정	53,470,641	53,154,222
	외화대출약정	20,464,116	21,764,967
	ABS 및 ABCP 매입약정	2,060,089	2,668,370
	기타	1,350,937	1,303,246
	합 계	77,345,783	78,890,805
배서어음	담보배서어음	32,187	29,549
	무담보배서어음	8,822,654	7,542,862
	합 계	8,854,841	7,572,411
환매권부대출채권매각	원화	2,099	2,099

(2) 지급보증충당부채

당기말과 전기말 현재 지급보증충당부채 설정 대상 및 지급보증충당부채 설정비율은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당)기	제184(전)기
확정지급보증	9,304,497	10,087,055
미확정지급보증	2,995,307	3,032,620
ABS 및 ABCP 매입약정	2,060,089	2,668,370
담보배서어음	32,187	29,549
설정대상지급보증총액	14,392,080	15,817,594
지급보증충당부채	78,499	80,289
충당부채 설정비율(%)	0.55	0.51

(3) 계류중인 소송사건

당기말 현재 연결실체와 관련하여 계류중인 피소사건은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)				
사건명	건수	소가	사건내용	소송 현황
불통대금 청구의 소	1	43,781	위조 지급보통서를 바탕으로 불통을 남입하고 불통대금을 수령하지 못하자 해당 지급보통서를 근거로 미회수 불통대금에 대해 당행에게 지급보증책임의 이행을 청구함.	1심 일부 패소금액에 대해 전액 지급하였으며 2심에서 일부 승소하여 파손비용 감축(파손비용 70%~80% 차액회수), 3심 진행중임.
주식반환 등 청구의 소	1	31,000	원고와 PEF 사이에 체결한 메디슨 주식의 매매계약은 해제 내지 취소되었으며 이와 일체를 이루는 당사자간 옵션계약, 수정옵션계약 역시 무효가 되었으므로 주식매매계약의 무효를 근거로 메디슨 주식의 반환 등을 구하고 있음.	1차~4차 변론기일동안 원고와 피고간 준비서면 제출을 통한 공방이 있었으며, 피고측은 2차 변론기일 이후에는 원고측이 요청하고 법원에서 승인한 자료제출 외에 별도의 준비서면 제출 없음.
Lehman Brothers Special Financing Inc(LBSFI)	1	12,085	리먼브러더스가 파산한 후 당행 및 투자자들에게 CDO 투자금을 반환해주었는데 이는 미국파산법에 배치되는 것으로 잘못 지급된 것이므로 반환해줄 것을 청구함.	리먼측과 중재절차를 진행하여 합의금을 지급하기 위해 준비중의 상태에서, 당행 포함 피고들이 1심에서 승소하여 합의금 지급 거절한 상태임. 향후 중재의 효력과 2심의 승소가능성 등을 감안하여 대응토록 할 예정임.
기 타	124	187,851	손해배상 등 다수	
합 계	127	254,497		

연결실체는 당기말 현재 1심에서 패소가 결정된 소송건 등에 대해 12,044백만원을 소송충당부채로 계상하였으며, 충당부채로 계상된 소송 이외의 잔여 소송결과는 재무제표에 중대한 영향을 미치지 않을 것으로 예측되고 있으나, 향후 소송의 결과에 따라 추가적인 손실이 발생할 수도 있습니다.

(4) 운용리스 만기구조

당기말과 전기말 현재 해지불능리스계약에 따라 지급해야 할 미래 최소리스료 약정 금액은 다음과 같습니다.

<제 185(당)기>

(단위: 백만원)				
구 분	1년이내	1년초과 5년이내	5년초과	합 계
최소리스료	169,055	155,618	3,720	328,393

<제 184(전)기>

(단위: 백만원)				
구 분	1년이내	1년초과 5년이내	5년초과	합 계
최소리스료	191,107	227,267	3,873	422,267

39. 현금흐름표에 대한 주석

(1) 당기말과 전기말 현재 현금 및 현금성자산의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당)기	제184(전)기
현금	1,763,335	1,900,980
지준예치금	2,718,354	7,794,542
기타예치금	9,987,698	7,195,864
소 계	14,469,387	16,891,386
사용제한예치금	(7,491,447)	(11,454,577)
취득 당시 만기일이 3개월 초과 예치금	(2,350,156)	(1,858,091)
소 계	(9,841,603)	(13,312,668)
합 계	4,627,784	3,578,718

(2) 당기와 전기 중 현금의 유입과 유출이 없는 거래의 주요 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당)기	제184(전)기
신종자본증권 미지급배당금	1,309	9,231
대출채권 출자전환	32,229	34,218
무형자산 미지급금	2,825	59,810

40. 특수관계자 거래

(1) 특수관계자 채권·채무

당기말과 전기말 현재 특수관계자 간의 중요한 채권·채무의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
특수관계자	계정과목	제185(당기)	제184(전기)
1) 연결실체의 지배기업			
신한금융지주	기타자산	-	47
	예수부채	42	500,909
	기타부채	166,191	57,888
2) 동일지배기업			
신한카드	파생상품자산	4,365	10,452
	기타자산	2,097	2,039
	예수부채	86,658	88,779
	파생상품부채	119	-
	총당부채	48	48
	기타부채	19,881	20,130
신한금융투자	현금및예치금	725	-
	파생상품자산	53,546	9,676
	대출채권	-	9,426
	대손충당금	-	(83)
	기타자산	18,823	18,530
	예수부채	252,707	180,784
	파생상품부채	4,354	5,180
	총당부채	33	76
	기타부채	34,423	32,786
신한생명	파생상품자산	40,604	14,215
	기타자산	7	8
	예수부채	9,526	6,424
	파생상품부채	369	566
	총당부채	4	4
	기타부채	13,913	38,690
신한캐피탈	예수부채	457	573
	차입부채	13,000	-
	총당부채	10	10

(단위: 백만원)			
특수관계자	계정과목	제185(당기)	제184(전기)
	기타부채	9,670	1,299
제주은행	대출채권	2,903	4,282
	대손충당금	(1)	(2)
	기타자산	6	20
	예수부채	3,530	3,605
	기타부채	1,604	1,604
신한신용정보	예수부채	7,836	8,571
	기타부채	1,119	1,188
신한프라이빗에쿼티	대출채권	-	3,000
	대손충당금	-	(16)
	예수부채	12	65
	총당부채	-	8
신한비엔피파리바자산운용	예수부채	42,549	72,601
	기타부채	821	1,127
에스에이치씨매니지먼트	예수부채	-	100
	기타부채	-	2
신한데이터시스템	예수부채	3,940	3,069
	기타부채	6,658	4,148
신한저축은행	기타부채	8,987	-
신한아이타스	예수부채	20,296	16,200
	기타부채	42	69
3) 관계기업 및 동일지배기업의 관계기업			
아주캐피탈	단기매매금융자산	49,990	99,953
	대출채권	210,000	160,000
	대손충당금	(611)	(466)
	예수부채	692	1,061
	총당부채	73	55
비엔피파리바카드프생명보험	예수부채	353	644
	총당부채	1	1
연합자산관리(주)	대출채권	-	23,100
	대손충당금	-	(31)
	예수부채	-	410
	총당부채	-	46
포항테크노파크2PPV	예수부채	14,658	14,662
	예수부채	-	5,388

(단위: 백만원)			
특수관계자	계정과목	제185(당기)	제184(전기)
극동건설(주1)	총당부채	-	15
비엔피파리바카디프손해보험	예수부채	13	12
드림하이투자조합3호	예수부채	1	4
에스에이치렌탈서비스	예수부채	-	219
에스피신기술사업투자조합1호	예수부채	-	283
마이더스동아스노우볼투자조합	예수부채	427	303
IBK신한창조경제 신기술사업투 자조합	예수부채	1,751	1,463
이큐피글로벌에너지인프라사모 투자전문회사	예수부채	1	3
재영솔루텍	대출채권	14,356	15,276
	대손충당금	(69)	(159)
	예수부채	7,638	15,261
	총당부채	7	15
파트너스 제4호 growth 투자조합	예수부채	2,160	2,704
크레디언헬스케어제2호사모투자 합자회사	예수부채	7	-
스노우볼투자조합2호	예수부채	242	-
IBK신한창조경제신기술사업투 자조합제2호	예수부채	179	-
피에스에이 제1호 핀테크 사모투 자 합자회사	예수부채	525	-
이음제상호사모투자합자회사	예수부채	80	-
(주)브랜빌	대출채권	15	-
	예수부채	28	-
<b>4) 주요경영진</b>			
	대출채권	936	1,497
	대손충당금	(1)	(1)
	총당부채	1	1

(주1) 당기 중 관계기업 및 동일지배기업의 관계기업에서 제외되었습니다.

(2) 특수관계자 수익·비용

당기와 전기 중 특수관계자 간의 중요한 거래내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
특수관계자	계정과목	제185(당기)	제184(전기)
<b>1) 연결실체의 지배기업</b>			
신한금융지주	기타의영업수익	2,011	2,054
	이자비용	(1,751)	(2,429)
	수수료비용	(29,893)	(45,368)
<b>2) 동일지배기업</b>			
신한카드	이자수익	417	199
	수수료수익	180,127	175,800
	파생상품관련이익	7,317	8,649
	기타의영업수익	1,726	1,930
	이자비용	(251)	(346)
	수수료비용	(325)	(317)
	파생상품관련손실	(5,986)	(2,490)
	기타의영업비용	(1,982)	(395)
신한금융투자	이자수익	796	1,382
	수수료수익	4,517	4,077
	파생상품관련이익	59,157	9,003
	기타의영업수익	4,431	3,692
	이자비용	(1,317)	(2,135)
	수수료비용	-	(12)
	파생상품관련손실	(13,564)	(7,630)
	대손상각비	83	(22)
	기타의영업비용	(1,171)	(824)
신한생명	이자수익	45	50
	수수료수익	6,688	9,939
	파생상품관련이익	45,570	22,643
	기타의영업수익	1,400	1,889
	이자비용	(315)	(828)
	파생상품관련손실	(9,531)	(3,766)
	기타의영업비용	(557)	(645)
	이자수익	-	1
	파생상품관련이익	-	29

(단위: 백만원)				
특수관계자	계정과목	제185(당)기	제184(전)기	
신한캐피탈	기타의영업수익	302	899	
	이자비용	(150)	(219)	
	수수료비용	(14)	(2)	
	기타의영업비용	-	(6)	
제주은행	이자수익	43	41	
	기타의영업수익	230	204	
	이자비용	(33)	(30)	
	대손상각비	1	1	
신한신용정보	기타의영업비용	(11)	-	
	수수료수익	2	2	
	기타의영업수익	67	77	
	이자비용	(126)	(190)	
신한신용정보	수수료비용	(4,896)	(5,474)	
	기타의영업수익	8	-	
	이자비용	-	(3)	
	대손상각비	16	3	
신한프라이빗에쿼티	기타의영업비용	-	(3)	
	수수료수익	42	55	
	기타의영업수익	52	53	
	이자비용	(747)	(1,770)	
신한비엔피파리바자산운용	수수료비용	(2,243)	(2,579)	
	에스에이치씨매니지먼트	이자비용	-	(2)
	신한데이터시스템	기타의영업수익	119	89
		이자비용	(142)	(141)
기타의영업비용		(31,281)	(32,447)	
신한저축은행	수수료수익	481	229	
	기타의영업수익	116	61	
	이자비용	(60)	-	
신한아이타스	수수료수익	28	27	
	기타의영업수익	49	55	
	이자비용	(153)	(215)	
	수수료비용	-	(8)	
신한BNPP영품펀드셀렉션증권투자신탁	수수료수익	2	-	

3) 관계기업 및 동일지배기업의 관계기업

(단위: 백만원)			
특수관계자	계정과목	제185(당)기	제184(전)기
아주캐피탈	이자수익	7,332	6,440
	수수료수익	72	78
	기타의영업수익	-	23
	이자비용	(2)	(1)
	대손상각비	(146)	148
	기타의영업비용	(18)	-
비엔피파리바카디프생명보험	수수료수익	30	30
	기타의영업비용	(1)	-
연합자산관리(주1)	이자수익	-	4
	수수료수익	-	9
	기타의영업수익	-	4
	대손상각비	-	(31)
포항테크노파크2PPV	이자비용	(15)	(15)
극동건설(주1)	이자수익	-	26
	수수료수익	-	16
	이자비용	-	(35)
	수수료비용	-	(3)
	기타의영업비용	-	(15)
비엔피파리바카디프손해보험	수수료수익	2	2
드림하이투자조합3호	이자비용	-	(5)
에스에이치렌탈서비스	이자비용	-	(1)
마이더스동아스노우볼투자조합	이자비용	(4)	(3)
IBK신협창조경제 신기술사업투자조합	이자비용	(1)	(2)
재영솔루텍	이자수익	671	616
	수수료수익	1	1
	기타의영업수익	7	-
	이자비용	(21)	(47)
	대손상각비	90	(159)
	기타의영업비용	-	(15)
파트너스 제4호 growth 투자조합	이자비용	(2)	(6)
알바트로스그로스펀드	이자비용	(6)	-
피에스에이 제1호 핀테크 사모투자합자회사	이자비용	(5)	-
스노우볼투자조합2호	이자비용	(1)	-

(단위: 백만원)			
특수관계자	계정과목	제185(당기)	제184(전기)
(주)시멘텍	이자수익	15	-
(주)브랜빌	수수료수익	1	-
(주)나무와아이	이자수익	3	-
<b>4) 주요경영진</b>			
이자수익		35	63

(주1) 당기 중 관계기업 및 동일지배기업의 관계기업에서 제외되었습니다.

(3) 특수관계자에 대한 급여

당기와 전기 중 특수관계자에 대한 급여 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
계정과목	제185(당기)	제184(전기)
장·단기종업원급여	7,770	8,684
퇴직급여	327	242
주식기준보상	4,447	2,830
합계	12,544	11,756

(4) 특수관계자 지급보증내역

당기말과 전기말 현재 특수관계자 간의 주요 지급보증 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)				
제공자	제공받음자	약정금액		보증내역
		제185(당기)	제184(전기)	
신한은행	신한금융투자	6,043	10,548	이행보증(지급보증서방식)
		181,000	181,000	미사용대출한도
	신한카드	500,000	500,000	미사용대출한도
	신한생명	50,000	50,000	미사용대출한도
	신한캐피탈	50,000	50,000	미사용대출한도
	신한비엔피파리바자산운용	104,008	43,063	증권인수약정
	신한프라이빗에쿼티투자자문	-	4,344	미사용대출한도
	코에프씨신한프런티어캠프 2010의4호 사모투자전문회사	-	13,417	증권인수약정
	비엔피파리바카드생명보험	10,000	10,000	미사용대출한도
	아주캐피탈	50,000	50,000	미사용대출한도
	연합자산관리(주1)	-	88,100	미사용대출한도
		-	88,950	증권인수약정
	극동건설(주1)	-	1,574	이행보증(지급보증서방식)
	네오물럭스투자조합	12,000	18,000	증권인수약정
	재영슬루믹	600	600	미사용한도
483		469	수입신용장발행	
합계	964,134	1,112,065		

(주1) 당기 중 관계기업 및 동일지배기업의 관계기업에서 제외되었습니다.

(5) 특수관계자 담보제공내역

1) 당기말과 전기말 현재 특수관계자에게 제공하고 있는 담보는 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)						
제공자	회사명	담보제공자산	제185(당)기		제184(전)기	
			장부금액	담보설정액	장부금액	담보설정액
동일지배기업	신한금융투자	유가증권	235,084	43,799	195,496	37,646
	신한생명		21,963	10,310	10,349	10,349
합 계			257,047	54,109	205,845	47,995

2) 당기말과 전기말 현재 특수관계자로부터 제공받고 있는 담보는 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)				
제공자	회사명	담보제공자산	담보설정액	
			제185(당)기	제184(전)기
동일지배기업	신한금융투자	예금	112,011	22,000
		부동산	91,974	91,974
	계주은행	국채	20,000	20,000
	신한생명	국채	7,518	7,686
	신한신용정보	예금	210	210
관계기업	아주캐피탈	신탁1종수익권	160,000	160,000
	비엔피파리바카디프생명보험	국공채	13,699	13,676
	나무와아이	부동산	200	-
	재영솔루션	부동산	20,814	20,814
		수출보험공사보증서	7,037	7,214
합 계			433,463	343,574

41. 종속기업 재무제표의 요약

(1) 당기말과 전기말 현재 지배기업인 신한은행(별도) 및 연결대상 종속기업의 요약 재무상태표는 다음과 같습니다.

회사명	(단위: 백만원)					
	제185(당기)			제184(전기)(주3)		
	자산총계	부채총계	자본총계	자산총계	부채총계	자본총계
신한은행	282,819,578	261,858,630	20,980,746	289,018,149	248,550,089	20,468,090
아메리카신한은행	1,443,057	1,263,893	179,184	1,151,705	967,261	184,424
신한캐나다	488,738	427,823	85,913	489,113	451,490	37,823
유럽신한은행	485,308	417,345	77,981	457,882	380,874	77,008
신한은행중국유한공사	5,881,287	5,480,814	380,673	4,957,520	4,559,552	397,988
신한아주금융유한공사	478,735	257,202	219,533	372,005	188,062	205,943
신한카자흐스탄은행	81,859	37,409	44,250	83,512	22,400	41,112
신한크메르은행	183,563	118,219	45,344	142,280	104,025	38,235
BBJ은행	6,108,195	5,702,025	404,170	5,225,394	4,890,813	334,781
신한버트남은행(주1)	2,928,241	2,405,087	521,174	2,202,300	1,738,772	463,528
멕시코신한은행	34,880	389	34,311	41,484	284	41,200
신한인도네시아(주1)	400,127	188,513	213,614	178,968	88,549	92,417
PT Centratama Nasional Bank (주1,2)	-	-	-	97,883	72,497	25,388
구조회기업 통	6,943,817	6,945,681	(1,844)	5,879,249	5,880,951	(11,702)

- (주1) 사업결합시 이루어진 공정가치 조정사항을 반영하였습니다.
- (주2) 2016년 12월 6일 기준, PT Centratama Nasional Bank와 신한인도네시아은행이 합병하여 신한인도네시아은행이 되었습니다.
- (주3) 당기 중 PT Centratama Nasional Bank의 사업결합 회계처리가 완료됨에 따라서 전기말 금액을 소급 조정하였습니다.

(2) 당기 및 전기 중 지배기업인 신한은행(별도) 및 연결대상 종속기업의 요약포괄손익계산서는 다음과 같습니다.

회사명	(단위: 백만원)					
	제185(당)기			제184(전)기		
	영업수익	당기순손익	총포괄손익	영업수익	당기순손익	총포괄손익
신한은행	15,839,813	1,777,072	1,582,484	13,946,587	1,216,391	931,730
아메리카신한은행	56,921	9,858	14,740	50,352	3,586	13,344
캐나다신한은행	14,100	(769)	1,296	12,421	884	(3,599)
유럽신한은행	13,861	1,754	953	11,790	1,854	(1,401)
신한은행중국유한공사	230,131	8,145	(17,295)	200,248	12,039	20,048
신한아주금융유한공사	19,721	11,950	13,591	18,940	14,029	22,694
신한카자흐스탄은행	6,724	1,364	3,138	8,405	2,528	(28,310)
신한크메르은행	10,197	5,680	7,109	9,084	3,343	5,623
8BJ은행	171,099	48,396	69,389	141,070	32,674	49,002
신한베트남은행(주1)	148,766	48,630	57,645	125,882	56,568	65,124
멕시코신한은행	1,405	(1,784)	(7,229)	362	(2,650)	(5,296)
신한인도네시아은행(주1,2)	24,444	235	6,334	8,674	854	858
PT Centratama Nasional Bank(주1)	-	-	-	10,478	345	347
구조회기업 등	221,192	(2,642)	2,526	218,186	9,011	8,891

(주1) 사업결합시 이루어진 공정가치 조정사항을 반영하였습니다.

(주2) 2016년 12월 6일 기준, PT Centratama Nasional Bank와 신한인도네시아은행이 합병하여 신한인도네시아은행이 되었습니다.

42. 비연결구조화기업에 대한 지분

(1) 비연결구조화기업에 대한 지분의 성격과 범위

연결실체는 자산유동화증권, 구조화금융, 투자펀드 등의 투자를 통해 구조화기업에 관여하고 있으며 동 구조화기업의 주요 특성은 다음과 같습니다.

구분	주요 특성
자산유동화증권	자산유동화회사는 자산 보유자로부터 자산을 매입하여 이를 토대로 자산유동화증권을 발행하는 당사자로서, 기업의 자금조달을 원활하게 하여 재무구조의 건전성을 높이기 위하여 설립된 유한회사입니다. 연결실체는 구조화기업이 매출채권 등을 기초자산으로 하여 발행한 유동화증권을 매입하거나 동 구조화기업에 대하여 신용공여 및 유동화증권 매입약정 등을 제공하고 있습니다.
구조화금융	구조화금융을 위한 구조화기업은 기업 인수 합병, 민간 투자 방식의 건설 프로젝트 혹은 선박 투자를 위한 프로젝트 금융 등의 목적을 위해 설립되었으며 조달한 자금은 동 목적의 수행을 위해 사용됩니다. 연결실체는 구조화금융을 위한 구조화기업에 대출, 지분투자 등의 형태로 자금을 제공하거나 필요에 따라 다양한 형태의 신용공여를 제공하고 있습니다.
투자펀드	투자펀드는 투자자에게 수익(출자)증권 등을 발행하여 자금을 조달하고 주식이나 채권 등에 투자하여 그 수익을 투자자에게 배분하는 투자신탁, 사모투자전문회사 및 조합 등입니다. 연결실체는 투자펀드 지분에 투자하거나 조합투자업자, 업무집행사원(조합원) 등으로서 기타 투자자들을 대신하여 자산을 운용 및 관리하고 있습니다.

1) 당기말과 전기말 현재 비연결구조화기업의 규모는 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

(단위: 백만원)				
구분	자산유동화증권	구조화금융	투자펀드	합계
자산총계	60,869,229	32,231,488	11,262,929	104,363,646

<제184(전기)>

(단위: 백만원)				
구분	자산유동화증권	구조화금융	투자펀드	합계
자산총계	58,379,605	27,913,420	8,884,598	95,177,623

2) 당기와 전기 중 비연결구조화기업에서 발생한 손익은 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

(단위: 백만원)					
구 분		자산유동화증권	구조화금융	투자펀드	합 계
이익	이자수익	88,830	92,706	4,163	185,699
	수수료수익	9,504	16,421	110	26,035
	배당수익	-	4,323	42,055	46,378
	기타	267	4,941	67	5,275
	소 계	98,601	118,391	46,395	263,387
손실		67	9	26,402	26,478

<제184(전기)>

(단위: 백만원)					
구 분		자산유동화증권	구조화금융	투자펀드	합 계
이익	이자수익	60,712	99,363	-	160,075
	수수료수익	13,836	15,039	-	28,875
	배당수익	-	4,155	89,159	93,314
	기타	185	1,801	61	2,047
	소 계	74,733	120,358	89,220	284,311
손실		8	147	29,502	29,657

(2) 비연결구조화기업에 대한 지분과 관련된 위험의 성격

1) 당기말과 전기말 현재 비연결구조화기업의 지분에 관하여 연결실체가 연결재무제표에 인식한 자산과 부채의 장부금액은 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

(단위: 백만원)				
구분	자산유동화증권	구조화금융	투자펀드	합계
<b>연결재무상태표상 자산</b>				
대출채권	180,611	2,777,119	76,661	3,034,391
단기매매금융자산	2,061,332	29,966	30,121	2,111,419
파생상품자산	19,144	-	-	19,144
매도가능금융자산	1,994,025	196,758	1,356,365	3,547,148
만기보유금융자산	2,381,934	-	-	2,381,934
기타	12,327	21,017	2,010	35,354
합계	6,639,373	3,024,860	1,465,157	11,129,390
<b>연결재무상태표상 부채</b>				
파생상품부채	137	-	-	137
차입부채	-	1,318	-	1,318
합계	137	1,318	-	1,455

<제184(전기)>

(단위: 백만원)				
구분	자산유동화증권	구조화금융	투자펀드	합계
<b>연결재무상태표상 자산</b>				
대출채권	190,778	2,790,044	-	2,980,822
단기매매금융자산	1,793,038	44,733	-	1,837,771
파생상품자산	16,722	-	-	16,722
매도가능금융자산	2,185,577	81,324	930,049	3,196,950
만기보유금융자산	2,346,400	-	-	2,346,400
기타	-	2,884	-	2,884
합계	6,532,515	2,918,985	930,049	10,381,549
<b>연결재무상태표상 부채</b>				
파생상품부채	8	-	-	8
합계	8	-	-	8

2) 당기말과 전기말 현재 연결실체의 비연결구조화기업에 대한 최대위험노출은 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

(단위: 백만원)				
구 분	자산유동화증권	구조화금융	투자펀드	합 계
보유자산	6,639,373	3,024,860	1,465,156	11,129,389
매입약정	1,048,282	30,000	-	1,078,282
미실행신용공여	977,383	123,810	47,246	1,148,439
지급보증	-	10,559	-	10,559
합 계	8,665,038	3,189,229	1,512,402	13,366,669

<제184(전기)>

(단위: 백만원)				
구 분	자산유동화증권	구조화금융	투자펀드	합 계
보유자산	6,532,515	2,918,985	930,049	10,381,549
매입약정	1,063,171	31,134	74,328	1,168,633
미실행신용공여	1,589,389	400,599	36,179	2,026,167
지급보증	-	26,240	-	26,240
합 계	9,185,075	3,376,958	1,040,556	13,602,589

43. 신탁부문 경영성과

(1) 신탁계정의 당기말과 전기말 현재 자산총계, 당기와 전기 중 영업수익은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)				
구 분	자산총계		영업수익	
	제185(당기)	제184(전기)	제185(당기)	제184(전기)
연결대상	4,314,473	4,114,569	139,767	144,781
연결비대상	40,743,814	33,189,301	530,690	505,820
합 계	45,058,287	37,303,870	670,457	650,601

(2) 당기말과 전기말 신탁부문의 주요 채권·채무 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당기)	제184(전기)
신탁계정미지급금	3,443,287	2,966,681
신탁보수미수수익	30,485	21,515
미지급이자	782	998

(3) 당기와 전기 중 신탁부문의 주요 수익·비용 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당기)	제184(전기)
신탁업무운용수익	98,406	71,533
중도해지수수료수익	87	-
신탁계정미지급금이자비용	35,877	44,976

44. 사업결합으로 인식한 잠정금액의 소급조정

연결실체는 2015년 12월 18일 인도네시아에서 은행업을 영위하는 현지법인 PT Centratama Nasinal Bank(이하 "CNB")의 지분 75%를 현금 취득하여 이를 연결대상 종속기업으로 편입하였습니다.

연결실체는 CNB의 가치평가자료 미입수 등으로 인하여 사업결합에 대한 최초 회계처리를 사업결합이 발생한 보고기간 말까지 완료되지 못하고 잠정금액으로 공시하였으며, 당기 중 CNB의 식별가능한 순자산에 대한 가치평가를 반영하여 사업결합 회계처리를 완료하였습니다.

이에 연결실체는 CNB의 취득일에 인식한 식별가능한 순자산의 잠정금액을 소급하여 조정하였습니다.

(1) 식별가능 순자산의 소급조정

CNB의 사업결합 회계처리가 완료됨에 따라 식별가능한 순자산의 소급조정은 아래와 같습니다.

		(단위: 백만원)		
구 분		이전보고금액	조정후금액	조정금액
자 산	현금 및 현금성자산	1,026	1,026	-
	예치금	22,551	22,551	-
	대출채권	51,443	51,443	-
	유형자산(주1)	3,815	20,753	16,938
	무형자산(주2)	48	1,354	1,306
	기타자산	734	734	-
	소 계	79,617	97,861	18,244
부 채	예수부채	66,179	66,179	-
	충당부채	837	837	-
	이연법인세부채(주3)	-	4,961	4,961
	기타부채	520	520	-
	소 계	67,536	72,497	4,961
식별가능 순자산의 공정가치		12,081	25,364	13,283

- (주1) 원가법으로 인식한 토지 및 건물의 장부금액을 취득일 기준 공정가치로 평가함에 따라 발생한 평가증입니다.
- (주2) 사업결합 결과 취득한 식별가능한 무형자산은 차순위 조달방법에 비해 낮은 원가로 조달가능한 예수부채와 관련하여 미래에 예상되는 조달비용 절감효과의 현재가치입니다.
- (주3) 식별가능한 순자산의 공정가치와 세무상 기준액의 차이에 따라 발생하는 일시적 차이로 인하여 발생한 금액입니다.

(2) 영업권의 소급조정

식별가능한 순자산의 소급조정에 따른 영업권의 소급조정은 아래와 같습니다.

(단위: 백만원)			
구 분	이전보고금액	조정후금액	조정금액
이전대가	30,782	30,782	-
식별가능 순자산의 공정가치	(12,081)	(25,364)	(13,283)
비지배지분(주)	3,020	6,440	3,420
영업권	21,721	11,858	(9,863)

- (주) 비상장기업인 종속기업에 대한 비지배지분은 식별가능 순자산의 공정가치 중 현재 지분상품의 비례적 몫으로 측정하였습니다.

45. 동일지배하의 사업결합

(1) 일반 사항

2016년 12월 6일에 연결실체 내의 신한인도네시아은행과 PT Centratama Nasional Bank 간의 합병이 발생하였으며 합병 후 회사명은 '신한인도네시아은행'입니다. 동 합병은 기업회계기준서 제1103호 '사업결합'에 따른 동일지배 하에 있는 기업간 사업결합에 해당되므로, 연결실체의 선택에 따라 장부금액법으로 회계처리하였습니다.

합병의 방식은 PT Centratama Nasional Bank의 주식을 신한인도네시아은행의 주식으로 교환해 주는 방식이었으며, 주식간 교환 비율은 PT Centratama Nasional Bank 주식 2,357.93주당 신한인도네시아은행 주식 1주를 교부하는 방식이며 사업결합의 주된 이유는 인도네시아 현지의 두 은행간의 합병을 통한 영업적인 시너지 효과와 비용의 절감 및 인도네시아 현지에서의 영업력의 확대입니다.

(2) 식별가능한 자산과 부채

취득일 현재 인식한 PT Centratama Nasional Bank의 자산 및 부채는 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분		금 액
자 산	현금및현금성자산	1,456
	예치금	13,610
	대출채권	66,339
	유형자산	5,170
	기타	8,995
	소 계	95,570
부 채	예수부채	74,373
	기타부채	8,885
	소 계	83,258
식별가능 순자산의 장부금액		12,312

(3) 지분율의 변동

동 사업결합 과정에서 발생한 주요 지분율의 변동은 다음과 같습니다.

<합병전>

투자자	피투자회사			
	신한인도네시아은행		PT Centratama Nasional Bank	
	주식수	비율	주식수	비율
당행	217,850	97.76%	100,500,000	100.00%
기타	5,000	2.24%	-	0.00%
합 계	222,850	100%	100,500,000	100%

<합병후>

투자자	피투자회사	
	신한인도네시아은행	
	주식수	비율
당행(주)	260,472	98.12%
기타	5,000	1.88%
합 계	265,472	100%

(주) 합병 이후 불균등유상증자로 인해 당기말 당행의 신한인도네시아은행에 대한 지분율은 98.98%입니다.

## (2) 個別財務書類

## 財務状態表

=====

第185(当)期末 2016年12月31日現在

第184(前)期末 2015年12月31日現在

株式会社新韓銀行

(単位:百万ウォン)

科目	注記	第185(当)期末		第184(前)期末	
資産					
1. 現金預け金	3,5,8,39,40	9,653,120		13,135,129	
2. 売買目的金融資産	3,6,40	9,277,441		6,750,765	
3. デリバティブ資産	3,7,40	2,575,683		1,607,959	
4. 貸付債権	3,8,40	206,633,476		199,388,908	
5. 売却可能金融資産	3,9,15	26,502,792		23,938,962	
6. 満期保有金融資産	3,9,15	11,097,257		9,733,551	
7. 有形資産	10,15	1,976,206		1,941,794	
8. 無形資産	11	191,907		240,899	
9. 関係企業等に対する投資資産	12	1,998,897		1,943,476	
10. 投資不動産	13	674,958		765,402	
11. 当期法人税資産	36	2,159		2,616	
12. 繰延税金資産	36	383,880		26,775	
13. その他資産	3,8,14,40,41	11,848,478		9,538,924	
14. 売却予定非流動資産		3,322		2,989	
資産合計			282,819,576		269,018,149
負債					
1. 当期損益認識指定金融負債	3,16	6,282		13,509	
2. 預金	3,17,40	211,043,681		198,272,132	
3. 売買目的金融負債	3,18	485,995		463,766	
4. デリバティブ負債	3,7,40	2,781,200		1,569,331	
5. 借入負債	3,19,40	13,944,878		12,875,098	
6. 社債	3,20	20,923,326		19,884,611	
7. 確定給付債務	21	47,413		150,920	
8. 引当負債	22,38,40	320,642		306,088	
9. 当期法人税負債	36,40	124,662		22,712	
10. その他負債	3,23,40,41	12,180,751		14,991,902	

負債合計			261,858,830		248,550,069
資本					
1. 資本金	24	7,928,078		7,928,078	
2. 新種資本証券	24	469,393		801,298	
3. 資本剰余金	24	398,080		398,080	
4. 資本調整	24,36	(60,664)		(29,340)	
5. その他包括損益累計額	24,36	(154,791)		39,797	
6. 利益剰余金	24,25	12,380,650		11,330,167	
(貸倒準備金積立額)		(1,706,925)		(1,738,249)	
(貸倒準備金繰入(戻入)必要額)		(47,848)		((31,324))	
(貸倒準備金繰入(戻入)予定額)		(47,848)		((31,324))	
資本合計			20,960,746		20,468,080
負債及び資本合計			282,819,576		269,018,149

“添付の注記は本財務諸表の一部である”

(単位：百万円)

科目	注記	第185(当)期末		第184(前)期末	
資産					
1. 現金預け金	3,5,8,39,40	966,277		1,314,826	
2. 売買目的金融資産	3,6,40	928,672		675,752	
3. デリバティブ資産	3,7,40	257,826		160,957	
4. 貸付債権	3,8,40	20,684,011		19,958,830	
5. 売却可能金融資産	3,9,15	2,652,929		2,396,290	
6. 満期保有金融資産	3,9,15	1,110,835		974,328	
7. 有形資産	10,15	197,818		194,374	
8. 無形資産	11	19,210		24,114	
9. 関係企業等に対する投資資産	12	200,090		194,542	
10. 投資不動産	13	67,563		76,617	
11. 当期法人税資産	36	216		262	
12. 繰延税金資産	36	38,426		2,680	
13. その他資産	3,8,14,40,41	1,186,034		954,846	
14. 売却予定非流動資産		333		299	
資産合計			28,310,240		26,928,717
負債					
1. 当期損益認識指定金融負債	3,16	629		1,352	
2. 預金	3,17,40	21,125,472		19,847,040	
3. 売買目的金融負債	3,18	48,648		46,423	
4. デリバティブ負債	3,7,40	278,398		157,090	
5. 借入負債	3,19,40	1,395,882		1,288,797	
6. 社債	3,20	2,094,425		1,990,449	
7. 確定給付債務	21	4,746		15,107	
8. 引当負債	22,38,40	32,096		30,639	
9. 当期法人税負債	36,40	12,479		2,273	
10. その他負債	3,23,40,41	1,219,293		1,500,691	
負債合計			26,212,068		24,879,861
資本					
1. 資本金	24	793,601		793,601	

2. 新種資本証券	24	46,986		80,210	
3. 資本剰余金	24	39,848		39,848	
4. 資本調整	24,36	(6,073)		(2,937)	
5. その他包括損益累計額	24,36	(15,494)		3,984	
6. 利益剰余金	24,25	1,239,304		1,134,150	
(貸倒準備金積立額)		(170,863)		(173,999)	
(貸倒準備金繰入(戻入)必要額)		(4,790)		(3,136)	
(貸倒準備金繰入(戻入)予定額)		(4,790)		(3,136)	
資本合計			2,098,172		2,048,856
負債及び資本合計			28,310,240		26,928,717

“ 添付の注記は本財務諸表の一部である ”

## 包括損益計算書

第185(当)期末 自2016年1月1日 至2016年12月31日

第184(前)期末 自2015年1月1日 至2015年12月31日

株式会社新韓銀行

(単位:百万ウォン)

科目	注記	第185(当)期		第184(前)期	
. 営業利益			1,720,770		1,516,139
(1) 純利息損益	3,26,40		4,129,141		3,871,248
1. 受取利息	35	7,107,771		7,152,420	
2. 支払利息		2,978,630		3,281,172	
(2) 純手数料損益	3,27,40		862,360		828,561
1. 受取手数料	35	1,017,011		1,009,738	
2. 支払手数料		154,651		181,177	
(3) 受取配当	28,35		121,239		182,217
(4) 売買目的金融商品関連損益	29,35,40		60,483		115,201
(5) 外国為替取引損益	35		183,314		40,799
(6) 当期損益認識指定金融商品関連損益	16,35		(206)		(16)
(7) 売却可能金融資産処分損益	9,35		408,496		417,892
(8) 金融商品資産減損損失	3,8,30,40		721,846		798,558
1. 貸倒償却費		638,586		591,988	
2. その他金融商品減損損失		83,260		206,570	
(9) 一般管理費	31,40		2,676,573		2,605,069
(10) その他営業損益	33,35,40		(645,638)		(536,136)
. 営業外損益	34		84,055		33,791
. 税引前純利益			1,804,825		1,549,930
. 法人税費用	36		27,753		333,539
. 当期純利益 (貸倒準備金反映後の調整利益 当期: 1,729,224百万ウォン 前期: 1,247,715百万ウォン)	25		1,777,072		1,216,391
. その他包括損益	3,24,36		(194,588)		(284,661)
(1) 後続的に当期損益として再分類される 項目			(213,771)		(230,016)
1. 海外事業損益		2,857		6,210	
2. 売却可能金融資産評価損益		(216,628)		(236,226)	

(2) 後続的に当期損益として再分類されな い項目			19,183		(54,645)
1. 確定給付型制度の再測定要素		19,183		(54,645)	
. 総包括利益			1,582,484		931,730
. 1株当り利益	37				
(1) 基本的1株当り純利益			1,092ウォン		731ウォン
(2) 希薄化後1株当り純利益			1,092ウォン		731ウォン

“ 添付の注記は本財務諸表の一部である ”

(単位：百万円)

科目	注記	第185(当)期		第184(前)期	
・ 営業利益			172,249		151,766
(1) 純利息損益	3,26,40		413,327		387,512
1. 受取利息	35	711,488		715,957	
2. 支払利息		298,161		328,445	
(2) 純手数料損益	3,27,40		86,322		82,939
1. 受取手数料	35	101,803		101,075	
2. 支払手数料		15,481		18,136	
(3) 受取配当	28,35		12,136		18,240
(4) 売買目的金融商品関連損益	29,35,40		6,054		11,532
(5) 外国為替取引損益	35		18,350		4,084
(6) 当期損益認識指定金融商品関連損益	16,35		(21)		(2)
(7) 売却可能金融資産処分損益	9,35		40,890		41,831
(8) 金融商品資産減損損失	3,8,30,40		72,256		79,936
1. 貸倒償却費		63,922		59,258	
2. その他金融商品減損損失		8,334		20,678	
(9) 一般管理費	31,40		267,925		260,768
(10) その他営業損益	33,35,40		(64,628)		(53,666)
・ 営業外損益	34		8,414		3,382
・ 税引前純利益			180,663		155,148
・ 法人税費用	36		2,778		33,387
・ 当期純利益 (貸倒準備金反映後の調整利益 当期：1,729,224百万ウォン 前期：1,247,715百万ウォン)	25		177,885		121,761
・ その他包括損益	3,24,36		(19,478)		(28,495)
(1) 後続的に当期損益として再分類される 項目			(21,398)		(23,025)
1. 海外事業損益		286		622	
2. 売却可能金融資産評価損益		(21,684)		(23,647)	
(2) 後続的に当期損益として再分類されな い項目			1,920		(5,470)
1. 確定給付型制度の再測定要素		1,920		(5,470)	

・ 総包括利益			158,407		93,266
・ 1株当り利益	37				
(1) 基本的1株当り純利益			109円		73円
(2) 希薄化後1株当り純利益			109円		73円

“ 添付の注記は本財務諸表の一部である ”

## 資本変動表

第185(当)期 自2016年1月1日 至2016年12月31日  
第184(前)期 自2015年1月1日 至2015年12月31日

株式会社新韓銀行

(単位:百万ウォン)

科目	資本金	新種資本証券	資本剰余金	資本調整	その他包括 損益累計額	利益剰余金	合計
. 2015年1月1日(前期首)	7,928,078	1,100,250	398,080	(843)	324,458	10,621,834	20,371,857
総包括損益:	-	-	-	-	(284,661)	1,216,391	931,730
(1) 当期純利益	-	-	-	-	-	1,216,391	1,216,391
(2) その他包括損益	-	-	-	-	(284,661)	-	(284,661)
1. 海外事業損益	-	-	-	-	6,210	-	6,210
2. 売却可能金融資産評価損益	-	-	-	-	(236,226)	-	(236,226)
3. 確定給付型制度の再測定要素	-	-	-	-	(54,645)	-	(54,645)
所有者との取引等:	-	(298,952)	-	(28,497)	-	(508,058)	(835,507)
(1) 年次配当	-	-	-	-	-	(450,000)	(450,000)
(2) 新種資本証券の配当	-	-	-	-	-	(57,158)	(57,158)
(3) 新種資本証券の償還	-	(298,952)	-	(30,897)	-	-	(329,849)
(4) 株式報酬費用	-	-	-	1,500	-	-	1,500
(5) その他	-	-	-	900	-	(900)	-
. 2015年12月31日(前期末)	7,928,078	801,298	398,080	(29,340)	39,797	11,330,167	20,468,080
. 2016年1月1日(当期首)	7,928,078	801,298	398,080	(29,340)	39,797	11,330,167	20,468,080
総包括損益:	-	-	-	-	(194,588)	1,777,072	1,582,484
(1) 当期純利益	-	-	-	-	-	1,777,072	1,777,072
(2) その他包括損益	-	-	-	-	(194,588)	-	(194,588)
1. 海外事業損益	-	-	-	-	2,857	-	2,857
2. 売却可能金融資産評価損益	-	-	-	-	(216,628)	-	(216,628)
3. 確定給付型制度の再測定要素	-	-	-	-	19,183	-	19,183
所有者との取引等:	-	(331,905)	-	(31,324)	-	(726,589)	(1,089,818)
(1) 年次配当	-	-	-	-	-	(650,000)	(650,000)
(2) 新種資本証券の配当	-	-	-	-	-	(45,691)	(45,691)
(3) 新種資本証券の償還	-	(331,905)	-	(60,094)	-	-	(391,999)
(4) 株式報酬費用	-	-	-	(2,128)	-	-	(2,128)
(5) その他	-	-	-	30,898	-	(30,898)	-
. 2016年12月31日(当期末)	7,928,078	469,393	398,080	(60,664)	(154,791)	12,380,650	20,960,746

“ 添付の注記は本財務諸表の一部である ”

(単位：百万円)

科目	資本金	新種資本証券	資本剰余金	資本調整	その他包括 損益累計額	利益剰余金	合計
・ 2015年1月1日(前期首)	793,601	110,135	39,848	(84)	32,477	1,063,246	2,039,223
総包括損益：	-	-	-	-	(28,495)	121,761	93,266
(1) 当期純利益	-	-	-	-	-	121,761	121,761
(2) その他包括損益	-	-	-	-	(28,495)	-	(28,495)
1. 海外事業損益	-	-	-	-	622	-	622
2. 売却可能金融資産評価損益	-	-	-	-	(23,647)	-	(23,647)
3. 確定給付型制度の再測定要素	-	-	-	-	(5,470)	-	(5,470)
所有者との取引等：	-	(29,925)	-	(2,853)	-	(50,856)	(83,634)
(1) 年次配当	-	-	-	-	-	(45,045)	(45,045)
(2) 新種資本証券の配当	-	-	-	-	-	(5,721)	(5,721)
(3) 新種資本証券の償還	-	(29,925)	-	(3,093)	-	-	(33,018)
(4) 株式報酬費用	-	-	-	150	-	-	150
(5) その他	-	-	-	90	-	(90)	-
・ 2015年 12月31日(前期末)	793,601	80,210	39,848	(2,937)	3,982	1,134,151	2,048,855
・ 2016年1月1日(当期首)	793,601	80,210	39,848	(2,937)	3,984	1,134,150	2,048,856
総包括損益：	-	-	-	-	(19,478)	177,885	158,407
(1) 当期純利益	-	-	-	-	-	177,885	177,885
(2) その他包括損益	-	-	-	-	(19,478)	-	(19,478)
1. 海外事業損益	-	-	-	-	286	-	286
2. 売却可能金融資産評価損益	-	-	-	-	(21,684)	-	(21,684)
3. 確定給付型制度の再測定要素	-	-	-	-	1,920	-	1,920
所有者との取引等：	-	(33,224)	-	(3,136)	-	(72,731)	(109,091)
(1) 年次配当	-	-	-	-	-	(65,065)	(65,065)
(2) 新種資本証券の配当	-	-	-	-	-	(4,574)	(4,574)
(3) 新種資本証券の償還	-	(33,224)	-	(6,015)	-	-	(39,239)
(4) 株式報酬費用	-	-	-	(213)	-	-	(213)
(5) その他	-	-	-	3,092	-	(3,092)	-
・ 2016年 12月31日(当期末)	793,601	46,986	39,848	(6,073)	(15,494)	1,239,304	2,098,172

“ 添付の注記は本財務諸表の一部である ”

## キャッシュ・フロー計算書

第185(当)期 自2016年1月1日 至2016年12月31日

第184(前)期 自2015年1月1日 至2015年12月31日

株式会社新韓銀行

(単位:百万ウォン)

科目	第185(当)期		第184(前)期	
. 営業活動によるキャッシュ・フロー		2,678,339		581,177
(1) 税引前純利益	1,804,825		1,549,930	
(2) 損益調整項目	(4,280,829)		(4,055,314)	
1. 受取利息	(7,107,771)		(7,152,420)	
2. 支払利息	2,978,630		3,281,172	
3. 受取配当	(151,688)		(184,066)	
(3) 現金の流入のない損益項目	742,150		675,721	
1. 当期損益認識指定金融商品関連損益	206		(95)	
2. 売買目的金融商品関連損益	32,863		(48,518)	
3. 外国為替取引損益	27,004		100,659	
4. 売却可能金融資産処分損益	(408,496)		(417,892)	
5. 貸倒償却費	638,586		591,988	
6. その他金融商品減損損失	83,260		206,570	
7. 従業員給与	147,115		134,135	
8. 減価償却費及びその他償却費	147,351		154,118	
9. その他営業損益	59,700		(60,579)	
10. 営業外損益	14,561		15,335	
(4) 資産・負債の増減	197,206		(1,139,200)	
1. 預け金	3,816,718		(2,086,916)	
2. 売買目的金融資産	(2,517,195)		(842,122)	
3. デリバティブ資産	1,144,756		892,721	
4. 貸付債権	(8,073,959)		(19,853,508)	
5. その他資産	(2,355,192)		(1,603,373)	
6. 当期損益認識指定金融負債	(7,433)		7,464	
7. 預金	12,470,256		21,537,532	
8. 売買目的金融負債	(46,766)		59,864	
9. デリバティブ負債	(1,129,334)		(895,920)	

10. 確定給付債務	(216,364)		(292,731)	
11. 引当負債	(17,606)		(12,703)	
12. その他負債	(2,870,675)		1,950,492	
(5) 法人税の納付	(219,608)		(372,066)	
(6) 利息の受取	7,266,768		7,182,638	
(7) 利息の支払	(2,983,861)		(3,444,598)	
(8) 配当金の受取	151,688		184,066	
. 投資活動によるキャッシュ・フロー		(3,936,319)		(4,314,344)
1. 売却可能金融資産の減少	20,547,391		21,193,626	
2. 売却可能金融資産の取得	(22,958,683)		(23,246,485)	
3. 満期保有金融資産の減少	1,071,474		1,574,301	
4. 満期保有金融資産の取得	(2,418,930)		(3,553,037)	
5. 有形資産の処分	1,608		2,300	
6. 有形資産の取得	(67,506)		(86,848)	
7. 無形資産の処分	1,313		819	
8. 無形資産の取得	(30,622)		(94,415)	
9. 関係企業等に対する投資資産の処分	332		-	
10. 関係企業等に対する投資資産の取得	(140,545)		(206,943)	
11. 投資不動産の処分	17,953		6,097	
12. 投資不動産の取得	(6,910)		(1,844)	
13. 売却予定資産の処分	2,215		1,746	
14. その他資産の減少	868,794		668,158	
15. その他資産の増加	(824,203)		(571,819)	
. 財務活動によるキャッシュ・フロー		1,591,595		2,218,791
1. 借入負債の純増減	785,725		(197,824)	
2. 社債の発行	8,219,787		9,855,123	
3. 社債の償還	(6,315,133)		(6,600,102)	
4. 配当金の支払	(703,612)		(512,863)	
5. 新種資本証券の償還	(391,999)		(329,849)	
6. その他負債の増加	131,204		98,633	
7. その他負債の減少	(134,377)		(94,327)	
. 外貨表示現金及び現金性資産に対する 為替レート変動効果		(16,603)		917

．現金及び現金性資産の増加（減少）		317,012		(1,513,459)
．現金及び現金性資産の期首残高（注39）		1,988,013		3,501,472
．現金及び現金性資産の期末残高（注39）		2,305,025		1,988,013

“ 添付の注記は本財務諸表の一部である ”

(単位：百万円)

科目	第185(当)期		第184(前)期	
・ 営業活動によるキャッシュ・フロー		268,102		58,176
(1) 税引前純利益	180,663		155,148	
(2) 損益調整項目	(428,511)		(405,937)	
1. 受取利息	(711,488)		(715,957)	
2. 支払利息	298,161		328,445	
3. 受取配当	(15,184)		(18,425)	
(3) 現金の流出入のない損益項目	74,289		67,640	
1. 当期損益認識指定金融商品関連損益	21		(10)	
2. 売買目的金融商品関連損益	3,290		(4,857)	
3. 外国為替取引損益	2,703		10,076	
4. 売却可能金融資産処分損益	(40,890)		(41,831)	
5. 貸倒償却費	63,922		59,258	
6. その他金融商品減損損失	8,334		20,678	
7. 従業員給与	14,726		13,427	
8. 減価償却費及びその他償却費	14,750		15,427	
9. その他営業損益	5,975		(6,063)	
10. 営業外損益	1,458		1,535	
(4) 資産・負債の増減	19,740		(114,034)	
1. 預け金	382,053		(208,900)	
2. 売買目的金融資産	(251,971)		(84,296)	
3. デリバティブ資産	114,590		89,361	
4. 貸付債権	(808,203)		(1,987,336)	
5. その他資産	(235,755)		(160,498)	
6. 当期損益認識指定金融負債	(744)		747	
7. 預金	1,248,273		2,155,907	
8. 売買目的金融負債	(4,681)		5,992	
9. デリバティブ負債	(113,046)		(89,682)	
10. 確定給付債務	(21,658)		(29,302)	
11. 引当負債	(1,762)		(1,272)	
12. その他負債	(287,356)		195,245	
(5) 法人税の納付	(21,983)		(37,244)	

(6) 利息の受取	727,403		718,982	
(7) 利息の支払	(298,683)		(344,804)	
(8) 配当金の受取	15,184		18,425	
・ 投資活動によるキャッシュ・フロー		(394,026)		(431,866)
1. 売却可能金融資産の減少	2,056,794		2,121,482	
2. 売却可能金融資産の取得	(2,298,164)		(2,326,973)	
3. 満期保有金融資産の減少	107,255		157,588	
4. 満期保有金融資産の取得	(242,135)		(355,659)	
5. 有形資産の処分	161		230	
6. 有形資産の取得	(6,757)		(8,693)	
7. 無形資産の処分	131		82	
8. 無形資産の取得	(3,065)		(9,451)	
9. 関係企業等に対する投資資産の処分	33		-	
10. 関係企業等に対する投資資産の取得	(14,069)		(20,715)	
11. 投資不動産の処分	1,797		610	
12. 投資不動産の取得	(692)		(185)	
13. 売却予定資産の処分	222		175	
14. その他資産の減少	86,966		66,883	
15. その他資産の増加	(82,503)		(57,240)	
・ 財務活動によるキャッシュ・フロー		159,319		222,101
1. 借入負債の純増減	78,651		(19,802)	
2. 社債の発行	822,801		986,498	
3. 社債の償還	(632,145)		(660,670)	
4. 配当金の支払	(70,432)		(51,338)	
5. 新種資本証券の償還	(39,239)		(33,018)	
6. その他負債の増加	13,134		9,873	
7. その他負債の減少	(13,451)		(9,442)	
・ 外貨表示現金及び現金性資産に対する 為替レート変動効果		(1,662)		92
・ 現金及び現金性資産の増加(減少)		31,733		(151,497)
・ 現金及び現金性資産の期首残高(注39)		199,000		350,497
・ 現金及び現金性資産の期末残高(注39)		230,733		199,000

“ 添付の注記は本財務諸表の一部である ”



## 注記

=====  
第185（当）期 2016年 12月31日現在  
第184（前）期 2015年 12月31日現在

### 株式会社新韓銀行

#### 1. 銀行の概要

株式会社新韓銀行（以下、“当行”）は金融業を主な目的として1897年2月19日に設立された漢城銀行と1906年8月8日に設立された東一銀行の新設合併（1943年10月1日、銀行名：株式会社朝興銀行）により設立され、ソウル特別市中区世宗大路9道20（訳注：ソウル特別市中区太平路2街120と同じ。）に本店を置いています。

当行は1999年に忠北銀行及び江原銀行を吸収合併し、2006年4月1日には旧新韓銀行を吸収合併して銀行の社名を株式会社新韓銀行に変更しました。当期末現在、当行の資本金は7,928,078百万ウォン、発行株式数は1,585,615,506株であり、当行の株式は新韓金融持株会社が100%保有しています。当期末現在、当行は国内支店762ヶ所、国内出張所109ヶ所、営業所23ヶ所、海外支店14ヶ所を運営しています。

#### 2. 重要な会計処理方針

当行が採択している重要な会計方針は以下の通りです。

##### （1） 財務諸表の作成基準

当行は株式会社の外部監査に関する法律第13条第1項第1号で規定している国際会計基準審議会の国際会計基準を採択して定めた会計処理基準である韓国採択国際会計基準に基づいて財務諸表を作成しました。

当行の財務諸表は企業会計基準書第1027号“別途財務諸表”による別途財務諸表で、支配企業、関係企業の投資者または共同企業の参加者が、投資資産を被投資者の報告された成果及び純資産に基づかず、直接的な持分投資に基づいた会計処理により表示した財務諸表です。

当期及び比較表示された前期の財務諸表は以下に記述される会計方針に従って作成しました。

## (2) 測定基準

財務諸表は以下に挙げる財務状態表の主要項目を除いては、取得原価を基準に作成されています。

- 公正価値で測定されるデリバティブ
- 公正価値で測定される当期損益認識金融商品
- 公正価値で測定される売却可能金融商品
- 公正価値で測定される株式基準報酬
- 公正価値リスクヘッジ会計のリスクヘッジ対象項目として指定され、ヘッジ対象リスクによる公正価値の変動を当期損益として認識する金融資産及び金融負債
- 確定給付債務の現在価値から社外積立資産の公正価値を減算した確定給付債務

## (3) 機能通貨及び表示通貨

当行は財務諸表に含まれる項目を営業活動が行われる主な経済環境の通貨（機能通貨）で表示しています。これは機能通貨であり、かつ財務諸表の作成のための表示通貨である“ウォン”で表示しています。

## (4) 見積と判断

韓国採択国際会計基準では財務諸表を作成するに当たって会計方針の適用や、報告期間末現在の資産、負債及び収益、費用の報告金額に影響を及ぼす事項に対し、経営陣の最善の判断に基づいた見積値及び仮定の使用を要求しています。報告期間末現在における経営陣の最善の判断に基づいた見積値及び仮定が実際の環境とは異なる場合、実際の結果はこのような見積値とは異なることがあります。

見積値と見積に対する基本仮定は継続的に検討されており、会計見積の変更は見積値が変更された期間と将来に影響を受ける期間にわたって認識されています。より複雑な判断が必要な部分または仮定と見積値が財務諸表に重要な部分は注記4に開示されています。

## (5) 会計方針の変更

当行は2015年12月31日をもって終了する会計年度の年次財務諸表を作成する際に適用したものと同一な会計方針を適用しています。

## (6) 財務諸表の発行承認日

当行の財務諸表は2017年2月7日の取締役会で承認されました。

## (7) 従属企業、ジョイントベンチャー及び関係企業投資持分

当行は従属企業、ジョイントベンチャー及び関係企業投資持分に対する投資資産に対し、企業会計基準書第1027号“別途財務諸表”による原価法を選択して会計処理しました。但し、従属企業、関係企業及びジョイントベンチャー投資持分に対しては、企業会計基準書第1101号“韓国採択国際会計基準の当初採択”を適用し、韓国採択国際会計基準転換日の過去会計基準による帳簿価額をみなし原価として使用し、測定しました。一方、従属企業、ジョイントベンチャー及び関係企業投資持分から受け取る配当金は、配当を受け取る権利が確定される時点で当期損益として認識しています。

## (8) 外貨換算

### 1) 外貨取引

財務諸表の作成において、当行の機能通貨以外の通貨（外貨）で行われた取引は取引日の為替レートを適用して記録しています。報告期間末毎に貨幣性外貨項目は報告期間末の為替レートの終値で換算しています。公正価値で測定する非貨幣性外貨項目は公正価値が決定された日の為替レートで換算し、取得原価で測定する非貨幣性項目は取引日の為替レートで換算しています。

海外事業損益とキャッシュ・フローリスクヘッジ及び純投資のリスクヘッジ手段として指定された金融負債で発生した換算差額を除いた貨幣性項目の換算により発生した為替差異及び貨幣性項目の決済時点に生じる為替差異は、全て当期損益として認識しています。非貨幣性項目で発生した損益をその他包括損益として認識する場合には、その損益に含まれた為替レート変動効果もその他包括損益として認識し、当期損益として認識する場合には為替レート変動効果も当期損益として認識しています。

### 2) 在外営業活動体

在外営業活動体の機能通貨が当行の表示通貨とは異なる場合には、経営成績と財務状態を以下の方法で表示通貨に換算しています。

在外営業活動体の機能通貨が超インフレーション経済の通貨ではない場合、財務状態表（比較表示する財務状態表を含む）の資産及び負債は当該報告期間末の為替レートの終値で換算し、包括損益計算書（比較表示する包括損益計算書を含む）の収益と費用は当該取引日の為替レートで換算し、換算によって生じる為替差異はその他包括損益として認識します。

在外営業活動体の取得により生じるのれんと資産・負債の帳簿価額に対する公正価値調整額は在外営業活動体の資産・負債とみなして在外営業活動体の機能通貨で表示し、在外営業活動体の他の資産・負債と共に為替レートの終値を適用してウォン貨に換算しています。

在外営業活動体を処分する場合には、独立の資本項目としてその他包括損益において認識した在外営業活動体に関連する為替差異の累計額は在外営業活動体の処分損益を認識する時点でその他包括損益から当期損益に再分類します。

### 3) 在外営業活動体に対する純投資の換算

在外営業活動体から受け取るか、或いは在外営業活動体に支払う貨幣性項目のうち、予測できる将来に決済する計画がなく、決済される可能性が低い項目はその在外営業活動体に対する純投資の一部とみなして財務諸表で為替差異をその他包括損益として認識し、関連純投資の処分時点で当期損益に再分類します。

#### (9) 現金及び現金性資産

当行は保有現金と要求払預金、流動性が極めて高く、確定された金額の現金への転換が容易で、価値変動のリスクが軽微な短期投資資産を現金及び現金性資産に分類しています。持分商品は現金性資産から除外していますが、償還日が定められており、取得日から償還日までの期間が短い優先株のような実質的な現金性資産の場合には、現金性資産に含めています。但し、外貨他店借入は借入負債勘定に含めます。

#### (10) 非デリバティブ資産

金融資産は認識及び測定のために当期損益認識金融資産、満期保有金融資産、貸付金及び受取債権、売却可能金融資産の4つのカテゴリーに区分し、契約の当事者となる時点で財務状態表に認識しています。また、定型化された買入または売渡取引（即ち、関連市場の規定或いは慣行により一般的に設定された期間内に当該金融商品を引き渡す契約条件により金融資産を買い入れるか或いは売り渡す場合）の場合は売買日に認識しています。

金融資産は当初認識時点で公正価値で測定し、当期損益認識金融資産ではない場合、金融資産の取得と直接関連する取引費用は当初認識時点で公正価値に加算しています。

#### 1) 当期損益認識金融資産

売買目的金融資産、または当初認識時点で当期損益認識金融資産に指定した金融資産を当期損益認識金融資産に分類しています。当期損益認識金融資産は当初認識後、公正価値で測定し、公正価値の変動は当期損益として認識しています。一方、当初認識時点に取得と関連して発生した取引費用は、発生時点で直ちに当期損益として認識しています。

#### 2) 満期保有金融資産

満期が固定しており、支払金額が確定しているか、或いは決定可能な非デリバティブ資産として当行が満期まで保有する積極的な意図と能力がある場合、満期保有金融資産に分類しています。当初認識後には実効利率法を適用して償却後原価で測定しています。

#### 3) 貸付金及び受取債権

支払金額が確定しているか、或いは決定可能で、活発な市場で取引価格が開示されていない非デリバティブ資産は貸付金及び受取債権に分類しています。当初認識後には実効利率法を適用して償却後原価で測定しています。

#### 4) 売却可能金融資産

売却可能項目として指定されるか、或いは当期損益認識金融資産、満期保有金融資産、または貸付金及び受取債権に分類されない非デリバティブ資産は売却可能金融資産に分類しています。当初認識後には公正価値で測定し、公正価値の変動はその他包括損益として認識しています。但し、活発な市場で開示される市場価格がなく、公正価値を信頼性をもって測定できない持分商品及びこのような持分商品と連係しており、その持分商品の引渡によって決済されるべきデリバティブは原価で測定しています。

#### 5) 金融資産の認識の中止

金融資産のキャッシュ・フローに対する契約上の権利が消滅するか、或いは金融資産のキャッシュ・フローに対する権利を譲渡して金融資産の所有によるリスクと経済価値の大部分を移転する場合、金融資産の認識を中止しています。仮に金融資産の所有によるリスクと経済価値の大部分を保有しておらず、移転もしていない場合、当行が金融資産を統制していなければ金融資産の認識を中止し、金融資産を継続して統制している場合は、その譲渡資産に対して引き続き関与する程度まで継続して認識し、関連負債を共に認識しています。

仮に金融資産のキャッシュ・フローに対する権利を譲渡したものの、金融資産の所有によるリスクと経済価値の大部分を当行が保有している場合には、当該金融資産を継続して認識し、受け取った売却金額は負債として認識しています。

#### 6) 金融資産と負債の相殺

金融資産と負債は当行が資産と負債を相殺できる法的権利があり、純額で決済するか、或いは資産を実現すると同時に負債を決済する意図がある場合に限り相殺して財務状態表に純額で表示しています。

#### (11) 金融資産の減損

当行は当期損益認識金融資産を除外した金融資産の減損発生に対する客観的な証拠があるかどうかを報告期間末毎に評価しています。当初認識以降に発生した一つまたはそれ以上の事象の結果により金融資産の見積将来キャッシュ・フローに影響を受けた場合、金融資産が減損されたと判断します。しかし、将来事象の結果として予想される減損損失は認識しません。

減損発生の客観的な証拠がある場合、金融資産のカテゴリー別に以下のように減損損失を測定して当期損益として認識します。

#### 1) 貸付債権

償却後原価で測定される貸付債権の減損損失は当該資産の帳簿価額と当初の実効利子率で割り引いた見積将来キャッシュ・フロー（発生していない将来の貸倒は除外）の現在価値の差異で測定します。

そのために当行は、個別的に重要な金融資産に対して、優先的に減損発生の客観的な証拠があるかどうか個別に検討します。

個別的に重要ではない金融資産の場合、個別的または集散的に検討します。個別的な検討結果、減損発生の客観的な証拠がなければ、その金融資産は類似する信用リスクの特性を有する金融資産の集合に含めて集散的に減損の有無を検討します。

減損損失は貸倒引当金勘定を使用して減算し、同金融資産の回収が不可能であると判断される場合、当該金融資産と共に償却処理します。既に貸倒償却した貸付債権が後続的に回収された場合、貸倒引当金を増加させ、その変動は当期損益として認識します。

### 個別評価貸倒引当金

個別評価貸倒引当金は評価対象債権から回収されると期待されるキャッシュ・フローの現在価値に対する経営陣の最善の見積に基づきます。このようなキャッシュ・フローを見積る時、当行は関連する相手の営業キャッシュ・フロー等の財務的な状況、関連する担保物の正味実現可能価額等、利用可能な全ての情報を利用して判断します。

### 集合評価貸倒引当金

集合評価貸倒引当金はポートフォリオに内在された発生損失の測定のために過去の経験損失率に基づいた見積モデルを利用します。同モデルは商品及び借主の種類、信用格付、ポートフォリオの規模、減損発現期間、回収期間等、様々な要因を考慮して各資産（または資産集合）の発生デフォルト率（PD：Probability of Default）と担保及び与信科目別の名目回収率、デフォルト時の発生損失率（LGD：Loss Given Default）を適用します。また、内在された損失の測定をモデル化し、過去の経験及び現状に基づいた入力変数の決定のために一定の仮定を適用します。同モデルの方法論及び仮定は貸倒引当金見積値と実際の損失との差異を減少させるために定期的に検討されます。

#### 2) 売却可能金融資産

公正価値減少額をその他包括損益として認識する売却可能金融資産は公正価値が取得原価に達しない金額から以前の期間に既に当期損益として認識した当該金融資産の減損損失を減算した金額をその他包括損益から当期損益に再分類します。

後続期間に売却可能金融資産の公正価値が増加し、その増加が減損損失認識後に発生した事象と客観的に関連する場合、売却可能債務商品は当期損益に戻し入れ、売却可能持分商品はその他包括損益として認識します。

#### 3) 満期保有金融資産

償却後原価で測定される満期保有金融資産は帳簿価額と当初の実効利率で割り引いた見積将来キャッシュ・フローの現在価値の差異で減損損失を測定し、帳簿価額から直接減算します。

後続期間中、減損損失の金額が減少し、その減少が減損の認識後に発生した事象と客観的に関連する場合には、既に認識した減損損失は回復後の帳簿価額が当初減損を認識していなければ回復日現在に認識したであろう償却後原価を超過しない限度内で当期損益に直接戻し入れます。

## (12) デリバティブ

デリバティブは当初認識時に契約日の公正価値で見積り、後続的に報告期間末毎の公正価値で見積っています。デリバティブの公正価値の変動による評価損益はそれぞれ以下のように認識しています。

### 1) リスクヘッジ会計

当行は金利リスクと為替レートリスクをヘッジするために通貨先渡、金利スワップ、通貨スワップ等のデリバティブ契約を締結しています。ヘッジ対象リスクによる資産または負債、確定契約の公正価値の変動（公正価値リスクヘッジ）、発生可能性が極めて高い予想取引または確定取引の為替レート変動（キャッシュ・フローリスクヘッジ）、在外営業活動体純投資の為替レート変動リスク（純投資のリスクヘッジ）をヘッジするために一部のデリバティブ及び非デリバティブをリスクヘッジ手段として指定しています。

当行はリスクヘッジ関係の開始時点にリスクヘッジ関係、リスク管理目的及びリスクヘッジ戦略を公式的に指定して文書化を行っています。また、この文書にはリスクヘッジ手段、リスクヘッジ対象項目及びリスクヘッジ関係の開始時点及びその後続期間にヘッジ対象リスクによるリスクヘッジ対象項目の公正価値またはキャッシュ・フローの変動をリスクヘッジ手段が相殺する効果を評価する方法等を含んでいます。

#### 公正価値リスクヘッジ

リスクヘッジ手段として指定され、公正価値リスクヘッジ会計の適用要件を満たすデリバティブの公正価値変動は当期損益として認識し、ヘッジ対象リスクによるリスクヘッジ対象項目の公正価値変動も当期損益として認識しています。リスクヘッジ手段の公正価値変動とヘッジ対象リスクによるリスクヘッジ対象項目の公正価値変動はリスクヘッジ対象項目に関連する包括損益計算書の同一項目に認識されます。公正価値リスクヘッジ会計は当行がこれ以上リスクヘッジ関係を指定しないか、リスクヘッジ手段が消滅、売却、清算または行使されるか公正価値リスクヘッジ会計の適用要件をこれ以上満たさなくなった場合に中断されます。ヘッジ対象リスクによるリスクヘッジ対象項目の帳簿価額調整額はリスクヘッジ会計が中断された日から償却して当期損益として認識しています。

#### キャッシュ・フローリスクヘッジ

リスクヘッジ手段として指定され、キャッシュ・フローリスクヘッジ会計の適用要件を満たすデリバティブの公正価値変動分のうち、リスクヘッジに効果的な部分はその他包括損益として処理し、リスクヘッジに効果的でない部分は当期損益として認識しています。キャッシュ・フローリスクヘッジ会計は当行がこれ以上リスクヘッジ関係を指定しないかリスクヘッジ手段が消滅、売却、清算、行使されるか、キャッシュ・フローリスクヘッジ会計の適用要件をこれ以上満たさなくなった場合に中断されます。

## 純投資リスクヘッジ

リスクヘッジ手段として指定され、在外営業活動体純投資のリスクヘッジ会計の適用要件を満たした金融商品の公正価値の変動のうち、リスクヘッジに効果的な部分はその他包括損益として認識し、効果的ではない部分は当期損益として認識しています。リスクヘッジに効果的であるため、その他包括損益として認識した部分は、今後その在外営業活動体を処分するか、或いはその在外営業活動体の一部を処分する時点で企業会計基準書第1021号“為替レート変動効果”による再分類調整により、その他包括損益から当期損益に再分類します。

### 2) 組込デリバティブ

組込デリバティブは主契約の経済的な特性及びリスクの程度と密接な関連性がなく、組込デリバティブと同一条件の別途の商品がデリバティブの定義を充足する場合、複合金融商品が当期損益認識項目として指定されていない時には組込デリバティブを主契約と分離して別途会計処理しています。主契約と分離した組込デリバティブの公正価値変動は当期損益として認識しています。

### 3) その他デリバティブ

リスクヘッジ手段として指定されていないデリバティブの公正価値変動は直ちに損益として認識しています。

## (13) 有形資産

有形資産は当初に原価で測定して認識しています。有形資産の原価には経営陣の意図する方式で資産を稼動するに当たって必要な場所と状態とするために直接関連する費用及び資産の解体、除去や敷地を復旧するために所要されると見積もられる費用が含まれています。

有形資産は当初認識後に原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を減算した金額を帳簿価額としています。但し、有形資産のうち土地及び建物については企業会計基準書第1101号“韓国採択国際会計基準の当初採択”を適用して韓国採択国際会計基準転換日現在の公正価値で測定し、これをその時点のみなし原価として使用しました。公正価値の評価結果として発生した有形資産再評価利益は取締役会の決議によって配当が制限されます。

有形資産の一部を取り替える時に発生する費用は、当該資産から発生する将来の経済的便益が当行に流入する可能性が高く、その費用を信頼性をもって測定できる場合に、資産の帳簿価額に含めるか、或いは適切な場合は別途の資産として認識しています。この際、取り替えられた部分の帳簿価額は除去しています。それ以外の日常的な修繕・維持と関連して発生する費用は発生時点で当期損益として認識しています。

有形資産のうち、土地は減価償却をせず、それ以外の有形資産は資産の取得原価から残存価値を差し引いた金額に対して以下に提示する経済的耐用年数にわたって定額法で償却しています。

当期及び前期の推定耐用年数は以下の通りです。

区分	耐用年数
建物	40年
その他有形資産	4年～5年

有形資産の除去により発生する損益は純売却価額と帳簿価額の差異で決定され、その差額は当期損益として認識しています。

当行は報告期間末毎に資産の残存価値、耐用年数及び減価償却方法を再検討し、その結果、見積値が従来のもものと異なる場合は、その差異を会計見積の変更として処理しています。

#### (14) 無形資産

無形資産は当初認識する時に原価で測定し、当初認識後に原価から償却累計額と減損損失累計額を減算した金額を帳簿価額として認識しています。のれん及び会員権を除いた無形資産は使用可能な時点から残存価値をゼロ(0)として以下の耐用年数にわたり定額法で償却しています。関連する償却費は一般管理費として認識されます。

区分	耐用年数
ソフトウェア	5年
開発費	5年
その他無形資産	5年または契約期間

耐用年数を確定できる無形資産の償却期間と償却方法は会計年度末毎に再検討し、耐用年数を確定できない無形資産に対しては、その資産の耐用年数を確定できないという評価が引き続き正当であるかどうかを報告期間毎に再検討し、これを変更することが適切であると判断される場合は会計見積りの変更として処理しています。

研究または内部プロジェクトの研究段階に対する支出は発生時点で費用として認識しています。開発段階の支出は資産を完成することができる技術的な実現可能性、資産を完成して使用するか、販売しようとする企業の意図、能力及び必要な資源の入手可能性、無形資産の将来の経済的便益を全て提示することができ、関連支出を信頼性をもって測定することができる場合に無形資産として認識しており、その他開発関連支出は発生時点で費用として認識しています。

#### (15) 投資不動産

賃貸収益、資本増価を獲得するために保有する不動産は投資不動産に分類しています。投資不動産は当初認識時点で取引費用を含めて原価で測定し、原価モデルを適用しています。当初認識後には、原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を減算した金額を帳簿価額として認識しており、当期及び前期の耐用年数及び減価償却方法は以下の通りです。

区分	耐用年数	減価償却方法
建物	40年	定額法

後続費用は、資産から発生する将来の経済的便益が流入する可能性が高く、その費用を信頼性をもって測定できる場合に限って資産の帳簿価額に含めるか、或いは適切な場合は別途の資産として認識しており、その後の支出により振り替えられた部分の帳簿価額は認識を中止しています。一方、日常的な修繕・維持に関連して発生する費用は発生時点で当期損益として認識しています。

投資不動産の減価償却方法、残存価値及び耐用年数は報告期間末毎に再検討し、これを変更することが適切であると判断される場合は会計見積りの変更として処理しています。

#### (16) リース

当行はリース資産の所有によるリスクと経済価値の大部分がリース利用者に移転される場合にはファイナンスリースに分類し、リスクと経済価値の大部分を移転しないリースはオペレーティングリースに分類していません。

## 1) ファイナンスリース

当行はリース約定日に測定された最低リース料の現在価値とリース資産の公正価値のうち、いずれか低い金額をリース期間開始日にファイナンスリース資産とファイナンスリース負債としてそれぞれ認識しています。

リース開設直接原価はファイナンスリース資産に含まれています。

最低リース料は金融費用とリース負債の償還額に分けて認識しており、金融費用は負債残額に対して一定の期間利率が算出されるようリース期間の各報告期間にわたって配分しています。調整リース料は発生した期間に費用として処理しています。

ファイナンスリース資産の減価償却は当行が所有する他の減価償却対象資産と一貫した体系的な基準で償却しており、リース期間終了時点まで資産の所有権を獲得することが確実でない場合には、リース期間とリース資産の耐用年数のうち短い期間にわたって減価償却しています。また、当行はファイナンスリース資産に対して減損の有無を検討しています。

## 2) オペレーティングリース

オペレーティングリースのリース料はリース期間にわたって定額法で費用を認識しています。

### (17) 売却予定非流動資産

資産または処分資産集団の帳簿価額が、継続使用ではなく売却取引を通じて主に回収されることが予想される場合は、売却予定資産に分類しています。このような条件は当該資産（または処分資産集団）が現在の状態で直ちに売却可能でなければならず、売却される可能性が非常に高い場合にのみ充足されたとみなしています。資産（または処分資産集団）を売却予定として当初に分類する直前に当該資産（または資産と負債）の帳簿価額と純公正価値のうち、いずれか低い金額で測定しています。資産の純公正価値が下落すると、減損損失を直ちに当期損益として認識し、純公正価値が増加すると、過去に認識していた減損損失累計額を限度として利益として認識しています。

資産が売却予定に分類されるか、売却予定に分類された処分資産集団の一部である場合は、その資産は償却しません。

#### (18) 非金融資産の減損

従業員給与で発生した資産、繰延税金資産及び売却予定に分類される資産を除いた全ての非金融資産に対しては、報告期間末毎に資産減損を示唆する兆候があるかどうかを検討し、仮にそうした兆候があれば、当該資産の回収可能価額を見積もっています。但し、企業結合により取得したのれん及び耐用年数を確定できない無形資産、まだ使用できない無形資産については、資産減損を示唆する兆候と関係なく、毎年回収可能価額と帳簿価額を比較して減損テストを行っています。

回収可能価額は個別資産別に、または個別資産の回収可能価額を見積もることができなければ、その資産が属する現金創出単位別に回収可能価額を見積もっています。回収可能価額は使用価値と純公正価値のうち大きい金額で決定しています。使用価値は資産や現金創出単位から創出されると期待される将来キャッシュ・フローを貨幣の時間価値及び将来キャッシュ・フローを見積もる際に調整されない資産の特有リスクに対する現行の市場評価を反映した適切な割引率で割り引いて見積もります。

資産や現金創出単位の回収可能価額が帳簿価額に満たない場合、資産の帳簿価額を減少させて直ちに当期損益として認識しています。

企業結合により取得したのれんは企業結合によるシナジー効果の恩恵を受けると期待される各現金創出単位に配分します。現金創出単位に対する減損損失はまず、現金創出単位に配分されたのれんの帳簿価額を減少させ、その後、現金創出単位に属する他の資産それぞれの帳簿価額に比例して資産の帳簿価額を減少させています。のれんに対して認識した減損損失は後続期間に戻し入れることができません。報告期間末毎にのれんを除いた資産に対して過去期間に認識した減損損失がこれ以上存在しないか減少したことを示唆する兆候があるかどうかを検討し、減損損失の最後の認識時点以後に回収可能価額を決定するに当たって使用された見積値に変化がある場合にのみ戻し入れます。減損損失戻入により増加した帳簿価額は、過去に減損損失を認識する前の帳簿価額の減価償却または償却後残高を超過することはできません。

#### (19) 非デリバティブ負債

当行は契約上の内容の实质と金融負債の定義によって金融負債を当期損益認識金融負債とその他金融負債に分類し、契約の当事者となる時に財務状態表に認識しています。

## 1) 当期損益認識金融負債

当期損益認識金融負債は売買目的金融負債、或いは当初認識時点で当期損益認識金融負債に指定した金融負債を含めています。当期損益認識金融負債は当初認識後、公正価値で測定し、公正価値の変動は当期損益として認識しています。一方、当初認識時点に発行と関連して発生した取引費用は発生時点で直ちに当期損益として認識しています。

## 2) その他金融負債

当期損益認識金融負債に分類されていない非デリバティブ負債はその他金融負債に分類し、これには預金、借入負債、社債等が含まれます。その他金融負債は当初認識時の発行と直接関連する取引費用を減算した公正価値で測定しています。後続的にその他金融負債は実効利率法を使用して償却後原価で測定し、支払利息は実効利率法を使用して認識しています。

金融負債は消滅した場合、即ち、契約上の義務が履行、取消または満了した場合に限り、財務状態表から除去しています。

## (20) 払込資本

### 1) 持分商品

普通株は資本に分類し、資本取引に直接関連して発生する追加費用は税金効果を反映した純額を資本から減算しています。

### 2) 新種資本証券

当行は商品の契約条件の實質によって資本証券を金融負債または持分商品に分類します。当行が契約上の義務を決済するための現金等金融資産の引渡を回避できる無条件的な権利を有している新種資本証券の場合、持分商品に分類して資本の一部として表示しています。

## (21) 従業員給与

### 1) 短期従業員給与

従業員が関連勤務役務を提供した報告期間末から12ヶ月以内に決済される短期従業員給与は勤務役務と交換して支給が予想される金額を、勤務役務が提供される際に当期損益として認識しています。短期従業員給与は割引しない金額で測定しています。

## 2) その他長期従業員給与

従業員が関連勤務役務を提供した報告期間の末日から12ヶ月以内に支給されないその他長期従業員給与（退職給与、解雇給与は除外）は当期及び過去期間に提供した勤務役務の対価として獲得した将来の給与額を現在価値に割り引いています。再測定による変動は発生した期間に当期損益として認識しています。

## 3) 退職給付費用：確定給付型制度

報告期間末現在、確定給付型制度に関連する退職給付に係る負債は確定給付債務の現在価値から社外積立資産の公正価値を減算して認識しています。確定給付債務は毎年独立した計理士による予測単位積立方式で計算されています。確定給付債務の現在価値は確定給付型制度で支給される将来キャッシュ・フローを関連退職給付費用の満期と類似する満期を有する退職金が支給される通貨で表示された優良社債の利息率を使用して見積将来キャッシュ・フローを割り引いた後、決定されています。確定給付の費用のうち、勤務費用及び純確定給付債務（資産）の純利子は当期損益として認識し、純確定給付債務（資産）の再測定要素はその他包括損益として認識しています。

## 4) 退職給付費用：確定拠出型制度

当行は確定拠出型制度の実施により当該会計期間中に当行が納付しなければならない負担金を退職給付費用の科目で当期費用として認識しています。

## 5) 解雇給与

当行は解雇給与の提案をこれ以上撤回できなくなった時と解雇給与の支給を伴う構造調整に対する費用を認識する時のうち、いずれか早い日に解雇給与に対する費用を認識します。

解雇給与は支給日が12ヶ月過ぎた後に到来する場合には、現在価値に割り引いています。

## (22) 株式基準報酬

当行は提供を受ける財貨または役務の対価として従業員に株式またはストックオプションを付与する株式決済型株式報酬取引に対して、提供を受ける財貨や役務の公正価値、または提供を受ける財貨、或いは役務の公正価値を信頼性をもって測定することができない場合は付与した持分商品の公正価値に基づいて財貨や役務の公正価値を間接的に測定し、その金額を稼得期間にわたって従業員給与費用及び資本として認識しています。ストックオプションの稼得条件が役務提供条件または市場条件ではない稼得条件である場合は最終的に稼得されるストックオプションの実際の数量に基づいて決定されるように認識された従業員費用を調整しています。

提供を受ける財貨や役務の対価として現金を支払う現金決済型株式基準報酬取引の場合は提供を受ける財貨、役務とその対価で負担する負債を公正価値で測定し、稼得期間にわたって従業員給与費用及び負債として認識しています。また、負債が決済されるまで毎報告期間末と最終決済日に負債の公正価値を再測定し、公正価値の変動額は給与として認識しています。

当行の役員・職員には親会社である新韓金融持株会社の株式に基づいた株式基準報酬が付与されており、当行は新韓金融持株会社との償還支払約定により株式基準報酬取引の報酬費用を現金で負担することとなっています。当行は当該株式報酬費用を約定役務提供期間に按分し、期間費用及び未払費用としてそれぞれ計上しています。約定役務提供期間中に役員・職員等の死亡、退職または解雇等により契約義務を履行しないために付与された権利が行使されず消滅する場合には、既に認識した未払費用を報酬費用から減算します。一方、新韓金融持株会社との償還支払約定に関係なく、当行が株式基準報酬取引を決済する義務がない連結実体内の企業間の株式基準報酬取引は、株式決済型株式基準報酬取引で測定しています。

### (23) 引当負債

過去事象の結果、現在の法的義務またはみなし義務が存在し、当該義務を履行するために経済的便益を有する資源が流出する可能性が高く、当該義務の履行に所要される金額を信頼性をもって見積もることができる場合に、引当負債を認識しています。

引当負債に認識する金額は、関連事象と状況に対する避けられないリスクと不確実性を考慮して現在の義務を報告期間末に履行するために所要される支出に対する最善の見積値です。貨幣の時間価値効果が重要な場合、引当負債は義務の履行のために予想される支出額の現在価値で評価しています。

報告期間末毎に引当負債の残高を検討し、報告期間末現在の最善の見積値を反映して調整しています。義務履行のために経済的便益を有する資源が流出される可能性がこれ以上高くない場合には、関連引当負債を戻し入れています。引当負債は当初認識に関連する支出にのみ使用しています。

## (24) 金融保証契約

金融保証契約は債務商品の当初契約条件または変更された契約条件により支払期日に特定債務者が支払うことができないことから、保有者が受けた損失を補償するために、発行者が特定金額を支払わなければならない契約です。

金融保証契約は当初認識時に公正価値で測定して支払保証引当負債に含め、公正価値は当該金融保証契約の期間にわたって償却されます。

当初認識後には以下の金額のうち、いずれか高い金額で測定されます。

- 企業会計基準書第1037号“引当負債、偶発債務及び偶発資産”により決定された金額（当該金融保証契約から期待される支払金額の現在価値）
- 当初認識金額から企業会計基準書第1018号“収益”により認識した償却累計額を減算した金額

## (25) 収益・費用の認識

### 1) 受取利息と支払利息

受取利息と支払利息は実効利子率法を適用して包括損益計算書に認識します。実効利子率法は金融資産、金融負債の償却後原価を計算し、関連する期間にわたって受取利息や支払利息を配分する方法です。

実効利子率の計算時、当該金融商品の全ての契約条件を考慮して将来キャッシュ・フローを見積るものの、将来の信用リスクによる損失は考慮しません。また、契約当事者間で支払うか、受け取る手数料、取引費用及びその他の割増額、割引額等を反映します。金融商品に対するキャッシュ・フローまたは期待存続期間を信頼性をもって見積ることができない例外的な場合には、全体契約期間にわたって契約上のキャッシュ・フローを使用して実効利子率を算定します。

金融資産、類似する金融資産の集合が減損損失により減額されると、その後の受取利息は減損損失を見積る目的で将来キャッシュ・フローを割り引くために使用した利子率を使用して認識します。

### 2) 受取手数料

当行は金融役務手数料をその手数料の賦課目的と関連金融商品の会計処理基準により以下のように区分して処理します。

#### 金融商品の有効収益を構成する手数料

金融商品の実効利子率の一部を構成する手数料の場合、一般的に実効利子率に対する調整項目として処理します。このような手数料には借入者の財務状態、保証、担保、その他保障約定に関連する評価及び事務処理、関連書類の準備及び作成等の活動に対する補償、金融負債の発行時に受け取った開設手数料等が含まれます。しかし、金融商品が当期損益認識金融商品に該当する場合、手数料は商品の当初認識時点で収益として認識します。

#### 役務の提供により稼得される手数料

資産管理手数料、業務受託手数料、保証役務手数料等、一定期間にわたって役務の提供対価として賦課される手数料はその役務の提供時に収益として認識します。また、特定の貸付約定が締結される可能性が低く、その貸付約定が企業会計基準書第1039号“金融商品：認識及び測定”の適用範囲に該当しない場合は、当該約定手数料は約定期間にわたって期間に比例して収益として認識します。

#### 重要な行為の遂行により稼得される手数料

株式またはその他証券売買、事業譲渡・譲受けの斡旋のように第三者のための取引の交渉または交渉参加の対価として受け取る手数料及び販売手数料等、重要な行為を遂行することにより稼得される手数料は重要な行為を完了した時点で収益として認識します。

### 3) 受取配当

受取配当は株主として配当を受ける権利が確定される時点で収益を認識しています。

#### (26) 法人税

法人税費用は当期法人税と繰延税金で構成されており、その他包括損益や資本に直接認識される取引や事象または企業結合から発生する税額を除いては、当期損益として認識しています。

当行の親会社である新韓金融持株会社は当行を含めた国内完全子会社を一つの納税単位とみなして所得金額を通算して法人税を申告・納付し、当行は新韓金融持株会社に連結法人税負担税額の個別帰属額を支払う義務のみが存在するため、当該金額を当期法人税負債に含まれる未払金として計上しました。資産・負債の帳簿価額と税務価額の差異である一時差異と繰越控除が可能な税務上の欠損金及び税額控除等に対して将来負担する法人税負担額と将来軽減される法人税負担額のうち、当行に直接帰属される項目に対してそれぞれ繰延税金負債及び資産として認識しています。繰延税金は一時差異等の実現が予想される会計年度に適用される法人税率を使用して見積っています。

従属企業、関係企業及び共同企業に対する投資持分に関連する将来加算一時差異に対して当行が解消時点を統制することができ、予測可能な将来に一時差異が解消しない可能性が高い場合を除いては、繰延税金負債を認識しています。また、将来減算一時差異により発生する繰延税金資産は一時差異が予測可能な将来に解消する可能性が高く、一時差異が使用され得る課税所得が発生する可能性が高い場合に認識しています。

繰延税金資産及び負債は報告期間末に制定されたか、実質的に制定された税法に基づいて当該資産が実現されるか、負債が支払われる報告期間に適用されると期待される税率を使用して測定しています。繰延税金資産及び負債の測定時には報告期間末現在、連結実体に関連する資産、負債の帳簿価額を回収するか、決済すると予想される方式により税効果を反映しました。

繰延税金資産の帳簿価額は毎報告期間末に検討し、繰延税金資産による恩恵が使用されるに十分な課税所得が発生する可能性がこれ以上高くない場合、繰延税金資産の帳簿価額を減少させています。

繰延税金資産及び負債は同一課税当局が賦課する法人税であり、連結実体が認識された金額を相殺できる法的権限を保有しており、当期の法人税負債及び資産を純額で決済する意図がある場合のみに相殺しています。配当金の支払により追加的に発生する法人税費用がある場合には、配当金の支払に関連する負債が認識される時点で認識しています。

#### (27) 信託関連会計処理

当行は資本市場と金融投資業に関する法律第114条により信託財産を固有財産と区分して会計処理しています。これに関連して信託勘定に貸し付けた資金を信託勘定貸付金、信託勘定から借り入れた資金を信託勘定未払金として計上しており、金融投資業規定によって信託財産の運用、管理及び処分に関連して信託報酬を取得し、これを信託業務運用収益として計上しています。

#### (28) 1株当たり利益

当行は普通株の基本的1株当たり利益と希薄化後1株当たり利益を継続事業損益と当期純損益に対して計算し、包括損益計算書に表示しています。基本的1株当たり利益は普通株に帰属する当期純損益を報告期間に流通される普通株式数を加重平均した株式数で除して計算しています。希薄化後1株当たり利益は従業員に付与した株式基準報酬等、全ての希薄化効果のある潜在的普通株の影響を考慮して普通株に帰属する当期純損益及び加重平均流通普通株式数を調整して計算しています。

(29) 未適用制定・改正基準書

制定・公表されたものの、2016年1月1日以降に開始する会計年度に施行日が到来していない制定・改正基準書は以下の通りです。当行は財務諸表の作成時に、以下の制定・改正基準書を早期適用していません。以下の制定・改正基準書及び解釈書の適用時、財務諸表に及ぼす影響は報告期間末現在、見積もることができません。

1) 企業会計基準書第1109号“金融商品”

2015年9月25日に制定された企業会計基準書第1109号“金融商品”は、2018年1月1日以降に最初に開始する会計年度から適用する一方、早期適用することもできます。同基準書は現行の企業会計基準書第1039号“金融商品：認識及び測定”を代替する予定です。当行は企業会計基準書第1109号を2018年1月1日以降に開始する会計年度から適用する予定です。

新たな企業会計基準書第1109号は遡及適用することが原則となっているものの、金融商品の分類・測定、減損の場合は比較情報の再作成を免除する等の一部の例外条項を設けており、リスクヘッジ会計の場合は、オプションの時間価値の会計処理等の一部の例外条項を除いては、非遡及的に適用します。

企業会計基準書第1109号の主な特徴には、金融資産の管理のための事業モデル及び金融資産の契約上のキャッシュ・フローの特性に基づいた金融資産の分類及び測定、予想信用損失に基づいた金融商品の減損モデル、リスクヘッジ会計の適用条件を満たすリスクヘッジ対象項目及びリスクヘッジ手段の拡大またはリスクヘッジ効果の評価方法の変更等を挙げることができます。

企業会計基準書第1109号では、金融資産を償却後原価またはその他包括損益 - 公正価値測定対象に分類するための要件が現行の企業会計基準書第1039号より厳しいため、企業会計基準書第1109号の導入時、当期損益 - 公正価値測定対象金融資産の比率が増加して当期損益の変動性が大きくなる可能性があります。

現行の企業会計基準書第1039号で全部当期損益として認識した当期損益 - 公正価値測定項目に指定した金融負債の公正価値変動のうち、信用リスクの変動による部分はその他包括損益として表示されるため、金融負債の評価に関連して当期損益が減少する可能性があります。

企業会計基準書第1109号では金融資産の当初認識後、信用リスクの増加程度によって下表のように3段階に区分して12ヶ月予想信用損失や全体期間の予想信用損失に該当する金額で損失引当金を測定するように定めているため、現行の企業会計基準書第1039号の発生損失モデルに比べて信用損失を早期に認識することができます。

区分	損失引当金
当初認識後、信用リスクが重要に増加していない場合	12ヶ月予想信用損失：報告期間末以降12ヶ月以内に発生する可能性のある金融商品の債務不履行事象による予想信用損失
当初認識後、信用リスクが重要に増加した場合	全体期間予想信用損失：予想存続期間に発生する可能性のある全ての債務不履行事象による予想信用損失
信用減損の場合	

企業会計基準書第1109号のリスクヘッジ会計を適用する場合、現行の企業会計基準書第1039号のリスクヘッジ会計の適用要件を充足していない一部の取引に対してもリスクヘッジ会計を適用することができるようになったため、当期損益の変動性が減少する可能性があります。

一方、企業会計基準書第1109号を円滑に導入するためには、財務影響に対する分析及び会計方針の樹立、会計システムの構築、システム安定化等の準備作業が必要です。当行は同基準書の導入のために、主な従属企業を対象として2015年11月から財務影響に対する分析及び会計方針の樹立手続に着手し、報告期間末現在において会計システムの構築を進行中で、2017年にシステム安定化の作業を行う計画です。

同基準書を初めて適用する会計期間の財務諸表に及ぼす影響は、同基準書による会計方針の選択及び判断だけでなく、当該期間に当行が保有する金融商品及び経済状況等により異なる可能性があります。これにより、同基準書の適用時に連結財務諸表に及ぼす影響は、報告期間末現在において見積もることは難しいです。当行は今後のシステム構築作業の完了後に、具体的な財務影響を分析する計画です。

2) 企業会計基準書第1115号“顧客との契約で発生する収益”

企業会計基準書第1115号“顧客との契約で発生する収益”は、顧客との全ての契約に適用される単一の基準書として、収益認識のための5段階の分析を提示し、統制に基づいたモデルがリスク及び補償に基づいたモデルを代替します。既存のリスク及び補償のモデルは、遂行義務の履行時点を表す一つの指標に変更されました。同基準書は2018年1月1日以降に開始する会計年度から適用が義務付けられます。

### 3. 金融商品のリスク管理

#### 3-1. 信用リスク

当行は一定水準の信用リスクにさらされています。これは取引相手の義務不履行により当行が財務的損失を被るリスクを意味します。信用リスクは会社の営業活動において最も重要に管理されなければならないリスクに分類され、経営陣は信用リスクエクスポージャーを注意深く管理しています。信用リスクへのエクスポージャーは主に預け金と貸付債権に関連する貸付過程及び債務証券に対する投資活動及びグループ資産ポートフォリオの為替手形等で発生し、貸付約定等の財務諸表のオフバランス勘定に関連する信用リスクが存在します。

##### (1) 信用リスク管理

当行の信用リスク管理に対する基本政策はリスク政策委員会で決定されます。リスク政策委員会はCRO (Chief Risk Officer) を委員長に、CCO (Chief Credit Officer) と事業グループ担当グループ長及びリスク総括部長により構成され、銀行全般の信用リスク管理案と与信政策の方向を意思決定しています。リスク政策委員会と別途で与信審議委員会を設置して巨額与信及び限度承認等の与信審査を分離しており、CCOを委員長に、CROと与信関連事業グループ担当副行長、与信企画部長及び選任審査役で構成され、与信の健全性を引き上げ、運用収益性を向上する方向で与信審査を行っています。

信用リスク対象資産を保有及び管理する全ての営業単位で1次的に当該資産に対するリスク管理を行い、リスク総括部及び与信企画部等の信用リスク管理部署では2次的に銀行全体の信用リスク管理を担当します。リスク総括部、リスク工学部はリスク政策委員会で設定された信用リスク限度及び同一借主別、系列別、業種別、国家別の信用エクスポージャー限度を管理する等、信用ポートフォリオ管理を行っています。また、信用評価システム、担保管理システムの運用を通じたPD、LGD、EAD等の信用リスク算出要素 (Risk Component) を測定及び管理しています。与信意思決定の支援及び牽制組織として与信企画部は銀行全体の与信政策及び制度を管理しており、与信審査部では独立的な信用評価の遂行及び与信意思決定を行っています。また、与信管監理部では巨額与信等に対する個別与信管理を行っています。

全ての与信顧客 (個人及び企業) に対して信用格付が付与されて管理されますが、個人は身上情報、銀行内部実績情報、外部信用情報を合算して算出され、企業の場合は財務項目と産業リスク、営業リスク、経営リスク等の非財務項目等を総合的に考慮して信用評価システムで算出されます。算出された信用格付は与信承認、限度管理、価格決定、貸倒引当金の積立等に活用される等、信用リスク管理の基本となります。

当行の信用評価システムはBasel III要件を反映して個人評価システム（ACE：Automatic Credit Evaluation）、エクスポージャー額5億ウォン以下の小売SOHO信用評価システム、企業信用評価システム（AIRS：Advanced Internal Rating System）を運営しています。

企業与信に対する審査は集団意思決定体制を取ることによって客観的かつ慎重な意思決定を行っています。一般的な与信の場合は営業店のRM（リレーションシップ・マネジャー）と各セグメントの本部審査役の合意の下で与信承認が行われ、規模が大きいか或いは重要な与信の場合は審査協議体等で与信承認が行われます。特に、専決限度を超過する巨額与信等の重要な与信に対しては、与信最高意思決定機構である与信審議委員会で審査を行っています。個人与信は個人与信審査部で客観的な統計方法及び銀行の信用政策に基づく自動化された個人与信評価システム（CSS：Credit Scoring System）によって審査が行われています。

個別与信に対する常時管理のために常時モニタリングシステムを稼働しています。企業与信取引先のうち、不良予想企業を自動検索して審査役とRMによって貸付査定が行われるようにしており、事業グループと独立した与信管理部では貸付査定結果の適正性を判断し、必要に応じて当該企業の信用格付調整を要請します。このような手続に従って不良予想企業を早期警報企業、観察企業及び正常企業に分類した後、リスク段階別の管理指針によって差別管理することで与信の不良化を早期に遮断しています。

専門信用評価機関と提携した財務分析支援システムは与信審査及び管理を支援しており、創造金融支援室で産業格付を算出・管理し、産業動向及び企業情報を分析・提供しています。

## （２） リスク限度管理及びリスク軽減政策

信用リスクを適正水準に統制するために、以下のような限度管理体系を樹立・運用しています。

- 信用リスク限度は信用VaR及びエクスポージャーを基準として事業セグメント別、顧客別、商品別、業種別等、各セグメント別に設定して管理する。
- リスク総括部では信用VaR及びエクスポージャー基準の限度設定と管理業務を行い、与信企画部と与信審査部でも信用リスク管理のために設定されたエクスポージャー限度管理業務を行う。
- リスク総括部、リスク工学部は毎年1回以上、銀行全体の信用リスク限度運営計画を樹立してリスク政策委員会に付議する。
- 各セグメントはセグメント別に割り当てられた信用リスク限度をモニタリングして遵守する。
- 識別された信用リスクに対して個人顧客及び企業顧客、産業と国籍別限度を指定及び管理する。
- 個別借主または借主集団、地理的産業別セグメントに対して受容できるリスクの限度を設定する。

- 当該リスクは年間基準もしくは必要であると判断される場合、期間内に再検討され、商品別、産業別、国家別リスクの限度は四半期別に取り締役会の承認を得る。
- 機関を含めた借主別エクスポージャーは財務諸表上の勘定とオフバランス勘定に対して個別設定された下位水準の限度により管理され、外貨先渡取引等の商品取引に関連する日別の取引に対してもリスクの限度を決定する。
- 限度対比の実際エクスポージャーは日別に管理する。
- 信用リスクエクスポージャーは借主に対する利子と元金償還能力を分析する過程でも管理され、必要な場合はこの過程で貸付限度を変更する。

その他のリスク管理案は以下の通りです。

#### 1) 担保

当行は信用リスクを緩和するための政策と手続を導入しています。信用リスクに関しては一般的に担保が使用され、当行は特定種類の資産に対する質権設定に関する政策を導入しており、主な担保形態は以下の通りです。

- 住宅担保
- 不動産、棚卸資産及び売上債権等
- 債務証券及び持分証券等の金融商品

相対的に長期貸付債権は、通常、担保が設定されています。一方、リボルビング個人信用貸付は無担保である場合が一般的です。また、信用リスクによる損失を最小化するために、当行は資産減損の兆候がある場合、取引相手に追加担保を設定しています。

貸付債権以外の金融資産に対する担保は商品の特性によって差異があります。金融商品ポートフォリオ等の担保設定されたABS等の特殊な場合を除くと、債務証券では無担保が一般的です。

#### 2) デリバティブ

当行は購入後から処分契約の間のデリバティブに対して金額と期間に関する限度を維持して管理しています。

### 3) 一括相殺契約

当行は相当な規模の取引を行うにあたって、取引相手と一括相殺契約を締結することにより信用損失に対するエクスポージャーを制限しています。

取引は通常、総額基準で設定されていることから、一括相殺契約は一般的に財務状態表上、資産と負債を相殺した結果としては表示されません。しかし、取引相手に対する全ての金額が純額基準で設定される時に損失が発生する場合は、利益の生じている契約に関連する信用リスクはその範囲内で一括相殺契約により減少します。

一括相殺契約に属している信用リスクに対するグループの全体的なエクスポージャーは約定に属する各取引に影響を受けるため、短期間内に実質的に変動することもあります。

### 4) 信用関連約定

保証と信用供与は与信のような信用リスクを有しています。信用状（特定期間と状況の下で要求される金額に対し、当行で第三者に手形を発行して顧客に代わり信用を保証）はこれらに関連する基礎的な商品の船積により担保が設定されているため、与信よりも更に低いリスクが伴います。信用補強に対する約定は与信、保証或いは信用状の形態で信用を補強する限度の未使用比率を表します。信用を補強する約定に対する信用リスクに関連して、当行は総未使用約定と同一の金額に対して潜在的にリスクにさらされています。長期約定は一般的に短期約定よりも信用リスクの程度が大きいため、当行は信用約定の満期に対してモニタリングしています。

## (3) 信用リスクエクスポージャー額

当期末及び前期末現在において保有している金融商品の信用リスクエクスポージャー額の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第185(当)期	第184(前)期	
預け金及び 貸付債権 (注1、2)	銀行	6,899,374	6,312,546	
	個人	住居用不動産担保貸付	45,068,556	44,937,825
		その他	58,147,386	52,106,316
		小計	103,215,942	97,044,141
	政府/公共機関/中央銀行	9,800,251	15,092,342	
	企業	大企業	26,472,276	27,139,108
		中小企業	64,606,421	61,726,197
		特殊金融	3,622,514	3,385,588
		その他	541	981
		小計	94,701,752	92,251,874
	合計	214,617,319	210,700,903	
売買目的金融資産	債務証券	7,424,162	5,894,841	
	金/銀預け金	247,845	149,220	
	合計	7,672,007	6,044,061	
デリバティブ資産		2,575,683	1,607,959	
売却可能金融資産	債務証券	23,813,035	21,139,700	
満期保有金融資産	債務証券	11,097,257	9,733,551	
その他金融資産(注1、3)		11,747,817	9,412,474	
オフバランス勘定	金融保証	5,935,702	5,314,941	
	貸付約定及びその他信用関連負債	72,056,734	73,024,178	
	合計	77,992,436	78,339,119	
合計		349,515,554	336,977,767	

(注1) 預け金及び貸付債権、その他金融資産のエクスポージャー額は、未償却残高及び貸倒引当金を減算した純帳簿価額です。

(注2) 新BIS規制(Basel III)の自己資本比率(BIS比率)の算出上、類似する信用リスク集団に分類しました。

(注3) 未収金、未収収益、保証金、未回収内国為替債権、仮払金等で構成されています。

(4) 預け金と貸付債権の減損情報

1) 当期末及び前期末現在における預け金及び貸付債権の減損に関する内訳は以下の通りです。

< 第185(当)期 >

(単位：百万ウォン)

区分	銀行	個人		政府 公共機関 中央銀行	企業				合計
		住居用 不動産 担保貸付	その他		大企業	中小企業	特殊金融	その他	
延滞及び減損されて いない預け金及び 貸付債権	6,907,488	44,860,734	58,103,844	9,801,666	26,483,131	64,528,126	3,613,938	559	214,299,486
延滞されたが減損 されていない 貸付債権	-	167,829	138,875	-	1,165	120,483	17,441	-	445,793
減損された貸付債権	-	55,524	190,249	-	433,334	426,124	32,081	-	1,137,312
小計	6,907,488	45,084,087	58,432,968	9,801,666	26,917,630	65,074,733	3,663,460	559	215,882,591
貸倒引当金	(8,114)	(15,531)	(285,582)	(1,415)	(445,354)	(468,312)	(40,946)	(18)	(1,265,272)
合計	6,899,374	45,068,556	58,147,386	9,800,251	26,472,276	64,606,421	3,622,514	541	214,617,319

< 第184(前)期 >

(単位：百万ウォン)

区分	銀行	個人		政府 公共機関 中央銀行	企業				合計
		住居用 不動産 担保貸付	その他		大企業	中小企業	特殊金融	その他	
延滞及び減損されて いない預け金及び 貸付債権	6,321,582	44,716,126	52,042,943	15,093,675	27,102,686	61,749,628	3,369,805	1,013	210,397,458
延滞されたが減損 されていない 貸付債権	-	179,935	135,756	-	1,747	72,336	-	-	389,774
減損された貸付債権	-	59,237	174,655	-	534,270	387,063	61,020	1	1,216,246
小計	6,321,582	44,955,298	52,353,354	15,093,675	27,638,703	62,209,027	3,430,825	1,014	212,003,478
貸倒引当金	(9,036)	(17,473)	(247,038)	(1,333)	(499,595)	(482,830)	(45,237)	(33)	(1,302,575)
合計	6,312,546	44,937,825	52,106,316	15,092,342	27,139,108	61,726,197	3,385,588	981	210,700,903

2) 当期末及び前期末現在、延滞及び減損されていない預け金及び貸付債権の信用健全性別の構成内訳は以下の通りです。

< 第185 (当) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分	銀行	個人		政府 公共機関 中央銀行	企業				合計
		住居用 不動産 担保貸付	その他		大企業	中小企業	特殊金融	その他	
レベル：1.優良	6,907,488	43,394,535	54,377,823	9,801,666	20,559,021	43,990,865	3,451,587	-	182,482,985
レベル：2.普通	-	1,466,199	3,726,021	-	5,924,110	20,537,261	162,351	559	31,816,501
小計	6,907,488	44,860,734	58,103,844	9,801,666	26,483,131	64,528,126	3,613,938	559	214,299,486
貸倒引当金	(8,114)	(10,316)	(147,582)	(1,415)	(185,038)	(327,234)	(15,518)	(18)	(695,235)
合計	6,899,374	44,850,418	57,956,262	9,800,251	26,298,093	64,200,892	3,598,420	541	213,604,251
担保による 信用リスク軽減効果	67	43,464,748	25,545,314	-	6,722,420	44,035,353	912,512	-	120,680,414

< 第184 (前) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分	銀行	個人		政府 公共機関 中央銀行	企業				合計
		住居用 不動産 担保貸付	その他		大企業	中小企業	特殊金融	その他	
レベル：1.優良	6,321,582	42,499,445	49,517,151	15,093,675	20,442,267	40,170,830	3,057,293	-	177,102,243
レベル：2.普通	-	2,216,681	2,525,792	-	6,660,419	21,578,798	312,512	1,013	33,295,215
小計	6,321,582	44,716,126	52,042,943	15,093,675	27,102,686	61,749,628	3,369,805	1,013	210,397,458
貸倒引当金	(9,036)	(12,136)	(122,846)	(1,333)	(207,200)	(334,360)	(18,764)	(33)	(705,708)
合計	6,312,546	44,703,990	51,920,097	15,092,342	26,895,486	61,415,268	3,351,041	980	209,691,750
担保による 信用リスク軽減効果	1,051	43,657,337	19,626,976	-	7,291,946	42,146,750	815,879	-	113,539,939

- 3) 当期末及び前期末現在、延滞されたものの減損されていない預け金及び貸付債権の延滞期間別の構成内訳は以下の通りです。

< 第185 (当) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分	個人		企業			合計
	住居用不動産 担保貸付	その他	大企業	中小企業	特殊金融	
30日以内延滞	139,657	83,166	1,015	68,551	17,441	309,830
30日～60日延滞	18,590	23,722	-	36,549	-	78,861
60日～90日延滞	9,390	18,756	150	15,378	-	43,674
90日以上延滞	192	13,231	-	5	-	13,428
小計	167,829	138,875	1,165	120,483	17,441	445,793
貸倒引当金	(2,060)	(29,938)	(59)	(8,654)	(90)	(40,801)
合計	165,769	108,937	1,106	111,829	17,351	404,992
担保による 信用リスク軽減効果	161,728	62,206	326	80,063	-	304,323

< 第184 (前) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分	個人		企業			合計
	住居用不動産 担保貸付	その他	大企業	中小企業	特殊金融	
30日以内延滞	148,391	88,514	67	45,372	-	282,344
30日～60日延滞	21,042	23,497	-	18,800	-	63,339
60日～90日延滞	10,310	12,130	1,680	6,464	-	30,584
90日以上延滞	192	11,615	-	1,700	-	13,507
小計	179,935	135,756	1,747	72,336	-	389,774
貸倒引当金	(1,754)	(27,832)	(215)	(4,009)	-	(33,810)
合計	178,181	107,924	1,532	68,327	-	355,964
担保による 信用リスク軽減効果	176,821	62,688	1,142	46,010	-	286,661

4) 当期末及び前期末現在、減損された預け金及び貸付債権の種類別の担保による信用リスク軽減効果の内訳は以下の通りです。

< 第185 (当) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分	個人		企業				合計
	住居用不動産 担保貸付	その他	大企業	中小企業	特殊金融	その他	
減損された貸付債権	55,524	190,249	433,334	426,124	32,081	-	1,137,312
貸倒引当金	(3,155)	(108,062)	(260,257)	(132,424)	(25,338)	-	(529,236)
合計	52,369	82,187	173,077	293,700	6,743	-	608,076
担保による 信用リスク軽減効果	53,243	41,956	120,990	261,177	-	-	477,366

< 第184 (前) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分	個人		企業				合計
	住居用不動産 担保貸付	その他	大企業	中小企業	特殊金融	その他	
減損された貸付債権	59,237	174,655	534,270	387,063	61,020	1	1,216,246
貸倒引当金	(3,583)	(96,360)	(292,180)	(144,461)	(26,473)	-	(563,057)
合計	55,654	78,295	242,090	242,602	34,547	1	653,189
担保による 信用リスク軽減効果	102,653	-	95,492	216,566	-	-	414,711

(5) 債務証券の信用格付別の構成内訳

1) 当期末及び前期末現在における債務証券の信用格付別構成内訳は以下の通りです。

< 第185 (当) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分	売買目的金融資産	売却可能金融資産	満期保有金融資産	合計
AAA	1,251,167	16,411,486	10,464,755	28,127,408
AA-からAA+	20,050	3,440,100	340,659	3,800,809
A-からA+	2,353,020	2,213,032	140,338	4,706,390
BBB-からBBB+	682,779	988,533	120,494	1,791,806
BBB-未満	14,978	85,197	-	100,175
未格付	3,102,168	674,687	31,011	3,807,866
合計	7,424,162	23,813,035	11,097,257	42,334,454

< 第184 (前) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分	売買目的金融資産	売却可能金融資産	満期保有金融資産	合計
AAA	902,570	16,518,009	9,082,331	26,502,910
AA-からAA+	80,131	1,446,950	320,755	1,847,836
A-からA+	1,772,747	1,806,960	330,465	3,910,172
BBB-からBBB+	516,696	716,343	-	1,233,039
BBB-未満	75,916	85,626	-	161,542
未格付	2,546,781	565,812	-	3,112,593
合計	5,894,841	21,139,700	9,733,551	36,768,092

2) 外部評価機関の信用格付による有価証券の信用健全性基準は以下の通りです。

区分	韓国信用評価	韓国企業評価	S&P	Fitch	Moody's
AAA	-	-	AAA	AAA	Aaa
AA-からAA+	AAA	AAA	AA-からAA+	AA-からAA+	Aa3からAa1
A-からA+	AA-からAA+	AA-からAA+	A-からA+	A-からA+	A3からA1
BBB-からBBB+	BBB-からA	BBB-からA	BBB-からBBB+	BBB-からBBB+	Baa3からBaa1
BBB-未満	BBB-未満	BBB-未満	BBB-未満	BBB-未満	Baa3未満
未格付	未格付	未格付	未格付	未格付	未格付

3) 当期末及び前期末現在における債務証券の信用健全性の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	当期末	前期末
延滞及び減損されていない有価証券	42,334,454	36,768,092
減損された有価証券	-	-
合計	42,334,454	36,768,092

(6) 当期末及び前期末現在において、担保の実行により取得した資産はありません。

(7) 地域別の構成内訳

当期末及び前期末現在において保有している金融商品の地域別構成内訳は以下の通りです。

< 第185 (当) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分	韓国	アメリカ	イギリス	日本	ドイツ	ベトナム	中国	その他	合計
< 預け金 >									
銀行	102,902	491,573	4,909	8,891	25,715	83	15,130	106,781	755,984
政府/公共機関/中央銀行	6,874,819	231,207	-	-	-	-	-	121,833	7,227,859
預け金小計	6,977,721	722,780	4,909	8,891	25,715	83	15,130	228,614	7,983,843
< 貸付債権 >									
銀行	2,144,623	-	-	458,842	584,082	66,383	1,580,608	1,308,852	6,143,390
個人	102,687,887	184,190	1,284	3,259	2,008	898	181,815	154,601	103,215,942
住居用不動産担保貸付	44,716,036	109,919	977	2,071	94	843	156,714	81,902	45,068,556
その他	57,971,851	74,271	307	1,188	1,914	55	25,101	72,699	58,147,386
政府/公共機関/中央銀行	2,551,060	-	-	-	-	-	-	21,332	2,572,392
企業	89,503,322	972,600	60,174	447	191	500,652	548,240	3,116,126	94,701,752
大企業	24,807,550	335,648	42,137	-	-	139,244	80,018	1,067,679	26,472,276
中小企業	61,505,464	613,091	18,037	447	171	361,408	468,222	1,639,581	64,606,421
特殊金融	3,189,859	23,850	-	-	-	-	-	408,805	3,622,514
その他	449	11	-	-	20	-	-	61	541
貸付債権小計	196,886,892	1,156,790	61,458	462,548	586,281	567,933	2,310,663	4,600,911	206,633,476
< 売買目的金融資産 >									
債務証券	7,424,162	-	-	-	-	-	-	-	7,424,162
金預け金	-	-	247,845	-	-	-	-	-	247,845

売買目的金融資産小計	7,424,162	-	247,845	-	-	-	-	-	7,672,007
<売却可能金融資産>									
債務証券	22,849,730	325,674	58,912	40,661	35,911	-	138,639	363,508	23,813,035
<満期保有金融資産>									
債務証券	10,967,508	9,246	-	-	-	-	-	120,503	11,097,257
合計	245,106,013	2,214,490	373,124	512,100	647,907	568,016	2,464,432	5,313,536	257,199,618

<第184(前)期>

(単位:百万ウォン)

区分	韓国	アメリカ	イギリス	日本	ドイツ	ベトナム	中国	その他	合計
<預け金>									
銀行	19,186	144,323	6,232	618	1,332	-	2,800	42,756	217,247
政府/公共機関/中央銀行	10,753,092	254,244	602	-	-	-	-	86,810	11,094,748
預け金小計	10,772,278	398,567	6,834	618	1,332	-	2,800	129,566	11,311,995
<貸付債権>									
銀行	2,367,223	31,611	-	316,574	579,075	266,057	1,680,910	853,849	6,095,299
個人	96,643,416	182,219	1,622	5,201	2,818	181	66,190	142,494	97,044,141
住居用不動産担保貸付	44,934,734	1,432	-	-	-	-	174	1,485	44,937,825
その他	51,708,682	180,787	1,622	5,201	2,818	181	66,016	141,009	52,106,316
政府/公共機関/中央銀行	3,994,254	-	-	-	-	-	-	3,340	3,997,594
企業	87,708,901	740,746	108,986	446	1,849	378,350	656,473	2,656,123	92,251,874
大企業	26,143,205	37,322	88,595	-	1,668	55,616	116,879	695,823	27,139,108
中小企業	58,700,526	688,334	20,391	446	171	322,734	539,594	1,454,001	61,726,197
特殊金融	2,864,297	15,064	-	-	-	-	-	506,227	3,385,588
その他	873	26	-	-	10	-	-	72	981
貸付債権小計	190,713,794	954,576	110,608	322,221	583,742	644,588	2,403,573	3,655,806	199,388,908
<売買目的金融資産>									
債務証券	5,894,841	-	-	-	-	-	-	-	5,894,841
金預け金	-	-	149,220	-	-	-	-	-	149,220
売買目的金融資産小計	5,894,841	-	149,220	-	-	-	-	-	6,044,061
<売却可能金融資産>									
債務証券	20,736,831	110,006	23,388	22,335	34,984	-	5,900	206,256	21,139,700
<満期保有金融資産>									
債務証券	9,733,551	-	-	-	-	-	-	-	9,733,551
合計	237,851,295	1,463,149	290,050	345,174	620,058	644,588	2,412,273	3,991,628	247,618,215



(8) 産業別の構成内訳

当期末及び前期末現在において保有している金融商品の産業別構成内訳は以下の通りです。

< 第185 (当) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分	金融及び 保険業	製造業	卸売及び 小売業	不動産賃貸 及び事業 サービス業	建設業	宿泊及び 飲食店業	その他	個人顧客	合計
< 預け金 >									
銀行	753,903	-	-	-	-	-	2,081	-	755,984
政府/公共機関/中央銀行	7,201,312	3,990	-	-	-	-	22,557	-	7,227,859
預け金小計	7,955,215	3,990	-	-	-	-	24,638	-	7,983,843
< 貸付債権 >									
銀行	5,558,791	-	-	110,443	-	-	474,156	-	6,143,390
個人	-	-	-	-	-	-	-	103,215,942	103,215,942
住居用不動産担保貸付	-	-	-	-	-	-	-	45,068,556	45,068,556
その他	-	-	-	-	-	-	-	58,147,386	58,147,386
政府/公共機関/中央銀行	2,569,077	-	-	3,315	-	-	-	-	2,572,392
企業	2,200,571	37,226,736	13,343,174	17,394,960	2,120,323	4,472,112	17,943,876	-	94,701,752
大企業	1,080,551	15,240,500	3,490,964	707,574	540,712	203,477	5,208,498	-	26,472,276
中小企業	320,537	21,971,379	9,776,357	15,900,780	1,225,496	4,222,641	11,189,231	-	64,606,421
特殊金融	799,483	14,567	75,835	786,603	354,115	45,994	1,545,917	-	3,622,514
その他	-	290	18	3	-	-	230	-	541
貸付債権小計	10,328,439	37,226,736	13,343,174	17,508,718	2,120,323	4,472,112	18,418,032	103,215,942	206,633,476
< 売買目的金融資産 >									
債務証券	4,801,368	579,068	870,993	85,713	-	3,746	1,083,274	-	7,424,162
金預け金	247,845	-	-	-	-	-	-	-	247,845
売買目的金融資産小計	5,049,213	579,068	870,993	85,713	-	3,746	1,083,274	-	7,672,007
< 売却可能金融資産 >									
債務証券	18,478,023	662,599	80,941	351,962	167,325	-	4,072,185	-	23,813,035
< 満期保有金融資産 >									
債務証券	4,034,782	24,179	-	62,881	30,000	-	6,945,415	-	11,097,257
合計	45,845,672	38,496,572	14,295,108	18,009,274	2,317,648	4,475,858	30,543,544	103,215,942	257,199,618

## &lt; 第184 (前) 期 &gt;

(単位：百万ウォン)

区分	金融及び 保険業	製造業	卸売及び 小売業	不動産賃貸 及び事業 サービス業	建設業	宿泊及び 飲食店業	その他	個人顧客	合計
< 預け金 >									
銀行	202,201	-	-	-	-	-	15,046	-	217,247
政府/公共機関/中央銀行	10,815,955	-	-	-	-	-	278,793	-	11,094,748
預け金小計	11,018,156	-	-	-	-	-	293,839	-	11,311,995
< 貸付債権 >									
銀行	5,395,595	-	-	67,609	-	-	632,095	-	6,095,299
個人	-	-	-	-	-	-	-	97,044,141	97,044,141
住居用不動産担保貸付	-	-	-	-	-	-	-	44,937,825	44,937,825
その他	-	-	-	-	-	-	-	52,106,316	52,106,316
政府/公共機関/中央銀行	3,996,594	-	-	-	-	-	1,000	-	3,997,594
企業	2,109,746	36,315,980	12,607,607	17,002,344	2,414,760	4,478,549	17,322,888	-	92,251,874
大企業	984,518	16,220,711	3,556,341	548,441	794,682	233,368	4,801,047	-	27,139,108
中小企業	556,167	20,069,845	9,025,992	15,676,244	1,224,480	4,205,110	10,968,359	-	61,726,197
特殊金融	569,061	24,906	25,239	777,624	395,598	40,030	1,553,130	-	3,385,588
その他	-	518	35	35	-	41	352	-	981
貸付債権小計	11,501,935	36,315,980	12,607,607	17,069,953	2,414,760	4,478,549	17,955,983	97,044,141	199,388,908
< 売買目的金融資産 >									
債務証券	3,932,046	341,801	499,979	19,969	10,231	19,902	1,070,913	-	5,894,841
金預け金	149,220	-	-	-	-	-	-	-	149,220
売買目的金融資産小計	4,081,266	341,801	499,979	19,969	10,231	19,902	1,070,913	-	6,044,061
< 売却可能金融資産 >									
債務証券	16,791,161	576,786	60,612	188,484	187,407	-	3,335,250	-	21,139,700
< 満期保有金融資産 >									
債務証券	3,489,862	-	-	73,578	99,955	-	6,070,156	-	9,733,551
合計	46,882,380	37,234,567	13,168,198	17,351,984	2,712,353	4,498,451	28,726,141	97,044,141	247,618,215

### 3-2. 市場リスク

市場リスクは金利、株価、為替レート等のような市場価格の変動により発生する可能性のある損失リスクを意味します。当行は短期売買差益の獲得を目的として保有する有価証券、外国為替ポジション、デリバティブ等をトレーディングポジションとして管理し、与信、預け金及び短期売買差益の獲得目的を除いた債務証券等で構成された金利敏感資産及び受信、借入金、社債等で構成された金利敏感負債、金利リスクヘッジのためにリスクヘッジ手段として使用する金利敏感デリバティブを非トレーディングポジションとして管理しています。

当行はリスク政策委員会で市場リスク管理に関する政策樹立、限度設定等の意思決定機能を行い、リスク総括部は銀行全体の運用部署及びデスクに対する総合的な市場リスク管理を行い、リスク工学部は市場リスクシステム管理及びミドル・オフィス機能を果たしています。

市場リスク管理の基本は市場リスクによる最大損失可能額を一定水準以内で維持するための限度管理です。リスク政策委員会は運用部署及びデスク別VaR限度、損失限度、感応度限度、投資限度及びポジション限度、ストレス損失限度等を設定して運営しており、リスク総括部及びリスク工学部は運用部署とは独立して運営状況をモニタリングし、リスク政策委員会及びリスク管理委員会に定期的に報告しています。また、公正価額評価協議会及びリスク総括部は各事業セグメントの新商品（または取引）が施行される以前に公正価額評価方法に対する検討及びリスク評価等を遂行し、デリバティブ及び仕組商品リスクレビュー協議会でリスク要因に対する点検、投資規模制限を検討する等、合理的な意思決定を支援して事前にリスク要因に対する客観的な分析、検討が行われるようにしています。

#### (1) トレーディングポジションの市場リスク管理

トレーディングポジション測定対象である外国為替、株式、債券、デリバティブ取引データは、フロントシステムに取引を入力して管理し、市場リスク管理システム（RiskWatch）により自動インターフェースを行って日別にリスク測定及び限度管理を実施しています。また、統計的方法によるリスク測定を補完し、経済環境の急激な変化による影響度及び損失規模の管理のために定期的にストレステストを並行して実施しており、これにより当行の危機状況時に損失規模が一定範囲以内で管理されるようにしています。

## 1) トレーディングポジションから発生する市場リスクの測定方法

当行はトレーディングポジションがさらされている金利、株価、為替レート等の各リスクに対し、歴史的なシミュレーションVaR (Value at Risk) 方法論を適用して99.9%信頼区間で市場リスクを算出します。VaRは反対の市場状況から現在のポジションに対する潜在的な損失の統計学的な評価に基づいています。これは99.9%の信頼レベルで当行にて発生可能な最大損失金額を表現しています。そのため、実際の損失がVaRの測定値より大きいという統計学的な可能性(0.1%)が存在します。

VaRモデルは、測定時点の日別ポジションが維持されると同時に各測定時点から過去10日間の市場の動向が今後とも継続するとの仮定に従って予想損失を測定しています。

過去の動向に対する当行の評価は過去5年間のデータに基づいており、現在ポジションで金利、株価、為替レート、オプション変動性の歴史的な変化を直接的に適用する歴史的シミュレーション方法を使用しています。また、VaR計算上で使用される仮定と媒介変数の有効性テストを定期的にモニタリングしており、同方法の適用は各パラメーターの想定を超える大規模な市場変動によるリスクを防ぐものではありません。

当行のVaR限度は毎年、リスク管理委員会により設定されており、この限度に対する実際のエクスポージャー額は毎日検討されています。また、VaRモデルの品質はVaR結果に対する事後検証により継続してモニタリングしており、全ての事後検証の結果を取締役に報告します。

## 2) トレーディングポジションのVaR

当行は連結財務諸表基準でトレーディングポートフォリオに対するVaRを管理しています。当行が保有しているトレーディングポジションに対する報告期間中の最小、最大、平均VaR及び報告期間末のVaRの内訳は以下の通りです。

< 第185(当)期 >

(単位：百万ウォン)

区分	平均	最大	最小	当期末
金利リスク	33,246	48,851	18,764	44,447
株価リスク	5,161	5,787	4,815	5,484
為替レートリスク(注)	56,089	61,389	53,678	60,088
オプション変動性リスク	149	256	101	221
商品リスク	13	35	-	21
分散効果	(38,677)	(54,670)	(24,272)	(49,278)
VaR合計	55,981	61,648	53,086	60,983

&lt; 第184 (前) 期 &gt;

(単位：百万ウォン)

区分	平均	最大	最小	前期末
金利リスク	37,341	43,746	33,849	35,976
株価リスク	8,258	9,049	6,995	7,056
為替レートリスク(注)	45,102	54,459	36,549	44,475
オプション変動性リスク	355	550	262	262
商品リスク	5	21	-	3
分散効果	(35,789)	(45,895)	(25,953)	(30,699)
VaR合計	55,272	61,930	51,702	57,073

(注) トレーディングポジション及び非トレーディングポジションを含む金額です。

## (2) 非トレーディングポジションの市場リスク管理

非トレーディングポジションから発生する最も主要な市場リスクは金利リスクです。そのため、非トレーディングポジションの市場リスクは市場金利の変動により純資産価値及び純受取利息が変動するリスクで測定されます。

当行はリスク政策委員会で金利リスク管理に関する政策樹立、詳細限度設定等の意思決定機能を行い、同原則及び限度内で国外店舗を始めとした子会社及び資金部、信託部、総合金融市場部等、勘定別管理部署は1次的に金利リスクを認識して管理します。リスク総括部及びリスク工学部はリスク政策委員会の金利リスク関連意思決定を支援し、金利リスクの許容限度超過如何をモニタリングし、会社全体の金利リスクを評価して管理します。

当行はALMシステム(OFSA)を通じて金利ギャップ、デュレーションギャップ、シナリオ別NII(Net Interest Income)シミュレーション等、様々な分析方法を利用して金利リスクを測定及び管理しており、金利VaR、金利EaR、金利ギャップ比率に対しては限度を設定して月別にモニタリングしています。また、ストレステストを通じて様々な危機状況で金利リスクに及ぼす影響を評価しています。

## 1) 非トレーディングポジションから発生する市場リスクの測定方法

当行は歴史的な金利シナリオにより発生する純資産価値の変動分布を把握して今後1年間の最大損失予想額である金利VaR (Value at Risk) を確率論的に評価・管理します。また、資金量シナリオに基づいて過去の基準金利と年平均金利との変動性を活用した歴史的な金利シナリオにより発生する純受取利息の変動分布を把握して今後1年間の最大純受取利息の減少予想額である金利EaR (Earning at Risk) を確率論的に評価・管理します。

また、国際決済銀行 (BIS) が提示した標準方法論により、満期区間別の標準修正デューレーション及び金利変動性を利用して金利VaRを算出し、満期区間別の金利変動により影響を受ける期間及び金利変動性を利用して金利EaRを算出しています。

## 2) 非トレーディングポジションの金利VaR及び金利EaR

当期末及び前期末現在においてBISが提示した標準方法論に従って算出された非トレーディングポジションに対する金利VaR及び金利EaRの内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185 (当) 期	第184 (前) 期
金利VaR	652,266	710,719
金利EaR	24,811	163,054

## (3) 外国為替リスク

当行は国外支店等の現物、先物外国為替ポジションを全て含めた総合ポジションに基づいて為替リスクを管理しています。リスク政策委員会は市場リスク限度に基づいて部署別、デスク別の外国為替ポジション限度等を設定して各営業単位別にトレーディング及び非トレーディング活動での為替リスクを管理・監督しています。当行の金融工学センターで銀行全体の為替ポジションを集中して管理しています。同部署のデスク及びディーラーは設定された市場リスク及び外国為替ポジション限度内で現物為替と通貨デリバティブ取引を通じて総合ポジションを管理します。主に米ドル (USD)、日本円 (JPY)、ユーロ (EUR)、人民元 (CNY) で取引されており、その他の外国為替は制限的に運用します。

当期末及び前期末現在における外貨建資産・負債の通貨別構成内訳は以下の通りです。

< 第185 (当) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分	米ドル	日本円	ユーロ	人民元	その他	合計
< 資産 >						
現金預け金	1,388,958	124,350	115,040	32,072	215,820	1,876,240
売買目的金融資産	44,678	-	-	-	247,845	292,523
デリバティブ資産	59,340	107	-	-	400	59,847
貸付債権	14,612,771	740,119	894,473	51,808	1,997,070	18,296,241
売却可能金融資産	1,130,056	-	4,178	-	152,459	1,286,693
満期保有金融資産	26,584	-	-	-	127,335	153,919
その他金融資産	1,690,010	367,034	117,092	263,518	90,258	2,527,912
資産合計	18,952,397	1,231,610	1,130,783	347,398	2,831,187	24,493,375
< 負債 >						
預金	9,284,612	675,774	372,817	73,852	1,173,016	11,580,071
売買目的金融負債	-	-	-	-	485,995	485,995
デリバティブ負債	105,380	-	-	-	295	105,675
借入負債	5,777,706	282,223	169,869	6,643	159,164	6,395,605
社債	3,857,223	103,681	152,112	207,912	34,438	4,355,366
その他金融負債	1,999,552	435,054	181,817	265,293	162,242	3,043,958
負債合計	21,024,473	1,496,732	876,615	553,700	2,015,150	25,966,670
相殺後外貨資産	(2,072,076)	(265,122)	254,168	(206,302)	816,037	(1,473,295)
オフバランス・デリバティブ エクスポージャー額	2,063,897	(15,111)	(282,164)	86,910	(753,040)	1,100,492
外貨純エクスポージャー額	(8,179)	(280,233)	(27,996)	(119,392)	62,997	(372,803)

&lt; 第184 (前) 期 &gt;

(単位：百万ウォン)

区分	米ドル	日本円	ユーロ	人民元	その他	合計
< 資産 >						
現金預け金	1,624,179	113,495	84,579	17,524	184,084	2,023,861
売買目的金融資産	-	-	-	-	149,220	149,220
デリバティブ資産	76,151	30	2,596	-	129	78,906
貸付債権	14,381,910	813,764	777,221	25,057	1,256,734	17,254,686
売却可能金融資産	817,339	-	16,979	-	171,000	1,005,318
満期保有金融資産	-	-	-	-	4,222	4,222
その他金融資産	2,225,712	251,200	125,560	505,737	63,751	3,171,960
資産合計	19,125,291	1,178,489	1,006,935	548,318	1,829,140	23,688,173
< 負債 >						
預金	7,336,845	886,396	207,096	43,362	687,221	9,160,920
売買目的金融負債	-	-	-	-	453,605	453,605
デリバティブ負債	58,210	19	-	-	77	58,306
借入負債	6,659,517	185,239	287,704	5,176	35,398	7,173,034
社債	3,131,783	291,603	153,664	216,660	144,381	3,938,091
その他金融負債	2,368,280	162,939	335,866	511,944	184,147	3,563,176
負債合計	19,554,635	1,526,196	984,330	777,142	1,504,829	24,347,132
相殺後外貨資産	(429,344)	(347,707)	22,605	(228,824)	324,311	(658,959)
オフバランス・デリバティブ エクスポージャー額	737,265	96,937	(55,922)	100,387	(362,963)	515,704
外貨純エクスポージャー額	307,921	(250,770)	(33,317)	(128,437)	(38,652)	(143,255)

### 3-3. 流動性リスク

当行はリスク政策委員会で流動性リスク管理に関する政策樹立、詳細限度設定等の意思決定機能を行い、同原則及び限度内で国外店舗を始めとした子会社と資金部、信託部、総合金融市場部等、勘定別管理部署が1次的に流動性リスクを認識して管理します。リスク総括部及びリスク工学部はリスク政策委員会の流動性リスクに関連する意思決定を支援し、流動性リスク許容限度をモニタリングし、銀行全体の流動性リスクを評価して管理します。

当行は以下の基本原則に基づいて流動性リスクを管理しています。

- 1) 十分な量の資金を必要な時点で、適切な水準の調達費用で調達
- 2) 許容限度及び早期警報指標の管理を通じてリスクを適正水準に維持し、関連リスク要因を事前に管理
- 3) 資金の調達源泉と満期を効果的に分散させる資金調達戦略を樹立して損失を最小化し、安定的に収益確保
- 4) 正常な状況及び危機状況で適時に支払決済債務を履行することができるように毎日日中流動性ポジション及びリスクを管理
- 5) 流動性危機発生に備えて危機状況分析を定期的を実施し、危機発生時に措置できる非常調達計画を樹立
- 6) 流動性関連費用、便益及びリスクは商品価格決定、成果評価及び新商品の承認手続に反映

当行はALMシステムを通じて流動性ギャップ、流動性比率、預貸率、顧客行動モデルを反映した実質流動性ギャップ等、様々な分析方法を利用する一方、リスク限度、早期警報指標、モニタリング指標等、様々な管理指標を通じてウォン貨及び外貨流動性リスクを管理しています。資産及び負債の満期構造分析時、要求払預金の場合は顧客の支払要請時には常時引出が可能で最短期に分類することができますが、通常は一定比率の平均残高を維持する顧客の行動を勘案して非コア預金を最短期に区分して流動性リスクを管理します。

## (1) 金融商品の残存期間

当期末及び前期末現在における金融商品資産及び金融商品負債の残存期間別の構成内訳は以下の通りです。

< 第185(当)期 >

(単位：百万ウォン)

区分	1ヶ月以下	1～3ヶ月	3～6ヶ月	6ヶ月～1年	1～5年	5年超過	合計
< 資産 >							
現金預け金	9,640,895	14,680	1,778	-	470	-	9,657,823
売買目的金融資産	9,277,441	-	-	-	-	-	9,277,441
デリバティブ資産	2,595,860	43,781	62,792	118,786	270,886	117,375	3,209,480
貸付債権	18,243,701	24,769,681	33,551,388	49,863,205	54,209,095	46,716,599	227,353,669
売却可能金融資産	24,976,025	-	-	-	-	1,526,767	26,502,792
満期保有金融資産	41,285	164,525	127,523	1,291,806	9,260,051	1,386,961	12,272,151
その他金融資産	10,697,405	-	-	-	1,108,311	-	11,805,716
資産合計	75,472,612	24,992,667	33,743,481	51,273,797	64,848,813	49,747,702	300,079,072
< 負債 >							
当期損益認識指定 金融負債	35	-	1,916	-	4,598	-	6,549
預金	112,374,692	19,951,625	27,152,389	45,764,375	8,557,646	1,086,807	214,887,534
売買目的金融負債	485,995	-	-	-	-	-	485,995
デリバティブ負債	2,478,244	24,418	29,040	27,249	81,619	26,054	2,666,624
借入負債	4,961,013	1,690,847	1,073,366	2,419,488	3,405,191	602,162	14,152,067
社債	622,461	1,188,455	3,075,140	3,931,525	9,958,411	4,028,492	22,804,484
その他金融負債	12,039,289	-	-	-	121,158	-	12,160,447
負債合計	132,961,729	22,855,345	31,331,851	52,142,637	22,128,623	5,743,515	267,163,700

&lt; 第184 (前) 期 &gt;

(単位：百万ウォン)

区分	1ヶ月以下	1～3ヶ月	3～6ヶ月	6ヶ月～1年	1～5年	5年超過	合計
< 資産 >							
現金預け金	13,120,313	5,876	11,756	-	-	-	13,137,945
売買目的金融資産	6,750,765	-	-	-	-	-	6,750,765
デリバティブ資産	1,602,132	200,356	63,397	79,454	138,195	42,056	2,125,590
貸付債権	18,287,616	23,212,448	31,131,950	47,381,117	51,756,561	48,555,051	220,324,743
売却可能金融資産	23,069,621	-	-	-	-	869,341	23,938,962
満期保有金融資産	15,301	109,177	388,673	738,878	8,031,642	1,733,090	11,016,761
その他金融資産	6,029,770	-	-	-	3,465,748	-	9,495,518
資産合計	68,875,518	23,527,857	31,595,776	48,199,449	63,392,146	51,199,538	286,790,284
< 負債 >							
当期損益認識指定 金融負債	-	-	491	-	13,675	-	14,166
預金	100,271,940	20,307,377	24,651,552	47,909,253	8,399,311	1,020,950	202,560,383
売買目的金融負債	463,766	-	-	-	-	-	463,766
デリバティブ負債	1,464,777	22,756	16,357	28,301	59,384	30,157	1,621,732
借入負債	3,366,640	2,182,511	1,271,735	2,050,705	3,674,874	543,234	13,089,699
社債	344,194	1,475,375	1,546,216	5,504,832	9,884,763	2,964,351	21,719,731
その他金融負債	14,732,746	-	-	-	124,327	-	14,857,073
負債合計	120,644,063	23,988,019	27,486,351	55,493,091	22,156,334	4,558,692	254,326,550

表示された金額は金融商品資産及び金融商品負債の元金及び利息のキャッシュ・フローを全て含めています。割引されていないキャッシュ・フローに基づき当行の支払義務が発生する最も早い満期日で分類しました。また、直ちに処分可能な売買目的金融商品及び処分制限された資産を除いた売却可能金融資産は1ヶ月以内の最短期に分類しました。

## (2) オフバランス項目の残存期間

当行が提供した社債発行、融資担保等、金融保証に該当する支払保証、貸付約定及びその他信用供与の場合、約定満期が存在するものの、取引相手が支払を要請する場合には直ちに支払を履行しなければなりません。

当期末及び前期末現在における関連オフバランス項目の構成内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
金融保証	5,935,702	5,314,941
貸付約定及びその他信用関連負債	72,056,734	73,024,178
合計	77,992,436	78,339,119

#### 3-4. 金融商品の公正価値測定

活発な市場で取引される金融商品の公正価値は、報告期間終了日現在において告示される市場価格に基づき算定されます。当行が保有している金融資産の開示される市場価格は、売買仲介機関の開示価格に基づいています。

活発な市場で取引されない金融商品(例：店頭デリバティブ)の公正価値は、評価手法を使用して決定するか、或いは独立した外部専門評価機関の評価結果を利用します。

当行は多様な評価手法を活用しており、報告期間終了日現在における市場状況に基づき合理的な仮定を樹立しています。

当行が使用する公正価値の評価手法には、合理的な判断力及び取引意思がある独立した当事者間の最近取引を使用する方法、実質的に同一な他の金融商品の現行公正価値を利用することができればこれを参照する方法、見積キャッシュ・フロー割引方法、オプション価格決定モデル等があります。例えば、金利スワップの公正価値は将来予想キャッシュ・フローの現在価値で計算され、外国為替先渡契約の公正価値は報告期間末の告示先渡為替レートを適用して算出されます。

当行は、金融商品の公正価値を以下の3つのレベルに分類して開示します。

- レベル1：活発な市場で開示される価格を公正価値として測定する金融商品の場合、同金融商品の公正価値はレベル1に分類しています。
- レベル2：評価手法を使用して金融商品の公正価値を測定する場合、重要な投入変数が市場で観測した情報に基づいていれば、同金融商品の公正価値はレベル2に分類しています。
- レベル3：評価手法を使用して金融商品の公正価値を測定する場合、重要な投入変数が市場で観測不可能な情報に基づいていれば、同金融商品の公正価値はレベル3に分類しています。

## (1) 公正価値で測定する金融商品

1) 当期末及び前期末現在、財務状態表にて公正価値で測定する金融商品の公正価値序列体系のレベル別の内訳は以下の通りです。

< 第185(当)期 >

(単位：百万ウォン)

区分		レベル1	レベル2	レベル3	合計
売買目的金融資産	債務証券	555,329	6,868,833	-	7,424,162
	持分証券	4,994	1,600,440	-	1,605,434
	金/銀預け金	247,845	-	-	247,845
	小計	808,168	8,469,273	-	9,277,441
デリバティブ資産	売買目的	-	2,535,128	25,370	2,560,498
	リスクヘッジ目的	-	7,520	7,665	15,185
	小計	-	2,542,648	33,035	2,575,683
売却可能金融資産	債務証券	6,445,116	17,367,919	-	23,813,035
	持分証券	596,538	988,791	1,104,428	2,689,757
	小計	7,041,654	18,356,710	1,104,428	26,502,792
資産合計		7,849,822	29,368,631	1,137,463	38,355,916
当期損益認識指定金融負債	預金	-	4,277	2,005	6,282
売買目的金融負債	金/銀預金	485,995	-	-	485,995
デリバティブ負債	売買目的	-	2,443,746	3,803	2,447,549
	リスクヘッジ目的	-	74,524	259,127	333,651
	小計	-	2,518,270	262,930	2,781,200
負債合計		485,995	2,522,547	264,935	3,273,477

&lt; 第184 (前) 期 &gt;

(単位：百万ウォン)

区分		レベル1	レベル2	レベル3	合計
売買目的金融資産	債務証券	632,613	5,262,228	-	5,894,841
	持分証券	6,427	700,277	-	706,704
	金/銀預け金	149,220	-	-	149,220
	小計	788,260	5,962,505	-	6,750,765
デリバティブ資産	売買目的	-	1,547,548	7,689	1,555,237
	リスクヘッジ目的	-	24,824	27,898	52,722
	小計	-	1,572,372	35,587	1,607,959
売却可能金融資産	債務証券	7,774,284	13,365,416	-	21,139,700
	持分証券	1,040,313	880,061	878,888	2,799,262
	小計	8,814,597	14,245,477	878,888	23,938,962
資産合計		9,602,857	21,780,354	914,475	32,297,686
当期損益認識指定金融負債	預金	-	10,542	2,967	13,509
売買目的金融負債	売渡有価証券	10,161	-	-	10,161
	金/銀預金	453,605	-	-	453,605
	小計	463,766	-	-	463,766
デリバティブ負債	売買目的	-	1,440,354	5,416	1,445,770
	リスクヘッジ目的	-	31,589	91,972	123,561
	小計	-	1,471,943	97,388	1,569,331
負債合計		463,766	1,482,485	100,355	2,046,606

2) 当期及び前期において公正価値で測定する金融商品のうちレベル1とレベル2の間の移動金額はありません。

## 3) 公正価値レベル3に分類された金融商品の内訳

当期及び前期において公正価値レベル3に該当する金融商品の増減内訳は以下の通りです。

< 第185 (当) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分	売却可能 金融資産	純デリバティブ	当期損益認識 指定金融負債	合計
期首金額	878,888	(61,801)	(2,967)	814,120
総損益				
当期損益認識金額(注1)	13,470	(188,240)	(5)	(174,775)
その他包括損益認識金額	(37,397)	-	-	(37,397)
購入/発行	360,099	(1,163)	-	358,936
決済	(105,320)	1,621	967	(102,732)
レベル3への移動(注2)	-	19,688	-	19,688
レベル3からの移動(注2)	(5,312)	-	-	(5,312)
期末	1,104,428	(229,895)	(2,005)	872,528

< 第184 (前) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分	売却可能 金融資産	純デリバティブ	当期損益認識 指定金融負債	合計
期首金額	1,039,266	44,513	(3,085)	1,080,694
総損益				
当期損益認識金額(注1)	59,561	(89,761)	6	(30,194)
その他包括損益認識金額	(79,793)	-	-	(79,793)
購入/発行	214,975	2,050	(179)	216,846
決済	(291,622)	(18,542)	291	(309,873)
レベル3への移動(注2)	1,397	-	-	1,397
レベル3からの移動(注2)	(64,896)	(61)	-	(64,957)
期末	878,888	(61,801)	(2,967)	814,120

(注1) 当期及び前期に公正価値レベル3に分類された金融商品の増減内訳のうち、当期損益として認識された金額及び報告期間末現在、保有している金融商品に関連する当期損益認識額は包括損益計算書上、以下のような個別項目で表示されています。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期		第184(前)期	
	当期損益 認識金額	報告期間末保有 金融商品 に関連する 当期損益認識額	当期損益 認識金額	報告期間末保有 金融商品 に関連する 当期損益認識額
売買目的金融商品関連損益	(1,016)	(1,016)	(122)	(122)
当期損益認識指定金融商品関連損益	(5)	(5)	6	6
売却可能金融資産処分損益	22,042	483	123,215	-
金融商品資産減損損失	(8,572)	(7,914)	(63,654)	(61,007)
その他営業損益	(187,224)	(187,224)	(89,639)	(89,639)
合計	(174,775)	(195,676)	(30,194)	(150,762)

(注2) 当該金融商品に対する観測可能な市場資料の利用可能性が変更されたことによりレベル間の移動が発生しました。当行はレベル間移動を発生させる事象や状況の変動が発生した報告期間末にレベルの変動を認識します。

#### 4) 公正価値の評価手法及び投入変数

当期末及び前期末現在、公正価値レベル2に分類された金融商品の公正価値の測定時に使用された評価手法と投入変数及び帳簿価額は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第185(当)期	第184(前)期	評価方法	投入変数
売買目的 金融資産	債務証券	6,868,833	5,262,228	キャッシュ・フロー 割引モデル	割引率
	持分証券	1,600,440	700,277	純資産価値評価	株式、債券等の 基礎資産の価格
	小計	8,469,273	5,962,505		
デリバティブ 資産	売買目的	2,535,128	1,547,548	オプションモデル	割引率、為替レート、 変動性、株価及び 商品指数等
	リスクヘッジ 目的	7,520	24,824	キャッシュ・フロー 割引モデル	
	小計	2,542,648	1,572,372		
売却可能 金融資産	債務証券	17,367,919	13,365,416	キャッシュ・フロー 割引モデル	割引率
	持分証券	988,791	880,061	純資産価値評価	株式、債券等の 基礎資産の価格
	小計	18,356,710	14,245,477		

資産合計		29,368,631	21,780,354		
当期損益認識 指定金融負債	預金	4,277	10,542	オプションモデル	割引率、変動性、 株価指数
デリバティブ 負債	売買目的	2,443,746	1,440,354	オプションモデル	割引率、為替レート、 変動性、株価及び 商品指数等
	リスクヘッジ 目的	74,524	31,589	キャッシュ・フロー 割引モデル	
	小計	2,518,270	1,471,943		
負債合計		2,522,547	1,482,485		

当期末及び前期末現在において公正価値レベル3に分類された金融商品の公正価値測定時に使用された評価手法及び重要であるが観測不可能な投入変数は以下の通りです。

< 第185 (当) 期 >

(単位：百万ウォン)

金融商品種類	価値評価手法	種類	帳簿価額	重要であるが、観測 できない投入変数	範囲
デリバティブ 資産	オプションモデル(注)	株式及び 為替レート関連	22,723	基礎資産の変動性 相関係数	13.10% ~ 21.99% (19.03%)
	オプションモデル(注)	利率関連	10,312	基礎資産の変動性 回帰係数 相関係数	0.54% ~ 0.87% 0.02% ~ 2.05% 61.01%
	小計		33,035		
売却可能 金融資産	キャッシュ・フロー 割引モデル	持分証券	1,104,428	割引率 成長率	1.73% ~ 18.49% 0.00%
資産合計			1,137,463		
当期損益認識 指定金融負債	オプションモデル(注)	株式関連	2,005	基礎資産の変動性 相関係数	15.97% ~ 29.44% (1.80%) ~ 61.10%
デリバティブ 負債	オプションモデル(注)	株式及び 為替レート関連	1,156	基礎資産の変動性 相関係数	19.90% ~ 33.69% (19.03%) ~ 61.10%
	オプションモデル(注)	利率関連	261,774	基礎資産の変動性 回帰係数 相関係数	0.51% ~ 0.87% 0.02% ~ 3.02% 42.93% ~ 61.01%
	小計		262,930		
負債合計			264,935		

(注) デリバティブ公正価値を測定するために適用されたオプションモデルはブラックショールズモデル、ハルホワイトモデル等を含めており、商品類型によって一部商品に対してはモンテカルロシミュレーション (Monte Carlo simulation) 等の方法を適用しています。

< 第184 (前) 期 >

(単位：百万ウォン)

金融商品種類	価値評価手法	種類	帳簿価額	重要であるが、 観測できない投入変 数	範囲
デリバティブ 資産	オプションモデル(注)	株式及び 為替レート関連	2,346	基礎資産の変動性 相関係数	6.75% ~ 34.62% 0.87%
	オプションモデル(注)	利率関連	33,241	基礎資産の変動性 回帰係数 相関係数	0.44% ~ 0.65% 0.02% ~ 2.05% 49.53% ~ 94.60%
	小計		35,587		
売却可能 金融資産	割引された キャッシュ・フロー	持分証券	878,888	割引率 成長率	1.72% ~ 20.65% 0.00% ~ 2.50%
資産合計			914,475		
当期損益認識 指定金融負債	オプションモデル(注)	株式関連	2,967	基礎資産の変動性 相関係数	22.20% ~ 28.48% 15.43% ~ 52.70%
デリバティブ 負債	オプションモデル(注)	株式及び 為替レート関連	64	基礎資産の変動性 相関係数	10.20% ~ 34.62% 0.87% ~ 52.70%
	オプションモデル(注)	利率関連	97,324	基礎資産の変動性 回帰係数 相関係数	0.16% ~ 0.65% 0.02% ~ 2.04% 31.38% ~ 94.60%
	小計		97,388		
負債合計			100,355		

(注) デリバティブ公正価値を測定するために適用されたオプションモデルはブラックショールズモデル、ハルホワイトモデル等を含めており、商品類型によって一部商品に対してはモンテカルロシミュレーション (Monte Carlo simulation) 等の方法を適用しています。

5) 観測不可能な投入変数の変更に対する感応度

当期末及び前期末現在、レベル3に分類された金融商品の公正価値の測定時に観測不可能な投入変数を合理的に代替可能な他の投入変数に変更する場合、当期損益またはその他包括損益等として認識される変動の効果は以下の通りです。

< 第185 ( 当 ) 期 >

( 単位 : 百万ウォン )

金融商品		当期損益		その他包括損益	
		有利な変動	不利な変動	有利な変動	不利な変動
デリバティブ資産 (注1)	株式及び為替レート関連	1,652	(1,039)	-	-
	利率関連	1,397	(1,488)	-	-
売却可能金融資産 (注2)	持分証券	-	-	12,673	(6,531)
資産合計		3,049	(2,527)	12,673	(6,531)
当期損益認識指定 金融負債 (注1)	株式関連	1	(1)	-	-
デリバティブ負債 (注1)	株式及び為替レート関連	59	(68)	-	-
	利率関連	8,211	(9,424)	-	-
負債合計		8,271	(9,493)	-	-

< 第184 ( 前 ) 期 >

( 単位 : 百万ウォン )

金融商品		当期損益		その他包括損益	
		有利な変動	不利な変動	有利な変動	不利な変動
デリバティブ資産 (注1)	株式及び為替レート関連	1,118	(719)	-	-
	利率関連	1,293	(5,100)	-	-
売却可能金融資産 (注2)	持分証券	-	-	24,001	(6,839)
資産合計		2,411	(5,819)	24,001	(6,839)
当期損益認識指定 金融負債 (注1)	株式関連	4	(4)	-	-
デリバティブ負債 (注1)	株式及び為替レート関連	11	(9)	-	-
	利率関連	4,218	(14,421)	-	-
負債合計		4,233	(14,434)	-	-

(注1) 主な観測不可能な投入変数の基礎資産の変動性または相関係数等を10%増加または減少させることにより、公正価値の変動を算出しています。

(注2) 主な観測不可能な投入変数の成長率(0%~1%)及び割引率(-1%~1%)を増加または減少させることにより、公正価値の変動を算出しています。

(2) 償却後原価で測定する金融商品

1) 償却後原価で測定する金融商品の公正価値算出方法は以下の通りです。

勘定科目	公正価値算出方法
現金預け金	現金は帳簿価額及び公正価値が同一で、預け金は変動利率預け金及び超短期性である翌日預け金はその大部分であるため、公正価値の代用値として帳簿価額を使用しました。
貸付債権	貸付債権の公正価値は受け取るものと予想される期待キャッシュ・フローを市場利子率及び借主の信用リスク等を考慮した割引率で割り引いて算出しました。
満期保有 金融資産	韓国資産評価(株)、KIS債権評価(株)が提供する最近取引日の基準単価のうち、いずれか低い金額を公正価値として算出しました。
預金及び 借入負債	要求払預金、手形管理口座受託金、コールマネーは超短期性負債として、帳簿価額を公正価値として評価しています。残りの預金及び借入負債は、契約上のキャッシュ・フローを市場利子率に残余リスクを考慮した割引率で割り引いた現在価値を公正価値として算出しました。
社債	活発な市場価格に基づいています。活発な市場価格が有効ではない場合は、契約上のキャッシュ・フローを市場利子率に残余リスクを考慮した割引率で割り引いた現在価値を公正価値として算出しました。

2) 当期末及び前期末現在、償却後原価で測定する金融商品の帳簿価額及び公正価値は以下の通りです。

&lt; 第185 (当) 期 &gt;

(単位：百万ウォン)

勘定科目		帳簿価額				公正価値
		残高	未償却残高	引当金	合計	
現金 預け金	現金	1,669,277	-	-	1,669,277	1,669,277
	預け金	7,985,154	-	(1,311)	7,983,843	7,983,843
	小計	9,654,431	-	(1,311)	9,653,120	9,653,120
貸付債権	家計貸付	93,629,743	319,007	(254,408)	93,694,342	94,240,314
	企業貸付	107,064,233	57,763	(996,410)	106,125,586	106,726,162
	公共及びその他資金貸付	2,092,423	1,204	(7,682)	2,085,945	2,096,380
	銀行間資金貸付	4,733,065	-	(5,462)	4,727,603	4,727,748
	小計	207,519,464	377,974	(1,263,962)	206,633,476	207,790,604
満期保有金 融資産	国公債	6,634,424	-	-	6,634,424	6,811,858
	金融債	680,918	-	-	680,918	685,090
	社債	3,781,915	-	-	3,781,915	3,808,886
	小計	11,097,257	-	-	11,097,257	11,305,834
その他金融資産		11,805,716	(32,539)	(25,360)	11,747,817	11,770,356
資産合計		240,076,868	345,435	(1,290,633)	239,131,670	240,519,914
預金	要求払預金	88,657,290	-	-	88,657,290	88,657,290
	期限付預金	109,477,445	-	-	109,477,445	109,465,602
	譲渡性預金証書	5,827,823	-	-	5,827,823	5,850,737
	発行手形預金	4,581,276	-	-	4,581,276	4,581,110
	手形管理口座受託金	2,473,048	-	-	2,473,048	2,473,048
	その他	26,799	-	-	26,799	26,800
	小計	211,043,681	-	-	211,043,681	211,054,587
借入負債	コールマネー	592,819	-	-	592,819	592,819
	売渡手形	12,427	-	-	12,427	12,407
	買戻条件付売渡債券	380,037	-	-	380,037	380,037
	借入負債	12,960,318	(723)	-	12,959,595	12,974,010
	小計	13,945,601	(723)	-	13,944,878	13,959,273

社債	ウォン貨社債	16,604,738	(19,599)	-	16,585,139	16,652,141
	外貨社債	4,355,367	(17,180)	-	4,338,187	4,345,499
	小計	20,960,105	(36,779)	-	20,923,326	20,997,640
その他金融負債		12,226,777	(2,404)	-	12,224,373	12,203,270
負債合計		258,176,164	(39,906)	-	258,136,258	258,214,770

< 第184 (前) 期 >

(単位：百万ウォン)

勘定科目		帳簿価額				公正価値
		残高	未償却残高	引当金	合計	
現金 預け金	現金	1,823,134	-	-	1,823,134	1,823,134
	預け金	11,312,628	-	(633)	11,311,995	11,311,995
	小計	13,135,762	-	(633)	13,135,129	13,135,129
貸付債権	家計貸付	88,085,947	293,118	(219,664)	88,159,401	89,344,666
	企業貸付	105,950,060	48,500	(1,067,730)	104,930,830	105,878,987
	公共及びその他資金貸付	2,129,768	2,183	(7,961)	2,123,990	2,132,915
	銀行間資金貸付	4,181,274	-	(6,587)	4,174,687	4,181,086
	小計	200,347,049	343,801	(1,301,942)	199,388,908	201,537,654
満期保有金 融資産	国公債	5,638,796	-	-	5,638,796	5,914,323
	金融債	351,420	-	-	351,420	360,750
	社債	3,743,335	-	-	3,743,335	3,813,067
	小計	9,733,551	-	-	9,733,551	10,088,140
その他金融資産		9,495,517	(41,830)	(41,213)	9,412,474	9,445,934
資産合計		232,711,879	301,971	(1,343,788)	231,670,062	234,206,857
預金	要求払預金	79,490,427	-	-	79,490,427	79,490,427
	期限付預金	109,379,582	-	-	109,379,582	109,570,875
	譲渡性預金証書	4,072,668	-	-	4,072,668	4,089,777
	発行手形預金	3,018,551	-	-	3,018,551	3,018,428
	手形管理口座受託金	2,280,816	-	-	2,280,816	2,280,816
	その他	30,088	-	-	30,088	30,092
	小計	198,272,132	-	-	198,272,132	198,480,415

借入負債	コールマネー	92,458	-	-	92,458	92,458
	売渡手形	24,245	-	-	24,245	24,198
	買戻条件付売渡債券	366,912	-	-	366,912	366,912
	借入負債	12,321,357	(1,684)	-	12,319,673	12,355,833
	外貨受託金	71,810	-	-	71,810	71,840
	小計	12,876,782	(1,684)	-	12,875,098	12,911,241
社債	ウォン貨社債	15,989,119	(31,794)	-	15,957,325	16,248,094
	外貨社債	3,938,091	(10,805)	-	3,927,286	3,970,791
	小計	19,927,210	(42,599)	-	19,884,611	20,218,885
その他金融負債		14,924,631	(2,651)	-	14,921,980	14,900,944
負債合計		246,000,755	(46,934)	-	245,953,821	246,511,485

3) 当期末及び前期末現在において財務状態表で公正価値で測定されないが、公正価値で開示される金融資産負債の評価レベル別公正価値の内訳は以下の通りです。

< 第185(当)期 >

(単位：百万ウォン)

区分		レベル1	レベル2	レベル3	合計
現金預け金	現金	1,669,277	-	-	1,669,277
	預け金	-	7,983,843	-	7,983,843
	小計	1,669,277	7,983,843	-	9,653,120
貸付債権	家計貸付	-	-	94,240,314	94,240,314
	企業貸付	-	-	106,726,162	106,726,162
	公共及びその他資金貸付	-	-	2,096,380	2,096,380
	銀行間資金貸付	-	1,570,196	3,157,552	4,727,748
	小計	-	1,570,196	206,220,408	207,790,604
満期保有 金融資産	国公債	2,017,133	4,794,725	-	6,811,858
	金融債	600,846	84,244	-	685,090
	社債	-	3,808,886	-	3,808,886
	小計	2,617,979	8,687,855	-	11,305,834
その他金融資産		-	9,790,287	1,980,069	11,770,356
資産合計		4,287,256	28,032,181	208,200,477	240,519,914

預金	要求払預金	-	88,657,290	-	88,657,290
	期限付預金	-	-	109,465,602	109,465,602
	譲渡性預金証書	-	-	5,850,737	5,850,737
	発行手形預金	-	-	4,581,110	4,581,110
	手形管理口座受託金	-	2,473,048	-	2,473,048
	その他	-	-	26,800	26,800
	小計	-	91,130,338	119,924,249	211,054,587
借入負債	コールマネー	-	592,819	-	592,819
	売渡手形	-	-	12,407	12,407
	買戻条件付売渡債券	-	-	380,037	380,037
	借入負債	-	-	12,974,010	12,974,010
	小計	-	592,819	13,366,454	13,959,273
社債	ウォン貨社債	-	14,212,419	2,439,722	16,652,141
	外貨社債	-	4,345,499	-	4,345,499
	小計	-	18,557,918	2,439,722	20,997,640
その他金融負債		-	4,651,912	7,551,358	12,203,270
負債合計		-	114,932,987	143,281,783	258,214,770

< 第184 (前) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分		レベル1	レベル2	レベル3	合計
現金預け金	現金	1,823,134	-	-	1,823,134
	預け金	-	11,311,995	-	11,311,995
	小計	1,823,134	11,311,995	-	13,135,129
貸付債権	家計貸付	-	-	89,344,666	89,344,666
	企業貸付	-	-	105,878,987	105,878,987
	公共及びその他資金貸付	-	-	2,132,915	2,132,915
	銀行間資金貸付	-	937,640	3,243,446	4,181,086
	小計	-	937,640	200,600,014	201,537,654
満期保有 金融資産	国公債	2,131,593	3,782,730	-	5,914,323
	金融債	102,921	257,829	-	360,750
	社債	-	3,813,067	-	3,813,067
	小計	2,234,514	7,853,626	-	10,088,140

その他金融資産		-	7,464,015	1,981,919	9,445,934
資産合計		4,057,648	27,567,276	202,581,933	234,206,857
預金	要求払預金	-	79,490,427	-	79,490,427
	期限付預金	-	-	109,570,875	109,570,875
	譲渡性預金証書	-	-	4,089,777	4,089,777
	発行手形預金	-	-	3,018,428	3,018,428
	手形管理口座受託金	-	2,280,816	-	2,280,816
	その他	-	-	30,092	30,092
	小計	-	81,771,243	116,709,172	198,480,415
借入負債	コールマネー	-	92,458	-	92,458
	売渡手形	-	-	24,198	24,198
	買戻条件付売渡債券	-	-	366,912	366,912
	借入負債	-	-	12,355,833	12,355,833
	外貨受託金	-	-	71,840	71,840
	小計	-	92,458	12,818,783	12,911,241
社債	ウォン貸社債	-	13,885,710	2,362,384	16,248,094
	外貨社債	-	3,970,791	-	3,970,791
	小計	-	17,856,501	2,362,384	20,218,885
その他金融負債		-	7,284,256	7,616,688	14,900,944
負債合計		-	107,004,458	139,507,027	246,511,485

4) 当期末及び前期末現在、公正価値の開示のために使用された評価手法及び投入変数は以下の通りです。

< 第185 (当) 期 >

(単位：百万ウォン)

公正価値レベル	区分	公正価値(注)	評価モデル	投入変数
レベル2	満期保有金融資産	8,687,855	キャッシュ・フロー 割引モデル	割引率
レベル3	貸付債権	206,220,408		割引率、信用スプレッド、 早期償還率
	その他金融資産	1,980,069		割引率
資産合計		216,888,332		

レベル2	社債	18,557,918	キャッシュ・フロー 割引モデル	割引率
レベル3	預金	119,875,884		割引率
	借入負債	7,824,101		割引率
	社債	2,439,722		割引率、回帰係数、相関係数
	その他金融負債	7,551,358		割引率
負債合計		156,248,983		

< 第184 (前) 期 >

(単位：百万ウォン)

公正価値レベル	区分	公正価値(注)	評価モデル	投入変数
レベル2	満期保有金融資産	7,853,626	キャッシュ・フロー 割引モデル	割引率
レベル3	貸付債権	200,600,014		割引率、信用スプレッド、 早期償還率
	その他金融資産	1,981,919		割引率
資産合計		210,435,559		
レベル2	社債	17,856,501	キャッシュ・フロー 割引モデル	割引率
レベル3	預金(注)	116,613,826		割引率
	借入負債(注)	7,808,466		割引率
	社債	2,362,384		割引率、回帰係数、相関係数
	その他金融負債	7,616,688		割引率
負債合計		152,257,865		

(注) 帳簿価額を公正価値の合理的な近似値とみなして帳簿価額を公正価値として開示した項目に関連する評価手法及び投入変数は開示していません。

(3) 繰延対象取引日損益

当期及び前期において公正価値で測定される金融商品の当初認識時に発生した取引日(day1)損益の変動内訳は以下の通りです。

< 第185 (当) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分	期首	繰延	償却	期末
当期損益認識指定金融負債	(39)	-	27	(12)
株式スワップ	38	-	(26)	12

< 第184 (前) 期 >

(単位：百万ウォン)

	期首	繰延	償却	期末
当期損益認識指定金融負債	(64)	(8)	33	(39)
株式スワップ	63	-	(25)	38

## (4) 金融商品のカテゴリー別分類

金融資産及び金融負債は公正価値または償却後原価で測定されます。金融商品のカテゴリー別帳簿価額の詳細な測定方法は注記2で説明しています。当期末及び前期末現在における各金融資産及び金融負債のカテゴリー別帳簿価額は以下の通りです。

&lt; 第185(当)期 &gt;

(単位：百万ウォン)

金融資産	売買目的 金融資産	売却可能 金融資産	満期保有 金融資産	貸付金及び 受取債権	リスクヘッジ デリバティブ資産	合計
預け金	-	-	-	7,983,843	-	7,983,843
売買目的金融資産	9,277,441	-	-	-	-	9,277,441
デリバティブ資産	2,560,498	-	-	-	15,185	2,575,683
貸付債権	-	-	-	206,633,476	-	206,633,476
売却可能金融資産	-	26,502,792	-	-	-	26,502,792
満期保有金融資産	-	-	11,097,257	-	-	11,097,257
その他金融資産	-	-	-	11,747,817	-	11,747,817
資産合計	11,837,939	26,502,792	11,097,257	226,365,136	15,185	275,818,309

(単位：百万ウォン)

金融負債	当期損益認識金融負債		償却後原価 測定金融負債	リスクヘッジ デリバティブ 負債	合計
	売買目的 金融負債	当期損益認識 金融負債			
預金	-	-	211,043,681	-	211,043,681
売買目的金融負債	485,995	-	-	-	485,995
当期損益認識金融負債	-	6,282	-	-	6,282
デリバティブ負債	2,447,549	-	-	333,651	2,781,200
借入負債	-	-	13,944,878	-	13,944,878
社債	-	-	20,923,326	-	20,923,326
その他金融負債	-	-	12,224,373	-	12,224,373
負債合計	2,933,544	6,282	258,136,258	333,651	261,409,735

&lt; 第184 (前) 期 &gt;

(単位：百万ウォン)

金融資産	売買目的 金融資産	売却可能 金融資産	満期保有 金融資産	貸付金及び 受取債権	リスクヘッジ デリバティブ資産	合計
預け金	-	-	-	11,311,995	-	11,311,995
売買目的金融資産	6,750,765	-	-	-	-	6,750,765
デリバティブ資産	1,555,237	-	-	-	52,722	1,607,959
貸付債権	-	-	-	199,388,908	-	199,388,908
売却可能金融資産	-	23,938,962	-	-	-	23,938,962
満期保有金融資産	-	-	9,733,551	-	-	9,733,551
その他金融資産	-	-	-	9,412,474	-	9,412,474
資産合計	8,306,002	23,938,962	9,733,551	220,113,377	52,722	262,144,614

(単位：百万ウォン)

金融負債	当期損益認識金融負債		償却後原価 測定金融負債	リスクヘッジ デリバティブ負債	合計
	売買目的 金融負債	当期損益認識 金融負債			
預金	-	-	198,272,132	-	198,272,132
売買目的金融負債	463,766	-	-	-	463,766
当期損益認識金融負債	-	13,509	-	-	13,509
デリバティブ負債	1,445,770	-	-	123,561	1,569,331
借入負債	-	-	12,875,098	-	12,875,098
社債	-	-	19,884,611	-	19,884,611
その他金融負債	-	-	14,921,980	-	14,921,980
負債合計	1,909,536	13,509	245,953,821	123,561	248,000,427

## (5) 金融収益及び金融費用

当期及び前期における金融収益及び金融費用の詳細内訳は以下の通りです。

< 第185 (当) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分	受取利息 (支払利息)	受取手数料 (支払手数料)	減損損失	その他	合計	その他 包括損益
売買目的金融資産	111,606	6,782	-	(10,205)	108,183	-
売却可能金融資産	406,714	-	(83,260)	498,233	821,687	(285,789)
満期保有金融資産	305,441	-	-	-	305,441	-
貸付金及び受取債権	6,284,010	204,432	(638,586)	16,922	5,866,778	-
売買目的金融負債	-	72	-	-	72	-
当期損益認識金融負債	-	-	-	(206)	(206)	-
償却後原価測定金融負債	(2,978,630)	120	-	240,602	(2,737,908)	(13,845)
純リスクヘッジデリバティブ	-	-	-	(247,598)	(247,598)	-
合計	4,129,141	211,406	(721,846)	497,748	4,116,449	(299,634)

< 第184 (前) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分	受取利息 (支払利息)	受取手数料 (支払手数料)	減損損失	その他	合計	その他 包括損益
売買目的金融資産	87,607	5,855	-	149,871	243,333	-
売却可能金融資産	443,945	-	(206,570)	564,147	801,522	(311,644)
満期保有金融資産	308,455	-	-	-	308,455	-
貸付金及び受取債権	6,312,413	144,648	(591,988)	88,812	5,953,885	-
売買目的金融負債	-	(6)	-	-	(6)	-
当期損益認識金融負債	-	-	-	(16)	(16)	-
償却後原価測定金融負債	(3,281,172)	(5)	-	141,029	(3,140,148)	-
純リスクヘッジデリバティブ	-	-	-	(141,138)	(141,138)	-
合計	3,871,248	150,492	(798,558)	802,705	4,025,887	(311,644)

### 3-5. 資本リスク管理

銀行に対する自己資本規制制度は、1980年代の金融規制緩和による金融機関のリスク増加により、銀行の健全性を確保し、預金者保護及び国際金融秩序の安定性を確保するために、BIS加盟国を中心に1988年に導入されました。当初のBasel規制の導入以降、規制自己資本の要求量が銀行の保有リスクをより効率的に反映できる方向に発展してきました。Basel委員会（BCBS）はグローバル金融危機以降、銀行システムの復元力強化のためにBasel III基準を設けて発表し、韓国は銀行業監督規定の改正を通じて2013年12月1日から従来よりも強化した資本規制であるBasel IIIを施行しています。同基準は当行を含めた国内銀行が普通株資本比率、基本資本比率、総自己資本比率に対して施行日から段階的にそれぞれ一定比率以上を維持することを義務付けており、当行は国内銀行の監督機構である金融監督院に銀行に関連する法規による自己資本比率の遵守を報告しています。

上記の監督法規により、当行が管理する規制資本は以下の2つに分類されます。

#### 1) Tier 1 capital (基本資本：普通株資本 + その他基本資本)

普通株資本：銀行の損失を最も先に補填することができ、銀行清算時の最劣後で、清算時を除いては償還されない資本である。普通株、資本剰余金、利益剰余金（貸倒準備金を除く）、その他包括損益累計額、その他資本剰余金、資本調整、銀行の従属企業の非支配株主持分の一部金額等を含みます。

その他基本資本：永久的な性格の認定要件を満たす資本証券及びこれに関連する資本剰余金、従属企業が発行したその他基本資本の外部投資家の保有金額のうち一部金額等を含みます。

#### 2) Tier 2 capital (補完資本)

清算時に銀行の損失を補填することができる認定要件を満たす資本証券及びこれに関連する資本剰余金、従属企業が発行した補完資本の外部投資家の保有金額のうち一部金額等を含みます。

自己資本比率は自己資本（上記の基本資本と補完資本の合計から控除項目を減算した金額）をリスク加重資産で除して算出します。リスク加重資産（risk weighted assets）は、銀行の実質的なリスクを反映するために、リスクにさらされている程度が高いほどに、高い加重値を適用して算出し、信用リスク加重資産、運営リスク加重資産及び市場リスク加重資産の合計で構成されます。

当行は、別途の内部基準を通じて資本適正性を評価及び管理しています。資本適正性の評価は、経済的資本（エクスポージャー別に内在されたリスクに備えるために銀行が保有すべき実質的な必要資本量として、銀行内部のリスク認識及び評価基準により算出されたリスク量）に比べて可用資本（銀行の実際の損失発生時に損失処理に引き当てられる資本）の水準が適切であるかどうかを銀行内部的に評価することを意味します。当行

はリスクの類型別（信用、市場、運営、金利、流動性、偏重リスク）に算出されたリスクの合算金額及び各類型別の金額を管理します。

当行は、リスク加重資産に対する自己資本比率を連結財務諸表に基づき算出、管理しており、当期末及び前期末における自己資本比率は以下の通りです。

（単位：百万ウォン）

区分			第185（当）期	第184（前）期
総自己資本	Tier 1	普通株資本	19,913,369	17,324,193
		その他基本資本	472,121	805,603
		基本資本	20,385,490	18,129,796
	Tier 2	補完資本	3,953,215	3,240,443
	合計		24,338,705	21,370,239
総リスク加重資産			155,027,378	144,843,681
総自己資本比率	Tier 1	普通株資本比率	12.85%	11.96%
		基本資本比率	13.15%	12.52%
	Tier 2	補完資本比率	2.55%	2.24%
	合計		15.70%	14.75%

当行は上表のように、資本適正性基準（総自己資本比率8.0%以上、基本資本比率6.0%以上、普通株資本比率4.5%以上）を遵守しています。

## 3-6. 金融商品の譲渡取引

## (1) 除去条件が充足されていない金融商品

## 1) 買戻条件付売渡債券

当期末及び前期末現在において買戻条件付売渡債券のうち当行が保有有価証券を確定価格で再買入することを条件として売却し、除去条件が充足されていない金融商品の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第185(当)期	第184(前)期
譲渡資産	売却可能金融資産	125,536	134,939
	満期保有金融資産	374,086	349,528
	小計	499,622	484,467
関連負債	買戻条件付売渡債券	380,037	366,912

## 2) 有価証券貸借取引

当行が保有している有価証券を貸し付ける場合、有価証券の所有権は移転されるものの、貸付期間満了時に当該有価証券を返還しなければならないため、当行は当該有価証券のリスク及び経済価値の大部分を保有することによって貸付有価証券の全体を継続して認識しています。当期末及び前期末現在における貸付有価証券の帳簿価額は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期	貸付先
国公債	40,186	29,788	韓国証券金融
金融債	260,014	130,019	韓国証券金融、韓国預託決済院
合計	300,200	159,807	

## (2) 認識の中止条件を充足するが、継続的に関与する金融商品

当期末及び前期末現在、認識中止条件を充足するものの、当行が継続して関与する金融商品はありません。

## 3-7. 金融商品の相殺

当期末及び前期末現在において実行可能な一括相殺約定またはこれに類似する約定の適用を受ける金融商品の内訳は以下の通りです。

< 第185 (当) 期 >

(単位：百万ウォン)

金融資産	認識された 金融資産 総額	相殺される 認識された 金融負債総額	財務状態表に 表示される 金融資産純額	財務状態表で 相殺されていない関連金額		純額
				金融商品	受け取った 現金担保	
デリバティブ資産 (注1)	2,571,192	-	2,571,192	4,950,273	287,143	1,379,621
その他金融資産 (注1)	4,045,845	-	4,045,845			
買戻条件付売渡担保 有価証券 (注2)	499,622	-	499,622	380,037	-	119,585
売戻条件付買入 (貸付債権) (注2)	3,475,156	-	3,475,156	3,475,156	-	-
貸付有価証券 (注2)	300,200	-	300,200	300,200	-	-
未回収内国為替債権 (注3)	30,365,320	24,299,035	6,066,285	-	-	6,066,285
証券未収金等 (注4)	1,891	494	1,397	-	-	1,397
合計	41,259,226	24,299,529	16,959,697	9,105,666	287,143	7,566,888

(単位：百万ウォン)

金融負債	認識された 金融負債 総額	相殺される 認識された 金融資産総額	財務状態表に 表示される 金融負債純額	財務状態表で 相殺されていない関連金額		純額
				金融商品	提供した 現金担保	
デリバティブ負債 (注1)	2,776,727	-	2,776,727	4,950,273	467,195	1,013,231
その他金融負債 (注1)	3,653,972	-	3,653,972			
買戻条件付売渡 (借入負債) (注2)	380,037	-	380,037	380,037	-	-
売渡有価証券						
未払内国為替債務 (注3)	25,221,294	24,299,035	922,259	922,259	-	-
証券未払金等 (注4)	499	494	5	5	-	-
合計	32,032,529	24,299,529	7,733,000	6,252,574	467,195	1,013,231

&lt; 第184 (前) 期 &gt;

(単位：百万ウォン)

金融資産	認識された 金融資産 総額	相殺される 認識された 金融負債総額	財務状態表に 表示される 金融資産純額	財務状態表で 相殺されていない関連金額		純額
				金融商品	受け取った 現金担保	
デリバティブ資産(注1)	1,605,684	-	1,605,684	6,182,907	-	887,440
その他金融資産(注1)	5,464,663	-	5,464,663			
買戻条件付売渡担保 有価証券(注2)	484,467	-	484,467	366,912	-	117,555
売戻条件付買入 (貸付債権)(注2)	5,028,080	-	5,028,080	5,028,080	-	-
貸付有価証券(注2)	159,807	-	159,807	159,807	-	-
未回収内国為替債権(注3)	27,204,105	24,896,522	2,307,583	-	-	2,307,583
証券未収金(注4)	2,117	523	1,594	-	-	1,594
合計	39,948,923	24,897,045	15,051,878	11,737,706	-	3,314,172

(単位：百万ウォン)

金融負債	認識された 金融負債 総額	相殺される 認識された 金融資産総額	財務状態表に 表示される 金融負債純額	財務状態表で 相殺されていない関連金額		純額
				金融商品	提供した 現金担保	
デリバティブ負債(注1)	1,566,725	-	1,566,725	6,205,671	-	506,168
その他金融負債(注1)	5,145,114	-	5,145,114			
買戻条件付売渡 (借入負債)(注2)	366,912	-	366,912	366,912	-	-
売渡有価証券	10,161	-	10,161	10,161	-	-
未払内国為替債務(注3)	27,024,454	24,896,522	2,127,932	2,127,932	-	-
証券未払金等(注4)	575	523	52	47	-	5
合計	34,113,941	24,897,045	9,216,896	8,710,723	-	506,173

(注1) 当行の店頭デリバティブの一部はISDA (International Derivatives Swaps and Dealers

Association) 一括相殺約定によって取引が行われています。同約定によると、取引相手の不渡のような信用事件発生時に当該取引相手との全てのデリバティブ取引が解約され、解約時点で取引当事者が各取引別に支払われるか、或いは支払われるべき金額を互いに相殺して単一金額を一方が他の取引相手に支払うこととなります。

- (注2) 買戻条件付売買取引及び有価証券貸借取引等もISDA一括相殺約定と類似する相殺約定の適用を受けています。
- (注3) 銀行間の内国為替取引による債権及び債務を処理する勘定で法的相殺権利を保有して純額で決済しているため、財務状態表に純額で表示しています。
- (注4) 市場内で取引される上場株式の決済による債権及び債務を処理する勘定で法的相殺権利を保有して純額で決済しているため、財務状態表に純額で表示しています。当期末の金額の場合には、中央清算所制度による店頭デリバティブの市場内決済による関連債権と債務の相殺金額が含まれています。

[次へ](#)

#### 4 . 重要な会計見積及び判断

当行は財務諸表を作成するにあたって将来に対する見積及び仮定に対する判断を行っています。このような見積及び判断は継続的に評価され、過去の経験及び現在の状況で合理的に予測可能な将来の事象のような他の要素を考慮して行われます。このように算出された会計見積値は実際の発生結果と一致しないこともあります。報告期間末現在、計上された資産及び負債の帳簿価額を重要に変動させる重要なリスクを含む会計見積及び仮定に対する判断は以下の通りです。

##### (1) 法人税

通常の営業過程で最終税金価額の決定を不確定とするいくつかの種類取引及び計算方式が存在します。当行は報告期間末現在までの営業活動の結果として将来に負担すると予想される税効果を、最善の見積過程を経て当期法人税及び繰延税金として認識しました。しかし、実際の将来の最終法人税負担額は認識した関連資産・負債と一致しないこともあり、このような差異は最終の税効果が確定された時点の当期法人税及び繰延税金資産・負債に影響を与えることもあります。

##### (2) 金融商品の公正価値

活発な市場で取引されない金融商品（例：店頭デリバティブ）の公正価値は評価手法を使用して決定しています。当行は報告期間終了日現在に主要市場状況に基づいて様々な評価手法の選択及び仮定に対する判断を行っています。当行は正常取引市場で取引されない様々な金融商品の公正価値を決定するために評価モデルを利用する場合、一般的な価値評価モデルから発展させた独自の評価モデルまで様々な方法を使用しますが、この際、様々な投入変数及び仮定が適用されます。

### (3) 貸倒引当金、支払保証引当負債及び未使用約定引当負債

当行は貸付債権に対して減損を評価して貸倒引当金を設定し、支払保証及び未使用約定限度に対しては引当負債を設定します。このような信用損失に対する引当金は、個別評価貸倒引当金の見積のための借主別期待キャッシュ・フローの見積、集合評価貸倒引当金及び支払保証、未使用約定引当負債の見積のために使用されたモデルの仮定及び変数により決定されます。

### (4) 確定給付債務

確定給付債務の現在価値は保険数理的方式により決定される様々な要素によって異なることとなります。年金の純費用（利益）を決定するにあたり使用される仮定は割引率を含んでおり、このような仮定の変動は確定給付債務の帳簿価額に影響を与えます。

当行は半期別に適合する割引率を決定しています。このような割引率は確定給付債務の精算時に発生が予想される将来の見積現金流出額の現在価値を決定する際に使用されなければならない利率を表します。当行は、年金が支給される通貨で表示され、関連確定給付債務の期間と類似する満期を有する優良社債の利率を考慮して、適切な割引率を決定しています。確定給付債務に関連する他の主な仮定は一部、現在の市場状況に基づいています。

### (5) 売却可能持分証券の減損

売却可能持分証券の公正価値が取得原価以下に著しくまたは継続的に下落する場合は、減損が発生したという客観的な証拠に該当します。これに従い、当行は取得原価対比で30%以上の公正価値の下落を“著しい下落”、市場性のある持分証券の市場価格が取得原価以下に下落した状態が6ヶ月以上継続する場合は“継続的な下落”とみなしました。

## 5. 現金預け金

## (1) 現金預け金の種類別の内訳

当期末及び前期末現在における現金預け金の種類別の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第185(当)期	第184(前)期
現金		1,669,277	1,823,134
ウォン貨預け金	支払準備預け金	2,718,354	7,794,542
	その他金融機関預け金	3,754,828	1,850,250
	小計	6,473,182	9,644,792
外貨預け金	外貨他店預け金	1,485,239	1,631,492
	外貨定期預け金	26,008	25,145
	外貨その他預け金	725	11,199
	小計	1,511,972	1,667,836
貸倒引当金		(1,311)	(633)
合計		9,653,120	13,135,129

## (2) 使用制限預け金

当期末及び前期末現在において銀行法及びその他関係法令等により使用が制限されている預け金の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第185(当)期	第184(前)期	根拠法令等
ウォン貨預け金	支払準備預け金	2,718,354	7,794,542	韓国銀行法第56条
	その他 金融機関預け金	3,754,358	1,850,250	韓国銀行法 第28条及び第70条
	小計	6,472,712	9,644,792	
外貨預け金	外貨他店預け金	849,959	1,477,059	韓国銀行法等
	外貨定期預け金	18,128	17,580	ニューヨーク州銀行法等
	外貨その他預け金	725	687	デリバティブ関連
	小計	868,812	1,495,326	
合計		7,341,524	11,140,118	

6. 売買目的金融資産

当期末及び前期末現在における売買目的金融資産の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第185(当)期	第184(前)期
債務証券	国公債	335,899	582,538
	金融債	586,715	250,225
	社債	86,663	40,332
	買入手形	4,095,573	3,139,887
	CMA資産	2,319,312	1,881,859
	小計	7,424,162	5,894,841
持分証券	株式	556	6,427
	受益証券	1,604,878	700,277
	小計	1,605,434	706,704
金/銀預け金		247,845	149,220
合計		9,277,441	6,750,765

7. デリバティブ

## (1) 未決済約定契約金額

当期末及び前期末現在に保有しているデリバティブの未決済約定契約金額の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分			第185(当)期	第184(前)期
外国為替デリバティブ	店頭デリバティブ	通貨先渡	82,235,651	47,310,574
		通貨スワップ	27,268,230	19,384,776
		通貨オプション	1,205,825	2,420,036
		小計	110,709,706	69,115,386
	上場デリバティブ	通貨先物	70,093	67,976
	合計		110,779,799	69,183,362
金利デリバティブ	店頭デリバティブ	金利スワップ	32,967,139	38,832,908
		金利オプション	700,000	1,266,000
		小計	33,667,139	40,098,908
	上場デリバティブ	金利先物	346,947	600,539
		金利スワップ(注)	22,141,755	14,573,000
		小計	22,488,702	15,173,539
合計		56,155,841	55,272,447	
株式関連デリバティブ	店頭デリバティブ	株式スワップ	6,509	13,871
		株式オプション	563,454	397,786
		小計	569,963	411,657
	上場デリバティブ	株式先物	2,080	18,394
	合計		572,043	430,051
商品関連デリバティブ	店頭デリバティブ	商品スワップ及び先渡	193,066	258,621
		商品オプション	539	-
	合計		193,605	258,621
リスクヘッジデリバティブ	公正価値リスクヘッジ	金利スワップ	7,491,505	6,874,755
合計			175,192,793	132,019,236

(注) 中央清算取引所で決済されるデリバティブ未決済約定金額です。

## (2) 公正価値

当期末及び前期末現在に保有しているデリバティブの公正価値は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分			第185(当)期		第184(前)期	
			資産	負債	資産	負債
外国為替 デリバティブ	店頭デリバティブ	通貨先渡	1,581,537	1,413,883	722,191	505,281
		通貨スワップ	705,350	754,387	395,764	534,129
		通貨オプション	11,860	9,422	17,713	10,652
	合計		2,298,747	2,177,692	1,135,668	1,050,062
金利 デリバティブ	店頭デリバティブ	金利スワップ	250,500	247,648	405,730	371,981
		金利オプション	7,154	5,133	9,951	11,931
	合計		257,654	252,781	415,681	383,912
株式関連 デリバティブ	店頭デリバティブ	株式スワップ	44	19	4	109
		株式オプション	3,317	4,065	3,882	2,540
	合計		3,361	4,084	3,886	2,649
商品関連 デリバティブ	店頭デリバティブ	商品スワップ及び先渡	715	12,971	2	9,147
		商品オプション	21	21	-	-
	合計		736	12,992	2	9,147
リスクヘッジ デリバティブ	公正価値 リスクヘッジ	金利スワップ	15,185	333,651	52,722	123,561
合計			2,575,683	2,781,200	1,607,959	1,569,331

## (3) デリバティブ評価損益

当期及び前期におけるデリバティブの評価損益は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分			第185(当)期		第184(前)期	
			評価益	評価損	評価益	評価損
外国為替 デリバティブ	店頭デリバティブ	通貨先渡	1,298,826	1,405,274	654,382	490,578
		通貨スワップ	561,504	536,947	355,696	487,159
		通貨オプション	14,383	4,761	16,928	4,775
	合計	1,874,713	1,946,982	1,027,006	982,512	
金利 デリバティブ	店頭デリバティブ	金利スワップ	125,386	119,727	139,716	146,737
		金利オプション	997	1,618	3,834	3,776
	合計	126,383	121,345	143,550	150,513	
株式関連 デリバティブ	店頭デリバティブ	株式スワップ	90	-	8	81
		株式オプション	755	2,099	1,289	904
	合計	845	2,099	1,297	985	
商品関連 デリバティブ	店頭デリバティブ	商品スワップ 及び先渡	715	12,971	2	9,147
		商品オプション	5	4	-	-
	合計	720	12,975	2	9,147	
リスクヘッジ デリバティブ	公正価値 リスクヘッジ	金利スワップ	15,697	256,069	18,515	139,175
合計			2,018,358	2,339,470	1,190,370	1,282,332

## (4) リスクヘッジ目的に関連する損益

当期及び前期における公正価値リスクヘッジ目的に関連する損益は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
リスクヘッジ対象	237,112	139,737
リスクヘッジ手段	(247,598)	(141,138)
合計	(10,486)	(1,401)

## (5) 在外営業活動体のリスクヘッジ

在外営業活動体のうち、一部に対してリスクヘッジ会計を適用しており、当期及び前期中にリスクヘッジ手段別の海外事業損益に反映された金額は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
外貨借入負債	(13,845)	-

## 8. 貸付債権

## (1) 貸付債権の顧客別構成内訳

当期末及び前期末現在における貸付金の顧客別の構成内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
家計貸付	93,629,743	88,085,947
企業貸付	107,064,233	105,950,060
公共及びその他資金貸付	2,092,423	2,129,768
銀行間資金貸付	4,733,065	4,181,274
貸付債権合計	207,519,464	200,347,049
繰延貸付付帯費用	377,974	343,801
引当金減算前貸付債権合計	207,897,438	200,690,850
貸倒引当金	(1,263,962)	(1,301,942)
引当金減算後貸付債権合計	206,633,476	199,388,908

## (2) 貸倒引当金の増減内訳

当期及び前期における預け金と貸付債権及びその他資産に対する貸倒引当金の変動内訳は以下の通りです。

< 第185 (当) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分	預け金	貸付債権			その他資産	合計
		家計貸付	企業貸付	その他		
期首	633	219,664	1,067,730	14,548	41,213	1,343,788
繰入(戻入)額	678	125,340	529,768	(795)	(16,404)	638,587
償却額	-	(119,244)	(638,671)	(558)	(582)	(759,055)
割引差金償却	-	-	(24,167)	-	-	(24,167)
貸付債権売却	-	(2,731)	(37,693)	(95)	-	(40,519)
償却債権回収	-	31,379	108,153	44	1,348	140,924
その他(注)	-	-	(8,710)	-	(215)	(8,925)
期末	1,311	254,408	996,410	13,144	25,360	1,290,633

(注) その他変動額は債権調整、出資転換、為替レート変動等による金額です。

< 第184 (前) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分	預け金	貸付債権			その他資産	合計
		家計貸付	企業貸付	その他		
期首	1,034	208,866	1,148,000	15,738	61,519	1,435,157
繰入(戻入)額	(401)	104,444	489,881	703	(2,639)	591,988
償却額	-	(113,622)	(559,413)	(66)	(293)	(673,394)
割引差金償却	-	-	(26,168)	-	-	(26,168)
貸付債権売却	-	(3,878)	(51,381)	(1,911)	-	(57,170)
償却債権回収	-	23,854	61,446	84	409	85,793
その他(注)	-	-	5,365	-	(17,783)	(12,418)
期末	633	219,664	1,067,730	14,548	41,213	1,343,788

(注) その他変動額は債権調整、出資転換、為替レート変動等による金額です。

## (3) 繰延貸付付帯費用

当期及び前期における繰延貸付付帯費用の増減内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
期首	343,801	269,128
増加	218,020	234,469
減少	(183,847)	(159,796)
期末	377,974	343,801

## 9. 売却可能金融資産及び満期保有金融資産

## (1) 売却可能金融資産及び満期保有金融資産の状況

当期末及び前期末現在、売却可能金融資産及び満期保有金融資産の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期	
売却可能金融資産			
債務証券	国公債	2,963,987	2,352,475
	金融債	14,461,791	12,816,603
	社債	6,387,257	5,970,622
	小計	23,813,035	21,139,700
持分証券(注)	株式	969,674	1,243,787
	出資金	243,280	298,380
	受益証券	1,449,611	1,220,764
	その他	27,192	36,331
	小計	2,689,757	2,799,262
売却可能金融資産合計		26,502,792	23,938,962
満期保有金融資産			
債務証券	国公債	6,634,424	5,638,796
	金融債	680,918	351,420
	社債	3,781,915	3,743,335
満期保有金融資産合計		11,097,257	9,733,551

(注) 活発な市場で開示される市場価格がなく、公正価値を信頼性をもって測定することができないため、原価で測定した持分証券の帳簿価額は当期末及び前期末現在、それぞれ24,481百万ウォン、23,902百万ウォンです。

## (2) 売却可能金融資産の処分損益

当期及び前期における売却可能金融資産の処分による損益は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
売却可能金融資産処分益	424,407	447,445
売却可能金融資産処分損	(15,911)	(29,553)
合計	408,496	417,892

10. 有形資産

(1) 当期末及び前期末現在における有形資産の内訳は以下の通りです。

< 第185(当)期 >

(単位：百万ウォン)

区分	取得価額	減価償却累計額	帳簿価額
土地	1,183,352	-	1,183,352
建物	808,803	(190,711)	618,092
その他有形資産	1,269,792	(1,095,030)	174,762
合計	3,261,947	(1,285,741)	1,976,206

< 第184(前)期 >

(単位：百万ウォン)

区分	取得価額	減価償却累計額	帳簿価額
土地	1,124,936	-	1,124,936
建物	788,701	(163,362)	625,339
その他有形資産	1,256,986	(1,065,467)	191,519
合計	3,170,623	(1,228,829)	1,941,794

(2) 当期及び前期における有形資産帳簿価額の変動内訳は以下の通りです。

< 第185 (当) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分	土地	建物	その他有形資産	合計
期首	1,124,936	625,339	191,519	1,941,794
取得(注1、2)	-	17,001	67,713	84,714
処分(注1、3)	(472)	(217)	(1,942)	(2,631)
減価償却費	-	(28,475)	(82,949)	(111,424)
投資不動産からの振替	58,478	4,443	-	62,921
売却予定非流動資産からの振替	410	1	-	411
為替レート変動	-	-	421	421
期末	1,183,352	618,092	174,762	1,976,206

(注1) 建設仮勘定から本勘定に振り替えられた金額15,405百万ウォンが含まれています。

(注2) 新規取得資産の復旧引当負債繰入額 1,803百万ウォンが含まれています。

(注3) 除却損失924百万ウォンが含まれています。

< 第184 (前) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分	土地	建物	その他有形資産	合計
期首	1,154,431	644,782	204,371	2,003,584
取得(注1、2)	1	15,021	78,538	93,560
処分(注1、3)	(934)	(874)	(3,808)	(5,616)
減価償却費	-	(31,236)	(89,309)	(120,545)
投資不動産への振替	(28,562)	(2,354)	-	(30,916)
為替レート変動	-	-	1,727	1,727
期末	1,124,936	625,339	191,519	1,941,794

(注1) 建設仮勘定から本勘定に振り替えられた金額3,255百万ウォンが含まれています。

(注2) 新規取得資産の復旧引当負債繰入額3,456百万ウォンが含まれています。

(注3) 除却損失543百万ウォンが含まれています。

## (3) 保険加入内訳

当期末現在において現金、有形資産、投資不動産及び売却予定非流動資産に対する保険加入内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

保険種類	付保資産	付保金額	保険会社名
金融機関総合保険	現金	20,000	三星火災他9社
財産総合保険	業務用動産、不動産等	981,688	三星火災他6社
盗難保険	現金及び有価証券	60,000	三星火災他9社
役員賠償責任保険		50,000	メリッツ火災他 8社
ガス事故賠償責任保険		500	メリッツ火災
個人情報保護賠償責任保険	-	10,000	現代海上他2社
電子金融取引賠償責任保険	-	2,000	東部火災他2社
合計		1,124,188	

(注) 上記保険以外に車両保険、役員・職員に対する医療保険、資産災害保険及び従業員災害保障保険等に入入しています。

## 11. 無形資産

当期及び前期における無形資産の帳簿価額の変動内訳は以下の通りです。

&lt; 第185(当)期 &gt;

(単位：百万ウォン)

区分	ソフトウェア	開発費	会員権	その他無形資産	合計
期首	60,681	29,607	46,204	104,407	240,899
取得(注1)	14,152	13,716	788	4,791	33,447
処分	-	-	(1,344)	(67)	(1,411)
減損損失(注2)	-	-	(98)	-	(98)
償却(注3)	(23,965)	(11,161)	-	(45,808)	(80,934)
為替レート変動	(4)	-	8	-	4
期末	50,864	32,162	45,558	63,323	191,907

(注1) その他無形資産取得額のうち、2,825百万ウォンは未払金として処理されました。

(注2) 会員権はゴルフ及びコンドミニアムの会員権で、耐用年数を特定期間に確定できない無形資産です。報告期間末現在、取引所の時価が帳簿価額より低い場合、減損損失を認識しました。

(注3) その他無形資産償却費のうち、45,006百万ウォンはその他営業費用に含まれています。

< 第184(前)期 >

(単位：百万ウォン)

区分	ソフトウェア	開発費	会員権	その他無形資産	合計
期首	36,977	13,372	46,642	63,721	160,712
取得(注1)	46,252	26,324	374	81,276	154,226
処分及び除却(注2)	-	-	(827)	(101)	(928)
償却(注3)	(22,548)	(10,089)	-	(40,489)	(73,126)
為替レート変動	-	-	15	-	15
期末	60,681	29,607	46,204	104,407	240,899

(注1) その他無形資産取得額のうち、59,810百万ウォンは未払金として処理されました。

(注2) 除却金額101百万ウォンが含まれています。

(注3) その他無形資産償却費のうち、39,554百万ウォンはその他営業費用に含まれています。

## 12. 関係企業等に対する投資資産

当期末及び前期末現在、関係企業及び従属企業に対する投資資産の現況は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

被投資会社	所在地	決算月	業種	持分率(%)		帳簿価額	
				第185(当)期	第184(前)期	第185(当)期	第184(前)期
新韓アジュ金融有限公司	香港	12月末	卸売金融	99.99	99.99	161,293	161,293
アメリカ新韓銀行	米国	12月末	銀行業	100.00	100.00	136,419	136,419
ヨーロッパ新韓銀行	ドイツ	12月末	銀行業	100.00	100.00	78,606	78,606
新韓クメール銀行	カンボジア	12月末	銀行業	90.00	90.00	22,212	22,212
新韓カザフスタン銀行	カザフスタン	12月末	銀行業	100.00	100.00	77,913	77,913
カナダ新韓銀行	カナダ	12月末	銀行業	100.00	100.00	79,695	52,701
新韓銀行中国有限公司	中国	12月末	銀行業	100.00	100.00	355,443	355,443
SBJ銀行	日本	3月末	銀行業	100.00	100.00	359,745	359,745
新韓バンク・ベトナム	ベトナム	12月末	銀行業	100.00	100.00	330,654	330,654
メキシコ新韓銀行	メキシコ	12月末	銀行業	99.99	99.99	46,836	46,496
新韓インドネシア銀行 (注6)	インドネシア	12月末	銀行業	98.98	97.76	254,077	123,691
PT Centratama Nasional Bank (注6)	インドネシア	12月末	銀行業	-	75.00	-	30,782
新韓銀行-デソン 文化コンテンツ投資組合	大韓民国	12月末	その他	71.43	-	2,000	-
アジュキャピタル(注1)	大韓民国	12月末	割賦金融業等	12.85	12.85	29,654	29,654
BNPパリバカーディフ 生命保険(注2)	大韓民国	12月末	保険業	14.99	14.99	42,203	42,203
連合資産管理(注3)	大韓民国	12月末	その他	-	17.50	-	84,792
浦項テクノパーク2PFV(注1)	大韓民国	12月末	その他	14.90	14.90	2,884	2,884
デウォントス(注4)	大韓民国	12月末	その他	36.33	36.33	-	-
インヒ(注4)	大韓民国	12月末	卸売業	15.36	15.36	-	-
デギ電設(注4)	大韓民国	12月末	建設業	27.45	27.45	-	-
極東建設(注3)	大韓民国	12月末	建設業	-	14.30	-	-
ヨンウンシステム(注4)	大韓民国	12月末	その他	21.77	21.77	-	-
ドゥドゥロジテック(注4)	大韓民国	12月末	その他	27.96	27.96	-	-
Neoplux技術価値 評価投資組合	大韓民国	12月末	投資業	33.33	33.33	7,668	2,000

EQPグローバルエネルギー インフラ私募投資専門会社	大韓民国	12月末	投資業	22.64	22.64	279	174
ジェヨンソリュートック (注4,5)	大韓民国	12月末	その他	10.45	11.90	2,014	2,014
パートナーズ第4号 Growth投資組合	大韓民国	12月末	投資業	25.00	25.00	4,880	1,800
PSA第1号フィンテック 私募投資合資会社	大韓民国	12月末	投資業	20.00	20.00	2,000	2,000
KTB NewLake 医療グローバル進出 私募投資専門会社	大韓民国	12月末	投資業	20.00	-	922	-
ジェヤンインダストリー(注4)	大韓民国	12月末	その他	25.90	-	-	-
ティグリスアウルム新技術事業 投資組合第1号	大韓民国	12月末	投資業	27.27	-	1,500	-
ナムワイ(注4)	大韓民国	12月末	その他	23.72	-	-	-
チュンヨン(注4)	大韓民国	12月末	その他	18.94	-	-	-
シメンティック(注4)	大韓民国	12月末	その他	19.25	-	-	-
デグァン半導体(注4)	大韓民国	12月末	製造業	20.94	-	-	-
ブランビル(注4)	大韓民国	12月末	製造業	15.53	-	-	-
合計						1,998,897	1,943,476

(注1) アジュキャピタルと浦項テクノパーク2PFVの持分率は15%以下ですが、被投資会社の財務政策、営業方針に関する意思決定に参加できる役員の選任に重要な影響力を行使することができるため、関係企業に対する投資資産として計上しました。

(注2) BNPパリバカード生命保険の持分率は15%以下ですが、重要な営業上の取引を通じて重要な影響力を行使することができるため、関係企業に対する投資資産として計上しました。

(注3) 当期中、連合資産管理は重要な影響力を喪失して関係企業に対する投資資産から売却可能金融資産に再分類され、極東建設は全額無償減資されました。

(注4) 更生手続の過程で出資転換により株式を取得し、更生手続中には議決権の行使ができないことから売却可能金融資産に分類して公正価値で評価していましたが、前期以前及び当期中に更生手続が終了したことにより正常な議決権の行使が可能となったため、売却可能金融資産から関係企業投資資産に再分類しました。

(注5) ジェヨンソリュートックの持分率は15%以下であるものの、被投資会社の株式売却協議会の主管機関として重要な影響力を行使することができるため、関係企業に対する投資資産として計上しました。

(注6) 2016年12月6日基準でPT Centratama Nasional Bankと新韓インドネシア銀行が合併して新韓インドネシア銀行となりました。

13. 投資不動産

(1) 当期末及び前期末現在の投資不動産の内訳は以下の通りです。

< 第185(当)期 >

(単位：百万ウォン)

区分	取得価額	減価償却累計額	帳簿価額
土地	506,638	-	506,638
建物	229,026	(60,706)	168,320
合計	735,664	(60,706)	674,958

< 第184(前)期 >

(単位：百万ウォン)

区分	取得価額	減価償却累計額	帳簿価額
土地	572,069	-	572,069
建物	230,920	(37,587)	193,333
合計	802,989	(37,587)	765,402

(2) 投資不動産の公正価値

当期末及び前期末現在における投資不動産の公正価値の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
投資不動産	773,511	835,956

(注) 投資不動産の公正価値評価は独立した第三者との取引条件による最近の市場取引価格及び市場で観測不可能な重要な投入変数が反映されるため、公正価値序列水準においてレベル3に該当します。

## (3) 投資不動産から発生した損益

当期及び前期中に、投資不動産に関連して包括損益計算書に計上された関連損益の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
投資不動産から発生した賃貸収益	23,174	24,386
賃貸収益が発生した投資不動産に 直接関連する営業費用	5,798	5,770

## 14. その他資産

当期末及び前期末現在のその他資産の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
未収金	3,897,543	5,352,934
未回収内国為替債権	6,066,285	2,307,584
預け保証金	1,027,207	1,077,594
未収収益	734,284	676,836
前払費用	55,132	67,573
仮払金	49,407	47,846
雑資産	75,656	91,566
その他	863	34
現在価値割引調整	(32,539)	(41,830)
貸倒引当金	(25,360)	(41,213)
合計	11,848,478	9,538,924

15. 担保提供資産及び担保として提供を受けた資産

(1) 当期末及び前期末現在、担保提供された資産の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第185(当)期	第184(前)期	担保提供事由
有価証券(注1)	売却可能金融資産	1,275,088	576,180	借入負債、韓国銀行決済履行担保、 借入有価証券等
	満期保有金融資産	7,709,792	5,920,287	借入負債、韓国銀行決済履行担保、 対顧客リパーチェスアグリーメント等
	小計	8,984,880	6,496,467	
有形資産(注2)		6,525	3,905	根抵当権の設定等
合計		8,991,405	6,500,372	

(注1) 第三者が当行の債務不履行と関係なく売渡及び再担保の提供が可能な担保の帳簿価額は、当期末及び前期末現在、それぞれ995,788百万ウォン、605,955百万ウォンです。

(注2) 根抵当権の設定等に関連する債権最高額基準です。

(2) 債務不履行と関係なく売渡及び再担保の提供が可能な担保保有物

当期末及び前期末現在、債務不履行と関係なく売渡及び再担保の提供が可能な担保の公正価値は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期		第184(前)期	
	担保物の公正価値	売渡すか、或いは担保として再度提供した担保物の公正価値	担保物の公正価値	売渡すか、或いは担保として再度提供した担保物の公正価値
有価証券	3,749,791	-	5,285,701	-

16. 当期損益認識指定金融負債

(1) 当期末及び前期末現在における当期損益認識指定金融負債の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分(注1)	第185(当)期	第184(前)期
預金(注2、3)	6,282	13,509

(注1) 当行は組込デリバティブが含まれた複合金融商品のうち、企業会計基準書第1039号“金融商品：認識及び測定”によって当期損益認識金融負債の指定が許容される複合契約を当期損益認識金融負債として指定しました。

(注2) 当期損益認識指定金融負債の帳簿価額は、当行が採択したオプション評価モデルに基づいて算定しました。

(注3) 当期及び前期中、当行の信用リスク変動により認識された金額はありません。

(2) 当期末及び前期末現在、当期損益認識指定金融負債の契約条件に従う元金に対する満期償還金額及び帳簿価額、並びに両金額の差異は以下の通りです。

< 第185(当)期 >

(単位：百万ウォン)

区分	契約上の満期償還金額	帳簿価額	差異金額
預金	6,247	6,282	(35)

< 第184(前)期 >

(単位：百万ウォン)

区分	契約上の満期償還金額	帳簿価額	差異金額
預金	13,607	13,509	98

(3) 当期及び前期中に当期損益認識指定金融負債の関連純損益の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期			第184(前)期		
	評価損益	売買損益	合計	評価損益	売買損益	合計
預金	(97)	(109)	(206)	95	(111)	(16)

## 17. 預金

当期末及び前期末現在における預金の種類別の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

科目		第185(当)期	第184(前)期
要求払預金	ウォン貨預金	81,681,202	74,325,052
	外貨預金	6,976,088	5,165,375
	小計	88,657,290	79,490,427
期限付預金	ウォン貨預金	106,255,873	106,417,821
	外貨預金	3,259,940	2,979,715
	公正価値リスクヘッジ利益	(38,368)	(17,954)
	小計	109,477,445	109,379,582
譲渡性預金証書		5,827,823	4,072,668
発行手形預金		4,581,276	3,018,551
手形管理口座受託金		2,473,048	2,280,816
その他		26,799	30,088
合計		211,043,681	198,272,132

## 18. 売買目的金融負債

当期末及び前期末現在における売買目的金融負債の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

科目	第185(当)期		第184(前)期	
	利率(%)	金額	利率(%)	金額
売渡有価証券	-	-	2.25%	10,161
金/銀預金	-	485,995	-	453,605
合計		485,995		463,766

## 19. 借入負債

当期末及び前期末現在、借入負債の種類別の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

科目		第185(当)期			第184(前)期		
		利率(%)		金額	利率(%)		金額
		最高	最低		最高	最低	
コールマネー	ウォン貨	1.23	1.08	394,400	-	-	-
	外貨	10.00	0.35	198,419	7.00	0.32	92,458
	小計			592,819			92,458
売渡手形		1.52	0.65	12,427	2.00	0.75	24,245
買戻条件付 売渡債券	ウォン貨	0.80	0.80	8,152	1.58	1.00	8,110
	外貨	6.29	1.42	371,885	3.49	0.69	358,802
	小計			380,037			366,912
ウォン貨 借入負債	韓国銀行借入負債	0.75	0.50	2,621,345	0.75	0.50	1,963,472
	その他借入負債	4.30	0.00	4,513,672	4.35	0.00	3,707,921
	小計			7,135,017			5,671,393
外貨借入負債	外貨他店借入	0.00	0.00	154,136	0.76	0.00	202,567
	銀行借入負債	3.95	0.24	3,524,819	7.95	0.27	4,099,635
	転貸借入負債	1.72	0.00	470,176	1.18	0.47	571,829
	その他借入負債	1.18	1.02	1,676,170	0.80	0.53	1,775,933
	小計			5,825,301			6,649,964
外貨受託金		-	-	-	0.10	0.10	71,810
繰延付帯費用				(723)			(1,684)
合計				13,944,878			12,875,098

## 20. 社債

当期末及び前期末現在、社債の種類別の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第185(当)期			第184(前)期		
		利率(%)		金額	利率(%)		金額
		最高	最低		最高	最低	
ウォン貨 社債	一般社債	8.00	0.00	13,250,890	8.00	0.00	12,540,890
	劣後社債	4.60	2.20	3,501,056	5.10	2.72	3,500,808
	公正価額リスクヘッジ損益			(147,208)			(52,579)
	割引発行差金			(19,599)			(31,794)
	小計			16,585,139			15,957,325
外貨 社債	一般社債	4.38	0.03	3,176,276	4.38	0.32	3,912,108
	劣後社債	3.88	3.88	1,189,068	-	-	-
	公正価額リスクヘッジ損失			(9,977)			25,983
	割引発行差金			(17,180)			(10,805)
	小計			4,338,187			3,927,286
合計				20,923,326			19,884,611

## 21. 確定給付債務

当行は、従業員の役務提供期間に基づき、確定給付型年金制度を運営しています。また、当行は社外積立資産を信託会社、ファンド会社及びその他類似企業に信託しています。

## (1) 確定給付型年金制度の資産及び負債

当期末及び前期末現在、確定給付型における資産及び負債の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
確定給付債務の現在価値	1,255,783	1,169,860
社外積立資産の公正価値	(1,208,370)	(1,018,940)
財務状態表計上負債	47,413	150,920

## (2) 確定給付債務の現在価値

当期及び前期における確定給付債務の現在価値の変動内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
期首	1,169,860	998,367
当期勤務費用	134,724	119,116
支払利息	37,435	38,023
再測定要素(注)	(39,685)	58,822
給与支給額	(48,943)	(46,699)
その他	2,392	2,231
期末	1,255,783	1,169,860

(注) 当期末現在、再測定要素は人口統計的仮定の変動による保険数理的損失 4,634百万ウォン及び財務的仮定の変動による保険数理的利益 8,347百万ウォン、そして経験調整による利益 35,972百万ウォンで構成されています。

## (3) 社外積立資産の公正価値

当期及び前期における社外積立資産の変動内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
期首	1,018,940	753,648
受取利息	34,033	30,297
再測定要素	(14,376)	(13,269)
使用者の拠出金	210,300	290,800
給与支給額	(40,527)	(42,536)
期末	1,208,370	1,018,940

## (4) 社外積立資産の構成内訳

当期末及び前期末現在、社外積立資産の構成内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
定期預金	1,180,374	977,723
その他	27,996	41,217
合計	1,208,370	1,018,940

## (5) 保険数理的仮定

当期末及び前期末現在における主な保険数理的仮定の内訳は以下の通りです。

区分	第185(当)期	第184(前)期	備考
割引率(期待収益率)	3.40%	3.34%	AA0社債収益率
将来賃金上昇率	2.92% + 昇給率	2.92% + 昇給率	過去5ヶ年の平均

## (6) 感応度分析

当期末及び前期末現在における主な仮定の変動による確定給付債務の現在価値は以下の通りです。

## 1) 割引率

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
確定給付債務の現在価値	1,255,783	1,169,860
1%ポイント増加	1,134,862	1,053,886
1%ポイント減少	1,396,998	1,305,730

## 2) 賃金上昇率

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
確定給付債務の現在価値	1,255,783	1,169,860
1%ポイント増加	1,396,401	1,305,064
1%ポイント減少	1,133,127	1,052,292

(7) 当期末及び前期末の評価時に適用した確定給付債務の加重平均満期はそれぞれ13.16年及び13.24年です。

## 22. 引当負債

(1) 当期及び前期における引当負債の変動内訳は以下の通りです。

< 第185 (当) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分	復旧引当負債	訴訟	未使用信用枠	支払保証	その他	合計
期首	33,934	19,576	80,911	110,939	60,728	306,088
繰入(戻入)額	2,256	(7,897)	(6,672)	11,090	39,410	38,187
使用額	(1,894)	-	-	-	(15,394)	(17,288)
為替レート変動	-	365	797	974	(339)	1,797
その他(注)	1,802	-	-	(9,944)	-	(8,142)
期末	36,098	12,044	75,036	113,059	84,405	320,642

< 第184 (前) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分	復旧引当負債	訴訟	未使用信用枠	支払保証	その他	合計
期首	29,096	22,230	71,888	132,810	54,712	310,736
繰入(戻入)額	1,958	(3,382)	8,808	(21,978)	18,399	3,805
使用額	(530)	-	-	-	(12,235)	(12,765)
為替レート変動	-	728	215	3,729	(148)	4,524
その他(注)	3,410	-	-	(3,622)	-	(212)
期末	33,934	19,576	80,911	110,939	60,728	306,088

(注) 当初公正価値で評価する金融保証契約の新規発生と満期到来による変動及び割引率変動による効果等です。

(2) 復旧引当負債

復旧引当負債は報告期間末現在、賃借店舗の将来予想復旧費用の最善の見積値を適切な割引率で割り引いた現在価値です。同復旧費用の支出は個別賃借店舗の賃借契約終了時点で発生する予定であり、これを合理的に見積るために過去10年間、賃借契約が終了した賃借店舗の平均存続期間を利用しました。また、予想復旧費用を見積るために、過去3年間復旧工事が発生した店舗の実際の復旧工事費用の平均値及び3年間の平均インフレーション率を使用しました。

23. その他負債

当期末及び前期末現在におけるその他負債の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

科目	第185(当)期	第184(前)期
未払金	3,839,083	5,302,779
信託勘定未払金	3,658,239	3,201,184
未払費用	1,885,548	1,862,044
代理店	799,462	1,311,763
未払内国為替債務	922,259	2,127,932
代行業務収入金	494,251	533,968
受取保証金	187,464	200,194
未払外国為替債務	224,767	204,937
仮受金	35,210	43,909
前受収益	53,197	49,429
諸税預り金	57,724	67,201
未払配当金	1,309	9,231
雑負債	24,642	79,982
現在価値割引調整	(2,404)	(2,651)
合計	12,180,751	14,991,902

## 24. 資本

## (1) 資本内訳

当期末及び前期末現在における資本の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

科目		第185(当)期	第184(前)期
資本金	普通株資本金	7,928,078	7,928,078
	新種資本証券	469,393	801,298
資本剰余金	株式発行超過金	398,080	398,080
資本調整	ストックオプション	(887)	1,363
	その他資本調整	(59,777)	(30,703)
	小計	(60,664)	(29,340)
その他 包括損益累計額	売却可能金融資産評価損益	160,710	377,338
	海外事業損益	(34,299)	(37,156)
	確定給付型制度の再測定要素	(281,202)	(300,385)
	小計	(154,791)	39,797
利益剰余金	法定積立金(注1)	1,497,370	1,375,731
	任意積立金(注2)	9,064,867	8,719,986
	その他準備金(注3)	87,029	75,215
	未処分利益剰余金(注4)	1,731,384	1,159,235
	小計	12,380,650	11,330,167
合計		20,960,746	20,468,080

(注1) 銀行法第40条の規定により資本金の総額に達するまで、決算純利益金の配当時毎にその純利益金の10%以上を決算期毎に積み立てた利益準備金で、欠損補填及び資本繰入の場合を除いてはこれを使用できません。

(注2) 当期末における1,706,925百万ウォンの貸倒準備金及び355,898百万ウォンの再評価積立金が含まれており、前期末における1,738,249百万ウォンの貸倒準備金及び355,898百万ウォンの再評価積立金が含まれています。

(注3) 海外支店で現地の法規により積み立てた準備金で、現地所在支店の欠損補填に対してのみ使用することができます。

(注4) 当期末の貸倒準備金繰入予定額47,848百万ウォン及び前期末の貸倒準備金戻入予定額31,324百万ウォンが含まれています。

(2) 当期末及び前期末現在における資本金の内訳は以下の通りです。

科目	第185(当)期	第184(前)期
発行する株式総数	2,000,000,000株	2,000,000,000株
1株当り金額	5,000ウォン	5,000ウォン
発行済株式数	1,585,615,506株	1,585,615,506株

(3) 新種資本証券

当期末及び前期末現在、資本に分類された新種資本証券は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	発行日	満期日	金額		利率(%)
			第185(当)期	第184(前)期	
外貨新種 資本証券	2006-09-20	2036-09-20	-	94,761	6.82
	2006-09-20	2036-09-20	-	237,144	6.82
ウォン貨新種 資本証券	2008-03-21	2038-03-21	119,878	119,878	7.30
	2008-03-25	2038-03-25	49,947	49,947	7.30
	2013-06-07	2043-06-07	299,568	299,568	4.63
合計			469,393	801,298	
新種資本証券配当金			45,691	57,158	
加重平均利率(%)			6.45	6.72	

上記の新種資本証券は、発行日以降5年または10年が経過した後、当行が早期償還することができ、満期日に同一の条件で満期を延長することができます。また、普通株に対する配当を支払わないことと決議した場合、約定利息を支払いません。

## (4) その他包括損益累計額

当期及び前期におけるその他包括損益累計額の再分類調整を含めた変動内訳は以下の通りです。

< 第185 (当) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分	売却可能 金融資産 評価損益	海外事業損益	確定給付型制度 再測定要素	合計
期首金額	377,338	(37,156)	(300,385)	39,797
当期発生差益(差損)：				
公正価値評価による増減	(48,740)	-	-	(48,740)
当期損益に含まれた差益の再分類調整：				
資産減損による増減	26,259	-	-	26,259
処分による増減	(265,357)	-	-	(265,357)
リスクヘッジ会計適用効果	2,289	(13,845)	-	(11,556)
為替レート差異による効果	(240)	17,614	-	17,374
確定給付型制度の再測定	-	-	25,309	25,309
税効果	69,161	(912)	(6,126)	62,123
期末金額	160,710	(34,299)	(281,202)	(154,791)

< 第184 (前) 期 >

(単位：百万ウォン)

区分	売却可能 金融資産 評価損益	海外事業損益	確定給付型制度 再測定要素	合計
期首金額	613,564	(43,366)	(245,740)	324,458
当期発生差益(差損)：				
公正価値評価による増減	75,862	-	-	75,862
当期損益に含まれた差益の再分類調整：				
資産減損による増減	9,567	-	-	9,567
処分による増減	(398,794)	-	-	(398,794)
リスクヘッジ会計適用効果	(864)	-	-	(864)
為替レート差異による効果	2,585	8,193	-	10,778
確定給付型制度の再測定	-	-	(72,091)	(72,091)
税効果	75,418	(1,983)	17,446	90,881
期末金額	377,338	(37,156)	(300,385)	39,797

## (5) 利益剰余金処分計算書

当期及び前期における利益剰余金処分計算書は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

内容	第185(当)期	第184(前)期
	処分予定日： 2017年3月22日	処分確定日： 2016年3月23日
I. 未処分利益剰余金	1,731,381	1,159,233
1. 前期繰越未処分利益剰余金	-	-
2. 新種資本証券利息	(45,691)	(57,158)
3. 当期純利益	1,777,072	1,216,391
II. 任意積立金等の取崩額	6,723,196	6,378,313
1. 任意積立金	6,723,196	6,346,989
2. 貸倒準備金	-	31,324
合計	8,454,577	7,537,546
III. 利益剰余金処分量	8,454,577	7,537,546
1. 利益準備金	177,707	121,639
2. 貸倒準備金	47,848	-
3. その他準備金	12,652	11,814
4. 任意積立金	7,676,276	6,723,196
5. 新種資本証券償還損失	60,094	30,897
6. 配当金	480,000	650,000
：普通株現金配当 1株当り：当期302.72ウォン(6.05%) 前期409.94ウォン(8.20%)		
IV. 次期繰越未処分利益剰余金	-	-

## (6) 配当金

当期及び前期における普通株の配当金計算内訳は以下の通りです。

(単位：株、ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
配当対象株式数	1,585,615,506	1,585,615,506
1株当り額面金額	5,000	5,000
額面配当率	6.05%	8.20%

1株当たり配当金額	302.72	409.94
-----------	--------	--------

## (7) 配当性向

当期及び前期の普通株に対する配当性向の計算内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
普通株配当金	480,000	650,000
当期純利益	1,777,072	1,216,391
配当性向(当期純利益基準)	27.01%	53.44%
貸倒準備金反映後の調整利益	1,729,224	1,247,715
配当性向(貸倒準備金反映後の調整利益基準)	27.76%	52.10%

## 25. 貸倒準備金

貸倒準備金は銀行業監督規定第29条第1項及び第2項により算出及び開示される事項です。

## (1) 貸倒準備金の残高

当期末及び前期末現在における貸倒準備金の残高は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
貸倒準備金積立額	1,706,925	1,738,249
貸倒準備金繰入(戻入)予定額	47,848	(31,324)
貸倒準備金残高	1,754,773	1,706,925

## (2) 貸倒準備金繰入額及び貸倒準備金反映後の調整利益等

当期及び前期の貸倒準備金繰入額及び貸倒準備金反映後の調整利益等は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
貸倒準備金繰入(戻入)額	47,848	(31,324)
貸倒準備金反映後の調整利益	1,729,224	1,247,715
貸倒準備金反映後の1株当たり調整利益(ウォン)	1,062	751

## 26. 純利息損益

(1) 当期及び前期における受取利息の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
現金預け金利息	37,134	55,582
売買目的金融資産利息	111,606	87,607
売却可能金融資産利息	406,714	443,945
満期保有金融資産利息	305,441	308,455
貸付債権利息	6,174,761	6,182,005
その他利息	72,115	74,826
合計	7,107,771	7,152,420
減損された金融資産から発生した受取利息	24,167	26,168

(2) 当期及び前期における支払利息の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
預金利息	2,315,780	2,593,689
借入負債利息	154,132	162,726
社債利息	466,231	470,827
その他利息	42,487	53,930
合計	2,978,630	3,281,172

27. 純手数料損益

当期及び前期における手数料の受取・支払の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第185(当)期	第184(前)期
受取手数料	与信取扱手数料	69,885	68,476
	電子金融手数料	136,031	135,868
	仲介手数料	90,547	110,701
	業務代行手数料	309,420	321,794
	投資金融手数料	57,400	72,501
	外国為替受取手数料	93,957	88,287
	信託報酬手数料	122,068	90,827
	受取保証料	57,784	53,544
	その他手数料	79,919	67,740
	合計	1,017,011	1,009,738
支払手数料	与信関連手数料	29,649	40,820
	ブランド使用手数料	32,883	49,905
	サービス関連手数料	14,573	12,787
	売買及び仲介関連手数料	7,469	6,938
	外国為替支払手数料	6,390	18,156
	その他手数料	63,687	52,571
	合計	154,651	181,177

28. 受取配当

当期及び前期における受取配当の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
売買目的金融資産	28,012	34,670
売却可能金融資産	93,227	147,547
合計	121,239	182,217

29 . 売買目的金融商品関連損益

当期及び前期における売買目的金融商品関連損益の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第185(当)期	第184(前)期	
売買目的 金融商品	債務証券	評価益	1,124	1,069
		処分益	12,227	4,050
		評価損	(4,203)	(767)
		処分損	(15,359)	(1,293)
		小計	(6,211)	3,059
	持分証券	評価益	620	639
		処分益	23,819	31,139
		評価損	(1,504)	(249)
		処分損	(16,809)	(29,727)
		小計	6,126	1,802
	金/銀関連	評価益	18,336	24,366
		処分益	4,397	2,183
		評価損	(61,321)	(5,238)
		処分損	(1,808)	(379)
		小計	(40,396)	20,932
合計		(40,481)	25,793	

売買目的 デリバティブ	外国為替関連	評価及び取引益	4,890,905	2,796,534
		評価及び取引損	(4,880,753)	(2,674,230)
		小計	10,152	122,304
	金利関連	評価及び取引益	501,368	464,198
		評価及び取引損	(483,620)	(463,563)
		小計	17,748	635
	株式関連	評価及び取引益	50,601	9,728
		評価及び取引損	(7,912)	(10,931)
		小計	42,689	(1,203)
	商品関連	評価及び取引益	55,694	10,593
		評価及び取引損	(25,319)	(42,921)
		小計	30,375	(32,328)
	合計		100,964	89,408
	合計		60,483	115,201

### 30. 金融商品資産減損損失

当期及び前期における金融商品資産の減損損失の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第185(当)期	第184(前)期
金融商品 減損損失	貸付債権及びその他金融資産	638,586	591,988
	売却可能金融資産	83,260	206,570
合計		721,846	798,558

### 31. 一般管理費

当期及び前期における一般管理費の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
----	----------	----------

従業員給与	長・短期従業員給与	1,436,689	1,389,600
	確定給付型退職給付費用	138,126	126,842
	確定拠出型退職給付費用	40	-
	解雇給与	94,478	59,549
	小計	1,669,333	1,575,991
減価償却費及び その他償却費	減価償却費	111,424	120,545
	無形資産償却費	35,928	33,573
	小計	147,352	154,118
その他 一般管理費	福利厚生費	96,993	93,306
	賃借料	225,357	231,747
	役務費	208,780	211,543
	租税公課	68,472	68,154
	広告宣伝費	54,243	55,136
	電算運用費	54,006	62,205
	その他管理費	152,037	152,869
	小計	859,888	874,960
合計	2,676,573	2,605,069	

3 2 . 株式基準報酬

(1) 当期末現在における株式基準報酬約定は以下の通りです。

区分	4次発行分	5次発行分	6次発行分	7次発行分
権利付与日	2005.3.30	2006.03.21	2007.03.20	2008.03.19
行使価格(注1)	28,006ウォン	38,829ウォン	54,560ウォン	49,053ウォン
付与数量	1,903,200株	2,157,600株	715,500株	332,850株
行使可能期間	権利付与日から 3年以降4年間	権利付与日から 3年以降4年間	権利付与日から 3年以降4年間	権利付与日から 3年以降4年間
数量増減内訳				
期首	93,426 株	101,963 株	50,513 株	26,233 株
消滅	-	-	-	-
当期末(注2)	93,426 株	101,963 株	50,513 株	26,233 株
公正価値(注3)	17,244ウォン	6,421ウォン	-	-

(注1) 当期末現在においてストックオプションは全て稼得されており、残余数量272,135株の加重平均行使価格は39,019ウォンです。

(注2) 当期末現在、4、5、6、7次付与分の一部数量は行使が保留されています。

(注3) 当期末現在、保留分に対する公正価値は新韓金融持株の株式終値と行使価格の差異である内在価値で評価しました。

(2) 株式決済型株式基準報酬約定

当期末現在における成果連動型株式基準報酬の内容は以下の通りです。

区分	内容
類型	株式決済型(注)
付与期間 (約定役務期間)	2013年までの付与分: 2010年4月1日以降の選任及び昇進時 (付与日から3年間) 2014年からの付与分: 2014年1月1日以降の選任及び昇進時 (付与日から1年間)
成果条件	2013年まで相対株価連動(33.4%)及び4年間の経営指標連動(66.6%) 2014年から相対株価連動(20.0%)及び4年間の経営指標連動(80.0%)

(注) 新韓金融持株の株式を付与し、支払約定により当行が新韓金融持株に支払うべき金額を負債として認識し、株式決済型により認識する報酬費用との差異は資本に反映しています。

付与数量及び付与時点の公正価値は以下の通りです。

(単位：株、ウォン)

付与日	付与数量	公正価値(注1)	見積数量(注2)
2010-04-01	306,400	45,150	10,471
2012-02-08	30,900	46,650	122
2012-10-15	4,100	37,200	357
2013-01-01	183,100	40,050	105,325
2013-03-21	4,400	37,750	1,156
2013-05-27	14,500	40,250	9,681
2013-08-01	4,400	41,250	2,931
2014-01-01	109,800	47,300	101,819
2014-02-08	5,400	44,300	4,439
2014-04-01	4,800	47,000	3,282
2014-10-15	2,400	47,150	449
2015-01-01	159,000	44,500	138,695
2015-03-18	16,800	42,650	11,736
2015-04-10	2,300	40,350	1,484
2015-05-01	2,300	46,000	1,370
2015-05-22	5,300	42,800	2,893
2015-05-27	2,300	40,200	1,229
2015-08-01	2,300	41,900	872
2015-08-24	2,300	40,250	724
2016-01-01	221,900	39,000	145,295
合計	1,084,700		544,330

(注1) 付与時点の新韓金融持株株式の終値を単位当りの公正価値で算定しました。当期末現在における新韓金融持株株式の公正価値は45,250ウォンです。

(注2) 当初付与時点の付与数量に、約定役務期間中の在任日数に該当する基準数量に基づき相対株価上昇率による付与数量を調整し(2013年まで33.4%、2014年から20.0%)、経営成績達成率による付与数量を調整し(2013年まで66.6%、2014年から80.0%)、運営期間終了後に獲得数量を確定します。

(3) 当期及び前期に発生した報酬費用の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
当期に認識した総報酬費用	17,577	7,009

(4) 当期末及び前期末現在、株式基準報酬に関連する未払費用及の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
未払費用	27,942	22,116

### 3.3. その他営業損益

当期及び前期におけるその他営業損益の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期	
その他営業収益			
資産処分関連	貸付債権処分益	24,661	63,310
	償却債権処分益	3,044	34,476
	小計	27,705	97,786
その他営業収益	リスクヘッジ対象関連利益	270,662	176,204
	リスクヘッジ手段関連利益	33,753	36,053
	引当負債戻入額	21,349	2,669
	その他	10,144	9,689
	小計	335,908	224,615
その他営業収益合計		363,613	322,401
その他営業費用			
資産処分関連	貸付債権処分損	10,783	8,974

その他営業費用	リスクヘッジ対象関連損失	33,550	36,467
	リスクヘッジ手段関連損失	281,350	177,191
	引当負債繰入額	59,536	6,474
	基金拠出金	244,442	267,417
	預金保険料	264,267	239,726
	その他	115,323	122,288
	小計	998,468	849,563
その他営業費用合計		1,009,251	858,537
その他営業損益		(645,638)	(536,136)

### 34. 営業外損益

当期及び前期における営業外損益の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第185(当)期	第184(前)期
営業外収益			
資産処分関連	有形資産処分益	109	1,074
	無形資産処分益	51	2
	投資不動産処分益	1,438	1,402
	売却予定資産処分益	821	705
	小計	2,419	3,183
関係企業に対する投資資産関連	受取配当	30,449	1,849
その他営業外収益	投資不動産賃貸収益	23,174	24,386
	その他	77,981	71,244
	小計	101,155	95,630
営業外収益合計		134,023	100,662
営業外費用			
資産処分関連	有形資産処分損	235	15
	無形資産処分損	149	9
	投資不動産処分損	248	13
	売却予定資産処分損	-	29
	小計	632	66
関係企業に対する投資資産関連	減損損失	-	9,092

その他営業外費用	投資不動産減価償却費	15,349	9,316
	寄付金	13,209	18,475
	有形資産減損損失	5	-
	無形資産減損損失	98	-
	その他	20,675	29,922
	小計	49,336	57,713
営業外費用合計		49,968	66,871
営業外損益		84,055	33,791

### 35. 営業収益

当期及び前期中の営業収益の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
受取利息	7,107,771	7,152,420
受取手数料	1,017,011	1,009,738
受取配当	121,239	182,217
売買目的金融商品関連利益	5,559,091	3,344,499
当期損益認識指定金融商品関連利益	2	106
外国為替取引利益	1,246,679	1,487,761
売却可能金融資産処分益	424,407	447,445
その他営業収益	363,613	322,401
合計	15,839,813	13,946,587

### 36. 法人税費用及び繰延税金

#### (1) 法人税費用の構成内訳

当期及び前期中における法人税費用の算出内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
当期法人税負担額	321,990	223,518
一時差異による繰延税金変動額	(20,637)	19,582

欠損金に引き当てる繰延税金変動額	(336,468)	-
資本に直接反映された法人税	62,868	90,439
法人税費用	27,753	333,539

## (2) 法人税費用の差異内訳

当期及び前期における税引前純利益と法人税費用間の関係は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
税引前純利益	1,804,825	1,549,930
適用税率	24.20%	24.20%
適用税率による法人税	436,306	374,621
非課税収益	(26,128)	(15,329)
非控除費用	11,619	4,161
連結納税	(25,216)	(23,692)
欠損金に引き当てる繰延税金変動額	(336,468)	-
法人税還付額	(22,316)	(9,795)
その他	(10,044)	3,573
法人税費用	27,753	333,539
実効税率(注)	1.54%	21.52%

(注) 当行は前期まで期限が経過した税務上の欠損金に対して実現可能性がないと判断して繰延税金資産を認識していませんでしたが、当期中に課税官庁の還付決定及び有権解釈、当行の営業実績、今後の消滅時効満了預金に対する見積等を総合的に考慮して資産性があると判断し、繰延税金資産(法人税収益)を認識しました。

## (3) 一時差異及び繰延税金

当期及び前期における一時差異及び繰延税金資産（負債）の増減内訳は以下の通りです。

< 第185（当）期 >

（単位：百万ウォン）

区分	期首残高	減少	増加	期末残高	繰延税金 資産（負債）
未収収益	(302,693)	(303,333)	(306,895)	(306,255)	(74,114)
未収金	(45,943)	(45,943)	(36,089)	(36,089)	(8,734)
売買目的金融資産	(118,674)	(118,674)	(56,271)	(56,271)	(13,618)
売却可能金融資産	1,203,150	603,220	180,537	780,467	188,873
関係企業等に対する投資資産	69,728	9,092	-	60,636	14,674
繰延貸付付帯収益（費用）	(344,697)	(344,697)	(378,933)	(378,933)	(91,702)
有形資産評価及び償却等	(466,967)	(6,855)	18,133	(441,979)	(106,959)
デリバティブ資産（負債）	(124,143)	(81,536)	(94,494)	(137,101)	(33,178)
預金	63,688	(3,783)	7,581	75,052	18,162
未払費用	220,725	208,717	250,166	262,174	63,446
確定給付債務	1,041,404	40,526	132,423	1,133,301	274,259
社外積立資産	(1,018,940)	(40,526)	(10,184)	(988,598)	(239,241)
その他引当負債	195,148	195,148	207,583	207,583	50,235
支払保証引当負債	110,939	110,939	113,059	113,059	27,360
圧縮記帳引当負債	(179,485)	(47)	-	(179,438)	(45,977)
一時償却引当負債	(2,386)	(232)	-	(2,154)	(521)
みなし配当	5,513	-	-	5,513	1,334
売却可能金融資産評価損益	(497,807)	(497,807)	(212,018)	(212,018)	(51,308)
未払寄付金	44,134	44,134	35,717	35,717	8,644
貸倒引当金及び貸倒金	205,874	11	(3,813)	202,050	48,896
株式報酬費用関連調整額	1,230	1,152	2,266	2,344	567
みなし配当	3,913	21	134	4,026	974
その他	34,930	52,895	59,155	41,190	9,963
小計	98,641	(177,578)	(91,943)	184,276	42,035
< 繰越欠損金 >					
時効満了預金の欠損金引当	-	30,806	1,421,168	1,390,362	336,468
< 繰延税金資産及び負債として認識しなかった一時差異 >					
関係企業等に対する投資資産	(22,219)	-	-	(22,219)	(5,377)

合計	120,860	(146,772)	1,329,225	1,596,857	383,880
----	---------	-----------	-----------	-----------	---------

&lt; 第184 (前) 期 &gt;

(単位：百万ウォン)

区分	期首残高	減少	増加	期末残高	繰延税金 資産 (負債)
未収収益	(301,655)	(286,411)	(287,449)	(302,693)	(73,251)
未収金	(58,567)	(58,567)	(45,943)	(45,943)	(11,118)
売買目的金融資産	(85,244)	(102,817)	(136,247)	(118,674)	(28,719)
売却可能金融資産	1,151,183	235,815	287,782	1,203,150	291,162
関係企業等に対する投資資産	60,636	-	9,092	69,728	16,874
繰延貸付付帯収益 (費用)	(263,296)	(263,296)	(344,697)	(344,697)	(83,417)
有形資産評価及び償却等	(449,814)	18,411	1,258	(466,967)	(113,006)
デリバティブ資産 (負債)	(79,968)	(8,996)	(53,171)	(124,143)	(30,042)
預金	120,696	49,698	(7,310)	63,688	15,412
未払費用	279,153	279,139	220,711	220,725	53,415
確定給付債務	868,023	42,536	215,917	1,041,404	252,020
社外積立資産	(753,648)	(42,536)	(307,828)	(1,018,940)	(246,583)
その他引当負債	177,926	177,926	195,148	195,148	47,226
支払保証引当負債	132,810	132,810	110,939	110,939	26,847
圧縮記帳引当負債	(181,031)	(1,546)	-	(179,485)	(45,989)
一時償却引当負債	(2,618)	(232)	-	(2,386)	(578)
みなし配当	5,513	-	-	5,513	1,334
売却可能金融資産評価損益	(809,451)	(809,451)	(497,807)	(497,807)	(120,469)
未払寄付金	49,300	49,300	44,134	44,134	10,680
貸倒引当金及び貸倒金	183,601	19	22,292	205,874	49,822
株式報酬費用関連調整額	2,196	2,118	1,152	1,230	298
みなし配当	3,909	3	7	3,913	947
その他	134,027	157,899	58,802	34,930	8,533
小計	183,681	(428,178)	(513,218)	98,641	21,398
< 繰延税金資産及び負債として認識しなかった一時差異 >					
関係企業等に対する投資資産	(22,219)	-	-	(22,219)	(5,377)
合計	205,900	(428,178)	(513,218)	120,860	26,775

(4) 資本に直接加減する項目に関連する法人税

当期及び前期中に資本に直接付加されるか、或いは減算された法人税の内訳は以下の通りです。

< 第185(当)期 >

(単位：百万ウォン)

区分	期末		期首		税効果の増減
	税引前金額	税効果	税引前金額	税効果	
売却可能金融資産評価損益	212,018	(51,308)	497,807	(120,469)	69,161
海外事業損益	(45,248)	10,950	(49,017)	11,862	(912)
再測定要素	(370,977)	89,775	(396,286)	95,901	(6,126)
その他資本調整	(1,170)	284	1,904	(461)	745
合計	(205,377)	49,701	54,408	(13,167)	62,868

< 第184(前)期 >

(単位：百万ウォン)

区分	期末		期首		税効果の増減
	税引前金額	税効果	税引前金額	税効果	
売却可能金融資産評価損益	497,807	(120,469)	809,451	(195,887)	75,418
海外事業損益	(49,017)	11,862	(57,210)	13,845	(1,983)
再測定要素	(396,286)	95,901	(324,196)	78,455	17,446
その他資本調整	1,904	(461)	77	(19)	(442)
合計	54,408	(13,167)	428,122	(103,606)	90,439

(5) 当期法人税

当期末及び前期末現在における当期法人税資産及び負債の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第185(当)期	第184(前)期
当期法人税資産	前払法人税等	2,159	2,616
当期法人税負債	法人税未払金(連結納税負担額)	122,867	22,476
	未払法人税	1,795	236
	合計	124,662	22,712

## (6) 総額基準法人税内訳

当期末及び前期末現在、相殺前総額基準による繰延税金資産及び繰延税金負債、当期法人税資産及び当期法人税負債の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
繰延税金資産	1,794,867	1,248,198
繰延税金負債	1,410,987	1,221,423
当期法人税資産	173,043	246,530
当期法人税負債	295,546	266,626

## 37. 1株当たり利益

(1) 当期及び前期における1株当たり利益の計算内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
当期純利益	1,777,072	1,216,391
新種資本証券配当	(45,691)	(57,158)
普通株に帰属される利益	1,731,381	1,159,233
加重平均流通普通株式数(株)	1,585,615,506	1,585,615,506
基本的及び希薄化後1株当たり純利益(ウォン)	1,092	731

当行は希薄化後潜在的普通株を保有しておらず、ストックオプションは希薄化効果がないため、当期及び前期の希薄化後1株当たり純利益は基本的1株当たり純利益と一致します。

(2) 加重平均流通普通株式数

(単位：株、日)

区分	期間	株式数	加重値	加重平均流通普通株式数
第185(当)期	2016.01.01～2016.12.31	1,585,615,506	366/366	1,585,615,506
第184(前)期	2015.01.01～2015.12.31	1,585,615,506	365/365	1,585,615,506

## 38 . 偶発及び約定事項

(1) 当期末及び前期末現在、支払保証及び約定の種類別の金額は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第185(当)期	第184(前)期
支払保証	確定支払保証	9,645,729	10,444,107
	未確定支払保証	2,874,477	2,952,694
	合計	12,520,206	13,396,801
約定	ウォン貸付約定	53,270,304	52,964,080
	外貨貸付約定	17,449,285	18,761,942
	ABS及びABCP買入約定	4,145,805	3,830,837
	その他	1,335,759	1,296,769
	合計	76,201,153	76,853,628
裏書手形	担保裏書手形	32,187	29,549
	無担保裏書手形	8,822,654	7,542,862
	合計	8,854,841	7,572,411
買戻権付貸付債権売却	ウォン貨	1,387	1,387

(2) 支払保証引当負債

当期末及び前期末現在、支払保証引当負債の設定対象及び支払保証引当負債の設定比率は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
確定支払保証	9,645,729	10,444,107
未確定支払保証	2,874,477	2,952,694
ABS及びABCP買入約定	4,145,805	3,830,837
裏書手形	32,187	29,549
設定対象支払保証総額	16,698,198	17,257,187
支払保証引当負債	113,059	110,939
引当負債設定比率(%)	0.68	0.64

(3) 係争中の訴訟事件

当期末現在、当行に関連して係争中の被訴訟事件は以下の通りです。

(単位：件、百万ウォン)

事件名	件数	訴価	事件内容	訴訟現況
物品代金	1	43,761	偽造の支払保証書に基づいて物品を納品し、物品代金を受け取れなくなり、当該支払保証書に基づいて未回収の物品代金に対して当行に支払保証責任履行を請求した。	1審の一部の敗訴金額に対して全額支払っており、2審で一部勝訴して敗訴率の削減、(敗訴率70% 60%、差額回収)、3審が進行中である。
株式返還等の請求訴訟	1	31,000	原告とPEFの間に締結したメディソン株式会社に対する売買契約は解約しないし取り消されており、これと一体となっている当事者間のオプション契約、修正オプション契約もまた無効となったため、株式売買契約の無効を根拠としてメディソン株式の返還等を要求している。	1次～4次の弁論期間中、原告と被告との間に準備書面の提出を通じた攻防が行われ、被告側は2次の弁論期日以降には、原告側が要請して裁判所が承認した資料以外に別途の準備書面は提出していない。
Lehman Brothers Special Financing Inc (LBSF)	1	12,085	Lehman Brothersが破産した後、当行及び投資者にCDO投資金を返還したが、これは、アメリカ破産法に反するもので、誤って支払われたものであるため、返還することを請求した。	Lehman Brothers側と仲裁手続を行って合意金を支払うために準備していたものの、当行を含む被告が1審で勝訴したため、合意金の支払を拒絶している状態である。今後、仲裁の効力及び2審の勝訴可能性等を勘案して対応する予定である。
その他	121	166,743	損害賠償等多数	
合計	124	253,589		

当行は当期末現在、1審で敗訴が決定された訴訟案件等に関して12,044百万ウォンを訴訟引当負債として計上しており、引当負債として計上された訴訟以外の残余訴訟結果は財務諸表に重大な影響を及ぼさないと予測されているものの、今後の訴訟結果により追加的な損失が発生する可能性もあります。

(4) 元本または利益補填信託

当期末及び前期末現在、元金補填及び元利金補填約定がある信託の帳簿価額は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第185(当)期	第184(前)期
元金補填約定	時価評価型	2,545,515	2,351,370
	帳簿価額評価型	1,660,841	1,638,806
	小計	4,206,356	3,990,176
元利金補填約定	帳簿価額評価型	1,695	1,674
合計		4,208,051	3,991,850
金銭信託元本		3,841,990	3,649,394
未払信託利益		366,061	342,456

当期以降、約定信託の運用結果により損失が追加で発生する可能性があります。当期末及び前期末現在、約定信託の運用結果により追加で負担すべき金額はありません。

(5) オペレーティングリースの満期構造

当期末及び前期末現在、解約不可能リース契約により支払わなければならない将来最低リース料約定金額は以下の通りです。

< 第185(当)期 >

(単位：百万ウォン)

区分	1年以内	1年超過5年以内	5年超過	合計
最低リース料	153,107	130,953	1,376	285,436

< 第184(前)期 >

(単位：百万ウォン)

区分	1年以内	1年超過5年以内	5年超過	合計
最低リース料	168,240	181,635	989	350,864

## 39. キャッシュ・フロー計算書に対する注記

(1) 当期末及び前期末現在、キャッシュ・フロー計算書上の現金及び現金性資産の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
現金	1,669,277	1,823,134
支払準備預け金	2,718,354	7,794,542
その他預け金	5,265,489	3,517,453
財務状態表上の現金預け金	9,653,120	13,135,129
使用制限預け金	(7,340,215)	(11,139,551)
取得当時に満期日が3ヶ月を超過した預け金	(7,880)	(7,565)
合計	2,305,025	1,988,013

(2) 当期及び前期中に、現金の流入及び流出を伴わない取引の主な内容は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
新種資本証券未払配当金	1,309	9,231
貸付債権出資転換	32,229	34,218
無形資産取得未払金	2,825	59,810

## 40. 特殊関係者取引

## (1) 特殊関係者債権・債務

当期末及び前期末現在、特殊関係者間の重要な債権・債務の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

特殊関係者	勘定科目	第185(当)期	第184(前)期
1) 連結対象従属企業			
新韓アジュ金融有限公司	現金預け金	145	188
	貸付債権	231,406	128,920
	貸倒引当金	(44)	(28)
	その他資産	138	55
	預金	175	-
ヨーロッパ新韓銀行	現金預け金	3,917	1,071
	貸付債権	174,024	111,340
	貸倒引当金	(520)	(395)
	その他資産	266	148
	預金	9	6
	借入負債	52,117	67,386
新韓クメール銀行	現金預け金	907	41
	貸付債権	42,298	11,720
	貸倒引当金	(59)	(16)
	その他資産	85	17
新韓カザフスタン銀行	現金預け金	5,156	285
	貸付債権	2,175	5,626
	貸倒引当金	(10)	(8)
	預金	7,332	6
カナダ新韓銀行	現金預け金	168	-
	貸付債権	94,399	83,248
	貸倒引当金	(276)	(242)
	その他資産	140	73
	預金	181	67
	借入負債	-	27,000

新韓銀行中国有限公司	現金預け金	5,929	4
	貸付債権	290,956	308,502
	貸倒引当金	(405)	(419)
	その他資産	589	276
	預金	836	60,876
	借入負債	22,420	13,127
	引当負債	94	97
SBJ銀行	貸付債権	302,125	130,410
	貸倒引当金	(224)	(97)
	その他資産	666	543
	預金	1,912	266,877
	借入負債	160,906	315,369
	引当負債	98	92
	その他負債	-	6,132
新韓バンク・ベトナム	現金預け金	83	-
	貸付債権	42,442	196,896
	貸倒引当金	(17)	(198)
	その他資産	-	2,337
	預金	32	9
	引当負債	518	138
	その他負債	-	1,925
新韓インドネシア銀行	現金預け金	7	-
	貸付債権	12,085	-
	貸倒引当金	(2)	-
	その他資産	17	-
アメリカ新韓銀行	その他資産	2	6
	その他負債	2	6
信託	その他資産	4,064	1,733
	その他負債	214,952	234,503

構造化企業	売買目的金融資産	1,605,081	1,119,928
	デリバティブ資産	1,509	2,409
	貸付債権	22,738	16,205
	貸倒引当金	(82)	(26)
	その他資産	12,807	16,604
	預金	64,095	6,259
	デリバティブ負債	2,077	7
	引当負債	15,186	17,143
	その他負債	-	16
受益証券	その他資産	-	1
	預金	-	7
2) 当行の支配企業			
新韓金融持株会社	その他資産	-	47
	預金	42	500,909
	その他負債	166,191	57,888
3) 同一支配企業			
新韓カード	デリバティブ資産	4,365	10,452
	その他資産	2,097	2,039
	預金	86,658	88,779
	デリバティブ負債	119	-
	引当負債	48	48
	その他負債	19,881	20,130
新韓金融投資	現金預け金	725	-
	デリバティブ資産	53,546	9,676
	貸付債権	-	9,426
	貸倒引当金	-	(83)
	その他資産	18,823	18,530
	預金	252,707	180,784
	デリバティブ負債	4,354	5,180
	引当負債	33	76
その他負債	34,423	32,786	

新韓生命	デリバティブ資産	40,604	14,215
	その他資産	7	8
	預金	9,526	6,424
	デリバティブ負債	369	566
	引当負債	4	4
	その他負債	13,913	38,690
新韓キャピタル	預金	457	573
	借入負債	13,000	-
	引当負債	10	10
	その他負債	9,670	1,299
濟州銀行	貸付債権	2,903	4,282
	貸倒引当金	(1)	(2)
	その他資産	6	20
	預金	3,530	3,605
	その他負債	1,604	1,604
新韓信用情報	預金	7,836	8,571
	その他負債	1,119	1,188
新韓プライベートエクイティ	貸付債権	-	3,000
	貸倒引当金	-	(16)
	預金	12	65
	引当負債	-	8
新韓BNPパリバ資産運用	預金	42,549	72,601
	その他負債	821	1,127
SHCマネージメント	預金	-	100
	その他負債	-	2
新韓データシステム	預金	3,940	3,069
	その他負債	6,658	4,148
新韓貯蓄銀行	その他負債	8,987	-
新韓アイタス	預金	20,296	16,200
	その他負債	42	69
4) 関係企業及び同一支配企業の関係企業			

アジュキャピタル	売買目的金融資産	49,990	99,953
	貸付債権	210,000	160,000
	貸倒引当金	(611)	(466)
	預金	692	1,061
	引当負債	73	55
BNPパリバカーディフ生命保険	預金	353	644
	引当負債	1	1
連合資産管理(注1)	貸付債権	-	23,100
	貸倒引当金	-	(31)
	預金	-	410
	引当負債	-	46
浦項テクノパーク2PFV	預金	14,658	14,662
極東建設(注1)	預金	-	5,388
	引当負債	-	15
BNPパリバカーディフ損害保険	預金	13	12
ドリームハイ投資組合3号	預金	1	4
SHレンタルサービス	預金	-	219
SP新技術事業投資組合1号	預金	-	283
マイダス東亜スノーボール投資組合	預金	427	303
IBKS 新韓創造経済 新技術事業投資組合	預金	1,751	1,463
EQPグローバルエネルギー インフラ私募投資専門会社	預金	1	3
ジェヨンソリュートック	貸付債権	14,356	15,276
	貸倒引当金	(69)	(159)
	預金	7,638	15,261
	引当負債	7	15
パートナーズ第4号 Growth投資組合	預金	2,160	2,704
クレディアンヘルスケア第2号 私募投資合資会社	預金	7	-
スノーボール投資組合第2号	預金	242	-
IBKS 新韓創造経済 新技術事業投資組合第2号	預金	179	-

PSA第1号フィンテック 私募投資合資会社	預金	525	-
イウム第3号私募投資合資会社	預金	80	-
ブランビル	貸付債権	15	-
	預金	28	-
5) 主な経営陣			
	貸付債権	936	1,497
	貸倒引当金	(1)	(1)
	引当負債	1	1

(注) 当期中に関係企業及び同一支配企業の関係企業から除外されました。

## (2) 特殊関係者収益・費用

当期及び前期における特殊関係者間の重要な取引内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

特殊関係者	勘定科目	第185(当)期	第184(前)期
1) 連結対象従属企業			
新韓アジュ金融有限公司	受取利息	1,885	1,057
	貸倒償却費	(16)	13
ヨーロッパ新韓銀行	受取利息	1,572	1,148
	受取手数料	30	29
	貸倒償却費	(125)	(57)
新韓クメール銀行	受取利息	745	144
	受取手数料	54	17
	貸倒償却費	(43)	-
新韓カザフスタン銀行	受取利息	25	25
	受取手数料	53	63
	貸倒償却費	(2)	-
カナダ新韓銀行	受取利息	1,334	823
	受取手数料	47	59
	貸倒償却費	(34)	(175)
新韓銀行中国有限公司	受取利息	2,800	2,467
	受取手数料	180	369
	その他営業収益	3	663
	支払利息	(2,330)	-
	貸倒償却費	14	165
SBJ銀行	受取利息	1,939	850
	受取手数料	167	199
	支払利息	(1,326)	(5,230)
	デリバティブ関連損失	(84)	-
	貸倒償却費	(127)	25
	その他営業費用	(6)	(78)

新韓バンク・ベトナム	受取利息	902	1,578
	受取手数料	864	967
	その他営業収益	-	109
	貸倒償却費	181	(144)
	その他営業費用	(380)	-
新韓インドネシア銀行	受取利息	17	-
	貸倒償却費	(2)	-
アメリカ新韓銀行	受取手数料	73	204
信託	受取手数料	23,513	19,294
	支払利息	(2,743)	(4,200)
構造化企業	受取利息	22,621	14,653
	受取手数料	10,850	5,444
	デリバティブ関連利益	4,371	3,024
	その他営業収益	1	23
	支払利息	(41)	17
	デリバティブ関連損失	(4,603)	(813)
	貸倒償却費	(56)	37
	その他営業費用	(1,647)	(389)
受益証券	受取手数料	-	17
2) 当行の支配企業			
新韓金融持株会社	その他営業収益	2,011	2,054
	支払利息	(1,751)	(2,429)
	支払手数料	(29,893)	(45,368)
3) 同一支配企業			
新韓カード	受取利息	417	199
	受取手数料	180,127	175,800
	デリバティブ関連利益	7,317	8,649
	その他営業収益	1,726	1,930
	支払利息	(251)	(346)
	支払手数料	(325)	(317)
	デリバティブ関連損失	(5,986)	(2,490)
	その他営業費用	(1,982)	(395)

新韓金融投資	受取利息	796	1,382
	受取手数料	4,517	4,077
	デリバティブ関連利益	59,157	9,003
	その他営業収益	4,431	3,692
	支払利息	(1,317)	(2,135)
	支払手数料	-	(12)
	デリバティブ関連損失	(13,564)	(7,630)
	貸倒償却費	83	(22)
	その他営業費用	(1,171)	(824)
新韓生命	受取利息	45	50
	受取手数料	6,688	9,939
	デリバティブ関連利益	45,570	22,643
	その他営業収益	1,400	1,889
	支払利息	(315)	(828)
	デリバティブ関連損失	(9,531)	(3,766)
	その他営業費用	(557)	(645)
新韓キャピタル	受取利息	-	1
	デリバティブ関連利益	-	29
	その他営業収益	302	899
	支払利息	(150)	(219)
	支払手数料	(14)	(2)
	その他営業費用	-	(6)
済州銀行	受取利息	43	41
	その他営業収益	230	204
	支払利息	(33)	(30)
	貸倒償却費	1	1
	その他営業費用	(11)	-
新韓信用情報	受取手数料	2	2
	その他営業収益	67	77
	支払利息	(126)	(190)
	支払手数料	(4,895)	(5,474)

新韓プライベートエクイティ	その他営業収益	8	-
	支払利息	-	(3)
	貸倒償却費	16	3
	その他営業費用	-	(3)
新韓BNPパリバ資産運用	受取手数料	42	55
	その他営業収益	52	53
	支払利息	(747)	(1,770)
	支払手数料	(2,243)	(2,579)
SHCマネージメント	支払利息	-	(2)
新韓データシステム	その他営業収益	119	89
	支払利息	(142)	(141)
	その他営業費用	(31,281)	(32,447)
新韓貯蓄銀行	受取手数料	481	229
	その他営業収益	116	61
	支払利息	(60)	-
新韓アイタス	受取手数料	28	27
	その他営業収益	49	55
	支払利息	(153)	(215)
	支払手数料	-	(8)
新韓BNPP名品ファンド セレクション証券投資信託	受取手数料	2	-
4) 関係企業及び同一支配企業の関係企業			
アジュキャピタル	受取利息	7,332	6,440
	受取手数料	72	78
	その他営業収益	-	23
	支払利息	(2)	(1)
	貸倒償却費	(146)	148
	その他営業費用	(18)	-
BNPパリバカーディフ生命保険	受取手数料	30	30
	その他営業費用	(1)	-

連合資産管理(注1)	受取利息	-	4
	受取手数料	-	9
	その他営業収益	-	4
	貸倒償却費	-	(31)
浦項テクノパーク2PFV	支払利息	(15)	(15)
極東建設(注1)	受取利息	-	26
	受取手数料	-	16
	支払利息	-	(35)
	支払手数料	-	(3)
	その他営業費用	-	(15)
BNPパリバカーディフ損害保険	受取手数料	2	2
ドリームハイ投資組合3号	支払利息	-	(5)
SHレンタルサービス	支払利息	-	(1)
マイダス東亜 スノーボール投資組合	支払利息	(4)	(3)
IBKS 新韓創造経済 新技術事業投資組合	支払利息	(1)	(2)
ジェヨンソリュートック	受取利息	671	616
	受取手数料	1	1
	その他営業収益	7	-
	支払利息	(21)	(47)
	貸倒償却費	90	(159)
	その他営業費用	-	(15)
パートナーズ第4号 Growth投資組合	支払利息	(2)	(6)
アルバトロスグロスファンド	支払利息	(6)	-
PSA第1号フィンテック 私募投資合資会社	支払利息	(5)	-
スノーボール投資組合第2号	支払利息	(1)	-
シメンティック	受取利息	15	-
ブランビル	受取手数料	1	-
ナムワアイ	受取利息	3	-
5) 主な経営陣			
受取利息		35	63

(注1) 当期中に関係企業及び同一支配企業の関係企業から除外されました。

(3) 特殊関係者に対する給与

当期及び前期における特殊関係者に対する給与の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

勘定科目	第185(当)期	第184(前)期
長・短期従業員給与	7,770	8,684
退職給付	327	242
株式基準報酬	4,447	2,830
合計	12,544	11,756

(4) 特殊関係者の支払保証及び未使用限度の内訳

当期末及び前期末における特殊関係者間の主な支払保証の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

提供者	提供を受けている者	保証金額		保証内訳
		第185(当)期	第184(前)期	

新韓 銀行	新韓金融投資	6,043	10,548	履行保証（支払保証書方式）
		181,000	181,000	未使用貸付限度
	新韓カード	500,000	500,000	未使用貸付限度
	新韓生命	50,000	50,000	未使用貸付限度
	新韓キャピタル	50,000	50,000	未使用貸付限度
	新韓BNPパリバ資産運用	104,008	43,063	証券引受約定
	新韓 プライベートエクイティ	-	4,344	未使用貸付限度
	KoFC新韓フロンティア チャンプ2010の4号 私募投資専門会社	-	13,417	証券引受約定
	BNPパリバカードィフ 生命保険	10,000	10,000	未使用貸付限度
	アジュキャピタル	50,000	50,000	未使用貸付限度
	連合資産管理（注2）	-	89,100	未使用貸付限度
		-	89,950	証券引受約定
	新韓銀行中国有限公司	69,404	71,373	金融保証（支払保証書方式）
	新韓クメール銀行	604	-	金融保証（支払保証書方式）
	新韓バンク・ベトナム	436,239	88,150	金融保証（支払保証書方式）
		4,069	3,946	履行保証（支払保証書方式）
	SBJ銀行	20,736	19,440	金融保証（支払保証書方式）
	構造化企業（注1）	2,019,534	1,149,076	ABCP買入約定
		66,182	13,390	未使用貸付限度
	極東建設（注2）	-	1,574	履行保証（支払保証書方式）
Neoplux投資組合	12,000	18,000	証券引受約定	
ジェヨンソリューテック	600	600	未使用限度	
	483	469	輸入信用状発行	
合計	3,580,902	2,457,440		

（注1）構造化企業に対するABCP買入約定保証金額はABCP買入約定金額の総額から報告期間末現在既にかい入れ  
て保有しているABCP残高を減算した残高です。

（注2）当期中に関係企業及び同一支配企業の関係企業から除外されました。

(5) 特殊関係者への担保提供内訳

1) 当期末及び前期末現在、特殊関係者に提供している担保は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

提供者	会社名	担保提供資産	第185(当)期		第184(前)期	
			帳簿価額	担保設定額	帳簿価額	担保設定額
連結対象従属企業	SBJ銀行	有価証券	10,001	150,009	-	-
同一支配企業	新韓金融投資		235,084	43,799	195,496	37,646
	新韓生命		21,963	10,310	10,349	10,349
合計			267,048	204,118	205,845	47,995

2) 当期末及び前期末現在、特殊関係者から提供を受けている担保は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

提供者	会社名	担保提供資産	担保設定額	
			第185(当)期	第184(前)期
連結対象 従属企業	エイタドライブ第一次(有)	その他動産	-	8,400
	サニーモア第一次	その他動産	24,000	-
	サニー金融第九次	担保信託	36,000	-
同一支配企業	新韓金融投資	預金	112,011	22,000
		不動産	91,974	91,974
	济州銀行	国債	20,000	20,000
	新韓生命	国債	7,518	7,686
	新韓信用情報	預金	210	210
関係企業	アジュキャピタル	信託1種受益権	160,000	160,000
	BNPパリバカーディフ生命保険	国公債	13,699	13,676
	ナムワアイ	不動産	200	-
	ジェヨンソリュウテック	不動産	20,814	20,814
		輸出保険公社保証書	7,037	7,214
合計			493,463	351,974

4 1 . 信託セグメント経営成績

(1) 信託勘定の当期末及び前期末現在における資産合計、当期及び前期中の営業収益は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期		第184(前)期	
	資産合計	営業収益	資産合計	営業収益
連結対象	4,314,473	139,767	4,114,569	144,781
連結非対象	40,743,814	530,690	33,189,301	505,820
合計	45,058,287	670,457	37,303,870	650,601

(2) 当期末及び前期末における信託セグメントの主な債権・債務の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
信託勘定未払金	3,658,239	3,201,184
信託報酬未収収益	34,549	23,248
未払利息	782	998

(3) 当期及び前期における信託セグメントの主な収益・費用の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第185(当)期	第184(前)期
信託業務運用収益	122,068	90,827
中途解約による受取手数料	87	-
信託勘定未払金支払利息	38,679	49,175

[次へ](#)

재무상태표

제185(당기)기말 2016년 12월 31일 현재

제184(전기)기말 2015년 12월 31일 현재

주식회사 신한은행

(단위 : 백만원)

과목	제185(당기)기말	제184(전기)기말
<b>자 산</b>		
1. 현금및예치금 (주석3,5,8,39,40)	9,653,120	13,135,129
2. 단기대여금융자산 (주석3,6,40)	9,277,441	6,750,765
3. 파생상품자산 (주석3,7,40)	2,575,683	1,607,859
4. 대출채권 (주석3,8,40)	206,633,476	199,388,908
5. 매도가능금융자산 (주석3,9,15)	26,502,792	23,938,962
6. 만기보유금융자산 (주석3,9,15)	11,097,257	9,733,551
7. 유형자산 (주석10,15)	1,976,206	1,941,794
8. 무형자산 (주석11)	191,907	240,899
9. 관계기업등에대한투자자산 (주석12)	1,998,897	1,943,476
10. 투자부동산 (주석13)	674,958	765,402
11. 당기법인세자산 (주석36)	2,159	2,616
12. 이연법인세자산 (주석36)	383,880	26,775
13. 기타자산 (주석3,8,14,40,41)	11,848,478	9,538,924
14. 매각예정비유동자산	3,322	2,989
<b>자 산 총 계</b>	<b>282,819,576</b>	<b>269,018,149</b>
<b>부 채</b>		
1. 당기손익인식지정금융부채 (주석3,16)	6,282	13,509
2. 예수부채 (주석3,17,40)	211,043,681	198,272,132
3. 단기대여금융부채 (주석3,18)	485,995	463,766
4. 파생상품부채 (주석3,7,40)	2,781,200	1,569,331
5. 차입부채 (주석3,19,40)	13,944,878	12,875,098
6. 사채 (주석3,20)	20,923,326	19,894,611
7. 확정급여부채 (주석21)	47,413	150,920
8. 총당부채 (주석22,38,40)	320,642	306,088
9. 당기법인세부채 (주석36,40)	124,662	22,712
10. 기타부채 (주석3,23,40,41)	12,180,751	14,991,902
<b>부 채 총 계</b>	<b>261,858,830</b>	<b>248,550,069</b>
<b>자 본</b>		
1. 자본금 (주석24)	7,928,078	7,928,078
2. 신종자본증권 (주석24)	469,393	801,298
3. 자본잉여금 (주석24)	398,080	398,080
4. 자본조정 (주석24,36)	(60,664)	(29,340)
5. 기타포괄손익누계액 (주석24,36)	(154,791)	39,797
6. 이익잉여금 (주석24,25) (대손준비금 적립액)	12,380,650 (1,706,925)	11,330,167 (1,738,249)

과 목	제185(당)기 기말		제184(전)기 기말	
(대손준비금 전입(환입) 필요액)	(47,848)		((31,324))	
(대손준비금 전입(환입) 예정액)	(47,848)		((31,324))	
자 본 총 계		20,960,746		20,468,080
부채와자본총계		282,819,576		269,018,149

\*첨부된 주석은 본 재무제표의 일부입니다.\*

포괄손익계산서

제185(당)기 2016년 1월 1일부터 2016년 12월 31일까지

제184(전)기 2015년 1월 1일부터 2015년 12월 31일까지

주식회사 신한은행

(단위 : 백만원)

과목	제185(당)기	제184(전)기
I. 영업이익	1,720,770	1,516,139
(1) 순이자손익 (주석3,26,40)	4,129,141	3,871,248
1. 이자수익 (주석35)	7,107,771	7,152,420
2. 이자비용	2,978,630	3,281,172
(2) 순수수료손익 (주석3,27,40)	862,360	828,561
1. 수수료수익 (주석35)	1,017,011	1,009,738
2. 수수료비용	154,651	181,177
(3) 배당수익 (주석28,35)	121,239	182,217
(4) 단기매매금융상품관련손익 (주석29,35,40)	60,483	115,201
(5) 외환거래손익 (주석35)	183,314	40,799
(6) 당기손익인식지정금융상품관련손익 (주석16,35)	(206)	(16)
(7) 매도가능금융자산처분손익 (주석9,35)	408,496	417,892
(8) 금융상품자산손상차손 (주석3,8,30,40)	721,846	798,568
1. 대손상각비	638,586	591,988
2. 기타금융상품손상차손	83,260	206,570
(9) 일반관리비 (주석31,40)	2,676,573	2,605,069
(10) 기타영업손익 (주석33,35,40)	(645,638)	(536,136)
II. 영업외손익 (주석34)	84,055	33,791
III. 법인세비용차감전순이익	1,804,825	1,549,930
IV. 법인세비용 (주석36)	27,753	333,539
V. 당기순이익 (주석25) (대손준비금 반영후 조정이익 당기: 1,729,224백만원, 전기: 1,247,715백만원)	1,777,072	1,216,391
VI. 기타포괄손익 (주석3,24,36)	(194,588)	(284,661)
(1) 후속적으로 당기손익으로 재분류되는 항목	(213,771)	(230,016)
1. 해외사업환산손익	2,857	6,210
2. 매도가능금융자산평가손익	(216,628)	(236,226)
(2) 후속적으로 당기손익으로 재분류되지 않는 항목	19,183	(54,645)
1. 확정급여제도의 재측정요소	19,183	(54,645)
VII. 총포괄이익	1,582,484	931,730
VIII. 주당이익 (주석37)		
1. 기본주당순이익	1,082원	731원
2. 희석주당순이익	1,082원	731원

\*첨부된 주석은 본 재무제표의 일부입니다.\*

자 본 변 동 표

제185(당)기 2016년 1월 1일부터 2016년 12월 31일까지

제184(전)기 2015년 1월 1일부터 2015년 12월 31일까지

주식회사 신한은행

(단위: 백만원)

과 목	자본금	신종 자본증권	자본잉여금	자본조정	기타포괄 손익누계액	이익잉여금	합 계
I. 2015년 1월 1일 (전기초)	7,928,078	1,100,250	398,080	(843)	324,458	10,621,834	20,371,857
총포괄손익:	-	-	-	-	(284,661)	1,216,391	931,730
(1) 당기순이익	-	-	-	-	-	1,216,391	1,216,391
(2) 기타포괄손익	-	-	-	-	(284,661)	-	(284,661)
1. 해외사업환산손익	-	-	-	-	6,210	-	6,210
2. 매도가능금융자산평가손익	-	-	-	-	(236,226)	-	(236,226)
3. 확정급여제도의 재측정요소	-	-	-	-	(54,645)	-	(54,645)
소유주와의 거래 등:	-	(298,962)	-	(28,497)	-	(508,058)	(835,507)
(1) 연차배당	-	-	-	-	-	(450,000)	(450,000)
(2) 신종자본증권 배당	-	-	-	-	-	(57,158)	(57,158)
(3) 신종자본증권 상환	-	(298,962)	-	(30,897)	-	-	(329,849)
(4) 주식보상비용	-	-	-	1,500	-	-	1,500
(5) 기타	-	-	-	900	-	(900)	-
II. 2015년 12월 31일 (전기말)	7,928,078	801,298	398,080	(29,340)	39,797	11,330,167	20,468,080
III. 2016년 1월 1일 (당기초)	7,928,078	801,298	398,080	(29,340)	39,797	11,330,167	20,468,080
총포괄손익:	-	-	-	-	(194,588)	1,777,072	1,582,484
(1) 당기순이익	-	-	-	-	-	1,777,072	1,777,072
(2) 기타포괄손익	-	-	-	-	(194,588)	-	(194,588)
1. 해외사업환산손익	-	-	-	-	2,857	-	2,857
2. 매도가능금융자산평가손익	-	-	-	-	(216,628)	-	(216,628)
3. 확정급여제도의 재측정요소	-	-	-	-	19,183	-	19,183
소유주와의 거래 등:	-	(331,905)	-	(31,324)	-	(726,588)	(1,089,818)
(1) 연차배당	-	-	-	-	-	(650,000)	(650,000)
(2) 신종자본증권 배당	-	-	-	-	-	(45,691)	(45,691)
(3) 신종자본증권 상환	-	(331,905)	-	(60,094)	-	-	(391,999)
(4) 주식보상비용	-	-	-	(2,128)	-	-	(2,128)
(5) 기타	-	-	-	30,898	-	(30,898)	-
IV. 2016년 12월 31일 (당기말)	7,928,078	469,393	398,080	(60,664)	(154,791)	12,380,650	20,960,746

\*첨부된 주석은 본 재무제표의 일부입니다.\*

현금흐름표

제185(당)기 2016년 1월 1일부터 2016년 12월 31일까지

제184(전)기 2015년 1월 1일부터 2015년 12월 31일까지

주식회사 신한은행

(단위 : 백만원)

과목	제185(당)기	제184(전)기
1. 영업활동으로 인한 현금흐름	2,678,339	581,177
(1) 법인세비용차감전순이익	1,804,825	1,549,930
(2) 손익조정사항	(4,280,829)	(4,055,314)
1. 이자수익	(7,107,771)	(7,152,420)
2. 이자비용	2,978,630	3,281,172
3. 배당수익	(151,688)	(184,066)
(3) 현금유출입이없는손익항목	742,150	675,721
1. 당기손익지정금융상품관련손익	206	(95)
2. 단기매매금융상품관련손익	32,863	(48,518)
3. 외환거래손익	27,004	100,659
4. 매도가능금융자산처분손익	(408,496)	(417,892)
5. 대손상각비	638,586	591,988
6. 기타금융상품손상차손	83,280	206,570
7. 종업원관련비용	147,115	134,135
8. 감가상각비및기타상각비	147,351	154,118
9. 기타영업손익	59,700	(60,579)
10. 영업외손익	14,561	15,335
(4) 자산·부채의증감	197,206	(1,139,200)
1. 예치금	3,816,718	(2,086,916)
2. 단기매매금융자산	(2,517,195)	(842,122)
3. 파생상품자산	1,144,756	892,721
4. 대출채권	(8,073,959)	(19,853,508)
5. 기타자산	(2,355,192)	(1,603,373)
6. 당기손익지정금융부채	(7,433)	7,464
7. 예수부채	12,470,256	21,537,532
8. 단기매매금융부채	(46,766)	59,864
9. 파생상품부채	(1,129,334)	(895,920)
10. 확정급여부채	(216,364)	(292,731)
11. 총당부채	(17,606)	(12,703)
12. 기타부채	(2,870,675)	1,950,492
(5) 법인세의 납부	(219,608)	(372,066)

과 목	제185(당기)	제184(전기)
(6) 이자의 수취	7,266,768	7,182,638
(7) 이자의 지급	(2,963,861)	(3,444,598)
(8) 배당금의 수취	151,688	184,066
II. 투자활동으로 인한 현금흐름	(3,936,319)	(4,314,344)
1. 매도가능금융자산의 감소	20,547,391	21,193,626
2. 매도가능금융자산의 취득	(22,968,683)	(23,246,485)
3. 만기보유금융자산의 감소	1,071,474	1,574,301
4. 만기보유금융자산의 취득	(2,418,930)	(3,553,037)
5. 유형자산의 처분	1,608	2,300
6. 유형자산의 취득	(67,506)	(86,848)
7. 무형자산의 처분	1,313	819
8. 무형자산의 취득	(30,622)	(94,415)
9. 관계기업등에대한투자자산의 처분	332	-
10. 관계기업등에대한투자자산의 취득	(140,545)	(206,943)
11. 투자부동산의 처분	17,953	6,097
12. 투자부동산의 취득	(6,910)	(1,844)
13. 매각예정자산의 처분	2,215	1,746
14. 기타자산의 감소	868,794	668,158
15. 기타자산의 증가	(824,203)	(571,819)
III. 재무활동으로 인한 현금흐름	1,591,595	2,218,791
1. 차입부채의 순증감	785,725	(197,824)
2. 사채의 발행	8,219,787	9,855,123
3. 사채의 상환	(6,315,133)	(6,600,102)
4. 배당금의 지급	(703,612)	(512,863)
5. 신종자본증권의 상환	(391,999)	(329,849)
6. 기타부채의 증가	131,204	98,633
7. 기타부채의 감소	(134,377)	(94,327)
IV. 외화표시 현금 및 현금성자산에 대한 환율변동효과	(16,603)	917
V. 현금 및 현금성자산의 증가(감소)	317,012	(1,513,459)
VI. 기초의 현금 및 현금성자산 (주석39)	1,988,013	3,501,472
VII. 기말의 현금 및 현금성자산 (주석39)	2,305,025	1,988,013

\*첨부된 주석은 본 재무제표의 일부입니다.\*

## 주식

제185(당)기 2016년 12월 31일 현재

제184(전)기 2015년 12월 31일 현재

주식회사 신한은행

### 1. 은행의 개요

주식회사 신한은행(이하 "당행"이라 함)은 금융업을 주목적사업으로 하여 1897년 2월 19일 설립된 한성은행과 1906년 8월 8일 설립된 동일은행의 신설합병(1943년 10월 1일, 은행명: 주식회사 조흥은행)으로 설립되었으며 서울특별시 중구 세종대로 9길 20에 본점을 두고 있습니다.

당행은 1999년에 충북은행과 강원은행을 흡수합병하였고, 2006년 4월 1일에는 구 신한은행을 흡수합병하였으며, 은행의 사명을 주식회사 신한은행으로 변경하였습니다. 당기말 현재 당행의 자본금은 7,928,078백만원, 발행주식수는 1,585,615,506주이며, 당행의 주식은 신한금융지주회사가 100% 보유하고 있습니다. 당기말 현재 당행은 국내지점 762개, 국내출장소 109개, 영업장 23개, 해외지점 14개를 운영하고 있습니다.

### 2. 유의적인 회계정책

당행이 채택하고 있는 유의적인 회계정책은 다음과 같습니다.

#### (1) 재무제표 작성기준

당행은 주식회사의 외부감사에 관한 법률 제13조 1항 1호에서 규정하고 있는 국제회계기준위원회(국제회계기준)의 국제회계기준을 채택하여 정한 회계처리기준인 한국채택국제회계기준에 따라 재무제표를 작성하였습니다.

당행의 재무제표는 기업회계기준서 제1027호 '별도재무제표'에 따른 별도재무제표로서 지배기업, 관계기업의 투자자 또는 공동기업의 참여자가 투자자산을 피투자자의 보고된 성과와 순자산에 근거하지 않고 직접적인 지분 투자에 근거한 회계처리로 표시한 재무제표입니다.

당기 및 비교 표시된 전기의 재무제표는 아래에 기술되는 회계정책에 따라 작성되었습니다.

#### (2) 측정기준

재무제표는 아래에서 열거하고 있는 재무상대표의 주요항목을 제외하고는 역사적원가를 기준으로 작성되었습니다.

- 공정가치로 측정되는 파생상품
- 공정가치로 측정되는 당기손익인식금융상품
- 공정가치로 측정되는 매도가능금융상품
- 공정가치로 측정되는 주식기준보상
- 공정가치위험회피회계 위험회피대상항목으로 지정되어 회피대상위험으로 인한 공정가치 변동을 당기손익으로 인식하는 금융자산 및 금융부채
- 확정급여채무의 현재가치에서 사외적립자산의 공정가치를 차감한 확정급여부채

#### (3) 기능통화와 표시통화

당행은 재무제표에 포함되는 항목들을 영업활동이 이루어지는 주된 경제환경의 통화(기능통화)로 표시하고 있습니다. 당행의 재무제표는 기능통화 및 표시통화인 '원'으로 표시하고 있습니다.

#### (4) 추정과 판단

한국채택국제회계기준에서는 재무제표를 작성함에 있어서 회계정책의 적용이나, 보고기간말 현재 자산, 부채 및 수익, 비용의 보고금액에 영향을 미치는 사항에 대하여 경영진의 최선의 판단을 기준으로 한 추정치와 가정의 사용을 요구하고 있습니다. 보고기간말 현재 경영진의 최선의 판단을 기준으로 한 추정치와 가정이 실제 환경과 다를 경우 이러한 추정치와 실제 결과는 다를 수 있습니다.

추정치와 추정에 대한 기본 가정은 지속적으로 검토되고 있으며, 회계추정의 변경은 추정이 변경된 기간과 미래 영향을 받을 기간 동안 인식되고 있습니다. 보다 높은 정도의 판단과 복잡성이 필요한 부분 또는 가정과 추정이 재무제표에 유의적인 부분은 주석 4에 공시되어 있습니다.

(5) 회계정책의 변경

당행은 2015년 12월 31일로 종료하는 회계연도의 연차재무제표를 작성할 때에 적용한 것과 동일한 회계정책을 적용하고 있습니다.

(6) 재무제표의 발행승인일

당행의 재무제표는 2017년 2월 7일 이사회에서 승인되었습니다.

(7) 종속기업, 공동기업 및 관계기업 투자지분

당행은 종속기업, 공동기업 및 관계기업 투자지분에 대한 투자자산에 대해서 기업회계기준서 제1027호 '별도재무제표'에 따른 원가법을 선택하여 회계처리하였습니다. 다만, 종속기업, 공동기업 및 관계기업 투자지분에 대해서는 기업회계기준서 제1101호 '한국채택국제회계기준의 최초채택'을 적용하여 한국채택국제회계기준 전환일의 과거회계기준에 따른 장부금액을 간주원가로 사용하여 측정하였습니다. 한편, 종속기업, 공동기업 및 관계기업 투자지분으로부터 수취하는 배당금은 배당을 받을 권리가 확정되는 시점에 당기손익으로 인식하고 있습니다.

## (8) 외화환산

### 1) 외화거래

재무제표 작성에 있어서 당행의 기능통화 외의 통화(외화)로 이루어진 거래는 거래일의 환율로 적용하여 기록하고 있습니다. 매 보고기간말에 화폐성 외화항목은 보고기간 말의 마감환율로 환산하고 있습니다. 공정가치로 측정하는 비화폐성 외화항목은 공정가치가 결정된 날의 환율로 환산하고, 역사적원가로 측정하는 비화폐성항목은 거래일의 환율로 환산하고 있습니다.

해외사업장순투자 환산차이와 현금흐름위험회피 및 순투자의 위험회피 수단으로 지정된 금융부채에서 발생한 환산차이를 제외하고 화폐성항목의 환산으로 인해 발생한 외환차이와 화폐성항목의 결제시점에 생기는 외환차이는 모두 당기손익으로 인식하고 있습니다. 비화폐성항목에서 발생한 손익을 기타포괄손익으로 인식하는 경우에는 그 손익에 포함된 환율변동효과도 기타포괄손익으로 인식하고, 당기손익으로 인식하는 경우에는 환율변동효과도 당기손익으로 인식하고 있습니다.

### 2) 해외사업장

해외사업장의 기능통화가 당행의 표시통화와 다른 경우에는 경영성과와 재무상태를 다음의 방법으로 표시통화로 환산하고 있습니다.

해외사업장의 기능통화가 초인플레이션 경제의 통화가 아닌 경우 재무상대표(비교표시하는 재무상대표 포함)의 자산과 부채는 해당 보고기간말의 마감환율로 환산하고, 포괄손익계산서(비교표시하는 포괄손익계산서 포함)의 수익과 비용은 해당 거래일의 환율로 환산하고, 환산에서 생기는 외환차이는 기타포괄손익으로 인식합니다.

해외사업장의 취득으로 생기는 영업권과 자산·부채의 장부금액에 대한 공정가치 조정액은 해외사업장의 자산·부채로 보아 해외사업장의 기능통화로 표시하고, 해외사업장의 다른 자산·부채와 함께 마감환율을 적용하여 원화로 환산하고 있습니다.

해외사업장을 처분하는 경우에는 기타포괄손익과 별도의 자본항목으로 인식한 해외사업장관련 외환차이의 누계액은 해외사업장의 처분손익을 인식하는 시점에 기타포괄손익에서 당기손익으로 재분류합니다.

### 3) 해외사업장에 대한 순투자의 환산

해외사업장으로부터 수취하거나 해외사업장에 지급할 화폐성항목 중에서 예측할 수 있는 미래에 결제할 계획이 없고 결제될 가능성이 낮은 항목은 그 해외사업장에 대한 순투자의 일부로 보아 재무제표에서 외환차이를 기타포괄손익으로 인식하고 관련 순투자의 처분 시점에 당기손익으로 재분류하고 있습니다.

### (9) 현금 및 현금성자산

당행은 보유현금과 요구불예금, 유동성이 매우 높고 확정된 금액의 현금으로 전환이 용이하고 가치변동의 위험이 경미한 단기 투자자산을 현금 및 현금성자산으로 분류하고 있습니다. 지분상품은 현금성자산에서 제외하고 있으며 다만, 상환일이 정해져 있고 취득일로부터 상환일까지의 기간이 단기인 우선주와 같이 실질적인 현금성자산인 경우에는 현금성자산에 포함하고 있습니다. 단, 외화타점차는 차입부채 계정에 포함됩니다.

### (10) 비파생금융자산

금융자산은 인식 및 측정을 위하여 당기손익인식금융자산, 만기보유금융자산, 대여금 및 수취채권, 매도가능금융자산의 네가지 범주로 구분하고 계약의 당사자가 되는 때에 재무상태표에 인식하고 있습니다. 또한, 정형화된 매입이나 매도거래(즉, 관련 시장의 규정이나 관행에 의하여 일반적으로 설정된 기간 내에 당해 금융상품을 인도하는 계약조건에 따라 금융자산을 매입하거나 매도하는 경우)의 경우에는 매매일에 인식하고 있습니다.

금융자산은 최초인식시점에 공정가치로 측정하며, 당기손익인식금융자산이 아닌 경우 금융자산의 취득과 직접 관련되는 거래원가는 최초 인식시점에 공정가치에 가산하고 있습니다.

1) 당기손익인식금융자산

당기매매금융자산이나 최초 인식시점에 당기손익인식금융자산으로 지정한 금융자산을 당기손익인식금융자산으로 분류하고 있습니다. 당기손익인식금융자산은 최초 인식 후 공정가치로 측정하며, 공정가치의 변동은 당기손익으로 인식하고 있습니다. 한편, 최초 인식시점에 취득과 관련하여 발생한 거래비용은 발생 즉시 당기손익으로 인식하고 있습니다.

2) 만기보유금융자산

만기가 고정되어 있고 지급금액이 확정되었거나 결정 가능한 비파생금융자산으로 당행이 만기까지 보유할 적극적인 의도와 능력이 있는 경우 만기보유금융자산으로 분류하고 있습니다. 최초 인식 후에는 유효이자율법을 적용하여 상각후원가로 측정하고 있습니다.

3) 대여금 및 수취채권

지급금액이 확정되었거나 결정 가능하고, 활성시장에서 거래가격이 공시되지 않는 비파생금융자산은 대여금 및 수취채권으로 분류하고 있습니다. 최초인식 후에는 유효이자율법을 적용하여 상각후원가로 측정하고 있습니다.

4) 매도가능금융자산

매도가능항목으로 지정되거나 당기손익인식금융자산, 만기보유금융자산 및 대여금 및 수취채권으로 분류되지 않은 비파생금융자산을 매도가능금융자산으로 분류하고 있습니다. 최초인식 후에는 공정가치로 측정하며 공정가치의 변동은 기타포괄손익으로 인식되고 있습니다. 단, 활성시장에서 공시되는 시장가격이 없고 공정가치를 신뢰성 있게 측정할 수 없는 지분상품과 이러한 지분상품과 연계되어 있으며 그 지분상품의 인도로 결계되어야 하는 파생상품을 원가로 측정하고 있습니다.

#### 5) 금융자산의 제거

금융자산의 현금흐름에 대한 계약상 권리가 소멸하거나, 금융자산의 현금흐름에 대한 권리를 양도하고 금융자산의 소유에 따른 위험과 보상의 대부분을 이전할 때 금융자산을 제거하고 있습니다. 만약, 금융자산의 소유에 따른 위험과 보상의 대부분을 보유하지도 않고 이전하지도 아니한 경우, 당행이 금융자산을 통제하고 있지도 않다면 금융자산을 제거하고, 금융자산을 계속 통제하고 있다면 그 양도자산에 대하여 지속적으로 관여하는 정도까지 계속하여 인식하고, 관련부채를 함께 인식하고 있습니다.

만약, 금융자산의 현금흐름에 대한 권리를 양도하였으나 금융자산의 소유에 따른 위험과 보상의 대부분을 당행이 보유하고 있는 경우에는 당해 금융자산을 계속 인식하고, 수취한 매각금액은 부채로 인식하고 있습니다.

#### 6) 금융자산과 부채의 상계

금융자산과 부채는 당행이 자산과 부채를 상계할 수 있는 법적인 권리가 있고 순액으로 결제하거나, 자산을 실현하는 동시에 부채를 결제할 의도가 있는 경우에만 상계하여 재무상태표에 순액으로 표시하고 있습니다.

#### (11) 금융자산의 손상

당행은 당기손익인식금융자산을 제외한 금융자산의 손상 발생에 대한 객관적인 증거가 있는지를 매 보고기간말에 평가하고 있습니다. 최초 인식 이후에 발생한 하나 또는 그 이상의 사건의 결과로 금융자산의 추정미래현금흐름이 영향을 받았을 경우 금융자산이 손상되었다고 판단합니다. 그러나, 미래 사건의 결과로 예상되는 손상차손은 인식하지 아니합니다.

손상발생의 객관적인 증거가 있는 경우 금융자산 범주별로 다음과 같이 손상차손을 측정하여 당기손익으로 인식합니다.

##### 1) 대출채권

상각후원가로 측정되는 대출채권의 손상차손은 당해 자산의 장부금액과 최초의 유효이자율로 할인한 추정미래현금흐름(아직 발생하지 아니한 미래의 대손은 제외)의 현재가치의 차이로 측정합니다.

이를 위하여 당사는 개별적으로 유의적인 금융자산에 대해 우선적으로 손상발생의 객관적인 증거가 있는지를 개별적으로 검토합니다.

개별적으로 유의적이지 않은 금융자산의 경우 개별적으로 또는 집합적으로 검토합니다. 개별적인 검토결과 손상발생의 객관적인 증거가 없다면, 그 금융자산은 유사한 신용위험의 특성을 가진 금융자산의 집합에 포함하여 집합적으로 손상여부를 검토합니다.

손상차손은 대손충당금계정을 사용하여 차감하고, 동 금융자산이 회수 불가능하다고 판단되는 경우 해당 금융자산과 같이 상각처리합니다. 기존에 대손상각하였던 대출채권이 후속적으로 회수된 경우 대손충당금을 증가시키며, 대손충당금의 변동은 당기손익으로 인식합니다.

#### ① 개별평가 대손충당금

개별평가 대손충당금은 평가대상 채권으로부터 회수될 것으로 기대되는 현금흐름의 현재가치에 대한 경영진의 최선의 추정에 근거합니다. 이러한 현금흐름을 추정할 때, 당사는 관련 상대방의 영업현금흐름 등의 재무적인 상황과 관련 담보물의 순실현가능가치 등 모든 이용가능한 정보를 이용하여 판단합니다.

#### ② 집합평가 대손충당금

집합평가 대손충당금은 포트폴리오에 내재된 발생손실을 측정하기 위하여 과거 경험손실률에 근거한 추정모형을 이용합니다. 동 모형은 상품 및 차주의 유형, 신용등급, 포트폴리오 크기, 손상발현기간, 회수기간 등 다양한 요인을 고려하여 각 자산(또는 자산집합)의 발생부도율(PD: Probability of Default)과 담보 및 여신과목별 명목회수율, 부도시 발생손실률(LGD: Loss Given Default)을 적용합니다. 또한, 내재된 손실의 측정을 모형화하고 과거의 경험과 현재의 상황에 기초한 입력변수를 결정하기 위해서 일정한 가정을 적용합니다. 동 모형의 방법론과 가정은 대손충당금 추정치와 실제 손실과의 차이를 감소시키기 위하여 정기적으로 검토됩니다.

## 2) 매도가능금융자산

공정가치 감소액을 기타포괄손익으로 인식하는 매도가능금융자산은 공정가치가 취득원가에 미달하는 금액에서 이전 기간에 이미 당기손익으로 인식한 당해 금융자산의 손상차손을 차감한 금액을 기타포괄손익에서 당기손익으로 재분류합니다.

후속기간에 매도가능금융자산의 공정가치가 증가하고 그 증가가 손상차손을 인식한 후에 발생한 사건과 객관적으로 관련된 경우, 매도가능채무상품은 당기손익으로 환입하고 매도가능지분상품은 기타포괄손익으로 인식합니다.

## 3) 만기보유금융자산

상각후원가로 측정되는 만기보유금융자산은 장부금액과 최초의 유효이자율로 할인한 추정미래현금흐름의 현재가치의 차이로 손상차손을 측정하며, 손상차손은 장부금액에서 직접 차감합니다.

후속기간 중 손상차손의 금액이 감소하고, 그 감소가 손상을 인식한 후에 발생한 사건과 객관적으로 관련된 경우에는 이미 인식한 손상차손은 회복 후 장부금액이 당초 손상을 인식하지 않았다면 회복일 현재 인식하였을 상각후 원가를 초과하지 않는 한도 내에서 당기손익으로 직접 환입합니다.

## (12) 파생금융상품

파생상품은 최초 인식시 계약일의 공정가치로 측정하며, 후속적으로 매 보고기간 말의 공정가치로 측정하고 있습니다. 파생상품의 공정가치 변동으로 인한 평가손익은 각각 아래와 같이 인식하고 있습니다.

### 1) 위험회피회계

당행은 이자율위험과 환율위험을 회피하기 위하여 통화선도, 이자율스왑, 통화스왑 등의 파생금융상품계약을 체결하고 있습니다. 회피대상 위험으로 인한 자산 또는 부채, 확정거래의 공정가치의 변동(공정가치위험회피), 발생가능성이 매우 높은 예상거래 또는 확정거래의 환율변동(현금흐름위험회피), 해외사업장 순투자의 환율변동위험(순투자의 위험회피)을 회피하기 위하여 일부 파생상품 및 비파생금융상품을 위험회피수단으로 지정하고 있습니다.

당행은 위험회피관계의 개시시점에 위험회피관계, 위험관리목적과 위험회피전략을 공식적으로 지정하고 문서화를 수행하고 있습니다. 또한 이 문서에는 위험회피수단, 위험회피대상항목 및 위험회피관계의 개시시점과 그 후속기간에 회피대상위험으로 인한 위험회피대상항목의 공정가치 또는 현금흐름의 변동을 위험회피수단이 상쇄하는 효과를 평가하는 방법 등을 포함하고 있습니다.

① 공정가치위험회피

위험회피수단으로 지정되고 공정가치위험회피회계의 적용요건을 충족한 파생상품의 공정가치 변동은 당기손익으로 인식하고 있으며, 회피대상위험으로 인한 위험회피대상항목의 공정가치변동도 당기손익으로 인식하고 있습니다. 위험회피수단의 공정가치변동과 회피대상위험으로 인한 위험회피대상항목의 공정가치변동은 위험회피거래와 관련된 포괄손익계산서의 같은 항목에 인식됩니다. 공정가치위험회피회계는 당행이 더 이상 위험회피관계를 지정하지 않거나 위험회피수단이 소멸, 매각, 정산 또는 행사되거나 공정가치 위험회피회계의 적용요건을 더 이상 충족하지 않을 경우 중단됩니다. 회피대상위험으로 인한 위험회피대상항목의 장부금액조정액은 위험회피회계가 중단된 날부터 상각하여 당기손익으로 인식하고 있습니다.

② 현금흐름위험회피

위험회피수단으로 지정되고 현금흐름위험회피회계의 적용요건을 충족한 파생상품의 공정가치변동분 중 위험회피에 효과적인 부분은 기타포괄손익으로 처리하며, 위험회피에 비효과적인 부분은 당기손익으로 인식하고 있습니다. 현금흐름위험회피회계는 당행이 더 이상 위험회피관계를 지정하지 않거나 위험회피수단이 소멸, 매각, 정산, 행사되거나, 현금흐름위험회피회계의 적용요건을 더 이상 충족하지 않을 경우 중단됩니다.

③ 순투자의 위험회피

위험회피수단으로 지정되고 해외사업장순투자의 위험회피회계의 적용요건을 충족한 금융상품의 공정가치 변동 중 위험회피에 효과적인 부분은 기타포괄손익으로 인식하며, 위험회피에 비효과적인 부분은 당기손익으로 인식하고 있습니다. 위험회피에 효과적이어서 기타포괄손익으로 인식한 부분은 향후 그 해외사업장을 처분하거나 그 해외사업장의 일부를 처분하는 시점에 기업회계기준서 제1021호 '환율변동효과'에 따라 재분류조정으로 기타포괄손익에서 당기손익으로 재분류합니다.

## 2) 내재파생상품

내재파생상품은 주계약의 경제적 특성 및 위험도와 밀접한 관련성이 없고 내재파생상품과 동일한 조건의 별도의 상품이 파생상품의 정의를 충족하는 경우, 복합금융상품이 당기손익인식항목으로 지정되지 않았다면 내재파생상품을 주계약과 분리하여 별도로 회계처리하고 있습니다. 주계약과 분리한 내재파생상품의 공정가치 변동은 당기손익으로 인식하고 있습니다.

## 3) 기타 파생상품

위험회피수단으로 지정되지 않은 파생상품의 공정가치 변동은 즉시 당기손익으로 인식합니다.

### (13) 유형자산

유형자산은 최초에 원가로 측정하여 인식하고 있습니다. 유형자산의 원가에는 경영진이 의도하는 방식으로 자산을 가동하는데 필요한 장소와 상태에 이르게 하는데 직접 관련되는 원가 및 자산을 해체, 제거하거나 부지를 복구하는데 소요될 것으로 추정되는 원가가 포함됩니다.

유형자산은 최초 인식 후에 원가에서 감가상각누계액과 손상차손누계액을 차감한 금액을 장부금액으로 하고 있습니다. 다만, 유형자산 중 일부 토지 및 건물에 대해서는 기업회계기준서 제1101호 '한국채택국제회계기준의 최초채택'을 적용하여 한국채택 국제회계기준 전환일 현재의 공정가치로 측정하고 이를 그 시점의 간주원가로 사용하였습니다. 공정가치 평가결과 발생한 유형자산재평가이익은 이사회 결의에 따라 배당이 제한됩니다.

유형자산의 일부를 대체할 때 발생하는 원가는 해당 자산으로부터 발생하는 미래 경제적 효익이 당행에 유입될 가능성이 높으며 그 원가를 신뢰성 있게 측정할 수 있는 경우에 자산의 장부금액에 포함하거나 적절한 경우 별도의 자산으로 인식하고 있습니다. 이 때 대체된 부분의 장부금액은 제거하고 있습니다. 그 외의 일상적인 수선·유지와 관련하여 발생하는 원가는 발생시점에 당기손익으로 인식하고 있습니다.

유형자산 중 토지는 감가상각을 하지 않으며, 그 외 유형자산은 자산의 취득원가에서 잔존가치를 차감한 금액에 대하여 아래에 제시된 경제적 내용연수에 걸쳐 정액법으로 상각하고 있습니다.

당기와 전기의 추정 내용연수는 다음과 같습니다.

구 분	내용연수
건 물	40년
기타의 유형자산	4년 ~ 5년

유형자산의 제거로 인하여 발생하는 손익은 순매각금액과 장부금액의 차이로 결정되고 그 차액은 당기손익으로 인식하고 있습니다.

당행은 매 보고기간말에 자산의 잔존가치와 내용연수 및 감가상각방법을 재검토하고 재검토 결과 추정치가 종전 추정치와 다르다면 그 차이는 회계추정의 변경으로 처리하고 있습니다.

#### (14) 무형자산

무형자산은 최초 인식할 때 원가로 측정하며, 최초 인식 후에는 원가에서 상각누계액과 손상차손누계액을 차감한 금액을 장부금액으로 인식하고 있습니다. 영업권과 회원권을 제외한 무형자산은 사용가능한 시점부터 잔존가치를 영(0)으로 하여 아래의 내용연수 동안 정액법으로 상각하고 있습니다. 관련 상각비는 일반관리비로 인식됩니다.

구 분	내용연수
소프트웨어	5년
개발비	5년
기타의 무형자산	5년 또는 계약기간

내용연수가 유한한 무형자산의 상각기간과 상각방법은 매보고기간말에 재검토하고 내용연수가 비한정인 무형자산에 대해서는 그 자산의 내용연수가 비한정이라는 평가가 계속하여 적당한 지를 매보고기간말에 재검토하며, 이를 변경하는 것이 적절하다고 판단되는 경우 회계추정의 변경으로 처리하고 있습니다.

연구 또는 내부프로젝트의 연구단계에 대한 지출은 발생시점에 비용으로 인식하고 있습니다. 개발단계의 지출은 자산을 완성할 수 있는 기술적 실현가능성, 자산을 완성하여 사용하거나 판매하려는 기업의 의도와 능력 및 필요한 자원의 입수가능성, 무형자산의 미래 경제적 효익을 모두 제시할 수 있고, 관련 지출을 신뢰성 있게 측정할 수 있는 경우에 무형자산으로 인식하고 있으며, 기타 개발관련 지출은 발생시점에 비용으로 인식하고 있습니다.

(15) 투자부동산

임대수익이나 시세차익을 얻기 위하여 보유하는 부동산은 투자부동산으로 분류하고 있습니다. 투자부동산은 최초 인식시점에 거래원가를 포함하여 원가로 측정하고, 원가모형을 적용하고 있습니다. 최초 인식 후에는 원가에서 감가상각누계액과 손상차손누계액을 차감한 금액을 장부금액으로 인식하고 있으며, 당기와 전기의 추정내용 연수와 감가상각방법은 다음과 같습니다.

구분	내용연수	감가상각방법
건물	40년	정액법

후속원가는 자산으로부터 발생하는 미래 경제적 효익이 유입될 가능성이 높으며, 그 원가를 신뢰성 있게 측정할 수 있는 경우에 한하여 자산의 장부금액에 포함하거나 적절한 경우 별도의 자산으로 인식하고 있으며, 후속지출에 의해 대체된 부분의 장부금액은 제거하고 있습니다. 한편, 일상적인 수선·유지와 관련하여 발생하는 원가는 발생시점에 당기손익으로 인식하고 있습니다.

투자부동산의 감가상각방법, 잔존가치 및 내용연수는 매 보고기간말에 재검토하고 이를 변경하는 것이 적절하다고 판단되는 경우 회계추정의 변경으로 회계처리하고 있습니다.

(16) 리스

당행은 리스자산의 소유에 따른 위험과 보상의 대부분이 리스이용자에게 이전되는 경우에는 금융리스로 분류하고, 위험과 보상의 대부분을 이전하지 않는 리스는 운용리스로 분류하고 있습니다.

#### 1) 금융리스

당행은 리스약정일에 측정된 최소리스료의 현재가치와 리스자산의 공정가치 중 작은 금액을 리스기간개시일에 금융리스자산과 금융리스부채로 각각 인식하고 있습니다. 리스개설직접원가는 금융리스자산에 포함하고 있습니다.

최소리스료는 금융원가와 리스부채의 상환액으로 나누어서 인식하고 있으며, 금융원가는 부채잔액에 대하여 일정한 기간이자율이 산출되도록 리스기간의 각 보고기간동안 배분하고 있습니다. 조정리스료는 발생한 기간에 비용으로 처리하고 있습니다.

금융리스자산의 감가상각은 당행이 소유한 다른 감가상각대상자산과 일관된 체계적인 기준으로 상각하고 있으며, 리스기간 종료시점까지 자산의 소유권을 획득할 것이 확실하지 않은 경우에는 리스기간과 리스자산의 내용연수 중 짧은 기간에 걸쳐 감가상각하고 있습니다. 또한, 당행은 금융리스자산에 대해서 손상여부를 검토하고 있습니다.

#### 2) 운용리스

운용리스하의 리스료는 리스기간에 걸쳐 정액기준으로 비용을 인식하고 있습니다.

#### (17) 매각예정비유동자산

자산 또는 처분자산집단의 장부금액이 계속 사용이 아닌 매각거래를 통하여 주로 회수될 것으로 예상된다면 이를 매각예정비유동자산으로 분류하고 있습니다. 이러한 조건은 당해 자산(또는 처분자산집단)이 현재의 상태로 즉시 매각가능하여야 하며 매각될 가능성이 매우 높을 때에만 충족된 것으로 간주하고 있습니다. 자산(또는 처분자산집단)을 매각예정으로 최초 분류하기 직전에 해당 자산(또는 자산과 부채)의 장부금액과 순공정가치 중 작은 금액으로 측정하고 있습니다. 자산의 순공정가치가 하락하면 손상차손을 즉시 당기손익으로 인식하고, 순공정가치가 증가하면 과거에 인식하였던 손상차손누계액을 한도로 하여 이익으로 인식하고 있습니다.

자산이 매각예정으로 분류되거나 매각예정으로 분류된 처분자산집단의 일부인 경우에는 그 자산은 상각하지 않습니다.

(18) 비금융자산의 손상

종업원급여에서 발생한 자산, 이연법인세자산 및 매각예정으로 분류되는 자산을 제외한 모든 비금융자산에 대해서는 매 보고기간말마다 자산손상을 시사하는 징후가 있는지를 검토하며, 만약 그러한 징후가 있다면 당해 자산의 회수가능액을 추정하고 있습니다. 단, 사업결합으로 취득한 영업권 및 내용연수가 비한정인 무형자산, 아직 사용할 수 없는 무형자산에 대해서는 자산손상을 시사하는 징후와 관계없이 매년 회수가능액과 장부금액을 비교하여 손상검사를 하고 있습니다.

회수가능액은 개별 자산별로, 또는 개별 자산의 회수가능액을 추정할 수 없다면 그 자산이 속하는 현금창출단위별로 회수가능액을 추정하고 있습니다. 회수가능액은 사용가치와 순공정가치 중 큰 금액으로 결정하고 있습니다. 사용가치는 자산이나 현금창출단위에서 창출될 것으로 기대되는 미래현금흐름을 화폐의 시간가치 및 미래현금흐름을 추정할 때 조정되지 아니한 자산의 특유위험에 대한 현행 시장의 평가를 반영한 적절한 할인율로 할인하여 추정합니다.

자산이나 현금창출단위의 회수가능액이 장부금액에 미달하는 경우 자산의 장부금액을 감소시키며 즉시 당기손익으로 인식하고 있습니다.

사업결합으로 취득한 영업권은 사업결합으로 인한 시너지효과의 혜택을 받게 될 것으로 기대되는 각 현금창출단위에 배분합니다. 현금창출단위에 대한 손상차손은 우선, 현금창출단위에 배분된 영업권의 장부금액을 감소시키고, 그 다음 현금창출단위에 속하는 다른 자산 각각의 장부금액에 비례하여 자산의 장부금액을 감소시키고 있습니다. 영업권에 대해 인식한 손상차손은 후속기간에 환입할 수 없습니다. 매 보고기간말에 영업권을 제외한 자산에 대해 과거기간에 인식한 손상차손이 더 이상 존재하지 않거나 감소된 것을 시사하는 징후가 있는지를 검토하고 직전 손상차손의 인식시점 이후 회수가능액을 결정하는 데 사용된 추정치에 변화가 있는 경우에만 환입합니다. 손상차손환입으로 증가된 장부금액은 과거에 손상차손을 인식하기 전 장부금액의 감가상각 또는 상각 후 잔액을 초과할 수 없습니다.

(19) 비파생금융부채

당행은 계약상 내용의 실질과 금융부채의 정의에 따라 금융부채를 당기손익인식금융부채와 기타금융부채로 분류하고 계약의 당사자가 되는 때에 재무상태표에 인식하고 있습니다.

1) 당기손익인식금융부채

당기손익인식금융부채는 단기매매금융부채나 최초 인식시점에 당기손익인식금융부채로 지정한 금융부채를 포함하고 있습니다. 당기손익인식금융부채는 최초인식 후 공정가치로 측정하며, 공정가치의 변동은 당기손익으로 인식하고 있습니다. 한편, 최초 인식시점에 발행과 관련하여 발생한 거래비용은 발생 즉시 당기손익으로 인식하고 있습니다.

2) 기타금융부채

당기손익인식금융부채로 분류되지 않은 비파생금융부채는 기타금융부채로 분류하며, 기타금융부채에는 예수부채, 차입부채, 사채 등을 포함합니다. 기타금융부채는 최초 인식시 발행과 직접 관련되는 거래원가를 차감한 공정가치로 측정하고 있습니다. 후속적으로 기타금융부채는 유효이자율법을 사용하여 상각후원가로 측정되며, 이자비용은 유효이자율법을 적용하여 인식합니다.

금융부채는 소멸한 경우 즉, 계약상 의무가 이행, 취소 또는 만료된 경우에만 재무상태표에서 제거하고 있습니다.

(20) 납입자본

1) 지분상품

보통주는 자본으로 분류하며 자본거래에 직접 관련되어 발생하는 증분원가는 세금효과를 반영한 순액을 자본에서 차감하고 있습니다.

2) 신종자본증권

당행이 상품의 계약조건의 실질에 따라 자본증권을 금융부채 또는 지분상품으로 분류합니다. 당행이 계약상 의무를 결제하기 위한 현금 등 금융자산의 인도를 회피할 수 있는 무조건적인 권리를 가지고 있는 신종자본증권의 경우 지분상품으로 분류하여 자본의 일부로 표시하고 있습니다.

(21) 종업원급여

1) 단기종업원급여

종업원이 관련 근무용역을 제공한 보고기간의 말부터 12개월 이내에 결제될 단기종업원급여는 근무용역과 교환하여 지급이 예상되는 금액을, 근무용역이 제공된 때에 당기손익으로 인식하고 있습니다. 단기종업원급여는 할인하지 않은 금액으로 측정하고 있습니다.

2) 기타장기종업원급여

종업원이 관련 근무용역을 제공한 보고기간의 말일부터 12개월 이내에 지급되지 않을 기타장기종업원급여(퇴직급여와 해고급여 제외)는 당기와 과거기간에 제공한 근무용역의 대가로 획득한 미래의 급여액을 현재가치로 할인하고 있습니다. 재측정에 따른 변동은 발생한 기간에 당기손익으로 인식하고 있습니다.

3) 퇴직급여: 확정급여제도

보고기간 말 현재 확정급여제도와 관련된 확정급여부채는 확정급여채무의 현재가치에서 사외적립자산의 공정가치를 차감하여 인식하고 있습니다. 확정급여부채는 매년 독립적인 계리사에 의해 예측단위적립방식으로 계산되고 있습니다. 확정급여채무의 현재가치는 확정급여제도에서 지급될 미래 현금흐름을 관련 퇴직급여의 만기와 유사한 만기를 가지는 퇴직금이 지급되는 통화로 표시된 우량회사채의 이자율을 사용하여 추정 미래 현금흐름을 할인한 후 결정되고 있습니다. 확정급여 원가 중 근무원가와 순확정급여부채(자산)의 순이자분은 당기손익으로 인식하며, 순확정급여부채(자산)의 재측정요소분은 기타포괄손익으로 인식하고 있습니다.

4) 퇴직급여: 확정기여제도

당행은 확정기여제도를 실시함에 따라 당해 회계기간중에 당행이 납부하여야 할 부담금을 퇴직급여의 과목으로 당기비용으로 인식하고 있습니다.

#### 5) 해고급여

당행은 해고급여의 제안을 더 이상 철회할 수 없을 때와 해고급여 지급을 수반하는 구조조정에 대한 원가를 인식할 때 중 이른 날에 해고급여에 대한 비용을 인식합니다.

해고급여는 지급일이 12개월이 지난 후에 도래하는 경우에는 현재가치로 할인하고 있습니다.

#### (22) 주식기준보상

당행은 제공받는 재화나 용역의 대가로 종업원에게 주식이나 주식선택권을 부여하는 주식결제형 주식보상거래에 대하여, 제공받는 재화나 용역의 공정가치 또는 제공받는 재화나 용역의 공정가치를 신뢰성있게 측정할 수 없다면 부여한 지분상품의 공정가치에 기초하여 재화나 용역의 공정가치를 간접측정하고 그 금액을 가득기간 동안에 종업원급여비용과 자본으로 인식하고 있습니다. 주식선택권의 가득조건이 용역제공조건 또는 시장조건이 아닌 가득조건인 경우에는 궁극적으로 가득되는 주식선택권의 실제수량에 기초하여 결정되도록 인식된 종업원비용을 조정하고 있습니다.

제공받는 재화나 용역의 대가로 현금을 지급하는 현금결제형 주식기준보상거래의 경우에는 제공받는 재화나 용역과 그 대가로 부담하는 부채를 공정가치로 측정하고 가득기간동안 종업원급여비용과 부채로 인식하고 있습니다. 또한 부채가 결제될 때까지 매 보고기간 말과 최종결제일에 부채의 공정가치를 재측정하고, 공정가치의 변동액은 급여로 인식하고 있습니다.

당행의 임직원에게는 모회사인 신한금융지주회사의 주식에 근거한 주식기준보상이 부여되어 있으며, 당행은 신한금융지주회사와의 상환지급약정에 따라 주식기준보상거래의 보상원가를 현금으로 부담하게 되어 있습니다. 당행은 해당 주식보상비용을 약정용역제공기간에 안분하여 기간비용 및 미지급비용으로 각각 계상하고 있습니다. 약정용역제공기간동안 임직원 등의 사망, 퇴직 또는 해고 등으로 계약의무를 이행하지 못하여 부여된 권리가 행사되지 않고 소멸하는 경우에는 기 인식한 미지급비용을 보상비용에서 차감합니다. 한편, 신한금융지주회사와의 상환지급약정에 관계없이 당행이 주식기준보상거래를 결제할 의무가 없는 연결실체 내 기업간의 주식기준보상거래는 주식결제형 주식기준보상거래로 측정하고 있습니다.

(23) 충당부채

과거사건의 결과, 현재의 법적의무 또는 의제의무가 존재하고, 당해 의무를 이행하기 위하여 경제적효익을 갖는 자원이 유출될 가능성이 높으며, 당해 의무의 이행에 소요되는 금액을 신뢰성 있게 추정할 수 있는 경우에 충당부채를 인식하고 있습니다.

충당부채로 인식하는 금액은 관련된 사건과 상황에 대한 불가피한 위험과 불확실성을 고려하여 현재의무를 보고기간말에 이행하기 위하여 소요되는 지출에 대한 최선의 추정치입니다. 화폐의 시간가치 효과가 중요한 경우 충당부채는 의무를 이행하기 위하여 예상되는 지출액의 현재가치로 평가하고 있습니다.

매 보고기간 말마다 충당부채의 잔액을 검토하고, 보고기간 말 현재 최선의 추정치를 반영하여 조정하고 있습니다. 의무이행을 위하여 경제적 효익을 갖는 자원이 유출될 가능성이 더 이상 높지 않은 경우에는 관련 충당부채를 환입하고 있습니다. 충당부채는 최초 인식과 관련 있는 지출에만 사용하고 있습니다.

(24) 금융보증계약

금융보증계약은 채무상품의 최초 계약조건이나 변경된 계약조건에 따라 지급기일에 특정 채무자가 지급하지 못하여 보유자가 입은 손실을 보상하기 위해 발행자가 특정 금액을 지급하여야 하는 계약입니다.

금융보증계약은 최초 인식시 공정가치로 측정하여 지급보증충당부채에 포함되며, 공정가치는 당해 금융보증계약의 기간 동안 상각됩니다.

최초 인식 이후에는 다음 중 큰 금액으로 측정됩니다.

- 기업회계기준서 제1037호 '충당부채, 우발부채 및 우발자산'에 따라 결정된 금액 (당해 금융보증계약으로부터 기대되는 지급 금액의 현재가치)
- 최초인식금액에서 기업회계기준서 제1018호 '수익'에 따라 인식한 상각누계액을 차감한 금액

(25) 수익 · 비용의 인식

1) 이자수익과 이자비용

이자수익과 이자비용은 유효이자율법을 적용하여 포괄손익계산서에 인식합니다. 유효이자율법은 금융자산이나 금융부채의 상각후원가를 계산하고 관련 기간에 걸쳐 이자수익이나 이자비용을 배분하는 방법입니다.

유효이자율을 계산할 때 당해 금융상품의 모든 계약조건을 고려하여 미래현금흐름을 추정하나, 미래 신용위험에 따른 손실은 고려하지 않습니다. 또한, 계약 당사자 사이에서 지급하거나 수취하는 수수료, 거래원가 및 기타의 할증액과 할인액 등을 반영합니다. 금융상품에 대한 현금흐름 또는 기대존속기간을 신뢰성 있게 추정할 수 없는 예외적인 경우에는 전체 계약기간 동안 계약상 현금흐름을 사용하여 유효이자율을 구합니다.

금융자산이나 유사한 금융자산의 집합이 손상차손으로 감액되면, 그 후의 이자수익은 손상차손을 측정할 목적으로 미래현금흐름을 할인하는 데 사용한 이자율을 사용하여 인식합니다.

2) 수수료수익

당행은 금융용역수수료를 그 수수료의 부과목적과 관련 금융상품의 회계처리 기준에 따라 다음과 같이 구분하여 처리합니다.

① 금융상품의 유효수익을 구성하는 수수료

금융상품의 유효이자율의 일부를 구성하는 수수료의 경우 일반적으로 유효이자율에 대한 조정항목으로 처리합니다. 이러한 수수료에는 차입자의 재무상태, 보증, 담보와 기타 보장약정과 관련된 평가 및 사무처리, 관련 서류의 준비 및 작성 등의 활동에 대한 보상, 금융부채 발행시 수취된 개설수수료 등이 포함됩니다. 그러나, 금융상품이 당기손익인식금융상품에 해당하는 경우 수수료는 상품의 최초 인식시점에 수익으로 인식합니다.

② 용역을 제공함으로써 가득되는 수수료

자산관리수수료, 업무수탁수수료, 보증용역수수료 등 일정기간 동안 용역의 제공대가로 부과되는 수수료는 그 용역을 제공하는 때에 수익으로 인식합니다. 또한, 특정한 대출약정이 체결될 가능성이 낮고, 그 대출약정이 기업회계기준서 제1039호 '금융상품: 인식과 측정'의 적용범위에 해당하지 않는다면, 해당 약정수수료는 약정기간에 걸쳐 기간에 비례하여 수익으로 인식합니다.

③ 유의적인 행위를 수행함으로써 가득되는 수수료

주식 또는 기타증권 매매, 사업양수도의 주선과 같이 제3자를 위한 거래의 협상 또는 협상 참여의 대가로 수취하는 수수료 및 판매수수료 등 유의적인 행위를 수행함으로써 가득되는 수수료는 유의적인 행위를 완료한 시점에 수익으로 인식합니다.

3) 배당수익

배당수익은 주주로서 배당을 받을 권리가 확정되는 시점에 수익을 인식하고 있습니다.

(26) 법인세

법인세비용은 당기법인세와 이연법인세로 구성되어 있으며, 기타포괄손익이나 자본에 직접 인식되는 거래나 사건 또는 사업결합에서 발생하는 세액을 제외하고는 당기손익으로 인식하고 있습니다.

당행의 모회사인 신한금융지주회사는 당행을 포함한 국내완전자회사를 하나의 납세단위로 보아 소득금액을 통산하여 법인세를 신고·납부하고, 당행은 신한금융지주회사에 연결법인세 부담세액 개별귀속액을 지급할 의무만 존재하므로, 해당 금액을 당기법인세부채에 포함된 미지급금으로 계상하였습니다. 자산·부채의 장부금액과 세무가액의 차이인 일시적차이와 이월공제가 가능한 세무상결손금과 세액공제 등에 대하여 미래에 부담하게 될 법인세부담액과 미래에 경감될 법인세부담액 중 당행에 직접 귀속되는 항목에 대하여 각각 이연법인세부채 및 자산으로 인식하고 있습니다. 이연법인세는 일시적차이 등의 실현이 예상되는 회계연도에 적용되는 법인세율을 사용하여 측정하고 있습니다.

종속기업, 관계기업 및 공동기업 투자지분에 관한 가산할 일시적차이에 대해서는 당행이 일시적차이의 소멸시점을 통제할 수 있으며, 예측가능한 미래에 일시적차이가 소멸하지 않을 가능성이 높은 경우를 제외하고는 모두 이연법인세부채를 인식하고 있습니다. 또한, 차감할 일시적차이로 인하여 발생하는 이연법인세자산은 일시적차이가 예측가능한 미래에 소멸 가능할 가능성이 높고, 일시적차이가 사용될 수 있는 과세소득이 발생할 가능성이 높은 경우에 인식하고 있습니다.

이연법인세자산과 부채는 보고기간말 제정되었거나 실질적으로 제정된 세법에 근거하여 당해 자산이 실현되거나 부채가 지급될 보고기간에 적용될 것으로 기대되는 세율을 사용하여 측정하고 있습니다. 이연법인세자산과 이연법인세부채를 측정할 때에는 보고기간말 현재 연결실체가 관련 자산과 부채의 장부금액을 회수하거나 결제할 것으로 예상되는 방식에 따라 법인세효과를 반영하였습니다.

이연법인세자산의 장부금액은 매 보고기간말에 검토하고, 이연법인세자산으로 인한 혜택이 사용되기에 충분한 과세소득이 발생할 가능성이 더 이상 높지 않은 경우 이연법인세자산의 장부금액을 감소시키고 있습니다.

이연법인세자산과 부채는 동일 과세당국이 부과하는 법인세이고, 연결실체가 인식된 금액을 상계할 수 있는 법적 권한을 가지고 있으며 당기 법인세부채와 자산을 순액으로 결제할 의도가 있는 경우에만 상계하고 있습니다. 배당금 지급에 따라 추가적으로 발생하는 법인세비용이 있다면 배당금지급과 관련한 부채가 인식되는 시점에 인식하고 있습니다.

#### (27) 신탁관련 회계처리

당행은 자본시장과 금융투자업에 관한 법률 제114조에 따라 신탁재산을 고유재산과 구분하여 회계처리하고 있습니다. 이와 관련하여 신탁계정에 대여한 자금을 신탁계정대여금, 신탁계정으로부터 차입한 자금을 신탁계정미지급금으로 계상하고 있으며 금융투자업규정에 따라 신탁재산의 운용, 관리 및 처분과 관련하여 신탁보수를 취득하고 이를 신탁업무운용수익으로 계상하고 있습니다.

(28) 주당이익

당행은 보통주 기본주당이익과 희석주당이익을 계속영업손익과 당기순손익에 대하여 계산하고 포괄손익계산서에 표시하고 있습니다. 기본주당이익은 보통주에 귀속되는 당기순손익을 보고기간 동안에 유통된 보통주식수를 가중평균한 주식수로 나누어 계산하고 있습니다. 희석주당이익은 종업원에게 부여한 주식기준보상 등 모든 희석 효과가 있는 잠재적 보통주의 영향을 고려하여 보통주에 귀속되는 당기순손익 및 가중평균유통보통주식수를 조정하여 계산하고 있습니다.

(29) 미적용 제·개정 기준서

제정·공표되었으나 2016년 1월 1일 이후 시작하는 회계연도에 시행일이 도래하지 아니한 제·개정 기준서는 다음과 같습니다. 당행은 연결재무제표 작성시 다음의 제·개정 기준서를 조기적용하지 아니하였습니다. 다음의 제·개정 기준서 및 해석서 적용시 연결재무제표에 미치는 영향은 보고기간말 현재로 추정할 수 없습니다.

1) 기업회계기준서 제1109호 '금융상품'

2015년 9월 25일 제정된 기업회계기준서 제1109호 '금융상품'은 2018년 1월 1일 이후 최초로 시작되는 회계연도부터 적용하되 조기 적용할 수도 있습니다. 동 기준서는 현행 기업회계기준서 제1039호 '금융상품 : 인식과 측정'을 대체할 예정입니다. 당행은 기업회계기준서 제1109호를 2018년 1월 1일 이후 시작되는 회계연도부터 적용할 예정입니다.

새로운 기업회계기준서 제1109호는 소급 적용함이 원칙이나, 금융상품의 분류·측정, 손상의 경우 비교정보 재작성을 면제하는 등 일부 예외조항을 두고 있고, 위험회피회계의 경우 옵션의 시간가치 회계처리 등 일부 예외조항을 제외하고는 전진적으로 적용합니다.

기업회계기준서 제1109호의 주요 특징으로 금융자산의 관리를 위한 사업모형과 금융자산의 계약상 현금흐름 특성에 근거한 금융자산의 분류와 측정, 기대신용손실에 기초한 금융상품의 손상모형, 위험회피회계 적용조건을 충족하는 위험회피대상항목과 위험회피수단의 확대 또는 위험회피효과 평가방법의 변경 등을 들 수 있습니다.

기업회계기준서 제1109호에서 금융자산을 상각후원가 또는 기타포괄손익-공정가치 측정 대상으로 분류하기 위한 요건이 현행 기업회계기준서 제1039호의 요건보다 엄격하므로, 기업회계기준서 제1109호 도입 시 당기손익-공정가치 측정 대상 금융자산의 비중이 증가하여 당기손익의 변동성이 확대될 수 있습니다.

현행 기업회계기준서 제1039호에서 모두 당기손익으로 인식했던 당기손익-공정가치 측정 항목으로 지정된 금융부채의 공정가치 변동 중 신용위험 변동으로 인한 부분은 기타포괄손익으로 표시되므로 금융부채의 평가 관련 당기손익이 감소할 수 있습니다.

기업회계기준서 제1109호에서는 금융자산 최초 인식 후 신용위험의 증가 정도에 따라 아래 표와 같이 3단계로 구분하여 12개월 기대신용손실이나 전체기간 기대신용손실에 해당하는 금액으로 손실충당금을 측정하도록 하고 있어 현행 기업회계기준서 제1039호의 발생손실모형에 비하여 신용손실을 조기에 인식할 수 있습니다.

구분	손실충당금
최초 인식 후 신용위험이 유의적으로 증가하지 않은 경우	12개월 기대신용손실: 보고기간 말 이후 12개월 내에 발생 가능한 금융상품의 채무불이행 사건으로 인한 기대신용손실
최초 인식 후 신용위험이 유의적으로 증가한 경우	전체기간 기대신용손실: 기대존속기간에 발생할 수 있는 모든 채무불이행 사건으로 인한 기대신용손실
신용이 손상된 경우	

기업회계기준서 제1109호의 위험회피회계를 적용할 경우, 현행 기업회계기준서 제1039호의 위험회피회계 적용요건을 충족하지 못하는 일부 거래에 대해서도 위험회피회계를 적용할 수 있게 되어 당기손익의 변동성이 축소될 수 있습니다.

한편, 기업회계기준서 제1109호의 원활한 도입을 위해서는 재무영향분석 및 회계정책 수립, 회계시스템 구축, 시스템 안정화 등의 준비 작업이 필요합니다. 당행은 동 기준서의 도입을 위해 주요 종속기업을 대상으로 2015년 11월부터 재무영향분석 및 회계정책 수립 절차에 착수하여, 보고기간말 현재 회계시스템 구축을 진행 중이며 2017년에 시스템 안정화 작업을 진행할 계획입니다.

동 기준서를 최초로 적용하는 회계기간의 재무제표에 미치는 영향은 동 기준서에 따른 회계정책의 선택과 판단뿐 아니라 해당 기간에 당행이 보유하는 금융상품과 경제상황 등에 따라 다를 수 있습니다. 이에 따라 동 기준서 적용 시 연결재무제표에 미치는 영향은 보고기간말 현재로 추정하기는 어렵습니다. 당행은 향후 시스템구축 작업 완료 후에 구체적인 재무영향을 분석할 계획입니다.

## 2) 기업회계기준서 제1115호 '고객과의 계약에서 생기는 수익'

기업회계기준서 제1115호 '고객과의 계약에서 생기는 수익'은 고객과의 모든 계약에 적용되는 단일의 기준서로서 수익인식을 위한 5단계 분석을 제시하고 통제에 기반한 모형이 위험과 보상에 기반한 모형을 대체합니다. 기존 위험과 보상 모델은 수행의무의 이행 시점을 나타내는 하나의 지표로 변경되었습니다. 동 기준서는 2018년 1월 1일 이후 개시하는 회계연도부터 의무적으로 적용됩니다.

### 3. 금융상품 위험관리

#### 3-1. 신용위험

당행은 일정 수준의 신용위험에 노출되어 있으며, 이는 거래상대방의 의무불이행으로 인해 당행이 재무적 손실을 입을 위험을 의미합니다. 신용위험은 회사의 영업활동에 있어 가장 중요하게 관리되어야 할 위험으로 분류되며, 경영진은 신용위험 최대노출액을 주의 깊게 관리하고 있습니다. 신용노출은 주로 예치금과 대출채권과 관련된 대출 과정 및 채무증권에 대한 투자활동과 그룹 자산 포트폴리오의 환어음 등에서 발생하며, 대출 약정 등의 재무제표의 난외 계정과 관련한 신용위험이 존재합니다.

##### (1) 신용위험 관리

당행의 신용리스크 관리에 대한 기본 정책은 리스크정책위원회에서 결정됩니다. 리스크정책위원회는 CRO(Chief Risk Officer)를 위원장으로, CCO(Chief Credit Officer)와 사업그룹 담당 그룹장 및 리스크총괄부장으로 구성되어, 은행 전반의 신용위험관리 방안과 여신정책 방향을 의사결정하고 있습니다. 리스크정책위원회와 별도로 여신심의위원회를 설치하여 거액 여신 및 한도승인 등의 여신 심사를 분리하고 있으며, CCO를 위원장으로, CRO와 여신관련 사업그룹 담당 부행장, 여신기획부장 및 선임심사역으로 구성되어 여신의 건전성을 제고하고 운용 수익성을 제고하는 방향으로 여신 심사를 하고 있습니다.

신용리스크 대상자산을 보유 및 관리하는 모든 영업단위에서 1차적으로 해당자산에 대한 리스크관리를 수행하고, 리스크총괄부 및 여신기획부 등 신용리스크 관리 부서에서는 2차적으로 은행 전체의 신용리스크 관리를 담당합니다. 리스크총괄부, 리스크공학부는 리스크정책위원회에서 설정된 신용리스크 한도 및 동일 차주별, 계열별, 업종별, 국가별 신용 최대노출액 한도를 관리하는 등 신용포트폴리오 관리를 수행하고 있습니다. 또한 신용평가시스템, 담보관리시스템 운용을 통한 PD, LGD, EAD 등 신용리스크 산출요소(Risk Component)를 측정 및 관리하고 있습니다. 여신의사결정 지원 및 견제 조직으로서 여신기획부는 은행 전체의 여신정책 및 제도를 관리하고 있으며, 여신심사부에서는 독립적인 신용평가 수행 및 여신 의사결정을 수행하고 있습니다. 또한 여신감리부에서는 거액 여신 등에 대한 개별 여신감리를 수행하고 있습니다.

모든 여신고객(개인 및 기업)에 대하여 신용등급이 부여되어 관리되는데, 개인은 신상정보, 은행내부실적정보, 외부신용정보를 합산하여 산출되고, 기업의 경우 재무항목과 산업위험, 영업위험, 경영위험 등의 비재무항목 등을 종합적으로 고려하여 신용평가시스템에서 산출됩니다. 산출된 신용등급은 여신승인, 한도관리, 가격결정, 대손충당금 적립 등에 활용되는 등 신용리스크 관리의 기본이 됩니다.

당행의 신용평가시스템은 Basel III 요건을 반영하여 개인평가시스템(ACE: Automatic Credit Evaluation), 최대노출액 5억 이하 소매SOHO신용평가시스템, 기업신용평가시스템(AIRS: Advanced Internal Rating System)을 운영하고 있습니다.

기업여신에 대한 심사는 집단 의사결정체제를 취함으로써 객관적이고 신중한 의사 결정을 하고 있습니다. 일반적인 여신의 경우 영업점의 RM(Relationship Manager)과 각 사업부문 본부 심사역의 합의 하에 여신 승인이 이루어지며, 규모가 크거나 중요한 여신의 경우는 심사협의체 등에서 여신 승인이 이루어집니다. 특히, 전결한도를 초과하는 거액 여신 등 중요 여신에 대하여는 여신 최고의사결정기구인 여신심의위원회에서 심사를 하고 있습니다. 개인여신은 개인여신심사부에서 객관적인 통계방법과 은행의 신용정책에 기초한 자동화된 개인여신평가시스템(CSS: Credit Scoring System)에 의하여 심사가 이루어지고 있습니다.

개별 여신에 대한 상시 관리를 위하여 상시모니터링시스템을 가동하고 있습니다. 기업여신 거래처 중 부실예상기업을 자동 검색하여 심사역과 RM으로 하여금 Loan Review를 하도록 하고 있으며, 사업그룹과 독립된 여신감리부에서는 Loan Review 결과의 적정성을 판단하고 필요에 따라 해당 기업의 신용등급 조정을 요청합니다. 이러한 절차에 따라 부실예상기업을 조기경보기업, 관찰기업 및 정상기업으로 분류한 뒤 위험단계별 관리지침에 따라 차별 관리함으로써 여신의 부실화를 조기에 차단하고 있습니다. 전문 신용평가기관과 제휴한 재무분석지원시스템은 여신심사 및 관리를 지원하고 있으며, 창조금융지원실에서 산업등급을 산출·관리하고, 산업동향 및 기업정보를 분석·제공하고 있습니다.

(2) 위험한도관리 및 위험경감 정책

신용리스크를 적정 수준으로 통제하기 위하여 아래와 같은 한도관리 체계를 수립·운용하고 있습니다.

- 신용리스크 한도는 신용VaR 및 최대노출액을 기준으로 사업부문별, 고객별, 상품별, 업종별 등 각 부문별로 설정하여 관리함
- 리스크총괄부에서는 신용VaR 및 최대노출액 기준의 한도 설정과 관리업무를 수행하고, 여신기획부와 여신심사부에서도 신용리스크 관리를 위해 설정된 최대노출액 한도관리 업무를 실행함
- 리스크총괄부, 리스크공학부는 매년 1회 이상 은행 전체의 신용리스크 한도 운영 계획을 수립하여 신용정책위원회에 부의함
- 각 사업부문은 사업부문별로 할당된 신용리스크 한도를 모니터링하고 준수함
- 식별된 신용위험에 대해 개인고객 및 기업고객, 산업과 국적별 한도를 지정 및 관리함
- 개별 차주 혹은 차주 집단, 지리적 산업별 부문에 대해 수용할 수 있는 위험의 한도를 설정함
- 해당 위험은 연간 기준 혹은 필요하다고 판단되는 경우 기간 내에 재검토되며, 상품별, 산업별, 국가별 위험의 한도는 분기별로 이사회에 승인을 득함
- 기관을 포함한 차주별 최대노출액은 재무제표상의 계정과 난외계정에 대해 개별 설정된 하위 수준의 한도에 의해 관리되며, 외화선도 거래 등 상품 거래와 관련된 일별 거래에 대해서도 위험의 한도를 결정함
- 한도에 대비한 실제 최대노출액은 일별로 관리함
- 신용위험 최대노출액은 차주에 대한 이자와 원금 상환능력을 분석하는 과정에서도 관리되며, 필요한 경우 이 과정에서 대출한도를 변경함

기타 위험관리 방안은 다음과 같습니다.

### 1) 담보

당행은 신용위험을 완화하기 위한 정책과 절차들을 도입하고 있습니다. 신용위험과 관련하여 일반적으로 담보채가 사용되며, 당행은 특정 종류의 자산에 대한 질권설정에 대한 정책을 도입하고 있으며, 주요 담보 형태는 다음과 같습니다.

- 주택 담보
- 부동산, 재고자산 및 대출채권 등
- 채무증권 및 지분증권 등 금융상품

상대적으로 장기 대출채권은 일반적으로 담보가 설정되어 있습니다. 반면, 리블빙 개인 신용대출은 무담보인 경우가 일반적입니다. 또한, 신용위험으로 인한 손실을 최소화하기 위해 당행은 자산 손상의 징후가 있는 경우 거래상대방에 추가 담보를 설정하고 있습니다.

대출채권 외의 금융자산에 대한 담보는 상품의 성격에 따라 차이가 있습니다. 금융상품 포트폴리오 등의 담보 설정된 ABS 등 특수한 경우를 제외하면, 채무증권의 경우 무담보가 일반적입니다.

### 2) 파생금융상품

당행은 매입 이후 처분 계약 사이에 있는 파생금융상품에 대해 금액과 기간에 대한 한도를 유지하여 관리하고 있습니다.

### 3) 일괄상계약정

당행은 상당한 규모의 거래를 수행하는 데 있어 거래상대방과 일괄상계약정을 체결함에 따라 신용 손실에 대한 최대노출액을 제한하고 있습니다.

거래는 보통 총액 기준으로 설정되어 있음에 따라 일괄상계약정은 일반적으로 재무상태표상 자산과 부채를 상제한 결과로 나타나지 않습니다. 하지만, 거래상대방에 대한 모든 금액이 순액 기준으로 설정될 때, 손실이 발생한다면 favourable 계약과 관련된 신용 위험은 범위 내에서 일괄상계약정에 의해 줄어듭니다.

일관상계계약에 속해 있는 신용 위험에 대한 그룹의 전체적인 최대노출액은 약정에 속해 있는 각 거래에 영향을 받기 때문에 짧은 기간 내에 실질적으로 변동할 수 있습니다.

#### 4) 신용 관련 약정

보증과 신용공여는 여신과 같은 신용 위험을 가지고 있습니다. 신용장(특정 기간과 상황 아래 요구된 금액에 대하여 당행에서 제3자에 어음을 발행하여 고객을 대신하여 신용을 보증)은 그들과 관련된 기초적인 상품의 선적에 의해 담보가 설정되어 있으므로 여신보다 더 적은 위험을 수반합니다. 신용 보강에 대한 약정들은 여신, 보증 혹은 신용장의 형태에서 신용을 보강시키는 한도의 미사용 비율을 나타냅니다. 신용을 보강시키는 약정에 대한 신용위험과 관련하여, 당행은 총 미사용약정과 동일한 금액에 대하여 잠재적으로 노출되어 있습니다. 장기 약정은 일반적으로 단기 약정보다 신용위험의 정도가 크기 때문에 당행은 신용약정의 만기에 대하여 모니터링하고 있습니다.

(3) 신용위험에 대한 최대노출액

당기말과 전기말 현재 보유 금융상품의 신용위험에 대한 최대노출액의 내역은 다음과 같습니다.

			(단위: 백만원)	
구 분			제185(당)기	제184(전)기
예치금 및 대출채권(주1,2)	은행		6,899,374	6,312,546
	개인	주거용부동산담보대출	45,068,556	44,937,825
		기타	58,147,386	52,106,316
		소 계	103,215,942	97,044,141
	정부/공공기관/중앙은행		9,800,251	15,092,342
	기업	대기업	26,472,276	27,139,108
		중소기업	64,606,421	61,726,197
		특수금융	3,622,514	3,385,588
		기타	541	981
		소 계	94,701,752	92,251,874
	합 계		214,617,319	210,700,903
당기매매금융자산	채무증권	7,424,162	5,894,841	
	금/예치금	247,845	149,220	
	합 계	7,672,007	6,044,061	
파생상품자산		2,575,683	1,607,969	
매도가능금융자산	채무증권	23,813,035	21,139,700	
당기보유금융자산	채무증권	11,097,257	9,733,551	
기타금융자산(주1,3)		11,747,817	9,412,474	
난외계정	자금보증	5,935,702	5,314,941	
	대출의정 및 기타 신용관련 부채	72,056,734	73,024,178	
	합 계	77,992,436	78,339,119	
총 계		349,515,554	336,977,767	

- (주1) 예치금 및 대출채권, 기타금융자산의 최대 노출액은 미실각잔액과 대손충당금을 차감한 순장부금액입니다.  
 (주2) 신BAS협약(Basel III)의 자기자본비율(BIS 비율) 산출상 유사한 신용위험집단으로 분류하였습니다.  
 (주3) 미수금, 미수수익, 보증금, 미회수내국환채권, 가자금금 등으로 구성되어 있습니다.

(4) 예치금과 대출채권의 손상정보

1) 당기말과 전기말 현재 예치금과 대출채권의 손상 여부에 대한 내역은 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

구분	은행	개인		정부 공공기관 중앙은행	기업				합계
		주거용부동산 담보대출	기타		대기업	중소기업	특수금융	기타	
연계 및 손상되지 않은 예치금과 대출채권	6,907,488	44,660,734	58,103,844	9,901,668	28,483,131	64,528,128	3,613,938	559	214,299,488
연계되었으나 손상되 지 않은 대출채권	-	167,629	138,675	-	1,165	120,483	17,441	-	445,793
손상된 대출채권	-	55,524	190,249	-	433,334	428,124	32,081	-	1,137,312
소 계	6,907,488	45,064,087	58,432,968	9,901,668	28,917,630	65,074,733	3,663,460	559	215,682,591
대손충당금	(8,114)	(15,531)	(285,562)	(1,415)	(445,354)	(468,312)	(40,948)	(18)	(1,265,272)
합 계	6,899,374	45,068,556	58,147,386	9,900,251	28,472,276	64,606,421	3,622,514	541	214,617,319

<제184(전기)>

구분	은행	개인		정부 공공기관 중앙은행	기업				합계
		주거용부동산 담보대출	기타		대기업	중소기업	특수금융	기타	
연계 및 손상되지 않은 예치금과 대출채권	6,321,582	44,716,126	52,042,943	15,093,675	27,102,688	61,749,628	3,369,605	1,013	210,397,458
연계되었으나 손상되 지 않은 대출채권	-	179,935	135,758	-	1,747	72,338	-	-	389,774
손상된 대출채권	-	59,237	174,655	-	534,270	367,063	61,020	1	1,218,248
소 계	6,321,582	44,955,296	52,353,354	15,093,675	27,638,703	62,209,027	3,430,625	1,014	212,003,478
대손충당금	(9,036)	(17,473)	(247,038)	(1,333)	(489,595)	(482,630)	(45,237)	(33)	(1,302,575)
합 계	6,312,546	44,937,823	52,106,316	15,092,342	27,139,108	61,726,397	3,385,388	981	210,700,903

2) 당기말과 전기말 현재 연체 및 손상되지 않은 예치금과 대출채권의 신용건전성별 구성내역은 다음과 같습니다.

<제185(당)기>

(단위: 백만원)									
구분	은행	개인		정부 공공기관 중앙은행	기업				합계
		주거용부동산 담보대출	기타		대기업	중소기업	특수금융	기타	
등급: 1. 우량	6,907,488	43,394,535	54,377,823	9,801,688	20,559,021	43,990,885	3,451,587	-	182,482,985
등급: 2. 보통	-	1,488,199	3,728,021	-	5,924,110	20,537,261	162,351	559	31,818,501
소계	6,907,488	44,882,734	58,105,844	9,801,688	26,483,131	64,528,128	3,613,938	559	214,299,488
대손충당금	(8,114)	(10,318)	(147,582)	(1,415)	(185,038)	(327,234)	(15,518)	(18)	(695,235)
합계	6,899,374	44,850,418	57,958,262	9,800,251	26,298,093	64,200,892	3,598,420	541	213,604,251
담보에 의한 신용위험경감효과	87	43,484,748	25,545,314	-	8,722,420	44,035,353	912,512	-	120,680,414

<제184(전)기>

(단위: 백만원)									
구분	은행	개인		정부 공공기관 중앙은행	기업				합계
		주거용부동산 담보대출	기타		대기업	중소기업	특수금융	기타	
등급: 1. 우량	8,321,582	42,489,445	49,517,151	15,093,675	20,442,267	40,170,830	3,057,293	-	177,102,243
등급: 2. 보통	-	2,218,691	2,525,792	-	8,680,419	21,578,798	312,512	1,013	33,295,215
소계	8,321,582	44,718,126	52,042,943	15,093,675	27,102,686	61,749,628	3,369,805	1,013	210,397,458
대손충당금	(9,038)	(12,138)	(122,848)	(1,333)	(207,200)	(334,380)	(18,784)	(33)	(705,708)
합계	8,312,546	44,703,990	51,920,097	15,092,342	26,895,486	61,415,288	3,351,041	980	209,691,750
담보에 의한 신용위험경감효과	1,051	43,657,337	19,628,978	-	7,291,948	42,148,750	815,879	-	113,539,939

3) 당기말과 전기말 현재 연체되었으나 손상되지 않은 예치금과 대출채권의 연체기간별 구성내역은 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

(단위: 백만원)						
구 분	개인		기업			합 계
	주거용부동산 담보대출	기타	대기업	중소기업	특수금융	
30일 이내 연체	139,657	83,166	1,015	68,551	17,441	309,830
30일~60일 연체	18,500	23,722	-	36,549	-	78,861
60일~90일 연체	9,300	18,756	150	15,378	-	43,674
90일 이상 연체	192	13,231	-	5	-	13,428
소 계	167,829	138,875	1,165	120,483	17,441	445,793
대손충당금	(2,060)	(29,938)	(59)	(8,654)	(90)	(40,801)
합 계	165,769	108,937	1,106	111,829	17,351	404,992
담보에 의한 신용위험경감효과	161,728	62,206	326	80,063	-	304,323

<제184(전기)>

(단위: 백만원)						
구 분	개인		기업			합 계
	주거용부동산 담보대출	기타	대기업	중소기업	특수금융	
30일 이내 연체	148,391	88,514	67	45,372	-	282,344
30일~60일 연체	21,042	23,497	-	18,800	-	63,339
60일~90일 연체	10,310	12,130	1,680	6,464	-	30,584
90일 이상 연체	192	11,615	-	1,700	-	13,507
소 계	179,935	135,756	1,747	72,336	-	389,774
대손충당금	(1,754)	(27,832)	(215)	(4,009)	-	(33,810)
합 계	178,181	107,924	1,532	68,327	-	356,964
담보에 의한 신용위험경감효과	176,821	62,688	1,142	46,010	-	286,661

4) 당기말과 전기말 현재 손상된 예치금과 대출채권 종류별 담보에 의한 신용위험 경감효과의 내역은 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

(단위: 백만원)							
구분	개인		기업				합계
	주거용부동산 담보대출	기타	대기업	중소기업	특수금융	기타	
손상된 대출채권	55,524	190,249	433,334	428,124	32,081	-	1,137,312
대손충당금	(3,155)	(108,082)	(280,257)	(132,424)	(25,338)	-	(529,236)
합계	52,369	82,167	173,077	295,700	6,743	-	608,078
담보에 의한 신용위험경감효과	53,243	41,958	120,990	281,177	-	-	477,368

<제184(전기)>

(단위: 백만원)							
구분	개인		기업				합계
	주거용부동산 담보대출	기타	대기업	중소기업	특수금융	기타	
손상된 대출채권	59,237	174,855	534,270	387,083	81,020	1	1,216,248
대손충당금	(3,583)	(98,380)	(292,180)	(144,481)	(26,473)	-	(583,057)
합계	55,654	76,475	242,090	242,602	54,547	1	653,189
담보에 의한 신용위험경감효과	102,853	-	95,482	218,588	-	-	414,711

(5) 채무증권의 신용등급별 구성 내역

1) 당기말과 전기말 현재 채무증권의 신용등급별 구성내역은 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

(단위: 백만원)				
구 분	단기매매금융자산	매도가능금융자산	만기보유금융자산	합 계
AAA	1,251,167	16,411,486	10,464,755	28,127,408
AA- to AA+	20,050	3,440,100	340,659	3,800,809
A- to A+	2,353,020	2,213,032	140,338	4,706,390
BBB- to BBB+	682,779	988,533	120,494	1,791,806
Lower than BBB-	14,978	85,197	-	100,175
Unrated	3,102,168	674,687	31,011	3,807,866
합 계	7,424,162	23,813,035	11,097,257	42,334,454

<제184(전기)>

(단위: 백만원)				
구 분	단기매매금융자산	매도가능금융자산	만기보유금융자산	합 계
AAA	902,570	16,518,009	9,082,331	26,502,910
AA- to AA+	80,131	1,446,950	320,755	1,847,836
A- to A+	1,772,747	1,806,960	330,465	3,910,172
BBB- to BBB+	516,696	716,343	-	1,233,039
Lower than BBB-	75,916	85,626	-	161,542
Unrated	2,546,781	565,812	-	3,112,593
합 계	5,894,841	21,139,700	9,733,551	36,768,092

2) 외부평가기관 신용등급에 따른 유가증권의 신용건전성 기준은 다음과 같습니다.

구 분	한신평	한기평	S&P	Fitch	Moody's
AAA	-	-	AAA	AAA	Aaa
AA- to AA+	AAA	AAA	AA- to AA+	AA- to AA+	Aa3 to Aa1
A- to A+	AA- to AA+	AA- to AA+	A- to A+	A- to A+	A3 to A1
BBB- to BBB+	BBB- to A	BBB- to A	BBB- to BBB+	BBB- to BBB+	Baa3 to Baa1
Lower than BBB-	Lower than Baa3				
Unrated	Unrated	Unrated	Unrated	Unrated	Unrated

3) 당기말과 전기말 현재 채무증권의 신용건전성 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구분	당기말	전기말
연체 및 손상되지 않은 유가증권	42,334,454	36,768,092
손상된 유가증권	-	-
합계	42,334,454	36,768,092

(6) 당기말과 전기말 현재 담보 실행으로 취득한 자산은 없습니다.

(7) 지역별 구성내역

당기말과 전기말 현재 금융상품의 지역별 구성내역은 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

(단위: 백만원)									
구분	한국	미국	영국	일본	독일	버뮤다	중국	기타	합계
<b>&lt;예치금&gt;</b>									
은행	102,902	491,573	4,909	8,891	25,715	83	15,130	106,781	755,984
정부/공공기관/중앙은행	6,874,819	231,207	-	-	-	-	-	121,833	7,227,859
예치금 소계	6,977,721	722,780	4,909	8,891	25,715	83	15,130	228,614	7,983,843
<b>&lt;대출차권&gt;</b>									
은행	2,144,823	-	-	458,842	584,082	66,363	1,580,808	1,308,852	6,143,390
개인	102,887,867	184,190	1,284	3,259	2,008	896	181,815	154,601	103,215,942
주거용부동산담보대출	44,716,038	109,919	977	2,071	94	843	158,714	81,902	45,088,558
기타	57,971,851	74,271	307	1,188	1,914	55	25,101	72,699	58,147,388
정부/공공기관/중앙은행	2,551,060	-	-	-	-	-	-	21,332	2,572,392
기업	89,503,322	972,600	80,174	447	191	500,852	548,240	3,118,128	94,701,752
대기업	24,807,550	335,648	42,137	-	-	139,244	80,018	1,087,679	28,472,278
중소기업	61,505,484	613,091	18,037	447	171	361,408	468,222	1,639,581	64,808,421
특수금융	3,189,659	23,850	-	-	-	-	-	408,605	3,622,514
기타	449	11	-	-	20	-	-	61	541
대출차권 소계	196,886,892	1,158,790	81,458	482,548	586,281	587,933	2,310,883	4,600,911	208,633,476
<b>&lt;단기대여금융자산&gt;</b>									
채무증권	7,424,162	-	-	-	-	-	-	-	7,424,162
금예치금	-	-	247,845	-	-	-	-	-	247,845
단기대여금융자산 소계	7,424,162	-	247,845	-	-	-	-	-	7,672,007
<b>&lt;대도가능금융자산&gt;</b>									
채무증권	22,849,730	325,874	58,912	40,881	35,911	-	138,839	383,508	23,813,035
<b>&lt;만기보유금융자산&gt;</b>									
채무증권	10,987,508	9,248	-	-	-	-	-	120,503	11,097,257
합계	245,106,013	2,214,480	373,124	512,100	647,907	588,018	2,484,432	5,313,538	257,199,818

<제184(전)기>

구분	(단위: 백만원)									
	한국	미국	영국	일본	독일	베트남	중국	기타	합계	
<예치금>										
은행	19,188	144,323	8,232	818	1,332	-	2,800	42,758	217,247	
정부/공공기관/중앙은행	10,753,092	254,244	602	-	-	-	-	86,810	11,094,748	
예치금 소계	10,772,279	398,567	8,834	818	1,332	-	2,800	129,568	11,211,995	
<대출차권>										
은행	2,387,223	31,811	-	318,574	579,075	288,057	1,880,910	853,848	8,095,299	
개인	98,843,418	182,219	1,822	5,201	2,818	181	68,190	142,484	97,044,141	
주거용부동산담보대출	44,934,734	1,432	-	-	-	-	174	1,485	44,937,825	
기타	51,708,682	180,787	1,822	5,201	2,818	181	68,016	141,009	52,108,316	
정부/공공기관/중앙은행	3,994,254	-	-	-	-	-	-	3,340	3,997,594	
기업	87,708,901	740,748	108,988	448	1,849	378,350	658,473	2,658,123	92,251,874	
대기업	28,143,205	37,322	88,595	-	1,888	55,818	118,879	695,823	27,139,108	
중소기업	59,700,528	688,334	20,391	448	171	322,734	539,594	1,454,001	61,728,197	
특수금융	2,884,297	15,084	-	-	-	-	-	506,227	3,395,588	
기타	873	28	-	-	10	-	-	72	981	
대출차권 소계	190,713,794	954,578	110,608	322,221	583,742	844,588	2,403,573	3,655,608	199,388,908	
<단기대여금융자산>										
차무채권	5,894,841	-	-	-	-	-	-	-	5,894,841	
금융채권	-	-	149,220	-	-	-	-	-	149,220	
단기대여금융자산 소계	5,894,841	-	149,220	-	-	-	-	-	6,044,061	
<대도가능금융자산>										
차무채권	20,738,891	110,008	23,388	22,335	34,984	-	5,900	208,258	21,139,700	
<만기보유금융자산>										
차무채권	9,733,551	-	-	-	-	-	-	-	9,733,551	
합계	237,851,295	1,483,148	290,050	345,174	620,058	844,588	2,412,273	3,991,628	247,818,215	

(8) 산업별 구성내역

당기말과 전기말 현재 금융상품의 산업별 구성내역은 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

(단위: 백만원)									
구분	금융 및 보험업	제조업	도매 및 소매업	부동산임대 및 사업 서비스업	건설업	숙박 및 음식점업	기타	개인고려	합계
<b>&lt;예치금&gt;</b>									
은행	753,903	-	-	-	-	-	2,081	-	755,984
정부/공공기관/중앙은행	7,201,312	3,990	-	-	-	-	22,557	-	7,227,859
예치금 소계	7,955,215	3,990	-	-	-	-	24,638	-	7,983,843
<b>&lt;대출차권&gt;</b>									
은행	5,558,791	-	-	110,443	-	-	474,158	-	6,143,390
개인	-	-	-	-	-	-	-	103,215,942	103,215,942
주거용부동산 담보대출	-	-	-	-	-	-	-	45,068,558	45,068,558
기타	-	-	-	-	-	-	-	58,147,388	58,147,388
정부/공공기관/중앙은행	2,589,077	-	-	3,315	-	-	-	-	2,592,392
기업	2,200,571	37,228,738	13,343,174	17,894,980	2,120,323	4,472,112	17,943,878	-	94,701,752
대기업	1,080,551	15,240,500	3,430,984	707,574	540,712	203,477	5,208,488	-	26,472,276
중소기업	320,537	21,971,379	9,778,357	15,900,790	1,225,498	4,222,841	11,189,231	-	64,608,421
특수금융	799,483	14,587	75,835	788,603	354,115	45,994	1,545,917	-	3,622,514
기타	-	290	18	3	-	-	230	-	541
대출차권 소계	10,328,439	37,228,738	13,343,174	17,508,718	2,120,323	4,472,112	18,418,032	103,215,942	208,633,478
<b>&lt;단기대차금융자산&gt;</b>									
채무증권	4,601,388	579,088	870,993	85,713	-	3,746	1,083,274	-	7,424,182
금융채권	247,845	-	-	-	-	-	-	-	247,845
단기대차금융자산 소계	5,049,233	579,088	870,993	85,713	-	3,746	1,083,274	-	7,672,007
<b>&lt;대도기능금융자산&gt;</b>									
채무증권	18,478,023	682,599	80,941	351,982	167,325	-	4,072,185	-	23,613,035
<b>&lt;만기보유금융자산&gt;</b>									
채무증권	4,084,782	24,179	-	62,881	30,000	-	6,945,415	-	11,097,257
합계	45,845,672	38,486,572	14,295,108	18,009,274	2,317,648	4,475,858	30,543,544	103,215,942	257,199,618

<제184(전)기>

(단위: 백만원)									
구분	금융 및 보험업	제조업	도매 및 소매업	부동산임대 및 사업 서비스업	건설업	숙박 및 음식점업	기타	개인고려	합계
<예치금>									
은행	202,201	-	-	-	-	-	15,048	-	217,247
정부/공공기관/중앙은행	10,815,965	-	-	-	-	-	278,793	-	11,094,748
예치금 소계	11,018,158	-	-	-	-	-	293,839	-	11,311,995
<대출차권>									
은행	5,395,595	-	-	87,609	-	-	632,095	-	6,095,299
개인	-	-	-	-	-	-	-	97,044,141	97,044,141
주거용부동산 담보대출	-	-	-	-	-	-	-	44,937,825	44,937,825
기타	-	-	-	-	-	-	-	52,106,316	52,106,316
정부/공공기관/중앙은행	3,996,594	-	-	-	-	-	1,000	-	3,997,594
기업	2,109,748	38,315,980	12,607,807	17,002,344	2,414,760	4,478,549	17,322,888	-	92,251,874
대기업	984,518	16,220,711	3,558,341	548,441	794,682	233,388	4,801,047	-	27,139,108
중소기업	558,187	20,089,845	9,025,992	15,678,244	1,224,480	4,205,110	10,988,359	-	61,728,197
특수금융	589,081	24,908	25,239	777,624	395,599	40,030	1,553,130	-	3,385,588
기타	-	518	35	35	-	41	352	-	981
대출차권 소계	11,501,935	38,315,980	12,607,807	17,089,953	2,414,760	4,478,549	17,955,983	97,044,141	199,388,908
<단기대금용자산>									
차무증권	3,932,048	341,801	499,979	19,989	10,231	19,902	1,070,913	-	5,894,841
금융채권	149,220	-	-	-	-	-	-	-	149,220
단기대금용자산 소계	4,081,268	341,801	499,979	19,989	10,231	19,902	1,070,913	-	6,044,081
<대도기능금융자산>									
차무증권	16,791,181	578,798	80,812	188,484	187,407	-	3,335,250	-	21,139,700
<만기보유금융자산>									
차무증권	3,489,882	-	-	73,578	99,955	-	6,070,158	-	9,733,551
합계	46,882,380	37,234,587	13,188,198	17,351,984	2,712,353	4,498,451	28,728,141	97,044,141	247,818,215

### 3-2. 시장위험

시장위험은 금리, 주가, 환율 등과 같은 시장가격의 변동으로 인해 발생할 수 있는 손실 위험을 의미합니다. 당행은 단기매매차익 획득을 목적으로 보유하는 유가증권, 외환포지션, 파생금융상품 등을 트레이딩포지션으로 관리하고 여신, 예치금 및 단기매매차익 획득 목적을 제외한 채무증권 등으로 구성된 금리민감 자산과 수신, 차입금, 사채 등으로 구성된 금리민감 부채, 금리 위험을 회피하고자 위험회피수단으로 사용하는 금리민감 파생상품을 비트레이딩 포지션으로 관리하고 있습니다.

당행은 리스크정책위원회에서 시장위험 관리에 관한 정책수립과 한도설정 등 의사결정 기능을 수행하며, 리스크총괄부는 전행의 운용부서 및 데스크에 대한 종합적인 시장위험관리를 수행하고 리스크공학부는 시장리스크시스템관리 및 Middle Office 기능을 수행하고 있습니다.

시장위험 관리의 기본은 시장위험으로 인한 최대손실가능액을 일정수준 이내로 유지하기 위한 한도관리입니다. 리스크정책위원회는 운용 부서 및 데스크별 VaR한도, 손실한도, 민감도한도, 투자한도 및 포지션한도, 스트레스손실한도 등을 설정하여 운영하고 있으며, 리스크총괄부 및 리스크공학부는 운용부서와는 독립적으로 운영상황을 모니터하며, 리스크정책위원회 및 리스크관리위원회에 정기적으로 보고하고 있습니다. 또한 공정가액평가협의회 및 리스크총괄부는 각 사업부문의 신상품(또는 거래)이 시행되기 전에 공정가액 평가방법에 대한 검토 및 리스크 평가 등을 수행하고, 파생상품 및 구조화상품 리스크리뷰협의회에서는 리스크요인에 대한 점검, 투자규모 제한을 검토하는 등 합리적 의사결정을 지원하여 사전에 리스크요인에 대한 객관적인 분석 및 검토가 이루어지도록 하고 있습니다.

#### (1) 트레이딩 포지션의 시장위험 관리

트레이딩 포지션의 시장위험 측정대상인 외환, 주식, 채권, 파생상품 거래데이터는 프론트시스템에 거래를 입력하여 관리하고, 시장리스크관리시스템(RiskWatch)으로 자동 인터페이스하여 일별 리스크측정 및 한도관리를 수행하고 있습니다. 또한 통계적 방법에 의한 리스크 측정을 보완하고, 경제환경의 급격한 변화에서의 영향도 및 손실규모를 관리하기 위하여 정기적으로 Stress testing을 병행하여 실시하고 있으며, 이를 통해 당행의 위기상황시 손실규모가 일정범위 이내로 관리되도록 하고 있습니다.

1) 트레이딩 포지션에서 발생하는 시장위험의 측정방법

당행은 트레이딩 포지션에 노출된 금리, 주가, 환율 등의 각 위험에 대하여 역사적 시뮬레이션 VaR(Value at Risk) 방법론을 적용하여 99.9% 신뢰구간에서 시장위험을 산출합니다. VaR는 반대의 시장 상황으로부터 현재 포지션에 대한 잠재적인 손실의 통계적 평가를 기초로 하고 있습니다. 이는 99.9%의 확신의 수준에서 당행이 발생가능한 최대손실금액을 표현하고 있습니다. 그러므로 실제 손실이 VaR의 측정치보다 더 클 수 있는 통계적인 가능성(0.1%)이 존재합니다.

VaR 모델은 측정시점의 일별 포지션은 유지가 됨과 동시에 각 측정시점으로부터 과거 10일간의 시장 움직임이 향후에도 지속될 것이라는 가정에 따라 예상손실을 측정하고 있습니다.

과거 움직임에 대한 당행의 평가는 과거 5년간의 데이터를 기초로 하고 있고, 현재 포지션에서 금리, 주가, 환율, 옵션변동성의 역사적 변화를 직접적으로 적용하는 역사적인 시뮬레이션 방법을 사용하고 있습니다. 또한 VaR 계산상에서 사용되는 가정과 매개변수의 유효성을 테스트하는 것을 정기적으로 모니터링하고 있으며, 이 방법의 적용은 더 큰 시장 움직임에 대한 현상의 한계의 범위를 넘어서는 손실을 예방하지는 않습니다.

당행의 VaR 한도는 매년 리스크관리위원회에서 설정하며, 이 한도에 대한 실제 최대 노출액은 매일 검토합니다. VaR 모델의 품질은 VaR 결과에 대한 사후 검증에 의하여 계속적으로 모니터링하고 있고, 모든 사후검증 결과를 이사회에 보고합니다.

2) 트레이딩 포지션의 VaR

당행은 연결재무제표 기준으로 트레이딩 포트폴리오에 대한 VaR를 관리하고 있습니다. 당행이 보유중인 트레이딩 포지션에 대한 보고기간 중 최소, 최대, 평균 VaR 및 보고기간 말의 VaR의 내역은 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

(단위: 백만원)				
구 분	평균	최대	최소	당기말
금리위험	33,246	48,851	18,764	44,447
주가위험	5,161	5,787	4,815	5,484
환율위험(주)	56,089	61,389	53,678	60,088
옵션변동성위험	149	256	101	221
상품위험	13	35	-	21
분산효과	(38,677)	(54,670)	(24,272)	(49,278)
Total VaR	55,981	61,648	53,086	60,983

<제184(전기)>

(단위: 백만원)				
구 분	평균	최대	최소	전기말
금리위험	37,341	43,746	33,849	35,976
주가위험	8,258	9,049	6,995	7,056
환율위험(주)	45,102	54,459	36,549	44,475
옵션변동성위험	355	550	262	262
상품위험	5	21	-	3
분산효과	(35,789)	(45,895)	(25,953)	(30,699)
Total VaR	55,272	61,930	51,702	57,073

(주) 트레이딩 포지션 및 비트레이딩 포지션을 포함한 금액입니다.

(2) 비드레이딩 포지션의 시장위험 관리

비드레이딩 포지션에서 발생하는 가장 주요한 시장위험은 금리위험입니다. 그러므로 비드레이딩 포지션의 시장위험은 시장금리의 변동으로 인해 순자산가치 및 순이자이익이 변동하는 위험으로 측정됩니다.

당행은 리스크정책위원회에서 금리위험관리에 관한 정책수립과 세부한도설정 등의 사결정기능을 수행하며, 동 원칙 및 한도내에서 국외점포를 비롯한 자회사 및 자금부, 신탁부, 중금시장부 등 계정별 관리부서는 1차적으로 금리위험을 인식하고 관리합니다. 리스크총괄부 및 리스크공학부는 리스크정책위원회의 금리위험관련 의사결정을 지원하고 금리위험 허용한도 초과여부를 모니터링하며 회사 전체의 금리위험을 평가하고 관리합니다.

당행은 ALM시스템(OPSA)을 통해 금리갭, 듀레이션갭, 시나리오별 NII(Net Interest Income)시뮬레이션 등 다양한 분석방법을 이용하여 금리리스크를 측정 및 관리하고 있으며, 금리VaR, 금리EaR, 금리갭비율에 대해서는 한도를 설정하여 월별로 모니터링하고 있습니다. 또한 Stress testing을 통하여 다양한 위기상황에서 금리리스크에 미치는 영향을 평가하고 있습니다.

1) 비드레이딩 포지션에서 발생하는 시장위험의 측정방법

당행은 역사적인 금리시나리오에 의하여 발생하는 순자산가치의 변동분포를 파악하여 향후 1년간의 최대손실 예상액인 금리 VaR(Value at Risk)를 확률론적으로 평가·관리합니다. 또한, 자금량 시나리오를 바탕으로 하여, 과거 기준금리와 연평균금리와의 변동성을 활용한 역사적인 금리시나리오에 의해 발생하는 순이자이익의 변동분포를 파악하여 향후 1년간의 최대 순이자이익 감소 예상액인 금리 EaR(Earnings at Risk)을 확률론적으로 평가·관리합니다.

또한 국제결제은행(Bank for International Settlements, BIS)에서 제시한 표준방법론에 따라, 만기구간별 표준 수정듀레이션 및 금리변동성을 이용하여 금리 VaR를 산출하고, 만기구간별 총격기간 및 금리변동성을 이용하여 금리 EaR을 산출하고 있습니다.

2) 비드레이딩 포지션의 금리 VaR 및 금리 EaR

당기말과 전기말 현재 BIS에서 제시한 표준방법론에 따라 산출된 비드레이딩 포지션에 대한 금리 VaR 및 금리 EaR 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당기)	제184(전기)
금리 VaR	652,266	710,719
금리 EaR	24,811	163,054

(3) 외환위험

당행은 국외지점 등의 현물, 선물 외환포지션을 모두 포함한 종합포지션에 기반하여 외환위험을 관리하고 있습니다. 리스크정책위원회는 시장리스크 한도를 기반으로 부서별, 데스크별 외환포지션한도 등을 설정하여, 각 영업단위별로 트레이딩 및 비드레이딩 활동에서의 환위험을 관리 및 감독하고 있습니다. 당행 금융공학센터에서 전행의 환포지션을 집중하여 관리하고 있습니다. 동 부서의 데스크 및 딜러들은 설정된 시장리스크 및 외환포지션 한도 내에서 현물환과 통화파생상품 거래를 통하여 종합포지션을 관리합니다. 주로 미국 달러(USD), 일본 엔화(JPY), 중국 위안화(CNY), 유로화(EUR) 위주로 거래되고 있으며, 기타 외환은 제한적으로 운용합니다.

당기말과 전기말 현재 외화자산·부채의 통화별 구성내역은 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

(단위: 백만원)						
구분	USD	JPY	EUR	CNY	기타	합계
<b>&lt;자산&gt;</b>						
현금및예치금	1,388,958	124,350	115,040	32,072	215,820	1,876,240
단기대매금융자산	44,678	-	-	-	247,845	292,523
파생상품자산	58,340	107	-	-	400	59,847
대출채권	14,612,771	740,119	894,473	51,808	1,997,070	18,295,241
매도가능금융자산	1,130,056	-	4,178	-	152,459	1,286,693
만기보유금융자산	26,584	-	-	-	127,335	153,919
기타금융자산	1,690,010	367,034	117,092	263,518	90,258	2,527,912
자산 합계	18,952,397	1,231,610	1,130,783	347,398	2,831,187	24,493,375
<b>&lt;부채&gt;</b>						
예수부채	9,284,612	675,774	372,817	73,852	1,173,016	11,580,071
단기대매금융부채	-	-	-	-	485,995	485,995
파생상품부채	105,380	-	-	-	295	105,675
차입부채	5,777,706	282,223	169,999	6,643	159,164	6,395,605
사채	3,857,223	103,681	152,112	207,912	34,438	4,355,366
기타금융부채	1,999,552	435,054	181,817	265,293	162,242	3,043,958
부채 합계	21,024,473	1,496,732	876,615	553,700	2,015,150	25,966,670
순자산계정	(2,072,076)	(265,122)	254,168	(206,302)	816,037	(1,473,296)
난외 파생상품 노출액	2,053,897	(15,111)	(282,164)	86,910	(753,040)	1,100,492
외화 순 노출액	(8,179)	(280,233)	(27,996)	(119,392)	62,997	(372,803)

<제184(전)기>

(단위: 백만원)						
구분	USD	JPY	EUR	CNY	기타	합계
<b>&lt;자산&gt;</b>						
현금및예치금	1,624,179	113,495	84,579	17,524	184,084	2,023,861
단기대매금융자산	-	-	-	-	149,220	149,220
파생상품자산	76,151	30	2,596	-	129	78,906
대출채권	14,381,910	813,764	777,221	25,057	1,256,734	17,254,686
매도가능금융자산	817,339	-	16,979	-	171,000	1,005,318
만기보유금융자산	-	-	-	-	4,222	4,222
기타금융자산	2,225,712	251,200	125,560	505,737	63,751	3,171,960
자산 합계	19,125,291	1,178,489	1,006,935	548,318	1,829,140	23,688,173
<b>&lt;부채&gt;</b>						
예수부채	7,336,845	886,396	207,096	43,362	687,221	9,160,920
단기대매금융부채	-	-	-	-	453,605	453,605
파생상품부채	58,210	19	-	-	77	58,306
차입부채	6,659,517	185,239	287,704	5,176	35,398	7,173,034
사채	3,131,783	291,603	153,664	216,660	144,381	3,938,091
기타금융부채	2,368,280	162,639	335,966	511,944	184,147	3,563,176
부채 합계	19,554,635	1,525,196	984,330	777,142	1,504,829	24,347,132
순자산계정	(429,344)	(347,707)	22,605	(228,824)	324,311	(658,959)
내외 파생상품 노출액	737,265	96,837	(55,922)	100,387	(362,963)	515,704
외화 순 노출액	307,921	(250,770)	(33,317)	(128,437)	(38,652)	(143,255)

### 3-3. 유동성위험

당행은 리스크정책위원회에서 유동성위험관리에 관한 정책수립과 세부한도설정 등의사결정 기능을 수행하며, 동 원칙과 한도 내에서 국외점포를 비롯한 자회사와 자금부, 신탁부, 중금시장부 등 계정별 관리부서가 1차적으로 유동성위험을 인식하고 관리합니다. 리스크총괄부와 리스크공학부는 리스크정책위원회의 유동성위험 관련 의사결정을 지원하고 유동성위험허용한도를 모니터링하며 은행전체 유동성위험을 평가·관리합니다.

당행은 다음의 기본 원칙에 따라 유동성위험을 관리하고 있습니다.

- 1) 충분한 양의 자금을 필요한 시점에, 적절한 수준의 조달비용으로 조달
- 2) 허용한도 및 조기경보지표 관리를 통하여 위험을 적정수준으로 유지하고, 관련 위험 요인을 사전에 관리
- 3) 자금의 조달원천과 만기를 효과적으로 분산시킬 수 있는 자금조달전략을 수립하여 손실을 최소화하고 안정적으로 수익확보
- 4) 정상적인 상황 및 위기상황 하에서 적시에 지급결제 채무를 이행할 수 있도록 매일 일중 유동성 포지션 및 위험 관리
- 5) 유동성위기 발생에 대비하여 위기상황분석을 정기적으로 실시하고, 위기발생시 조치할 수 있는 비상조달계획을 수립
- 6) 유동성 관련 비용, 편익 및 위험은 상품가격결정, 성과평가 및 신상품 승인절차에 반영

당행은 ALM시스템을 통해 유동성갭, 유동성비율, 예대율, 고객행동모형을 반영한 실질유동성갭 등 다양한 분석방법을 이용하는 한편, 리스크한도, 조기경보지표, 모니터링지표 등 다양한 관리지표를 통하여 원화 및 외화 유동성리스크를 관리하고 있습니다. 자산과 부채의 만기구조 분석시 요구불예금의 경우는 고객의 지급요청시 언제든지 인출이 가능하여 최단기로 분류할 수 있으나, 평상시에는 일정비율의 평잔을 유지하는 고객의 행동을 감안하여 비핵심예금을 최단기로 구분하여 유동성위험을 관리합니다.

(1) 금융상품의 잔존기간

당기말과 전기말 현재 금융상품자산과 금융상품부채의 잔존기간별 구성내역은 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

(단위: 백만원)							
구분	1월이하	1월~3월	3월~6월	6월~1년	1년~5년	5년초과	합계
<b>&lt;자산&gt;</b>							
현금및예치금	9,640,895	14,680	1,778	-	470	-	9,657,823
단기대여금융자산	9,277,441	-	-	-	-	-	9,277,441
파생상품자산	2,595,980	43,781	62,792	118,788	270,888	117,375	3,209,480
대출차권	18,243,701	24,789,881	33,551,388	49,883,205	54,209,095	46,716,599	227,383,689
대도가능금융자산	24,978,025	-	-	-	-	-	24,978,025
민기보유금융자산	41,285	164,525	127,523	1,291,906	9,280,051	1,388,981	12,272,151
기타금융자산	10,667,405	-	-	-	1,108,311	-	11,805,716
자산 합계	75,472,612	24,992,667	33,743,481	51,273,797	64,848,813	48,747,702	300,079,072
<b>&lt;부채&gt;</b>							
당기손익인식지정금융부채	35	-	1,918	-	4,598	-	6,549
예수부채	112,374,892	19,951,825	27,152,389	45,784,375	8,557,848	1,088,807	214,887,534
단기대여금융부채	485,995	-	-	-	-	-	485,995
파생상품부채	2,478,244	24,418	29,040	27,249	81,819	26,054	2,686,824
차입부채	4,961,013	1,890,847	1,073,388	2,419,488	3,405,191	802,182	14,152,087
사채	822,481	1,188,455	3,075,140	3,931,525	9,958,411	4,028,482	22,804,484
기타금융부채	12,039,289	-	-	-	121,158	-	12,160,447
부채 합계	132,961,729	22,855,345	31,331,851	52,142,637	22,128,623	5,743,515	267,163,700

<제184(전기)>

(단위: 백만원)							
구분	1월이하	1월~3월	3월~6월	6월~1년	1년~5년	5년초과	합계
<b>&lt;자산&gt;</b>							
현금및예치금	13,120,313	5,678	11,758	-	-	-	13,137,749
단기대매금융자산	6,750,785	-	-	-	-	-	6,750,785
파생상품자산	1,602,132	200,358	63,397	79,454	138,195	42,058	2,125,590
대출차권	18,267,818	23,212,448	31,131,950	47,381,117	51,758,581	48,555,051	220,324,743
매도가능금융자산	23,069,621	-	-	-	-	889,341	23,938,962
반기보유금융자산	15,301	109,177	388,673	738,679	8,031,642	1,733,090	11,016,761
기타금융자산	6,029,770	-	-	-	3,485,748	-	9,495,518
자산 합계	68,875,518	23,527,857	31,595,776	48,199,449	63,392,148	51,199,538	286,790,284
<b>&lt;부채&gt;</b>							
당기손익의식지정금융부채	-	-	491	-	13,675	-	14,166
예수부채	100,271,940	20,307,377	24,651,552	47,909,253	8,399,311	1,020,980	202,580,383
단기대매금융부채	483,788	-	-	-	-	-	483,788
파생상품부채	1,484,777	22,758	18,357	23,301	59,384	30,157	1,621,732
차입부채	3,388,640	2,182,511	1,271,735	2,050,705	3,674,874	543,234	13,089,699
사채	344,194	1,475,375	1,548,216	5,504,832	9,884,783	2,984,351	21,719,731
기타금융부채	14,732,748	-	-	-	124,327	-	14,857,073
부채 합계	120,644,083	23,968,019	27,488,351	55,483,091	22,156,334	4,558,692	254,328,550

표시된 금액은 금융상품자산 및 금융상품부채의 원금 및 이자 현금흐름을 모두 포함하고 있습니다. 할인되지 않은 현금흐름을 기초로 당행의 지급의무가 발생하는 가장 빠른 만기일로 분류하였습니다. 즉시 처분가능한 단기대매금융상품과 처분제한된 자산을 제외한 매도가능금융자산은 1개월이내 최단기로 분류하였습니다.

(2) 난외항목의 잔존기간

당행이 제공한 사채발행, 융자담보 등 금융보증에 해당하는 지급보증, 대출약정 및 기타 신용 공여의 경우 약정 만기가 존재하나, 거래 상대방이 지급을 요청하는 경우 즉시 지급을 이행하여야 합니다.

당기말과 전기말 현재 관련 난외항목의 구성 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구분	제185(당기)	제184(전기)
금융보증	5,935,702	5,314,941
대출약정 및 기타 신용관련 부채	72,056,734	73,024,178
합계	77,992,436	78,339,119

#### 3-4. 금융상품의 공정가치 측정

활성시장에서 거래되는 금융상품의 공정가치는 보고기간말 현재 고시되는 시장가격에 기초하여 산정됩니다. 당행이 보유하고 있는 금융자산의 공시되는 시장가격은 매매중개기관의 공시가격(dealer price quotations)에 기초합니다.

활성시장에서 거래되지 아니하는 금융상품(예: 장외파생상품)의 공정가치는 평가기법을 사용하여 결정하거나, 독립적인 외부전문평가기관의 평가결과를 이용합니다.

당행은 다양한 평가기법을 활용하고 있으며 보고기간말 현재 시장상황에 근거하여 합리적인 가정을 수립하고 있습니다.

당행이 사용하는 공정가치 평가기법은 합리적인 판단력과 거래의사가 있는 독립된 당사자 사이의 최근 거래를 사용하는 방법, 실질적으로 동일한 다른 금융상품의 현행 공정가치를 이용할 수 있다면 이를 참조하는 방법, 추정현금흐름할인방법, 옵션가격 결정모형 등이 있습니다. 예를 들어 이자율 스왑의 공정가치는 미래예상현금흐름의 현재가치로 계산되며 외환선도계약의 공정가치는 보고기간말의 고시선도환율을 적용하여 산출됩니다.

당행은 금융상품의 공정가치를 다음의 3가지 수준으로 분류하여 공시합니다.

- 수준 1: 활성시장에서 공시되는 가격을 공정가치로 측정하는 금융상품의 경우, 동 금융상품의 공정가치는 수준 1로 분류하고 있습니다.
- 수준 2: 평가기법을 사용하여 금융상품의 공정가치를 측정하는 경우, 유의적인 투입변수가 시장에서 관측한 정보에 기초한다면 동 금융상품의 공정가치는 수준 2로 분류하고 있습니다.
- 수준 3: 평가기법을 사용하여 금융상품의 공정가치를 측정하는 경우, 유의적인 투입변수가 시장에서 관측불가능한 정보에 기초한다면 동 금융상품의 공정가치는 수준 3으로 분류하고 있습니다.

(1) 공정가치로 측정하는 금융상품

1) 당기말과 전기말 현재 재무상태표에서 공정가치로 측정하는 금융상품의 공정가치 서열체계의 수준별 내역은 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

구 분		(단위: 백만원)			
		수준 1	수준 2	수준 3	합 계
단기매출금융자산	채무증권	555,329	6,868,833	-	7,424,162
	지분증권	4,984	1,600,440	-	1,605,434
	금/은행예치금	247,845	-	-	247,845
	소 계	808,168	8,469,273	-	9,277,441
파생상품자산	매매목적	-	2,535,128	25,370	2,560,498
	위험회피목적	-	7,520	7,665	15,185
	소 계	-	2,542,648	33,035	2,575,683
매도가능금융자산	채무증권	6,445,116	17,367,919	-	23,813,035
	지분증권	596,538	988,791	1,104,428	2,689,757
	소 계	7,041,654	18,356,710	1,104,428	26,502,792
자산 합계		7,849,822	29,368,631	1,137,463	38,355,916
당기손익인식지정금융부채	예수부채	-	4,277	2,005	6,282
단기매출금융부채	금/은행예수부채	485,985	-	-	485,985
파생상품부채	매매목적	-	2,443,746	3,803	2,447,549
	위험회피목적	-	74,524	259,127	333,651
	소 계	-	2,518,270	262,930	2,781,200
부채 합계		485,985	2,522,547	264,935	3,273,477

<제184(전)기>

		(단위: 백만원)			
구분		수준 1	수준 2	수준 3	합계
단기매대금융자산	채무증권	632,613	5,262,228	-	5,894,841
	지분증권	6,427	700,277	-	706,704
	금/은예치금	149,220	-	-	149,220
	소계	788,260	5,962,505	-	6,750,765
파생상품자산	매매목적	-	1,547,548	7,689	1,555,237
	위험회피목적	-	24,824	27,898	52,722
	소계	-	1,572,372	35,587	1,607,959
매도가능금융자산	채무증권	7,774,284	13,365,416	-	21,139,700
	지분증권	1,040,313	880,061	878,888	2,799,262
	소계	8,814,597	14,245,477	878,888	23,938,962
자산 합계		9,602,857	21,780,354	914,475	32,297,686
당기손익인식지정금융부채	예수부채	-	10,542	2,967	13,509
단기매대금융부채	매도유가증권	10,161	-	-	10,161
	금/은예수부채	453,605	-	-	453,605
	소계	463,766	-	-	463,766
파생상품부채	매매목적	-	1,440,354	5,416	1,445,770
	위험회피목적	-	31,589	91,972	123,561
	소계	-	1,471,943	97,388	1,569,331
부채 합계		463,766	1,482,485	100,355	2,046,606

2) 당기와 전기 중 공정가치로 측정하는 금융상품 중 수준 1과 수준 2 사이의 이동금액은 없습니다.

3) 공정가치 수준 3으로 분류된 금융상품의 내역

당기와 전기 중 공정가치 수준 3에 해당되는 금융상품의 변동내역은 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

(단위: 백만원)				
구 분	매도가능금융자산	순파생상품	당기손익인식지정 금융부채	합 계
기초	878,888	(61,801)	(2,967)	814,120
총손익				
당기손익인식금액(주1)	13,470	(188,240)	(5)	(174,775)
기타포괄손익인식금액	(37,397)	-	-	(37,397)
매입/발행	360,099	(1,163)	-	358,936
결제	(105,320)	1,621	967	(102,732)
수준 3으로의 이동(주2)	-	19,688	-	19,688
수준 3으로부터의 이동(주2)	(5,312)	-	-	(5,312)
기말	1,104,428	(229,866)	(2,005)	872,528

<제184(전기)>

(단위: 백만원)				
구 분	매도가능금융자산	순파생상품	당기손익인식지정 금융부채	합 계
기초	1,039,266	44,513	(3,085)	1,080,694
총손익				
당기손익인식금액(주1)	59,561	(89,761)	6	(30,194)
기타포괄손익인식금액	(79,793)	-	-	(79,793)
매입/발행	214,975	2,050	(179)	216,846
결제	(291,622)	(18,542)	291	(309,873)
수준 3으로 이동(주2)	1,397	-	-	1,397
수준 3으로부터의 이동(주2)	(64,866)	(61)	-	(64,957)
기말	878,888	(61,801)	(2,967)	814,120

(주1) 당기와 전기 중 공정가치 수준 3으로 분류된 금융상품의 변동내역 중 당기손익으로 인식된 금액과 보고기간 말 현재 보유하고 있는 금융상품 관련 당기손익 인식액은 포괄손익계산서상 다음과 같은 개별항목으로 표시되고 있습니다.

구분	(단위: 백만원)			
	제185(당기)		제184(전기)	
	당기손익 인식금액	보고기간말 보유 금융상품관련 당기손익 인식액	당기손익 인식금액	보고기간말 보유 금융상품관련 당기손익 인식액
당기매매금융상품관련손익	(1,016)	(1,016)	(122)	(122)
당기손익인식지정금융상품관련손익	(5)	(5)	6	6
매도가능금융자산처분손익	22,042	483	123,215	-
금융상품자산손상차손	(8,572)	(7,914)	(63,654)	(61,007)
기타영업손익	(187,224)	(187,224)	(89,639)	(89,639)
합계	(174,775)	(195,676)	(30,194)	(150,752)

(주2) 해당 금융상품에 대한 판측가능한 시장 자료의 이용가능여부가 변경됨에 따라 수준간 이동이 발생하였습니다. 당행은 수준 간 이동을 발생시키는 사건이나 상황의 변동이 일어난 보고기간말에 수준의 변동을 인식합니다.

4) 공정가치 평가기법 및 투입변수

① 당기말과 전기말 현재 공정가치 수준 2로 분류된 금융상품의 공정가치 측정시 사용된 평가기법과 투입변수 및 장부금액은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)					
구분		제185(당)기	제184(전)기	평가방법	투입변수
당기대외금융자산	채무증권	6,866,833	5,262,228	현금흐름할인모형	할인율
	지분증권	1,600,440	700,277	순자산가치평가	주식, 채권 등 기초자산 가격
	소 계	8,469,273	5,962,505		
파생상품자산	매매목적	2,535,128	1,547,548	옵션모형	할인율, 원율, 변동성,
	위험회피목적	7,520	24,624	현금흐름할인모형	주가 및 상환지수 등
	소 계	2,542,648	1,572,372		
대외가능금융자산	채무증권	17,367,919	13,365,418	현금흐름할인모형	할인율
	지분증권	968,791	880,081	순자산가치평가	주식, 채권 등 기초자산 가격
	소 계	18,336,710	14,245,477		
자산 합계		29,368,631	21,780,354		
당기손익인식지경 금융부채	여수부채	4,277	10,542	옵션모형	할인율, 변동성, 주가지수
	소 계	4,277	10,542		
파생상품부채	매매목적	2,443,748	1,440,354	옵션모형	할인율, 원율, 변동성,
	위험회피목적	74,524	31,589	현금흐름할인모형	주가 및 상환지수 등
	소 계	2,518,270	1,471,943		
부채 합계		2,522,547	1,482,485		

② 당기말과 전기말 현재 공정가치 수준 3으로 분류된 금융상품의 공정가치 측정시 사용된 평가방법 및 유의적이지만 관측가능하지 않은 투입변수는 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

(단위: 백만원)					
금융상품	가치평가방법	종류	장부금액	유의적이지만 관측가능하지 않은 투입변수	범위
파생상품자산	옵션모형(주)	주식 및 환율관련	22,723	기초자산의 변동성 상관계수	13.10%~21.69% (-)19.03%
	옵션모형(주)	이자율관련	10,312	기초자산의 변동성 회귀계수 상관계수	0.54%~0.87% 0.02%~2.05% 61.01%
	소 계		33,035		
매도가능금융자산	현금흐름할인모형	지분증권	1,104,428	할인율 성장률	1.73%~18.49% 0.00%
자산 합계			1,137,463		
당기손익인식지경 금융부채	옵션모형(주)	주식 관련	2,005	기초자산의 변동성 상관계수	15.97%~29.44% (-)1.80%~61.10%
파생상품부채	옵션모형(주)	주식 및 환율관련	1,156	기초자산의 변동성 상관계수	19.90%~33.69% (-)19.03%~61.10%
	옵션모형(주)	이자율관련	261,774	기초자산의 변동성 회귀계수 상관계수	0.51%~0.87% 0.02%~3.02% 42.93%~61.01%
	소 계		262,930		
부채 합계			264,935		

(주) 파생상품 공정가치를 측정하기 위해 적용된 옵션모형은 Black-Scholes 모델, Hull-White 모델 등을 포함하고 있으며, 상품 유형에 따라 일부 상품에 대해서는 몬테카를로 시뮬레이션(Monte Carlo simulation) 등의 방법을 적용하고 있습니다.

<제184(전)기>

(단위: 백만원)					
금융상품	가치평가방법	종류	장부금액	유의적이지만 관측가능하지 않은 투입변수	범위
파생상품자산	옵션모형(주)	주식 및 환율관련	2,346	기초자산의 변동성 상관계수	6.75%~34.62% 0.87%
	옵션모형(주)	이자율관련	33,241	기초자산의 변동성 회귀계수 상관계수	0.44%~0.65% 0.02%~2.05% 49.53%~84.60%
	소 계		35,587		
매도가능금융자산	현금흐름할인모형	지분증권	878,888	할인을 성장률	1.72%~20.65% 0.00%~2.50%
자산 합계			914,475		
당기손익인식지정 금융부채	옵션모형(주)	주식 관련	2,967	기초자산의 변동성 상관계수	22.20%~28.48% 15.43%~52.70%
파생상품부채	옵션모형(주)	주식 및 환율관련	64	기초자산의 변동성 상관계수	10.20%~34.62% 0.87%~52.70%
	옵션모형(주)	이자율관련	97,324	기초자산의 변동성 회귀계수 상관계수	0.16%~0.65% 0.02%~2.04% 31.38%~84.60%
	소 계		97,388		
부채 합계			100,355		

(주) 파생상품 공정가치를 측정하기 위해 적용된 옵션모형은 Black-Scholes 모델, Hull-White 모델 등을 포함하고 있으며, 상품 유형에 따라 일부 상품에 대해서는 몬테카를로 시뮬레이션(Monte Carlo simulation) 등의 방법을 적용하고 있습니다.

5) 관측가능하지 않은 투입변수의 변경에 대한 민감도

당기말과 전기말 현재 수준 3으로 분류된 금융상품의 공정가치 측정시 관측가능하지 않은 투입변수를 합리적으로 대체가능한 다른 투입변수로 변경하는 경우 당기손익 또는 기타포괄손익 등으로 인식되는 변동의 효과는 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

금융상품		당기손익		기타포괄손익	
		유리한 변동	불리한 변동	유리한 변동	불리한 변동
파생상품자산(주1)	주식 및 환율관련	1,652	(1,039)	-	-
	이자율관련	1,397	(1,488)	-	-
매도가능금융자산(주2)	지분증권	-	-	12,673	(6,531)
자산 합계		3,049	(2,527)	12,673	(6,531)
당기손익인식지정 금융부채(주1)	주식관련	1	(1)	-	-
	주식 및 환율관련	59	(68)	-	-
파생상품부채(주1)	이자율관련	8,211	(9,424)	-	-
	부채 합계	8,271	(9,483)	-	-

<제184(전기)>

금융상품		당기손익		기타포괄손익	
		유리한 변동	불리한 변동	유리한 변동	불리한 변동
파생상품자산(주1)	주식 및 환율관련	1,118	(719)	-	-
	이자율관련	1,293	(5,100)	-	-
매도가능금융자산(주2)	지분증권	-	-	24,001	(6,839)
자산 합계		2,411	(5,819)	24,001	(6,839)
당기손익인식지정 금융부채(주1)	주식관련	4	(4)	-	-
	주식 및 환율관련	11	(9)	-	-
파생상품부채(주1)	이자율관련	4,218	(14,421)	-	-
	부채 합계	4,233	(14,434)	-	-

- (주1) 주요 관측불가능한 투입변수의 기초자산의 변동성 또는 상관계수 등을 10%만큼 증가 또는 감소시킴으로써 공정가치 변동을 산출하고 있습니다.
- (주2) 주요 관측불가능한 투입변수의 성장률(0%~1%)과 할인율(-1%~1%)을 증가 또는 감소시킴으로써 공정가치 변동을 산출하고 있습니다.

(2) 상각후원가로 측정하는 금융상품

1) 상각후원가로 측정하는 금융상품의 공정가치 산출 방법은 다음과 같습니다.

계정과목	공정가치 산출 방법
현금및예치금	현금은 장부금액과 공정가치가 동일하며 예치금은 변동이자를 예치금과, 초단기성인 익일 예치금이 대부분이므로 공정가치의 대용치로 장부금액을 사용하였습니다.
대출채권	대출채권의 공정가치는 수취할 것으로 예상되는 미래 현금흐름을 시장이자율과 차주의 신용 위험 등을 고려한 할인율로 할인하여 산출하였습니다.
만기보유금융자산	한국자산평가(주), KBS채권평가(주)가 제공하는 최근거래일의 기준단가 중 작은 값을 공정가치로 산출하였습니다.
예수부채 및 차입부채	요구불예수부채, 어음관리계좌수탁금, 콜머니는 초단기성 부채로 장부금액을 공정가치로 평가하였으며, 나머지 예수부채와 차입부채는 계약상 현금흐름을 시장 이자율에 잔여위험을 고려한 할인율로 할인한 현재가치를 공정가치로 산출하였습니다.
사채	활성시장 가격을 기초로 하고 있습니다. 활성시장 가격이 유효하지 않는 경우, 계약상 현금흐름을 시장 이자율에 잔여위험을 고려한 할인율로 할인한 현재가치를 공정가치로 산출하였습니다.

2) 당기말과 전기말 현재 상각후원가로 측정하는 금융상품의 장부금액과 공정가치는 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

계 정 과 목		장부금액				공정가치
		잔액	미실각잔액	충당금	합계	
현금및예치금	현금	1,669,277	-	-	1,669,277	1,669,277
	예치금	7,985,154	-	(1,311)	7,983,843	7,983,843
	소 계	9,654,431	-	(1,311)	9,653,120	9,653,120
대출채권	가계대출	93,629,743	319,007	(254,408)	93,694,342	94,240,314
	기업대출	107,054,233	57,763	(996,410)	106,125,586	106,726,162
	공공및기타자금대출	2,092,423	1,204	(7,682)	2,085,945	2,096,380
	은행간자금대출	4,733,065	-	(5,462)	4,727,603	4,727,748
	소 계	207,519,464	377,974	(1,253,962)	206,633,476	207,790,604
만기보유금융자산	국공채	6,634,424	-	-	6,634,424	6,811,858
	금융채	680,918	-	-	680,918	685,090
	회사채	3,781,915	-	-	3,781,915	3,808,886
	소 계	11,097,257	-	-	11,097,257	11,305,834
기타금융자산		11,805,716	(32,539)	(25,360)	11,747,817	11,770,366
자산 합계		240,076,868	345,435	(1,290,633)	239,131,670	240,519,914
예수부채	요구불예수부채	88,657,290	-	-	88,657,290	88,657,290
	기한부예수부채	109,477,445	-	-	109,477,445	109,466,602
	양도성예금증서	5,827,823	-	-	5,827,823	5,850,737
	발행어음예수부채	4,581,276	-	-	4,581,276	4,581,110
	어음관리계좌수탁금	2,473,048	-	-	2,473,048	2,473,048
	기타	26,799	-	-	26,799	26,800
	소 계	211,043,681	-	-	211,043,681	211,054,587
차입부채	클러니	592,819	-	-	592,819	592,819
	매출어음	12,427	-	-	12,427	12,407
	환매조건부채권매도	380,037	-	-	380,037	380,037
	차입부채	12,960,318	(723)	-	12,959,595	12,974,010
	소 계	13,945,601	(723)	-	13,944,878	13,959,273
사채	원화사채	16,604,738	(19,599)	-	16,585,139	16,652,141
	외화사채	4,355,367	(17,180)	-	4,338,187	4,345,499
	소 계	20,960,105	(36,779)	-	20,923,326	20,997,640
기타금융부채		12,226,777	(2,404)	-	12,224,373	12,203,270
부채 합계		258,176,164	(39,906)	-	258,136,258	258,214,770

<제184(전)기>

계정과목		장부금액				공정가치
		잔액	미상각잔액	충당금	합계	
현금및예치금	현금	1,823,134	-	-	1,823,134	1,823,134
	예치금	11,312,628	-	(633)	11,311,995	11,311,996
	소계	13,135,762	-	(633)	13,135,129	13,135,129
대출채권	가계대출	88,085,947	293,118	(219,664)	88,159,401	89,344,666
	기업대출	105,950,060	48,500	(1,057,730)	104,930,830	105,878,987
	공공및기타자금대출	2,129,768	2,183	(7,951)	2,123,990	2,132,915
	은행간자금대출	4,181,274	-	(6,587)	4,174,687	4,181,086
	소계	200,347,049	343,801	(1,301,942)	199,388,908	201,537,654
만기보유금융자산	국공채	5,638,796	-	-	5,638,796	5,914,323
	금융채	351,420	-	-	351,420	360,750
	회사채	3,743,335	-	-	3,743,335	3,813,057
	소계	9,733,551	-	-	9,733,551	10,088,140
기타금융자산		9,495,517	(41,830)	(41,213)	9,412,474	9,445,934
자산 합계		232,711,879	301,971	(1,343,788)	231,670,062	234,206,857
예수부채	요구불예수부채	79,490,427	-	-	79,490,427	79,490,427
	기한부예수부채	109,379,582	-	-	109,379,582	109,570,875
	양도성예금증서	4,072,688	-	-	4,072,688	4,089,777
	발행어음예수부채	3,018,551	-	-	3,018,551	3,018,428
	어음관리계좌수탁금	2,280,816	-	-	2,280,816	2,280,816
	기타	30,088	-	-	30,088	30,092
소계	198,272,132	-	-	198,272,132	198,480,415	
차입부채	콜머니	92,458	-	-	92,458	92,458
	매출어음	24,245	-	-	24,245	24,198
	환매조건부채권매도	366,912	-	-	366,912	366,912
	차입부채	12,321,357	(1,684)	-	12,319,673	12,355,833
	외환수탁금	71,810	-	-	71,810	71,840
소계	12,876,782	(1,684)	-	12,875,098	12,911,241	
사채	원화사채	15,989,119	(31,794)	-	15,957,325	16,248,094
	외화사채	3,938,091	(10,805)	-	3,927,286	3,970,791
	소계	19,927,210	(42,599)	-	19,884,611	20,218,885
기타금융부채		14,924,631	(2,651)	-	14,921,980	14,900,944
부채 합계		246,000,755	(46,934)	-	245,953,821	246,511,485

3) 당기말과 전기말 현재 재무상태표에서 공정가치로 측정되지는 않으나 공정가치가 공시되는 금융자산부채의 평가수준별 공정가치의 내역은 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

		(단위: 백만원)			
구 분		수준 1	수준 2	수준 3	합 계
현금및예치금	현금	1,669,277	-	-	1,669,277
	예치금	-	7,983,843	-	7,983,843
	소 계	1,669,277	7,983,843	-	9,653,120
대출채권	가계대출	-	-	94,240,314	94,240,314
	기업대출	-	-	106,726,162	106,726,162
	공공및기타자금대출	-	-	2,096,380	2,096,380
	은행간자금대출	-	1,570,196	3,157,552	4,727,748
	소 계	-	1,570,196	206,220,408	207,790,604
만기보유금융자산	국공채	2,017,133	4,794,725	-	6,811,858
	금융채	600,846	84,244	-	685,090
	회사채	-	3,808,886	-	3,808,886
	소 계	2,617,979	8,687,855	-	11,305,834
기타금융자산		-	9,790,287	1,880,069	11,770,356
자산 합계		4,287,256	28,032,181	208,200,477	240,519,914
예수부채	요구불예수부채	-	88,657,290	-	88,657,290
	기한부예수부채	-	-	109,465,602	109,465,602
	양도성예금증서	-	-	5,850,737	5,850,737
	발행어음예수부채	-	-	4,581,110	4,581,110
	어음관리계좌수탁금	-	2,473,048	-	2,473,048
	기타	-	-	26,800	26,800
	소 계	-	91,130,338	119,924,249	211,054,587
차입부채	물대니	-	592,819	-	592,819
	대출어음	-	-	12,407	12,407
	원래조건부채권매도	-	-	380,037	380,037
	차입부채	-	-	12,974,010	12,974,010
	소 계	-	592,819	13,366,454	13,959,273
사채	원화사채	-	14,212,419	2,439,722	16,652,141
	외화사채	-	4,345,499	-	4,345,499
	소 계	-	18,557,918	2,439,722	20,997,640
기타금융부채		-	4,651,912	7,551,358	12,203,270
부채 합계		-	114,932,987	143,281,783	258,214,770

<제184(전기)>

		(단위: 백만원)			
구 분		수준 1	수준 2	수준 3	합 계
현금및예치금	현금	1,823,134	-	-	1,823,134
	예치금	-	11,311,995	-	11,311,995
	소 계	1,823,134	11,311,995	-	13,135,129
대출채권	가계대출	-	-	89,344,666	89,344,666
	기업대출	-	-	105,878,987	105,878,987
	공공및기타자금대출	-	-	2,132,915	2,132,915
	은행간자금대출	-	937,640	3,243,446	4,181,086
	소 계	-	937,640	200,600,014	201,537,654
만기보유금융자산	국공채	2,131,583	3,782,730	-	5,914,323
	금융채	102,921	257,829	-	360,750
	회사채	-	3,813,067	-	3,813,067
	소 계	2,234,514	7,853,626	-	10,088,140
기타금융자산		-	7,464,015	1,981,919	9,445,934
자산 합계		4,067,648	27,567,276	202,581,933	234,206,857
예수부채	요구불예수부채	-	79,490,427	-	79,490,427
	기한부예수부채	-	-	109,570,875	109,570,875
	양도성예금증서	-	-	4,089,777	4,089,777
	발행어음예수부채	-	-	3,018,428	3,018,428
	어음관리계좌수탁금	-	2,280,816	-	2,280,816
	기타	-	-	30,092	30,092
	소 계	-	81,771,243	116,709,172	198,480,415
차입부채	물대니	-	92,458	-	92,458
	대출어음	-	-	24,198	24,198
	환매조건부채권매도	-	-	366,912	366,912
	차입부채	-	-	12,355,833	12,355,833
	외화수탁금	-	-	71,840	71,840
	소 계	-	92,458	12,818,783	12,911,241
사채	원화사채	-	13,885,710	2,362,384	16,248,094
	외화사채	-	3,970,791	-	3,970,791
	소 계	-	17,856,501	2,362,384	20,218,885
기타금융부채		-	7,284,256	7,616,688	14,900,944
부채 합계		-	107,004,458	139,507,027	246,511,485

4) 당기말과 전기말 현재 공정가치 공시를 위하여 사용된 평가기법 및 투입변수는 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

(단위: 백만원)				
공정가치수준	구분	공정가치(주)	평가모형	투입변수
수준 2	만기보유금융자산	8,687,866	현금흐름 할인모형	할인율
수준 3	대출채권	206,220,408		할인율, 신용스프레드, 조기상환율
	기타금융자산	1,980,069		할인율
자산 합계		216,888,332		
수준 2	사채	18,557,918	현금흐름 할인모형	할인율
수준 3	예수부채(주)	119,875,884		할인율
	차입부채(주)	7,824,101		할인율
	사채	2,439,722		할인율, 회귀계수, 상관계수
	기타금융부채	7,551,368		할인율
부채 합계		156,248,983		

<제184(전기)>

(단위: 백만원)				
공정가치수준	구분	공정가치(주)	평가모형	투입변수
수준 2	만기보유금융자산	7,863,626	현금흐름 할인모형	할인율
수준 3	대출채권	200,600,014		할인율, 신용스프레드, 조기상환율
	기타금융자산	1,981,919		할인율
자산 합계		210,435,559		
수준 2	사채	17,856,501	현금흐름 할인모형	할인율
수준 3	예수부채(주)	116,613,826		할인율
	차입부채(주)	7,808,466		할인율
	사채	2,362,384		할인율, 회귀계수, 상관계수
	기타금융부채	7,616,688		할인율
부채 합계		152,257,865		

(주) 장부금액을 공정가치의 합리적인 근사치로 보아 장부금액을 공정가치로 공시한 항목과 관련한 평가기법과 투입변수는 공시하지 않습니다.

(3) 이연대상 거래일 손익

당기와 전기 중 공정가치로 측정되는 금융상품의 최초 인식 시 발생한 거래일(day1) 손익의 변동내역은 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

(단위: 백만원)				
구분	기초	이연	상각	기말
당기손익인식지정금융부채	(39)	-	27	(12)
주식스왑	38	-	(26)	12

<제184(전기)>

(단위: 백만원)				
구분	기초	이연	상각	기말
당기손익인식지정금융부채	(64)	(8)	33	(39)
주식스왑	63	-	(25)	38

(4) 금융상품의 범주별 분류

금융자산과 금융부채는 공정가치 또는 상각후원가로 측정됩니다. 금융상품 범주별 장부금액의 자세한 측정 방법은 주석 2에서 설명하고 있습니다. 당기말과 전기말 현재 각 금융자산과 금융부채의 범주별 장부금액은 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

(단위: 백만원)						
금융자산	당기매매 금융자산	매도가능 금융자산	만기보유 금융자산	대여금 및 수취채권	위험회피 파생자산	합 계
예치금	-	-	-	7,983,843	-	7,983,843
당기매매금융자산	9,277,441	-	-	-	-	9,277,441
파생상품자산	2,560,498	-	-	-	15,185	2,575,683
대출채권	-	-	-	206,633,476	-	206,633,476
매도가능금융자산	-	26,502,792	-	-	-	26,502,792
만기보유금융자산	-	-	11,097,257	-	-	11,097,257
기타금융자산	-	-	-	11,747,817	-	11,747,817
자산 합계	11,837,939	26,502,792	11,097,257	226,365,136	15,185	275,818,309

(단위: 백만원)					
금융부채	당기손익인식금융부채		상각후원가 측정금융부채	위험회피 파생부채	합 계
	당기매매 금융부채	당기손익인식지정 금융부채			
예수부채	-	-	211,043,681	-	211,043,681
당기매매금융부채	485,995	-	-	-	485,995
당기손익인식지정금융부채	-	6,282	-	-	6,282
파생상품부채	2,447,549	-	-	333,651	2,781,200
차입부채	-	-	13,944,878	-	13,944,878
사채	-	-	20,923,326	-	20,923,326
기타금융부채	-	-	12,224,373	-	12,224,373
금융부채 총계	2,933,544	6,282	258,136,258	333,651	261,409,735

<제184(전기)>

(단위: 백만원)

금융자산	단기매매 금융자산	매도가능 금융자산	만기보유 금융자산	대여금 및 수취채권	위험회피 파생자산	합 계
예치금	-	-	-	11,311,986	-	11,311,986
단기매매금융자산	6,750,765	-	-	-	-	6,750,765
파생상품자산	1,555,237	-	-	-	52,722	1,607,959
대출채권	-	-	-	199,388,908	-	199,388,908
매도가능금융자산	-	23,938,962	-	-	-	23,938,962
만기보유금융자산	-	-	9,733,551	-	-	9,733,551
기타금융자산	-	-	-	9,412,474	-	9,412,474
자산 합계	8,306,002	23,938,962	9,733,551	220,113,377	52,722	262,144,614

(단위: 백만원)

금융부채	당기손익인식금융부채		상각후원가 측정금융부채	위험회피 파생부채	합 계
	단기매매 금융부채	당기손익인식지정 금융부채			
예수부채	-	-	198,272,132	-	198,272,132
단기매매금융부채	463,766	-	-	-	463,766
당기손익인식지정금융부채	-	13,509	-	-	13,509
파생상품부채	1,445,770	-	-	123,561	1,569,331
차입부채	-	-	12,875,098	-	12,875,098
사채	-	-	19,884,611	-	19,884,611
기타금융부채	-	-	14,921,980	-	14,921,980
금융부채 총계	1,909,536	13,509	245,953,821	123,561	248,000,427

(5) 금융수익과 금융원가

당기와 전기 금융수익과 금융원가의 상세내역은 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

(단위: 백만원)						
구분	이자수익(비용)	수수료수익(비용)	손상차손	기타	합계	기타포괄손익
단기대매금융자산	111,808	6,782	-	(10,205)	108,183	-
대도가능금융자산	408,714	-	(83,280)	498,233	821,667	(285,799)
민기보유금융자산	305,441	-	-	-	305,441	-
대여금 및 수취차권	8,284,010	204,432	(638,598)	18,922	5,868,778	-
단기대매금융부채	-	72	-	-	72	-
당기손익인식지정금융부채	-	-	-	(208)	(208)	-
상각후원가측정금융부채	(2,978,630)	120	-	240,802	(2,737,908)	(13,845)
순위험회피파생상품	-	-	-	(247,598)	(247,598)	-
합계	4,129,141	211,408	(721,848)	487,748	4,116,449	(299,634)

<제184(전기)>

(단위: 백만원)						
구분	이자수익(비용)	수수료수익(비용)	손상차손	기타	합계	기타포괄손익
단기대매금융자산	87,807	5,855	-	149,871	243,333	-
대도가능금융자산	443,945	-	(208,570)	584,147	801,522	(311,644)
민기보유금융자산	308,455	-	-	-	308,455	-
대여금 및 수취차권	8,312,413	144,648	(591,988)	88,812	5,953,885	-
단기대매금융부채	-	(8)	-	-	(8)	-
당기손익인식지정금융부채	-	-	-	(18)	(18)	-
상각후원가측정금융부채	(3,281,172)	(5)	-	141,029	(3,140,148)	-
순위험회피파생상품	-	-	-	(141,138)	(141,138)	-
합계	3,871,248	150,482	(798,558)	802,705	4,025,887	(311,644)

### 3-5. 자본위험관리

은행에 대한 자기자본 규제제도는 1980년대 금융규제완화에 따른 금융기관의 위험 증가에 따라, 은행의 건전성을 확보하고, 예금자 보호와 국제 금융질서의 안정성을 확보하기 위하여 BIS 회원국가를 중심으로 1988년에 도입되었습니다. 최초의 Basel 협약이 도입된 이후 규제 자기자본 요구량이 은행이 보유한 리스크를 보다 잘 반영할 수 있는 방향으로 발전되어 왔습니다. 바젤위원회(BCBS)는 글로벌 금융위기 이후 은행 시스템의 복원력 강화를 위하여 바젤 III 기준을 마련하여 발표하였고, 우리나라는 은행업감독규정 개정을 통해 2013년 12월 1일부터 기존보다 강화된 자본규제인 바젤 III 를 시행하고 있습니다. 동 기준은 당행을 포함한 국내은행이 보통주자본비율, 기본자본비율, 총자기자본비율에 대해 시행일로부터 단계적으로 각각 일정비율이 상을 유지할 것을 의무화하고 있으며, 당행은 국내은행의 감독기구인 금융감독원에 은행 관련 법규에 따른 자기자본비율의 준수 여부를 보고하고 있습니다.

상기의 감독 법규에 따라 당행이 관리하는 규제자본은 아래의 두 분류로 구분됩니다.

#### 1) Tier 1 capital (기본자본: 보통주자본+기타기본자본)

- ① 보통주자본: 은행의 손실을 가장 먼저 보전할 수 있으며 은행 청산시 최후순위이고 청산시를 제외하고는 상환되지 않는 자본으로 보통주, 자본잉여금, 이익잉여금(대손준비금 제외), 기타포괄손익누계액, 기타자본잉여금, 자본조정, 은행인 종속회사의 비지배주주지분의 일부금액 등을 포함합니다.
- ② 기타기본자본: 영구적 성격의 인정요건을 충족하는 자본증권 및 이와 관련된 자본잉여금, 종속회사가 발행한 기타기본자본의 외부투자자 보유금액 중 일부금액 등을 포함합니다.

#### 2) Tier 2 capital (보완자본)

청산시 은행의 손실을 보전할 수 있는 인정요건을 충족하는 자본증권 및 이와 관련된 자본잉여금, 종속회사가 발행한 보완자본의 외부투자자 보유금액 중 일부금액 등을 포함합니다.

당행은 자기자본(상기의 기본자본과 보완자본의 합에서 공제항목을 차감한 금액)을 위험가중자산으로 나누어 자기자본비율을 산출합니다. 위험가중자산(risk weighted assets)은 은행의 실질적인 위험을 반영하기 위해 위험의 노출정도가 높을수록 높은 가중치를 적용하여 산출하며, 신용위험가중자산, 운영위험가중자산 및 시장위험가중자산의 합으로 구성됩니다.

당행은 별도 내부기준을 통해 자본적정성을 평가 및 관리하고 있습니다. 자본적정성의 평가는 경제적 자본(최대노출액별로 내재된 리스크에 대비하기 위하여 은행이 보유해야 하는 실질적인 필요자본량으로 은행 내부의 리스크 인식 및 평가 기준에 따라 산출된 리스크량) 대비 가용자본(은행의 실제 손실발생시 손실처리에 충당할 수 있는 자본)의 수준이 적절한가를 은행 내부적으로 평가하는 것을 말합니다. 당행은 리스크 유형별(신용, 시장, 운영, 금리, 유동성, 편중리스크)로 산출된 리스크의 합산 금액 및 각 유형별 금액을 관리합니다.

당행은 위험가중자산에 대한 자기자본비율을 연결재무제표 기준으로 산출, 관리하고 있으며, 당기말과 전기말의 자기자본비율은 다음과 같습니다.

			(단위: 백만원)	
구 분			제185(당기)	제184(전기)
총자기자본	Tier 1	보통주자본	19,913,369	17,324,193
		기타기본자본	472,121	805,603
		기본자본	20,385,490	18,129,796
	Tier 2	보완자본	3,953,215	3,240,443
	합 계		24,338,705	21,370,239
총 위험가중자산			155,027,378	144,843,681
총자기자본비율	Tier 1	보통주자본비율	12.85%	11.96%
		기본자본비율	13.15%	12.52%
	Tier 2	보완자본비율	2.55%	2.24%
	합 계		15.70%	14.75%

당행은 상기의 표와 같이 자본적정성 기준(총자기자본비율 8.0% 이상, 기본자본비율 6.0% 이상, 보통주자본비율 4.5% 이상)을 준수하고 있습니다.

3-6. 금융상품 양도거래

(1) 제거조건이 충족되지 않은 금융상품

1) 환매조건부채권매도

당기말과 전기말 현재 환매조건부채권매도 중 당행이 보유 유가증권을 확정가격으로 재매입할 것을 조건으로 매각하여 제거조건이 충족되지 않은 금융상품의 내역은 다음과 같습니다.

		(단위: 백만원)	
구 분		제185(당기)	제184(전기)
양도자산	매도가능금융자산	125,536	134,939
	만기보유금융자산	374,086	349,528
	합 계	499,622	484,467
관련부채	환매조건부채권매도	380,037	366,912

2) 유가증권 대차거래

당행이 보유한 유가증권을 대여하는 경우 유가증권의 소유권이 이전되나, 대여 기간 만료시 해당 유가증권을 반환하여야 하므로, 당행은 해당 유가증권의 위험과 보상의 대부분을 보유함에 따라 대여유가증권 전체를 계속하여 인식하고 있습니다. 당기말과 전기말 현재 대여유가증권의 장부금액은 다음과 같습니다.

				(단위: 백만원)
구 분	제185(당기)	제184(전기)	대여처	
국공채	40,186	29,788	한국증권금융	
금융채	260,014	130,019	한국증권금융, 한국예탁결제원	
합 계	300,200	159,807		

(2) 제거조건을 충족하나 지속적으로 관여하는 금융상품

당기말과 전기말 현재 제거조건을 충족하나 당행이 지속적으로 관여하는 금융상품은 없습니다.

3-7. 금융상품 상계

당기말과 전기말 현재 실행가능한 일관 상계약정 또는 이와 유사한 약정의 적용을 받는 금융상품의 내역은 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

(단위: 백만원)						
금융자산	인식된 금융자산 총액	상계되는 인식된 금융부채 총액	재무상태표에 표시되는 금융자산 순액	재무상태표에서 상계되지 않은 관련 금액		순액
				금융상품	수취한 현금당보	
파생상품자산(주1)	2,571,192	-	2,571,192	-	-	-
기타금융자산(주1)	4,045,845	-	4,045,845	4,950,273	287,143	1,379,821
환매조건부매도당보 유가증권(주2)	489,622	-	489,622	380,037	-	119,585
환매조건부매수(대출차권)(주2)	3,475,158	-	3,475,158	3,475,158	-	-
대여유가증권(주2)	300,200	-	300,200	300,200	-	-
미회수내국환차권(주3)	30,385,320	24,299,035	6,086,285	-	-	6,086,285
증권미수금 등(주4)	1,891	494	1,397	-	-	1,397
합 계	41,259,228	24,299,529	16,959,697	9,105,668	287,143	7,568,838

(단위: 백만원)						
금융부채	인식된 금융부채 총액	상계되는 인식된 금융자산 총액	재무상태표에 표시되는 금융부채 순액	재무상태표에서 상계되지 않은 관련 금액		순액
				금융상품	제공한 현금당보	
파생상품부채(주1)	2,778,727	-	2,778,727	-	-	-
기타금융부채(주1)	3,853,972	-	3,853,972	4,950,273	487,195	1,013,231
환매조건부매도(차입부채)(주2)	360,037	-	360,037	360,037	-	-
대여유가증권	-	-	-	-	-	-
미지급내국환차무(주3)	25,221,294	24,299,035	922,259	922,259	-	-
증권미지급금 등(주4)	499	494	5	5	-	-
합 계	32,032,529	24,299,529	7,733,000	6,252,574	487,195	1,013,231

<제184(전)기>

(단위: 백만원)						
금융자산	인식된 금융자산 총액	상계되는 인식된 금융부채 총액	재무상태표에 표시되는 금융자산 총액	재무상태표에서 상계되지 않은 관련 금액		순액
				금융상품	수취한 현금당보	
파생상품자산(주1)	1,805,684	-	1,805,684	6,182,907	-	987,440
기타금융자산(주1)	5,484,683	-	5,484,683	-	-	-
환매조건부매도당보 유가증권(주2)	484,487	-	484,487	368,912	-	117,555
환매조건부매수(대출차권)(주2)	5,028,080	-	5,028,080	5,028,080	-	-
대여유가증권(주2)	159,807	-	159,807	159,807	-	-
미회수내국환차권(주3)	27,204,105	24,896,522	2,307,583	-	-	2,307,583
증권미수금 등(주4)	2,117	523	1,594	-	-	1,594
합 계	39,948,923	24,897,045	15,051,878	11,737,708	-	3,914,172

(단위: 백만원)						
금융부채	인식된 금융부채 총액	상계되는 인식된 금융자산 총액	재무상태표에 표시되는 금융부채 총액	재무상태표에서 상계되지 않은 관련 금액		순액
				금융상품	제공한 현금당보	
파생상품부채(주1)	1,588,725	-	1,588,725	6,205,671	-	508,168
기타금융부채(주1)	5,145,114	-	5,145,114	-	-	-
환매조건부매도(차입부채)(주2)	368,912	-	368,912	368,912	-	-
매도유가증권	10,181	-	10,181	10,181	-	-
미지급내국환차무(주3)	27,024,454	24,896,522	2,127,932	2,127,932	-	-
증권미지급금 등(주4)	575	523	52	47	-	5
합 계	34,113,941	24,897,045	9,218,896	8,710,723	-	508,173

- (주1) 당행의 장외 파생상품 중 일부는 ISDA (International Swaps and Derivatives Association) 일괄상계약정에 따라 거래가 이루어지고 있습니다. 동 약정에 의하면, 거래상대방의 부도와 같은 신용사건 발생시 해당 거래상대방과의 모든 파생상품 거래는 해지되며, 해지 시점에서 거래 당사자들이 각 거래별로 지급받거나 지급받아야 할 금액을 서로 상계하여 단일의 금액을 일방이 다른 거래상대방에게 지급하게 됩니다.
- (주2) 환매조건부 매매거래 및 유가증권 대차거래 등도 ISDA일괄상계약정과 유사한 상계약정의 적용을 받고 있습니다.
- (주3) 은행간의 내국환거래에 따른 채권 및 채무를 처리하는 계정으로 법적 상계권리를 보유하고 순액으로 결제하고 있으므로 재무상태표에 순액으로 표시하고 있습니다.
- (주4) 장내에서 거래되는 상장주식의 결제에 따른 채권 및 채무를 처리하는 계정으로 법적 상계권리를 보유하고 순액으로 결제하고 있으므로 재무상태표에 순액으로 표시하고 있습니다. 당기말 금액의 경우 중앙청산소 제도에 의한 장외파생상품의 장내 결제에 따른 관련 채권과 채무의 상계금액이 포함되어 있습니다.

#### 4. 유의적인 회계추정 및 판단

당행은 재무제표를 작성함에 있어 미래에 대한 추정 및 가정에 대한 판단을 하고 있습니다. 이러한 추정 및 판단은 지속적으로 평가되며, 과거 경험 및 현재의 상황에서 합리적으로 예측가능한 미래의 사건과 같은 다른 요소들을 고려하여 이루어집니다. 이렇게 산출된 회계추정치는 실제 발생 결과와 일치하지 않을 수 있습니다. 보고기간 말 현재 계상된 자산과 부채의 장부금액을 중요하게 변동시킬 수 있는 유의적인 위험을 포함하고 있는 회계추정 및 가정에 대한 판단은 다음과 같습니다.

##### (1) 법인세

정상적인 영업과정에서 최종세금가액의 결정을 불확실하게 하는 여러 종류의 거래와 계산방식이 존재합니다. 당행은 보고기간 말 현재까지의 영업활동의 결과로 미래에 부담할 것으로 예상되는 법인세효과를 최선의 추정과정을 거쳐 당기법인세 및 이연법인세로 인식하였습니다. 하지만 실제 미래 최종 법인세부담액은 인식한 관련 자산·부채와 일치하지 않을 수 있으며, 이러한 차이는 최종 법인세효과가 확정된 시점의 당기법인세 및 이연법인세 자산·부채에 영향을 줄 수 있습니다.

##### (2) 금융상품의 공정가치

활성시장에서 거래되지 않는 금융상품(예: 장외파생상품)의 공정가치는 평가기법을 사용하여 결정하고 있습니다. 당행은 보고기간 종료일 현재 주요한 시장상황에 기초하여, 다양한 평가기법의 선택 및 가정에 대한 판단을 하고 있습니다. 당행은 정상거래시장에서 거래되지 않는 다양한 금융상품의 공정가치를 결정하기 위해 평가모형을 이용하는 경우 일반적인 가치평가모형부터 발전된 자체 평가모형까지 다양한 방법을 사용하며 이때 다양한 투입변수와 가정이 적용됩니다.

(3) 대손충당금, 지급보증충당부채 및 미사용약정충당부채

당행은 대출채권에 대해서 손상을 평가하여 대손충당금을 설정하고, 지급보증 및 미사용약정한도에 대해서는 충당부채를 설정합니다. 이러한 신용손실에 대한 충당금은 개별평가 대손충당금 추정을 위한 차주별 기대현금흐름의 추정과 집합평가 대손충당금 및 지급보증, 미사용약정충당부채 추정을 위해 사용된 모형의 가정과 변수들에 의해 결정됩니다.

(4) 확정급여부채

확정급여부채의 현재가치는 보험수리적 방식에 의해 결정되는 다양한 요소들에 따라 달라질 수 있습니다. 연금의 순원가(이익)를 결정하는 데 사용되는 가정은 할인율을 포함하고 있으며, 이러한 가정의 변동은 확정급여부채의 장부금액에 영향을 줄 것입니다.

당행은 반기별로 적합한 할인율을 결정하고 있습니다. 이러한 할인율은 확정급여부채의 정산 시 발생할 것으로 예상되는 미래의 추정 현금 유출액의 현재가치를 결정할 때 사용되어야 하는 이자율을 나타냅니다. 당행은 연금이 지급되는 통화로 표시되고 관련 연금부채의 기간과 유사한 만기를 가진 우량회사채 이자율을 고려하여 적절한 할인율을 결정하고 있습니다. 확정급여부채와 관련된 다른 주요한 가정들은 일부 현재의 시장 상황에 근거하고 있습니다.

(5) 매도가능지분증권의 손상

매도가능지분증권의 공정가치가 취득원가 이하로 유의적으로 또는 지속적으로 하락하는 경우는 손상이 발생하였다는 객관적인 증거에 해당합니다. 이에 따라, 당행은 취득원가 대비 30% 이상 공정가치의 하락을 "유의적인 하락"으로, 시장성 있는 지분증권의 시장가격이 취득원가 이하로 하락한 상태가 6개월 이상 지속되는 경우를 "지속적인 하락"으로 간주하고 있습니다.

5. 현금 및 예치금

(1) 현금 및 예치금의 종류별 내역

당기말과 전기말 현재 현금 및 예치금의 종류별 내역은 다음과 같습니다.

			(단위: 백만원)		
구 분		제185(당기)	제184(전기)		
현금		1,669,277	1,823,134		
원화예치금	지준예치금	2,718,354	7,794,542		
	기타금융기관예치금	3,754,828	1,850,250		
	소 계	6,473,182	9,644,792		
외화예치금	외화타절예치금	1,485,239	1,631,492		
	외화정기예치금	26,008	25,145		
	외화기타예치금	725	11,199		
	소 계	1,511,972	1,667,836		
대손충당금		(1,311)	(633)		
합 계		9,653,120	13,135,129		

(2) 사용제한 예치금

당기말과 전기말 현재 은행법 및 기타 관계법령 등에 따라 사용이 제한되어 있는 예치금 내역은 다음과 같습니다.

					(단위: 백만원)
구 분		제185(당기)	제184(전기)	근거 법령 등	
원화예치금	지준예치금	2,718,354	7,794,542	한국은행법 제56조	
	기타금융기관예치금	3,754,358	1,850,250	한국은행법 제28조 및 제70조	
	소 계	6,472,712	9,644,792		
외화예치금	외화타절예치금	849,959	1,477,059	한국은행법 등	
	외화정기예치금	18,128	17,580	뉴욕주 은행법 등	
	외화기타예치금	725	687	파생상품 관련	
	소 계	868,812	1,495,326		
합 계		7,341,524	11,140,118		

6. 단기매매금융자산

당기말과 전기말 현재 단기매매금융자산의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
구 분	제185(당기)	제184(전기)	
채무증권	국공채	335,899	582,538
	금융채	586,715	250,225
	회사채	86,663	40,332
	매입어음	4,095,573	3,139,887
	CMA자산	2,319,312	1,881,859
	소 계	7,424,162	5,894,841
지분증권	주식	556	6,427
	수익증권	1,604,878	700,277
	소 계	1,605,434	706,704
금/은예치금		247,845	149,220
합 계		9,277,441	6,750,765

7. 파생상품

(1) 미결제약정 계약금액

당기말과 전기말 현재 보유중인 파생상품의 미결제약정 계약금액 내역은 다음과 같습니다.

			(단위: 백만원)	
구 분			제185(당기)	제184(전기)
외환 파생상품	장외파생상품	통화선도	82,235,651	47,310,574
		통화스왑	27,268,230	19,384,776
		통화옵션	1,205,825	2,420,036
		소 계	110,709,706	69,115,386
	장내파생상품	통화선물	70,093	67,976
합 계			110,779,799	69,183,362
이자율 파생상품	장외파생상품	이자율스왑	32,967,139	38,832,908
		이자율옵션	700,000	1,266,000
		소 계	33,667,139	40,098,908
	장내파생상품	이자율선물	346,947	600,539
		이자율스왑(주)	22,141,755	14,573,000
		소 계	22,488,702	15,173,539
합 계			56,155,841	55,272,447
주식관련 파생상품	장외파생상품	주식스왑	6,509	13,871
		주식옵션	563,454	397,786
		소 계	569,963	411,657
	장내파생상품	주식선물	2,080	18,394
합 계			572,043	430,051
상품관련 파생상품	장외파생상품	상품스왑 및 선도	193,066	258,621
		상품옵션	539	-
	합 계			193,605
위험회피 파생상품	공정가치위험회피	이자율스왑	7,491,505	6,874,755
총 계			175,192,793	132,019,236

(주) 중앙청산소에서 결제되는 파생상품의 미결제약정 금액입니다.

(2) 공정가치

당기말과 전기말 현재 보유중인 파생상품의 공정가치는 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)						
구분			제185(당)기		제184(전)기	
			자산	부채	자산	부채
외환 파생상품	장외파생상품	통화선도	1,581,537	1,413,883	722,191	505,281
		통화스왑	705,350	754,387	395,764	534,129
		통화옵션	11,860	9,422	17,713	10,652
	합계		2,298,747	2,177,692	1,135,668	1,050,062
이자율 파생상품	장외파생상품	이자율스왑	250,500	247,648	405,730	371,981
		이자율옵션	7,154	5,133	9,951	11,931
	합계		257,654	252,781	415,681	383,912
주식관련 파생상품	장외파생상품	주식스왑	44	19	4	109
		주식옵션	3,317	4,065	3,882	2,540
	합계		3,361	4,084	3,886	2,649
상품관련 파생상품	장외파생상품	상품스왑 및 선도	715	12,971	2	9,147
		상품옵션	21	21	-	-
	합계		736	12,992	2	9,147
위험회피 파생상품	공정가치 위험회피	이자율스왑	15,185	333,651	52,722	123,561
총계			2,575,883	2,781,200	1,607,959	1,569,331

(3) 파생상품 평가손익

당기와 전기 중 파생상품의 평가손익은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)						
구 분			제185(당)기		제184(전)기	
			평가이익	평가손실	평가이익	평가손실
외환 파생상품	장외파생상품	통화선도	1,298,826	1,405,274	654,382	490,578
		통화스왑	561,504	536,947	355,696	487,159
		통화옵션	14,383	4,761	16,928	4,775
	합 계		1,874,713	1,946,982	1,027,006	982,512
이자율 파생상품	장외파생상품	이자율스왑	125,386	119,727	139,716	146,737
		이자율옵션	997	1,618	3,834	3,776
	합 계		126,383	121,345	143,550	150,513
주식관련 파생상품	장외파생상품	주식스왑	90	-	8	81
		주식옵션	755	2,099	1,289	904
	합 계		845	2,099	1,297	985
상품관련 파생상품	장외파생상품	상품스왑 및 선도	715	12,971	2	9,147
		상품옵션	5	4	-	-
	합 계		720	12,975	2	9,147
위험회피 파생상품	공정가치 위험회피	이자율스왑	15,897	256,069	18,515	139,175
총 계			2,018,358	2,339,470	1,190,370	1,282,332

(4) 위험회피목적 관련 손익

당기와 전기 중 공정가치 위험회피목적 관련 손익은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당)기	제184(전)기
위험회피대상	237,112	139,737
위험회피수단	(247,598)	(141,138)
합 계	(10,486)	(1,401)

(5) 해외사업장 순투자의 위험회피

해외사업장순투자 중 일부에 대해 위험회피회계를 적용하였으며, 당기와 전기 중 위험회피수단별 해외사업환산손익에 반영된 금액은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당)기	제184(전)기
외화차입부채	(13,845)	-

8. 대출채권

(1) 대출채권의 고객별 구성 내역

당기말과 전기말 현재 대출금의 고객별 구성내역은 다음과 같습니다.

구 분	제185(당)기	제184(전)기
가계대출	93,629,743	88,085,947
기업대출	107,064,233	105,950,060
공공 및 기타자금대출	2,092,423	2,129,768
은행간 자금 대출	4,733,065	4,181,274
대출채권 총계	207,519,464	200,347,049
이연대출부대비용	377,974	343,801
총당금 차감전 대출채권 총계	207,897,438	200,690,850
총당금	(1,263,962)	(1,301,942)
총당금 차감후 대출채권 총계	206,633,476	199,388,908

(2) 대손충당금 변동내역

당기와 전기 중 예치금과 대출채권 및 기타자산에 대한 대손충당금 변동내역은 다음과 같습니다.

<제185(당)기>

구 분	예치금	대출채권			기타자산	합 계
		가계대출	기업대출	기타		
기 초	633	219,664	1,067,730	14,548	41,213	1,343,788
준입(환입)액	678	125,340	529,768	(795)	(16,404)	638,587
상각액	-	(119,244)	(638,671)	(558)	(582)	(759,055)
할인차금 상각	-	-	(24,167)	-	-	(24,167)
대출채권 매각	-	(2,731)	(37,693)	(96)	-	(40,519)
상각채권 회수	-	31,379	108,153	44	1,348	140,924
기 타(주)	-	-	(8,710)	-	(215)	(8,925)
기 말	1,311	254,408	996,410	13,144	25,360	1,290,633

(주) 기타 변동액은 채권조정, 출자전환, 환율변동 등으로 인한 금액입니다.

<제184(전)기>

(단위: 백만원)						
구분	예치금	대출채권			기타자산	합계
		가계대출	기업대출	기타		
기 초	1,034	208,866	1,148,000	15,738	61,519	1,435,157
전입(환입)액	(401)	104,444	489,881	703	(2,639)	591,988
상각액	-	(113,622)	(559,413)	(66)	(293)	(673,394)
할인차금 상각	-	-	(26,168)	-	-	(26,168)
대출채권 매각	-	(3,878)	(51,381)	(1,911)	-	(57,170)
상각채권 회수	-	23,854	61,446	84	409	85,783
기 타(주)	-	-	5,365	-	(17,783)	(12,418)
기 말	633	219,664	1,067,730	14,548	41,213	1,343,788

(주) 기타 변동액은 채권조정, 출자전환, 환율변동 등으로 인한 금액입니다.

(3) 이연대출부대비용

당기와 전기 중 이연대출부대비용의 변동내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구분	제185(당)기	제184(전)기
기 초	343,801	269,128
증 가	218,020	234,469
감 소	(183,847)	(159,796)
기 말	377,974	343,801

9. 매도가능금융자산과 만기보유금융자산

(1) 매도가능금융자산과 만기보유금융자산 현황

당기말과 전기말 현재 당행이 보유하고 있는 매도가능금융자산 및 만기보유금융자산의 내역은 다음과 같습니다.

			(단위: 백만원)	
구 분		제185(당기)	제184(전기)	
<b>매도가능금융자산</b>				
채무증권	국공채	2,963,987	2,352,475	
	금융채	14,461,791	12,816,603	
	회사채	6,387,257	5,970,622	
	소 계	23,813,035	21,139,700	
지분증권(주)	주식	969,674	1,243,787	
	출자금	243,280	298,380	
	수익증권	1,449,611	1,220,764	
	기타	27,192	36,331	
	소 계	2,689,757	2,799,262	
매도가능금융자산 합계		26,502,792	23,938,962	
<b>만기보유금융자산</b>				
채무증권	국공채	6,634,424	5,638,796	
	금융채	680,918	351,420	
	회사채	3,781,915	3,743,335	
만기보유금융자산 합계		11,097,257	9,733,551	

(주) 활성시장에서 공시되는 시장가격이 없고 공정가치를 신뢰성있게 측정할 수 없어 원가로 측정된 지분증권의 장부금액은 당기말과 전기말 현재 각각 24,481백만원, 23,902백만원입니다.

(2) 매도가능금융자산 처분손익

당기와 전기 중 매도가능금융자산 처분시 인식한 손익은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당기)	제184(전기)
매도가능금융자산처분이익	424,407	447,445
매도가능금융자산처분손실	(15,911)	(29,553)
합 계	408,496	417,892

10. 유형자산

(1) 당기말과 전기말 현재 유형자산의 내역은 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

(단위: 백만원)			
구 분	취득가액	감가상각누계액	장부금액
토지	1,183,352	-	1,183,352
건물	808,803	(190,711)	618,092
기타의유형자산	1,269,792	(1,095,030)	174,762
합 계	3,261,947	(1,285,741)	1,976,206

<제184(전기)>

(단위: 백만원)			
구 분	취득가액	감가상각누계액	장부금액
토지	1,124,936	-	1,124,936
건물	788,701	(163,362)	625,339
기타의유형자산	1,256,986	(1,065,467)	191,519
합 계	3,170,623	(1,228,829)	1,941,794

(2) 당기와 전기 중 유형자산의 과목별 장부금액의 변동내역은 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

(단위: 백만원)				
구분	토지	건물	기타의유형자산	합계
기초	1,124,936	625,339	191,519	1,941,794
취득(주1,2)	-	17,001	67,713	84,714
처분(주1,3)	(472)	(217)	(1,942)	(2,631)
감가상각비	-	(28,475)	(82,949)	(111,424)
투자부동산으로부터 대체	58,478	4,443	-	62,921
매각예정비유동자산으로부터 대체	410	1	-	411
환율변동	-	-	421	421
기말	1,183,352	618,092	174,762	1,976,206

(주1) 건설중인자산에서 본계정으로 대체된 금액 15,405백만원이 포함되어 있습니다.

(주2) 신규 취득자산의 복구충당부채 전입액 1,803백만원이 포함되어 있습니다.

(주3) 제각손실 924백만원이 포함되어 있습니다.

<제184(전기)>

(단위: 백만원)				
구분	토지	건물	기타의유형자산	합계
기초	1,154,431	644,782	204,371	2,003,584
취득(주1,2)	1	15,021	78,538	93,560
처분(주1,3)	(934)	(874)	(3,808)	(5,616)
감가상각비	-	(31,236)	(89,309)	(120,545)
투자부동산으로 대체	(28,562)	(2,354)	-	(30,916)
환율변동	-	-	1,727	1,727
기말	1,124,936	625,339	191,519	1,941,794

(주1) 건설중인자산에서 본계정으로 대체된 금액 3,255백만원이 포함되어 있습니다.

(주2) 신규 취득자산의 복구충당부채 전입액 3,456백만원이 포함되어 있습니다.

(주3) 제각손실 543백만원이 포함되어 있습니다.

(3) 보험가입 내역

당기말 현재 현금, 유형자산, 투자부동산 및 매각예정비유동자산에 대한 보험가입내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
보험종류	부보자산	부보액	부보처
금융기관종합보험	현금	20,000	삼성화재 외 9개사
재산종합보험	업무용동산, 부동산 등	981,688	삼성화재 외 6개사
도난보험	현금 및 유가증권	60,000	삼성화재 외 9개사
임원배상책임보험	-	50,000	메리츠화재 외 8개사
가스사고배상책임보험	-	500	메리츠화재
개인정보보호배상책임보험	-	10,000	현대해상 외 2개사
전자금융거래배상책임보험	-	2,000	동부화재 외 2개사
합 계		1,124,188	

(주) 상기 보험 외에 차량보험, 임직원에 대한 의료보험, 자산재해보험 및 종업원재해 보장보험 등에 가입하고 있습니다.

11. 무형자산

당기와 전기 중 무형자산의 장부금액의 변동내역은 다음과 같습니다.

<제185(당)기>

(단위: 백만원)					
구 분	소프트웨어	개발비	회원권	기타의무형자산	합 계
기 초	60,681	29,607	46,204	104,407	240,899
취 득(주1)	14,152	13,716	788	4,791	33,447
처분	-	-	(1,344)	(67)	(1,411)
손상차손(주2)	-	-	(98)	-	(98)
상 각(주3)	(23,965)	(11,161)	-	(45,808)	(80,934)
환율변동	(4)	-	8	-	4
기 말	50,864	32,162	45,558	63,323	191,907

(주1) 기타의무형자산 취득액 중 2,825백만원은 미지급금으로 처리되었습니다.

(주2) 회원권은 골프 및 콘도 회원권으로 내용연수를 특정기간으로 한정할 수 없는 무형자산으로, 보고 기간말 현재 거래소 시가가 장부금액보다 낮은 경우 손상차손을 인식하였습니다.

(주3) 기타의무형자산 상각비 중 45,006백만원은 기타영업비용에 포함되어 있습니다.

<제184(전)기>

(단위: 백만원)					
구 분	소프트웨어	개발비	회원권	기타의무형자산	합 계
기 초	36,977	13,372	46,642	63,721	160,712
취 득(주1)	46,252	26,324	374	81,276	154,226
처분 및 제각(주2)	-	-	(827)	(101)	(928)
상 각(주3)	(22,548)	(10,089)	-	(40,489)	(73,126)
환율변동	-	-	15	-	15
기 말	60,681	29,607	46,204	104,407	240,899

(주1) 기타의무형자산 취득액 중 59,810백만원은 미지급금으로 처리 되었습니다.

(주2) 제각금액이 101백만원 포함되어 있습니다.

(주3) 기타의무형자산 상각비 중 39,554백만원은 기타영업비용에 포함되어 있습니다.

12. 관계기업 등에 대한 투자자산

당기말과 전기말 현재 관계기업 및 종속기업에 대한 투자자산의 현황은 다음과 같습니다.

피투자회사	소재지	결산월	업종	(단위: 백만원)			
				지분율(%)		장부금액	
				제185(당)기	제184(전)기	제185(당)기	제184(전)기
신한아주금융유한공사	홍콩	12월말	도매금융	99.99	99.99	161,293	161,293
아메리카신한은행	미국	12월말	은행업	100.00	100.00	136,419	136,419
유럽신한은행	독일	12월말	은행업	100.00	100.00	78,606	78,606
신한크메르은행	캄보디아	12월말	은행업	90.00	90.00	22,212	22,212
신한카자흐스탄은행	카자흐스탄	12월말	은행업	100.00	100.00	77,913	77,913
캐나다신한은행	캐나다	12월말	은행업	100.00	100.00	79,895	52,701
신한중국유한공사	중국	12월말	은행업	100.00	100.00	355,443	355,443
SB은행	일본	3월말	은행업	100.00	100.00	359,745	359,745
신한베트남은행	베트남	12월말	은행업	100.00	100.00	330,654	330,654
멕시코신한은행	멕시코	12월말	은행업	99.99	99.99	46,496	46,496
신한인도네시아은행(주6)	인도네시아	12월말	은행업	96.96	97.78	254,077	123,691
PT Centralama Nasional Bank(주6)	인도네시아	12월말	은행업	-	75.00	-	30,782
신한은행-대성 문화콘텐츠 투자조합	대한민국	12월말	기타	71.43	-	2,000	-
아주캐피탈(주1)	대한민국	12월말	활부금융업 등	12.65	12.65	29,654	29,654
비엠티파리바카디프생명보험(주2)	대한민국	12월말	보험업	14.99	14.99	42,203	42,203
연합자산관리(주3)	대한민국	12월말	기타	-	17.50	-	84,792
포항테크노파크2PP(주1)	대한민국	12월말	기타	14.90	14.90	2,684	2,684
대원토스(주4)	대한민국	12월말	기타	36.33	36.33	-	-
인화(주4)	대한민국	12월말	도매업	15.38	15.38	-	-
대기건설(주4)	대한민국	12월말	건설업	27.45	27.45	-	-
극동건설(주4)	대한민국	12월말	건설업	-	14.30	-	-
연용시스템(주4)	대한민국	12월말	기타	21.77	21.77	-	-
두두로지텍(주4)	대한민국	12월말	기타	27.96	27.96	-	-
네오윌릭스 기술가치평가 투자조합	대한민국	12월말	투자업	33.33	33.33	7,668	2,000
이큐피글로벌에너지인프라 사모투자전문회사	대한민국	12월말	투자업	22.64	22.64	279	174
재영솔루션(주4,5)	대한민국	12월말	기타	10.45	11.90	2,014	2,014
파트너스 제4호 Growth 투자조합	대한민국	12월말	투자업	25.00	25.00	4,880	1,600
피에스에이 제1호 펀더크 사모투자합자회사	대한민국	12월말	투자업	20.00	20.00	2,000	2,000
KTB 뉴레이크 의료글로벌 진출 사모투자전문회사	대한민국	12월말	투자업	20.00	-	922	-
재왕인더스트리(주4)	대한민국	12월말	기타	25.90	-	-	-
티그리스아우름신기술사업 투자조합1호	대한민국	12월말	투자업	27.27	-	1,500	-
나무와이아이(주4)	대한민국	12월말	기타	23.72	-	-	-
총영(주4)	대한민국	12월말	기타	18.94	-	-	-
시안텍(주4)	대한민국	12월말	기타	19.25	-	-	-
대광반도체(주4)	대한민국	12월말	제조업	20.94	-	-	-
브랜빌(주4)	대한민국	12월말	제조업	15.53	-	-	-
합 계						1,998,897	1,943,478

- (주1) 아주케피탈, 포항비크노피크2PPV의 지분율은 15% 이하이나, 피투자회사의 재무정책과 영업정책에 관한 의사결정에 참여할 수 있는 임원의 선임에 유의적인 영향력을 행사할 수 있으므로 관계기업에 대한 투자자산으로 계상하였습니다.
- (주2) 비엔피프리바카드프생명보험의 지분율은 15% 이하이나, 중요한 영업상의 거래를 통하여 유의적인 영향력을 행사할 수 있으므로 관계기업에 대한 투자자산으로 계상하였습니다.
- (주3) 당기 중 연합자산관리는 유의적인 영향력을 상실하여 관계기업에 대한 투자자산에서 매도가능금융자산으로 재분류되었으며, 극동건설은 권역의 유상감지되었습니다.
- (주4) 회생절차 과정에서 출자권한을 통해 주식을 취득하였으며, 회생절차 중에는 의결권을 행사할 수 없으므로 매도가능금융자산으로 분류하고 공경가치로 평가하였지만, 전기 이전 및 당기 중 회생절차가 종료됨에 따라 정상적인 의결권 행사가 가능하여, 매도가능금융자산에서 관계기업투자자산으로 재분류하였습니다.
- (주5) 과영솔투력의 지분율은 15% 이하이나, 피투자회사 주식매리컬의회 주권기관으로서 유의적인 영향력을 행사할 수 있으므로 관계기업에 대한 투자자산으로 계상하였습니다.
- (주6) 2018년 12월 8일 기준, PT Centrifama Nasional Bank와 신한인도네시아은행이 합병하여 신한인도네시아은행이 되었습니다.

### 13. 투자부동산

(1) 당기말과 전기말 현재 투자부동산의 내역은 다음과 같습니다.

#### <제185(당기)>

(단위: 백만원)			
구 분	취득가액	감가상각누계액	장부금액
토지	506,638	-	506,638
건물	229,026	(60,706)	168,320
합 계	735,664	(60,706)	674,958

#### <제184(전기)>

(단위: 백만원)			
구 분	취득가액	감가상각누계액	장부금액
토지	572,069	-	572,069
건물	230,920	(37,587)	193,333
합 계	802,989	(37,587)	765,402

(2) 투자부동산 공정가치

당기말과 전기말 현재 투자부동산의 공정가치 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당)기	제184(전)기
투자부동산	773,511	835,956

(주) 투자부동산의 공정가치 평가는 독립적인 제3자와의 거래조건에 따른 최근 시장거래가격과 시장에서 관측가능하지 않은 유의한 투입변수가 반영되므로 공정가치 서열수준에 있어 수준3에 해당합니다.

(3) 투자부동산으로부터 발생한 손익

당기와 전기 중 투자부동산과 관련하여 포괄손익계산서에 계상된 관련 손익의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당)기	제184(전)기
투자부동산에서 발생한 임대수익	23,174	24,386
임대수익이 발생한 투자부동산과 직접 관련된 영업비용	5,798	5,770

14. 기타자산

당기말과 전기말 현재 기타자산의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당)기	제184(전)기
미수금	3,897,543	5,352,934
미회수내국환채권	6,066,285	2,307,584
예치보증금	1,027,207	1,077,594
미수수익	734,284	676,836
선급비용	55,132	67,573
가지급금	49,407	47,846
잡자산	75,656	91,566
기타	863	34
현재가치할인차금	(32,539)	(41,830)
대손충당금	(25,360)	(41,213)
합 계	11,848,478	9,538,924

15. 담보제공자산 및 담보로 제공받은 자산

(1) 당기말과 전기말 현재 담보로 제공한 자산의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
구분	제185(당)기	제184(전)기	담보제공사유
유가증권(주1)	매도가능금융자산	1,275,088	576,180 차입부채, 한은결제이행담보, 차입유가증권 등
	만기보유금융자산	7,709,792	5,920,287 차입부채, 한은결제이행담보, 대고객PP 등
	소 계	8,984,880	6,496,467
유형자산(주2)	6,525	3,905	근저당권 설정 등
합 계	8,991,405	6,500,372	

(주1) 제3자가 당행의 채무불이행과 무관하게 매도 및 재담보 제공 가능한 담보의 장부금액은 당기말과 전기말 현재 각각 995,788백만원, 605,955백만원입니다.

(주2) 근저당권 설정 등 관련 채권최고액 기준입니다.

(2) 채무불이행과 무관하게 매도 및 재담보 제공 가능한 담보 보유물

당기말과 전기말 현재 채무불이행과 무관하게 매도 및 재담보 제공 가능한 담보의 공정가치는 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)				
구분	제185(당)기		제184(전)기	
	담보물의 공정가치	매도하거나 담보로 다시 제공한 담보물의 공정가치	담보물의 공정가치	매도하거나 담보로 다시 제공한 담보물의 공정가치
유가증권	3,749,791	-	5,285,701	-

16. 당기손익인식지정금융부채

(1) 당기말과 전기말 현재 당기손익인식지정금융부채의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구분(주1)	제185(당기)	제184(전기)
예수부채(주2,3)	6,282	13,509

(주1) 당행은 내재파생상품이 포함된 복합금융상품 중 기업회계기준서 제1039호 '금융상품: 인식과 측정'에 따라 당기손익인식금융부채의 지정이 허용되는 복합계약을 당기손익인식금융부채로 지정하였습니다.

(주2) 당기손익인식지정금융부채의 장부금액은 당행이 채택한 옵션평가모형에 근거하여 산정하였습니다.

(주3) 당기 및 전기 중 당행의 신용위험 변동으로 인하여 손익으로 인식된 금액은 없습니다.

(2) 당기말과 전기말 현재 당기손익인식지정금융부채의 계약조건에 따른 원금에 대한 만기상환금액과 장부금액 및 두 금액의 차이는 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

(단위: 백만원)			
구분	계약상 만기상환금액	장부금액	차이금액
예수부채	6,247	6,282	(35)

<제184(전기)>

(단위: 백만원)			
구분	계약상 만기상환금액	장부금액	차이금액
예수부채	13,607	13,509	98

(3) 당기 및 전기 중 당기손익인식지정금융부채 관련 순손익의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)						
구분	제185(당기)			제184(전기)		
	평가손익	거래손익	합계	평가손익	거래손익	합계
예수부채	(97)	(109)	(206)	95	(111)	(16)

17. 예수부채

당기말과 전기말 현재 예수부채의 종류별 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
과 목		제185(당)기	제184(전)기
요구불예수부채	원화예수부채	81,681,202	74,325,052
	외화예수부채	6,976,088	5,165,375
	소 계	88,657,290	79,490,427
기한부예수부채	원화예수부채	106,255,873	106,417,821
	외화예수부채	3,259,940	2,979,715
	공정가치위험회피이익	(38,368)	(17,954)
	소 계	109,477,445	109,379,582
양도성예금증서		5,827,823	4,072,668
발행어음예수부채		4,581,276	3,018,551
어음관리계좌수탁금		2,473,048	2,280,816
기 타		26,799	30,088
합 계		211,043,681	198,272,132

18. 단기매매금융부채

당기말과 전기말 현재 단기매매금융부채의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)				
과 목	제185(당)기		제184(전)기	
	이자율(%)	금액	이자율(%)	금액
매도유가증권	-	-	2.25	10,161
금/은예수부채	-	485,995	-	453,605
합 계		485,995		463,766

19. 차입부채

당기말과 전기말 현재 차입부채의 종류별 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)							
과 목	제185(당기)			제184(전기)			
	이자율(%)		금액	이자율(%)		금액	
	최고	최저		최고	최저		
콜머니	원화	1.23	1.08	394,400	-	-	-
	외화	10.00	0.35	198,419	7.00	0.32	92,458
	소 계			592,819			92,458
매출어음		1.52	0.65	12,427	2.00	0.75	24,245
환매조건부 채권매도	원화	0.80	0.80	8,152	1.58	1.00	8,110
	외화	6.29	1.42	371,885	3.49	0.69	358,802
	소 계			380,037			366,912
원화차입부채	한은차입부채	0.75	0.50	2,621,345	0.75	0.50	1,963,472
	기타차입부채	4.30	0.00	4,513,672	4.35	0.00	3,707,921
	소 계			7,135,017			5,671,393
외화차입부채	외화타점차	0.00	0.00	154,136	0.76	0.00	202,567
	은행차입부채	3.95	0.24	3,524,819	7.95	0.27	4,099,635
	전대차입부채	1.72	0.00	470,176	1.18	0.47	571,829
	기타차입부채	1.18	1.02	1,676,170	0.80	0.53	1,775,933
	소 계			5,825,301			6,649,964
외화수탁금		-	-	-	0.10	0.10	71,810
이연부대비용				(723)			(1,684)
합 계				13,944,878			12,875,098

20. 사채

당기말과 전기말 현재 사채의 종류별 내역은 다음과 같습니다.

구분		(단위: 백만원)					
		제185(당)기			제184(전)기		
		이자율(%)		금액	이자율(%)		금액
최고	최저	최고	최저				
원화사채	일반사채	8.00	0.00	13,250,890	8.00	0.00	12,540,890
	후순위사채	4.60	2.20	3,501,066	5.10	2.72	3,500,808
	공정가치위험회피손익			(147,208)			(52,579)
	할인발행차금			(19,599)			(31,794)
	소 계			16,585,139			15,957,325
외화사채	일반사채	4.38	0.03	3,176,276	4.38	0.32	3,912,108
	후순위사채	3.88	3.88	1,189,068	-	-	-
	공정가치위험회피손익			(9,977)			25,983
	할인발행차금			(17,180)			(10,805)
	소 계			4,338,187			3,927,286
합 계				20,923,326			19,884,611

21. 확정급여부채

당행은 종업원의 용역제공기간을 기초로 확정급여연금제도를 운영하고 있습니다. 또한, 당행은 사외적립자산을 신탁사, 펀드사 및 기타 유사기업에 신탁하고 있습니다.

(1) 확정급여제도 자산 및 부채

당기말과 전기말 현재 확정급여제도하의 자산 및 부채의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당기)	제184(전기)
확정급여채무의 현재가치	1,255,783	1,169,860
사외적립자산의 공정가치	(1,208,370)	(1,018,940)
재무상태표 계상 부채	47,413	150,920

(2) 확정급여채무의 현재가치

당기와 전기 중 확정급여채무의 변동내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당기)	제184(전기)
기 초	1,169,860	998,367
당기근무원가	134,724	119,116
이자비용	37,435	38,023
재측정요소(주)	(39,685)	58,822
급여지급액	(48,943)	(46,699)
기타	2,392	2,231
기 말	1,255,783	1,169,860

(주) 당기말 현재 재측정요소는 인구통계적가정 변동에 따른 보험수리적손실 4,634백만원과 재무적가정 변동에 따른 보험수리적이익 8,347백만원, 그리고 경험조정으로 인한 이익 35,972백만원으로 구성되어 있습니다.

(3) 사외적립자산의 공정가치

당기와 전기 중 사외적립자산 공정가치의 변동내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구분	제185(당기)	제184(전기)
기 초	1,018,940	753,648
이자수익	34,033	30,297
재측정요소	(14,376)	(13,269)
사용자의 기여금	210,300	290,800
급여지급액	(40,527)	(42,536)
기 말	1,208,370	1,018,940

(4) 사외적립자산 구성내역

당기말과 전기말 현재 사외적립자산의 구성내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구분	제185(당기)	제184(전기)
정기예금	1,180,374	977,723
기타	27,996	41,217
합 계	1,208,370	1,018,940

(5) 보험수리적 가정

당기말과 전기말 현재 보험수리적 가정의 내역은 다음과 같습니다.

구분	제185(당기)	제184(전기)	비 고
할인율(기대수익률)	3.40%	3.34%	AA0 회사채 수익률
미래인출상승률	2.92%+승급률	2.92%+승급률	과거 5개년의 평균

(6) 디감도 분석

당기말과 전기말 현재 주요 가정의 변동에 따른 확정급여채무의 현재가치는 다음과 같습니다.

1) 할인율

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당기)	제184(전기)
적용된 가정에 따른 현재가치	1,255,783	1,169,860
1%Point 증가	1,134,862	1,053,886
1%Point 감소	1,396,998	1,305,730

2) 임금인상률

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당기)	제184(전기)
적용된 가정에 따른 현재가치	1,255,783	1,169,860
1%Point 증가	1,396,401	1,305,064
1%Point 감소	1,133,127	1,052,292

(7) 당기말과 전기말 평가 시 적용한 확정급여채무의 가중평균 만기는 각각 13.16년과 13.24년입니다.

22. 충당부채

(1) 당기와 전기 중 충당부채 변동내역은 다음과 같습니다.

<제185(담)기>

(단위: 백만원)						
구분	복구충당부채	소송	미사용한도	지급보증	기타	합계
기 초	33,934	19,576	80,911	110,939	60,728	306,088
전입(환입)액	2,256	(7,897)	(6,672)	11,090	39,410	38,187
사용액	(1,894)	-	-	-	(15,394)	(17,288)
환출변동	-	365	797	974	(339)	1,797
기타(주)	1,802	-	-	(9,944)	-	(8,142)
기 말	36,098	12,044	75,036	113,059	84,405	320,642

<제184(전)기>

(단위: 백만원)						
구분	복구충당부채	소송	미사용한도	지급보증	기타	합계
기 초	29,096	22,230	71,888	132,810	54,712	310,736
전입(환입)액	1,968	(3,382)	8,808	(21,978)	18,399	3,805
사용액	(530)	-	-	-	(12,235)	(12,765)
환출변동	-	728	215	3,729	(148)	4,524
기타(주)	3,410	-	-	(3,622)	-	(212)
기 말	33,934	19,576	80,911	110,939	60,728	306,088

(주) 최초 공정가치로 평가하는 금융보증계약의 신규 발생과 만기 도래에 따른 변동 및 할인율 변동에 따른 효과 등입니다.

(2) 복구충당부채

복구충당부채는 보고기간말 현재 임차점포의 미래 예상 복구비용의 최선의 추정치를 적절한 할인율로 할인한 현재가치입니다. 동 복구비용의 지출은 개별 임차점포의 임차계약 종료시점에 발생할 예정이며, 이를 합리적으로 추정하기 위하여 과거 10개년 간 임차계약이 종료된 임차점포의 평균존속기간을 이용하였습니다. 또한 예상 복구비용을 추정하기 위하여 과거 3개년간 복구공사가 발생한 점포의 실제 복구공사비용의 평균값 및 3개년간 평균 인플레이션율을 사용하였습니다.

23. 기타부채

당기말과 전기말 현재 기타부채의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
과 목	제185(당)기	제184(전)기
미지급금	3,839,083	5,302,779
신탁계정미지급금	3,658,239	3,201,184
미지급비용	1,885,548	1,862,044
대리점	799,462	1,311,763
미지급내국환채무	922,259	2,127,932
대행업무수입금	494,251	533,968
수입보증금	187,464	200,194
미지급외국환채무	224,767	204,937
가수금	35,210	43,909
선수수익	53,197	49,429
제세예수금	57,724	67,201
미지급배당금	1,309	9,231
잡부채	24,642	79,982
현재가치할인차금	(2,404)	(2,651)
합 계	12,180,751	14,991,902

24. 자본

(1) 자본 내역

당기말과 전기말 현재 자본 내역은 다음과 같습니다.

		(단위: 백만원)	
과 목		제185(당기)	제184(전기)
자본금	보통주자본금	7,928,078	7,928,078
신종자본증권		469,393	801,298
자본잉여금	주식발행초과금	398,080	398,080
자본조정	주식선택권	(887)	1,363
	기타자본조정	(59,777)	(30,703)
	소 계	(60,664)	(29,340)
기타포괄손익누계액	매도가능금융자산평가손익	160,710	377,338
	해외사업환산손익	(34,299)	(37,156)
	확정급여제도의 재측정요소	(281,202)	(300,385)
	소 계	(154,791)	39,797
이익잉여금	법정적립금(주1)	1,497,370	1,375,731
	임의적립금(주2)	9,064,867	8,719,986
	기타준비금(주3)	87,029	75,215
	미처분이익잉여금(주4)	1,731,384	1,159,235
	소 계	12,380,650	11,330,167
합 계		20,960,746	20,468,080

- (주1) 은행법 제40조 규정에 의하여 자본금의 총액에 달할 때까지 결산순이익금을 배당할 때마다 그 순이익금의 10% 이상을 매 결산기에 적립한 이익준비금으로, 결손보전과 자본전입의 경우를 제외하고는 이를 사용할 수 없습니다.
- (주2) 당기말 1,706,925백만원의 대손준비금과 365,898백만원의 재평가적립금이 포함되어 있으며, 전기말 1,738,249백만원의 대손준비금과 365,898백만원의 재평가적립금이 포함되어 있습니다.
- (주3) 해외지점에서 현지 법규에 의하여 적립한 준비금으로 현지 소재지점의 결손보전을 위해서만 사용할 수 있습니다.
- (주4) 당기말 대손준비금 전입예정액 47,848백만원과 전기말 대손준비금 환입예정액 31,324백만원이 포함되어 있습니다.

(2) 당기말과 전기말 현재 자본금에 관련된 사항은 다음과 같습니다.

과 목	제185(당기)	제184(전기)
발행할 주식의 총수	2,000,000,000주	2,000,000,000주
1주의 금액	5,000원	5,000원
발행한 주식의 수	1,585,615,506주	1,585,615,506주

(3) 신종자본증권

당기말과 전기말 현재 자본으로 분류한 신종자본증권은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)					
구 분	발행일	만기일	금 액		이자율(%)
			제185(당기)	제184(전기)	
외화신종 자본증권	2006-09-20	2036-09-20	-	94,761	6.82
	2006-09-20	2036-09-20	-	237,144	6.82
원화신종 자본증권	2008-03-21	2038-03-21	119,878	119,878	7.30
	2008-03-25	2038-03-25	49,947	49,947	7.30
	2013-06-07	2043-06-07	299,568	299,568	4.63
합 계			469,393	801,298	
신종자본증권 배당금			45,691	57,158	
가중평균이자율(%)			6.45	6.72	

상기 신종자본증권은 발행일 이후 5년 또는 10년이 지난 후 당행이 조기상환할 수 있으며, 만기일에 동일한 조건으로 만기를 연장할 수 있습니다. 또한, 보통주에 대한 배당을 지급하지 않기로 결의한 경우 약정이자를 지급하지 아니합니다.

(4) 기타포괄손익누계액

당기와 전기 중 기타포괄손익누계액의 재분류조정을 포함한 변동내역은 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

(단위: 백만원)				
구분	매도가능금융자산 평가손익	해외사업 환산손익	확정급여제도 재측정요소	합계
기초금액	377,338	(37,156)	(300,385)	39,797
당기 발생 차이:				
공정가치평가로 인한 증감	(48,740)	-	-	(48,740)
당기손익에 포함된 차익의 재분류조정:				
자산손상으로 인한 증감	26,259	-	-	26,259
처분으로 인한 증감	(265,357)	-	-	(265,357)
위험회피회계적용효과	2,299	(13,845)	-	(11,556)
환율차이로 인한 효과	(240)	17,614	-	17,374
확정급여제도의 재측정	-	-	25,309	25,309
법인세효과	69,161	(912)	(6,126)	62,123
기말금액	160,710	(34,299)	(281,202)	(154,791)

<제184(전기)>

(단위: 백만원)				
구분	매도가능금융자산 평가손익	해외사업 환산손익	확정급여제도 재측정요소	합계
기초금액	613,564	(43,366)	(245,740)	324,458
당기 발생 차이:				
공정가치평가로 인한 증감	75,862	-	-	75,862
당기손익에 포함된 차익의 재분류조정:				
자산손상으로 인한 증감	9,567	-	-	9,567
처분으로 인한 증감	(398,794)	-	-	(398,794)
위험회피회계적용효과	(864)	-	-	(864)
환율차이로 인한 효과	2,585	8,193	-	10,778
확정급여제도의 재측정	-	-	(72,091)	(72,091)
법인세효과	75,418	(1,983)	17,446	90,881
기말금액	377,338	(37,156)	(300,385)	39,797

(5) 이익잉여금처분계산서

당기와 전기의 이익잉여금 처분계산서는 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
내 용	제185(당)기	제184(전기)
	처분예정일: 2017년 3월 22일	처분확정일: 2016년 3월 23일
I. 미처분이익잉여금	1,731,381	1,159,233
1. 전기이월미처분이익잉여금	-	-
2. 신종자본증권이자	(45,691)	(57,158)
3. 당기순이익	1,777,072	1,216,391
II. 임의적립금등의이입액	6,723,196	6,378,313
1. 임의적립금	6,723,196	6,346,989
2. 대손준비금	-	31,324
합 계	8,454,577	7,537,546
III. 이익잉여금처분액	8,454,577	7,537,546
1. 이익준비금	177,707	121,639
2. 대손준비금	47,848	-
3. 기타준비금	12,652	11,814
4. 임의적립금	7,676,276	6,723,196
5. 신종자본증권상환손실	60,094	30,897
6. 배당금	480,000	650,000
보통주 현금배당 주당: 당기 302.72원(6.05%) 전기 409.94원(8.20%)		
IV. 차기이월미처분이익잉여금	-	-

(6) 배당금

당기와 전기의 보통주 배당금 계산내역은 다음과 같습니다.

(단위: 주, 원)		
구 분	제185(당기)	제184(전기)
배당받을 주식수	1,585,615,506	1,585,615,506
주당액면금액	5,000	5,000
액면배당률	6.05%	8.20%
주당배당금액	302.72	409.94

(7) 배당성향

당기와 전기의 보통주에 대한 배당성향 계산내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당기)	제184(전기)
보통주 배당금	480,000	650,000
당기순이익	1,777,072	1,216,391
배당성향 (당기순이익 기준)	27.01%	53.44%
대손준비금 반영후 조정이익	1,729,224	1,247,715
배당성향 (대손준비금 반영후 조정이익 기준)	27.76%	52.10%

25. 대손준비금

대손준비금은 은행업감독규정 제29조 제1항 및 제2항에 따라 산출 및 공시되는 사항입니다.

(1) 대손준비금 잔액

당기말과 전기말 현재 대손준비금 잔액은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당기)	제184(전기)
대손준비금 적립액	1,706,925	1,738,249
대손준비금 전입(환입) 예정액	47,848	(31,324)
대손준비금 잔액	1,754,773	1,706,925

(2) 대손준비금 전입액 및 대손준비금 반영 후 조정이익 등

당기와 전기 중 대손준비금 전입액 및 대손준비금 반영후 조정이익 등은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당기)	제184(전기)
대손준비금 전입(환입)액	47,848	(31,324)
대손준비금 반영후 조정이익	1,729,224	1,247,715
대손준비금 반영후 주당 조정이익(원)	1,062	751

26. 순이자손익

(1) 당기와 전기 중 이자수익의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당)기	제184(전)기
현금및예치금이자	37,134	55,582
단기매매금융자산이자	111,606	87,607
매도가능금융자산이자	406,714	443,945
만기보유금융자산이자	305,441	308,455
대출채권이자	6,174,761	6,182,005
기타이자	72,115	74,826
합 계	7,107,771	7,152,420
손상된 금융자산에서 발생한 이자수익	24,167	26,168

(2) 당기와 전기 중 이자비용의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당)기	제184(전)기
예수부채이자	2,315,780	2,593,689
차입부채이자	154,132	162,726
사채이자	466,231	470,827
기타이자	42,487	53,930
합 계	2,978,630	3,281,172

27. 순수수수료손익

당기와 전기 중 순수료 수익·비용의 내역은 다음과 같습니다.

		(단위: 백만원)	
구 분		제185(당)기	제184(전)기
수수료수익	여신취급수수료	69,885	68,476
	전자금융수수료	136,031	135,868
	중개수수료	90,547	110,701
	업무대행수수료	309,420	321,794
	투자금융수수료	57,400	72,501
	외환수입수수료	93,957	88,287
	신탁보수수료	122,068	90,827
	수입보증료	57,784	53,544
	기타수수료	79,919	67,740
	합 계	1,017,011	1,009,738
수수료비용	여신관련수수료	29,649	40,820
	브랜드사용수수료	32,883	49,905
	서비스관련수수료	14,573	12,787
	매매및중개관련수수료	7,469	6,938
	외환지급수수료	6,390	18,156
	기타수수료	63,687	52,571
	합 계	154,651	181,177

28. 배당수익

당기와 전기 중 배당수익의 내역은 다음과 같습니다.

		(단위: 백만원)	
구 분	제185(당)기	제184(전)기	
단기매매금융자산	28,012	34,670	
매도가능금융자산	93,227	147,547	
합 계	121,239	182,217	

29. 단기매매금융상품 관련 손익

당기와 전기 중 단기매매금융상품 관련 손익의 내역은 다음과 같습니다.

			(단위: 백만원)		
구 분			제185(당기)	제184(전기)	
단기매매 금융상품	채무증권	평가이익	1,124	1,069	
		처분이익	12,227	4,050	
		평가손실	(4,203)	(767)	
		처분손실	(15,359)	(1,293)	
		소 계	(6,211)	3,059	
	지분증권	평가이익	620	639	
		처분이익	23,819	31,139	
		평가손실	(1,504)	(249)	
		처분손실	(16,809)	(29,727)	
		소 계	6,126	1,802	
	금/은행관련	평가이익	18,336	24,366	
		처분이익	4,397	2,183	
		평가손실	(61,321)	(5,238)	
		처분손실	(1,808)	(379)	
		소 계	(40,396)	20,932	
합 계			(40,481)	25,793	
매매목적 파생금융상품	외환관련	평가 및 거래이익	4,890,905	2,796,534	
		평가 및 거래손실	(4,880,753)	(2,674,230)	
		소 계	10,152	122,304	
	이자율관련	평가 및 거래이익	501,368	464,198	
		평가 및 거래손실	(483,620)	(463,563)	
		소 계	17,748	635	
	주식관련	평가 및 거래이익	50,601	9,728	
		평가 및 거래손실	(7,912)	(10,931)	
		소 계	42,689	(1,203)	
	상품관련	평가 및 거래이익	55,694	10,593	
		평가 및 거래손실	(25,319)	(42,921)	
		소 계	30,375	(32,328)	
	합 계			100,964	89,408
	총 계			60,483	115,201

30. 금융상품자산 손상차손

당기와 전기 중 금융상품자산 손상차손의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
구 분		제185(당기)	제184(전기)
금융상품 손상차손	대출채권 및 기타금융자산	638,586	591,988
	매도가능금융자산	83,260	206,570
합 계		721,846	798,558

31. 일반관리비

당기와 전기 중 일반관리비의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
구 분		제185(당기)	제184(전기)
종업원급여	장·단기 종업원급여	1,436,689	1,389,600
	확정급여형 퇴직급여	138,126	126,842
	확정기여형 퇴직급여	40	-
	해고급여	94,478	59,549
	소 계	1,669,333	1,575,991
감가상각비 및 기타상각비	감가상각비	111,424	120,545
	무형자산상각비	35,928	33,573
	소 계	147,352	154,118
기타일반관리비	복리후생비	96,993	93,306
	임차료	225,357	231,747
	유역비	208,780	211,543
	제세공과금	68,472	68,154
	광고선전비	54,243	55,136
	전산운영비	54,006	62,205
	기타의 관리비	152,037	152,869
	소 계	859,888	874,960
합 계		2,676,573	2,605,069

32. 주식기준보상

(1) 당기말 현재 주식기준보상약정은 다음과 같습니다.

구분	4차발행분	5차발행분	6차발행분	7차발행분
① 권리부여일	2005.3.30	2006.03.21	2007.03.20	2008.03.19
② 행사가격(주1)	28,006원	38,829원	54,560원	49,053원
③ 부여수량	1,903,200주	2,157,600주	715,500주	332,850주
④ 행사가능기간	권리부여일로부터 3년이후 4년간	권리부여일로부터 3년이후 4년간	권리부여일로부터 3년이후 4년간	권리부여일로부터 3년이후 4년간
⑤ 수량증감내역				
기초	93,426주	101,963주	50,513주	26,233주
소멸	-	-	-	-
당기말(주2)	93,426주	101,963주	50,513주	26,233주
⑥ 공평가치(주3)	17,244원	6,421원	-	-

(주1) 당기말 현재 주식매수선택권은 모두 가득되었으며, 잔여수량 272,135개의 가중평균행사가격은 39,019원입니다.

(주2) 당기말 현재 4,5,6,7차 부여분의 잔여 수량은 행사가 보류되어 있습니다.

(주3) 당기말 현재 보류분에 대한 공평가치는 신한금융지주 주식 증가와 행사가격의 차이인 내재가치로 평가하였습니다.

(2) 주식결제형 주식기준보상약정

① 당기말 현재 성과연동형 주식기준보상 내용은 다음과 같습니다.

구분	내용
유형	주식결제형(주)
부여기간(약정용역기간)	2013년까지 부여분 : 2010년 4월 1일 이후 선임 및 승진시(부여일로부터 3년간) 2014년부터 부여분 : 2014년 1월 1일 이후 선임 및 승진시(부여일로부터 1년간)
성과조건	2013년까지 상대주가연동(33.4%) 및 4년간 경영지표연동(66.6%) 2014년부터 상대주가연동(20.0%) 및 4년간 경영지표연동(80.0%)

(주) 신한금융지주 주식을 부여하며, 지급약정에 따라 당행이 신한금융지주회사에 지급해야 할 금액을 부채로 인식하고 주식결제형에 따라 인식할 보상원가와의 차이는 자본에 반영하고 있습니다.

② 부여 수량 및 부여시점의 공정가치는 다음과 같습니다.

(단위: 주, 원)			
부여일	부여수량	부여시점 공정가치 (주1)	추정수량 (주2)
2010-04-01	306,400	45,150	10,471
2012-02-08	30,900	46,650	122
2012-10-15	4,100	37,200	357
2013-01-01	183,100	40,050	105,325
2013-03-21	4,400	37,750	1,156
2013-05-27	14,500	40,250	9,681
2013-08-01	4,400	41,250	2,931
2014-01-01	109,800	47,300	101,819
2014-02-08	5,400	44,300	4,439
2014-04-01	4,800	47,000	3,282
2014-10-15	2,400	47,150	449
2015-01-01	159,000	44,500	138,695
2015-03-18	16,800	42,650	11,736
2015-04-10	2,300	40,350	1,484
2015-05-01	2,300	46,000	1,370
2015-05-22	5,300	42,800	2,893
2015-05-27	2,300	40,200	1,229
2015-08-01	2,300	41,900	872
2015-08-24	2,300	40,250	724
2016-01-01	221,900	39,000	145,295
합 계	1,084,700		544,330

(주1) 부여시점의 신한금융지주 주식 종가를 단위당 공정가치로 산정하였으며, 당기말 현재 신한금융지주 주식의 공정가치는 45,250원입니다.

(주2) 최초 부여 시점의 부여수량에 약정유역기간 중 재임일수에 해당하는 기준수량을 기준으로 상대주가 상승률에 따른 부여수량을 조정하고(2013년까지 33.4% 2014년부터 20.0%), 경영성과달성률에 따른 부여수량을 조정하여(2013년까지 66.6% 2014년부터 80.0%) 운영기간 종료 후 획득수량을 확정합니다.

(3) 당기와 전기 중 발생한 보상원가의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당기)	제184(전기)
당기 인식한 총보상원가	17,577	7,009

(4) 당기말과 전기말 현재 주식기준보상 관련 미지급비용의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당기)	제184(전기)
미지급비용	27,942	22,116

33. 기타영업손익

당기와 전기 중 기타영업손익의 내역은 다음과 같습니다.

			(단위: 백만원)	
구 분			제185(당)기	제184(전)기
기타영업수익				
자산처분관련	대출채권처분이익		24,661	63,310
	상각채권처분이익		3,044	34,476
	소 계		27,705	97,786
기타영업수익	위험회피대상관련이익		270,662	176,204
	위험회피수단관련이익		33,753	36,053
	총당부채환입액		21,349	2,669
	기타		10,144	9,689
	소 계		335,908	224,615
기타영업수익 합계			363,613	322,401
기타영업비용				
자산처분관련	대출채권처분손실		10,783	8,974
기타영업비용	위험회피대상관련손실		33,550	36,467
	위험회피수단관련손실		281,350	177,191
	총당부채전입액		59,536	6,474
	기금출연금		244,442	267,417
	예금보험료		264,267	239,726
	기타		115,323	122,288
	소 계		998,468	849,563
기타영업비용 합계			1,009,251	858,537
기타영업손익			(645,638)	(536,136)

34. 영업외손익

당기와 전기 중 영업외손익의 내역은 다음과 같습니다.

			(단위: 백만원)		
구 분		제185(당)기	제184(전)기		
<b>영업외수익</b>					
자산처분관련	유형자산처분이익	109	1,074		
	무형자산처분이익	51	2		
	투자부동산처분이익	1,438	1,402		
	매각예정자산처분이익	821	705		
	소 계	2,419	3,183		
관계기업등 투자자산관련	배당수익	30,449	1,849		
기타영업외수익	투자부동산임대수익	23,174	24,386		
	기타	77,981	71,244		
	소 계	101,155	95,630		
영업외수익 합계		134,023	100,662		
<b>영업외비용</b>					
자산처분관련	유형자산처분손실	235	15		
	무형자산처분손실	149	9		
	투자부동산처분손실	248	13		
	매각예정자산처분손실	-	29		
	소 계	632	66		
관계기업등 투자자산관련	손상차손	-	9,092		
기타영업외비용	투자부동산감가상각비	15,349	9,316		
	기부금	13,209	18,475		
	유형자산손상차손	5	-		
	무형자산손상차손	98	-		
	기타	20,675	29,922		
	소 계	49,336	57,713		
영업외비용합계		49,968	66,871		
영업외손익		84,055	33,791		

35. 영업수익

당기와 전기 중 영업수익의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당기)	제184(전기)
이자수익	7,107,771	7,152,420
수수료수익	1,017,011	1,009,738
배당수익	121,239	182,217
단기매매금융상품관련이익	5,559,091	3,344,499
당기손익인식지정금융상품관련이익	2	106
외환거래이익	1,246,679	1,487,761
매도가능금융자산처분이익	424,407	447,445
기타영업수익	363,613	322,401
합 계	15,839,813	13,946,587

36. 법인세비용 및 이연법인세

(1) 법인세비용 구성내역

당기와 전기 중 법인세비용 산출내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당기)	제184(전기)
당기 법인세 부담액	321,990	223,518
일시적차이로 인한 이연법인세 변동액	(20,637)	19,582
결손금 총당할 이연법인세 변동액	(336,468)	-
자본에 직접 반영된 법인세	62,868	90,439
법인세 비용	27,753	333,539

(2) 법인세비용 차이내역

당기와 전기 중 법인세비용차감전순이익과 법인세비용간의 관계는 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당기)	제184(전기)
법인세비용차감전순이익	1,804,825	1,549,930
적용세율	24.20%	24.20%
적용세율에 따른 법인세	436,306	374,621
비과세수익	(26,128)	(15,329)
비공제비용	11,619	4,161
연결납세	(25,216)	(23,692)
결손금 총당할 이연법인세 변동액	(336,468)	-
법인세환급액	(22,316)	(9,795)
기타	(10,044)	3,573
법인세비용	27,753	333,539
유효세율(주)	1.54%	21.52%

(주) 당행은 전기까지 기한이 경과된 세무상 결손금에 대하여 실현가능성이 없다고 판단하여 이연법인세자산을 인식하지 아니하였으나, 당기 중 과세관청의 환급결정과 유권해석, 회사의 영업실적과 향후 소멸시효 완성 예금에 대한 추징 등을 종합적으로 고려하여 자산성이 있다고 판단하고 이연법인세 자산(법인세수익)을 인식하였습니다.

(3) 일시적차이와 이연법인세

당기와 전기 중 일시적차이 및 이연법인세자산(부채)의 증감내역은 다음과 같습니다.

<제185(당)기>

(단위: 백만원)					
구분	기초잔액	감소	증가	기말잔액	이연법인세자산 (부채)
미수수익	(302,693)	(303,333)	(306,896)	(306,255)	(74,114)
미수금	(45,943)	(45,943)	(36,089)	(36,089)	(8,734)
당기매대금융자산	(118,674)	(118,674)	(56,271)	(56,271)	(13,618)
매도가능금융자산	1,203,150	603,220	180,537	780,457	188,873
관계기업등에대한투자자산	69,728	9,092	-	60,636	14,674
이연대출부대수익(비용)	(344,697)	(344,697)	(378,833)	(378,833)	(91,702)
유형자산평가 및 손상 등	(466,967)	(6,855)	18,133	(441,979)	(106,959)
파생상품자산(부채)	(124,143)	(81,536)	(94,494)	(137,101)	(33,178)
예수부채	63,688	(3,783)	7,581	75,052	18,162
미지급비용	220,725	208,717	250,166	262,174	63,446
확정급여부채	1,041,404	40,526	132,423	1,133,301	274,259
사외적립자산	(1,018,940)	(40,526)	(10,184)	(988,598)	(239,241)
기타충당부채	195,148	195,148	207,583	207,583	50,235
지급보증충당부채	110,939	110,939	113,059	113,059	27,360
압축기장충당부채	(179,485)	(47)	-	(179,438)	(45,977)
일시상각충당부채	(2,386)	(232)	-	(2,154)	(521)
간주배당	5,513	-	-	5,513	1,334
매도가능금융자산평가손익	(497,807)	(497,807)	(212,018)	(212,018)	(51,308)
미지급기부금	44,134	44,134	35,717	35,717	8,644
대손충당금 및 대손금	205,874	11	(3,813)	202,050	48,896
주식보상비용 관련 조정액	1,230	1,152	2,266	2,344	567
의제배당	3,913	21	134	4,028	974
기타	34,930	52,885	59,155	41,190	9,963
소계	98,641	(177,578)	(91,943)	184,276	42,035
<b>&lt;이월결손금&gt;</b>					
시효완성예금 결손금 총당	-	30,806	1,421,168	1,390,362	336,468
<b>&lt;이연법인세자산 및 부채로 인식하지 않은 일시적 차이&gt;</b>					
관계기업등에대한투자자산	(22,219)	-	-	(22,219)	(5,377)
합계	120,860	(146,772)	1,329,225	1,596,857	383,880

<제184(전)기>

(단위: 백만원)					
구분	기초잔액	감소	증가	기말잔액	이연법인세자산 (부채)
미수수익	(301,655)	(296,411)	(287,449)	(302,693)	(73,251)
미수금	(58,567)	(58,567)	(45,943)	(45,943)	(11,118)
단기매대금융자산	(85,244)	(102,817)	(136,247)	(118,674)	(28,719)
매도가능금융자산	1,151,183	235,815	287,782	1,203,150	291,162
관계기업등에대한투자자산	60,636	-	9,092	69,728	16,874
이연대출부대수익(비용)	(263,296)	(263,296)	(344,697)	(344,697)	(83,417)
유형자산평가 및 하락 등	(449,814)	18,411	1,258	(466,967)	(113,006)
파생상품자산(부채)	(79,968)	(8,996)	(53,171)	(124,143)	(30,042)
예수부채	120,696	49,698	(7,310)	63,688	15,412
미지급비용	279,153	279,139	220,711	220,725	53,415
확정급여부채	868,023	42,536	215,917	1,041,404	252,020
사외적립자산	(753,648)	(42,536)	(307,828)	(1,018,940)	(246,583)
기타총당부채	177,926	177,926	195,148	195,148	47,226
지급보증총당부채	132,810	132,810	110,939	110,939	26,847
압축기장총당부채	(181,031)	(1,546)	-	(179,485)	(45,989)
일시상각총당부채	(2,618)	(232)	-	(2,386)	(578)
간주배당	5,513	-	-	5,513	1,334
매도가능금융자산평가손익	(809,451)	(809,451)	(497,807)	(497,807)	(120,469)
미지급기부금	49,300	49,300	44,134	44,134	10,680
대손충당금 및 대손금	183,601	19	22,292	205,874	49,822
주식보상비용 관련 조정액	2,196	2,118	1,152	1,230	298
의제배당	3,909	3	7	3,913	947
기타	134,027	157,899	58,802	34,930	8,533
소계	183,681	(428,178)	(513,218)	98,641	21,398
<이연법인세자산 및 부채로 인식하지 않은 일시적 차이>					
관계기업등에대한투자자산	(22,219)	-	-	(22,219)	(5,377)
합계	205,900	(428,178)	(513,218)	120,860	26,775

(4) 자본에 직접 가감하는 항목과 관련된 법인세

당기와 전기 중 자본에 직접 추가되거나 차감된 법인세 내역은 다음과 같습니다.

<제185(당)기>

(단위: 백만원)					
구분	기말		기초		법인세효과 증감
	세전 금액	법인세효과	세전 금액	법인세효과	
매도가능금융자산평가손익	212,018	(51,308)	497,807	(120,469)	69,161
해외사업환산손익	(45,248)	10,860	(49,017)	11,862	(912)
재측정요소	(370,977)	89,775	(396,286)	95,901	(6,126)
기타자본조정	(1,170)	284	1,904	(461)	745
합계	(205,377)	49,701	54,408	(13,167)	62,888

<제184(전)기>

(단위: 백만원)					
구분	기말		기초		법인세효과 증감
	세전 금액	법인세효과	세전 금액	법인세효과	
매도가능금융자산평가손익	497,807	(120,469)	809,451	(185,887)	75,418
해외사업환산손익	(49,017)	11,862	(57,210)	13,845	(1,983)
재측정요소	(396,286)	95,901	(324,196)	78,455	17,446
기타자본조정	1,904	(461)	77	(19)	(442)
합계	54,408	(13,167)	428,122	(103,606)	90,439

(5) 당기법인세

당기말과 전기말 현재 당기법인세자산 및 당기법인세부채 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
구분		제185(당)기	제184(전)기
당기법인세자산	선급법인세 등	2,159	2,616
당기법인세부채	법인세미지급금 (연결납세부담액)	122,867	22,476
	미지급법인세	1,795	236
	합계	124,662	22,712

(6) 총액 기준 법인세 내역

당기말과 전기말 현재 상계 전 총액 기준에 의한 이연법인세자산과 이연법인세부채 및 당기법인세자산과 당기법인세부채의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당기)	제184(전기)
이연법인세자산	1,794,867	1,248,198
이연법인세부채	1,410,987	1,221,423
당기법인세자산	173,043	246,530
당기법인세부채	295,546	266,626

37. 주당이익

당기와 전기의 주당이익의 계산내역은 다음과 같습니다.

(1) 주당이익

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당기)	제184(전기)
당기순이익	1,777,072	1,216,391
신종자본증권 배당	(45,691)	(57,158)
보통주에 귀속되는 이익	1,731,381	1,159,233
가중평균보통유통주식수(주)	1,585,615,506	1,585,615,506
기본 및 희석주당순이익(원)	1,092	731

당행은 희석성 잠재적 보통주를 보유하고 있지 아니하고 주식선택권은 희석효과가 없으므로, 당기 및 전기의 희석주당이익은 기본주당이익과 일치합니다.

(2) 가중평균유통보통주식수

(단위: 주, 일)				
구 분	기간	주식수	가중치	가중평균유통보통주식수
제185(당기)	2016.01.01~2016.12.31	1,585,615,506	366/366	1,585,615,506
제184(전기)	2015.01.01~2015.12.31	1,585,615,506	365/365	1,585,615,506

38. 우발 및 약정사항

(1) 당기말과 전기말 현재 지급보증 및 약정의 종류별 금액은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
구 분		제185(당기)	제184(전기)
지급보증	확정지급보증	9,645,729	10,444,107
	미확정지급보증	2,874,477	2,952,694
	합 계	12,520,206	13,396,801
약정	원화대출약정	53,270,304	52,964,080
	외화대출약정	17,449,285	18,761,942
	ABS 및 ABCP 매입약정	4,145,805	3,830,837
	기타	1,335,759	1,296,769
	합 계	76,201,153	76,853,628
배서어음	달보배서어음	32,187	29,549
	무달보배서어음	8,822,654	7,542,862
	합 계	8,854,841	7,572,411
환매권부대출채권매각	원화	1,387	1,387

(2) 지급보증충당부채

당기말과 전기말 현재 지급보증충당부채 설정 대상 및 지급보증충당부채 설정비율은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당기)	제184(전기)
확정지급보증	9,645,729	10,444,107
미확정지급보증	2,874,477	2,952,694
ABS 및 ABCP 매입약정	4,145,805	3,830,837
배서어음	32,187	29,549
설정대상지급보증총액	16,698,198	17,257,187
지급보증충당부채	113,059	110,939
충당부채 설정비율(%)	0.68	0.64

(3) 계류중인 소송사건

당기말 현재 당행과 관련하여 계류중인 피소사건은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)				
사건명	건수	소가	사건내용	소송 현황
물품대금 청구의 소	1	43,761	위조 지급보증서를 바탕으로 물품을 납입하고, 물품대금을 수령하지 못하자 해당 지급보증서를 근거로 미회수 물품대금에 대해 당행에게 지급보증책임의 이행을 청구함.	1심 일부 패소금액에 대해 전액 지급하였으며 2심에서 일부 승소하여 패소비를 감축(패소비를 70%→60% 차액회수), 3심 진행중임.
주식반환 등 청구의 소	1	31,000	원고와 PEF 사이에 체결한 메디슨 주식의 매매계약은 해제 내지 취소되었으며 이와 일체를 이루는 당사자간 옵션계약, 수정옵션계약 역시 무효가 되었으므로 주식매매계약의 무효를 근거로 메디슨 주식의 반환 등을 요구하고 있음.	1차~4차 변론기일동안 원고와 피고간 준비서면 제출을 통한 공방이 있었으며, 피고측은 2차 변론기일 이후에는 원고측이 요청하고 법원에서 승인한 자료제출 외에 별도의 준비서면 제출 없음.
Lehman Brothers Special Financing Inc(LBSF)	1	12,085	리먼브러더스가 파산 후 당행 및 투자자들에 게 CDO투자금을 반환해주었는데 이는 미국 파산법에 배치되는 것으로 잘못 지급된 것이므로 반환할 것을 청구함.	리먼측과 중재절차를 진행하여 합의금을 지급하기 위해 준비중인 상태에서, 당행 포항 피고들이 1심에서 승소하여 합의금 지급 거절한 상태임. 향후 중재의 효과과 2심의 승소가능성 등을 감안하여 대응토록 할 예정임.
기 타	121	166,743	손해배상 등 다수	
합 계	124	253,589		

당행은 당기말 현재 1심에서 패소가 결정된 소송건 등에 대해 12,044백만원을 소송충당부채로 계상하였으며, 충당부채로 계상된 소송 이외의 관여 소송결과는 재무제표에 중대한 영향을 미치지 않을 것으로 예측되고 있으나, 향후 소송의 결과에 따라 추가적인 손실이 발생할 수도 있습니다.

(4) 원본 또는 이익보전 신탁

당기말과 전기말 현재 원금보전 및 원리금보전약정이 있는 신탁의 장부금액은 다음과 같습니다.

			(단위: 백만원)	
구 분		제185(당기)	제184(전기)	
원금보전약정	시가평가형	2,545,515	2,351,370	
	장부가평가형	1,660,841	1,638,806	
	소 계	4,206,356	3,990,176	
원리금보전약정	장부가평가형	1,695	1,674	
합 계		4,208,051	3,991,850	
금전신탁원본		3,841,990	3,649,394	
미지급신탁이익		366,061	342,456	

당기 이후 약정신탁의 운용결과에 따라 손실이 추가로 발생할 수 있습니다. 당기말과 전기말 현재 약정신탁의 운용결과에 따라 추가로 부담해야할 금액은 없습니다.

(5) 운용리스 만기구조

당기말과 전기말 현재 해지불능리스계약에 따라 지급해야 할 미래 최소리스료 약정 금액은 다음과 같습니다.

<제185(당기)>

					(단위: 백만원)
구 분	1년이내	1년초과 5년이내	5년초과	합 계	
최소리스료	153,107	130,963	1,376	285,436	

<제184(전기)>

					(단위: 백만원)
구 분	1년이내	1년초과 5년이내	5년초과	합 계	
최소리스료	168,240	181,635	989	350,864	

39. 현금흐름표에 대한 주석

(1) 당기말과 전기말 현재 현금 및 현금성자산의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당)기	제184(전)기
현금	1,669,277	1,823,134
지준예치금	2,718,354	7,794,542
기타예치금	5,265,489	3,517,453
재무상태표상 현금및예치금	9,653,120	13,135,129
사용제한예치금	(7,340,215)	(11,139,551)
취득 당시 만기일이 3개월 초과 예치금	(7,880)	(7,565)
합 계	2,305,025	1,988,013

(2) 당기와 전기 중 현금의 유입과 유출이 없는 거래의 주요 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당)기	제184(전)기
신종자본증권 미지급배당금	1,309	9,231
대출채권 출자전환	32,229	34,218
무형자산 미지급금	2,825	59,810

40. 특수관계자 거래

(1) 특수관계자 채권·채무

당기말과 전기말 현재 특수관계자 간의 중요한 채권·채무의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
특수관계자	계정과목	제185(당기)	제184(전기)
1) 연결대상종속기업			
신한아주금융유한공사	현금및예치금	145	188
	대출채권	231,406	128,920
	대손충당금	(44)	(28)
	기타자산	138	55
	예수부채	175	-
유림신한은행	현금및예치금	3,917	1,071
	대출채권	174,024	111,340
	대손충당금	(520)	(395)
	기타자산	266	148
	예수부채	9	6
	차입부채	52,117	67,386
신한크메르은행	현금및예치금	907	41
	대출채권	42,298	11,720
	대손충당금	(59)	(16)
	기타자산	85	17
신한카자흐스탄은행	현금및예치금	5,156	285
	대출채권	2,175	5,626
	대손충당금	(10)	(8)
	예수부채	7,332	6
캐나다신한은행	현금및예치금	168	-
	대출채권	94,399	83,248
	대손충당금	(276)	(242)
	기타자산	140	73
	예수부채	181	67
	차입부채	-	27,000
	현금및예치금	5,929	4
	대출채권	290,956	308,502
	대손충당금	(405)	(419)

(단위: 백만원)			
특수관계자	계정과목	제185(당기)	제184(전기)
신한은행중국유한공사	기타자산	589	276
	예수부채	836	60,876
	차입부채	22,420	13,127
	총당부채	94	97
SBJ은행	대출채권	302,125	130,410
	대손충당금	(224)	(97)
	기타자산	666	543
	예수부채	1,912	266,877
	차입부채	160,906	315,369
	총당부채	98	92
	기타부채	-	6,132
신한베트남은행	현금및예치금	83	-
	대출채권	42,442	196,896
	대손충당금	(17)	(198)
	기타자산	-	2,337
	예수부채	32	9
	총당부채	518	138
	기타부채	-	1,925
신한인도네시아은행	현금및예치금	7	-
	대출채권	12,085	-
	대손충당금	(2)	-
	기타자산	17	-
아메리카신한은행	기타자산	2	6
	기타부채	2	6
신탁	기타자산	4,064	1,733
	기타부채	214,952	234,503
구조화기업	단기매매금융자산	1,605,081	1,119,928
	파생상품자산	1,509	2,409
	대출채권	22,738	16,205
	대손충당금	(82)	(26)
	기타자산	12,807	16,604
	예수부채	64,095	6,259
	파생상품부채	2,077	7
	총당부채	15,186	17,143
	기타부채	-	16

(단위: 백만원)			
특수관계자	계정과목	제185(당기)	제184(전기)
수익증권	기타자산	-	1
	예수부채	-	7
<b>2) 당행의 지배기업</b>			
신한금융지주	기타자산	-	47
	예수부채	42	500,909
	기타부채	166,191	57,888
<b>3) 동일지배기업</b>			
신한카드	파생상품자산	4,365	10,452
	기타자산	2,097	2,039
	예수부채	86,658	88,779
	파생상품부채	119	-
	총당부채	48	48
	기타부채	19,881	20,130
신한금융투자	현금및예치금	725	-
	파생상품자산	53,546	9,676
	대출채권	-	9,426
	대손충당금	-	(83)
	기타자산	18,823	18,530
	예수부채	252,707	180,784
	파생상품부채	4,354	5,180
	총당부채	33	76
	기타부채	34,423	32,786
신한생명	파생상품자산	40,604	14,215
	기타자산	7	8
	예수부채	9,526	6,424
	파생상품부채	369	566
	총당부채	4	4
	기타부채	13,913	38,690
신한캐피탈	예수부채	457	573
	차입부채	13,000	-
	총당부채	10	10
	기타부채	9,670	1,299
제주은행	대출채권	2,903	4,282
	대손충당금	(1)	(2)
	기타자산	6	20

(단위: 백만원)			
특수관계자	계정과목	제185(당기)	제184(전기)
	예수부채	3,530	3,605
	기타부채	1,604	1,604
신한신용정보	예수부채	7,836	8,571
	기타부채	1,119	1,188
신한프라이빗에쿼티	대출채권	-	3,000
	대손충당금	-	(16)
	예수부채	12	65
	총당부채	-	8
신한비엔피파리바자산운용	예수부채	42,549	72,601
	기타부채	821	1,127
에스에이치씨매니지먼트	예수부채	-	100
	기타부채	-	2
신한데이터시스템	예수부채	3,940	3,069
	기타부채	6,658	4,148
신한저축은행	기타부채	8,987	-
신한아이타스	예수부채	20,296	16,200
	기타부채	42	69
<b>4) 관계기업 및 동일지배기업의 관계기업</b>			
아주캐피탈	단기매매금융자산	49,990	99,953
	대출채권	210,000	160,000
	대손충당금	(611)	(466)
	예수부채	692	1,061
	총당부채	73	55
비엔피파리바카드프생명보험	예수부채	353	644
	총당부채	1	1
연합자산관리(주1)	대출채권	-	23,100
	대손충당금	-	(31)
	예수부채	-	410
	총당부채	-	46
포항테크노파크2PFV	예수부채	14,658	14,662
극동건설(주1)	예수부채	-	5,388
	총당부채	-	15
비엔피파리바카드프손해보험	예수부채	13	12
드림하이투자조합3호	예수부채	1	4
에스에이치렌탈서비스	예수부채	-	219

(단위: 백만원)			
특수관계자	계정과목	제185(당기)	제184(전기)
에스피신기술사업투자조합1호	예수부채	-	283
마이다스동아스노우볼투자조합	예수부채	427	303
IBK신한창조경제 신기술사업투자조합	예수부채	1,751	1,463
이큐피글로벌에너지인프라사모투자전문회사	예수부채	1	3
재영솔루텍	대출채권	14,356	15,276
	대손충당금	(60)	(150)
	예수부채	7,638	15,261
	충당부채	7	15
파트너스 제4호 growth 투자조합	예수부채	2,160	2,704
크레디언헬스케어제2호사모투자합자회사	예수부채	7	-
스노우볼투자조합2호	예수부채	242	-
IBK신한창조경제신기술사업투자조합제2호	예수부채	179	-
피에스에이 제1호 핀테크 사모투자합자회사	예수부채	525	-
이음제상호사모투자합자회사	예수부채	80	-
(주)브랜빌	대출채권	15	-
	예수부채	28	-
5) 주요경영진			
	대출채권	936	1,497
	대손충당금	(1)	(1)
	충당부채	1	1

(주1) 당기 중 관계기업 및 동일지배기업의 관계기업에서 제외되었습니다.

(2) 특수관계자 수익·비용

당기와 전기 중 특수관계자 간의 중요한 거래내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
특수관계자	계정과목	제185(당)기	제184(전)기
1) 연결대상종속기업			
신한이주금융유한공사	이자수익	1,885	1,057
	대손상각비	(16)	13
유림신한은행	이자수익	1,572	1,148
	수수료수익	30	29
	대손상각비	(125)	(57)
신한크메르은행	이자수익	745	144
	수수료수익	54	17
	대손상각비	(43)	-
신한카자흐스탄은행	이자수익	25	25
	수수료수익	53	63
	대손상각비	(2)	-
캐나다신한은행	이자수익	1,334	823
	수수료수익	47	59
	대손상각비	(34)	(175)
신한은행중국유한공사	이자수익	2,800	2,467
	수수료수익	180	369
	기타의영업수익	3	663
	이자비용	(2,330)	-
	대손상각비	14	165
SBI은행	이자수익	1,939	850
	수수료수익	167	199
	이자비용	(1,326)	(5,230)
	파생상품관련손실	(84)	-
	대손상각비	(127)	25
	기타의영업비용	(6)	(78)
신한베트남은행	이자수익	902	1,578
	수수료수익	864	967
	기타의영업수익	-	109
	대손상각비	181	(144)
	기타의영업비용	(380)	-

(단위: 백만원)			
특수관계자	계정과목	제185(당)기	제184(전)기
신한인도네시아은행	이자수익	17	-
	대손상각비	(2)	-
아메리카신한은행	수수료수익	73	204
신택	수수료수익	23,513	19,294
	이자비용	(2,743)	(4,200)
구조화기업	이자수익	22,621	14,653
	수수료수익	10,850	5,444
	파생상품관련이익	4,371	3,024
	기타의영업수익	1	23
	이자비용	(41)	17
	파생상품관련손실	(4,603)	(813)
	대손상각비	(56)	37
	기타의영업비용	(1,647)	(389)
수익증권	수수료수익	-	17
<b>2) 당행의 지배기업</b>			
신한금융지주	기타의영업수익	2,011	2,054
	이자비용	(1,751)	(2,429)
	수수료비용	(29,893)	(45,368)
<b>3) 동일지배기업</b>			
신한카드	이자수익	417	199
	수수료수익	180,127	175,800
	파생상품관련이익	7,317	8,649
	기타의영업수익	1,726	1,930
	이자비용	(251)	(346)
	수수료비용	(325)	(317)
	파생상품관련손실	(5,986)	(2,490)
	기타의영업비용	(1,982)	(395)
신한금융투자	이자수익	796	1,382
	수수료수익	4,517	4,077
	파생상품관련이익	59,157	9,003
	기타의영업수익	4,431	3,692
	이자비용	(1,317)	(2,135)
	수수료비용	-	(12)
	파생상품관련손실	(13,564)	(7,630)
	대손상각비	83	(22)

(단위: 백만원)			
특수관계자	계정과목	제185(당)기	제184(전)기
	기타의영업비용	(1,171)	(824)
신한생명	이자수익	45	50
	수수료수익	6,688	9,939
	파생상품관련이익	45,570	22,643
	기타의영업수익	1,400	1,889
	이자비용	(315)	(828)
	파생상품관련손실	(9,531)	(3,766)
	기타의영업비용	(557)	(645)
신한캐피탈	이자수익	-	1
	파생상품관련이익	-	29
	기타의영업수익	302	899
	이자비용	(150)	(219)
	수수료비용	(14)	(2)
	기타의영업비용	-	(6)
제주은행	이자수익	43	41
	기타의영업수익	230	204
	이자비용	(33)	(30)
	대손상각비	1	1
	기타의영업비용	(11)	-
신한신용정보	수수료수익	2	2
	기타의영업수익	67	77
	이자비용	(126)	(190)
	수수료비용	(4,895)	(5,474)
신한프라이빗에쿼티	기타의영업수익	8	-
	이자비용	-	(3)
	대손상각비	16	3
	기타의영업비용	-	(3)
신한비엔피파리바자산운용	수수료수익	42	55
	기타의영업수익	52	53
	이자비용	(747)	(1,770)
	수수료비용	(2,243)	(2,579)
에스에이치씨매니지먼트	이자비용	-	(2)
신한데이터시스템	기타의영업수익	119	89
	이자비용	(142)	(141)
	기타의영업비용	(31,281)	(32,447)

(단위: 백만원)			
특수관계자	계정과목	제185(당)기	제184(전)기
신한저축은행	수수료수익	481	229
	기타의영업수익	116	61
	이자비용	(60)	-
신한아이타스	수수료수익	28	27
	기타의영업수익	49	55
	이자비용	(153)	(215)
	수수료비용	-	(8)
신한MPP명품펀드셀렉션증권 투자신탁	수수료수익	2	-
4) 관계기업 및 동일지배기업의 관계기업			
아주캐피탈	이자수익	7,332	6,440
	수수료수익	72	78
	기타의영업수익	-	23
	이자비용	(2)	(1)
	대손상각비	(146)	148
	기타의영업비용	(18)	-
비엔피파리바카디프생명보험	수수료수익	30	30
	기타의영업비용	(1)	-
연합자산관리(주1)	이자수익	-	4
	수수료수익	-	9
	기타의영업수익	-	4
	대손상각비	-	(31)
포항테크노파크2PPV	이자비용	(15)	(15)
극동건설(주1)	이자수익	-	26
	수수료수익	-	16
	이자비용	-	(35)
	수수료비용	-	(3)
	기타의영업비용	-	(15)
비엔피파리바카디프손해보험	수수료수익	2	2
드림하이투자조합3호	이자비용	-	(5)
에스에이치렌탈서비스	이자비용	-	(1)
마이다스동아스노우볼투자조합	이자비용	(4)	(3)
IBS신한청조경제 신기술사업투자조합	이자비용	(1)	(2)
	이자수익	671	616

(단위: 백만원)			
특수관계자	계정과목	제185(당기)	제184(전기)
재영솔루션	수수료수익	1	1
	기타의영업수익	7	-
	이자비용	(21)	(47)
	대손상각비	90	(150)
	기타의영업비용	-	(15)
파트너스 제4호 growth 투자조합	이자비용	(2)	(6)
알바트로스그로스펀드	이자비용	(6)	-
피에스에이 제1호 핀테크 사모투자 합자회사	이자비용	(5)	-
스노우볼투자조합2호	이자비용	(1)	-
(주)시먼텍	이자수익	15	-
(주)브랜빌	수수료수익	1	-
(주)나무와아이	이자수익	3	-
5) 주요경영진			
	이자수익	35	63

(주1) 당기 중 관계기업 및 동일지배기업의 관계기업에서 제외되었습니다.

(3) 특수관계자에 대한 급여

당기와 전기 중 특수관계자에 대한 급여 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
계정과목	제185(당기)	제184(전기)
장·단기종업원급여	7,770	8,684
퇴직급여	327	242
주식기준보상	4,447	2,830
합 계	12,544	11,756

(4) 특수관계자 지급보증 및 미사용한도 내역

당기말과 전기말 현재 특수관계자 간의 주요 지급보증 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)				
제공자	제공받음자	보증금액		보증내역
		제185(당기)	제184(전기)	
신한은행	신한금융투자	6,043	10,548	이행보증(지급보증서방식)
		181,000	181,000	미사용대출한도
	신한카드	500,000	500,000	미사용대출한도
	신한생명	50,000	50,000	미사용대출한도
	신한캐피탈	50,000	50,000	미사용대출한도
	신한비엔피파리바자산운용	104,008	43,063	증권인수약정
	신한프라이빗에쿼티	-	4,344	미사용대출한도
	코에프씨신한프런티어뱅크 2010의4호 사모투자전문회사	-	13,417	증권인수약정
	비엔피파리바카드프생명보험	10,000	10,000	미사용대출한도
	아주캐피탈	50,000	50,000	미사용대출한도
	연합자산관리(주2)	-	88,100	미사용대출한도
		-	88,950	증권인수약정
	신한은행중국유한공사	68,404	71,373	금융보증(지급보증서방식)
	신한크레디은행	604	-	금융보증(지급보증서방식)
	신한베트남은행	436,239	88,150	금융보증(지급보증서방식)
		4,069	3,946	이행보증(지급보증서방식)
	SBI은행	20,736	19,440	금융보증(지급보증서방식)
	구조화기업(주1)	2,019,534	1,149,076	ABCP매입약정
		66,182	13,380	미사용대출한도
	극동건설(주2)	-	1,574	이행보증(지급보증서방식)
네오올렉스투자조합	12,000	18,000	증권인수약정	
재영솔루션	600	600	미사용한도	
	483	469	수입신용장발행	
합 계		3,580,902	2,457,440	

(주1) 구조화기업에 대한 ABCP매입약정 보증금액은 총 ABCP매입약정금액에서 보고기간 말 현재 기 매입하여 보유 중인 ABCP잔액을 차감한 잔액입니다.

(주2) 당기 중 관계기업 및 동일지배기업의 관계기업에서 제외되었습니다.

(5) 특수관계자 담보제공내역

1) 당기말과 전기말 현재 특수관계자에게 제공하고 있는 담보는 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)						
제공자	회사명	담보제공자산	제185(당)기		제184(전)기	
			장부금액	담보설정액	장부금액	담보설정액
연결대상종속기업	SBJ은행	유가증권	10,001	150,009	-	-
동일지배기업	신한금융투자		235,084	43,799	195,496	37,646
	신한생명		21,953	10,310	10,349	10,349
합 계			267,048	204,118	205,845	47,995

2) 당기말과 전기말 현재 특수관계자로부터 제공받고 있는 담보는 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)				
제공자	회사명	담보제공자산	담보설정액	
			제185(당)기	제184(전)기
연결대상종속기업	에이타스드라이브제일차(유)	기타동산	-	8,400
	써니모아제일차	기타동산	24,000	-
	써니금융제구차	담보신탁	36,000	-
동일지배기업	신한금융투자	예금	112,011	22,000
		부동산	91,974	91,974
	제주은행	국채	20,000	20,000
	신한생명	국채	7,518	7,686
	신한신용정보	예금	210	210
관계기업	아주캐피탈	신탁1종수익권	160,000	160,000
	비엔피파리바카디프생명보험	국공채	13,699	13,676
	나무와아이	부동산	200	-
	재영솔루텍	부동산	20,814	20,814
수출보험공사 보증서		7,037	7,214	
합 계			493,463	351,974

41. 신탁부문 경영성과

(1) 신탁계정의 당기말과 전기말 현재 자산총계, 당기와 전기 중 영업수익은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)				
구 분	제185(당)기		제184(전)기	
	자산총계	영업수익	자산총계	영업수익
연결대상	4,314,473	139,767	4,114,569	144,781
연결비대상	40,743,814	530,690	33,189,301	505,820
합 계	45,058,287	670,457	37,303,870	650,601

(2) 당기말과 전기말 신탁부문과의 주요 채권·채무 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당)기	제184(전)기
신탁계정미지급금	3,658,239	3,201,184
신탁보수미수수익	34,549	23,248
미지급이자비용	782	998

(3) 당기와 전기 중 신탁부문의 주요 수익·비용 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제185(당)기	제184(전)기
신탁업무운용수익	122,068	90,827
중도해지수수료수익	87	-
신탁계정미지급금이자비용	38,679	49,175

## 2【主な資産・負債及び収支の内容】

上記「1 財務書類」に掲げる財務書類に対する注記を参照のこと。

## 3【その他】

### 訴訟手続

上記「1 財務書類」に掲げる2016年および2015年12月31日に終了した事業年度における連結財務書類に対する注記38および個別財務書類に対する注記38を参照のこと。

## 4【大韓民国と日本国の会計原則及び会計慣行の主な相違】

韓国の会計基準は取引の認識および測定において日本において一般に認められる会計原則と類似点を有する。しかし、一部の会計処理については両国の会計基準に差異があるので、その差異を以下に要約している。

また、韓国の会計基準が求める財務諸表の形式および内容は日本の会計基準が要求するものと差異がある。本書に含まれる財務情報は韓国の会計基準に準拠して作成されたものである。当行は韓国の会計基準が日本の会計基準と異なることによる影響を定量化していない。また、財務諸表や注記上の数値に影響を与える可能性のある日韓の会計基準における表示事項の差異については、確認をしていない。以下に記載する韓国と日本の会計基準の差異は、両国の会計基準間に存在する全ての差異を記述したものではない。

本項における「韓国IFRS」、「韓国基準」または「韓国の会計基準」とは、2011年1月1日から当行がその財務書類作成のために準拠している、韓国により採択された国際財務報告基準をいう。また「日本GAAP」、「日本基準」または「日本の会計基準」とは、日本において公正妥当と認められる会計原則をいう。

### 韓国IFRSと日本GAAPの主な相違

#### (1) 収益認識基準

##### (a) 韓国基準

###### イ. 受取利息

韓国IFRSでは実効利率法を適用して受取利息を認識する。実効利率法は金融資産や金融負債の償却原価を計算し、関連期間にわたって受取利息や支払利息を配分する方法である。金融資産や類似の金融資産の集合が減損損失で減額されると、その後の受取利息は減損損失を測定する目的で将来キャッシュ・フローを割引く際に使用した利率を使用して認識する。

###### ロ. 手数料収益

当行は金融役務手数料をその手数料の賦課目的と関連金融商品の会計処理基準により次のように区分して処理する。

###### 金融商品の実効収益を構成する手数料

金融商品の実効利率の一部を構成する手数料の場合、一般的に実効利率に対する調整項目で処理する。しかし、金融商品が当期損益認識金融商品に該当する場合、手数料は商品の当初認識時点で収益として認識する。

###### 役務の提供により稼得する手数料

役務の提供により稼得する手数料は関連役務の提供時、一般的に収益として認識する。資産管理手数料、業務受託手数料、保証役務手数料等、一定期間の役務の提供対価として賦課される手数料はその役務の提供時に収益として認識する。また、特定の貸付約定が締結される可能性が低く、その貸付約定が韓国の会計基準である企業会計基準書第1039号の適用範囲に該当しない場合は当該約定手数料は約定期間に按分して収益として認識する。

###### 重要な行為の遂行により稼得される手数料

重要な行為の遂行により稼得される手数料は重要な行為を完了した時点で収益として認識する。株式またはその他証券の売買、事業譲渡・譲受の媒介のように第三者のための取引の仲介または市場参加の対価として受け取る手数料および販売手数料は該当取引の完了時点で収益として認識する。

#### ハ. 当期損益認識金融商品の純損益

当期損益認識金融商品の純損益は、次の金融商品に関連する利益と損失(公正価値の変動、利息、配当、外貨換算損益を含む。)を含む。

## 当期損益認識金融資産と金融負債に関連する利益と損失

売買目的の金融派生商品に関連する利益と損失(リスク管理目的で保有しているが、リスク・ヘッジ会計の要件を満たさない金融派生商品を含む。)

### 二. 配当金

配当収益は株主として配当を受ける権利が確定される時点で認識する。配当収益は持分証券の分類により連結包括損益計算書に適正な損益項目で表示される。

#### (b) 日本基準

日本の会計基準では、金融資産等に対する受取利息は発生主義によって認識する。金融資産の取扱時に発生する手数料は、期間を基準として発生する手数料を除いて、取引を実施した時点で取扱手数料として計上する。ただし、債務者から契約上の利払日を相当期間経過しても利息の支払いを受けていない債権および破産更生債権等については、すでに計上されている未収利息を当期の損失として処理するとともに、それ以後の期間に係る利息を計上することはできず、現金主義によって受取利息を認識することになる。未収利息を不計上とする延滞期間は、延滞の継続により未収利息の回収可能性が損なわれたと判断される期間であり、通常、債務者の状況等に応じて6ヶ月から1年程度である。破産更生債権等とは、経営破綻または実質的に経営破綻に陥っている債務者に対する債権である。経営破綻に陥っている債務者とは、法的、形式的な経営破綻の事実が発生している債務者であり、例えば、破産、清算、会社整理、会社更生、民事再生、手形交換所における取引停止処分等の事由が生じている債務者である。実質的に経営破綻に陥っている債務者とは、法的、形式的な経営破綻の事実が発生していないものの、深刻な経営難の状態にあり、再建の見通しが無い状態にあると認められる債務者である。

#### (2) 貸倒引当金

##### (a) 韓国基準

当行は当期損益認識金融資産を除外した金融資産の減損発生に対する客観的な証拠があるかを毎報告期間終了日に評価する。当初認識後に発生した一つまたはそれ以上の事象の結果により金融資産の見積将来キャッシュ・フローが影響を受けた場合、金融資産が減損されたと判断する。しかし、将来事象の結果で予想される減損損失は認識しない。

減損発生の客観的な証拠がある場合、次のように減損損失を測定して当期損益として認識する。

##### イ. 貸付債権

償却原価で測定する貸付債権の減損損失は当該資産の帳簿金額と当初の実効利率で割引した見積将来キャッシュ・フロー(未だ発生していなかった将来の貸倒は除外。)の現在価値の差異で測定する。

このため、当行は個別的に重要な金融資産に対して優先的に減損発生の客観的な証拠があるかを個別的に検討する(個別評価貸倒引当金)。個別的に重要ではない金融資産の場合、個別的にまたは集合的に検討する。個別的な検討結果、減損発生の客観的な証拠がなければ、その金融資産は類似の信用リスクの特性を持っている金融資産の集合に含めて集合的に減損可否を検討する(集合評価貸倒引当金)。

##### ロ. 売却可能金融資産

公正価値の減少額をその他包括損益で認識する売却可能金融資産は、公正価値が取得原価に達しない金額から前の期間に既に当期損益として認識した当該金融資産の減損損失を差引いた金額をその他包括損益から当期損益に再分類する。

#### 八. 満期保有目的金融資産

償却原価で測定する満期保有目的金融資産は帳簿金額と当初の実効利率で割引した見積将来キャッシュ・フローの現在価値の差異により減損損失を測定する。満期保有目的金融資産の減損損失は帳簿価額から直接これを控除する。

##### (b) 日本基準

日本の会計基準では、債務者の財政状態および経営成績等に応じて、債権を一般債権(経営状態に重大な問題が生じていない債務者に対する債権)、貸倒懸念債権(経営破綻の状態には至っていないが、債務の弁済に重大な問題が生じているかまたは生じる可能性の高い債務者に対する債権)、破産更生債権等(経営破綻または実質的に経営破綻に陥っている債務者に対する債権)に分類し、一般債権については、債権全体または同種・同類の債権ごとに、債権の状況に応じて求めた過去の貸倒実績率等の合理的な基準により貸倒引当金を計上し、貸倒懸念債権については債権の状況に応じて、財務内容評価法またはキャッシュ・フロー見積法により貸倒引当金を計上し、破産更生債権等については、財務内容評価法により貸倒引当金を計上する。財務内容評価法とは、担保または保証が付されている債権について、債権額から担保の処分見込額および保証による回収見込額を減額し、その残額について債務者の財政状態および経営成績を考慮して貸倒引当金を見積もる方法である。キャッシュ・フロー見積法とは、債権の元本の回収および利息の受け取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積もることができる債権について、債権の発生または取得当初における将来キャッシュ・フローと債権の帳簿価額との差額が一定率となるような割引率を

算出し、債権の元本および利息について、元本の回収および利息の受け取りが見込まれるときから当期末までの期間にわたり、債権の発生または取得当初の割引率で割り引いた現在価値の総額と債権の帳簿価額との差額を貸倒引当金として見積もる方法である。

銀行等金融機関については、日本の銀行法等に基づいて早期是正措置が導入されており、債権を、正常先債権（業況が良好であり、かつ財務内容にも特段の問題がないと認められる債務者に対する債権）、要注意先債権（貸出条件に問題のある債務者、履行状況に問題のある債務者、業況が低調ないし不安定な債務者または財務内容に問題がある債務者など今後の管理に注意を要する債務者に対する債権）、破綻懸念先債権（現状、経営破綻の状況にはないが、経営難の状態にあり、経営改善計画等の進捗状況が芳しくなく、今後、経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者に対する債権）、実質破綻先債権（法的、形式的な経営破綻の事実が発生していないものの、深刻な経営難の状態にあり、再建の見通しがなく、今後、経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者に対する債権）、破綻先債権（法的、形式的な経営破綻の事実が発生している債務者、例えば破産、清算等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権）に分類している。正常先債権については、貸倒実績率または倒産確率に基づき、発生が見込まれる損失率を求め、これに必要な修正を加えて貸倒引当金を計上する。要注意先債権については、債権を適当なグループに区分し、当該区分ごとに貸倒実績率または倒産確率に基づき、発生が見込まれる損失率を求め、これに必要な修正を加えて貸倒引当金を計上する。要注意先債権のうち債権の元本の回収および利息の受け取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積もることができる債権（貸出条件緩和債権等）については、債権の元本の回収および利息の受け取りに係るキャッシュ・フローを当初の約定利率で割り引いた金額と債権の帳簿価額との差額について貸倒引当金を計上する。破綻懸念先債権については、債権額から担保の処分可能見込額および保証による回収可能額を差し引いた残額に対する必要額について貸倒引当金を計上する。破綻懸念先債権のうち債権の元本の回収および利息の受け取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積もることができる債権については、当該キャッシュ・フローを当初の約定利率で割り引いた金額と債権の帳簿価額との差額について貸倒引当金を計上する。実質破綻先債権については、債権額から担保の処分可能見込額および保証による回収可能額を差し引いた残額について、貸倒償却するかまたは貸倒引当金を計上する。破綻先債権については、債権額から担保の処分可能見込額および保証による回収可能額を差し引いた残額について、貸倒償却するかまたは貸倒引当金を計上する。

### (3) 無形固定資産（開発費）

#### (a) 韓国基準

韓国の会計基準によると、研究開発費のうち、研究段階から発生した支出は発生期間に研究費の科目を使用し、販売費および管理費として費用処理する。開発段階で発生した支出は次の要件を充たす場合、開発費の科目で資産処理し、それ以外の開発費は研究開発費として費用処理する。

イ．無形資産を使用または販売するためその資産を完成させる技術的実現可能性を提示することができる。

ロ．無形資産を完成しそれを使用するかまたは販売しようとする企業の意図がある。

ハ．完成した無形資産を使用するかまたは販売できる企業の能力を提示することができる。

ニ．無形資産がどのように将来に経済的便益を創出するかを疎明することができる。例えば、無形資産の産出物、その無形資産に対する市場の存在または無形資産を内部的に使用するものであればその有用性を示さなければならない。

ホ．無形資産の開発を完了し、それを販売または使用するのに必要な技術的、金銭的資源を十分確保しているとの事実を示すことができる。

ヘ．開発段階で発生した無形資産関連支出を信頼性をもって区分して測定することができる。

ソフトウェアの制作にかかった費用もこの資産計上要件を充たす場合、開発費として資産計上する。

#### (b) 日本基準

日本の会計基準では、ソフトウェア制作費に占める研究開発費も含めて、研究開発費はすべて発生時に費用として処理しなければならない。処理方法には一般管理費として処理する方法と当期製造費用として処理する方法がある。

ソフトウェアの制作にかかった研究開発費は、市場販売目的のソフトウェアの場合は、最初に製品化された製品マスターの完成までの費用および製品マスターまたは購入したソフトウェアに対する著しい改良に要した費用は研究開発費とし、すべて発生時に費用処理する。これに対して最初に製品化された製品マスターの完成後の費用は、研究開発費およびその他の要費用化部分を除き、資産計上する。自社利用ソフトウェアの場合は、研究開発活動に該当する部分は研究開発費とする。研究開発部分に該当しない部分で、将来の収益獲得または費用削減が不確実な場合これを発生時の費用とする。完成品を購入した場合のように、将来の収益獲得または費用削減が確実な場合においては、資産として計上する。

## (4) 金融派生商品

## (a) 韓国基準

当行は売買目的または金利リスクおよび為替相場リスク等を管理するため、通貨先渡、利率スワップ、通貨スワップ等、各種の金融派生商品契約を締結する。金融派生商品は当初認識時、契約日の公正価値で測定し、その後は毎報告期間終了日の公正価値で測定される。リスク・ヘッジ手段に指定されてリスク・ヘッジに有効な金融派生商品を除いた全ての金融派生商品は売買目的金融商品に分類して公正価値で測定し、公正価値の変動による評価損益は当期損益で認識される。リスク・ヘッジ手段に指定され、キャッシュ・フロー・リスクに係るヘッジ会計の適用要件を満たす金融派生商品の公正価値変動分のうち、リスク・ヘッジに有効な部分は資本で処理し、リスク・ヘッジに非有効な部分は当期損益で認識される。

## (b) 日本基準

日本の会計基準では、デリバティブ（金融派生商品）取引により生じる正味の債権および債務は、原則として時価をもって貸借対照表価額とし、評価差額は、ヘッジに係るものを除いて、当期の損益として処理される。デリバティブ取引がヘッジ会計の適用要件を充たす場合には、原則として、ヘッジ手段に係る損益または評価差額をヘッジ対象に係る損益が認識されるまで純資産の部において繰り延べるヘッジ会計が適用される。

## (5) 退職給付引当金

## (a) 韓国基準

報告期間終了日現在、確定給付制度に関連する退職給付負債は確定給付債務の現在価値から社外積立資産の公正価値を差し引いて認識される。確定給付債務の現在価値は確定給付制度で支払われる将来キャッシュ・フローを関連年金負債の満期と類似の満期を有する、退職金が支払われる通貨で表示された優良金融債の利率を使用して見積将来キャッシュ・フローを割引いて決定される。

確定給付債務の現在価値から社外積立資産の公正価値を差し引いて算出された純額が資産である場合、これは未認識過去勤務費用累計額として制度から還付されるか制度に対する将来拠出金が節減される方式で利用可能な経済的便益の現在価値を加算した金額を限度として資産で認識している。

## (b) 日本基準

日本の多くの企業は、退職一時金や退職年金といった退職給付制度を採用している。日本の会計基準における退職給付債務は、退職以後に従業員に支給されると見込まれる退職給付総額のうち、期末までに発生していると認められる額を期末時点の現在価値に割引いた額として計算される。退職給付引当金はこの退職給付債務に未認識過去勤務債務および未認識数理計算上の差異を調整し、その金額から年金資産を控除した額として計上されている。

なお、原則として従業員300人未満の企業では、退職給付債務について高い信頼性での数理計算が困難な場合や退職給付の重要性が乏しい場合があるため、貸借対照表日時点で全従業員が一度に退職する場合に支払うべき退職金（期末自己都合要支給額）を退職給付債務とする方法等の退職給付債務計算の簡便法が認められている。

また、役員の退職慰労金については、貸借対照表日時点で全役員が一度に退任した場合に支払うべき退職慰労金（ただし、支払いには株主総会の承認が必要）を原則として引当金に計上する。

平成24年5月17日に公表された「退職給付に関する会計基準」の改正により、現基準上オフバランスとされている未認識数理計算上の差異および未認識過去勤務費用が税効果を調整の上で貸借対照表の純資産の部（その他の包括利益累計額）で認識されることとなり、積立状況を示す額がそのまま負債（退職給付に係る負債）または資産（退職給付に係る資産）として計上されることになる（適用時期：平成25年4月1日以後開始する事業年度の年度末に係る連結財務諸表から適用）。また同改正は、退職給付債務および勤務費用の計算方法の見直し（適用時期：平成26年4月1日以後開始する事業年度の期首から適用）等についてもその内容としている。

## (6) 外貨資産および負債の換算

## (a) 韓国基準

機能通貨以外の通貨（外貨）で行われた取引は取引日の為替レートを適用して記録している。報告期間末毎に貨幣性外貨項目は報告期間末の為替レートの終値で換算している。公正価値で測定する非貨幣性外貨項目は公正価値が決定された日の為替レートで換算し、取得原価で測定する非貨幣性項目は取引日の為替レートで換算している。

海外事業損益とキャッシュ・フローリスクヘッジ及び純投資のリスクヘッジ手段として指定された金融負債で発生した換算差額を除いた貨幣性項目の換算により発生した為替差異及び貨幣性項目の決済時点に生じる為替差異は、全て当期損益として認識している。非貨幣性項目で発生した損益をその他包括損益として認識する場合には、その損益に含まれた為替レート変動効果もその他包括損益として認識し、当期損益として認識する場合には為替レート変動効果も当期損益として認識している。

在外営業活動体から受け取るか、或いは在外営業活動体に支払う貨幣性項目のうち、予測できる将来に決済する計画がなく、決済される可能性が低い項目はその在外営業活動体に対する純投資の一部とみなして財務諸表で為替差異をその他包括損益として認識し、関連純投資の処分時点で当期損益に再分類する。

(b) 日本基準

日本の会計基準では、外貨建金銭債権債務については、原則として決算時の為替相場により換算し、換算差額は当期の損益として処理する。為替予約等のデリバティブ取引については、原則として時価評価である。なお、ヘッジ会計の要件を充たしている場合には、当分の間、振当処理も認められる。

(7) リース会計

(a) 韓国基準

韓国の会計基準によると、ファイナンス・リースはリース資産の所有におけるリスクと便益が実質的にリース利用者（借手）に移転するとみられるリース取引をいう。以下の条件のうちのいずれか一つに該当すれば、一般的にファイナンス・リースに分類される。

イ．リース期間の終了時またはそれ以前にリース資産の所有権がリース利用者に移転される場合

ロ．リース実行日現在、リース利用者が割安購入選択権（リース物件を有利な価格で買い取れる権利）を持っており、これを行使することが確実視される場合

ハ．リース資産の所有権が移転されない場合も、リース期間がリース資産耐用年数の相当部分を占める場合

ニ．リース実行日現在、最少リース料を内部利益率で割引いた現在価値がリース資産公正価値の大部分を占める場合

ホ．リース利用者のみが重要な変更なしに使用できる特殊な用途のリース資産である場合

ファイナンス・リース以外のリース取引はオペレーティング・リースに分類する。

(b) 日本基準

日本の会計基準では、ファイナンス・リース取引をリース契約に基づき、リース期間の中途において当該契約を解除できないリース取引で、借手がリース物件から経済的利益を実質的に享受することができ、かつ、当該リース物件の使用に伴って生じるコストを実質的に負担することとなるリース取引として定めており、これには所有権移転ファイナンス・リース取引と所有権移転外ファイナンス・リース取引がある。平成19年3月30日に「リース取引に関する会計基準」が改正され、従来、所有権移転外ファイナンス・リース取引に認められていた通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理は廃止され、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理（オンバランス取引）に一本化されている。

(8) 投資不動産

(a) 韓国基準

賃貸収益、資本増価を獲得するために保有する不動産は投資不動産に分類している。投資不動産は当初認識時点で取引費用を含めて原価で測定し、原価モデルを適用している。当初認識後には、原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を減算した金額を帳簿価額として認識している。

(b) 日本基準

賃貸等不動産の時価等の開示が求められているが、当初認識後の測定については原価モデルのみが認められている。

## 第7【外国為替相場の推移】

財務書類の表示に用いられた韓国ウォンと日本円との間の為替相場は、日本国内において時事に関する事項を掲載する2以上の日刊新聞紙に最近5年間の事業年度および最近6箇月間において掲載されているため、記載を省略する。

## 第8【本邦における提出会社の株式事務等の概要】

該当事項なし。

## 第9【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

該当事項なし

### 2【その他の参考情報】

最近事業年度の開始日から本書提出日までの間において、当行は下記の書類を提出している。

有価証券報告書および添付書類	平成28年6月21日関東財務局長に提出
訂正発行登録書（募集）	平成28年6月21日関東財務局長に提出
訂正発行登録書（売出）	平成28年6月21日関東財務局長に提出
半期報告書および添付書類	平成28年9月29日関東財務局長に提出
訂正発行登録書（募集）	平成28年9月29日関東財務局長に提出
訂正発行登録書（売出し）	平成28年9月29日関東財務局長に提出
臨時報告書 （企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第 2項第9号に基づくもの）	平成29年4月21日関東財務局長に提出
訂正発行登録書（募集）	平成29年4月21日関東財務局長に提出
訂正発行登録書（売出し）	平成29年4月21日関東財務局長に提出

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

### 第1【保証会社情報】

該当事項なし

### 第2【保証会社以外の会社の情報】

該当事項なし

### 第3【指数等の情報】

該当事項なし

独立した監査人の監査報告書  
韓国語で発行された原本の翻訳文

株式会社新韓銀行

2017年3月7日

株主及び取締役会 御中

私達は、株式会社新韓銀行及びその従属企業の連結財務諸表の監査を行った。同連結財務諸表は2016年12月31日及び2015年12月31日現在の連結財務状態並びに同日をもって終了する両報告期間の連結包括損益計算書、連結資本変動表及び連結キャッシュ・フロー計算書、そして重要な会計方針に対する要約及びその他の説明情報で構成されている。

#### 連結財務諸表に対する経営陣の責任

経営陣は韓国採択国際会計基準に従って同連結財務諸表を作成し、公正に表示する責任がある。また、不正または誤謬による重要な虚偽記載がない連結財務諸表を作成するために必要であると決定した内部統制に対しても責任がある。

#### 監査人の責任

私達の責任は同連結財務諸表に対して監査を実施し、これに基づき同連結財務諸表について意見を表明することである。私達は韓国会計監査基準に従い監査を実施した。この基準は、私達が倫理的な要求事項を遵守し、連結財務諸表上の重要な虚偽記載の有無について合理的な保証を得るために監査を計画し、実施することを要求している。

監査は、連結財務諸表上の金額と開示に対する監査証拠を入手するための手続の遂行を含んでいる。手続の選択は、不正または誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽記載リスクに対する評価等、監査人の判断により異なる。監査人はこのようなリスクを評価する時に状況に適合した監査手続を設計するため、企業の連結財務諸表の作成及び公正な表示に関連する内部統制を考慮する。しかし、これは内部統制の有効性に対する意見を表明するためのものではない。また、監査は連結財務諸表の全般的な表示内容について評価することに加え、連結財務諸表作成のために経営陣が適用した会計方針の適合性及び経営陣が導出した会計見積値の合理性に対する評価を含んでいる。

継続：

私達が入手した監査証拠は、監査意見のための根拠として十分かつ適切であると私達は信じている。

## 監査意見

私達の意見では、会社の連結財務諸表は株式会社新韓銀行及びその従属会社の2016年12月31日及び2015年12月31日現在の財政状態、並びに同日をもって終了する両報告期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を韓国採択国際会計基準に従って、重要性の観点から公正に表示しているものと認める。

ソウル特別市江南区テヘラン路152（駅三洞、江南ファイナンスセンター27階）

三<sup>6</sup><sub>7</sub>8<sup>6</sup>会計法人 代表理事 金教台

この監査報告書は監査報告書日（2017年3月7日）現在において有効なものです。従って、監査報告書日からこの報告書を閲覧する時点までの期間に、会社の連結財務諸表に重大な影響を及ぼす事象や状況が発生する可能性があり、それによりこの監査報告書が修正される場合もあります。

## 独立した監査人の監査報告書

韓国語で発行された原本の翻訳文

株式会社新韓銀行

2017年3月7日

株主及び取締役会 御中

私達は、株式会社新韓銀行の財務諸表の監査を行った。同財務諸表は2016年12月31日及び2015年12月31日現在の財務状態表並びに同日をもって終了する両報告期間の包括損益計算書、資本変動表及びキャッシュ・フロー計算書、そして重要な会計方針に対する要約及びその他の説明情報で構成されている。

### 財務諸表に対する経営陣の責任

経営陣は韓国採択国際会計基準に従って同財務諸表を作成し、公正に表示する責任がある。また、不正または誤謬による重要な虚偽記載がない財務諸表を作成するために必要であると決定した内部統制に対しても責任がある。

### 監査人の責任

私達の責任は同財務諸表に対して監査を実施し、これに基づき同財務諸表について意見を表明することである。私達は韓国会計監査基準に従い監査を実施した。この基準は、私達が倫理的な要求事項を遵守し、財務諸表上の重要な虚偽記載の有無について合理的な保証を得るために監査を計画し、実施することを要求している。

監査は、財務諸表上の金額と開示に対する監査証拠を入手するための手続の遂行を含んでいる。手続の選択は、不正または誤謬による財務諸表の重要な虚偽記載リスクに対する評価等、監査人の判断により異なる。監査人はこのようなリスクを評価する時に状況に適合した監査手続を設計するため、企業の財務諸表の作成及び公正な表示に関連する内部統制を考慮する。しかし、これは内部統制の有効性に対する意見を表明するためのものではない。また、監査は財務諸表の全般的な表示内容について評価することに加え、財務諸表作成のために経営陣が適用した会計方針の適合性及び経営陣が導出した会計見積値の合理性に対する評価を含んでいる。

継続：

私達が入手した監査証拠は、監査意見のための根拠として十分かつ適切であると私達は信じている。

## 監査意見

私達の意見では、会社の財務諸表は株式会社新韓銀行の2016年12月31日及び2015年12月31日現在の財政状態、並びに同日をもって終了する両報告期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を韓国採択国際会計基準に従って、重要性の観点から公正に表示しているものと認める。

ソウル特別市江南区テヘラン路152（駅三洞、江南ファイナンスセンター27階）

三<sup>6</sup><sub>7</sub>8<sup>6</sup>会計法人 代表理事 金教台

この監査報告書は監査報告書日（2017年3月7日）現在において有効なものです。従って、監査報告書日からこの報告書を閲覧する時点までの期間に、会社の財務諸表に重大な影響を及ぼす事象や状況が発生する可能性があります。それによりこの監査報告書が修正される場合もあります。